

船橋市障害者計画基礎調査 報告書

平成 25 年 10 月

船 橋 市

目 次

第1部 調査の概要

1 調査の目的と方法	1
2 調査ごとの設問項目	3
3 調査結果の概要	9

第2部 調査の結果

I 身体障害者を対象とした調査結果	37
1 基本属性	37
2 障害の状況について	41
3 日常生活について	47
4 保健・医療について	55
5 情報・コミュニケーションについて	61
6 住まいについて	70
7 保育・教育・療育について	74
8 仕事について	78
9 外出について	84
10 余暇活動について	91
11 権利擁護について	93
12 災害・緊急時の対応について	97
13 障害者総合支援法について	101
14 船橋市の障害者福祉について	120
自由回答	124
II 知的障害者を対象とした調査結果	127
1 基本属性	127
2 障害の状況について	130

3	日常生活について	135
4	保健・医療について	140
5	情報・コミュニケーションについて	143
6	住まいについて	147
7	保育・教育・療育について	150
8	仕事について	154
9	外出について	160
10	余暇活動について	164
11	権利擁護について	165
12	災害・緊急時の対応について	168
13	障害者総合支援法について	172
14	船橋市の障害者福祉について	183
	自由回答	186

Ⅲ 精神障害者を対象とした調査結果 189

1	基本属性	189
2	障害の状況について	192
3	日常生活について	196
4	保健・医療について	200
5	情報・コミュニケーションについて	203
6	住まいについて	206
7	保育・教育・療育について	208
8	仕事について	211
9	外出について	217
10	余暇活動について	219
11	権利擁護について	221
12	災害・緊急時の対応について	223
13	障害者総合支援法について	228
14	船橋市の障害者福祉について	238
	自由回答	241

IV 施設入所者を対象とした調査結果 243

1 基本属性	243
2 障害の状況について	248
3 日常生活について	253
4 保健・医療について	258
5 情報・コミュニケーションについて	261
6 外出・余暇活動について	263
7 権利擁護について	267
8 災害・緊急時の対応について	269
9 障害者総合支援法について	272
10 将来の生活について	279
11 船橋市の障害者福祉について	281
自由回答	283

V 一般市民を対象とした調査結果 285

1 基本属性	285
2 障害のある人たちについての意識や交流について	286
3 船橋市の障害者福祉について	292
自由回答	303

第1部 調査の概要

1 調査の目的と方法

(1) 調査の目的

この調査は、「第3次船橋市障害者施策に関する計画」を策定するにあたって、障害のある方の生活実態などを把握し、同計画の策定及び障害者施策の企画・推進のための基礎資料を作成することを目的として実施しました。

(2) 調査方法

調査票の記入は、原則として本人が行うものとししました。ただし、本人による記入が困難な場合には、家族や介助者が本人の意向を確かめて記入するものとししました。

調査の種類	調査の対象	調査方法
I 身体障害者調査	身体障害者手帳を所持している市民、難病のための特定疾患医療受給者票を所持している市民から抽出（※身体障害者手帳については障害種別毎に抽出）	郵送配布、無記名による郵送回収
II 知的障害者調査	療育手帳を所持している市民から抽出	
III 精神障害者調査	市内の精神科医療機関に通院している市民に、医療機関を通じて配布	施設・医療機関にて配布、無記名による郵送回収
IV 施設入所者調査	市内の障害者入所施設、精神科医療機関に入所・入院している市民に、施設・医療機関を通じて配布	
V 一般市民調査	住民基本台帳から、20歳以上の市民を抽出	郵送配布、無記名による郵送回収

(3) 調査期間

平成25年8月5日（月）～平成25年8月19日（月）

(4) 調査主体

船橋市

(5) 集計・分析

株式会社 社会構想研究所

(6) 調査票の配布・回収状況

	配布数	回収数	無効票	有効 回収数	有効 回収率
I 身体障害者調査	1,950	1,392	1	1,391	71.3%
II 知的障害者調査	340	251	0	251	73.8%
III 精神障害者調査	310	98	0	98	31.6%
IV 施設入所者調査	100	47	0	47	47.0%
V 一般市民調査	300	141	0	141	47.0%
合計	3,000	1,929	1	1,928	64.3%

※ I 身体障害者調査の対象者のうち、視覚障害者については、点字版及び拡大文字版の2種類の調査票を送付しました。

(7) 利用にあたって

- ①調査結果の数値は、原則として回答率（％）で表記しています。
- ②表では、特別の表記がない限り、上段が実数、下段が割合（％）を表示しています。表中に「－」と表示してあるものは、回答者がいなかった場合です。
- ③アンケート調査を集計した数値は小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示しています。そのため、質問に対する回答の選択肢が1つだけの場合、回答率（％）を全て合計しても、100.0%にならないことがあります。
- ④回答者数を分母として割合（％）を計算しているため、複数回答の場合には、各選択肢の割合を合計すると100%を超えます。
- ⑤アンケート調査票の選択肢の文章が長い場合、図表中では選択肢を要約して表記していることがあります。
- ⑥回答者数が極端に少ないものについては、分析対象から外している場合があります。ただし、その場合でも調査結果には参考値として掲載しています。
- ⑦表中で網掛けをしている部分は、クロス集計の結果の中で特徴のあった部分として、説明文で取り上げている数値を指します。
- ⑧障害者の表記については、18歳未満の児童も含んでおります。

2 調査ごとの設問項目

(1) 身体障害者調査、知的障害者調査、精神障害者調査

■ は「3 調査結果の概要」(9～36 ページ)に掲載している設問

大項目	小項目	身体障害	知的障害	精神障害
	アンケートの記入者	問 1	問 1	問 1
1 基本属性	性別	問 2	問 2	問 2
	年齢	問 3	問 3	問 3
	同居家族	問 4	問 4	問 4
	主に収入を得ている同居家族	問 4-1	問 4-1	問 4-1
	世帯収入の種類	問 5	問 5	問 5
	居住地域	問 6	問 6	問 6
2 障害の状況について	障害者手帳の所持状況	問 7	問 7	問 7
	障害の種類(部位)	問 7-1	問 7-1	
	障害の原因	問 8		
	特定疾患医療受給者票の有無、取得年齢	問 9	問 8	問 8
	疾患・障害の有無	問 10	問 9	問 9
	介護保険の要介護認定状況	問 11		
3 日常生活について	日常生活で困っていること	問 12	問 10	問 10
	日常生活で介助が必要な場面	問 13	問 11	問 11
	介助してくれる人(介助者)との関係	問 13-1	問 11-1	問 11-1
	介助してくれる人(主な介助者)の年齢	問 13-2	問 11-2	問 11-2
	介助者が介助できなくなった場合の対応	問 13-3	問 11-3	問 11-3
	介助を受ける上で困っていること	問 13-4	問 11-4	問 11-4
4 保健・医療について	最近の健康状態	問 14	問 12	問 12
	かかりつけ医の有無	問 15	問 13	問 13
	医療を受けているか	問 16	問 14	問 14
	通院時や健康管理で困ること	問 17	問 15	問 15
	機能回復等での病院・訓練施設の利用状況	問 18	問 16	
5 情報・コミュニケーションについて	会話や意思の伝達ができる程度	問 19	問 17	問 16
	コミュニケーション方法(視覚障害者、聴覚障害者)	問 20、21		
	意思を伝える場合に困ること	問 22		
	電子メール・インターネットの利用状況	問 23	問 18	問 17
	困りごとや悩みの相談先	問 24	問 19	問 18
	今後相談したいこと	問 25	問 20	問 19
	情報収集や相談をする際に困っていること	問 26	問 21	問 20

大項目	小項目	身体障害	知的障害	精神障害
6 住まいについて	現在の住まいの形態	問 27	問 22	問 21
	現在の住まいで困っていること	問 28	問 23	問 22
	現在の住まいで改造したいところ	問 29		
	住宅改造を行う際に困難な点	問 29-1		
	将来希望する暮らし方	問 30	問 24	問 23
7 保育・教育・療育について ※25歳未満の回答者とその保護者が対象	通園・通学先	問 31	問 25	問 24
	学校教育修了後の希望進路	問 32	問 26	問 25
	保育や療育について困っていること	問 33	問 27	問 26
	学校や教育について困っていること	問 34	問 28	問 27
	障害のある児童のためのサービスの利用状況	問 35	問 29	問 28
	障害のある児童のためのサービスの満足度	問 35-1	問 29-1	問 28-1
	障害のある児童のためのサービスの不満理由	問 35-2	問 29-2	問 28-2
	障害のある児童のためのサービスの利用意向	問 36	問 30	問 29
8 仕事について ※15歳以上の回答者が対象	就労の有無と種類	問 37	問 31	問 30
	週労働日数と週労働時間	問 37-1	問 31-1	問 30-1
	月平均収入	問 37-2	問 31-2	問 30-2
	仕事で困っていること	問 37-3	問 31-3	問 30-3
	仕事に就いていない理由	問 37-4	問 31-4	問 30-4
	今後の就労の意向	問 37-5	問 31-5	問 30-5
	障害のある人の一般就労のため必要なこと	問 38	問 32	問 31
9 外出について	外出の頻度	問 39	問 33	問 32
	外出しない理由	問 39-1	問 33-1	問 32-1
	外出の時に利用する交通手段	問 40	問 34	
	外出の際に設備等で不便に思うこと	問 41	問 35	問 33
	バリアフリー化を進めるために重要なこと	問 42	問 36	
10 余暇活動について	余暇時間にしていること	問 43	問 37	問 34
	今後参加したい活動	問 44	問 38	問 35
11 権利擁護について	人権を損なう扱いを受けた経験の有無	問 45	問 39	問 36
	船橋市障害者虐待防止センターの認知状況	問 46	問 40	問 37
	障害者虐待の防止に必要な制度・体制	問 47	問 41	問 38
	成年後見制度の認知状況	問 48	問 42	問 39
12 災害・緊急時の対応について	緊急な病状になったときに不安なこと	問 49	問 43	問 40
	地震や火災等のときに頼りにする人	問 50	問 44	問 41
	緊急に避難する場合に不安なこと	問 51	問 45	問 42
	「災害時要援護者台帳」の認知状況	問 52	問 46	問 43

大項目	小項目	身体障害	知的障害	精神障害
13 障害者総合支援法について	入所者・入院者の地域生活移行への考え方	問 53	問 47	問 44
	福祉的就労から一般就労への移行への考え方	問 54	問 48	問 45
	相談支援事業の利用状況	問 55	問 49	問 46
	相談支援事業の満足度	問 55-1	問 49-1	問 46-1
	相談支援事業の不満理由	問 55-2	問 49-2	問 46-2
	障害福祉サービスの利用状況	問 56	問 50	問 47
	障害福祉サービスの満足度	問 56-1	問 50-1	問 47-1
	障害福祉サービスの不満理由	問 56-2	問 50-2	問 47-2
	障害福祉サービスの利用意向	問 57	問 51	問 48
	自立支援医療の利用状況	問 58	問 52	問 49
	自立支援医療の満足度	問 58-1	問 52-1	問 49-1
	自立支援医療の不満理由	問 58-2	問 52-2	問 49-2
	自立支援医療の利用意向	問 59	問 53	問 50
	補装具の利用状況	問 60		
	補装具の満足度	問 60-1		
	補装具の不満理由	問 60-2		
	補装具の利用意向	問 61		
	地域生活支援事業の利用状況	問 62	問 54	問 51
	地域生活支援事業の満足度	問 62-1	問 54-1	問 51-1
	地域生活支援事業の不満理由	問 62-2	問 54-2	問 51-2
	地域生活支援事業の利用意向	問 63	問 55	問 52
	難病患者等の対象者追加の認知状況	問 64	問 56	問 53
14 船橋市の障害者福祉について	福祉サービス情報の入手方法	問 65	問 57	問 54
	今後必要だと思う福祉施策	問 66	問 58	問 55
自由回答	(記述式)	問 67	問 59	問 56

(2) 施設入所者調査

■ は「3 調査結果の概要」(9～36 ページ)に掲載している設問

大項目	小項目	
	アンケートの記入者	問 1
1 基本属性	性別	問 2
	年齢	問 3
	施設の種類	問 4
	現在の施設での入所年数	問 5
	現在の施設への入所理由	問 5－1
	施設の所在地	問 6
	主な収入のある家族	問 7
	世帯収入の種類	問 8
2 障害の状況について	障害者手帳の所持状況	問 9
	障害の種類(部位)	問 9－1
	特定疾患医療受給者票の有無、取得年齢	問 10
	疾患・障害の有無	問 11
	介護保険の要介護認定状況	問 12
3 日常生活について	日中の過ごし方	問 13
	施設での生活の満足度	問 14
	日常生活で困っていること	問 15
	施設での生活で困っていること	問 16
	困りごとや悩みの相談先	問 17
	今後相談したいこと	問 18
4 保健・医療について	最近の健康状態	問 19
	かかりつけ医の有無	問 20
	医療を受けているか	問 21
	通院時や健康管理で困ること	問 22
5 情報・コミュニケーションについて	会話や意思の伝達ができる程度	問 23
	コミュニケーション方法(視覚障害者、聴覚障害者)	問 24、25
	意思を伝える場合に困ること	問 26
	電子メール・インターネットの利用状況	問 27

大項目	小項目	
6 外出・余暇活動について	外出の頻度	問 28
	外出しない理由	問 28-1
	外出の際に設備等で不便に思うこと	問 29
	バリアフリー化を進めるために重要なこと	問 30
	余暇時間に行っていること	問 31
	今後参加したい活動	問 32
7 権利擁護について	人権を損なう扱いを受けた経験の有無	問 33
	船橋市障害者虐待防止センターの認知状況	問 34
	障害者虐待の防止に必要な制度・体制	問 35
	成年後見制度の認知状況	問 36
8 災害・緊急時の対応について	緊急な病状になったときに不安なこと	問 37
	地震や火災等のときに頼りにする人	問 38
	緊急に避難する場合に不安なこと	問 39
	「災害時要援護者台帳」の認知状況	問 40
9 障害者総合支援法について	入所者・入院者の地域生活移行への考え方	問 41
	福祉的就労から一般就労への移行への考え方	問 42
	相談支援事業の利用状況	問 43
	相談支援事業の満足度	問 43-1
	相談支援事業の不満理由	問 43-2
	障害福祉サービスの利用状況	問 44
	障害福祉サービスの満足度	問 44-1
	障害福祉サービスの不満理由	問 44-2
	障害福祉サービスの利用意向	問 45
	自立支援医療の利用状況	問 46
	自立支援医療の満足度	問 46-1
	自立支援医療の不満理由	問 46-2
	自立支援医療の利用意向	問 47
	難病患者等の対象者追加の認知状況	問 48
10 将来の生活について	将来希望する暮らし方	問 49
	現在の施設で暮らし続けたい理由	問 49-1
	施設を退所したい理由	問 49-2
11 船橋市の障害者福祉について	福祉サービス情報の入手方法	問 50
	今後必要だと思う福祉施策	問 51
自由回答	(記述式)	問 52

(3) 一般市民調査

■ は「3 調査結果の概要」(9～36 ページ)に掲載している設問

大項目	小項目	
1 基本属性	性別、年齢	問 1
	居住年数	問 2
2 障害のある人たちについての意識や交流について	障害のある人への関心の有無	問 3
	障害のある人に対する差別の有無	問 4
	障害のある人に対して差別的な行動をとった経験の有無	問 5
	障害のある人が差別的な取り扱いをされている場面の目撃の有無	問 6
	障害のある人と一緒に活動した経験の有無	問 7
	障害のある人と一緒に活動した経験の内容	問 7-1
	介助した障害のある人の障害の種類	問 7-2
	介助した際の印象	問 7-3
	障害のある人のためのボランティア活動への参加経験の有無	問 8
	障害のある人のためのボランティア活動に参加したことがない理由	問 8-1
	障害のある人のためのボランティア活動への参加意向	問 9
3 船橋市の障害者福祉について	船橋市の障害者施策に関する考え	問 10
	障害のある人への理解促進に必要なこと	問 11
	障害者施策や福祉用語の認知度	問 12
	入所者・入院者の地域生活移行への考え方	問 13
	福祉的就労から一般就労への移行への考え方	問 14
	福祉サービス情報の入手方法	問 15
	障害のある人が住みやすいまちをつくるために重要な市の取組	問 16
	今後必要だと思う福祉施策	問 17
自由回答	(記述式)	問 18

3 調査結果の概要

1 基本属性

(1) 年齢

あなたは、何歳ですか。平成25年1月1日現在の満年齢でお答えください。

身体障害者調査では、65歳以上の高齢者が全体の3分の2(67.0%)を占めており、特に「75歳以上」は37.2%となっています。一方、知的障害者調査では、30歳未満が過半数(56.3%)に達しており、特に18歳未満が36.0%となっています。精神障害者調査では、40～59歳が過半数(52.0%)に達しており、特に「40～49歳」は30.6%となっています。

平均年齢を見ると、身体障害者調査は67.7歳、知的障害者調査は28.0歳、精神障害者調査は50.1歳であり、障害の種別によって大きく異なります。

施設入所者調査は、「40～49歳」が25.5%で最も多く、平均年齢は51.8歳です。

図表1 年齢

		全体	0 ～ 5 歳	6 ～ 11 歳	12 ～ 14 歳	15 ～ 17 歳	18 ～ 19 歳	20 ～ 29 歳	30 ～ 39 歳
全体		1,787 100.0	24 1.3	42 2.4	29 1.6	23 1.3	9 0.5	68 3.8	94 5.3
アンケートの 種類	身体障害者	1,391 100.0	7 0.5	11 0.8	5 0.4	5 0.4	4 0.3	18 1.3	29 2.1
	知的障害者	251 100.0	17 6.8	31 12.4	24 9.6	18 7.2	5 2.0	46 18.3	39 15.5
	精神障害者	98 100.0	—	—	—	—	—	2 2.0	19 19.4
	施設入所者	47 100.0	—	—	—	—	—	2 4.3	7 14.9

		40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 ～ 74 歳	75 歳以上	無回答	平均年齢
全体		161 9.0	167 9.3	173 9.7	440 24.6	525 29.4	32 1.8		
アンケートの 種類	身体障害者	71 5.1	126 9.1	155 11.1	414 29.8	517 37.2	29 2.1		1,362 67.7
	知的障害者	48 19.1	11 4.4	3 1.2	4 1.6	4 1.6	1 0.4		250 28.0
	精神障害者	30 30.6	21 21.4	8 8.2	15 15.3	1 1.0	2 2.0		96 50.1
	施設入所者	12 25.5	9 19.1	7 14.9	7 14.9	3 6.4	—		47 51.8

(2) 同居家族

あなたが一緒に暮らしている家族は、どなたですか。(あてはまるものすべてに○)

身体障害者調査では、「夫または妻」が58.7%で最も多く、「子」が35.2%、「父母」が10.7%で続いており、「自分ひとり」は14.8%となっています。

知的障害者調査では、「父母」が86.1%で最も多く、「兄弟姉妹」が47.4%で続きます。

精神障害者調査では、「自分ひとり」が55.1%で最も多く、「父母」が25.5%、「友人や仲間などとの共同生活」が10.2%で続きます。

図表 2 同居家族

		全体	夫または妻	父母	子	孫	兄弟姉妹	その他の親族	友人や仲間など との共同生活	自分ひとり	無回答
全体		1,740 100.0	832 47.8	390 22.4	501 28.8	88 5.1	195 11.2	19 1.1	38 2.2	266 15.3	48 2.8
アンケートの 種類	身体障害者	1,391 100.0	817 58.7	149 10.7	490 35.2	87 6.3	68 4.9	6 0.4	16 1.2	206 14.8	43 3.1
	知的障害者	251 100.0	10 4.0	216 86.1	9 3.6	- -	119 47.4	13 5.2	12 4.8	6 2.4	2 0.8
	精神障害者	98 100.0	5 5.1	25 25.5	2 2.0	1 1.0	8 8.2	- -	10 10.2	54 55.1	3 3.1

2 日常生活について

(1) 日常生活で困っていること

あなたが日常生活で困っていることは、どのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

身体障害者調査、精神障害者調査は「健康」が最も多く、精神障害者調査では過半数（52.0％）に達しています。知的障害者調査では「外出」が38.2％と最も多くなっています。

「人間関係」という回答は、身体障害者調査では1割未満（5.3％）であるのに対し、知的障害者調査（34.7％）、精神障害者調査（37.8％）では3割台を占めています。

施設入所者調査では、「特に困っていることはない」が全体の3分の1（34.0％）を占めています。

図表 3 日常生活で困っていること

		全体	健康	仕事や学校	住まい	身の回りのこと	お金に関すること	人間関係	外出	その他	特に困っていないこと	無回答
	全体	1,787 100.0	637 35.6	138 7.7	116 6.5	464 26.0	328 18.4	210 11.8	540 30.2	149 8.3	470 26.3	88 4.9
アンケートの種類	身体障害者	1,391 100.0	507 36.4	65 4.7	80 5.8	335 24.1	230 16.5	74 5.3	419 30.1	116 8.3	387 27.8	69 5.0
	知的障害者	251 100.0	66 26.3	49 19.5	17 6.8	93 37.1	63 25.1	87 34.7	96 38.2	27 10.8	48 19.1	17 6.8
	精神障害者	98 100.0	51 52.0	22 22.4	11 11.2	29 29.6	28 28.6	37 37.8	16 16.3	4 4.1	19 19.4	1 1.0
	施設入所者	47 100.0	13 27.7	2 4.3	8 17.0	7 14.9	7 14.9	12 25.5	9 19.1	2 4.3	16 34.0	1 2.1

(2) 日常生活で介助が必要な場面

あなたは、次のような日常生活の場面で、介助を必要とすることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

身体障害者調査では、「外出」が28.4%で最も多く、「交通機関の利用」が26.2%、「買い物」が25.6%で続いており、主に家の外での活動への介助が必要とされています。「介助を必要としない」は41.5%となっています。

知的障害者調査では、介助を必要とする日常生活の場面として挙げた19項目のうち9項目で回答者の割合が過半数に達しています。上位5項目は「お金の管理」(66.9%)、「交通機関の利用」(59.0%)、「文字を書くこと」(57.8%)、「会話や意思の伝達」(57.4%)、「文章を読むこと」(57.0%)であり、身体障害者調査及び精神障害者調査とは傾向が異なります。

精神障害者調査では、「介助を必要としない」(53.1%)が過半数に達しており、「食事の準備や後片付け」(18.4%)、「掃除や洗濯」(17.3%)以外の項目は1割未満にとどまっています。

図表 4 日常生活で介助が必要な場面

		全体	食事をする こと	寝返りや起 上がり	椅子や車い すへの移動	洗面	家の中の移 動	着替え	トイレ	入浴	外出	車の乗 り降り
全体		1,740 100.0	205 11.8	145 8.3	193 11.1	206 11.8	174 10.0	283 16.3	251 14.4	398 22.9	529 30.4	306 17.6
アンケート の種類の 種類	身体障害者	1,391 100.0	139 10.0	134 9.6	172 12.4	139 10.0	151 10.9	209 15.0	167 12.0	298 21.4	395 28.4	260 18.7
	知的障害者	251 100.0	59 23.5	10 4.0	20 8.0	64 25.5	20 8.0	71 28.3	80 31.9	94 37.5	128 51.0	44 17.5
	精神障害者	98 100.0	7 7.1	1 1.0	1 1.0	3 3.1	3 3.1	3 3.1	4 4.1	6 6.1	6 6.1	2 2.0
		交通機 関の利 用	食事の 準備や 後片付 け	掃除や 洗濯	お金の 管理	買物	電話を かける こと	文字を 書くこ と	文章を 読むこ と	会話や 意思の 伝達	介助を 必要と しない	無回 答
全体		519 29.8	449 25.8	490 28.2	391 22.5	501 28.8	338 19.4	410 23.6	311 17.9	291 16.7	661 38.0	153 8.8
アンケート の種類の 種類	身体障害者	365 26.2	307 22.1	342 24.6	216 15.5	356 25.6	209 15.0	259 18.6	164 11.8	140 10.1	577 41.5	123 8.8
	知的障害者	148 59.0	124 49.4	131 52.2	168 66.9	137 54.6	127 50.6	145 57.8	143 57.0	144 57.4	32 12.7	19 7.6
	精神障害者	6 6.1	18 18.4	17 17.3	7 7.1	8 8.2	2 2.0	6 6.1	4 4.1	7 7.1	52 53.1	11 11.2

(3) 介助してくれる人（介助者）との関係

【介助を必要とすると回答した人に対する設問】あなたが介助を受けるのは、どなたですか。（あてはまるものすべてに○、最も機会が多い人には◎）

最も機会の多い介助者について見ると、身体障害者調査では「夫または妻」が44.4%、「子」が20.4%となっています。

知的障害者調査では「父母」が84.3%を占めています。

精神障害者調査では、同居家族がいない（自分ひとりで暮らしている）回答者が過半数に達していることから、「ホームヘルパー」「施設の職員」がそれぞれ30.8%と最も多くなっています。

図表 5 介助してくれる人（介助者）との関係【最も機会が多い介助者】

		全体	夫または妻	子	孫	父母	兄弟姉妹	祖父母	その他の親族
全体		654 100.0	213 32.6	97 14.8	2 0.3	173 26.5	14 2.1	1 0.2	3 0.5
アンケートの種類	身体障害者	475 100.0	211 44.4	97 20.4	1 0.2	40 8.4	11 2.3	-	1 0.2
	知的障害者	153 100.0	2 1.3	-	1 0.7	129 84.3	2 1.3	1 0.7	2 1.3
	精神障害者	26 100.0	-	-	-	4 15.4	1 3.8	-	-
		近所の人	友人・知人	ホームヘルパー	施設の職員	ボランティア	その他	無回答	
全体		4 0.6	10 1.5	47 7.2	62 9.5	2 0.3	26 4.0	-	
アンケートの種類	身体障害者	4 0.8	8 1.7	39 8.2	43 9.1	2 0.4	18 3.8	-	
	知的障害者	-	1 0.7	-	11 7.2	-	4 2.6	-	
	精神障害者	-	1 3.8	8 30.8	8 30.8	-	4 15.4	-	

(4) 介助を受ける上で困っていること

【介助を必要とすると回答した人に対する設問】あなたが介助を受ける上で困っていることは、どのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

身体障害者調査では、「介助してもらうことに気を使う」が32.9%と最も多く、「介助者の代わりになる人がいない」が20.8%、「経済的な負担が大きい」が19.8%で続きます。また、「特にない」は23.9%となっています。

知的障害者調査では、回答者の5割弱が「言いたいことがうまく伝わらない」(47.5%)を選んでおり、身体障害者調査と精神障害者調査の割合を大幅に上回っています。

精神障害者調査では、「介助してもらうことに気を使う」が34.3%であるものの、「特にない」が37.1%であり、身体障害者調査及び知的障害者調査と比べても多くなっています。

図表 6 介助を受ける上で困っていること

		全体	介助してもらうことに 気を使う	経済的な負担が大きい	言いたいことがうまく 伝わらない	介助者の代わりになる人 がいない	介助のことを相談する人 がいない	その他	特にない	無回答
全体		926 100.0	260 28.1	165 17.8	219 23.7	203 21.9	66 7.1	41 4.4	224 24.2	125 13.5
アンケートの 種類	身体障害者	691 100.0	227 32.9	137 19.8	118 17.1	144 20.8	42 6.1	31 4.5	165 23.9	105 15.2
	知的障害者	200 100.0	21 10.5	24 12.0	95 47.5	56 28.0	20 10.0	10 5.0	46 23.0	17 8.5
	精神障害者	35 100.0	12 34.3	4 11.4	6 17.1	3 8.6	4 11.4	- -	13 37.1	3 8.6

(2) 今後相談したいこと

今後、あなたが相談したい内容として、どのようなことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

各調査ともに「日常生活について」「健康について」が上位3項目以内に入っています。

「就労について」という回答は、身体障害者調査では1割未満(5.5%)であるのに対し、知的障害者調査では第2位(26.7%)、精神障害者調査では第3位(31.6%)であり、それぞれ3割前後と多くなっています。「余暇活動について」という回答は、身体障害者調査(3.3%)、精神障害者調査(9.2%)では1割未満であるのに対し、知的障害者調査では21.1%と他の障害者調査に比べて多くなっています。

一方、「特にない」という回答は、知的障害者調査(18.7%)、精神障害者調査(15.3%)では1割台であるのに対し、身体障害者調査では32.9%を占めて多くなっています。

このほか、施設入所者調査では、第3位が「住まいについて」(21.3%)となっています。

図表 8 今後相談したいこと

		全体	日常生活について	健康について	情報・コミュニケーションについて	住まいについて	保育・療育・教育について	就労について	外出・バリアフリーについて
全体		1,787 100.0	409 22.9	546 30.6	120 6.7	169 9.5	65 3.6	179 10.0	174 9.7
アンケートの種類	身体障害者	1,391 100.0	291 20.9	433 31.1	73 5.2	113 8.1	16 1.2	77 5.5	139 10.0
	知的障害者	251 100.0	68 27.1	55 21.9	28 11.2	29 11.6	44 17.5	67 26.7	27 10.8
	精神障害者	98 100.0	35 35.7	45 45.9	14 14.3	17 17.3	3 3.1	31 31.6	1 1.0
	施設入所者	47 100.0	15 31.9	13 27.7	5 10.6	10 21.3	2 4.3	4 8.5	7 14.9
		余暇活動について	権利擁護について	災害・緊急時の対応について	その他	特にない	無回答		
全体		116 6.5	57 3.2	327 18.3	68 3.8	533 29.8	207 11.6		
アンケートの種類	身体障害者	46 3.3	21 1.5	266 19.1	39 2.8	458 32.9	169 12.1		
	知的障害者	53 21.1	26 10.4	50 19.9	22 8.8	47 18.7	33 13.1		
	精神障害者	9 9.2	6 6.1	10 10.2	6 6.1	15 15.3	3 3.1		
	施設入所者	8 17.0	4 8.5	1 2.1	1 2.1	13 27.7	2 4.3		

(3) 情報収集や相談をする際に困っていること

あなたが情報収集や相談をするときに困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

各調査とも「どこに問い合わせたらよいかわからない」が最も多く、「身近な場に相談するところがない」が続きます。また、「特に困っていない」は身体障害者調査と精神障害者調査で過半数に達しています。

図表 9 情報収集や相談をする際に困っていること

		全体	身近な場に相談するところがない	電話やファクシミリを使った情報収集や相談がしにくい	インターネットを使った情報収集や相談がしにくい	点字版や録音テープなどによる情報提供が少ない	相談先で、周りの人に相談内容が聞こえてしまう	どこに問い合わせたらよいかわからない	その他	特に困っていない	無回答
全体		1,740 100.0	168 9.7	81 4.7	76 4.4	10 0.6	34 2.0	302 17.4	69 4.0	911 52.4	304 17.5
アンケートの種類	身体障害者	1,391 100.0	127 9.1	62 4.5	56 4.0	8 0.6	26 1.9	216 15.5	43 3.1	762 54.8	248 17.8
	知的障害者	251 100.0	32 12.7	13 5.2	14 5.6	2 0.8	6 2.4	66 26.3	23 9.2	90 35.9	51 20.3
	精神障害者	98 100.0	9 9.2	6 6.1	6 6.1	— —	2 2.0	20 20.4	3 3.1	59 60.2	5 5.1

4 保育・教育・療育について ※25歳未満の方とその保護者の方が対象 ●●●●●●●●●●

(1) 学校教育修了後の希望進路

あなたは、学校教育修了後の進路について、どのように考えていますか。(どれか1つに○)

身体障害者調査では、「特に考えていない」が全体の4分の1（26.3%）を占めています。具体的な希望進路としては、「短期大学・大学に進学したい」が23.7%となっています。

知的障害者調査では「通所施設を利用したい」が32.5%と最も多く、「一般企業や役所に就職したい」が25.0%で続いています。身体障害者調査で多い「短期大学・大学に進学したい」は1.7%にとどまっています。

図表 10 学校教育修了後の希望進路

		全体	短期大学・大学に進学したい	専修学校・専門学校に進学したい	高等技術専門校に進学したい	一般企業や役所に就職したい	通所施設を利用したい	障害者の入所施設を利用したい	特に考えていない	その他	無回答
	全体	159 100.0	11 6.9	3 1.9	1 0.6	34 21.4	45 28.3	6 3.8	28 17.6	9 5.7	22 13.8
アンケートの種類	身体障害者	38 100.0	9 23.7	1 2.6	— —	4 10.5	6 15.8	1 2.6	10 26.3	3 7.9	4 10.5
	知的障害者	120 100.0	2 1.7	2 1.7	1 0.8	30 25.0	39 32.5	5 4.2	18 15.0	5 4.2	18 15.0
	精神障害者	1 100.0	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	1 100.0	— —

5 仕事について ※15歳以上の方が対象

(1) 就労の有無と種類

あなたは、現在働いて（収入のある仕事に就いて）いますか。（どれか1つに○）

身体障害者調査・精神障害者調査では「働いている」がほぼ2割であるのに対し、「働いていない」が過半数に達しています（ただし、身体障害者調査では回答者の大半が65歳以上であることに留意する必要があります）。一方、知的障害者調査では、「働いている」が過半数（52.8%）であり、「働いていない」は4割弱（38.2%）です。

就労の種類については、身体障害者では「一般就労」が7.8%、「臨時雇、パート、アルバイト、派遣など」が6.0%となっています（働いていない人を含めた回答者全体に占める割合。以下同じ）。精神障害者では「臨時雇、パート、アルバイト、派遣など」「福祉作業所、就労支援施設などでの「福祉的就労」」がそれぞれ6.3%、「一般就労」が4.2%で続きます。

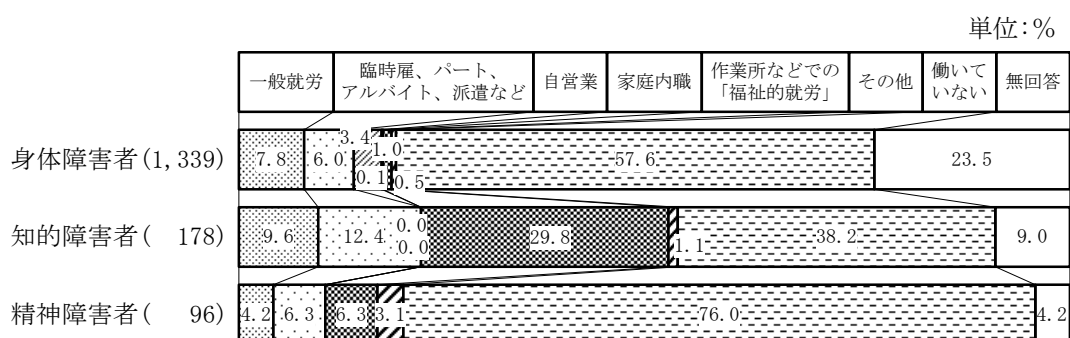
知的障害者については、「福祉作業所、就労支援施設などでの「福祉的就労」」が29.8%と多くなっています。

図表 11 就労の有無

		全 体	働 い て い る	働 い て い な い	無 回 答
	全体	1,613 100.0	366 22.7	912 56.5	335 20.8
アンケートの 種類	身体障害者	1,339 100.0	253 18.9	771 57.6	315 23.5
	知的障害者	178 100.0	94 52.8	68 38.2	16 9.0
	精神障害者	96 100.0	19 19.8	73 76.0	4 4.2

※「働いている」は「一般就労」「臨時雇、パート、アルバイト、派遣など」「自営業」「家庭内職」「福祉作業所、就労支援施設などでの「福祉的就労」」「その他」の合計。

図表 12 就労の有無と種類



(2) 月平均収入

【現在働いていると回答した人に対する設問】あなたの労働による1ヶ月の平均収入総額（ボーナスや障害年金等を除く月の給与）を教えてください。税金や年金、施設への利用料などを引かれる前の総額です。（どれか1つに○）

身体障害者調査では、回答者の5割弱（47.8%）が15万円以上の月平均収入を得ており、特に全体の3分の1（34.0%）は20万円以上となっています。

一方、知的障害者調査では、月平均収入が3万円未満の回答者が過半数（52.1%）に達しており、15万円以上という回答は1割未満（7.5%）にとどまっています。

図表 13 月平均収入

		全体	1万円未満	1～3万円未満	3～5万円未満	5～10万円未満	10～15万円未満	15～20万円未満	20～30万円未満	30万円以上	無回答
全体		366 100.0	49 13.4	35 9.6	18 4.9	74 20.2	41 11.2	42 11.5	46 12.6	42 11.5	19 5.2
アンケートの種類	身体障害者	253 100.0	10 4.0	14 5.5	13 5.1	54 21.3	28 11.1	35 13.8	44 17.4	42 16.6	13 5.1
	知的障害者	94 100.0	31 33.0	18 19.1	5 5.3	16 17.0	12 12.8	6 6.4	1 1.1	—	5 5.3
	精神障害者	19 100.0	8 42.1	3 15.8	—	4 21.1	1 5.3	1 5.3	1 5.3	—	1 5.3

(3) 仕事で困っていること

【現在働いていると回答した人に対する設問】あなたが仕事をする上で、困ったり、つらいことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

身体障害者調査、知的障害者調査とも「収入が少ない」が3割前後で最も多く、身体障害者調査では「肉体的につらい」が17.8%、知的障害者調査では「通勤が大変」が23.4%で続きます。「困ったり、つらいことは特にない」は4割弱となっています。

「職場の人間関係」という回答は、身体障害者調査では1割未満（6.3%）であるのに対し、知的障害者調査では22.3%と多くなっています。

図表 14 仕事で困っていること

		全体	通勤が大変	収入が少ない	肉体的につらい	仕事が終わらない	職場の人間関係	職場の整備されていない環境が	職場の中で介助者を得にくい	その他	困ったり、つらいことは特にない	無回答
全体		366 100.0	63 17.2	107 29.2	57 15.6	11 3.0	42 11.5	19 5.2	9 2.5	19 5.2	141 38.5	33 9.0
アンケートの種類	身体障害者	253 100.0	39 15.4	66 26.1	45 17.8	8 3.2	16 6.3	11 4.3	2 0.8	11 4.3	99 39.1	24 9.5
	知的障害者	94 100.0	22 23.4	30 31.9	9 9.6	3 3.2	21 22.3	6 6.4	6 6.4	6 6.4	36 38.3	8 8.5
	精神障害者	19 100.0	2 10.5	11 57.9	3 15.8	—	5 26.3	2 10.5	1 5.3	2 10.5	6 31.6	1 5.3

(4) 障害のある人の一般就労のため必要なこと

あなたは、障害のある人が、企業などで一般就労するためには、どのような支援が必要だと思いますか。(主なもの3つまでに○)

各調査とも「仕事探しから就労までの総合的な相談支援」「障害の特性にあった職業・雇用の拡大」が上位を占めています。

身体障害者調査と精神障害者調査では、「障害や病気の状態に応じた柔軟な勤務体制の支援」が2割強で続いています。一方、知的障害者調査では「ジョブコーチなど、職場に定着するための支援」(18.0%)が2割弱であり、精神障害者調査(11.5%)、身体障害者調査(1.8%)に比べて多くなっています。

このほか、精神障害者調査では「特にない」も22.9%と多くなっています。

図表 15 障害のある人の一般就労のため必要なこと

		全体	仕事探しから就労までの 総合的な相談支援	働くための知識・能力を 身につける職業訓練	職場を理解するための 就労体験	障害の特性にあった職業・ 雇用の拡大	障害者向けの求人情報の 提供	障害理解を促進するための 職場への働きかけ	職場のバリアフリー化	障害や病気の状態に応じた 柔軟な勤務体制の支援	ジョブコーチなど、職場に 定着するための支援	その他	特にない	無回答
全体		1,613 100.0	440 27.3	217 13.5	77 4.8	416 25.8	170 10.5	172 10.7	96 6.0	340 21.1	67 4.2	24 1.5	149 9.2	636 39.4
アンケートの種類	身体障害者	1,339 100.0	351 26.2	176 13.1	52 3.9	334 24.9	139 10.4	132 9.9	93 6.9	288 21.5	24 1.8	15 1.1	112 8.4	572 42.7
	知的障害者	178 100.0	57 32.0	23 12.9	15 8.4	58 32.6	17 9.6	30 16.9	3 1.7	30 16.9	32 18.0	7 3.9	15 8.4	49 27.5
	精神障害者	96 100.0	32 33.3	18 18.8	10 10.4	24 25.0	14 14.6	10 10.4	－ －	22 22.9	11 11.5	2 2.1	22 22.9	15 15.6

6 外出について

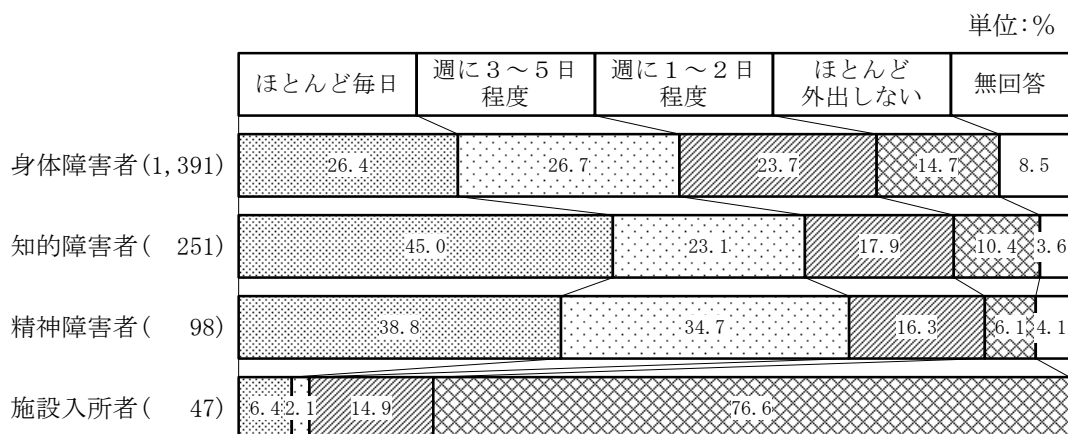
(1) 外出の頻度

ふだん、あなたは週に何日くらい外出しますか。(どれか1つに○)

身体障害者調査では、「ほとんど毎日」が26.4%、「週に3～5日程度」が26.7%となっています。知的障害者調査では、「ほとんど毎日」が45.0%、「週に3～5日程度」が23.1%となっています。精神障害者調査では、「ほとんど毎日」が38.8%、「週に3～5日程度」が34.7%となっています。

施設入所者調査では、「ほとんど外出しない」(76.6%)が全体の8割弱を占めており、「ほとんど毎日」(6.4%)は1割未満にとどまっています。

図表 16 外出の頻度



7 余暇活動について

(1) 余暇時間にしていること

あなたは、時間に余裕があるときにどのようなことをしていますか。(あてはまるものすべてに○)

各調査とも「家でゆっくりくつろぐ」が最も多く、知的障害者調査と精神障害者調査、施設入所者調査で7割強、身体障害者調査で6割となっています。

このほか、知的障害者調査と精神障害者調査では「デパートや店などに出かける」が3割強となっています。

図表 17 余暇時間にしていること

		全体	家でゆっくりくつろぐ	家で趣味、体操、学習活動などを行う	家の周りを散歩する	友人や知人と会って交流を深める	デパートや店などに出かける	映画、音楽、観劇、行事などへ行く	スポーツしに出かける	図書館や博物館などへ行く	その他	特に何もししていない	無回答
全体		1,787 100.0	1,125 63.0	389 21.8	423 23.7	384 21.5	441 24.7	268 15.0	149 8.3	143 8.0	118 6.6	166 9.3	131 7.3
アンケートの種類	身体障害者	1,391 100.0	841 60.5	294 21.1	329 23.7	326 23.4	316 22.7	199 14.3	108 7.8	118 8.5	91 6.5	136 9.8	119 8.6
	知的障害者	251 100.0	179 71.3	60 23.9	61 24.3	32 12.7	87 34.7	44 17.5	27 10.8	16 6.4	16 6.4	20 8.0	9 3.6
	精神障害者	98 100.0	72 73.5	24 24.5	21 21.4	21 21.4	32 32.7	19 19.4	12 12.2	8 8.2	8 8.2	6 6.1	3 3.1
	施設入所者	47 100.0	33 70.2	11 23.4	12 25.5	5 10.6	6 12.8	6 12.8	2 4.3	1 2.1	3 6.4	4 8.5	—

8 権利擁護について

(1) 人権を損なう扱いを受けた経験の有無

あなたは、障害があることが原因で、人権を損なう扱いを受けた経験がありますか。
(あてはまるものすべてに○)

身体障害者調査では、いずれの項目とも1割未満であり、「特にない」が66.8%を占めています。

知的障害者調査では「差別的な言葉を言われた」(28.7%)、「医療機関から受診や治療を断られた」(10.0%)が身体障害者調査、精神障害者調査と比べて多く、精神障害者調査では「希望する仕事に就けなかった」(16.3%)が身体障害者調査、知的障害者調査と比べて多くなっています。

施設入所者調査は、いずれの項目とも1割未満であり、「特にない」が66.0%を占めています。

図表 18 人権を損なう扱いを受けた経験の有無

		全体	希望した学校に入学できなかった	希望する仕事に就けなかった	職場での労働条件や給料が、周囲の人に比べて低い	交通機関や施設の利用を断られた	医療機関から受診や治療を断られた	賃貸物件への入居や転入の際に、障害を理由に断られた	飲食店やホテルなどで利用を断られた	差別的な言葉を言われた	その他	特にない	無回答
	全体	1,787 100.0	44 2.5	88 4.9	67 3.7	24 1.3	50 2.8	25 1.4	10 0.6	198 11.1	74 4.1	1,104 61.8	301 16.8
アンケートの種類	身体障害者	1,391 100.0	21 1.5	56 4.0	38 2.7	15 1.1	23 1.7	11 0.8	9 0.6	103 7.4	43 3.1	929 66.8	258 18.5
	知的障害者	251 100.0	18 7.2	14 5.6	22 8.8	8 3.2	25 10.0	5 2.0	-	72 28.7	23 9.2	90 35.9	33 13.1
	精神障害者	98 100.0	1 1.0	16 16.3	5 5.1	1 1.0	2 2.0	7 7.1	-	19 19.4	5 5.1	54 55.1	7 7.1
	施設入所者	47 100.0	4 8.5	2 4.3	2 4.3	-	-	2 4.3	1 2.1	4 8.5	3 6.4	31 66.0	3 6.4

(2) 障害者虐待の防止に必要な制度・体制

障害者虐待の防止のために、あなたは、市がどのような制度や体制を整備する必要がありますか。(あてはまるものすべてに○)

各調査とも「通報や相談を受ける機関」が最も多く、知的障害者調査では5割弱(49.0%)、身体障害者調査と精神障害者調査では4割前後を占めています。

知的障害者調査では「福祉職員や市民などへの虐待防止のための啓発活動」(35.9%)「市職員や福祉施設の職員などに対する権利擁護や虐待防止のための研修」(33.1%)が身体障害者調査と精神障害者調査に比べて多くなっています。

施設入所者調査では、回答者の5割弱が「特にない」(46.8%)を選んでおり、他の調査に比べて多くなっています。

図表 19 障害者虐待の防止に必要な制度・体制

		全体	通報や相談を受ける機関	緊急一時保護施設など避難する場所	関係機関による支援のネットワーク	福祉職員や市民などへの虐待防止のための啓発活動	市職員や福祉施設の職員などに対する権利擁護や虐待防止のための研修	地域の民生委員などとの連携	その他	特にない	無回答
全体		1,787 100.0	720 40.3	517 28.9	412 23.1	351 19.6	328 18.4	378 21.2	50 2.8	364 20.4	339 19.0
アンケートの種類	身体障害者	1,391 100.0	546 39.3	400 28.8	309 22.2	231 16.6	220 15.8	286 20.6	29 2.1	273 19.6	291 20.9
	知的障害者	251 100.0	123 49.0	87 34.7	75 29.9	90 35.9	83 33.1	62 24.7	16 6.4	39 15.5	33 13.1
	精神障害者	98 100.0	40 40.8	25 25.5	21 21.4	22 22.4	15 15.3	23 23.5	2 2.0	30 30.6	10 10.2
	施設入所者	47 100.0	11 23.4	5 10.6	7 14.9	8 17.0	10 21.3	7 14.9	3 6.4	22 46.8	5 10.6

(3) 成年後見制度の認知状況

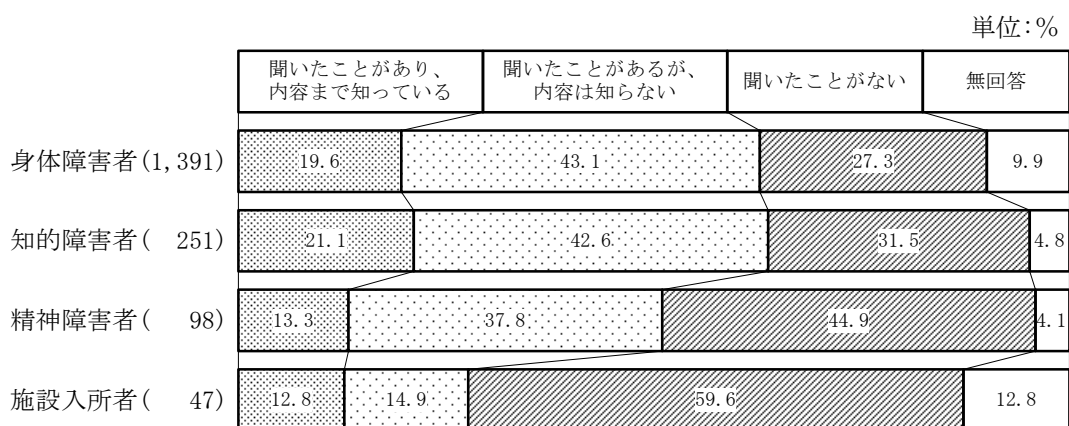
あなたは、成年後見制度を知っていますか。(どれか1つに○)

身体障害者調査、知的障害者調査では「聞いたことがあり、内容まで知っている」が2割前後、「聞いたことがあるが、内容は知らない」が4割強を占めており、回答者の6割強が成年後見制度について聞いたことがあるということがわかります。「聞いたことがない」は3割前後です。

精神障害者調査では、成年後見制度について聞いたことがあるという回答(51.1%)が5割強であり、身体障害者調査及び知的障害者調査の割合を下回っています。

施設入所者調査では、成年後見制度について聞いたことがあるという回答(27.7%)が3割弱にとどまっており、「聞いたことがない」(59.6%)がほぼ6割となっています。「聞いたことがない」の割合が他の調査に比べて特になくなっていきます。

図表 20 成年後見制度の認知状況



9 災害・緊急時の対応について

(1) 緊急な病状になったときに不安なこと

もし、あなたが緊急な病状になったことを考えると、特に不安に感じることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

各調査とも「自分だけでは動けない」が最も多く、特に知的障害者調査でほぼ6割(59.4%)、施設入所者調査で6割弱(57.4%)を占めています。

知的障害者調査では「状況を周囲の人に伝えることが困難」(52.6%)、「電話などの連絡の手段が使えない」(45.0%)という回答が5割前後となっており、身体障害者調査及び精神障害者調査に比べて多くなっています。

精神障害者調査では「緊急なときに頼れる人がいない」(25.5%)、「寝込んだときの介助者がいない」(19.4%)という回答が身体障害者調査及び知的障害者調査に比べて多くなっています。

施設入所者調査では、回答者のほぼ3割が「特に不安はない」(29.8%)を選んでおり、他の調査に比べて多くなっています。

図表 21 緊急な病状になったときに不安なこと

		全体	自分だけでは動けない	状況を周囲の人に伝えることが困難に	電話などの連絡の手段が使えない	頼れる緊急なときに人がいない	経済的な負担が増える	寝込んだときの介助者がいない	仕事ができなくなる
全体		1,787 100.0	783 43.8	369 20.6	320 17.9	212 11.9	316 17.7	195 10.9	157 8.8
アンケートの種類	身体障害者	1,391 100.0	576 41.4	206 14.8	201 14.5	141 10.1	248 17.8	152 10.9	122 8.8
	知的障害者	251 100.0	149 59.4	132 52.6	113 45.0	46 18.3	40 15.9	24 9.6	22 8.8
	精神障害者	98 100.0	31 31.6	17 17.3	6 6.1	25 25.5	22 22.4	19 19.4	11 11.2
	施設入所者	47 100.0	27 57.4	14 29.8	-	-	6 12.8	-	2 4.3
			子どもや高齢者などの世話をする人がいない	寝る場所の確保	トイレや入浴設備	詳細な情報の入手	その他	特に不安はない	無回答
全体		54 3.0	174 9.7	335 18.7	214 12.0	65 3.6	336 18.8	188 10.5	
アンケートの種類	身体障害者	47 3.4	125 9.0	255 18.3	157 11.3	45 3.2	267 19.2	167 12.0	
	知的障害者	6 2.4	40 15.9	60 23.9	46 18.3	14 5.6	34 13.5	15 6.0	
	精神障害者	1 1.0	9 9.2	10 10.2	11 11.2	5 5.1	21 21.4	6 6.1	
	施設入所者	-	-	10 21.3	-	1 2.1	14 29.8	-	

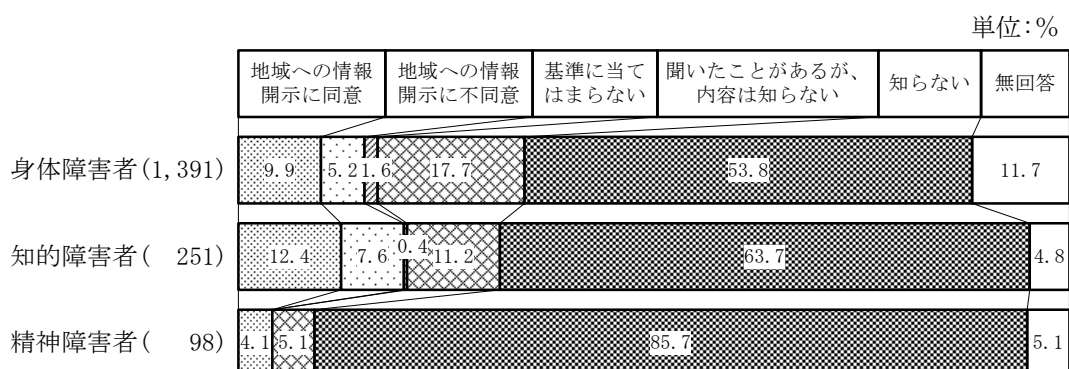
(2)「災害時要援護者台帳」の認知状況

あなたは、災害時要援護者台帳を知っていますか。(どれか1つに○)

各調査とも「知らない」が過半数を占めており、精神障害者調査では9割弱(85.7%)となっています。身体障害者調査と知的障害者調査では、「知らない」「名前は聞いたことがあるが、どのようなものかは知らない」を合わせると、7割強となっています。

災害時要援護者台帳を知っている(「要援護者台帳を知っていて、地域への情報開示に同意している」「要援護者台帳を知っているが、地域への情報開示には同意していない」「要援護者台帳を知っているが、台帳に記載される基準に当てはまらない」の合計)という回答は、身体障害者調査と知的障害者調査で2割前後にとどまっているほか、精神障害者調査(9.2%)では1割に達していません。

図表 22 「災害時要援護者台帳」の認知状況



10 障害者総合支援法について

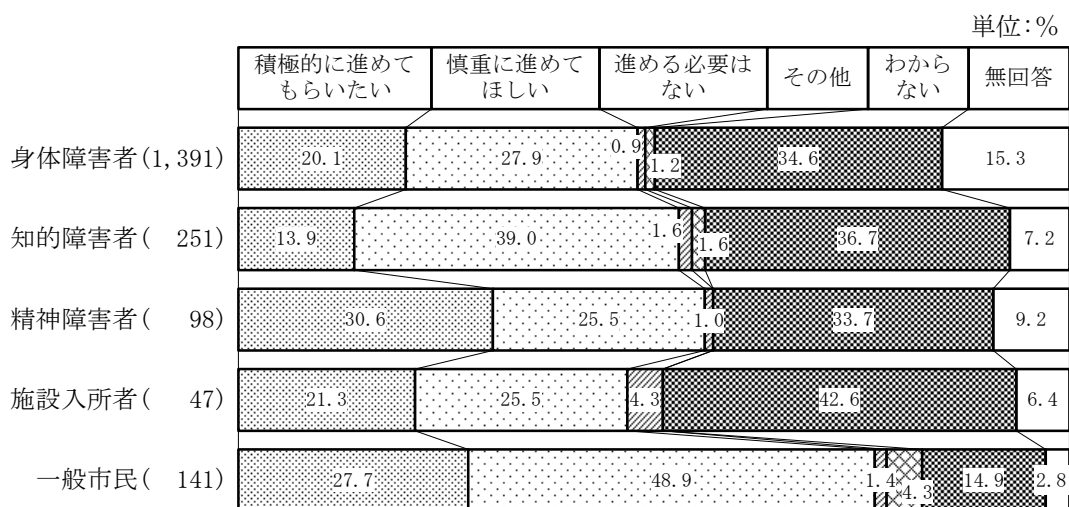
(1) 入所者・入院者の地域生活移行への考え方

市では、「第3期船橋市障害福祉計画」に基づき、現在、福祉施設に入所または病院に入院している障害者で退所・退院が可能な人について、地域生活への移行を支援しています。このことについて、あなたはどのように思いますか。(どれか1つに○)

精神障害者調査では、「地域生活への移行は、積極的に進めてもらいたい」(30.6%)が「地域生活への移行は、慎重に進めてほしい」(25.5%)を上回っていますが、これ以外の調査では「地域生活への移行は、慎重に進めてほしい」が「地域生活への移行は、積極的に進めてもらいたい」を上回っており、その差は知的障害者調査及び市民調査で20ポイントを超えています。

このほか、一般市民調査を除く各調査とも、「わからない」という回答が3割以上を占めています。

図表 23 入所者・入院者の地域生活移行への考え方



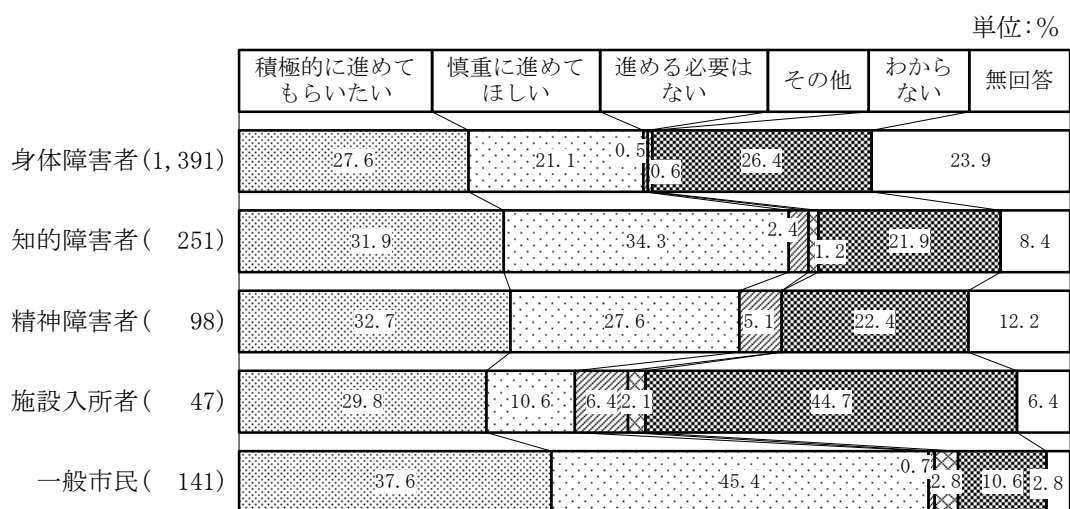
(2) 福祉的就労から一般就労への移行への考え方

現在、福祉的就労（障害者の作業所などでの就労）をしている障害者のうち、訓練により一般就労（企業等への就労、在宅での就労）が可能となる人について、市では一般就労への移行を支援しています。このことについて、あなたはどのように思いますか。（どれか1つに○）

身体障害者調査と精神障害者調査、施設入所者調査では、「一般就労への移行は、積極的に進めてもらいたい」が「一般就労への移行は、慎重に進めてほしい」を上回っていますが、知的障害者調査と一般市民調査では「一般就労への移行は、慎重に進めてほしい」が「一般就労への移行は、積極的に進めてもらいたい」を上回っています。

施設入所者調査では、「わからない」という回答が4割強（44.7%）を占めています。

図表 24 福祉的就労から一般就労への移行への考え方



(3) 障害福祉サービスの利用意向

今後、あなたが利用したいと思う障害福祉サービスは何ですか。現在利用している方もお答えください。(あてはまるものすべてに○)

身体障害者調査と精神障害者調査では、「居宅介護」という回答が2割で最も多く、身体障害者調査では「生活介護」が10.4%、精神障害者調査では「就労移行支援」が19.4%で続きます。

知的障害者調査では「短期入所」が22.3%で最も多く、「グループホーム」が19.1%で続きます。

「どれも利用したいとは思わない」は、身体障害者調査で31.1%、精神障害者調査で25.5%となっています。

施設入所者調査では、「施設入所支援」が34.0%で最も多く、「生活介護」が27.7%で続きます。

図表 25 障害福祉サービスの利用意向

		全体	居宅介護	重度訪問介護	行動援護	同行援護	療養介護	生活介護	短期入所	重度障害者等包括支援
全体		1,787 100.0	336 18.8	46 2.6	98 5.5	106 5.9	89 5.0	201 11.2	198 11.1	60 3.4
アンケートの種類	身体障害者	1,391 100.0	285 20.5	41 2.9	55 4.0	68 4.9	76 5.5	144 10.4	138 9.9	47 3.4
	知的障害者	251 100.0	22 8.8	5 2.0	38 15.1	27 10.8	10 4.0	37 14.7	56 22.3	8 3.2
	精神障害者	98 100.0	20 20.4	-	1 1.0	6 6.1	2 2.0	7 7.1	1 1.0	2 2.0
	施設入所者	47 100.0	9 19.1	-	4 8.5	5 10.6	1 2.1	13 27.7	3 6.4	3 6.4
		ケアホーム	施設入所支援	自立訓練	就労移行支援	就労継続支援A型	就労継続支援B型	グループホーム	どれも利用したいとは思わない	無回答
全体		89 5.0	199 11.1	150 8.4	75 4.2	27 1.5	47 2.6	117 6.5	496 27.8	403 22.6
アンケートの種類	身体障害者	60 4.3	134 9.6	89 6.4	21 1.5	6 0.4	8 0.6	46 3.3	432 31.1	340 24.4
	知的障害者	21 8.4	43 17.1	47 18.7	33 13.1	15 6.0	30 12.0	48 19.1	33 13.1	47 18.7
	精神障害者	4 4.1	6 6.1	10 10.2	19 19.4	4 4.1	5 5.1	16 16.3	25 25.5	10 10.2
	施設入所者	4 8.5	16 34.0	4 8.5	2 4.3	2 4.3	4 8.5	7 14.9	6 12.8	6 12.8

11 船橋市の障害者福祉について

(1) 福祉サービス情報の入手方法

あなたは、障害のある人のための市の福祉サービスの内容について、どのようなところで知ることが多いですか。(主なもの2つまでに○)

各調査とも「市の広報紙「広報ふなばし」」が上位2項目以内に入っています。「市の広報紙「広報ふなばし」」は身体障害者調査で45.1%、知的障害者調査で23.1%であり、精神障害者調査及び施設入所者調査に比べて多くなっています。

このほか、知的障害者調査では「家族や仲間」(21.5%)が、精神障害者調査では「医師・看護師等」(30.6%)が他の調査に比べて多くなっています。

施設入所者調査では、「障害者施設」(25.5%)という回答が他の調査に比べて特に多くなっていますが、「特にない」という回答も29.8%と多くなっています。

一般市民調査では、「市の広報紙「広報ふなばし」」(50.4%)に続いて「マスメディアの記事や番組」が41.1%となっており、他の調査に比べて多くなっています。

図表 26 福祉サービス情報の入手方法

		全体	市の広報紙 「広報ふなばし」	市障害福祉課が発行 する「福祉のしおり」	市役所や市の機関 などにあるパンフ レット	市のホームページ	市障害福祉課への 問合せ	障害者団体などの機 関紙やパンフレット、 ホームページ	市や障害者団体以外 のホームページ	マスメディアの記事 や番組
全体		1,928 100.0	777 40.3	269 14.0	103 5.3	97 5.0	160 8.3	43 2.2	1 0.1	174 9.0
アンケートの種類	身体障害者	1,391 100.0	628 45.1	214 15.4	81 5.8	71 5.1	117 8.4	27 1.9	-	93 6.7
	知的障害者	251 100.0	58 23.1	41 16.3	9 3.6	11 4.4	37 14.7	12 4.8	-	12 4.8
	精神障害者	98 100.0	13 13.3	3 3.1	8 8.2	4 4.1	3 3.1	3 3.1	-	5 5.1
	施設入所者	47 100.0	7 14.9	1 2.1	4 8.5	1 2.1	3 6.4	-	-	6 12.8
	一般市民	141 100.0	71 50.4	10 7.1	1 0.7	10 7.1	-	1 0.7	1 0.7	58 41.1

		社会福祉協議会	民生委員・児童委員	障害者施設	医師・看護師等	家族や仲間	その他	特にない	無回答
全体		12 0.6	15 0.8	84 4.4	136 7.1	152 7.9	58 3.0	253 13.1	331 17.2
アンケートの種類	身体障害者	10 0.7	10 0.7	31 2.2	98 7.0	83 6.0	34 2.4	163 11.7	258 18.5
	知的障害者	1 0.4	2 0.8	35 13.9	3 1.2	54 21.5	11 4.4	32 12.7	42 16.7
	精神障害者	-	-	6 6.1	30 30.6	9 9.2	8 8.2	20 20.4	15 15.3
	施設入所者	-	-	12 25.5	5 10.6	-	1 2.1	14 29.8	4 8.5
	一般市民	1 0.7	3 2.1	-	-	6 4.3	4 2.8	24 17.0	12 8.5

(2) 今後必要だと思う福祉施策

あなたが今後、必要だと思う障害者福祉施策は何ですか。(主なもの3つまでに○)

身体障害者調査では、「医療費の軽減」が41.7%で最も多く、「所得保障の充実」が23.6%、「社会福祉施設の充実」が21.3%で続きます。「医療費の軽減」という回答は他の調査に比べて多くなっています。

知的障害者調査では、「働く場の確保」が31.9%で最も多く、「社会福祉施設の充実」が25.1%、「所得保障の充実」が19.5%で続きます。

精神障害者調査では、「所得保障の充実」が39.8%で最も多く、「働く場の確保」が25.5%、「医療費の軽減」が22.4%で続きます。

「働く場の確保」という回答は、身体障害者調査(9.6%)では1割未満にとどまっているのに対し、知的障害者調査(31.9%)、精神障害者調査(25.5%)では3割前後となっています。

施設入所者調査では、「障害に適した住宅の確保」が23.4%で最も多くなっています。

一般市民調査では、「家族が休養できる体制」が28.4%で最も多く、「能力に応じた職業訓練」が25.5%、「介助体制の充実」が23.4%で続いており、障害者を対象とした他の調査とは傾向が異なります。

図表 27 今後必要だと思う福祉施策

		全体	所得保障の充実	医療費の軽減	社会福祉施設の充実	障害に適した住宅の確保	移動を容易にする施策の充実	介助体制の充実	相談支援体制の充実
全体		1,928 100.0	445 23.1	685 35.5	412 21.4	204 10.6	117 6.1	293 15.2	274 14.2
アンケートの種類	身体障害者	1,391 100.0	328 23.6	580 41.7	296 21.3	135 9.7	94 6.8	215 15.5	194 13.9
	知的障害者	251 100.0	49 19.5	44 17.5	63 25.1	28 11.2	7 2.8	32 12.7	43 17.1
	精神障害者	98 100.0	39 39.8	22 22.4	13 13.3	15 15.3	3 3.1	4 4.1	14 14.3
	施設入所者	47 100.0	7 14.9	7 14.9	9 19.1	11 23.4	3 6.4	9 19.1	6 12.8
	一般市民	141 100.0	22 15.6	32 22.7	31 22.0	15 10.6	10 7.1	33 23.4	17 12.1
		専門的訓練機能の回復	能力に応じた職業訓練	働く場の確保	スポーツ・レクリエーション活動の充実	家族が休養できる体制	差別の解消や権利を擁護する体制	その他	無回答
全体		195 10.1	150 7.8	274 14.2	97 5.0	303 15.7	126 6.5	41 2.1	429 22.3
アンケートの種類	身体障害者	161 11.6	63 4.5	134 9.6	62 4.5	211 15.2	60 4.3	27 1.9	314 22.6
	知的障害者	9 3.6	35 13.9	80 31.9	15 6.0	43 17.1	34 13.5	6 2.4	57 22.7
	精神障害者	4 4.1	13 13.3	25 25.5	6 6.1	8 8.2	15 15.3	4 4.1	17 17.3
	施設入所者	3 6.4	3 6.4	3 6.4	7 14.9	1 2.1	7 14.9	4 8.5	10 21.3
	一般市民	18 12.8	36 25.5	32 22.7	7 5.0	40 28.4	10 7.1	—	31 22.0

自由回答

船橋市の障害者福祉施策についてのご意見、ご希望、または困っていることなどを、自由にお書きください。

自由回答欄に具体的な記入があった回答者数は、各調査合計で 461 人です。身体障害者調査と知的障害者調査では、「生活支援・福祉サービス」に関する回答が最も多くなっています。このほか、身体障害者調査では「生活環境」「保健・医療」に関する回答が、知的障害者調査では「教育・育成」に関する回答が多くなっています。回答の内容は多岐にわたっており、「その他」に分類されるものも目立ちます。

図表 28 自由回答【テーマ別】

		全体	啓発・広報	保健・医療	教育・育成	雇用・就業	福祉サービス	生活環境	スポーツ等	その他
全体		461 100.0	30 6.5	42 9.1	23 5.0	25 5.4	191 41.4	47 10.2	9 2.0	175 38.0
アンケートの種類	身体障害者	304 100.0	12 3.9	35 11.5	5 1.6	6 2.0	123 40.5	37 12.2	7 2.3	120 39.5
	知的障害者	96 100.0	4 4.2	3 3.1	17 17.7	11 11.5	49 51.0	4 4.2	1 1.0	34 35.4
	精神障害者	18 100.0	2 11.1	-	-	5 27.8	7 38.9	-	-	7 38.9
	施設入所者	10 100.0	-	1 10.0	-	1 10.0	5 50.0	-	-	3 30.0
	一般市民	33 100.0	12 36.4	3 9.1	1 3.0	2 6.1	7 21.2	6 18.2	1 3.0	11 33.3

※複数の分野にまたがる回答もあるため、各分野の割合を合計すると 100%を超えます。

【主な意見】

※ここに掲載したものは回答の一部です。また、大意を変えずに一部を省略・要約している場合があります。

※回答者は本人ではなく、代理の人である場合もあります。

①啓発・広報

- ・障害者福祉施策の活動内容を一部の障害者だけではなく、もっとアピールするべきだと思います。(身体障害者、女性、41 歳)
- ・障害者への偏見、差別が少なくなってくればよいと思います。(精神障害者、男性、44 歳)
- ・ノーマライゼーションを進め、障害者も社会の一員であることが当たり前の社会にしましょう。触れ合う機会が少なすぎます。(一般市民、女性、52 歳)

②保健・医療

- ・医療費自己負担分の公費補助は大変助かります。今後も続けて下さい。(身体障害者、男性、75歳)
- ・障害者本人が病気になった時、病院がない。特にケガや歯医者がない。障害が重いのですぐ受け入れてくれる病院があるとよいのですが。(知的障害者、女性、73歳)

③教育・育成

- ・小学校は、自閉・情緒クラスはあるが、中学・高校にも、自閉・情緒クラスを加えてほしい。各小学校にも、どんどん知的・自閉・情緒クラスを増やして、学区の小学校に6年間通わせて、送迎の負担や自分で通学出来るようにしたい。障害を持っているお子さんが沢山いるので、住みやすい市にして頂きたい。(知的障害者、女性、43歳)
- ・今、特別支援学校に通っているので、やはり卒業後、将来的な不安が一番大きい。(知的障害者、男性、10歳)

④雇用・就業

- ・もっともっと市が就職や自立の為に力を入れて、障害者にも働く労働力としての場を開拓してほしい。やれる事を増やして、良い意味で利用活用してほしい。(知的障害者、男性、10歳)
- ・企業が障害者への就労場所の提供をお願いしたい(企業は利益を求める集団なので、そういうことは難しいかもしれないが)。(精神障害者、女性、45歳)
- ・障害者がいきいきと働ける場が少ないように思う。障害を持った子ども達が明るい未来を描けるような施策をよろしくお願いします。(一般市民、女性、55歳)

⑤生活支援、福祉サービス

- ・色々とサービスも充実してきて、嬉しく思っています。でもサービスを使うのにスタッフの数が不足しているように思います。施設の職員等、サービス事業者等のスタッフが増えてくれると、利用する者としても気軽にお願いできます。まだまだ気軽に、気軽にという状況ではないようです。よろしくお願いします。(知的障害者、男性、30歳)
- ・女性職員(正職)が少なく困っている。十分に同性介助が受けられない。(施設入所者、女性、55歳)
- ・自立、勤労を希望する人は支援がしやすいが、在宅介護が必要な人は家族が休養できる制度も整えてあげて欲しい。表に出にくい人々もしっかり支えていける地域活動の輪が広がるようにして欲しい。(一般市民、女性、44歳)
- ・人工透析に通っているため、タクシー券については助かっています。船橋市は、福祉施策が充実していて良いと思います。免除も助かっています。(身体障害者、女性、73歳)
- ・手続き等が多い。1年更新のものが多く、常に更新手続き等をしている印象、このような負担を減らすことも考えてほしい。(身体障害者、女性、1歳)

⑥生活環境

- ・車いすで外に出た時に、歩道の狭さ、段差、傾斜がすごいので、外へ出る事があまりありません。この事について、検討して頂けると嬉しいです。(身体障害者、女性、65歳)
- ・エスカレーターの上りは多いが下りが少ない。障害者にとっては階段を下りる方が不安、恐怖が大きいと思います(公共施設でのバリアフリーの充実)。(一般市民、男性、56歳)
- ・災害時の不安解消。地震、風水害災害時に福祉避難におけるストーマ装具の緊急対応、オストメイトの方は一人、一人異なるために装具を船橋市福祉サービス部等にて管理、保管していただく方向で、ご検討いただければと考えております。(身体障害者、女性、72歳)

⑦スポーツ・レクリエーション等

- ・現在の状態を保つために運動等をしていますが、筋肉をつけることが大変、難しいです。軽い障害者ですが、何もしなければ変形になっている関節を取り替えていくことになりますので、ストレッチ体操を出来るようにして下さい。(身体障害者、女性、67歳)
- ・年金だけで生活する者です。本当は毎日すごくひまなのです。内職でもと思っても、年齢でダメです。地域に気軽に行って、安く飲み物でも飲める集会所(喫茶店)みたいな所が近くにあったらいいと思うけど、無理ですよね。これは私の希望です。(身体障害者、性別、年齢無回答)

⑧その他

- ・突然のアンケートで驚きましたが、健常者である自身、家族ですので、改めて考えることがないテーマで、これからは少しは意識すべき事と思いました。少しでも、障害を持っている方、ご家族様にとって良い方向に行くよう、このアンケートが活用されることを願っております。(一般市民、女性、44歳)
- ・アンケート調査について。1. 介護給付等、各専門用語の内容が分からず記入ができない。2. 質問項目が多すぎて数時間要した。少し簡略化できないか。(身体障害者、女性、76歳)

第2部 調査の結果

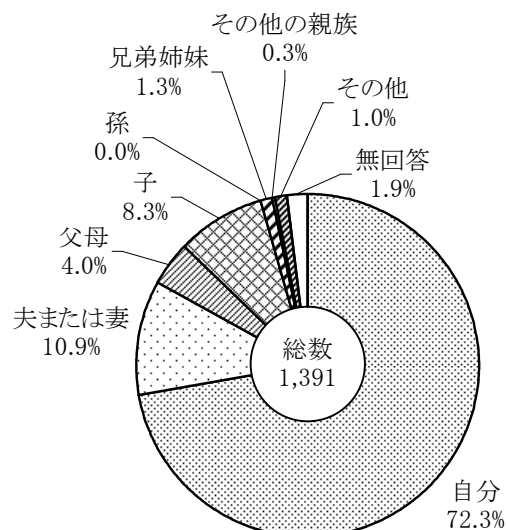
I 身体障害者を対象とした調査結果

(1) アンケートの記入者

問1 このアンケートの記入者はどなたですか。あなたから見た続柄でお答えください。(どれか1つに○)

図表 I-1 アンケートの記入者

「自分」が 72.3%で最も多く、「夫または妻」が 10.9%、「子」が 8.3%で続きます。



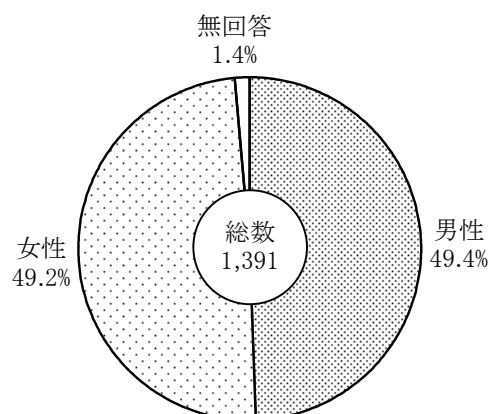
1 基本属性

(1) 性別

問2 あなたは、男性ですか、女性ですか。(どれか1つに○)

図表 I-2 性別

「男性」が 49.4%、「女性」が 49.2%となっています。



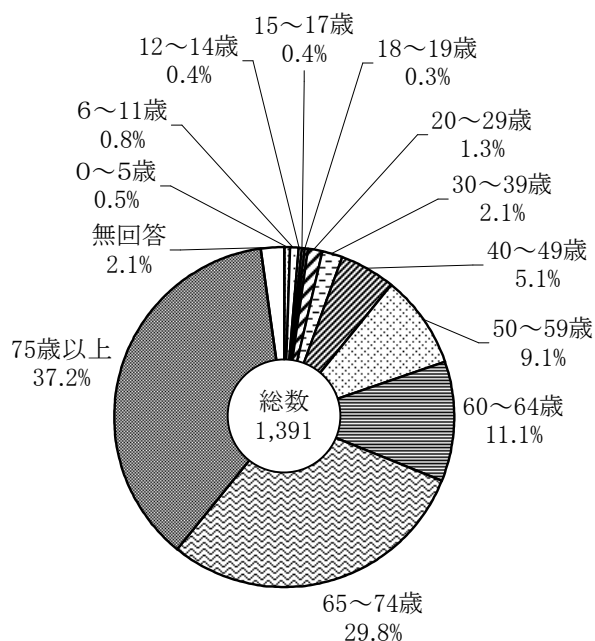
(2) 年齢

問3 あなたは、何歳ですか。平成25年1月1日現在の満年齢でお答えください。

図表 I - 3 年齢

「75歳以上」が37.2%で最も多く、「65～74歳」が29.8%、「60～64歳」が11.1%、「50～59歳」が9.1%、「40～49歳」が5.1%で続きます。

平均年齢は、67.7歳となっています。

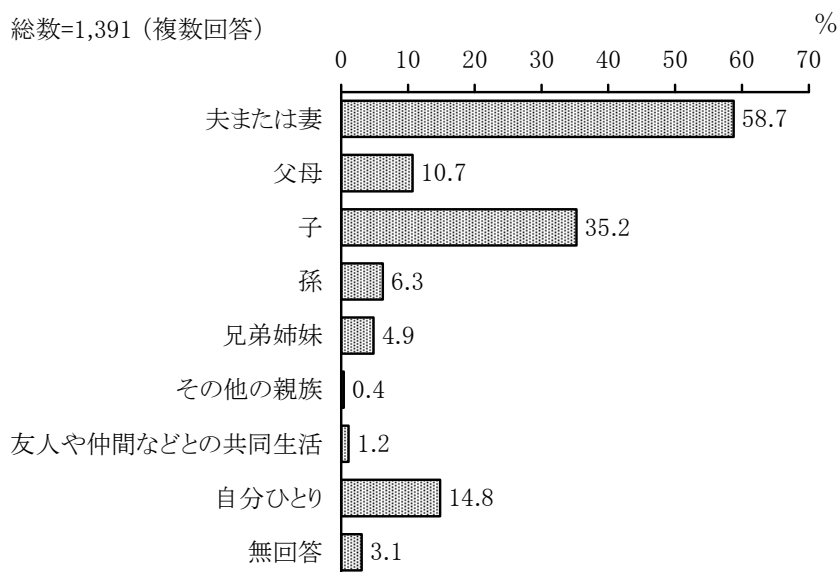


(3) 同居家族

問4 あなたと一緒に暮らしている家族は、どなたですか。(あてはまるものすべてに○)

「夫または妻」が58.7%で最も多く、「子」が35.2%、「父母」が10.7%、「孫」が6.3%で続きます。「自分ひとり」は14.8%となっています。

図表 I - 4 同居家族

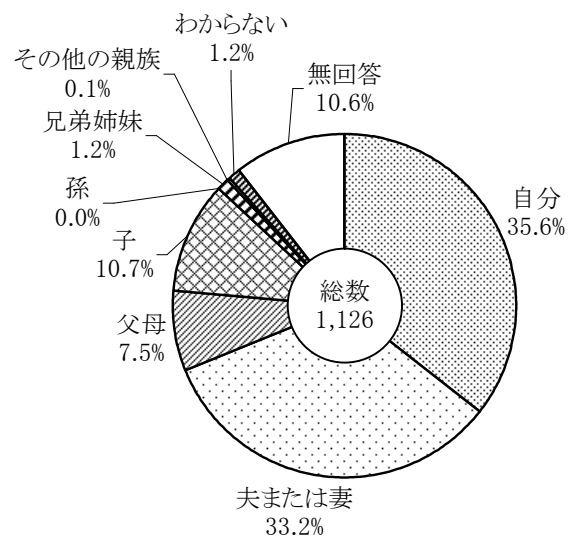


(4) 主に収入を得ている同居家族

問4-1 【家族等と一緒に暮らしている方にうかがいます。】一緒に暮らしている家族の中で、主に生活のための収入を得ている方はどなたですか。(どれか1つに○)

図表 I-5 主に収入を得ている同居家族

「自分」が 35.6%で最も多く、「夫または妻」が 33.2%、「子」が 10.7%、「父母」が 7.5%で続きます。



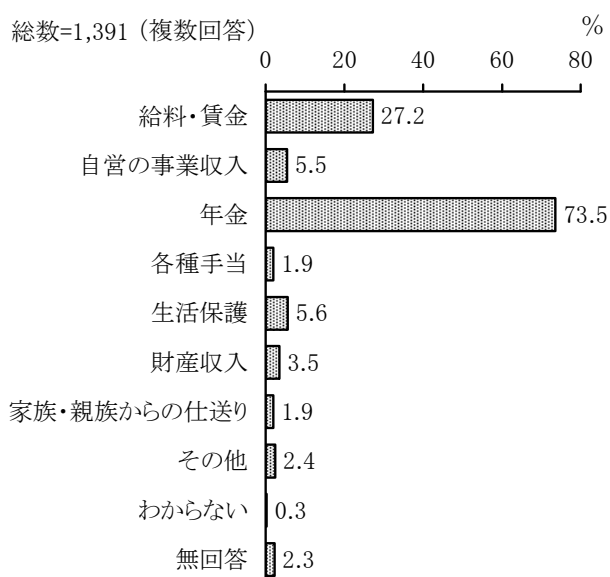
(5) 世帯収入の種類

問5 あなたの世帯収入の種類はどのようなものですか。(あてはまるものすべてに○、最も金額が大きいものには◎)

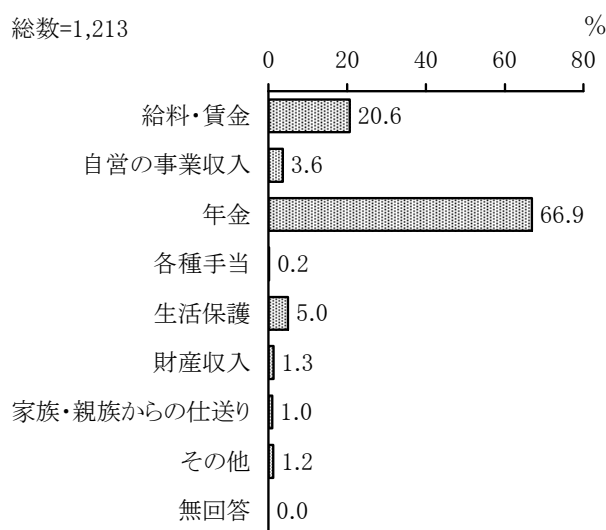
「年金」が73.5%で最も多く、「給料・賃金」が27.2%、「生活保護」が5.6%、「自営の事業収入」が5.5%で続きます。

最も金額が大きい収入について回答があった中では、「年金」が66.9%で最も多く、「給料・賃金」が20.6%、「生活保護」が5.0%、「自営の事業収入」が3.6%で続きます。

図表 I-6 世帯収入の種類



図表 I-7 世帯収入の種類
【最も金額が大きい収入】

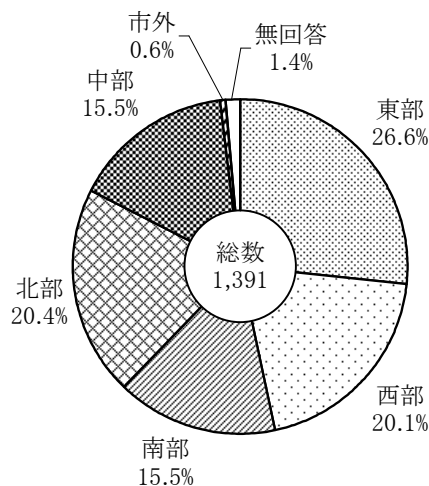


(6) 居住地域

問6 あなたの住んでいる地域はどこですか。(どれか1つに○)

「東部」が26.6%で最も多く、「北部」が20.4%、「西部」が20.1%、「南部」がそれぞれ15.5%で続きます。

図表 I-8 居住地域



2 障害の状況について

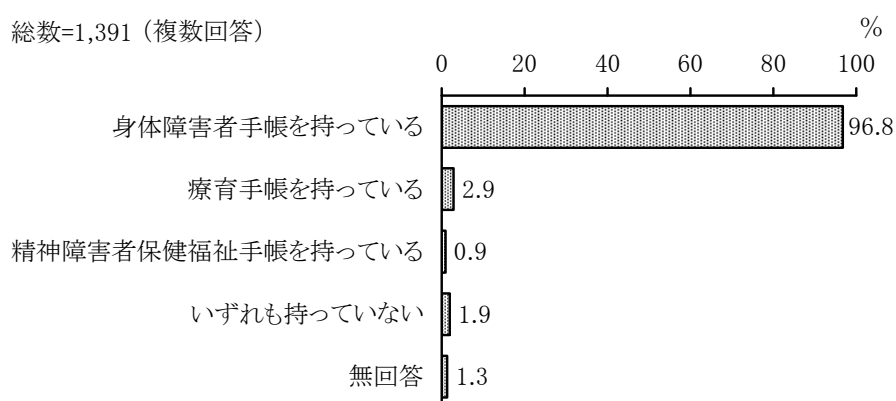
(1) 障害者手帳の所持状況

問7 あなたがお持ちの障害者手帳等の種類と等級についてうかがいます。あてはまる番号と等級（程度）に○をつけて、（ ）内に取得した年齢を記入してください。

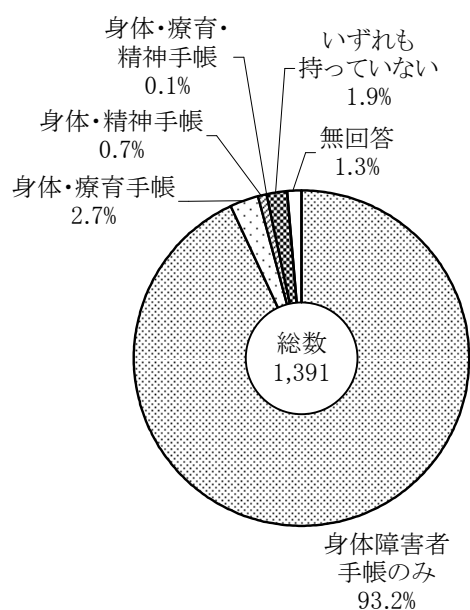
「身体障害者手帳を持っている」が96.8%、「療育手帳を持っている」が2.9%、「精神障害者保健福祉手帳を持っている」が0.9%となっています。

所持している手帳の組み合わせを見ると、「身体障害者手帳のみ」が93.2%、「身体障害者手帳と療育手帳」が2.7%となっています。

図表 I - 9 障害者手帳の有無



図表 I - 10 所持している障害者手帳の組み合わせ

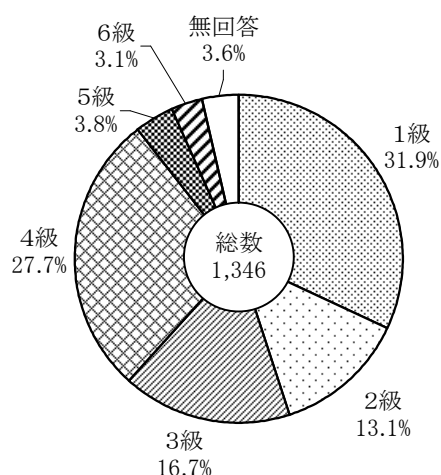


【身体障害者手帳所持者の等級と取得年齢】

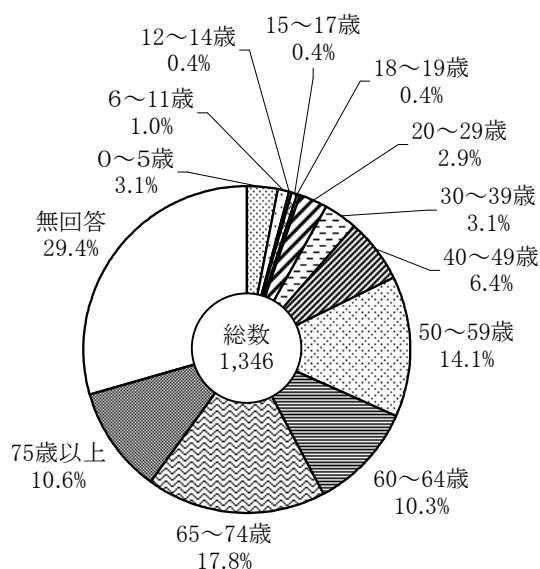
等級は、「1級」が31.9%で最も多く、「4級」が27.7%、「3級」が16.7%、「2級」が13.1%で続きます。

取得年齢は、「65～74歳」が17.8%で最も多く、「50～59歳」が14.1%、「75歳以上」が10.6%、「60～64歳」が10.3%、「40～49歳」が6.4%で続きます。

図表 I - 11 身体障害者手帳の等級



図表 I - 12 身体障害者手帳の取得年齢

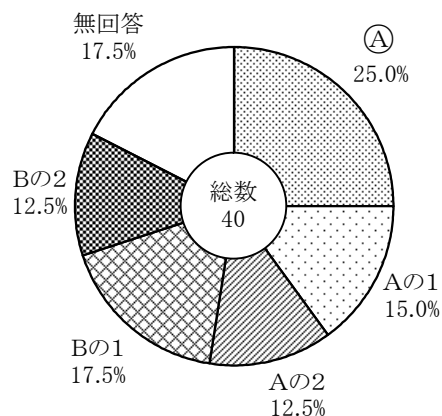


【療育手帳所持者の判定と取得年齢】

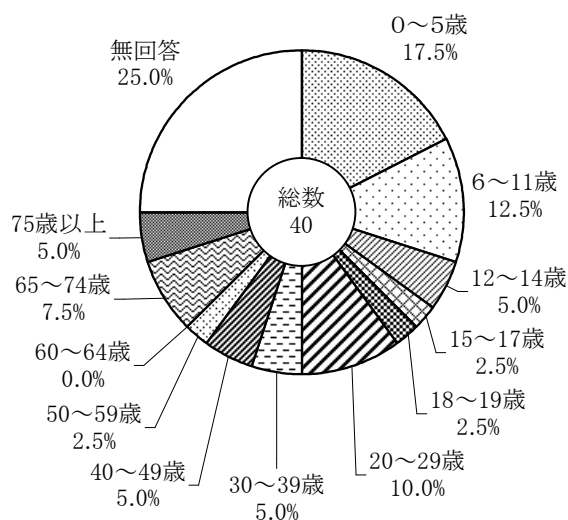
判定は、「㊤」が25.0%で最も多く、「Bの1」が17.5%、「Aの1」が15.0%で続きます。

取得年齢は、「0～5歳」が17.5%で最も多く、「6～11歳」が12.5%、「20～29歳」が10.0%、「65～74歳」が7.5%で続きます。

図表 I - 13 療育手帳の判定



図表 I - 14 療育手帳の取得年齢



【精神障害者保健福祉手帳所持者の等級と取得年齢】

精神障害者保健福祉手帳を所持していると回答したのは12人で、等級は「1級」が1人（8.3%）、「2級」が6人（50.0%）、「3級」が5人（41.7%）となっています。

取得年齢は、「30～39歳」が3人（25.0%）、「50～59歳」「65～74歳」がそれぞれ2人（16.7%）となっています。

図表 I - 15 精神障害者保健福祉手帳の等級

全体	1級	2級	3級	無回答
12 100.0	1 8.3	6 50.0	5 41.7	-

図表 I - 16 精神障害者保健福祉手帳の取得年齢

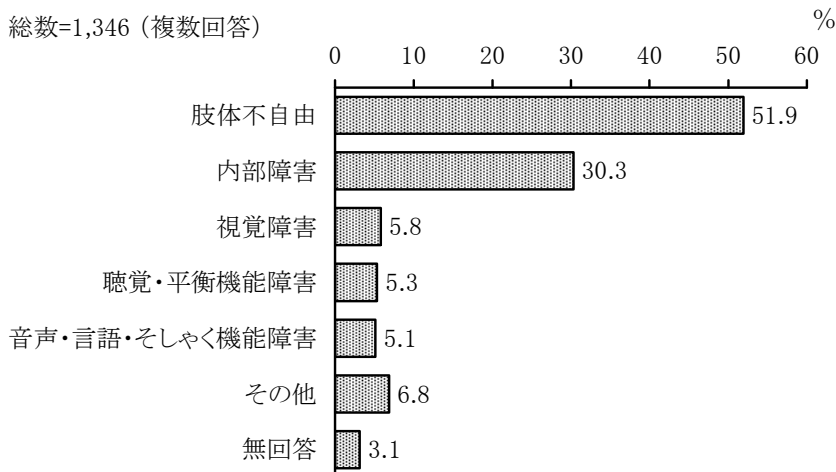
全体	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～74歳	75歳以上	無回答
12 100.0	-	3 25.0	1 8.3	2 16.7	1 8.3	2 16.7	-	3 25.0

（2）障害の種類（部位）

問7-1 【身体障害者手帳をお持ちの方にうかがいます。】障害の種類（部位）は、次のうちのどれですか。（あてはまるものすべてに○）

「肢体不自由」が51.9%で最も多く、「内部障害」が30.3%で続きます。「視覚障害」「聴覚・平衡機能障害」「音声・言語・そしゃく機能障害」はいずれも5%強となっています。

図表 I - 17 障害の種類（部位）

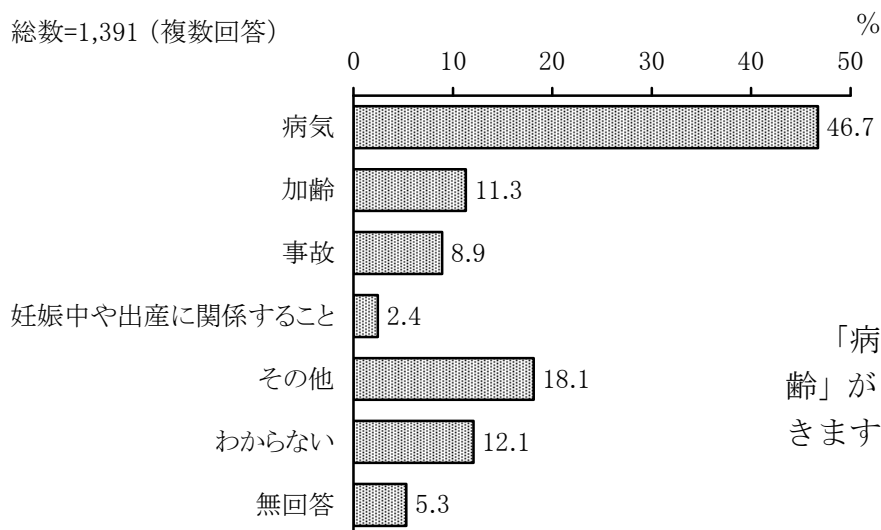


(3) 障害の原因

問8 あなたの障害の原因と考えられることは、次のうちのどれですか。(あてはまるものすべてに○)

図表 I - 18 障害の原因

総数=1,391 (複数回答)



「病気」が 46.7%で最も多く、「加齢」が 11.3%、「事故」が 8.9%で続きます。

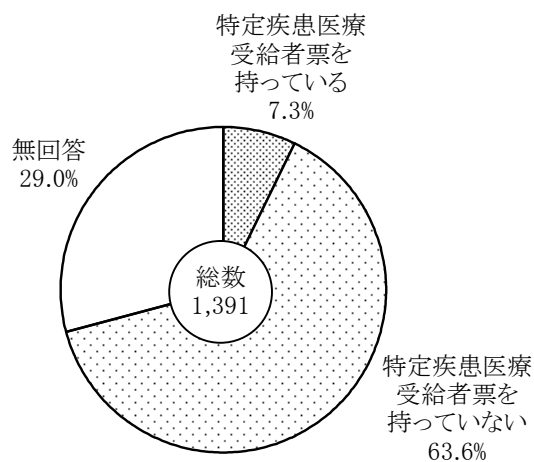
(4) 特定疾患医療受給者票の有無、取得年齢

問9 あなたは、いわゆる難病のための特定疾患医療受給者票をお持ちですか。あてはまる番号1つに○をつけて、() 内に具体的に記入してください。

図表 I - 19 特定疾患医療受給者票の有無

「特定疾患医療受給者票を持っている」が 7.3%、「特定疾患医療受給者票を持っていない」が 63.6%となっています。

疾患名としては、「パーキンソン病関連疾患」「網膜色素変性症」等の回答が多くなっています。



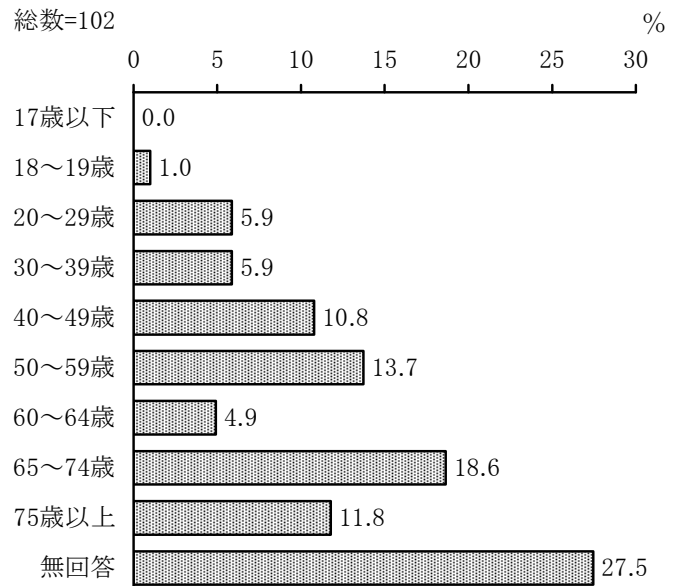
年代別に見ると、「特定疾患医療受給者票を持っている」という回答は、40～49 歳で 21.1%となっており、他の年代に比べて割合が多くなっています。

特定疾患医療受給者票の取得年齢は、「65～74 歳」が 18.6%で最も多く、「50～59 歳」が 13.7%、「75 歳以上」が 11.8%、「40～49 歳」が 10.8%で続きます。

図表 I - 20 特定疾患医療受給者票の有無
【年代別】

	全体	持 つ て い る	持 つ て い な い	無 回 答
全体	1,391	102	885	404
	100.0	7.3	63.6	29.0
18歳未満	28	1	26	1
	100.0	3.6	92.9	3.6
18～29歳	22	1	17	4
	100.0	4.5	77.3	18.2
30～39歳	29	3	20	6
	100.0	10.3	69.0	20.7
40～49歳	71	15	46	10
	100.0	21.1	64.8	14.1
50～59歳	126	11	91	24
	100.0	8.7	72.2	19.0
60～69歳	332	24	228	80
	100.0	7.2	68.7	24.1
70歳以上	754	44	442	268
	100.0	5.8	58.6	35.5
無回答	29	3	15	11
	100.0	10.3	51.7	37.9

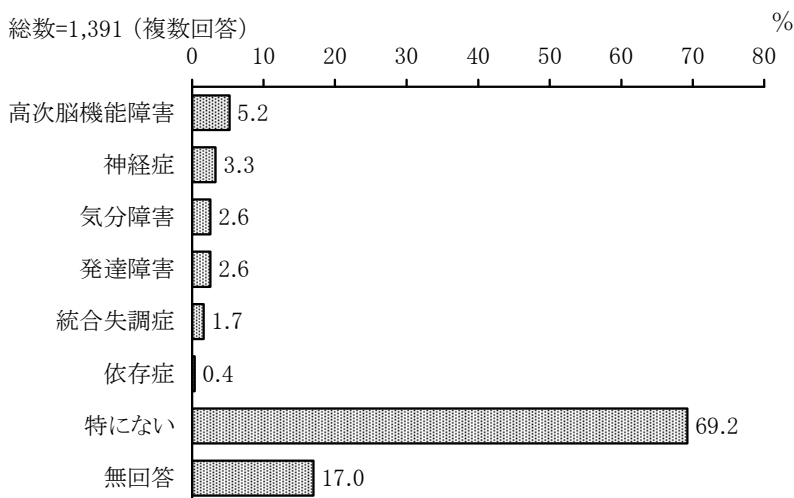
図表 I - 21 特定疾患医療受給者票の取得年齢



(5) 疾患・障害の有無

問 10 あなたには、次の疾患や障害がありますか。(あてはまるものすべてに○)

図表 I - 22 疾患・障害の有無



疾患や障害としては、「高次脳機能障害」が 5.2%、「神経症」が 3.3%、「気分障害」「発達障害」がそれぞれ 2.6%で続きます。

「特にない」は 69.2%となっています。

(6) 介護保険の要介護認定状況

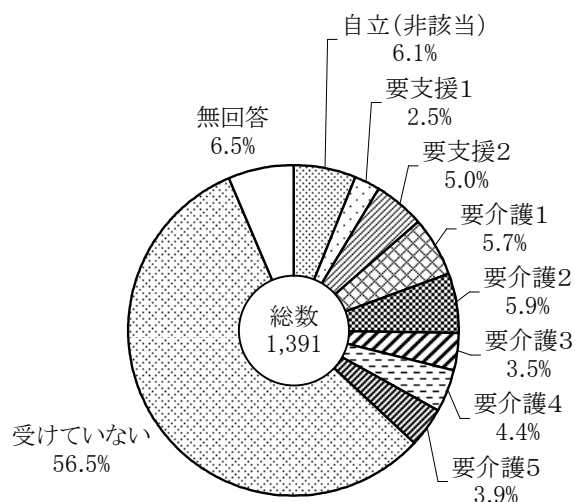
問 11 あなたは、介護保険法に基づく要介護認定を受けていますか。(どれか1つに○)

図表 I-23 介護保険の要介護認定状況

要介護度としては、「自立（非該当）」が 6.1%、「要介護 2」が 5.9%、「要介護 1」が 5.7%で続きます。

「受けていない」は 56.5%となっています。

介護保険の被保険者である 40 歳以上について見ると、65 歳以上（第 1 号被保険者）では「要介護 1」が 7.7%、「要介護 2」が 7.2%となっており、「受けていない」は 48.8%です。



図表 I-24 介護保険の要介護認定状況【介護保険被保険者別】

	全体	(自立 非該当)	要 支 援 1	要 支 援 2	要 介 護 1	要 介 護 2	要 介 護 3	要 介 護 4	要 介 護 5	受 け て い な い	無 回 答
40～64歳	352 100.0	32 9.1	3 0.9	11 3.1	6 1.7	14 4.0	5 1.4	4 1.1	11 3.1	251 71.3	15 4.3
65歳以上	931 100.0	45 4.8	31 3.3	58 6.2	72 7.7	67 7.2	42 4.5	53 5.7	42 4.5	454 48.8	67 7.2

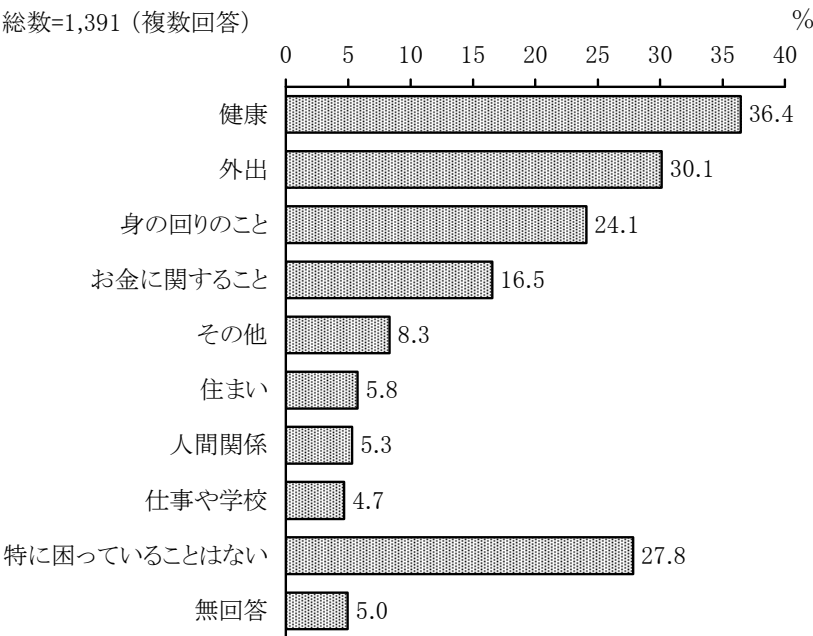
3 日常生活について

(1) 日常生活で困っていること

問 12 あなたが日常生活で困っていることは、どのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

日常生活で困っていることとしては、「健康」が 36.4%で最も多く、「外出」が 30.1%、「身の回りのこと」が 24.1%、「お金に関すること」が 16.5%で続きます。
「特に困っていることはない」は 27.8%となっています。

図表 I - 25 日常生活で困っていること



難病のための特定疾患医療受給者票の所持状況別に見ると、「身の回りのこと」「外出」では特定疾患医療受給者票を持っている回答者の割合が持っていない回答者の割合を 20 ポイント前後上回っているほか、「健康」ではほぼ 15 ポイント上回っています。

図表 I - 26 日常生活で困っていること【受給者票の所持状況別】

	全体	健康	仕事や学校	住まい	身の回りのこと	お金に関すること	人間関係	外出	その他	特に困っている	無回答
全体	1,391 100.0	507 36.4	65 4.7	80 5.8	335 24.1	230 16.5	74 5.3	419 30.1	116 8.3	387 27.8	69 5.0
持っている	102 100.0	53 52.0	9 8.8	11 10.8	44 43.1	22 21.6	8 7.8	49 48.0	10 9.8	22 21.6	1 1.0
持っていない	885 100.0	328 37.1	49 5.5	51 5.8	195 22.0	150 16.9	46 5.2	250 28.2	77 8.7	254 28.7	26 2.9
無回答	404 100.0	126 31.2	7 1.7	18 4.5	96 23.8	58 14.4	20 5.0	120 29.7	29 7.2	111 27.5	42 10.4

障害の種類別に見ると、「外出」という回答は視覚障害者で 56.4%であり、他の障害のある回答者との差が大きくなっています。

図表 I-27 日常生活で困っていること【障害の種類別】

		全体	健康	仕事や学校	住まい	身の回りのこと	お金に関すること	人間関係	外出	その他	特に困っていることはない	無回答
	全体	1,346 100.0	494 36.7	63 4.7	77 5.7	331 24.6	225 16.7	72 5.3	414 30.8	114 8.5	371 27.6	64 4.8
障害の種類別	視覚障害	78 100.0	33 42.3	5 6.4	6 7.7	31 39.7	18 23.1	6 7.7	44 56.4	11 14.1	7 9.0	2 2.6
	聴覚・平衡機能障害	72 100.0	18 25.0	10 13.9	7 9.7	11 15.3	7 9.7	10 13.9	18 25.0	13 18.1	16 22.2	4 5.6
	音声・言語・そしゃく機能障害	69 100.0	27 39.1	3 4.3	4 5.8	23 33.3	14 20.3	5 7.2	27 39.1	8 11.6	10 14.5	3 4.3
	肢体不自由	699 100.0	265 37.9	38 5.4	53 7.6	228 32.6	118 16.9	41 5.9	250 35.8	56 8.0	177 25.3	30 4.3
	内部障害	408 100.0	177 43.4	12 2.9	15 3.7	59 14.5	66 16.2	11 2.7	91 22.3	23 5.6	137 33.6	15 3.7
	その他	92 100.0	29 31.5	2 2.2	7 7.6	23 25.0	14 15.2	3 3.3	26 28.3	11 12.0	26 28.3	6 6.5
	無回答	42 100.0	10 23.8	-	-	12 28.6	8 19.0	4 9.5	12 28.6	1 2.4	9 21.4	9 21.4

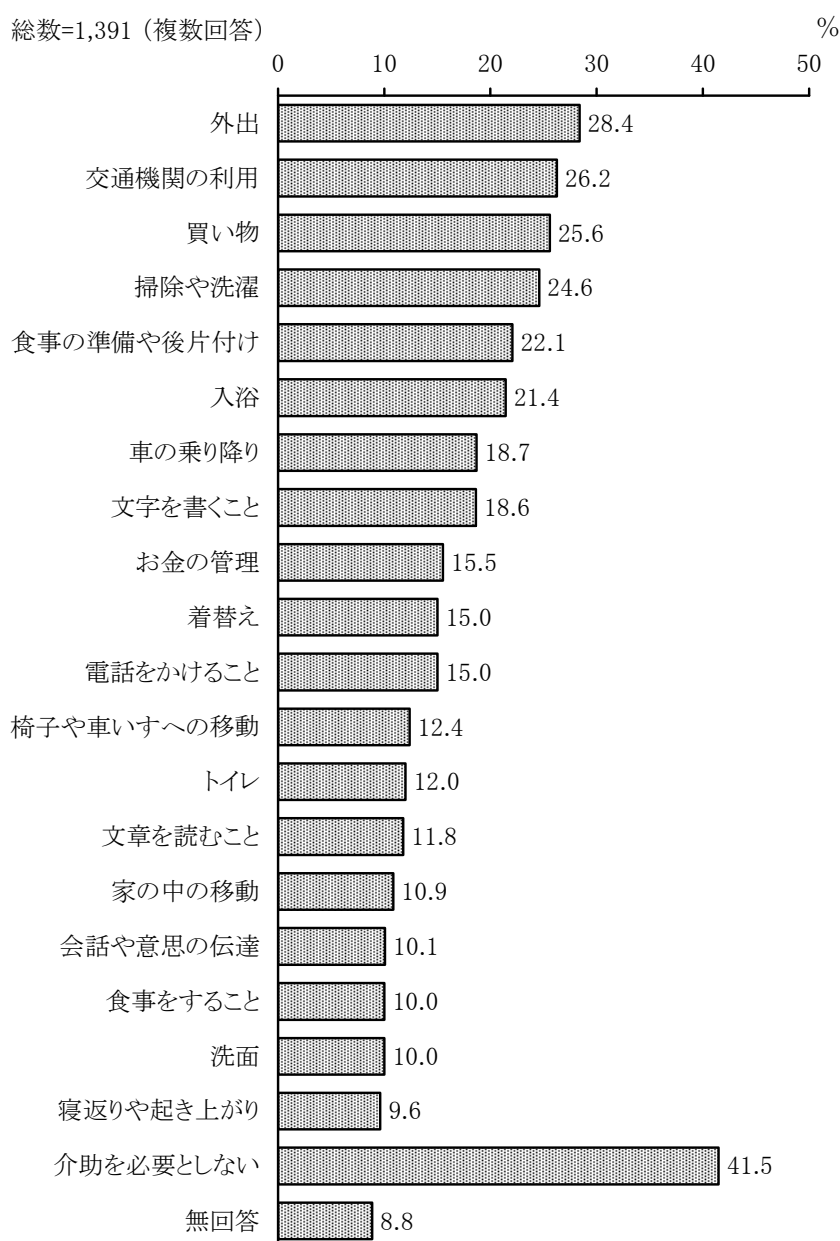
(2) 日常生活で介助が必要な場面

問 13 あなたは、次のような日常生活の場面で、介助を必要とすることがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

介助を必要とする日常生活の場面としては、「外出」が28.4%で最も多く、「交通機関の利用」が26.2%、「買い物」が25.6%、「掃除や洗濯」が24.6%、「食事の準備や後片付け」が22.1%、「入浴」が21.4%で続きます。

「介助を必要としない」は41.5%となっています。

図表 I - 28 日常生活で介助が必要な場面



難病のための特定疾患医療受給者票の所持状況別に見ると、「交通機関の利用」では特定疾患医療受給者票を持っている回答者の割合が持っていない回答者の割合を15ポイント上回っています。

図表 I - 29 日常生活で介助が必要な場面【受給者票の所持状況別】

	全体	食事をする こと	寝返りや起 上がり	椅子や車い すへの移動	洗面	家の中の移 動	着替え	トイレ	入浴	外出	車の乗り降 り
全体	1,391 100.0	139 10.0	134 9.6	172 12.4	139 10.0	151 10.9	209 15.0	167 12.0	298 21.4	395 28.4	260 18.7
持っている	102 100.0	23 22.5	20 19.6	24 23.5	19 18.6	26 25.5	28 27.5	22 21.6	33 32.4	45 44.1	29 28.4
持っていない	885 100.0	83 9.4	76 8.6	101 11.4	82 9.3	84 9.5	127 14.4	99 11.2	176 19.9	246 27.8	165 18.6
無回答	404 100.0	33 8.2	38 9.4	47 11.6	38 9.4	41 10.1	54 13.4	46 11.4	89 22.0	104 25.7	66 16.3

	交通機 関の利 用	食事の準 備や 後片付 け	掃除や洗 濯	お金の管 理	買い物	電話をか けるこ と	文字を書 くこと	文章を読 むこと	会話や意 思の伝 達	介助を必 要とし ない	無回 答
全体	365 26.2	307 22.1	342 24.6	216 15.5	356 25.6	209 15.0	259 18.6	164 11.8	140 10.1	577 41.5	123 8.8
持っている	41 40.2	36 35.3	35 34.3	22 21.6	39 38.2	19 18.6	26 25.5	14 13.7	9 8.8	33 32.4	5 4.9
持っていない	219 24.7	186 21.0	208 23.5	143 16.2	218 24.6	140 15.8	163 18.4	102 11.5	93 10.5	423 47.8	45 5.1
無回答	105 26.0	85 21.0	99 24.5	51 12.6	99 24.5	50 12.4	70 17.3	48 11.9	38 9.4	121 30.0	73 18.1

障害の種類別に見ると、視覚障害者では「外出」「交通機関の利用」「買い物」「文章を読むこと」の割合が5割前後であるほか、「文字を書くこと」が59.0%を占めています。また、音声・言語・そしゃく機能障害者では、全ての項目について2割以上となっています。

図表 I - 30 日常生活で介助が必要な場面【障害の種類別】

		全体	食事をする こと	寝返りや起き 上がり	椅子や車いす への移動	洗面	家の中の移動	着替え	トイレ	入浴	外出	車の乗り降り
全体		1,346 100.0	136 10.1	131 9.7	166 12.3	136 10.1	147 10.9	203 15.1	162 12.0	289 21.5	387 28.8	254 18.9
障害の種類別	視覚障害	78 100.0	16 20.5	6 7.7	8 10.3	6 7.7	9 11.5	14 17.9	8 10.3	20 25.6	41 52.6	24 30.8
	聴覚・平衡機能障害	72 100.0	5 6.9	3 4.2	4 5.6	3 4.2	4 5.6	6 8.3	6 8.3	8 11.1	16 22.2	13 18.1
	音声・言語・そしゃく 機能障害	69 100.0	17 24.6	16 23.2	18 26.1	19 27.5	15 21.7	24 34.8	21 30.4	25 36.2	25 36.2	25 36.2
	肢体不自由	699 100.0	99 14.2	102 14.6	135 19.3	110 15.7	113 16.2	163 23.3	124 17.7	222 31.8	263 37.6	190 27.2
	内部障害	408 100.0	20 4.9	18 4.4	21 5.1	17 4.2	24 5.9	25 6.1	26 6.4	42 10.3	70 17.2	31 7.6
	その他	92 100.0	8 8.7	8 8.7	8 8.7	6 6.5	7 7.6	8 8.7	6 6.5	14 15.2	21 22.8	18 19.6
	無回答	42 100.0	6 14.3	5 11.9	4 9.5	7 16.7	4 9.5	8 19.0	7 16.7	11 26.2	13 31.0	11 26.2
		交通機関の 利用	食事の準備や 後片付け	掃除や洗濯	お金の管理	買い物	電話をかける こと	文字を書くこと	文章を読むこと	会話や意思の 伝達	介助を必要と しない	無回答
全体		352 26.2	297 22.1	333 24.7	209 15.5	347 25.8	205 15.2	254 18.9	160 11.9	139 10.3	558 41.5	115 8.5
障害の種類別	視覚障害	38 48.7	25 32.1	27 34.6	22 28.2	37 47.4	19 24.4	46 59.0	42 53.8	10 12.8	13 16.7	4 5.1
	聴覚・平衡機能障害	18 25.0	12 16.7	9 12.5	12 16.7	11 15.3	28 38.9	9 12.5	9 12.5	23 31.9	18 25.0	8 11.1
	音声・言語・そしゃく 機能障害	30 43.5	25 36.2	22 31.9	24 34.8	24 34.8	31 44.9	29 42.0	25 36.2	39 56.5	11 15.9	3 4.3
	肢体不自由	235 33.6	216 30.9	241 34.5	147 21.0	235 33.6	115 16.5	152 21.7	92 13.2	69 9.9	247 35.3	51 7.3
	内部障害	66 16.2	51 12.5	63 15.4	30 7.4	65 15.9	32 7.8	36 8.8	17 4.2	22 5.4	239 58.6	35 8.6
	その他	21 22.8	15 16.3	20 21.7	11 12.0	20 21.7	11 12.0	17 18.5	12 13.0	10 10.9	35 38.0	10 10.9
	無回答	12 28.6	7 16.7	8 19.0	6 14.3	8 19.0	7 16.7	12 28.6	7 16.7	7 16.7	7 16.7	12 28.6

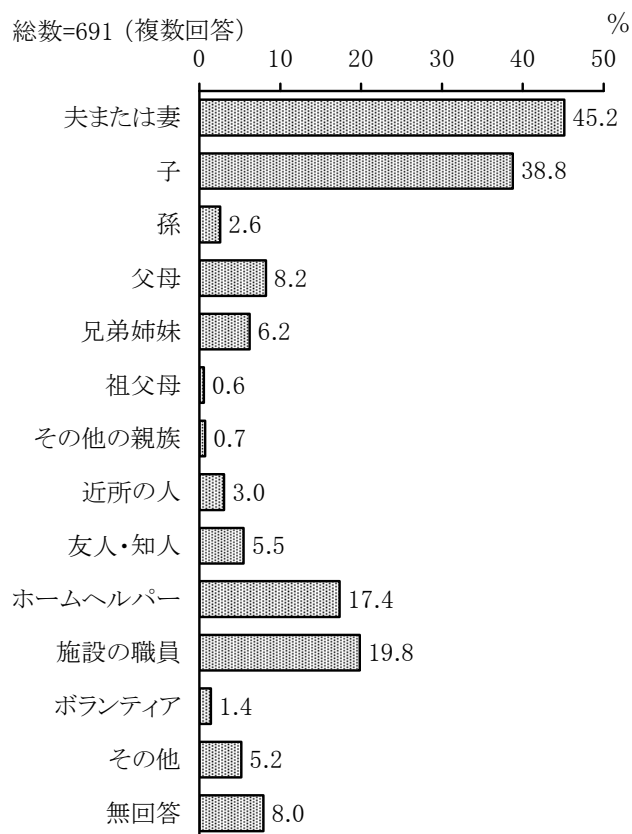
(3) 介助してくれる人（介助者）との関係

問 13-1 【問 13 で 1～19*を選んだ方にうかがいます。】あなたが介助を受けるのは、どなたですか。（あてはまるものすべてに○、最も機会が多い人には◎）

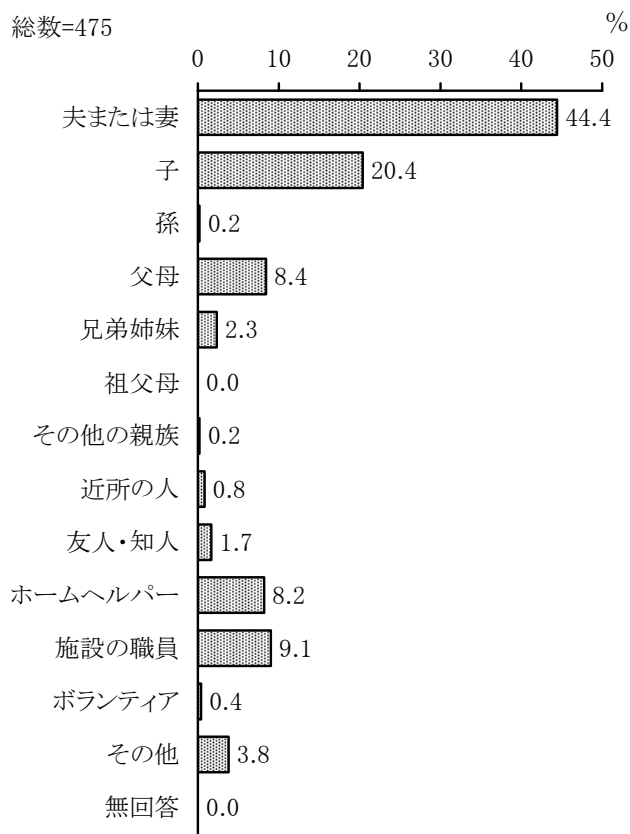
「夫または妻」が45.2%で最も多く、「子」が38.8%、「施設の職員」が19.8%、「ホームヘルパー」が17.4%で続きます。

最も機会が多い介助者について回答があった中では、「夫または妻」が44.4%で最も多く、「子」が20.4%、「施設の職員」が9.1%、「父母」が8.4%、「ホームヘルパー」が8.2%で続きます。

図表 I-31 介助してくれる人（介助者）との関係



図表 I-32 介助してくれる人（介助者）との関係【最も機会が多い介助者】



※1～19：「食事をする事」「寝返りや起き上がり」「椅子や車いすへの移動」「洗面」「家の中の移動」「着替え」「トイレ」「入浴」「外出」「車の乗り降り」「交通機関の利用」「食事の準備や後片付け」「掃除や洗濯」「お金の管理」「買い物」「電話をかけること」「文字を書くこと」「文章を読むこと」「会話や意思の伝達」

(4) 介助してくれる人（主な介助者）の年齢

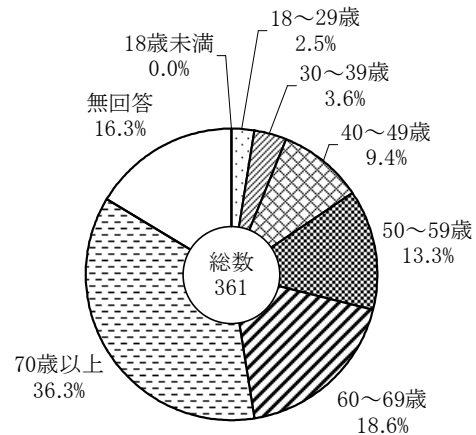
問 13-2 【問 13-1 で 1～7*に◎をつけた方にうかがいます。】主な介助者は何歳くらいの方ですか。（ ）内に数字を記入してください。

図表 I-33 介助してくれる人（主な介助者）の年齢

「70歳以上」が36.3%で最も多く、「60～69歳」が18.6%、「50～59歳」が13.3%、「40～49歳」が9.4%で続きます。

主な介助者の平均年齢は、63.2歳となっています。

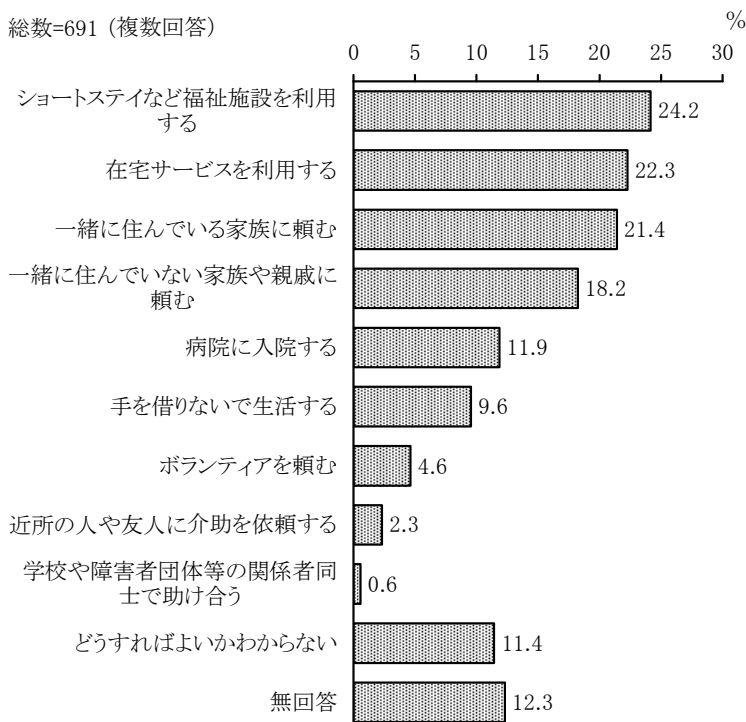
※1～7：「夫または妻」「子」「孫」「父母（夫または妻の父母を含む）」「兄弟姉妹」「祖父母」「その他の親族（おじ、おば、いとこなど）」



(5) 介助者が介助できなくなった場合の対応

問 13-3 【問 13 で 1～19*を選んだ方にうかがいます。】もし、いつも介助してくれる方が病気などで介助できなくなった場合、あなたはどうしますか。（あてはまるものすべてに○）

図表 I-34 介助者が介助できなくなった場合の対応



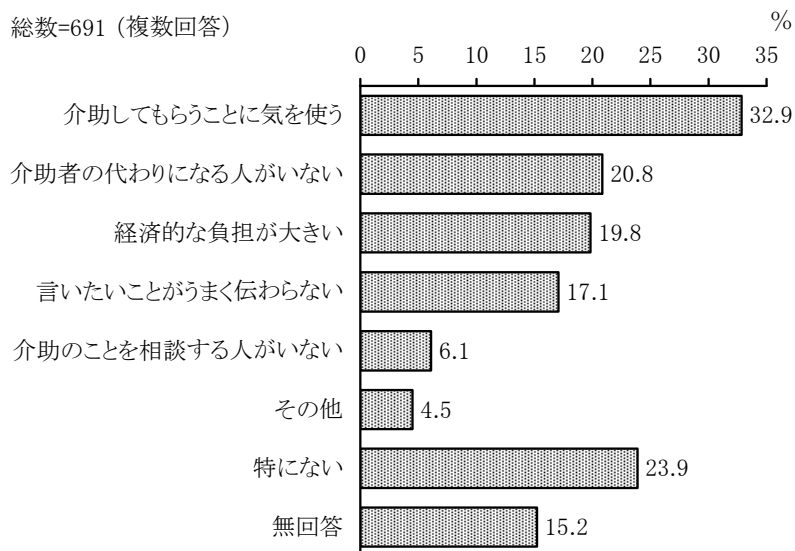
「ショートステイなど福祉施設を利用する」が24.2%で最も多く、「在宅サービスを利用する」が22.3%、「一緒に住んでいる家族に頼む」が21.4%、「一緒に住んでいない家族や親戚に頼む」が18.2%で続きます。

※1～19：「食事をする」「寝返りや起き上がり」「椅子や車いすへの移動」「洗面」「家の中の移動」「着替え」「トイレ」「入浴」「外出」「車の乗り降り」「交通機関の利用」「食事の準備や後片付け」「掃除や洗濯」「お金の管理」「買い物」「電話をかけること」「文字を書くこと」「文章を読むこと」「会話や意思の伝達」

(6) 介助を受ける上で困っていること

問 13-4 【問 13 で 1～19*を選んだ方にうかがいます。】あなたが介助を受ける上で困っていることは、どのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

図表 I-35 介助を受ける上で困っていること



介助を受ける上で困っていることとしては、「介助してもらうことに気を使う」が32.9%で最も多く、「介助者の代わりになる人がいない」が20.8%、「経済的な負担が大きい」が19.8%、「言いたいことがうまく伝わらない」が17.1%で続きます。

「特にない」は23.9%となっています。

難病のための特定疾患医療受給者票の所持状況別に見ると、「介助してもらうことに気を使う」では、特定疾患医療受給者票を持っている回答者の割合が持っていない回答者の割合を13ポイント上回っており、これ以外の項目に比べて差が大きくなっています。

図表 I-36 介助を受ける上で困っていること【受給者票の所持状況別】

	全体	介助してもらうことに気を使う	経済的な負担が大きい	言いたいことがうまく伝わらない	介助者の代わりになる人がいない	介助のことを相談する人がいない	その他	特にない	無回答
全体	691 100.0	227 32.9	137 19.8	118 17.1	144 20.8	42 6.1	31 4.5	165 23.9	105 15.2
持っている	64 100.0	30 46.9	14 21.9	9 14.1	13 20.3	7 10.9	1 1.6	13 20.3	8 12.5
持っていない	417 100.0	141 33.8	80 19.2	74 17.7	92 22.1	24 5.8	20 4.8	111 26.6	45 10.8
無回答	210 100.0	56 26.7	43 20.5	35 16.7	39 18.6	11 5.2	10 4.8	41 19.5	52 24.8

※1～19：「食事をする」「寝返りや起き上がり」「椅子や車いすへの移動」「洗面」「家の中の移動」「着替え」「トイレ」「入浴」「外出」「車の乗り降り」「交通機関の利用」「食事の準備や後片付け」「掃除や洗濯」「お金の管理」「買い物」「電話をかけること」「文字を書くこと」「文章を読むこと」「会話や意思の伝達」

障害の種類別に見ると、音声・言語・そしゃく機能障害者では「言いたいことがうまく伝わらない」の割合が52.7%であり、他の障害のある回答者との差が大きくなっています。

図表 I - 37 介助を受ける上で困っていること【障害の種類別】

		全体	介助に 気に使 う	経済 的負担 が 大きい	言 い たい こと が う ま く 伝 わ ら な い	介 助 者 の 代 わ り に な る 人 が い な い	介 助 の こ と を 相 談 す る 人 が い な い	そ 他	特 に な い	無 回 答
全体		673 100.0	224 33.3	137 20.4	116 17.2	141 21.0	42 6.2	30 4.5	159 23.6	100 14.9
障害 の 種 類 別	視覚障害	61 100.0	26 42.6	9 14.8	8 13.1	16 26.2	6 9.8	5 8.2	14 23.0	6 9.8
	聴覚・平衡機能障害	46 100.0	12 26.1	6 13.0	8 17.4	9 19.6	3 6.5	1 2.2	13 28.3	11 23.9
	音声・言語・そしゃく 機能障害	55 100.0	11 20.0	11 20.0	29 52.7	9 16.4	2 3.6	2 3.6	13 23.6	7 12.7
	肢体不自由	401 100.0	151 37.7	89 22.2	79 19.7	97 24.2	27 6.7	17 4.2	80 20.0	53 13.2
	内部障害	134 100.0	38 28.4	32 23.9	15 11.2	26 19.4	11 8.2	5 3.7	40 29.9	16 11.9
	その他	47 100.0	12 25.5	10 21.3	9 19.1	6 12.8	2 4.3	2 4.3	8 17.0	13 27.7
	無回答	23 100.0	6 26.1	6 26.1	7 30.4	2 8.7	1 4.3	2 8.7	3 13.0	5 21.7

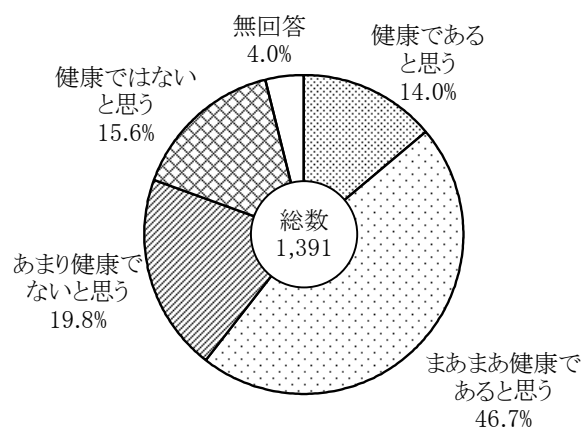
4 保健・医療について

(1) 最近の健康状態

問 14 あなたの最近(ここ3か月以内)の健康状態はいかがですか。(どれか1つに○)

図表 I - 38 最近の健康状態

「健康であると思う」が14.0%、「まあまあ健康であると思う」が46.7%であり、全体の60.7%が健康だと感じています。一方、「あまり健康でないと思う」は19.8%、「健康ではないと思う」は15.6%であり、全体の35.4%が健康ではないと感じていることがわかります。



難病のための特定疾患医療受給者票の所持状況別に見ると、特定疾患医療受給者票を持っている回答者では、「あまり健康でないと思う」「健康ではないと思う」の合計が5割弱（47.0%）であり、特定疾患医療受給者票を持っていない回答者を12ポイント上回っています。

図表 I - 39 最近の健康状態【受給者票の所持状況別】

	全体	健康 と思う である	まあまあ 健康 である と思う	あまり健康 でない と思う	健康で はない と思う	無 回 答
全体	1,391 100.0	195 14.0	649 46.7	275 19.8	217 15.6	55 4.0
持っている	102 100.0	10 9.8	38 37.3	24 23.5	24 23.5	6 5.9
持っていない	885 100.0	131 14.8	424 47.9	180 20.3	123 13.9	27 3.1
無回答	404 100.0	54 13.4	187 46.3	71 17.6	70 17.3	22 5.4

また、障害の種類別に見ると、音声・言語・そしゃく機能障害者、内部障害者では「あまり健康でないと思う」「健康ではないと思う」の合計が4割前後となっています。

図表 I - 40 最近の健康状態【障害の種類別】

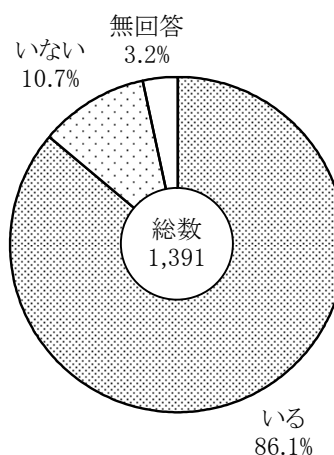
	全体	健康 と思う である	まあまあ 健康 である と思う	あまり健康 でない と思う	健康で はない と思う	無 回 答
全体	1,346 100.0	189 14.0	625 46.4	268 19.9	209 15.5	55 4.1
障害 の 種 類 別	視覚障害	78 100.0	10 12.8	40 51.3	12 15.4	15 19.2
	聴覚・平衡機能障害	72 100.0	17 23.6	31 43.1	12 16.7	7 9.7
	音声・言語・そしゃく 機能障害	69 100.0	4 5.8	31 44.9	14 20.3	13 18.8
	肢体不自由	699 100.0	104 14.9	323 46.2	130 18.6	109 15.6
	内部障害	408 100.0	40 9.8	182 44.6	94 23.0	82 20.1
	その他	92 100.0	10 10.9	46 50.0	18 19.6	15 16.3
	無回答	42 100.0	7 16.7	14 33.3	10 23.8	6 14.3

(2) かかりつけ医の有無

問 15 あなたには、よく診察してもらう「かかりつけ医」がいますか。(どれか1つに○)

図表 I - 41 かかりつけ医の有無

「いる」が86.1%、「いない」が10.7%となっています。



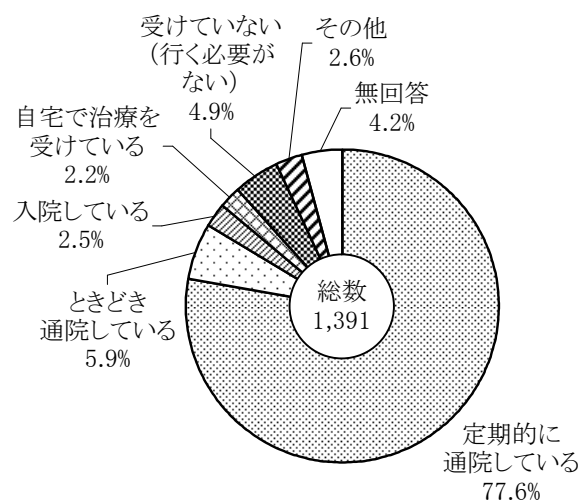
(3) 医療を受けているか

問 16 あなたは、現在、医療を受けていますか。(どれか1つに○)

図表 I - 42 医療を受けているか

「定期的に通院している」が77.6%で最も多く、「ときどき通院している」が5.9%で続きます。

医療を「受けていない（行く必要がない）」人は4.9%にとどまっています。



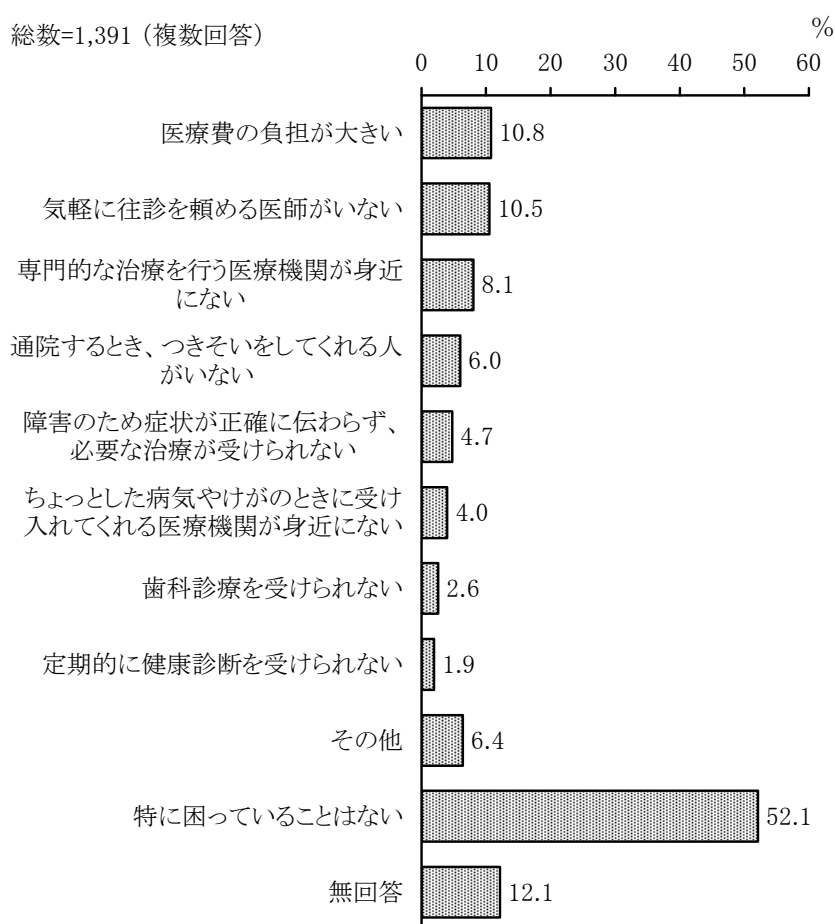
(4) 通院時や健康管理で困ること

問 17 あなたが医療を受けるときや、健康管理で困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「医療費の負担が大きい」が 10.8%で最も多く、「気軽に往診を頼める医師がいない」が 10.5%、「専門的な治療を行う医療機関が身近にない」が 8.1%、「通院するとき、つきそいをしてくれる人がいない」が 6.0%で続きます。

「特に困っていることはない」は 52.1%となっています。

図表 I - 43 通院時や健康管理で困ること



障害の種類別に見ると、「気軽に往診を頼める医師がいない」という回答は視覚障害者で 17.9%、「障害のために症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない」という回答は音声・言語・そしゃく機能障害者で 20.3%であり、他の障害のある回答者との差が大きくなっています。

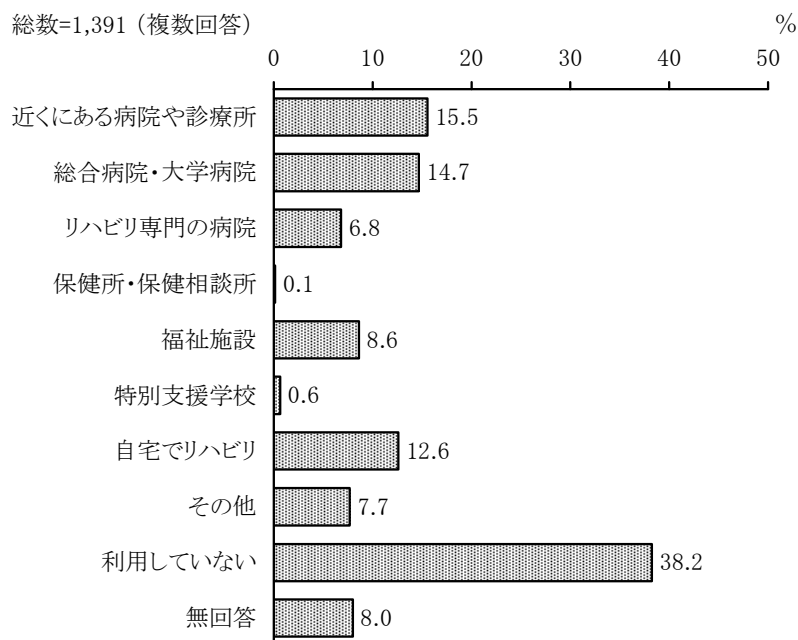
図表 I - 44 通院時や健康管理で困ること【障害の種類別】

		全体	通院するとき、つきそいをしてくれる人がいない	専門的な治療を行う医療機関が身近にない	ちょっとした病気やけがのときに受け入れてくれる医療機関が身近にない	気軽に往診を頼める医師がいない	歯科診療を受けられない	医療費の負担が大きい	定期的に健康診断を受けられない	障害のため症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない	その他	特に困っていることはない	無回答
	全体	1,346 100.0	81 6.0	110 8.2	55 4.1	139 10.3	36 2.7	149 11.1	27 2.0	65 4.8	88 6.5	697 51.8	163 12.1
障害の種類別	視覚障害	78 100.0	7 9.0	7 9.0	5 6.4	14 17.9	3 3.8	7 9.0	1 1.3	6 7.7	7 9.0	36 46.2	6 7.7
	聴覚・平衡機能障害	72 100.0	4 5.6	9 12.5	3 4.2	7 9.7	-	5 6.9	1 1.4	8 11.1	9 12.5	34 47.2	11 15.3
	音声・言語・そしゃく機能障害	69 100.0	3 4.3	7 10.1	1 1.4	6 8.7	-	8 11.6	1 1.4	14 20.3	6 8.7	20 29.0	14 20.3
	肢体不自由	699 100.0	42 6.0	69 9.9	30 4.3	77 11.0	24 3.4	89 12.7	21 3.0	38 5.4	51 7.3	325 46.5	97 13.9
	内部障害	408 100.0	22 5.4	28 6.9	16 3.9	42 10.3	12 2.9	42 10.3	3 0.7	13 3.2	27 6.6	235 57.6	36 8.8
	その他	92 100.0	6 6.5	4 4.3	2 2.2	6 6.5	1 1.1	8 8.7	3 3.3	5 5.4	4 4.3	54 58.7	13 14.1
	無回答	42 100.0	6 14.3	2 4.8	3 7.1	4 9.5	-	4 9.5	-	1 2.4	2 4.8	18 42.9	11 26.2

(5) 機能回復等での病院・訓練施設の利用状況

問 18 あなたは、障害の機能回復や悪化を防ぐために、病院や訓練施設を利用していますか。(あてはまるものすべてに○)

図表 I - 45 機能回復等での病院・訓練施設の利用状況



利用している病院や訓練施設としては、「近くにある病院や診療所」が 15.5%で最も多く、「総合病院・大学病院」が 14.7%、「自宅でリハビリ」が 12.6%、「福祉施設」が 8.6%で続きます。

「利用していない」は 38.2%となっています。

年代別に見ると、40～49 歳では「近くにある病院や診療所」という回答が 25.4%、「総合病院・大学病院」という回答が 26.8%となっており、他の年代に比べて割合が多くなっています。

図表 I - 46 機能回復等での病院・訓練施設の利用状況【年代別】

	全体	近くにある病院や診療所	総合病院・大学病院	リハビリ専門の病院	保健所・保健相談所	福祉施設	特別支援学校	自宅でリハビリ	その他	利用していない	無回答
全体	1,391 100.0	216 15.5	204 14.7	95 6.8	2 0.1	120 8.6	9 0.6	175 12.6	107 7.7	532 38.2	111 8.0
年代別	18歳未満	28 100.0	2 7.1	12 42.9	7 25.0	4 14.3	7 25.0	5 17.9	3 10.7	5 17.9	1 3.6
	18～29歳	22 100.0	3 13.6	5 22.7	-	2 9.1	-	1 4.5	-	11 50.0	2 9.1
	30～39歳	29 100.0	4 13.8	4 13.8	4 13.8	1 3.4	-	1 3.4	-	18 62.1	-
	40～49歳	71 100.0	18 25.4	19 26.8	7 9.9	4 5.6	-	8 11.3	1 1.4	24 33.8	2 2.8
	50～59歳	126 100.0	21 16.7	16 12.7	9 7.1	7 5.6	-	11 8.7	11 8.7	58 46.0	6 4.8
	60～69歳	332 100.0	45 13.6	47 14.2	20 6.0	17 5.1	-	45 13.6	27 8.1	146 44.0	17 5.1
	70歳以上	754 100.0	123 16.3	98 13.0	47 6.2	81 10.7	1 0.1	103 13.7	61 8.1	257 34.1	79 10.5
	無回答	29 100.0	-	3 10.3	1 3.4	4 13.8	1 3.4	1 3.4	4 13.8	13 44.8	4 13.8

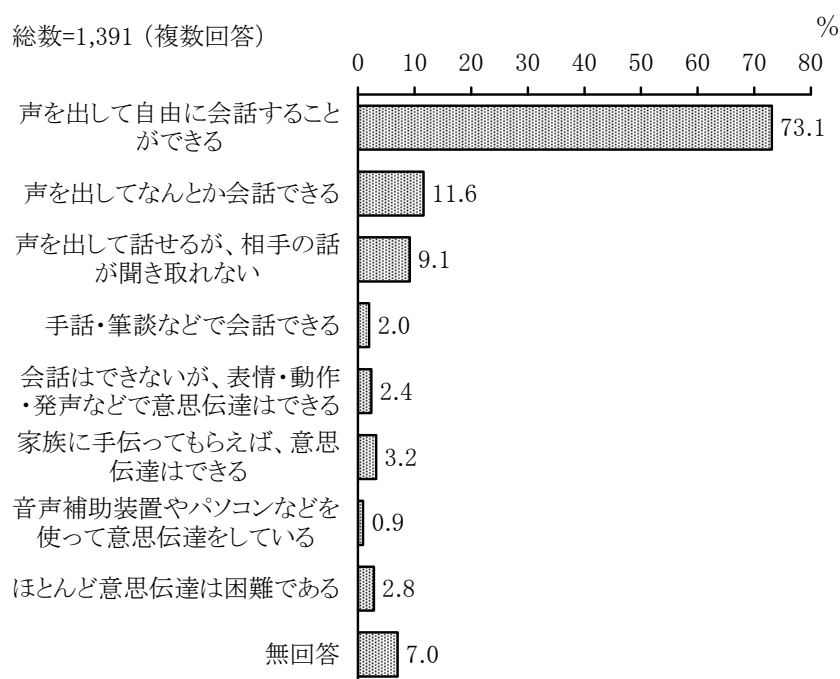
5 情報・コミュニケーションについて

(1) 会話や意思の伝達ができる程度

問 19 あなたは、日頃どのようにコミュニケーション（会話や意思の伝達）をとることができますか。（あてはまるものすべてに○）

「声を出して自由に会話することができる」が 73.1%で最も多く、「声を出してなんとか会話できる」が 11.6%、「声を出して話せるが、相手の話が聞き取れない」が 9.1%で続きます。

図表 I-47 会話や意思の伝達ができる程度



障害の種類別に見ると、聴覚・平衡機能障害者では「声を出して話せるが、相手の話が聞き取れない」という回答が 47.2%、「手話・筆談などで会話できる」という回答が 20.8%となっています。また、音声・言語・そしゃく機能障害者では「声を出してなんとか会話できる」という回答が 26.1%、「家族に手伝ってもらえば、意思伝達はある」という回答が 21.7%であるほか、「ほとんど意思伝達は困難である」が 17.4%であり、他の障害のある回答者との差が大きくなっています。

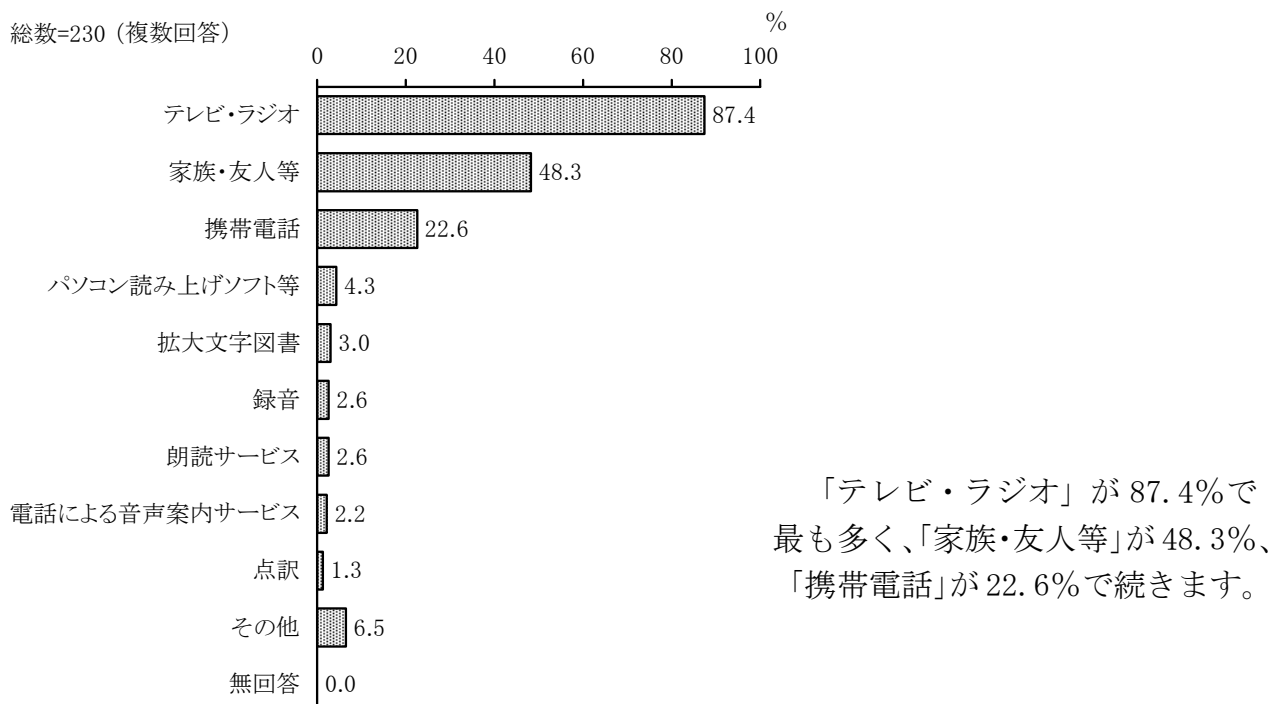
図表 I - 48 会話や意思の伝達ができる程度【障害の種類別】

		全体	声を出して自由に会話 することができる	声を出してなんとか会話 できる	声を出して話せるが、 相手の話が聞き取れない	手話・筆談などで会話 できる	・ 会話ができないが、表情 ・ 動作・発声などで意思 伝達ができる	家族に手伝ってもらえば、 意思伝達ができる	音声補助装置やパソコン などを使って意思伝達を している	ほとんど意思伝達は困難 である	無回答
	全体	1,346 100.0	979 72.7	155 11.5	126 9.4	28 2.1	32 2.4	45 3.3	13 1.0	39 2.9	94 7.0
障害 の 種 類 別	視覚障害	78 100.0	62 79.5	7 9.0	7 9.0	— —	1 1.3	4 5.1	— —	4 5.1	3 3.8
	聴覚・平衡機能障害	72 100.0	31 43.1	11 15.3	34 47.2	15 20.8	4 5.6	10 13.9	6 8.3	2 2.8	1 1.4
	音声・言語・そしゃく 機能障害	69 100.0	13 18.8	18 26.1	8 11.6	9 13.0	10 14.5	15 21.7	2 2.9	12 17.4	2 2.9
	肢体不自由	699 100.0	491 70.2	98 14.0	51 7.3	3 0.4	20 2.9	17 2.4	2 0.3	30 4.3	51 7.3
	内部障害	408 100.0	341 83.6	31 7.6	31 7.6	1 0.2	1 0.2	9 2.2	3 0.7	4 1.0	23 5.6
	その他	92 100.0	66 71.7	7 7.6	14 15.2	1 1.1	3 3.3	6 6.5	2 2.2	3 3.3	7 7.6
	無回答	42 100.0	20 47.6	7 16.7	7 16.7	1 2.4	2 4.8	1 2.4	— —	3 7.1	10 23.8

(2) コミュニケーション方法

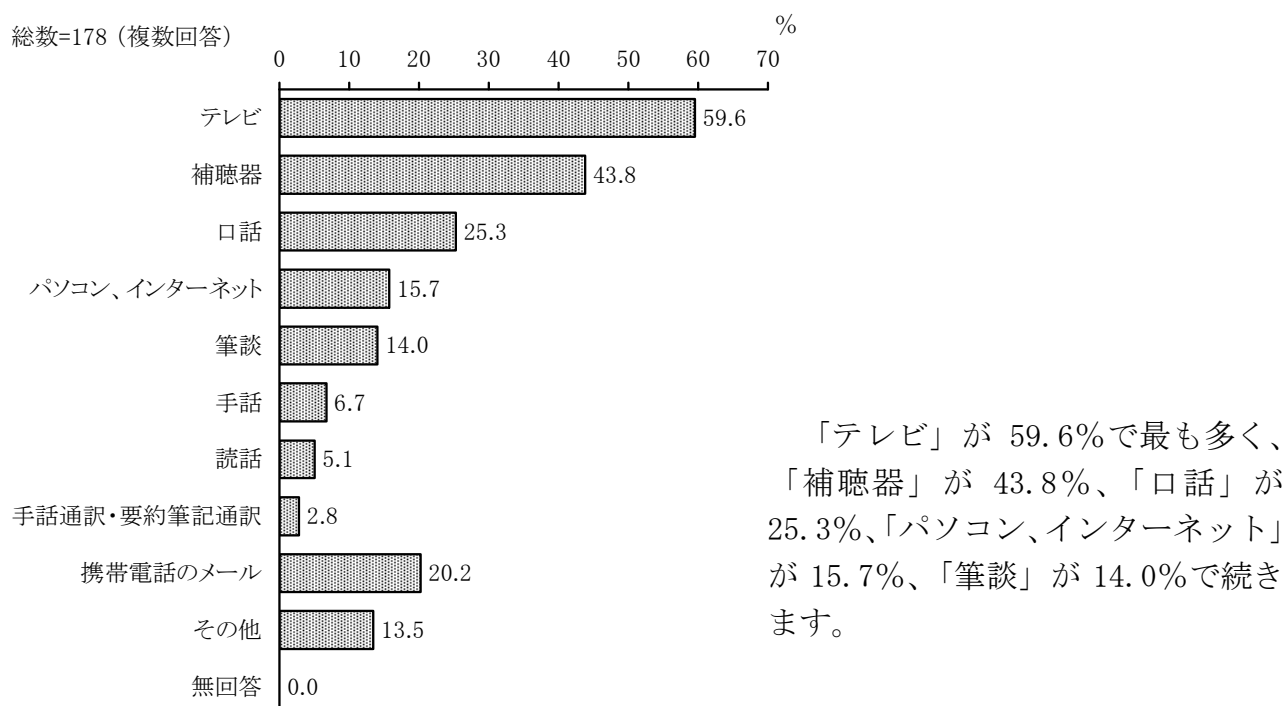
問 20 【視覚障害の方】にうかがいます。】あなたは、日頃どのようにして情報を得たり、コミュニケーションをとったりしていますか。(あてはまるものすべてに○)

図表 I - 49 コミュニケーション方法（視覚障害者）



問21 【聴覚障害の方】にうかがいます。】あなたは、日頃どのようにして情報を得たり、コミュニケーションをとったりしていますか。（あてはまるものすべてに○）

図表 I-50 コミュニケーション方法（聴覚障害者）



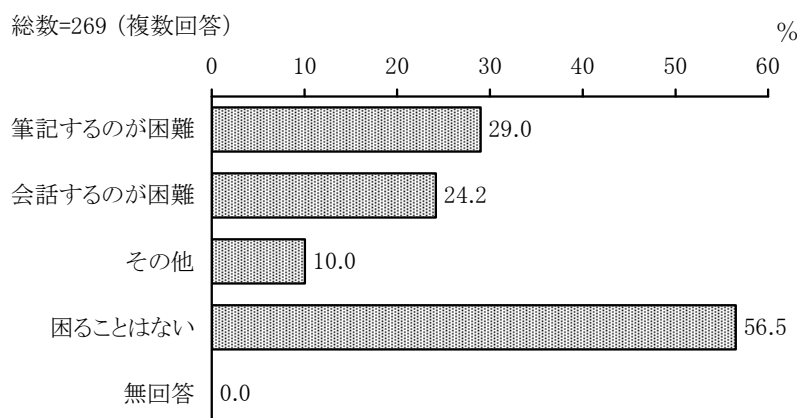
（3）意思を伝える場合に困ること

問22 【脳性まひや肢体不自由の方】にうかがいます。】あなたが意思を伝える場合に困ることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

意思を伝える場合に困ることとしては、「筆記するのが困難」が 29.0%、「会話するのが困難」が 24.2%となっています。

「困ることはない」は 56.5%です。

図表 I-51 意思を伝える場合に困ること

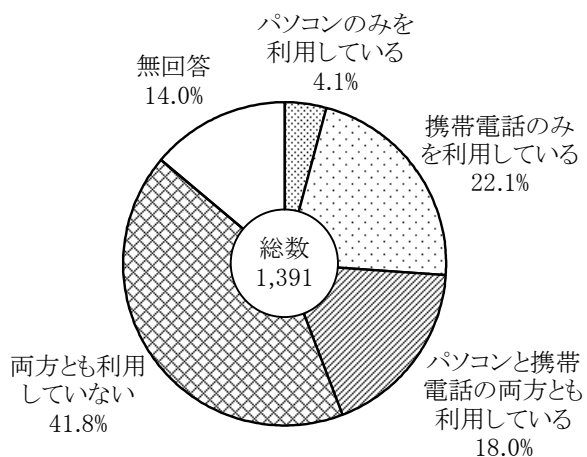


（４）電子メール・インターネットの利用状況

問 23 あなたは、パソコンや携帯電話のメール機能などインターネットを利用していますか。（どれか1つに○）

「携帯電話のみを利用している」が22.1%、「パソコンのみを使用している」が4.1%、「パソコンと携帯電話の両方とも利用している」が18.0%となっています。
「両方とも利用していない」は41.8%です。

図表 I - 52 電子メール・インターネットの利用状況

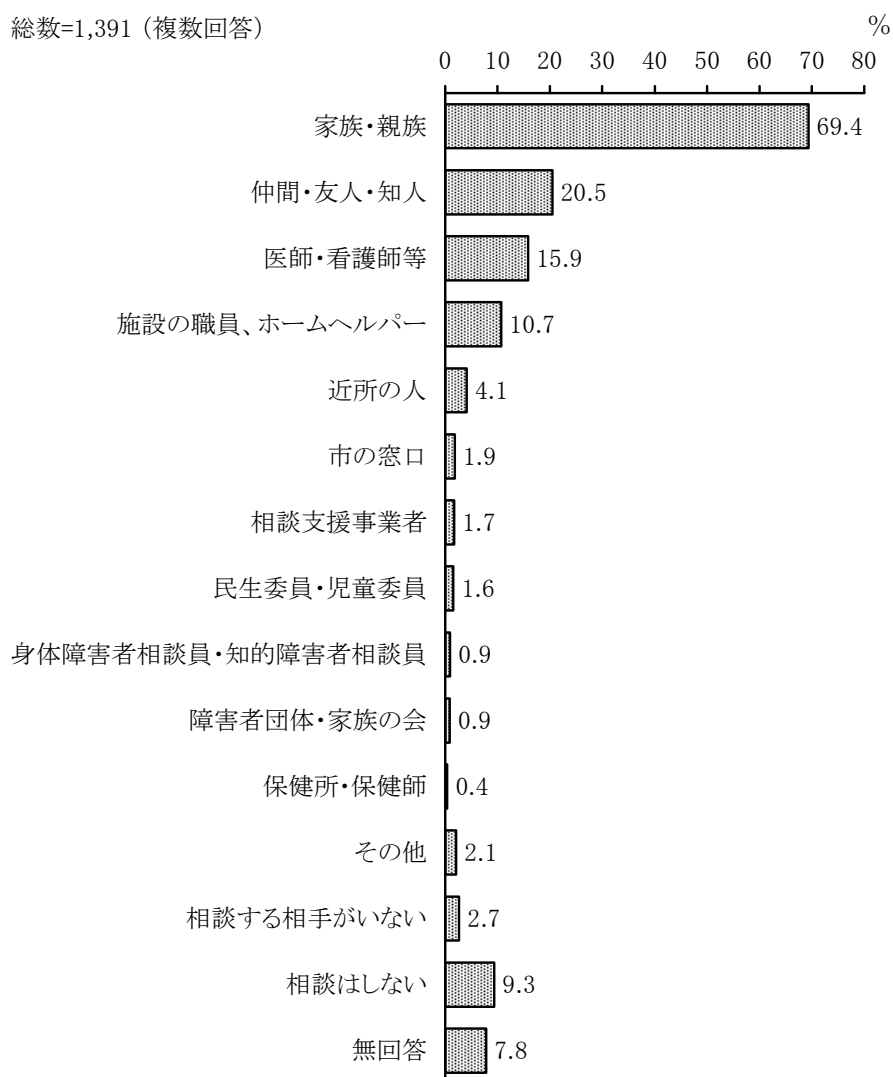


(5) 困りごとや悩みの相談先

問 24 あなたは、日常生活で困ったことや悩みごとについて、どなたに相談していますか。(あてはまるものすべてに○)

「家族・親族」が69.4%で最も多く、「仲間・友人・知人」が20.5%、「医師・看護師等」が15.9%、「施設の職員、ホームヘルパー」が10.7%で続きます。

図表 I-53 困りごとや悩みの相談先



男女別に見ると、「仲間・友人・知人」という回答は、女性が男性を16ポイント上回っているほか、「家族・親族」という回答は、女性が男性を10ポイント上回っています。

図表 I - 54 困りごとや悩みの相談先【男女別】

		全体	家族・親族	仲間・友人・知人	近所の人	施設の職員、ヘルパー	相談支援事業者	医師・看護師等	障害者団体の会・家族
全体		1,391 100.0	965 69.4	285 20.5	57 4.1	149 10.7	24 1.7	221 15.9	12 0.9
男女別	男性	687 100.0	443 64.5	84 12.2	16 2.3	71 10.3	12 1.7	124 18.0	5 0.7
	女性	685 100.0	512 74.7	197 28.8	40 5.8	77 11.2	12 1.8	96 14.0	7 1.0
	無回答	19 100.0	10 52.6	4 21.1	1 5.3	1 5.3	-	1 5.3	-
		民生委員・児童委員	身体障害者相談員・知的障害者相談員	市の窓口	保健所・保健師	その他	相談する相手がいない	相談はしない	無回答
全体		22 1.6	13 0.9	26 1.9	6 0.4	29 2.1	37 2.7	130 9.3	109 7.8
男女別	男性	11 1.6	9 1.3	14 2.0	3 0.4	19 2.8	29 4.2	84 12.2	53 7.7
	女性	11 1.6	4 0.6	12 1.8	3 0.4	10 1.5	7 1.0	45 6.6	51 7.4
	無回答	-	-	-	-	-	1 5.3	1 5.3	5 26.3

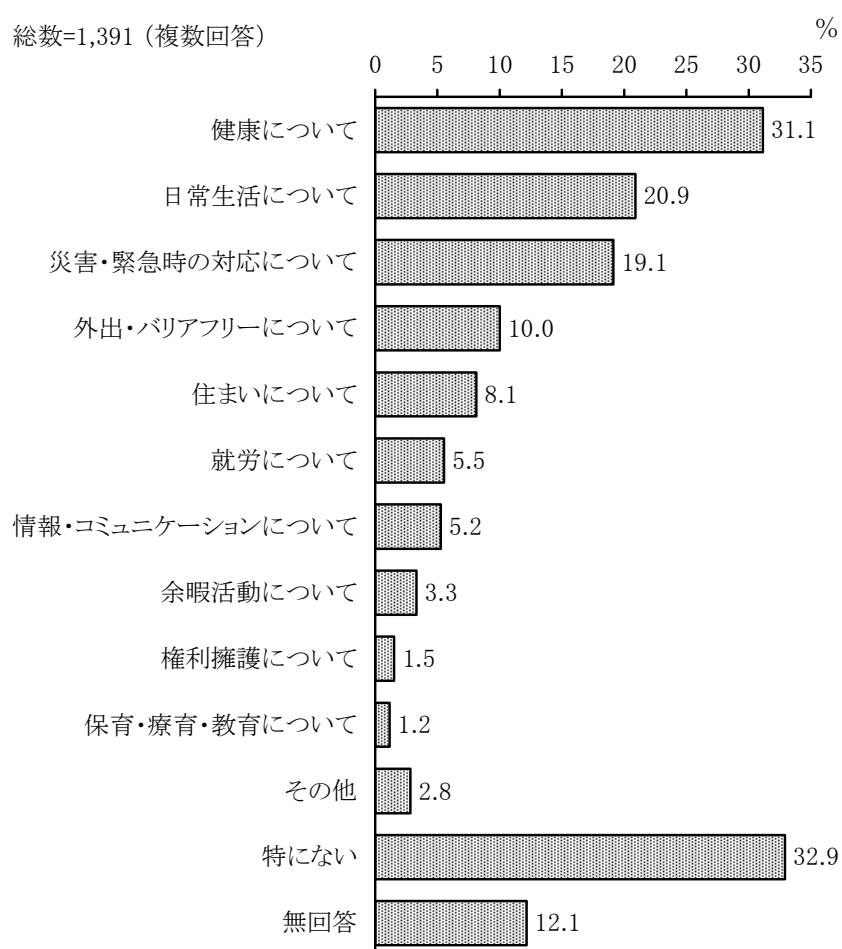
(6) 今後相談したいこと

問25 今後、あなたが相談したい内容として、どのようなことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

相談したい内容としては、「健康について」が31.1%で最も多く、「日常生活について」が20.9%、「災害・緊急時の対応について」が19.1%、「外出・バリアフリーについて」が10.0%、「住まいについて」が8.1%で続きます。

「特にない」は32.9%となっています。

図表 I - 55 今後相談したいこと



第2部 調査の結果

年代別に見ると、「就労について」という回答は、40 歳代以下の年代で2割以上であり、50 歳代以上の年代と比べて割合が多くなっています。

図表 I - 56 今後相談したいこと【年代別】

		全体	日常生活について	健康について	情報・コミュニケーションについて	住まいについて	教育・療育・保育について	就労について	外出・バリアフリーについて	余暇活動について	権利擁護について	災害・緊急時の対応について	その他	特にない	無回答
全体		1,391 100.0	291 20.9	433 31.1	73 5.2	113 8.1	16 1.2	77 5.5	139 10.0	46 3.3	21 1.5	266 19.1	39 2.8	458 32.9	169 12.1
年代別	18歳未満	28 100.0	11 39.3	6 21.4	9 32.1	3 10.7	12 42.9	11 39.3	8 28.6	6 21.4	3 10.7	8 28.6	2 7.1	3 10.7	1 3.6
	18～29歳	22 100.0	5 22.7	4 18.2	2 9.1	2 9.1	-	5 22.7	4 18.2	2 9.1	1 4.5	5 22.7	-	3 13.6	4 18.2
	30～39歳	29 100.0	4 13.8	9 31.0	2 6.9	7 24.1	1 3.4	10 34.5	6 20.7	1 3.4	2 6.9	5 17.2	-	9 31.0	3 10.3
	40～49歳	71 100.0	22 31.0	26 36.6	8 11.3	8 11.3	2 2.8	15 21.1	4 5.6	4 5.6	3 4.2	16 22.5	5 7.0	17 23.9	7 9.9
	50～59歳	126 100.0	20 15.9	37 29.4	3 2.4	11 8.7	1 0.8	17 13.5	10 7.9	4 3.2	1 0.8	26 20.6	5 4.0	48 38.1	7 5.6
	60～69歳	332 100.0	69 20.8	101 30.4	13 3.9	28 8.4	-	15 4.5	31 9.3	11 3.3	2 0.6	63 19.0	4 1.2	127 38.3	24 7.2
	70歳以上	754 100.0	153 20.3	242 32.1	32 4.2	51 6.8	-	3 0.4	74 9.8	17 2.3	9 1.2	138 18.3	21 2.8	246 32.6	117 15.5
	無回答	29 100.0	7 24.1	8 27.6	4 13.8	3 10.3	-	1 3.4	2 6.9	1 3.4	-	5 17.2	2 6.9	5 17.2	6 20.7

障害の種類別に見ると、視覚障害者では「日常生活について」「健康について」という回答が4割弱、「外出・バリアフリーについて」という回答が2割強であり、他の障害のある回答者との差が大きくなっています。また、聴覚・平衡機能障害者では「情報・コミュニケーションについて」という回答が2割であり、他の障害のある回答者との差が大きくなっています。

図表 I - 57 今後相談したいこと【障害の種類別】

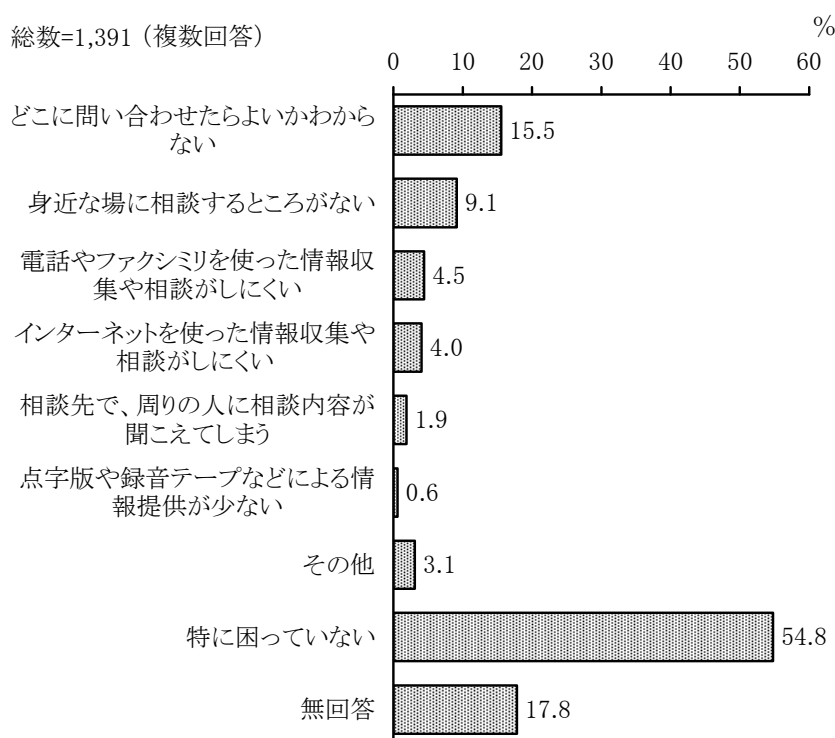
		全体	日常生活について	健康について	情報・コミュニケーションについて	住まいについて	保育・療育・教育について	就労について	外出・バリアフリーについて	余暇活動について	権利擁護について	災害・緊急時の対応について	その他	特にない	無回答
全体		1,346 100.0	282 21.0	420 31.2	72 5.3	110 8.2	14 1.0	73 5.4	137 10.2	46 3.4	21 1.6	259 19.2	38 2.8	441 32.8	163 12.1
障害の種類別	視覚障害	78 100.0	28 35.9	30 38.5	7 9.0	7 9.0	2 2.6	3 3.8	19 24.4	3 3.8	2 2.6	19 24.4	1 1.3	18 23.1	7 9.0
	聴覚・平衡機能障害	72 100.0	11 15.3	19 26.4	15 20.8	4 5.6	4 5.6	9 12.5	5 6.9	2 2.8	2 2.8	18 25.0	6 8.3	18 25.0	9 12.5
	音声・言語・そしゃく機能障害	69 100.0	9 13.0	15 21.7	6 8.7	5 7.2	— —	3 4.3	5 7.2	1 1.4	1 1.4	11 15.9	5 7.2	17 24.6	14 20.3
	肢体不自由	699 100.0	163 23.3	219 31.3	35 5.0	73 10.4	9 1.3	52 7.4	98 14.0	25 3.6	14 2.0	149 21.3	22 3.1	222 31.8	81 11.6
	内部障害	408 100.0	68 16.7	141 34.6	15 3.7	23 5.6	— —	12 2.9	18 4.4	16 3.9	4 1.0	72 17.6	9 2.2	145 35.5	44 10.8
	その他	92 100.0	18 19.6	17 18.5	2 2.2	7 7.6	— —	3 3.3	8 8.7	2 2.2	1 1.1	15 16.3	3 3.3	34 37.0	14 15.2
	無回答	42 100.0	9 21.4	11 26.2	1 2.4	3 7.1	— —	1 2.4	2 4.8	— —	— —	3 7.1	— —	13 31.0	13 31.0

(7) 情報収集や相談をする際に困っていること

問26 あなたが情報収集や相談をするときに困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

情報収集や相談をするときに困ることとしては、「どこに問い合わせたらよいかわからない」が15.5%で最も多く、「身近な場に相談するところがない」が9.1%で続きます。「特に困っていない」は54.8%となっています。

図表 I - 58 情報収集や相談をする際に困っていること



年代別に見ると、「どこに問い合わせたらよいかわからない」という回答は、40歳代以下の年代で2割以上であり、50歳代以上の年代と比べて割合が多くなっています。

図表 I - 59 情報収集や相談をする際に困っていること【年代別】

		全体	身近な場に相談する ところがない	電話やファクシミリ を使った情報収集や 相談がしにくい	インターネットを 使った情報収集や 相談がしにくい	点字版や録音テープ などによる情報提供 が少ない	相談先で、周りの人に 相談内容が聞こえて しまう	どこに問い合わせたら よいかわからない	その他	特に困っていない	無回答
全体		1,391 100.0	127 9.1	62 4.5	56 4.0	8 0.6	26 1.9	216 15.5	43 3.1	762 54.8	248 17.8
年代別	18歳未満	28 100.0	5 17.9	- -	- -	1 3.6	1 3.6	8 28.6	3 10.7	12 42.9	3 10.7
	18～29歳	22 100.0	2 9.1	1 4.5	- -	1 4.5	- -	5 22.7	2 9.1	11 50.0	2 9.1
	30～39歳	29 100.0	4 13.8	1 3.4	3 10.3	- -	1 3.4	10 34.5	1 3.4	13 44.8	1 3.4
	40～49歳	71 100.0	13 18.3	2 2.8	2 2.8	- -	3 4.2	15 21.1	3 4.2	34 47.9	7 9.9
	50～59歳	126 100.0	15 11.9	2 1.6	6 4.8	2 1.6	5 4.0	19 15.1	2 1.6	75 59.5	15 11.9
	60～69歳	332 100.0	28 8.4	15 4.5	16 4.8	2 0.6	3 0.9	51 15.4	6 1.8	216 65.1	34 10.2
	70歳以上	754 100.0	56 7.4	39 5.2	27 3.6	2 0.3	12 1.6	102 13.5	25 3.3	391 51.9	179 23.7
	無回答	29 100.0	4 13.8	2 6.9	2 6.9	- -	1 3.4	6 20.7	1 3.4	10 34.5	7 24.1

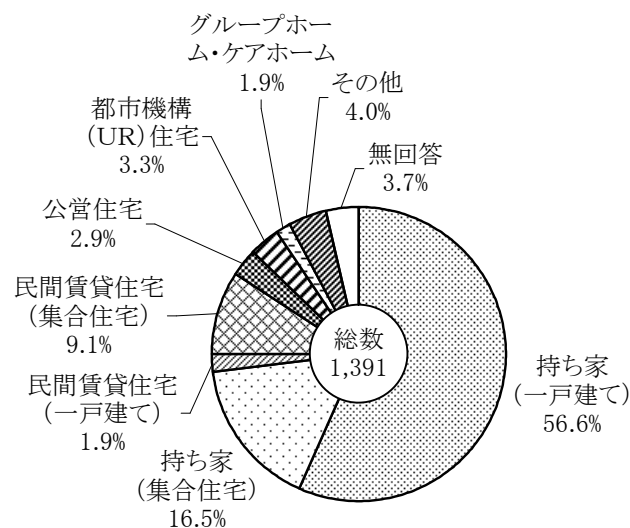
6 住まいについて

(1) 現在の住まいの形態

問27 あなたは、現在どのようなところにお住まいですか。(どれか1つに○)

図表 I - 60 現在の住まいの形態

「持ち家（一戸建て）」が 56.6%で最も多く、「持ち家（集合住宅）」が 16.5%、「民間賃貸住宅（集合住宅）」が 9.1%で続きます。



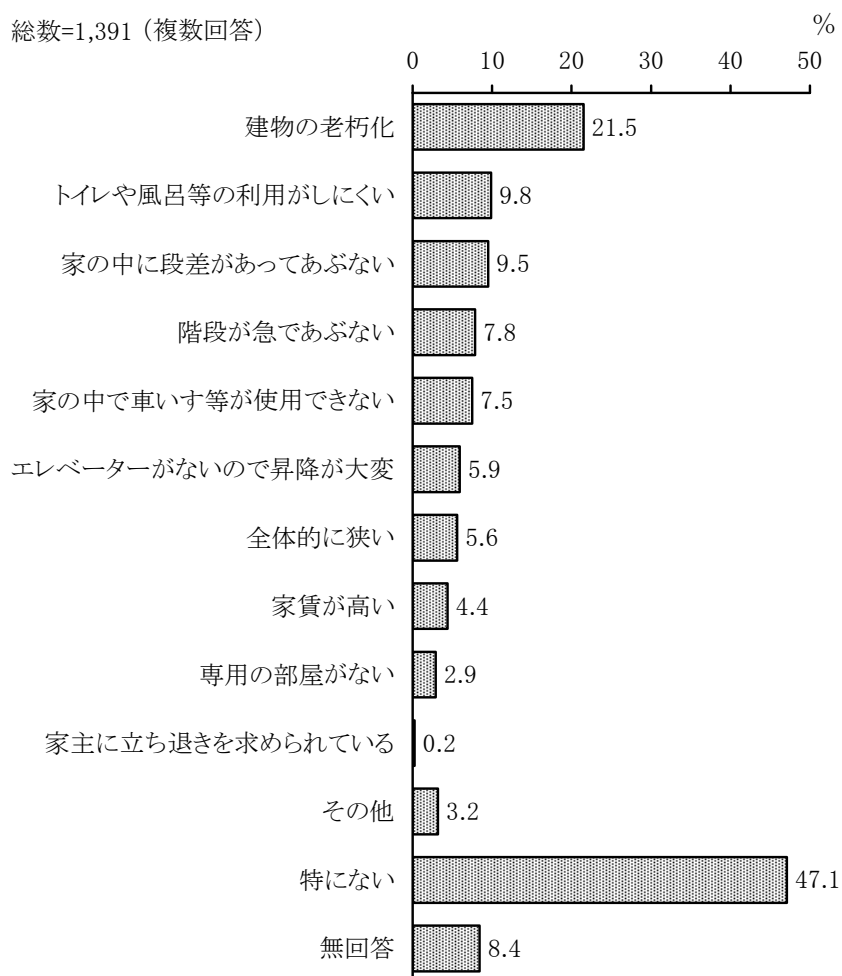
(2) 現在の住まいで困っていること

問28 あなたが今のお住まいで困っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

現在の住まいで困っていることとしては、「建物の老朽化」が21.5%で最も多く、「トイレや風呂等の利用がしにくい」が9.8%、「家の中に段差があつてあぶない」が9.5%、「階段が急であぶない」が7.8%、「家の中で車いす等が使用できない」が7.5%で続きます。

「特にない」は47.1%となっています。

図表 I-61 現在の住まいで困っていること

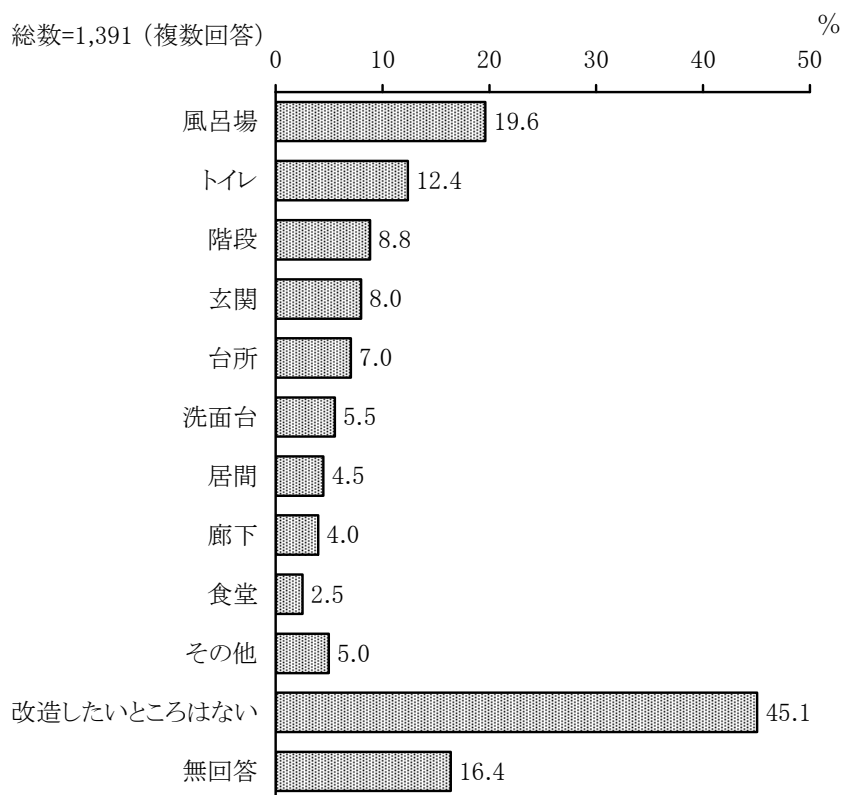


（3）現在の住まいで改造したいところ

問29 あなたが今のお住まいで改造したいところは、どこですか。（あてはまるものすべてに○）

現在の住まいで改造したいところとしては、「風呂場」が19.6%で最も多く、「トイレ」が12.4%、「階段」が8.8%、「玄関」が8.0%、「台所」が7.0%で続きます。
「改造したいところはない」は45.1%となっています。

図表 I - 62 現在の住まいで改造したいところ



(4) 住宅改造を行う際に困難な点

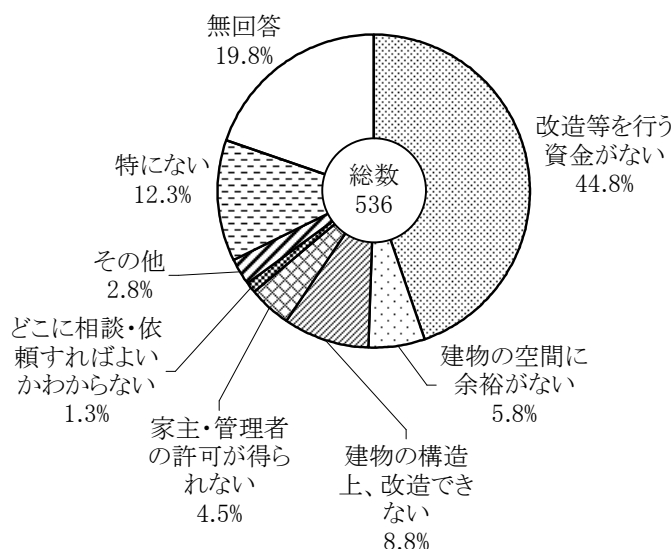
問 29-1 【問 29 で 1～10*を選んだ方にうかがいます。】あなたにとって、住宅の改造を考えたときに最も難しいのはどのようなことですか。(どれか1つに○)

図表 I - 63 住宅改造を行う際に困難な点

住宅の改造を行う際に最も困難な点としては、「改造等を行う資金がない」が44.8%で最も多く、「建物の構造上、改造できない」が8.8%、「建物の空間に余裕がない」が5.8%で続きます。

「特にない」は12.3%となっています。

※1～10：「玄関」「風呂場」「トイレ」「台所」「洗面台」「廊下」「階段」「居間」「食堂」「その他」



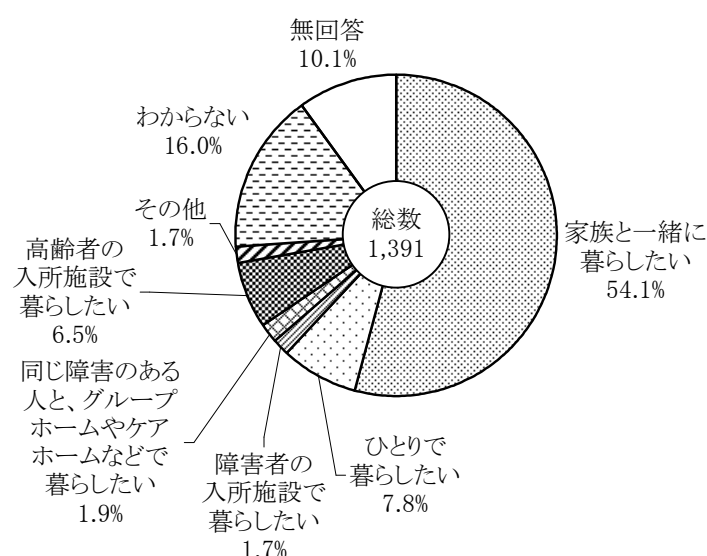
(5) 将来希望する暮らし方

問 30 あなたは、将来どのように暮らしたいですか。(どれか1つに○)

図表 I - 64 将来希望する暮らし方

将来希望する暮らし方としては、「家族と一緒に暮らしたい」が54.1%で最も多く、「ひとりで暮らしたい」が7.8%、「高齢者の入所施設で暮らしたい」が6.5%で続きます。

「わからない」は16.0%となっています。



7 保育・教育・療育について ※25歳未満の方とその保護者の方が対象 ●●●●●

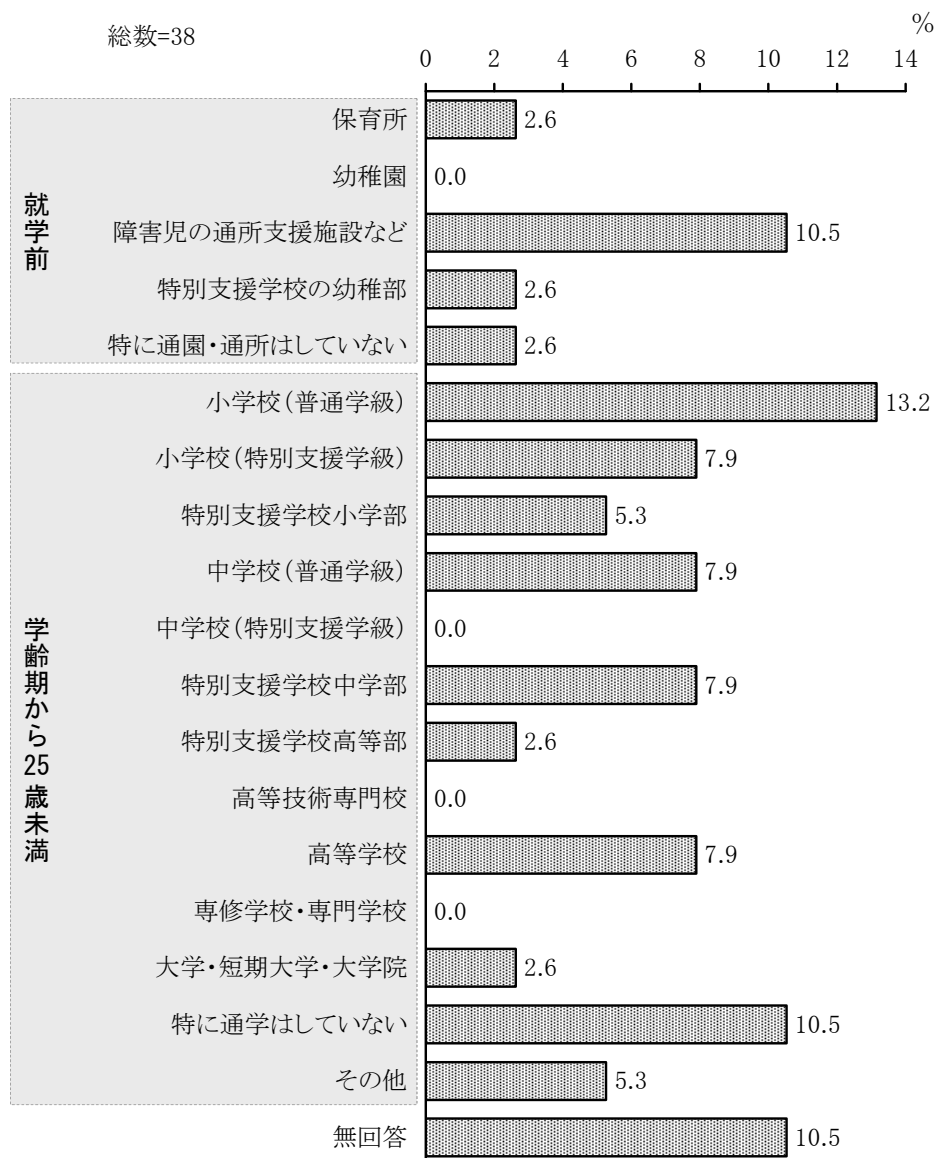
(1) 通園・通学先

問31 現在、あなたが通園・通学しているところはどこですか。(どれか1つに○)

就学前については「障害児の通所支援施設など」が10.5%、学齢期から25歳未満については「小学校(普通学級)」が13.2%と多くなっています。

「特に通学はしていない」は10.5%です。

図表 I-65 通園・通学先



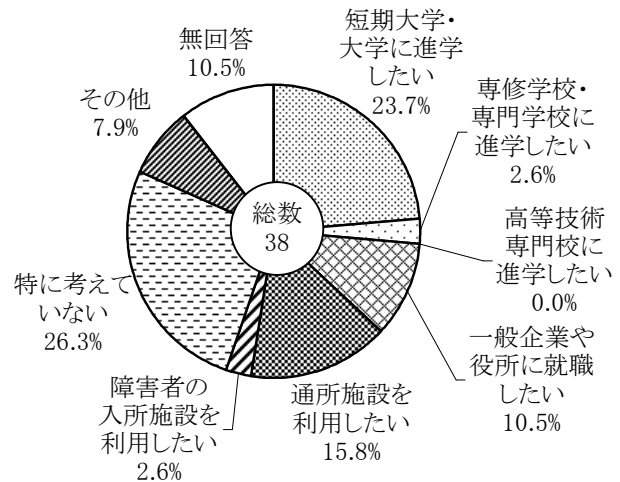
(2) 学校教育修了後の希望進路

問32 あなたは、学校教育修了後の進路について、どのように考えていますか。(どれか1つに○)

図表 I - 66 学校教育修了後の希望進路

学校教育修了後の希望進路としては、「短期大学・大学に進学したい」が23.7%、「通所施設を利用したい」が15.8%、「一般企業や役所に就職したい」が10.5%で続きます。

「特に考えていない」は26.3%となっています。



(3) 保育や療育について困っていること

問33 【就学前の方の保護者にうかがいます。】保護者の方が、保育や療育について困っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

該当する回答者は7人であり、「保育・療育に関する情報が少ない」を選んだのが6人、「本人の成長や発達に不安がある」「通園・通所の送り迎えが大変」を選んだのがそれぞれ4人、「小学校入学時の学校選択」を選んだのが3人です。

図表 I - 67 保育や療育について困っていること

全体	本人の成長や発達に不安がある	保育・療育に関する情報が少ない	療育や訓練の機会が少ない	療育や訓練の内容が十分ではない	希望する施設などに通えない	費用など経済的負担が大きい	通園・通所の送り迎えが大変	小学校入学時の学校選択	相談できる人や機会が少ない	特に困っていることはない	その他	無回答
7 100.0	4 57.1	6 85.7	2 28.6	2 28.6	1 14.3	1 14.3	4 57.1	3 42.9	2 28.6	-	-	1 14.3

(4) 学校や教育について困っていること

問 34 【特別支援学校（幼稚部を除く）・小学校・中学校・高等学校在学中の方の保護者にうかがいます。】保護者の方が、学校や教育について困っていることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

該当する回答者は20人であり、「学校卒業後の進路に不安がある」が13人（65.0%）で最も多くなっています。

図表 I - 68 学校や教育について困っていること

全体	学校卒業後の進路に不安がある	学校や教育に関する情報が少ない	通学の送り迎えが大変	教職員の指導や支援の仕方が心配	友達との関係づくりがうまくできない	学校のカリキュラムが本人に合わない	今後の学校選択	相談できる人や機会が少ない	特に困っていることはない	その他	無回答
20 100.0	13 65.0	3 15.0	3 15.0	3 15.0	- -	- -	3 15.0	3 15.0	- -	1 5.0	5 25.0

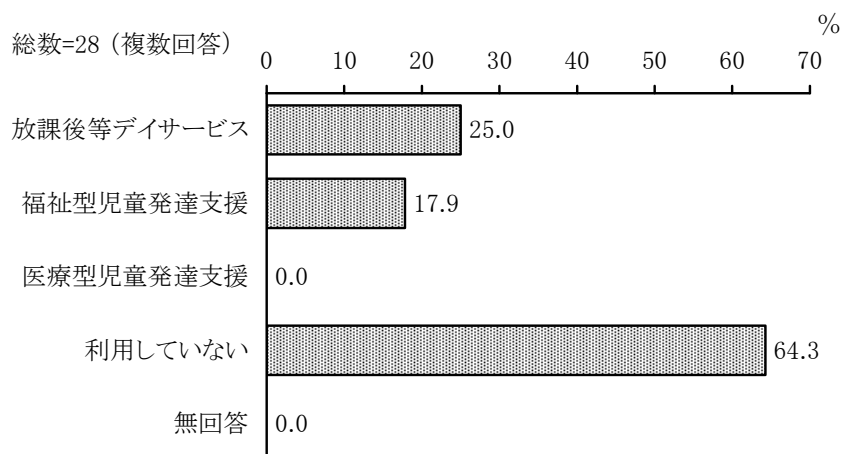
(5) 障害のある児童のためのサービスの利用状況

問 35 【18歳未満の方にうかがいます。】あなたは、障害のある児童のための次のようなサービスを利用していますか。（あてはまるものすべてに○）

利用しているサービスとしては、「放課後等デイサービス」が25.0%で最も多く、「福祉型児童発達支援」が17.9%で続きます。

「利用していない」は64.3%となっています。

図表 I - 69 障害のある児童のためのサービスの利用状況



(6) 障害のある児童のためのサービスの満足度

問 35-1 【問 35 で 1～3*を選んだ方にうかがいます。】あなたは、利用しているサービスに満足していますか。(どれか1つに○)

サービスを利用しているのは 10 人であり、「満足している」が 2 人 (20.0%)、「やや満足している」が 3 人 (30.0%)、「普通」が 1 人 (10.0%)、「満足していない」が 4 人 (40.0%) となっています。

図表 I-70 障害のある児童のためのサービスの満足度

全体	満足している	やや満足している	普通	満足していない	無回答
10 100.0	2 20.0	3 30.0	1 10.0	4 40.0	- -

※1～3:「福祉型児童発達支援」「医療型児童発達支援」「放課後等デイサービス」

(7) 障害のある児童のためのサービスの不満理由

問 35-2 【問 35-1 で 4*を選んだ方にうかがいます。】あなたが満足していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

利用しているサービスに満足していない回答者は 4 人であり、全員が「サービスを利用したい日時の調整が大変」を選んでいきます。

図表 I-71 障害のある児童のためのサービスの不満理由

全体	サービスの制度がわかりづらい	サービス利用の手続きが面倒	サービスの回数や日数が少ない	サービスの1回当たりの時間が少ない	サービスを利用したい日時の調整が大変	サービスの内容が雑であつたり、ニーズに合っていない	サービスを提供する人の態度がよくない	サービス利用に対する自己負担が大きい	その他	無回答
4 100.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	4 100.0	2 50.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0	- -

※4:「満足していない」

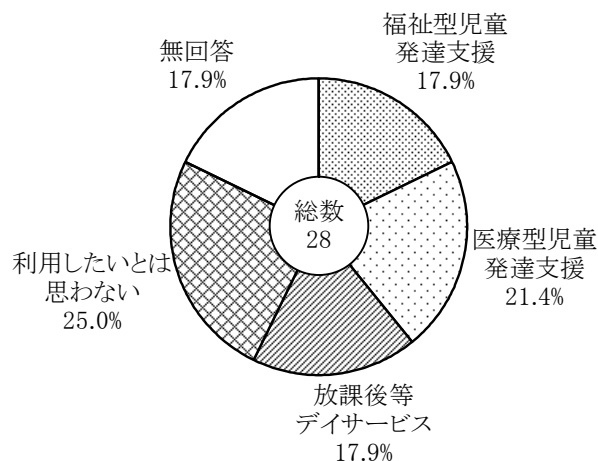
(8) 障害のある児童のためのサービスの利用意向

問 36 【18 歳未満の方にうかがいます。】今後、あなたは障害のある児童のための次のサービスを利用したいと思いますか。現在利用している方もお答えください。（どれか1つに○）

図表 I - 72 障害のある児童のためのサービスの利用意向

利用したいサービスとしては、「医療型児童発達支援」が 21.4%で最も多く、「福祉型児童発達支援」「放課後等デイサービス」がともに 17.9%で続きます。

「利用したいとは思わない」は 25.0%となっています。



8 仕事について ※15 歳以上の方が対象

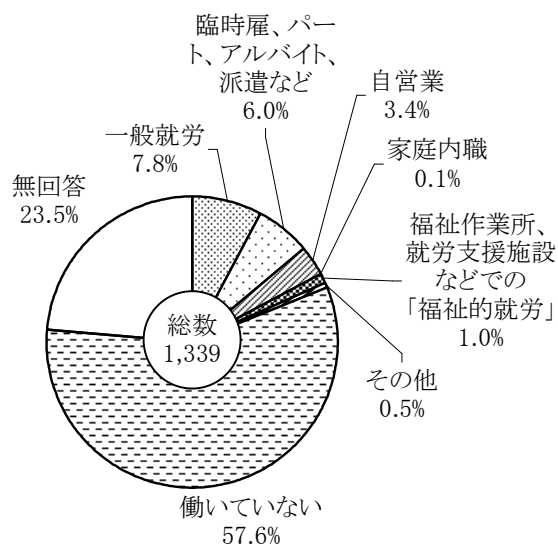
(1) 就労の有無と種類

問 37 あなたは、現在働いて（収入のある仕事に就いて）いますか。（どれか1つに○）

図表 I - 73 就労の有無と種類

仕事については、「一般就労」が 7.8%であり、「臨時雇、パート、アルバイト、派遣など」が 6.0%で続きます。

「働いていない」は 57.6%となっています。



(2) 週労働日数と週労働時間

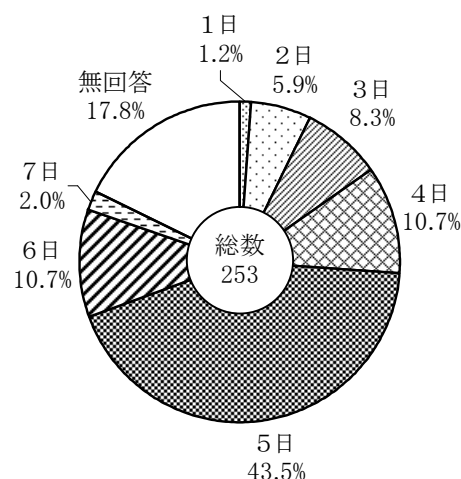
問37-1 【問37で1～6*を選んだ方にうかがいます。】あなたは、おおよそ週に何日間・何時間働いていますか。()内に数字を記入してください。

週労働日数は、「5日」が43.5%で最も多く、「4日」「6日」がそれぞれ10.7%、「3日」が8.3%、「2日」が5.9%で続きます。

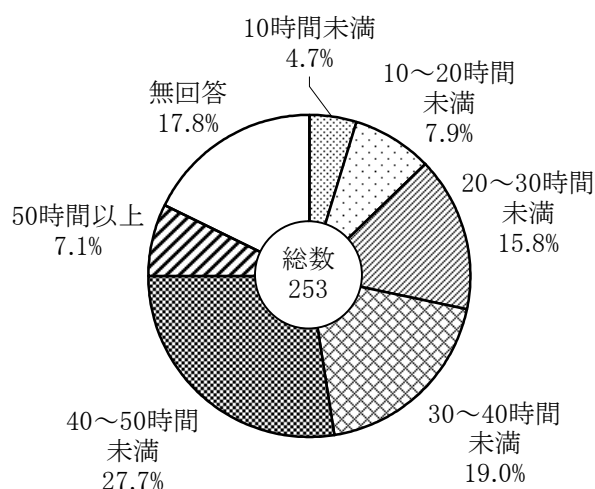
週労働時間は、「40～50時間未満」が27.7%で最も多く、「30～40時間未満」が19.0%、「20～30時間未満」が15.8%、「10～20時間未満」が7.9%、「50時間以上」が7.1%で続きます。

1日当たり就労時間の平均値は7.1時間であり、その分布は「8時間台」が27.3%で最も多く、「7時間台」が15.4%、「9時間以上」が11.9%、「6時間台」が9.1%、「5時間台」が7.9%で続きます。

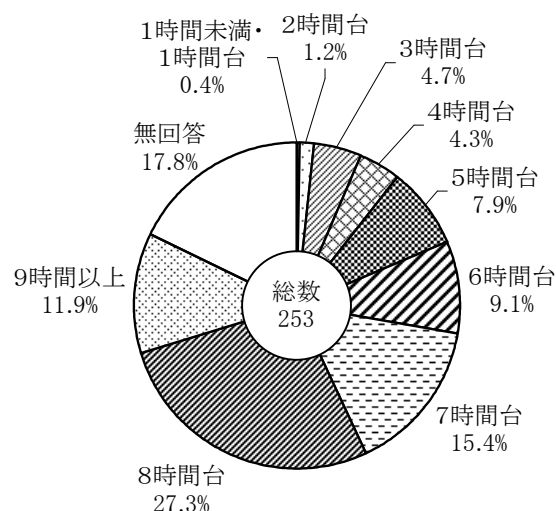
図表 I-74 週労働日数



図表 I-75 週労働時間



図表 I-76 1日当たり就労時間



※1～6:「一般就労(企業などに就職)」 「臨時雇、パート、アルバイト、派遣など」 「自営業」 「家庭内職」 「福祉作業所、就労支援施設などでの「福祉的就労」 「その他」

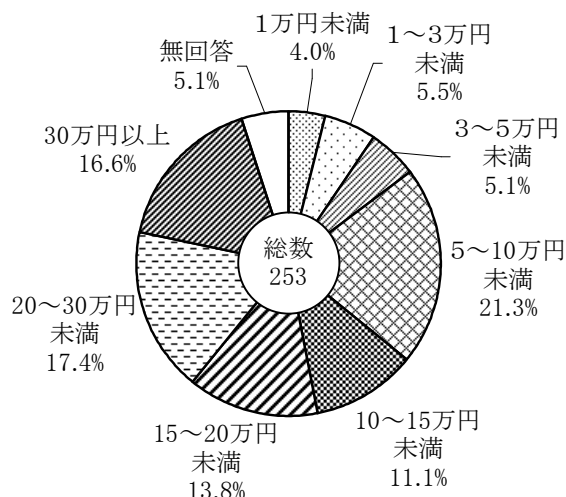
(3) 月平均収入

問37-2 【問37で1～6※を選んだ方にうかがいます。】あなたの労働による1ヶ月の平均収入総額（ボーナスや障害年金等を除く月の給与）を教えてください。税金や年金、施設への利用料などを引かれる前の総額です。（どれか1つに○）

「5～10万円未満」が21.3%で最も多く、「20～30万円未満」が17.4%、「30万円以上」が16.6%、「15～20万円未満」が13.8%、「10～15万円未満」が11.1%で続きます。

※1～6：「一般就労（企業などに就職）」「臨時雇、パート、アルバイト、派遣など」「自営業」「家庭内職」「福祉作業所、就労支援施設などでの「福祉的就労」「その他」

図表 I - 77 月平均収入

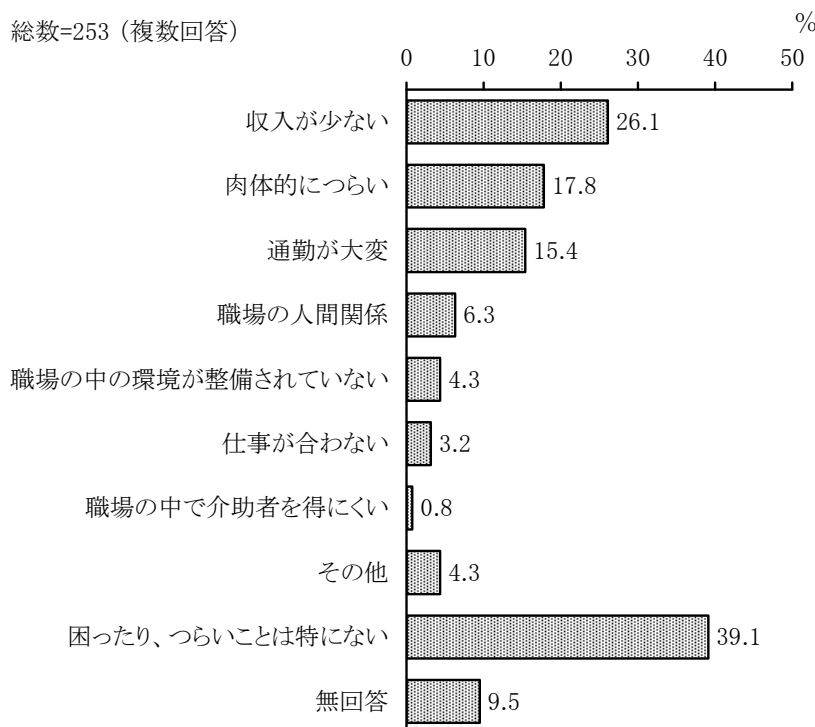


(4) 仕事で困っていること

問37-3 【問37で1～6※を選んだ方にうかがいます。】あなたが仕事をする上で、困ったり、つらいことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

図表 I - 78 仕事で困っていること

総数=253（複数回答）



仕事をする上で困ったりつらいこととしては、「収入が少ない」が26.1%で最も多く、「肉体的につらい」が17.8%、「通勤が大変」が15.4%で続きます。

「困ったり、つらいことは特にない」は39.1%となっています。

※1～6：「一般就労（企業などに就職）」「臨時雇、パート、アルバイト、派遣など」「自営業」「家庭内職」「福祉作業所、就労支援施設などでの「福祉的就労」「その他」

就労の種類別に見ると、「通勤が大変」という回答は一般就労で27.6%、「収入が少ない」という回答は臨時雇、パート、アルバイト、派遣などで32.5%となっており、他の就労に比べて割合が多くなっています。

図表 I - 79 仕事で困っていること【就労の種類別】

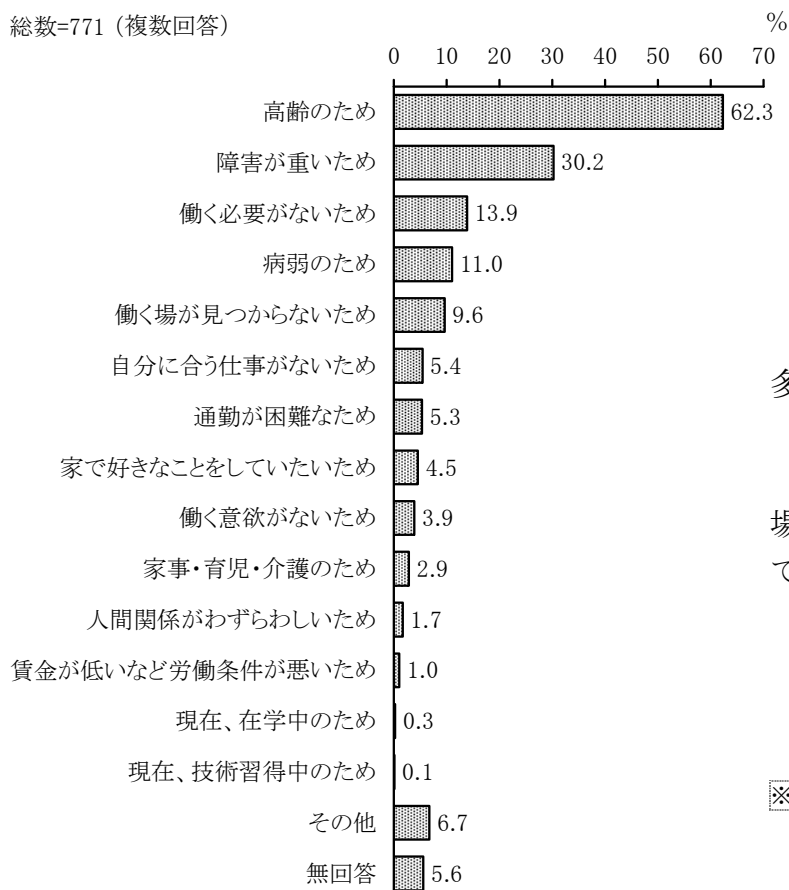
		全体	通勤が大変	収入が少ない	肉体的につらい	仕事が合わない	職場の人間関係	職場の中での環境が整備されていない	職場の中で介助者を得にくい	その他	困ったり、つらいことは特にない	無回答
全体		253 100.0	39 15.4	66 26.1	45 17.8	8 3.2	16 6.3	11 4.3	2 0.8	11 4.3	99 39.1	24 9.5
就労の種類別	一般就労	105 100.0	29 27.6	24 22.9	12 11.4	3 2.9	8 7.6	6 5.7	1 1.0	5 4.8	41 39.0	10 9.5
	臨時雇、パート、アルバイト、派遣など	80 100.0	7 8.8	26 32.5	18 22.5	3 3.8	4 5.0	1 1.3	-	4 5.0	35 43.8	2 2.5
	自営業	45 100.0	1 2.2	11 24.4	13 28.9	1 2.2	-	2 4.4	1 2.2	1 2.2	12 26.7	10 22.2
	家庭内職	2 100.0	-	1 50.0	-	-	-	-	-	-	1 50.0	-
	福祉作業所、就労支援施設などでの「福祉的就労」	14 100.0	1 7.1	4 28.6	1 7.1	1 7.1	4 28.6	2 14.3	-	-	6 42.9	-
	その他	7 100.0	1 14.3	-	1 14.3	-	-	-	-	1 14.3	4 57.1	2 28.6
	無回答	- *	- *	- *	- *	- *	- *	- *	- *	- *	- *	- *

(5) 仕事に就いていない理由

問37-4 【問37で7※を選んだ方にうかがいます。】あなたが仕事に就いていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表 I - 80 仕事に就いていない理由

総数=771 (複数回答)



「高齢のため」が62.3%で最も多く、「障害が重い」が30.2%、「働く必要がない」が13.9%、「病弱のため」が11.0%、「働く場が見つからない」が9.6%で続きます。

※7:「働いていない」

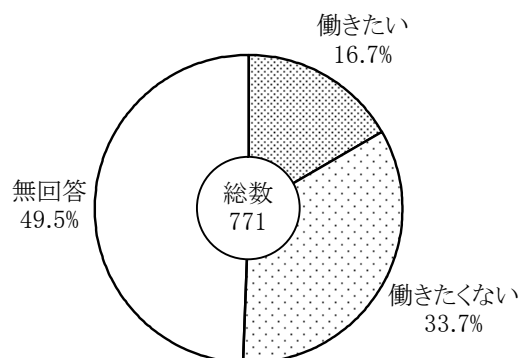
(6) 今後の就労の意向

問37-5 【問37で7※を選んだ方にうかがいます。】あなたは今後、良い条件が整っているところがあれば、働きたいと思いますか。(どれか1つに○)

図表 I - 81 今後の就労の意向

「働きたい」が16.7%、「働きたくない」が33.7%となっています。

※7:「働いていない」

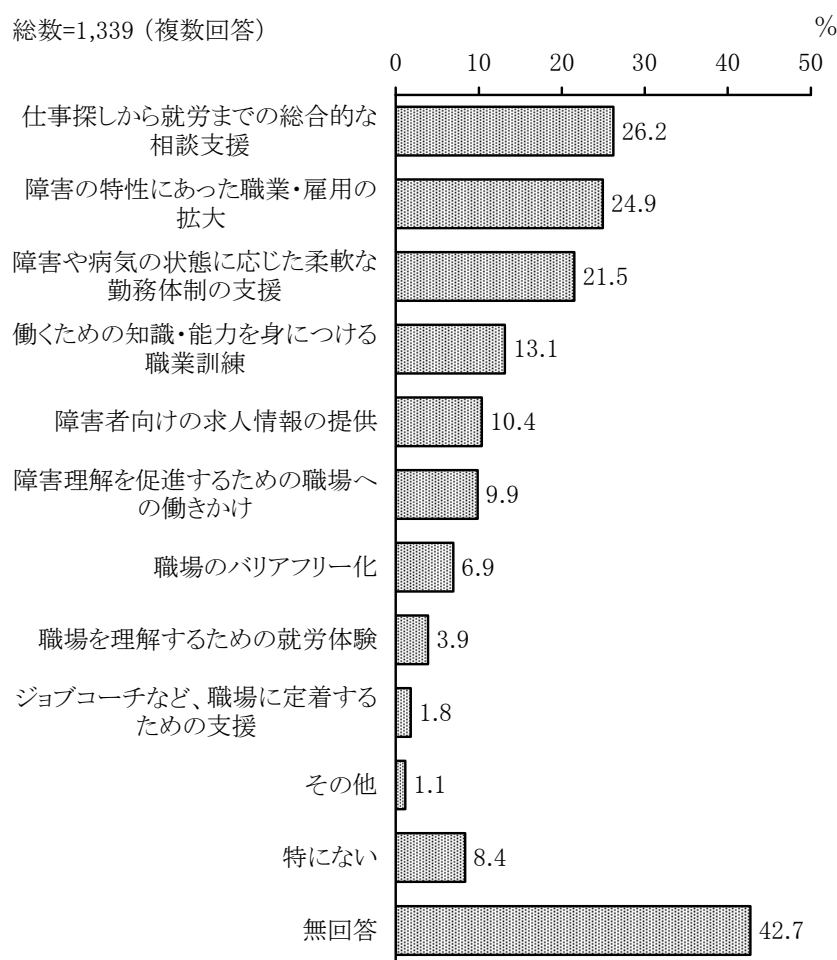


(7) 障害のある人の一般就労のため必要なこと

問 38 あなたは、障害のある人が、企業などで一般就労するためには、どのような支援が必要だと思いますか。(主なもの3つまでに○)

「仕事探しから就労までの総合的な相談支援」が 26.2%で最も多く、「障害の特性にあった職業・雇用の拡大」が 24.9%、「障害や病気の状態に応じた柔軟な勤務体制の支援」が 21.5%、「働くための知識・能力を身につける職業訓練」が 13.1%で続きます。

図表 I - 82 障害のある人の一般就労のため必要なこと



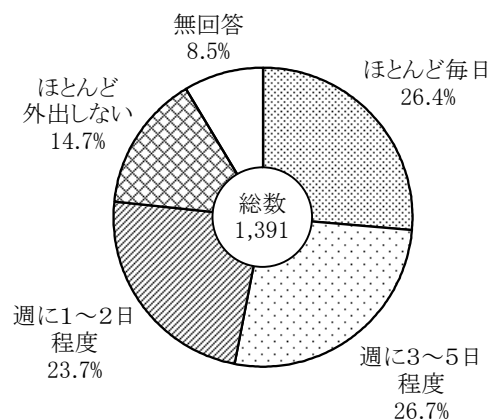
9 外出について

(1) 外出の頻度

問 39 ふだん、あなたは週に何日くらい外出しますか。(どれか1つに○)

「週に3～5日程度」が26.7%、「ほとんど毎日」が26.4%、「週に1～2日程度」が23.7%、「ほとんど外出しない」が14.7%となっています。

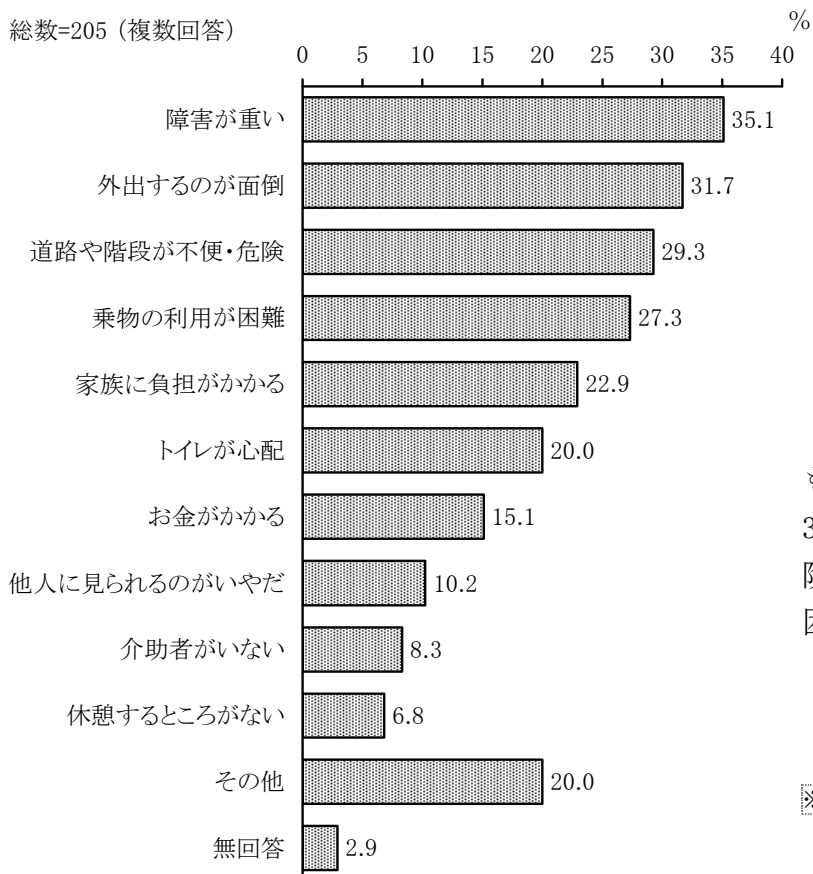
図表 I - 83 外出の頻度



(2) 外出しない理由

問 39-1 【問 39 で 4※を選んだ方にうかがいます。】外出しない理由は、何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表 I - 84 外出しない理由



「障害が重い」が35.1%で最も多く、「外出するのが面倒」が31.7%、「道路や階段が不便・危険」が29.3%、「乗物の利用が困難」が27.3%で続きます。

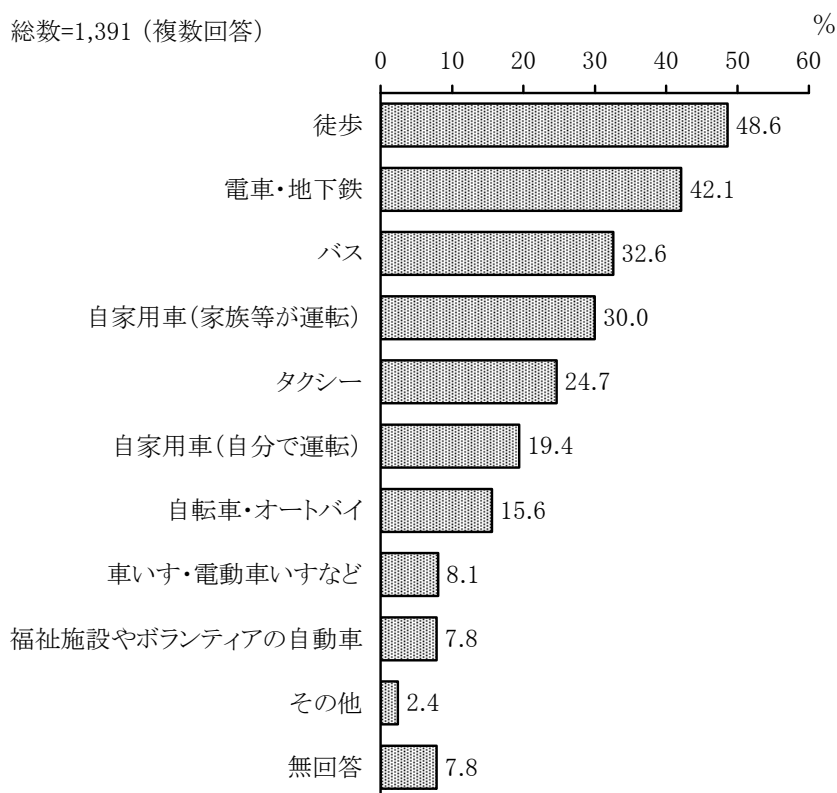
※4：「ほとんど外出しない」

(3) 外出の時に利用する交通手段

問40 あなたが外出するときは、どのような交通手段を利用しますか。(あてはまるものすべてに○)

「徒歩」が48.6%で最も多く、「電車・地下鉄」が42.1%、「バス」が32.6%、「自家用車（家族等が運転）」が30.0%で続きます。

図表 I - 85 外出の時に利用する交通手段



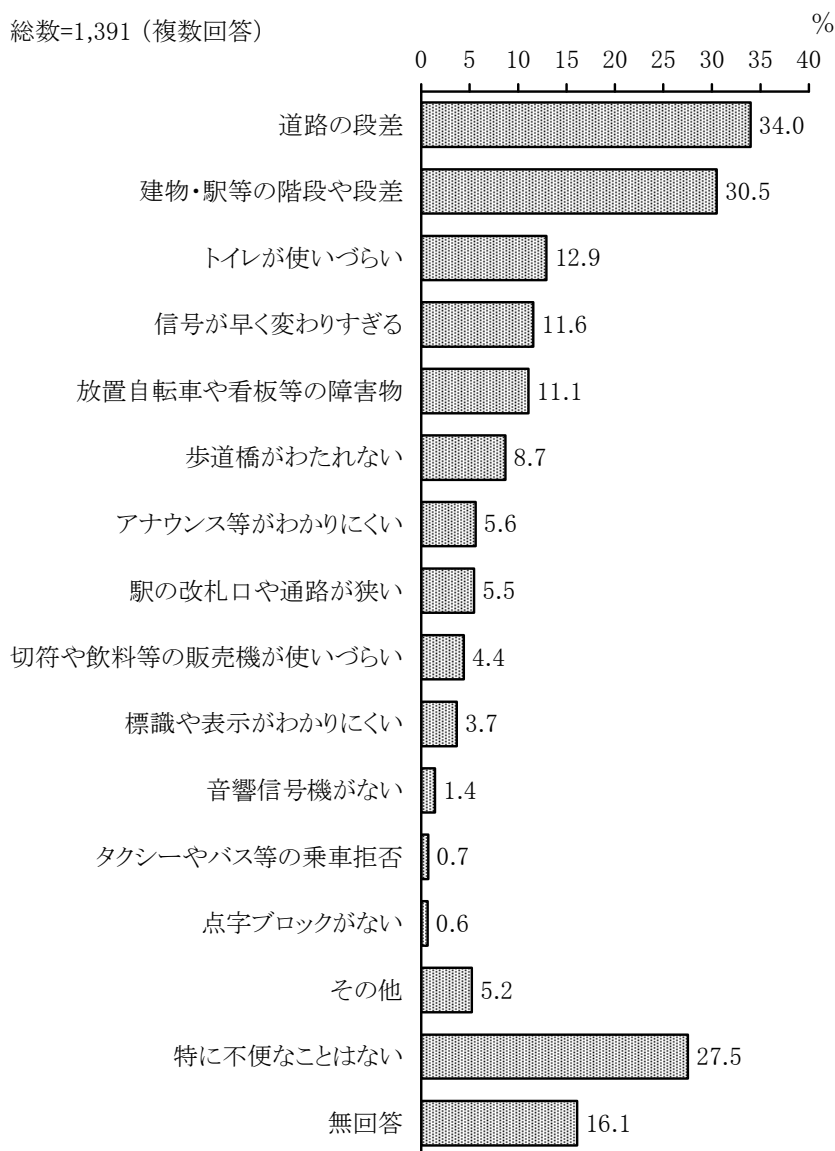
(4) 外出の際に設備等で不便に思うこと

問 41 あなたが外出する際、道路や交通機関、建物のことで困ったり不便に思うことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

外出の際に設備等で困ったり不便に思うこととしては、「道路の段差」が34.0%、「建物・駅等の階段や段差」が30.5%で多くなっています。このほか、「トイレが使いづらい」が12.9%、「信号が早く変わりすぎる」が11.6%、「放置自転車や看板等の障害物」が11.1%で続きます。

「特に不便なことはない」は27.5%となっています。

図表 I - 86 外出の際に設備等で不便に思うこと



難病のための特定疾患医療受給者票の所持状況別に見ると、「道路の段差」「建物・駅等の階段や段差」では特定疾患医療受給者票を持っている回答者の割合が持っていない回答者の割合を15ポイント前後上回っており、これ以外の項目と比べて差が大きくなっています。

図表 I-87 外出の際に設備等で不便に思うこと【受給者票の所持状況別】

	全体	道路の段差	建物・駅等の階段や段差	駅の改札口や通路が狭い	点字ブロックがない	歩道橋がわたれない	タクシーやバス等の乗車拒否	トイレが使いづらい	切符や飲料等の販売機が使いづらい
全体	1,391 100.0	473 34.0	424 30.5	76 5.5	9 0.6	121 8.7	10 0.7	180 12.9	61 4.4
持っている	102 100.0	49 48.0	45 44.1	8 7.8	1 1.0	10 9.8	1 1.0	19 18.6	6 5.9
持っていない	885 100.0	286 32.3	271 30.6	50 5.6	7 0.8	72 8.1	7 0.8	121 13.7	36 4.1
無回答	404 100.0	138 34.2	108 26.7	18 4.5	1 0.2	39 9.7	2 0.5	40 9.9	19 4.7

	変信号が早く わりすぎる	音響信号機がない	看板等 放置 自転車や 障害物	標識や表示が わかりにくい	アナウンス等が わかりにくい	その他	特に不便なこと はない	無回答
全体	161 11.6	20 1.4	154 11.1	51 3.7	78 5.6	73 5.2	383 27.5	224 16.1
持っている	9 8.8	3 2.9	13 12.7	7 6.9	7 6.9	5 4.9	19 18.6	18 17.6
持っていない	107 12.1	13 1.5	102 11.5	36 4.1	51 5.8	57 6.4	269 30.4	103 11.6
無回答	45 11.1	4 1.0	39 9.7	8 2.0	20 5.0	11 2.7	95 23.5	103 25.5

障害の種類別に見ると、視覚障害者では「道路の段差」という回答が 69.2%、「建物・駅等の階段や段差」という回答が 59.0%、「放置自転車や看板等の障害物」という回答が 30.8%であり、他の障害のある回答者との差が大きくなっています。聴覚・平衡機能障害者では「アナウンス等がわかりにくい」という回答が 38.9%であり、他の障害のある回答者との差が大きくなっています。

図表 I - 88 外出の際に設備等で不便に思うこと【障害の種類別】

		全体	道路の段差	建物・駅等の階段や段差	駅の改札口や通路が狭い	点字ブロックがない	歩道橋がわたれない	タクシーやバス等の乗車拒否	トイレが使いづらい	切符や飲料等の販売機が使いづらい
全体		1,346 100.0	456 33.9	405 30.1	73 5.4	9 0.7	117 8.7	10 0.7	173 12.9	60 4.5
障害の種類別	視覚障害	78 100.0	54 69.2	46 59.0	11 14.1	6 7.7	6 7.7	—	10 12.8	12 15.4
	聴覚・平衡機能障害	72 100.0	17 23.6	17 23.6	3 4.2	—	6 8.3	—	8 11.1	2 2.8
	音声・言語・そしゃく機能障害	69 100.0	20 29.0	19 27.5	6 8.7	—	6 8.7	—	8 11.6	2 2.9
	肢体不自由	699 100.0	300 42.9	251 35.9	50 7.2	1 0.1	81 11.6	5 0.7	134 19.2	34 4.9
	内部障害	408 100.0	83 20.3	84 20.6	10 2.5	1 0.2	20 4.9	3 0.7	28 6.9	12 2.9
	その他	92 100.0	20 21.7	17 18.5	2 2.2	—	6 6.5	2 2.2	3 3.3	3 3.3
	無回答	42 100.0	11 26.2	10 23.8	1 2.4	1 2.4	5 11.9	1 2.4	4 9.5	1 2.4

		信号が早く変わりがすぎる	音響信号機がない	看板等の障害物や放置自転車や	標識や表示がわかりにくい	アナウンス等がわかりにくい	その他	特に不便なことはない	無回答
全体		155 11.5	20 1.5	150 11.1	48 3.6	76 5.6	71 5.3	372 27.6	219 16.3
障害の種類別	視覚障害	11 14.1	14 17.9	24 30.8	15 19.2	8 10.3	5 6.4	5 6.4	7 9.0
	聴覚・平衡機能障害	5 6.9	1 1.4	2 2.8	2 2.8	28 38.9	6 8.3	10 13.9	11 15.3
	音声・言語・そしゃく機能障害	10 14.5	1 1.4	8 11.6	5 7.2	3 4.3	4 5.8	13 18.8	22 31.9
	肢体不自由	110 15.7	4 0.6	81 11.6	19 2.7	26 3.7	44 6.3	146 20.9	107 15.3
	内部障害	28 6.9	2 0.5	37 9.1	11 2.7	14 3.4	16 3.9	170 41.7	60 14.7
	その他	9 9.8	—	11 12.0	2 2.2	5 5.4	3 3.3	33 35.9	26 28.3
	無回答	3 7.1	1 2.4	1 2.4	—	2 4.8	—	4 9.5	22 52.4

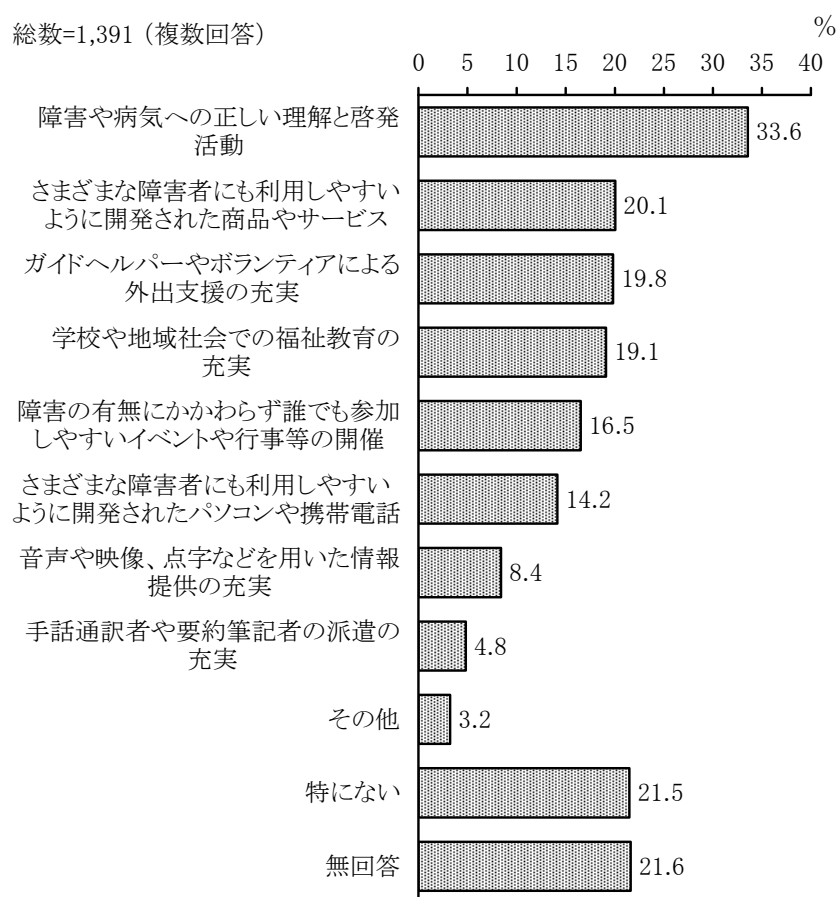
(5) バリアフリー化を進めるために重要なこと

問 42 交通機関やまちのバリアフリー化だけでなく、制度や意識の面も含めた「社会全体のバリアフリー化」を進めるために、あなたが重要だと思うものは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

バリアフリー化を進めるために重要なこととしては、「障害や病気への正しい理解と啓発活動」が 33.6%で最も多く、「さまざまな障害者にも利用しやすいように開発された商品やサービス」が 20.1%、「ガイドヘルパーやボランティアによる外出支援の充実」が 19.8%、「学校や地域社会での福祉教育の充実」が 19.1%で続きます。

「特にない」は 21.5%となっています。

図表 I - 89 バリアフリー化を進めるために重要なこと



第2部 調査の結果

障害の種類別に見ると、視覚障害者では「障害や病気への正しい理解と啓発活動」とともに「さまざまな障害者にも利用しやすいように開発された商品やサービス」「ガイドヘルパーやボランティアによる外出支援の充実」の割合が3割台となっています。また、「手話通訳者や要約筆記者の派遣の充実」という回答は聴覚・平衡機能障害者で22.2%、「さまざまな障害者にも利用しやすいように開発されたパソコンや携帯電話」という回答は視覚障害者で26.9%、聴覚・平衡機能障害者で25.0%であり、他の障害のある回答者との差が大きくなっています。

図表 I-90 バリアフリー化を進めるために重要なこと【障害の種類別】

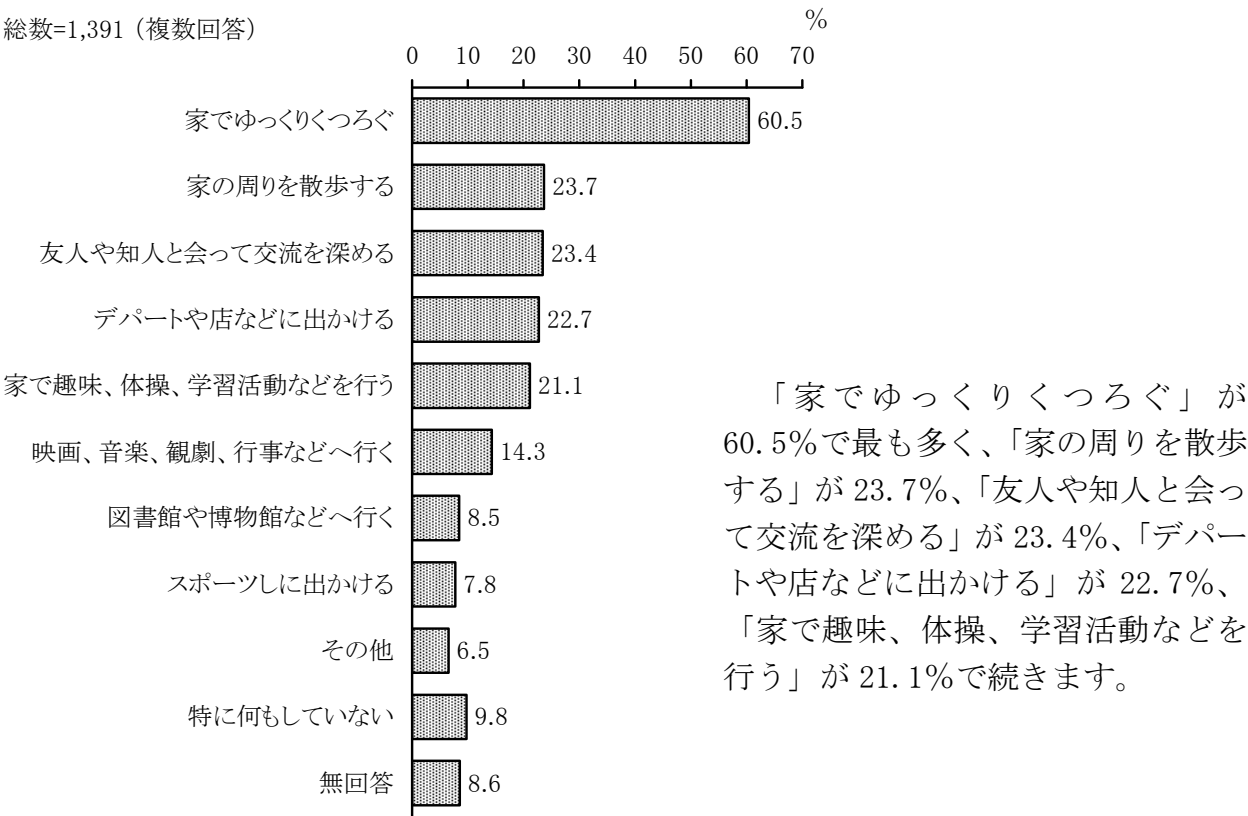
		全体	ガイドヘルパーやボランティアによる外出支援の充実	手話通訳者や要約筆記者の派遣の充実	音声や映像、点字などを用いた情報提供の充実	さまざまな障害者にも利用しやすいように開発されたパソコンや携帯電話	さまざまな障害者にも利用しやすいように開発された商品やサービス	障害の有無にかかわらず誰でも参加しやすいイベントや行事等の開催	障害や病気への正しい理解と啓発活動	学校や地域社会での福祉教育の充実	その他	特にない	無回答
全体		1,346 100.0	265 19.7	65 4.8	113 8.4	189 14.0	269 20.0	226 16.8	452 33.6	255 18.9	43 3.2	295 21.9	289 21.5
障害の種類別	視覚障害	78 100.0	24 30.8	7 9.0	14 17.9	21 26.9	25 32.1	17 21.8	27 34.6	18 23.1	1 1.3	11 14.1	14 17.9
	聴覚・平衡機能障害	72 100.0	13 18.1	16 22.2	17 23.6	18 25.0	17 23.6	17 23.6	25 34.7	18 25.0	3 4.2	10 13.9	14 19.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	69 100.0	10 14.5	2 2.9	5 7.2	6 8.7	9 13.0	9 13.0	28 40.6	16 23.2	-	11 15.9	24 34.8
	肢体不自由	699 100.0	153 21.9	29 4.1	50 7.2	93 13.3	142 20.3	131 18.7	251 35.9	141 20.2	26 3.7	134 19.2	141 20.2
	内部障害	408 100.0	69 16.9	13 3.2	34 8.3	58 14.2	78 19.1	52 12.7	140 34.3	73 17.9	12 2.9	105 25.7	85 20.8
	その他	92 100.0	10 10.9	3 3.3	4 4.3	5 5.4	16 17.4	16 17.4	21 22.8	13 14.1	4 4.3	23 25.0	30 32.6
	無回答	42 100.0	7 16.7	-	1 2.4	3 7.1	5 11.9	2 4.8	3 7.1	3 7.1	-	9 21.4	22 52.4

10 余暇活動について

(1) 余暇時間にしていること

問 43 あなたは、時間に余裕があるときにどのようなことをしていますか。(あてはまるものすべてに○)

図表 I - 91 余暇時間にしていること



男女別に見ると、「友人や知人と会って交流を深める」という回答は、女性が男性を 17 ポイント上回っています。一方、「家の周りを散歩する」という回答は、男性が女性をほぼ 10 ポイント上回っています。

図表 I - 92 余暇時間にしていること【男女別】

		全体	家でゆっくりくつろぐ	家で趣味、体操、学習活動などを行う	家の周りを散歩する	友人や知人と会って交流を深める	デパートや店などに出かける	映画、音楽、観劇、行事などへ行く	スポーツしに出かける	図書館や博物館などへ行く	その他	特に何もしていない	無回答
全体		1,391 100.0	841 60.5	294 21.1	329 23.7	326 23.4	316 22.7	199 14.3	108 7.8	118 8.5	91 6.5	136 9.8	119 8.6
男女別	男性	687 100.0	415 60.4	134 19.5	197 28.7	101 14.7	123 17.9	83 12.1	55 8.0	62 9.0	46 6.7	72 10.5	57 8.3
	女性	685 100.0	415 60.6	155 22.6	130 19.0	222 32.4	188 27.4	114 16.6	53 7.7	53 7.7	43 6.3	63 9.2	61 8.9
	無回答	19 100.0	11 57.9	5 26.3	2 10.5	3 15.8	5 26.3	2 10.5	-	3 15.8	2 10.5	1 5.3	1 5.3

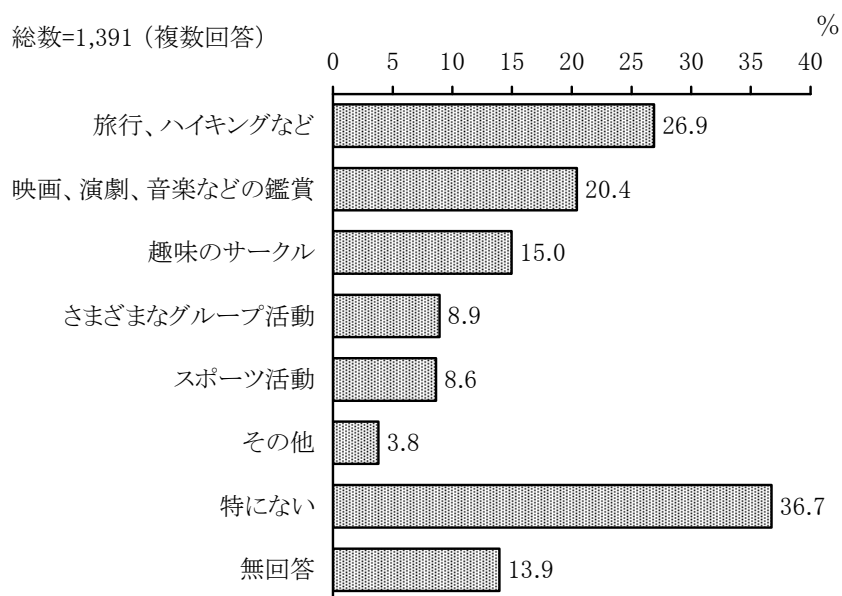
（２）今後参加したい活動

問 44 あなたは現在の生活をより豊かにするために、どのような活動に参加したいと思っていますか。（あてはまるものすべてに○）

今後参加したい活動としては、「旅行、ハイキングなど」が26.9%で最も多く、「映画、演劇、音楽などの鑑賞」が20.4%、「趣味のサークル」が15.0%、「さまざまなグループ活動」が8.9%、「スポーツ活動」が8.6%で続きます。

「特にない」は36.7%となっています。

図表 I - 93 今後参加したい活動



11 権利擁護について

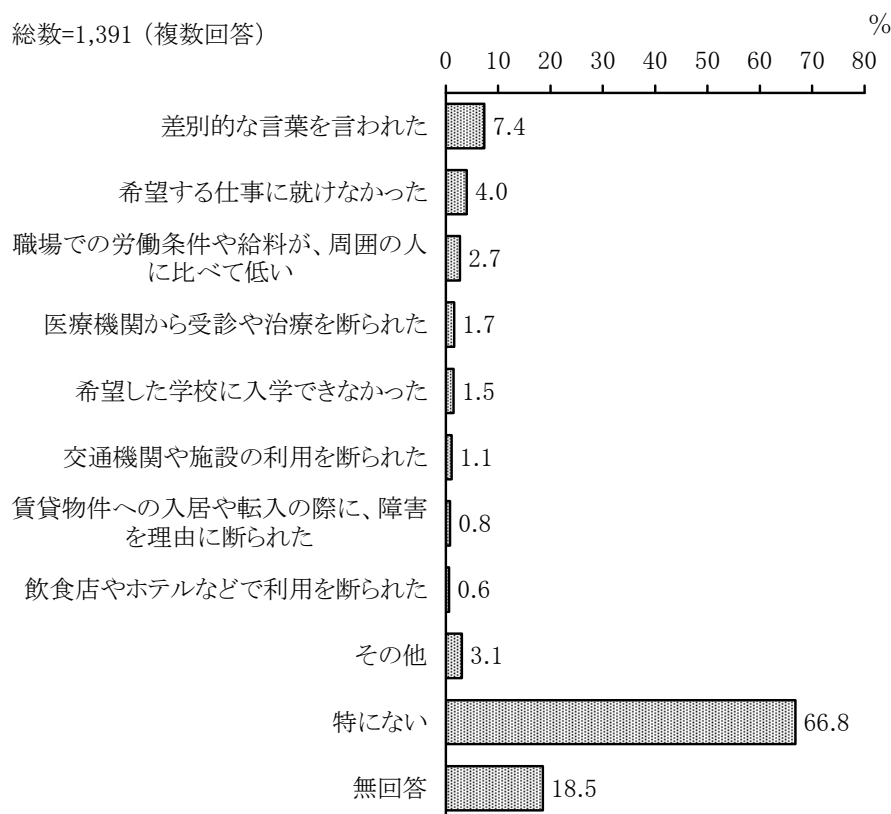
(1) 人権を損なう扱いを受けた経験の有無

問 45 あなたは、障害があることが原因で、人権を損なう扱いを受けた経験がありますか。(あてはまるものすべてに○)

受けたことのある経験としては、「差別的な言葉を言われた」が7.4%で最も多く、「希望する仕事に就けなかった」が4.0%で続きます。

「特にない」は66.8%となっています。

図表 I - 94 人権を損なう扱いを受けた経験の有無



年代別に見ると、「差別的な言葉を言われた」という回答は、40 歳代以下の年代で2割台であり、50 歳代以上の年代と比べて割合が多くなっています。「希望する仕事に就けなかった」という回答は、40 歳代で 21.1%となっており、他の年代に比べて割合が多くなっています。

図表 I - 95 人権を損なう扱いを受けた経験の有無【年代別】

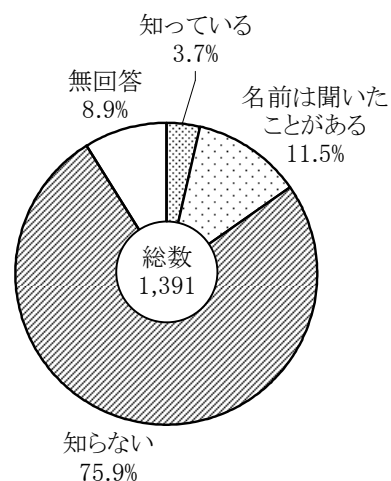
		全体	希望した学校に入学できなかった	希望する仕事に就けなかった	職場での労働条件や給料が、周囲の人に比べて低い	交通機関や施設の利用を断られた	医療機関から受診や治療を断られた	賃貸物件への入居や理由に断られた	飲食店やホテルなどで利用を断られた	差別的な言葉を言われた	その他	特にない	無回答
全体		1,391 100.0	21 1.5	56 4.0	38 2.7	15 1.1	23 1.7	11 0.8	9 0.6	103 7.4	43 3.1	929 66.8	258 18.5
年代別	18歳未満	28 100.0	3 10.7	-	-	4 14.3	-	-	-	7 25.0	2 7.1	17 60.7	1 3.6
	18～29歳	22 100.0	2 9.1	1 4.5	2 9.1	1 4.5	1 4.5	1 4.5	1 4.5	5 22.7	2 9.1	10 45.5	3 13.6
	30～39歳	29 100.0	1 3.4	4 13.8	3 10.3	-	1 3.4	1 3.4	-	7 24.1	4 13.8	13 44.8	5 17.2
	40～49歳	71 100.0	5 7.0	15 21.1	9 12.7	1 1.4	6 8.5	-	1 1.4	20 28.2	7 9.9	26 36.6	7 9.9
	50～59歳	126 100.0	4 3.2	10 7.9	5 4.0	1 0.8	2 1.6	2 1.6	1 0.8	19 15.1	7 5.6	82 65.1	14 11.1
	60～69歳	332 100.0	2 0.6	14 4.2	7 2.1	4 1.2	4 1.2	3 0.9	3 0.9	21 6.3	6 1.8	258 77.7	32 9.6
	70歳以上	754 100.0	2 0.3	10 1.3	11 1.5	3 0.4	8 1.1	4 0.5	2 0.3	21 2.8	12 1.6	509 67.5	189 25.1
	無回答	29 100.0	2 6.9	2 6.9	1 3.4	1 3.4	1 3.4	-	1 3.4	3 10.3	3 10.3	14 48.3	7 24.1

(2) 船橋市障害者虐待防止センターの認知状況

問 46 あなたは、「船橋市障害者虐待防止センター（通称：は〜ぶ）」を知っていますか。（どれか1つに○）

図表 I - 96 船橋市障害者虐待防止センターの認知状況

「知らない」が 75.9%で最も多く、「名前は聞いたことがある」が 11.5%で続きます。「知っている」は 3.7%にとどまっています。

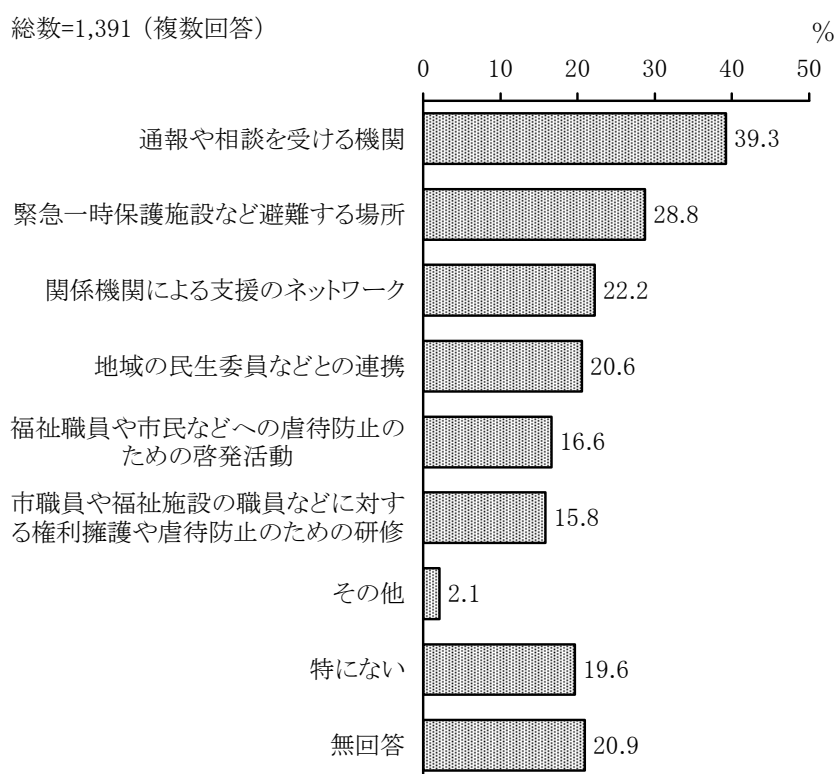


(3) 障害者虐待の防止に必要な制度・体制

問 47 障害者虐待の防止のために、あなたは、市がどのような制度や体制を整備する必要がありますか。(あてはまるものすべてに○)

「通報や相談を受ける機関」が 39.3%で最も多く、「緊急一時保護施設など避難する場所」が 28.8%、「関係機関による支援のネットワーク」が 22.2%、「地域の民生委員などとの連携」が 20.6%で続きます。

図表 I - 97 障害者虐待の防止に必要な制度・体制



年代別に見ると、「通報や相談を受ける機関」という回答は、40～49歳で63.4%となっており、50歳代以上では年代とともに割合が減少しています。「関係機関による支援のネットワーク」という回答は、40～49歳で45.1%となっており、他の年代に比べて割合が多くなっています。

図表 I - 98 障害者虐待の防止に必要な制度・体制【年代別】

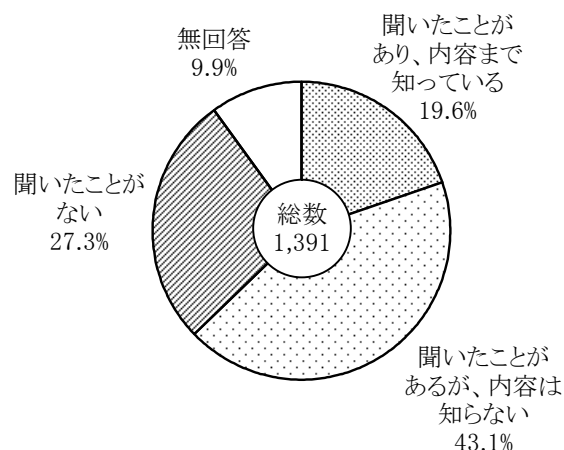
		全体	通報や相談を受ける機関	緊急一時保護施設など 避難する場所	関係機関による支援の ネットワーク	福祉職員や市民などへの 虐待防止のための啓発 活動	市職員や福祉施設の職員 などに対する権利擁護や 虐待防止のための研修	地域の民生委員などとの 連携	その他	特にない	無回答
全体		1,391 100.0	546 39.3	400 28.8	309 22.2	231 16.6	220 15.8	286 20.6	29 2.1	273 19.6	291 20.9
年代別	18歳未満	28 100.0	13 46.4	14 50.0	11 39.3	9 32.1	13 46.4	8 28.6	1 3.6	4 14.3	1 3.6
	18～29歳	22 100.0	13 59.1	9 40.9	6 27.3	5 22.7	4 18.2	3 13.6	－ －	1 4.5	2 9.1
	30～39歳	29 100.0	12 41.4	9 31.0	6 20.7	6 20.7	7 24.1	6 20.7	2 6.9	6 20.7	4 13.8
	40～49歳	71 100.0	45 63.4	26 36.6	32 45.1	13 18.3	17 23.9	20 28.2	3 4.2	4 5.6	5 7.0
	50～59歳	126 100.0	64 50.8	42 33.3	33 26.2	27 21.4	29 23.0	28 22.2	6 4.8	20 15.9	17 13.5
	60～69歳	332 100.0	156 47.0	120 36.1	92 27.7	79 23.8	67 20.2	69 20.8	10 3.0	51 15.4	49 14.8
	70歳以上	754 100.0	233 30.9	174 23.1	125 16.6	89 11.8	79 10.5	147 19.5	5 0.7	180 23.9	208 27.6
	無回答	29 100.0	10 34.5	6 20.7	4 13.8	3 10.3	4 13.8	5 17.2	2 6.9	7 24.1	5 17.2

(4) 成年後見制度の認知状況

問 48 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(どれか1つに○)

図表 I - 99 成年後見制度の認知状況

「聞いたことがあり、内容まで知っている」が19.6%、「聞いたことがあがあるが、内容は知らない」が43.1%であり、全体の62.7%が成年後見制度について聞いたことがあると回答しています。「聞いたことがない」は27.3%となっています。



12 災害・緊急時の対応について

(1) 緊急な病状になったときに不安なこと

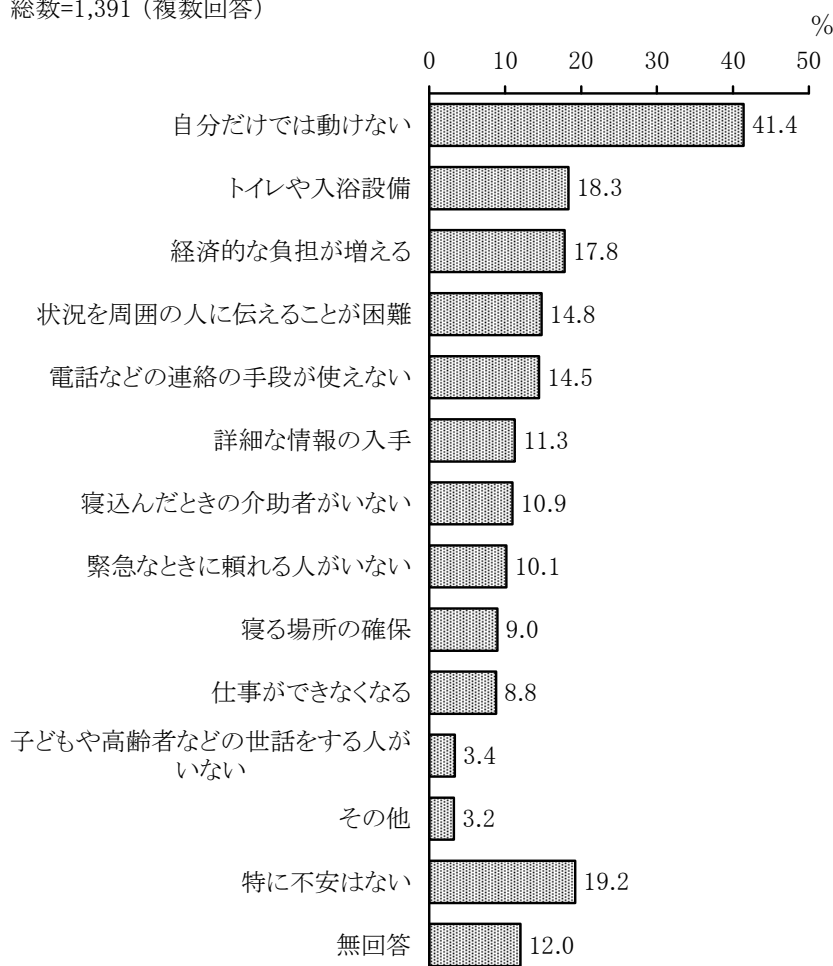
問 49 もし、あなたが緊急な病状になったことを考えると、特に不安に感じることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

緊急な病状になったときに不安なこととしては、「自分だけでは動けない」が41.4%で最も多く、「トイレや入浴設備」が18.3%、「経済的な負担が増える」が17.8%、「状況を周囲の人に伝えることが困難」が14.8%、「電話などの連絡の手段が使えない」が14.5%で続きます。

「特に不安はない」は19.2%となっています。

図表 I-100 緊急な病状になったときに不安なこと

総数=1,391 (複数回答)



年代別に見ると、「経済的な負担が増える」という回答は、40～49歳と50～59歳で3割台となっているほか、「仕事ができなくなる」という回答は40～49歳で5割弱であり、他の年代に比べて割合が多くなっています。

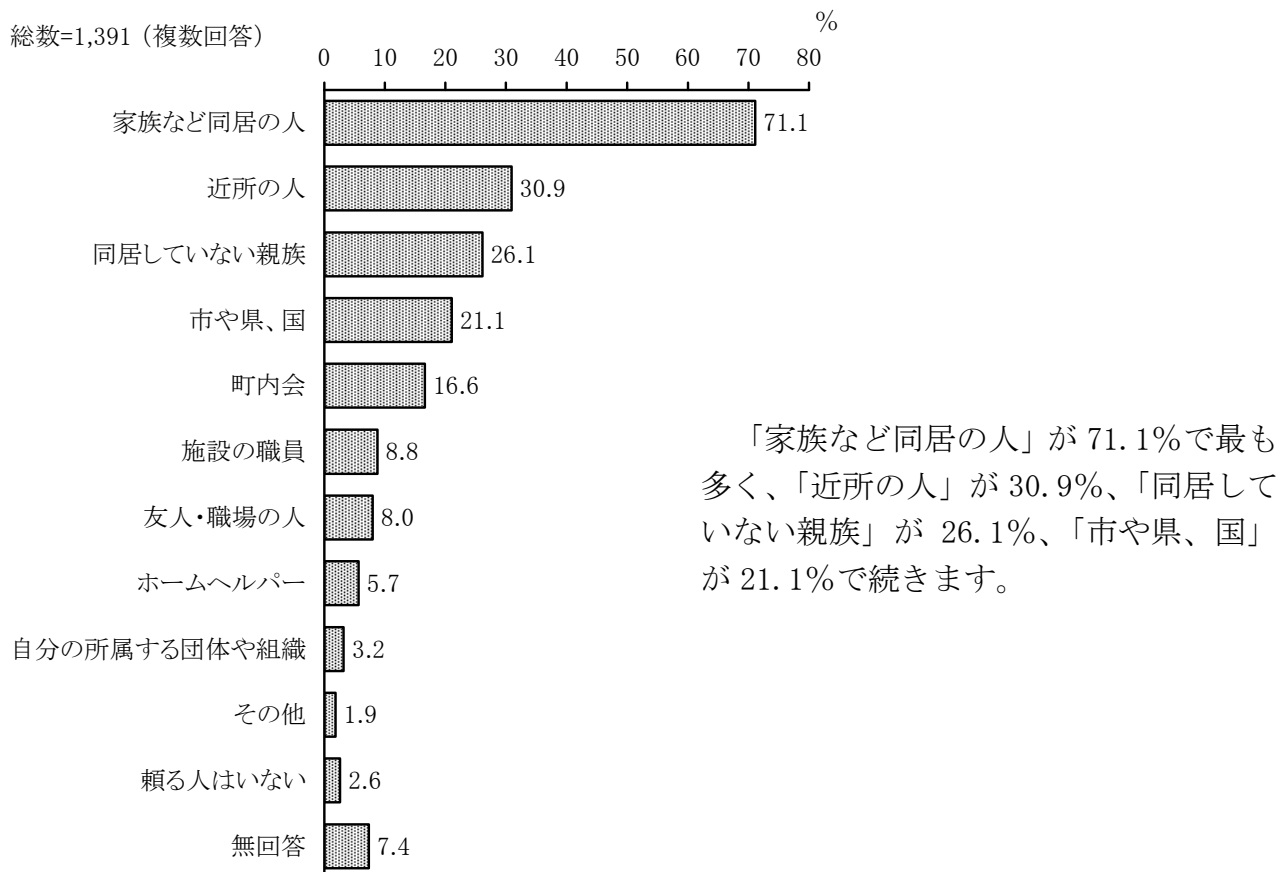
図表 I - 101 緊急な病状になったときに不安なこと【年代別】

	全体	自分だけでは動けない	状況に伝えることが困難	電話などの連絡手段が使えない	緊急なときに頼れる人がいない	経済的な負担が増える	寝込んだとき介助者がいない	仕事ができなくなる	子どもや高齢者などの世話をする人がいない	寝る場所の確保	トイレや入浴設備	詳細な情報の入手	その他	特に不安はない	無回答
全体	1,391 100.0	576 41.4	206 14.8	201 14.5	141 10.1	248 17.8	152 10.9	122 8.8	47 3.4	125 9.0	255 18.3	157 11.3	45 3.2	267 19.2	167 12.0
年代別	18歳未満	28 100.0	16 57.1	12 42.9	12 42.9	5 17.9	3 10.7	1 3.6	-	5 17.9	8 28.6	8 28.6	1 3.6	6 21.4	1 3.6
	18～29歳	22 100.0	8 36.4	3 13.6	6 27.3	2 9.1	3 13.6	-	7 31.8	1 4.5	2 9.1	3 13.6	2 9.1	3 13.6	1 4.5
	30～39歳	29 100.0	11 37.9	6 20.7	6 20.7	2 6.9	3 10.3	2 6.9	7 24.1	4 13.8	4 13.8	3 10.3	2 6.9	4 13.8	1 3.4
	40～49歳	71 100.0	24 33.8	7 9.9	11 15.5	15 21.1	26 36.6	13 18.3	33 46.5	8 11.3	9 12.7	15 21.1	6 8.5	3 4.2	8 11.3
	50～59歳	126 100.0	41 32.5	14 11.1	15 11.9	16 12.7	43 34.1	15 11.9	35 27.8	8 6.3	12 9.5	18 14.3	13 10.3	2 1.6	19 15.1
	60～69歳	332 100.0	107 32.2	43 13.0	34 10.2	24 7.2	61 18.4	35 10.5	22 6.6	8 2.4	29 8.7	64 19.3	48 14.5	14 4.2	87 26.2
	70歳以上	754 100.0	359 47.6	117 15.5	112 14.9	73 9.7	105 13.9	82 10.9	15 2.0	61 8.1	136 18.0	70 9.3	20 2.7	133 17.6	120 15.9
	無回答	29 100.0	10 34.5	4 13.8	5 17.2	4 13.8	4 13.8	4 13.8	3 10.3	2 6.9	4 13.8	8 27.6	6 20.7	1 3.4	7 24.1

(2) 地震や火災等のときに頼りにする人

問 50 あなたは、地震や火災などが起きたら、どなたを頼りにしたいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

図表 I - 102 地震や火災等のときに頼りにする人



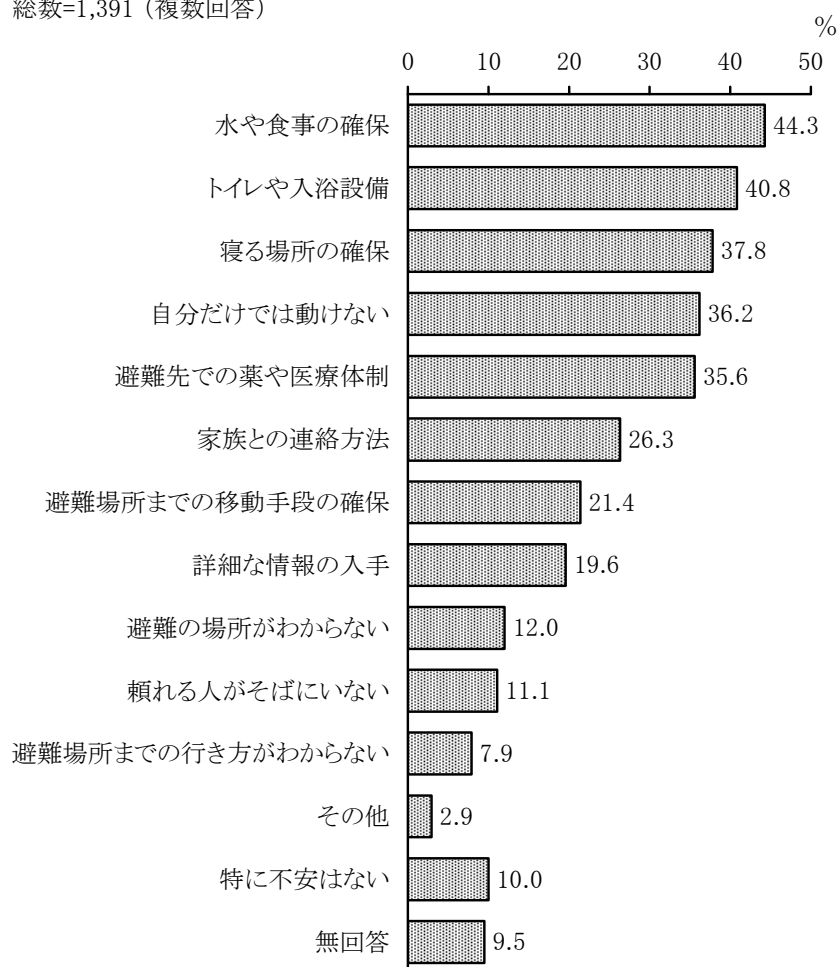
(3) 緊急に避難する場合に不安なこと

問 51 地震や火事、台風などのために、緊急に避難しなければならなくなったことを考えると、あなたが不安に感じることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「水や食事の確保」が44.3%で最も多く、「トイレや入浴設備」が40.8%、「寝る場所の確保」が37.8%、「自分だけでは動けない」が36.2%、「避難先での薬や医療体制」が35.6%で続きます。

図表 I - 103 緊急に避難する場合に不安なこと

総数=1,391 (複数回答)



障害の種類別に見ると、「自分だけでは動けない」という回答は視覚障害者で60.3%、音声・言語・そしゃく機能障害者で55.1%となっているほか、「家族との連絡方法」という回答は聴覚・平衡機能障害者で45.8%であり、他の障害のある回答者との差が大きくなっています。

図表 I - 104 緊急に避難する場合に不安なこと【障害の種類別】

		全体	自分だけでは動けない	頼れる人がそばにいない	避難の場所がわからない	避難場所までの行き方がわからない	避難場所までの移動手段の確保	避難先での薬や医療体制	家族との連絡方法
全体		1,346 100.0	494 36.7	152 11.3	164 12.2	107 7.9	296 22.0	482 35.8	354 26.3
障害の種類別	視覚障害	78 100.0	47 60.3	17 21.8	26 33.3	18 23.1	25 32.1	29 37.2	25 32.1
	聴覚・平衡機能障害	72 100.0	30 41.7	10 13.9	11 15.3	5 6.9	12 16.7	20 27.8	33 45.8
	音声・言語・そしゃく機能障害	69 100.0	38 55.1	7 10.1	6 8.7	3 4.3	12 17.4	24 34.8	21 30.4
	肢体不自由	699 100.0	319 45.6	79 11.3	81 11.6	53 7.6	182 26.0	228 32.6	180 25.8
	内部障害	408 100.0	90 22.1	40 9.8	46 11.3	31 7.6	64 15.7	180 44.1	90 22.1
	その他	92 100.0	31 33.7	18 19.6	9 9.8	6 6.5	20 21.7	33 35.9	21 22.8
	無回答	42 100.0	15 35.7	5 11.9	4 9.5	3 7.1	8 19.0	10 23.8	9 21.4

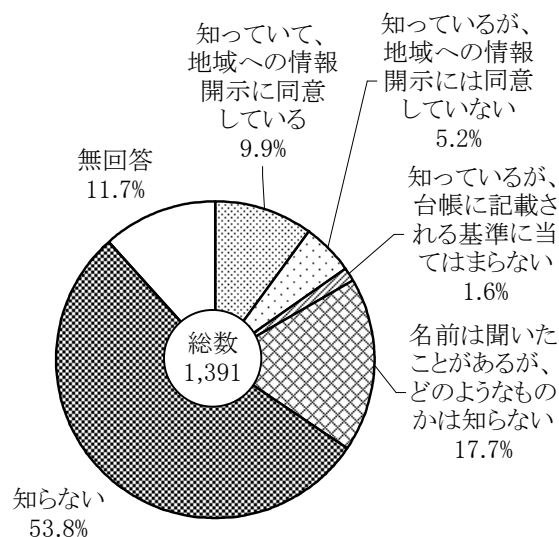
		水や食事の確保	寝る場所の確保	トイレや入浴設備	詳細な情報の入手	その他	特に不安はない	無回答
全体		602 44.7	513 38.1	552 41.0	265 19.7	39 2.9	132 9.8	123 9.1
障害の種類別	視覚障害	40 51.3	34 43.6	31 39.7	20 25.6	3 3.8	6 7.7	4 5.1
	聴覚・平衡機能障害	32 44.4	27 37.5	28 38.9	25 34.7	4 5.6	6 8.3	5 6.9
	音声・言語・そしゃく機能障害	30 43.5	24 34.8	30 43.5	16 23.2	4 5.8	2 2.9	11 15.9
	肢体不自由	329 47.1	301 43.1	325 46.5	134 19.2	18 2.6	50 7.2	55 7.9
	内部障害	173 42.4	133 32.6	147 36.0	67 16.4	12 2.9	56 13.7	41 10.0
	その他	38 41.3	29 31.5	33 35.9	20 21.7	3 3.3	10 10.9	6 6.5
	無回答	13 31.0	12 28.6	13 31.0	5 11.9	2 4.8	5 11.9	13 31.0

(4)「災害時要援護者台帳」の認知状況

問52 あなたは、災害時要援護者台帳を知っていますか。(どれか1つに○)

図表 I - 105 「災害時要援護者台帳」の認知状況

「知らない」が53.8%で最も多く、「名前は聞いたことがあるが、どのようなものかは知らない」が17.7%であり、全体の71.5%が災害時要援護者台帳の内容を認識していません。「要援護者台帳を知っていて、地域への情報開示に同意している」は9.9%、「要援護者台帳を知っているが、地域への情報開示には同意していない」は5.2%となっています。



I

身体障害者調査

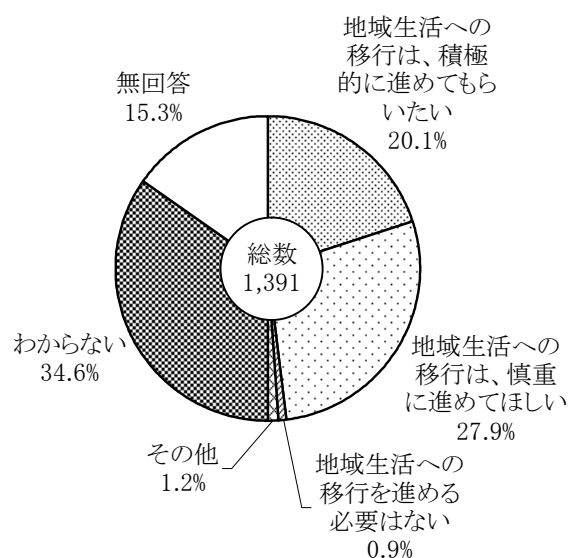
13 障害者総合支援法について

(1) 入所者・入院者の地域生活移行への考え方

問53 市では、「第3期船橋市障害福祉計画」に基づき、現在、福祉施設に入所または病院に入院している障害者で退所・退院が可能な人について、地域生活への移行を支援しています。このことについて、あなたはどのように思いますか。(どれか1つに○)

図表 I - 106 入所者・入院者の地域生活移行への考え方

「地域生活への移行は、積極的に進めてもらいたい」が20.1%、「地域生活への移行は、慎重に進めてほしい」が27.9%となっています。「わからない」は34.6%です。

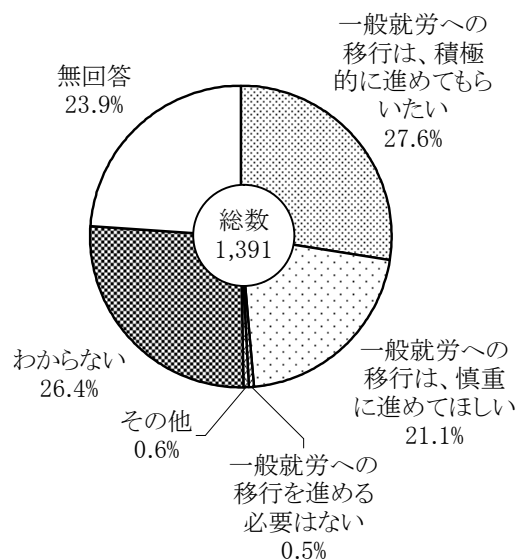


(2) 福祉的就労から一般就労への移行への考え方

問54 現在、福祉的就労（障害者の作業所などでの就労）をしている障害者のうち、訓練により一般就労（企業等への就労、在宅での就労）が可能となる人について、市では一般就労への移行を支援しています。このことについて、あなたはどのように思いますか。（どれか1つに○）

図表 I - 107 福祉的就労から一般就労への移行への考え方

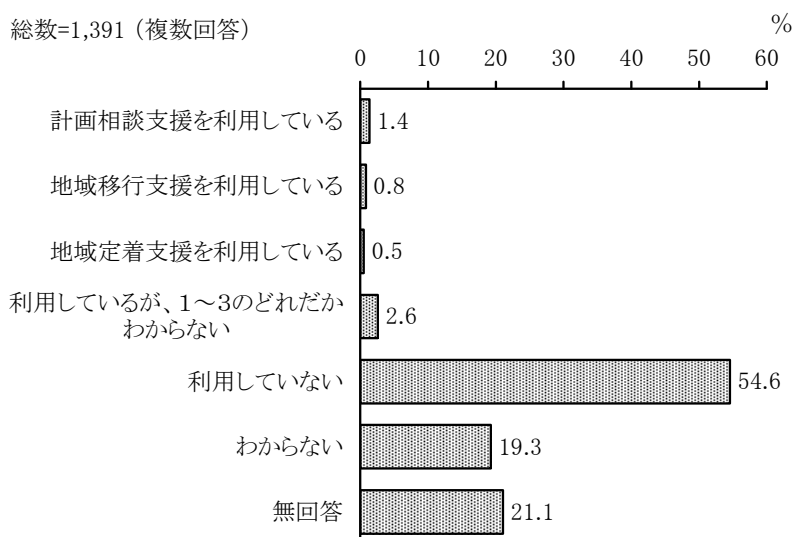
「一般就労への移行は、積極的に進めてもらいたい」が27.6%、「一般就労への移行は、慎重に進めてほしい」が21.1%となっています。「わからない」は26.4%です。



(3) 相談支援事業の利用状況

問55 あなたは、次のような相談支援事業を利用していますか。（あてはまるものすべてに○）

図表 I - 108 相談支援事業の利用状況



利用している相談支援事業としては、「利用しているが、1～3※のどれかわからない」が2.6%であり、これ以外の回答はいずれも1%前後です。

「利用していない」は54.6%、「わからない」は19.3%となっています。

※1～3：1. 計画相談支援を利用している
2. 地域移行支援を利用している
3. 地域定着支援を利用している

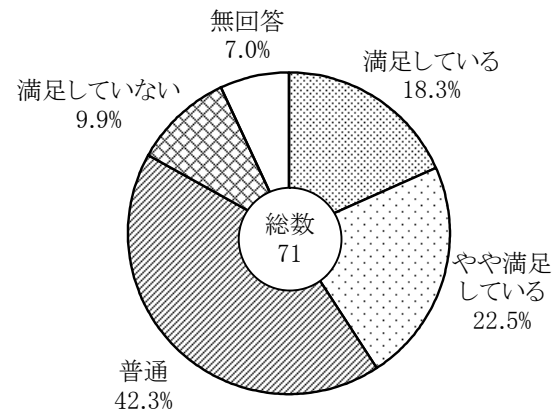
(4) 相談支援事業の満足度

問 55-1 【問 55 で 1～4*を選んだ方にうかがいます。】あなたは、相談支援事業に満足していますか。(どれか1つに○)

「満足している」が 18.3%、「やや満足している」が 22.5%であり、全体の 40.8%が相談支援事業に満足しています。「普通」は 42.3%、「満足していない」は 9.9%となっています。

※1～4：1. 計画相談支援を利用している、2. 地域移行支援を利用している、3. 地域定着支援を利用している、4. 利用しているが、1～3のどれかわからない

図表 I - 109 相談支援事業の満足度



(5) 相談支援事業の不満理由

問 55-2 【問 55-1 で 4*を選んだ方にうかがいます。】あなたが満足していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

相談支援事業に満足していないと回答したのは7人であり、「相談支援の制度がわかりにくい」を選んだのが4人、「相談支援の内容が雑であったり、ニーズに合っていない」「相談支援利用に対する自己負担が大きい」を選んだのがそれぞれ2人です。

図表 I - 110 相談支援事業の不満理由

全体	相談支援の制度がわかりにくい	相談支援の利用の面倒	相談支援の回数や日数が少ない	相談支援の1回当たりの時間が少ない	相談支援を利用したい日時調整が大変	相談支援の内容が雑であったり、ニーズに合っていない	相談支援を提供する人の態度がよくない	相談支援利用に対する自己負担が大きい	その他	無回答
7 100.0	4 57.1	1 14.3	-	1 14.3	-	2 28.6	-	2 28.6	-	-

※4：「満足していない」

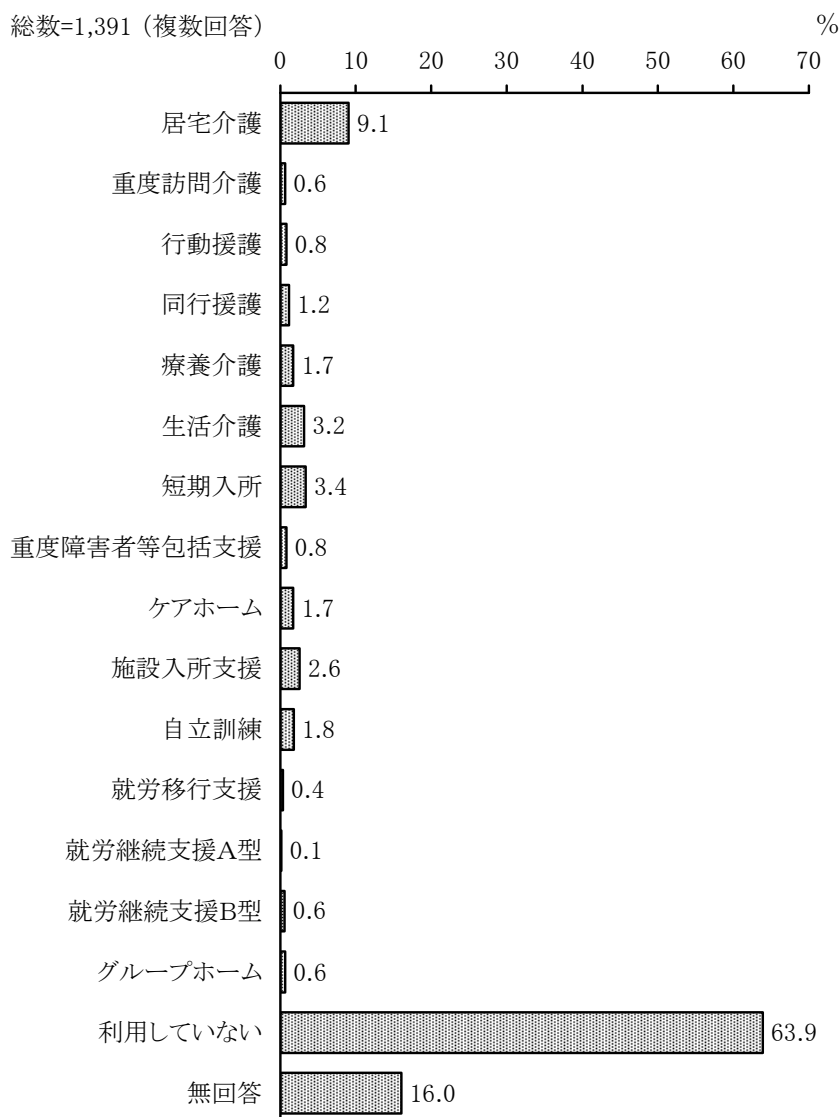
（6）障害福祉サービスの利用状況

問56 あなたは、どのような障害福祉サービスを利用していますか。（あてはまるものすべてに○）

利用しているサービスとしては、「居宅介護」が9.1%で最も多く、「短期入所」が3.4%、「生活介護」が3.2%で続きます。

「利用していない」は63.9%となっています。

図表 I - 111 障害福祉サービスの利用状況



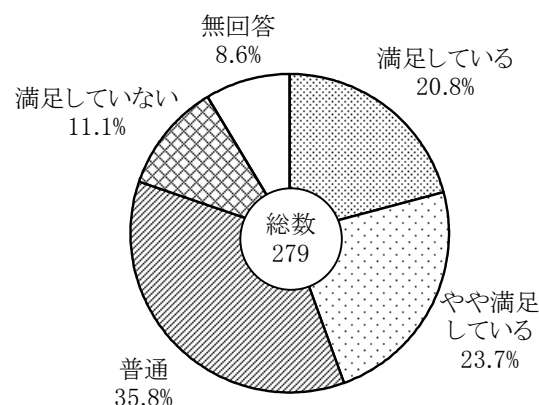
(7) 障害福祉サービスの満足度

問 56-1 【問 56 で 1～15※を選んだ方にうかがいます。】あなたは、利用しているサービスに満足していますか。(どれか1つに○)

「満足している」が 20.8%、「やや満足している」が 23.7%であり、全体の 44.5%がサービスに満足しています。「普通」が 35.8%で最も多く、「満足していない」は 11.1%となっています。

※1～15:「居宅介護(ホームヘルプ)」「重度訪問介護」「行動援護」「同行援護」「療養介護」「生活介護」「短期入所(ショートステイ)」「重度障害者等包括支援」「ケアホーム(共同生活介護)」「施設入所支援」「自立訓練」「就労移行支援」「就労継続支援A型」「就労継続支援B型」「グループホーム(共同生活援助)」

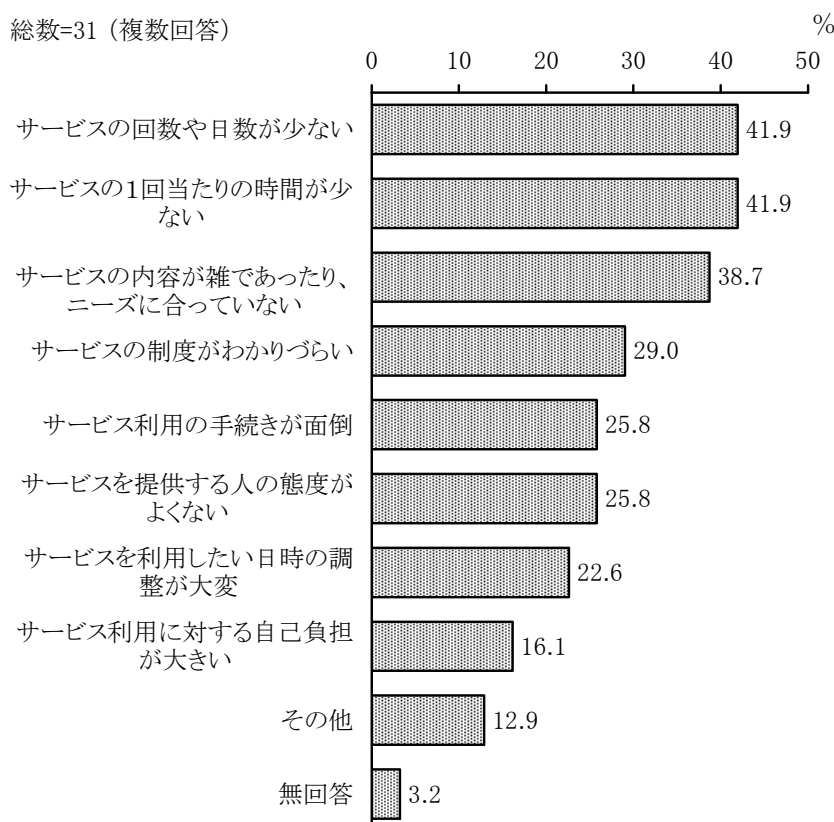
図表 I-112 障害福祉サービスの満足度



(8) 障害福祉サービスの不満理由

問 56-2 【問 56-1 で 4※を選んだ方にうかがいます。】あなたが満足していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表 I-113 障害福祉サービスの不満理由



「サービスの回数や日数が少ない」「サービスの1回当たりの時間が少ない」がそれぞれ 41.9%でともに多く、「サービスの内容が雑であったり、ニーズに合っていない」が 38.7%、「サービスの制度がわかりづらい」が 29.0%で続きます。

※4:「満足していない」

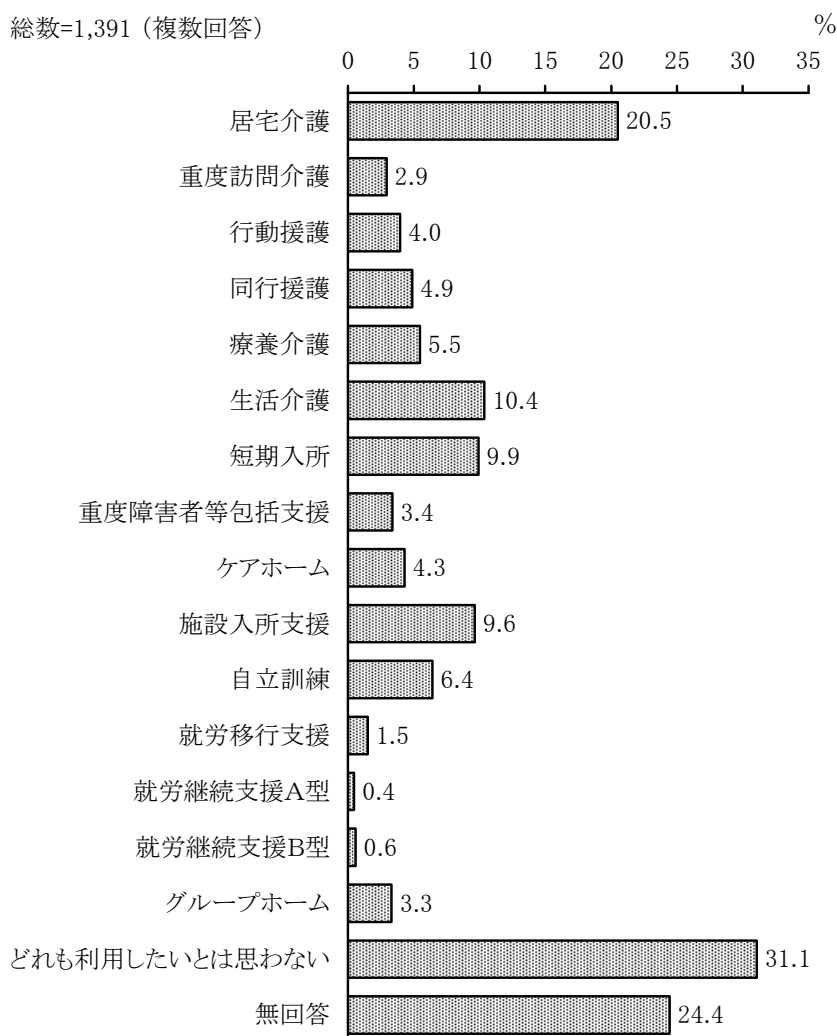
（9）障害福祉サービスの利用意向

問 57 今後、あなたが利用したいと思う障害福祉サービスは何ですか。現在利用している方もお答えください。（あてはまるものすべてに○）

今後、利用したいと思う障害福祉サービスとしては、「居宅介護」が 20.5%で最も多く、「生活介護」が 10.4%、「短期入所」が 9.9%、「施設入所支援」が 9.6%で続きます。

「どれも利用したいとは思わない」は 31.1%となっています。

図表 I - 114 障害福祉サービスの利用意向



障害の種類別に見ると、視覚障害者では「同行援護」という回答が 24.4%であり、「居宅介護」(29.5%)に続いて多くなっています。

図表 I - 115 障害福祉サービスの利用意向【障害の種類別】

		全体	居宅介護	重度訪問介護	行動援護	同行援護	療養介護	生活介護	短期入所	重度障害者等 包括支援
全体		1,346 100.0	277 20.6	38 2.8	53 3.9	67 5.0	74 5.5	138 10.3	133 9.9	46 3.4
障害の種類別	視覚障害	78 100.0	23 29.5	4 5.1	10 12.8	19 24.4	7 9.0	14 17.9	13 16.7	5 6.4
	聴覚・平衡機能障害	72 100.0	9 12.5	1 1.4	1 1.4	5 6.9	4 5.6	10 13.9	11 15.3	-
	音声・言語・そしゃく 機能障害	69 100.0	10 14.5	2 2.9	1 1.4	4 5.8	6 8.7	3 4.3	8 11.6	6 8.7
	肢体不自由	699 100.0	157 22.5	19 2.7	32 4.6	38 5.4	39 5.6	67 9.6	83 11.9	25 3.6
	内部障害	408 100.0	77 18.9	12 2.9	10 2.5	10 2.5	23 5.6	46 11.3	30 7.4	14 3.4
	その他	92 100.0	15 16.3	3 3.3	2 2.2	4 4.3	3 3.3	4 4.3	7 7.6	4 4.3
	無回答	42 100.0	10 23.8	3 7.1	1 2.4	1 2.4	2 4.8	5 11.9	2 4.8	-

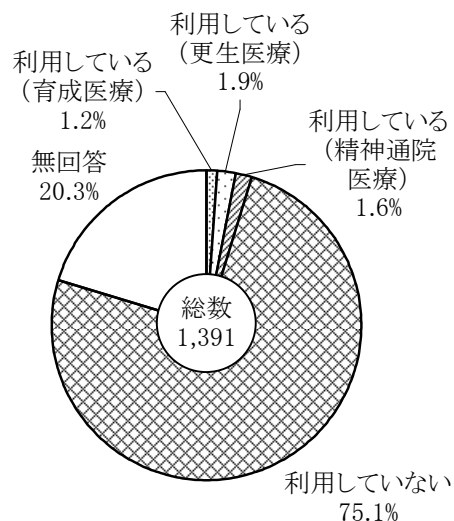
		ケアホーム	施設入所支援	自立訓練	就労移行支援	就労継続支援 A型	就労継続支援 B型	グループホーム	どれも利用しない	無回答
全体		58 4.3	131 9.7	84 6.2	20 1.5	6 0.4	8 0.6	43 3.2	420 31.2	329 24.4
障害の種類別	視覚障害	5 6.4	10 12.8	2 2.6	1 1.3	1 1.3	1 1.3	2 2.6	23 29.5	12 15.4
	聴覚・平衡機能障害	2 2.8	3 4.2	4 5.6	1 1.4	1 1.4	2 2.8	1 1.4	31 43.1	19 26.4
	音声・言語・そしゃく 機能障害	2 2.9	12 17.4	4 5.8	1 1.4	-	1 1.4	2 2.9	15 21.7	22 31.9
	肢体不自由	38 5.4	84 12.0	59 8.4	14 2.0	3 0.4	4 0.6	25 3.6	191 27.3	157 22.5
	内部障害	10 2.5	31 7.6	17 4.2	4 1.0	1 0.2	1 0.2	10 2.5	146 35.8	103 25.2
	その他	4 4.3	10 10.9	2 2.2	2 2.2	-	-	1 1.1	25 27.2	29 31.5
	無回答	2 4.8	3 7.1	2 4.8	-	-	-	2 4.8	6 14.3	19 45.2

(10) 自立支援医療の利用状況

問58 あなたは、「自立支援医療」を利用していますか。(どれか1つに○)

図表 I - 116 自立支援医療の利用状況

「利用している（育成医療）」「利用している（更生医療）」「利用している（精神通院医療）」とも1%台であり、「利用していない」は75.1%となっています。

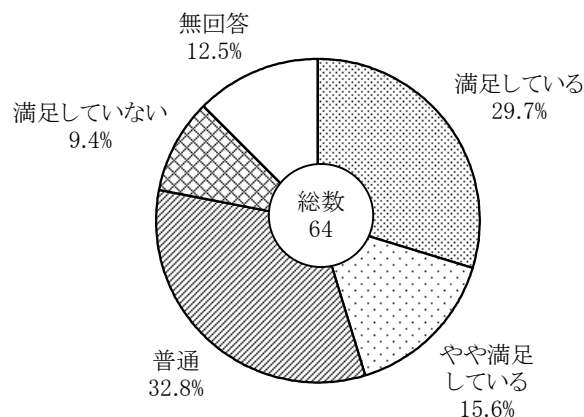


(11) 自立支援医療の満足度

問58-1 【問58で1～3*を選んだ方にうかがいます。】あなたは、自立支援医療に満足していますか。(どれか1つに○)

図表 I - 117 自立支援医療の満足度

「満足している」が29.7%、「やや満足している」が15.6%であり、全体の45.3%が自立支援医療に満足しています。「普通」は32.8%、「満足していない」は9.4%となっています。



※1～3：「利用している（育成医療）」「利用している（更生医療）」「利用している（精神通院医療）」

(12) 自立支援医療の不满理由

問 58-2 【問 58-1 で 4※を選んだ方にうかがいます。】あなたが満足していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

自立支援医療に満足していないと回答したのは6人で、「自立支援医療の制度が使いづらい」を選んだのが4人、「自立支援医療の制度がわかりづらい」を選んだのが3人です。

※4:「満足していない」

図表 I - 118 自立支援医療の不满理由

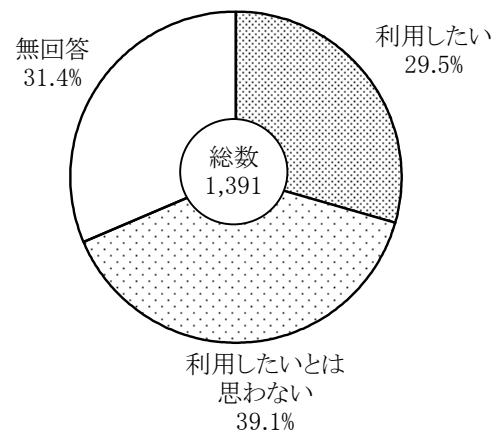
全体	自立支援医療の制度がわかりづらい	自立支援医療の制度が使いづらい	医療費の自己負担が大きい	その他	無回答
6 100.0	3 50.0	4 66.7	1 16.7	-	-

(13) 自立支援医療の利用意向

問 59 今後、あなたは「自立支援医療」を利用したいと思いますか。現在利用している方もお答えください。(どれか1つに○)

「利用したい」が 29.5%、「利用したいとは思わない」が 39.1%となっています。

図表 I - 119 自立支援医療の利用意向



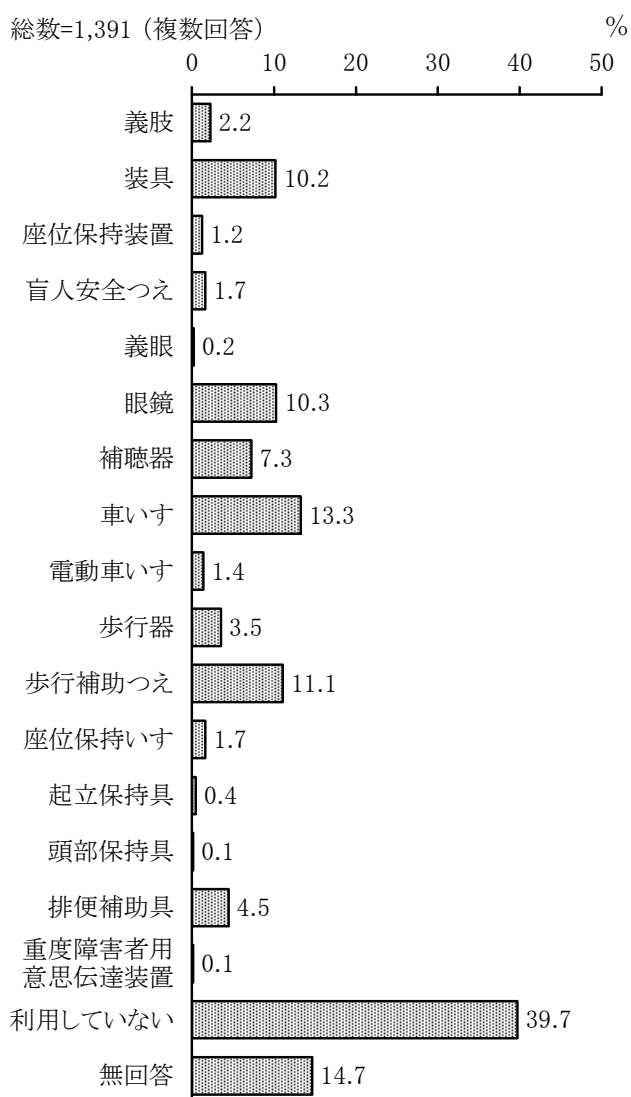
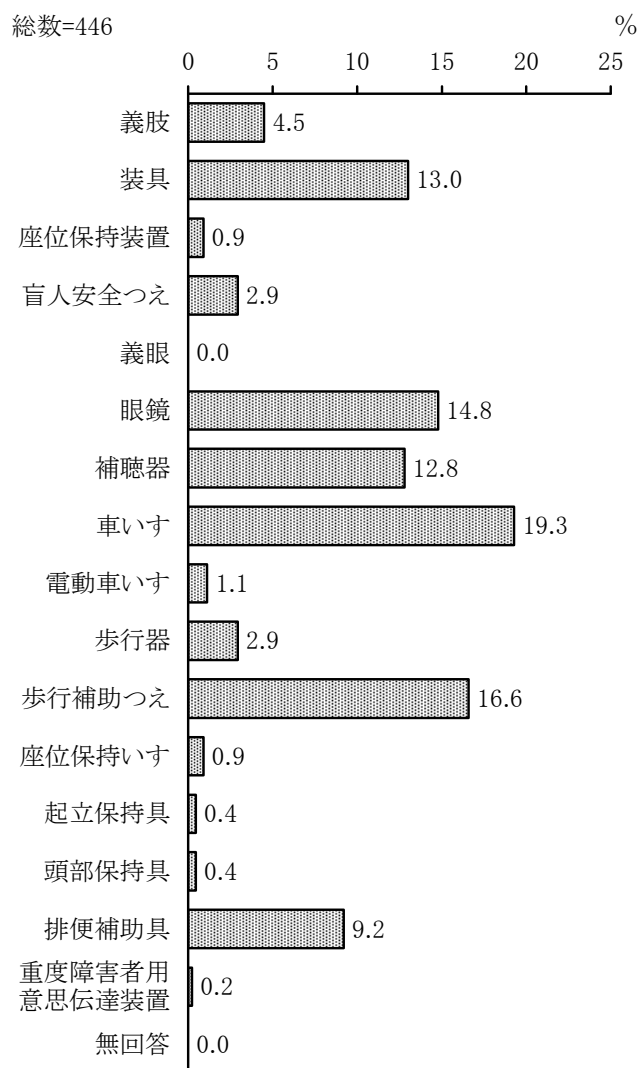
(14) 補装具の利用状況

問 60 あなたは、どのような補装具を利用していますか。(あてはまるものすべてに○、主なもの1つには◎)

利用している補装具としては、「車いす」が13.3%で最も多く、「歩行補助つえ」が11.1%、「眼鏡」が10.3%、「装具」が10.2%で続きます。「利用していない」は39.7%となっています。

主に利用している補装具について回答があった中では、「車いす」が19.3%で最も多く、「歩行補助つえ」が16.6%、「眼鏡」が14.8%、「装具」が13.0%、「補聴器」が12.8%で続きます。

図表 I - 120 補装具の利用状況

図表 I - 121 補装具の利用状況
【主に利用している補装具】

利用している補装具について、障害の種類別に見ると、視覚障害者では「眼鏡」が38.5%で最も多く、「盲人安全つえ」が25.6%で続きます。また、聴覚・平衡機能障害者では「補聴器」が72.2%で最も多くなっています。

図表 I - 122 補装具の利用状況【障害の種類別】

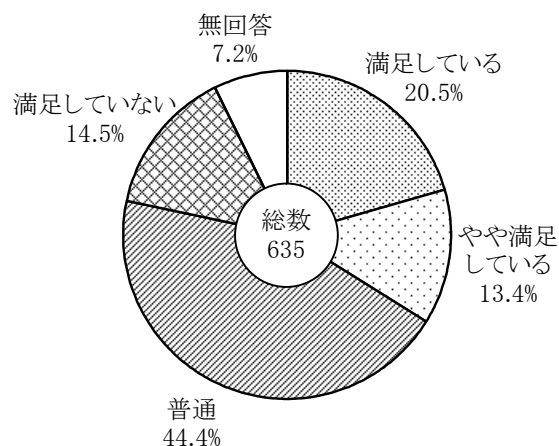
		全体	義肢	装具	座位保持装置	盲人安全つえ	義眼	眼鏡	補聴器	車いす	電動車いす
全体		1,346 100.0	31 2.3	139 10.3	17 1.3	22 1.6	3 0.2	138 10.3	101 7.5	180 13.4	19 1.4
障害の種類別	視覚障害	78 100.0	- -	7 9.0	- -	20 25.6	2 2.6	30 38.5	4 5.1	9 11.5	2 2.6
	聴覚・平衡機能障害	72 100.0	- -	2 2.8	1 1.4	- -	- -	11 15.3	52 72.2	4 5.6	- -
	音声・言語・そしゃく機能障害	69 100.0	1 1.4	12 17.4	1 1.4	- -	- -	5 7.2	2 2.9	17 24.6	1 1.4
	肢体不自由	699 100.0	28 4.0	111 15.9	16 2.3	1 0.1	- -	60 8.6	30 4.3	147 21.0	13 1.9
	内部障害	408 100.0	- -	24 5.9	1 0.2	- -	1 0.2	40 9.8	27 6.6	23 5.6	1 0.2
	その他	92 100.0	2 2.2	2 2.2	- -	- -	- -	5 5.4	4 4.3	10 10.9	3 3.3
	無回答	42 100.0	1 2.4	3 7.1	- -	1 2.4	- -	1 2.4	- -	7 16.7	2 4.8
		歩行器	歩行補助つえ	座位保持いす	起立保持具	頭部保持具	排便補助具	重度障害者用 意思伝達装置	利用して いない	無回答	
全体		47 3.5	149 11.1	22 1.6	6 0.4	2 0.1	61 4.5	2 0.1	530 39.4	195 14.5	
障害の種類別	視覚障害	4 5.1	5 6.4	- -	1 1.3	- -	3 3.8	- -	17 21.8	4 5.1	
	聴覚・平衡機能障害	4 5.6	2 2.8	1 1.4	- -	- -	1 1.4	1 1.4	8 11.1	8 11.1	
	音声・言語・そしゃく機能障害	1 1.4	9 13.0	1 1.4	1 1.4	1 1.4	2 2.9	1 1.4	20 29.0	16 23.2	
	肢体不自由	33 4.7	133 19.0	19 2.7	5 0.7	2 0.3	15 2.1	1 0.1	248 35.5	82 11.7	
	内部障害	5 1.2	12 2.9	3 0.7	2 0.5	- -	37 9.1	1 0.2	204 50.0	72 17.6	
	その他	3 3.3	4 4.3	2 2.2	- -	- -	5 5.4	- -	48 52.2	15 16.3	
	無回答	3 7.1	3 7.1	- -	- -	- -	2 4.8	- -	7 16.7	19 45.2	

(15) 補装具の満足度

問 60-1 【問 60 で 1～16※を選んだ方にうかがいます。】あなたは、利用している主な補装具に満足していますか。（どれか1つに○）

図表 I - 123 補装具の満足度

「満足している」が 20.5%、「やや満足している」が 13.4%であり、全体の 33.9%が利用している補装具に満足しています。「普通」は 44.4%、「満足していない」は 14.5%となっています。



障害の種類別に見ると、「満足していない」という回答は聴覚・平衡機能障害者で 41.1%であり、他の障害のある回答者との差が大きくなっています。

図表 I - 124 補装具の満足度【障害の種類別】

		全体	満足している	やや満足している	普通	満足していない	無回答
	全体	621 100.0	125 20.1	84 13.5	274 44.1	92 14.8	46 7.4
障害の種類別	視覚障害	57 100.0	13 22.8	7 12.3	24 42.1	8 14.0	5 8.8
	聴覚・平衡機能障害	56 100.0	11 19.6	9 16.1	12 21.4	23 41.1	1 1.8
	音声・言語・そしゃく機能障害	33 100.0	3 9.1	7 21.2	17 51.5	5 15.2	1 3.0
	肢体不自由	369 100.0	80 21.7	53 14.4	165 44.7	44 11.9	27 7.3
	内部障害	132 100.0	22 16.7	18 13.6	61 46.2	23 17.4	8 6.1
	その他	29 100.0	7 24.1	1 3.4	13 44.8	2 6.9	6 20.7
	無回答	16 100.0	-	2 12.5	10 62.5	1 6.3	3 18.8

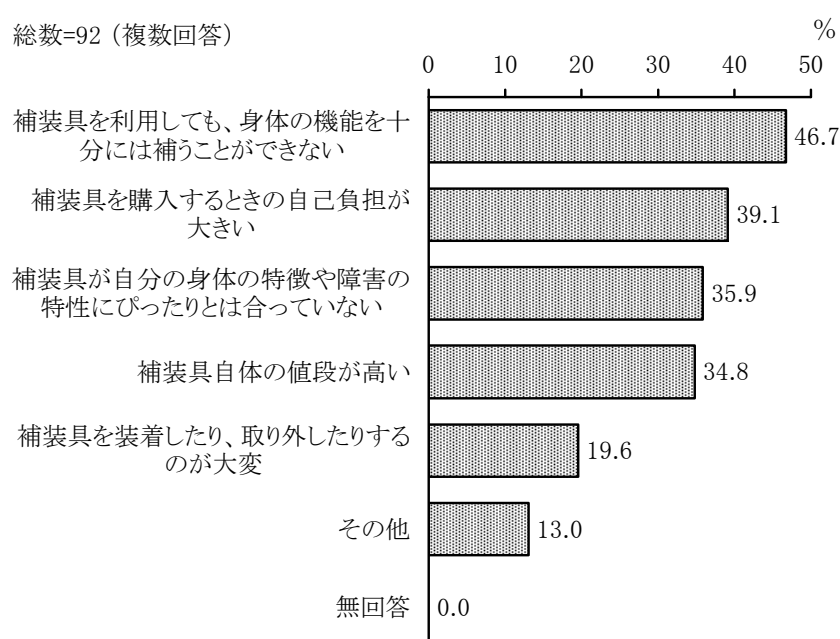
※1～16：「義肢」「装具」「座位保持装置」「盲人安全つえ」「義眼」「眼鏡」「補聴器」「車いす」「電動車いす」「歩行器」「歩行補助つえ（T字つえを除く）」「座位保持いす」「起立保持具」「頭部保持具」「排便補助具」「重度障害者用意意思伝達装置」

(16) 補装具の不満理由

問 60-2 【問 60-1 で 4※を選んだ方にうかがいます。】あなたが満足していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「補装具を利用しても、身体の機能を十分には補うことができない」が 46.7%で最も多く、「補装具を購入するときの自己負担が大きい」が 39.1%、「補装具が自分の身体の特徴や障害の特性にぴったりとは合っていない」が 35.9%、「補装具自体の値段が高い」が 34.8%で続きます。

図表 I - 125 補装具の不満理由



※4:「満足していない」

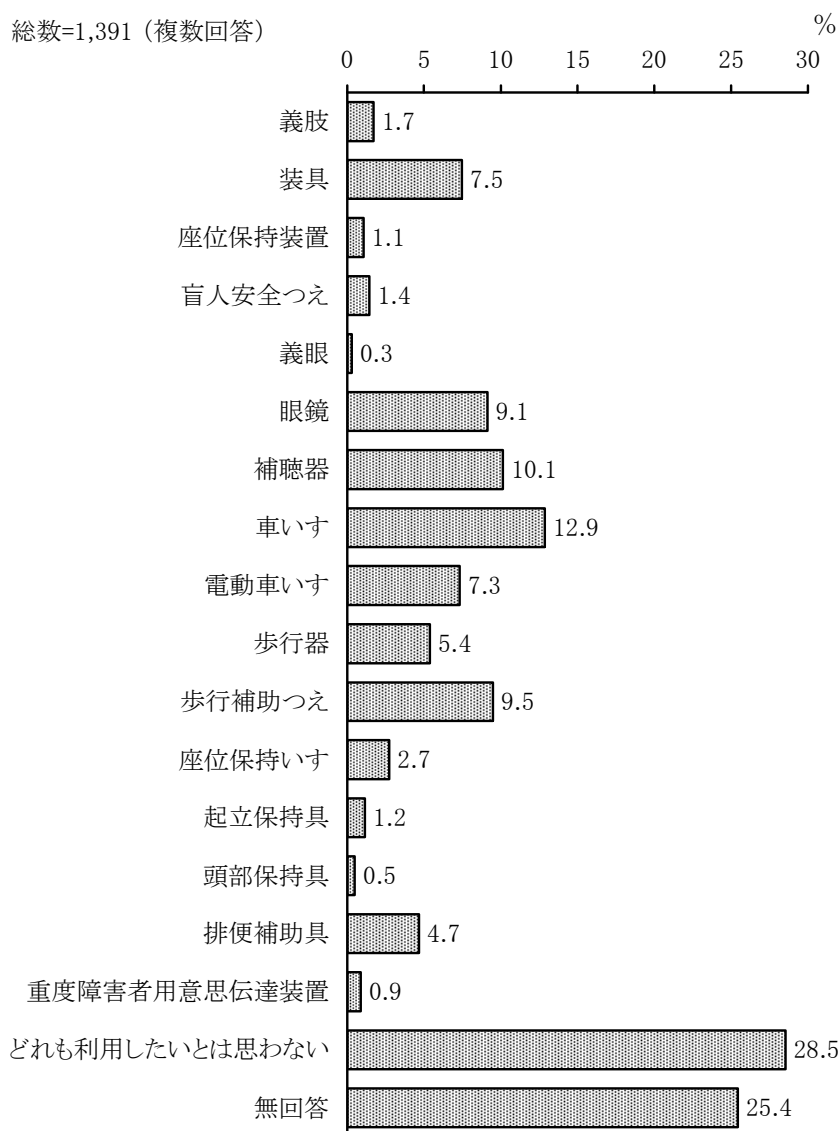
(17) 補装具の利用意向

問 61 今後、あなたが利用したいと思う補装具は何ですか。現在利用している方もお答えください。(あてはまるものすべてに○)

今後、利用したいと思う補装具としては、「車いす」が12.9%で最も多く、「補聴器」が10.1%、「歩行補助つえ」が9.5%、「眼鏡」が9.1%で続きます。

「どれも利用したいとは思わない」は28.5%となっています。

図表 I - 126 補装具の利用意向



障害の種類別に見ると、視覚障害者では「眼鏡」が 32.1%で最も多く、「盲人安全つえ」が 23.1%で続きます。また、聴覚・平衡機能障害者では「補聴器」が 68.1%で最も多くなっています。

図表 I - 127 補装具の利用意向【障害の種類別】

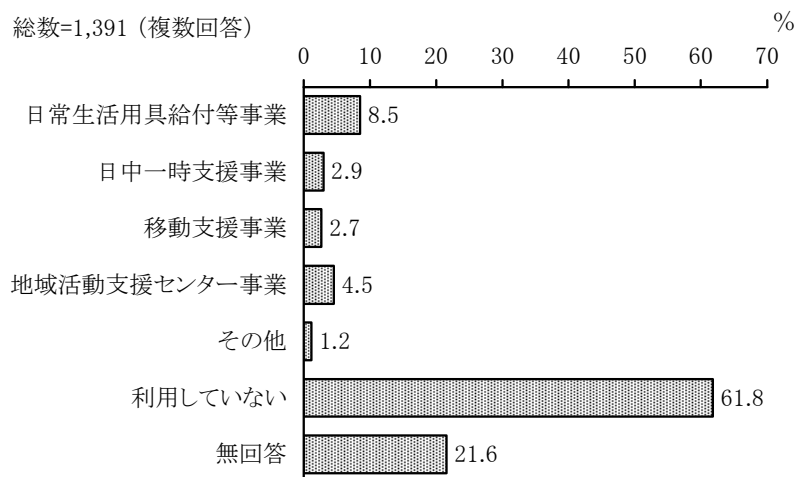
		全体	義肢	装具	座位保持装置	盲人安全つえ	義眼	眼鏡	補聴器	車いす	電動車いす
全体		1,346 100.0	24 1.8	101 7.5	14 1.0	20 1.5	4 0.3	121 9.0	140 10.4	172 12.8	98 7.3
障害の種類別	視覚障害	78 100.0	- -	4 5.1	- -	18 23.1	2 2.6	25 32.1	6 7.7	8 10.3	5 6.4
	聴覚・平衡機能障害	72 100.0	- -	- -	1 1.4	- -	- -	11 15.3	49 68.1	5 6.9	1 1.4
	音声・言語・そしゃく機能障害	69 100.0	- -	10 14.5	1 1.4	- -	- -	3 4.3	2 2.9	8 11.6	1 1.4
	肢体不自由	699 100.0	20 2.9	85 12.2	11 1.6	2 0.3	1 0.1	47 6.7	49 7.0	130 18.6	67 9.6
	内部障害	408 100.0	1 0.2	16 3.9	2 0.5	2 0.5	- -	39 9.6	41 10.0	31 7.6	24 5.9
	その他	92 100.0	1 1.1	1 1.1	1 1.1	- -	- -	6 6.5	8 8.7	12 13.0	4 4.3
	無回答	42 100.0	2 4.8	1 2.4	- -	- -	1 2.4	2 4.8	3 7.1	4 9.5	2 4.8

		歩行器	歩行補助つえ	座位保持いす	起立保持具	頭部保持具	排便補助具	重度障害者用 意思伝達装置	どれも利用 したいとは思わない	無回答
全体		74 5.5	128 9.5	37 2.7	16 1.2	7 0.5	64 4.8	12 0.9	387 28.8	338 25.1
障害の種類別	視覚障害	6 7.7	6 7.7	1 1.3	2 2.6	1 1.3	4 5.1	- -	14 17.9	13 16.7
	聴覚・平衡機能障害	3 4.2	1 1.4	2 2.8	- -	1 1.4	1 1.4	1 1.4	8 11.1	11 15.3
	音声・言語・そしゃく機能障害	2 2.9	8 11.6	4 5.8	1 1.4	2 2.9	1 1.4	1 1.4	18 26.1	28 40.6
	肢体不自由	54 7.7	106 15.2	23 3.3	11 1.6	4 0.6	21 3.0	10 1.4	194 27.8	158 22.6
	内部障害	11 2.7	20 4.9	9 2.2	4 1.0	1 0.2	33 8.1	- -	144 35.3	106 26.0
	その他	2 2.2	3 3.3	2 2.2	1 1.1	- -	7 7.6	- -	25 27.2	34 37.0
	無回答	2 4.8	- -	- -	- -	- -	2 4.8	- -	5 11.9	23 54.8

(18) 地域生活支援事業の利用状況

問 62 あなたは、船橋市が実施している地域生活支援事業のうち、どのようなものを利用していますか。(あてはまるものすべてに○)

図表 I - 128 地域生活支援事業の利用状況



利用している地域生活支援事業としては、「日常生活用具給付等事業」が8.5%で最も多く、「地域活動支援センター事業」が4.5%で続きます。

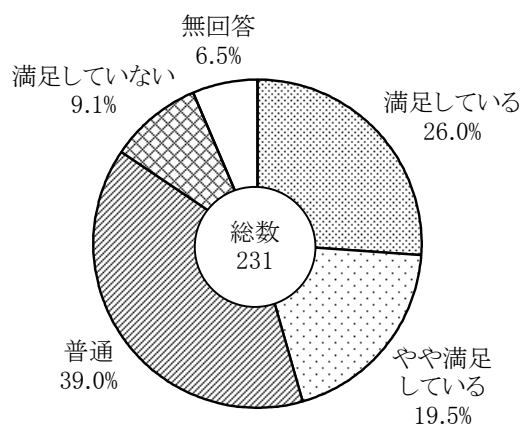
「利用していない」は61.8%となっています。

(19) 地域生活支援事業の満足度

問 62-1 【問 62 で 1~5*を選んだ方にうかがいます。】あなたは、利用している主な事業に満足していますか。(どれか1つに○)

図表 I - 129 地域生活支援事業の満足度

「満足している」が26.0%、「やや満足している」が19.5%であり、全体の45.5%が地域生活支援事業に満足しています。「普通」は39.0%、「満足していない」は9.1%となっています。



※1~5:「日常生活用具給付等事業」「日中一時支援事業」「移動支援事業」「地域活動支援センター事業」「その他」

(20) 地域生活支援事業の不满理由

問 62-2 【問 62-1 で 4*を選んだ方にうかがいます。】あなたが満足していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

地域生活支援事業に満足していないと回答したのは 21 人であり、「サービス利用の手続きが面倒」「サービス利用に対する自己負担が大きい」がそれぞれ 8 人 (38.1%) でともに多くなっています。「サービスの制度がわかりづらい」「サービスの回数や日数が少ない」がそれぞれ 7 人 (33.3%) で続きます。

図表 I - 130 地域生活支援事業の不满理由

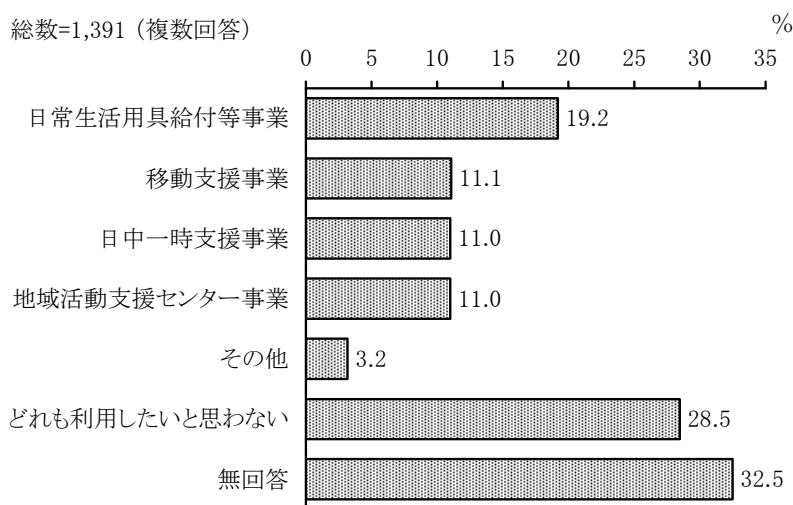
全体	サービスの制度がわかりづらい	サービス利用の手続きが面倒	サービスの回数や日数が少ない	サービスの1回当たりの時間が少ない	サービスの利用したい日時調整が大変	サービスの利用が雑であつたり、ニーズに合っていない	サービスを提供する人の態度がよくない	サービス利用に対する自己負担が大きい	その他	無回答
21 100.0	7 33.3	8 38.1	7 33.3	4 19.0	3 14.3	4 19.0	2 9.5	8 38.1	4 19.0	- -

※4:「満足していない」

(21) 地域生活支援事業の利用意向

問 63 今後、あなたが利用したいと思う地域生活支援事業は何ですか。現在利用している方もお答えください。(あてはまるものすべてに○)

図表 I - 131 地域生活支援事業の利用意向



今後、利用したいと思う地域生活支援事業としては、「日常生活用具給付等事業」が 19.2% で最も多く、「移動支援事業」が 11.1%、「日中一時支援事業」「地域活動支援センター事業」がそれぞれ 11.0% で続きます。

「どれも利用したいと思わない」は 28.5% となっています。

障害の種類別に見ると、「日常生活用具給付等事業」という回答は視覚障害者と聴覚・平衡機能障害者で3割前後であり、他の障害のある回答者との差が大きくなっています。

図表 I - 132 地域生活支援事業の利用意向【障害の種類別】

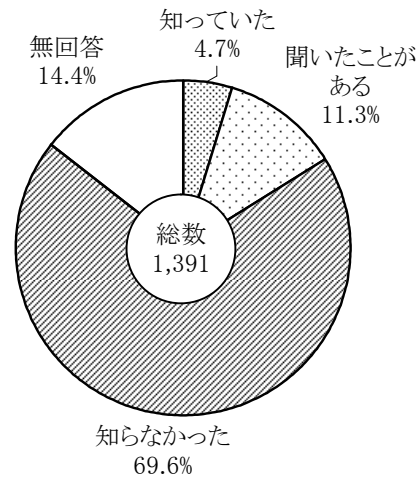
		全 体	日 常 生 活 用 具 給 付 等 事 業	日 中 一 時 支 援 事 業	移 動 支 援 事 業	セ ン タ ー 活 動 支 援 事 業	そ の 他	ど れ も 利 用 し た い と 思 わ な い	無 回 答
	全体	1,346 100.0	259 19.2	148 11.0	150 11.1	147 10.9	43 3.2	382 28.4	435 32.3
障害 の 種 類 別	視覚障害	78 100.0	26 33.3	14 17.9	16 20.5	11 14.1	2 2.6	18 23.1	16 20.5
	聴覚・平衡機能障害	72 100.0	21 29.2	8 11.1	8 11.1	9 12.5	5 6.9	15 20.8	20 27.8
	音声・言語・そしゃく 機能障害	69 100.0	9 13.0	8 11.6	6 8.7	5 7.2	4 5.8	15 21.7	28 40.6
	肢体不自由	699 100.0	128 18.3	92 13.2	95 13.6	82 11.7	31 4.4	190 27.2	222 31.8
	内部障害	408 100.0	70 17.2	32 7.8	35 8.6	34 8.3	5 1.2	135 33.1	132 32.4
	その他	92 100.0	12 13.0	4 4.3	2 2.2	15 16.3	5 5.4	22 23.9	38 41.3
	無回答	42 100.0	8 19.0	3 7.1	3 7.1	-	1 2.4	8 19.0	24 57.1

(22) 難病患者等の対象者追加の認知状況

問 64 平成 25 年度から、障害福祉サービス等の利用の対象者に難病患者等が追加されました。あなたは、対象者に難病患者等が追加されたことを知っていましたか。
(どれか1つに○)

図表 I - 133 難病患者等の対象者追加の認知状況

「知っていた」が 4.7%、「聞いたことがある」が 11.3%であるのに対し、「知らなかった」が 69.6%で多くなっています。



難病のための特定疾患医療受給者票の所持状況別に見ると、「知らなかった」は特定疾患医療受給者票を持っていない回答者で 75.0%であり、特定疾患医療受給者票を持っている回答者でも 59.8%を占めています。

図表 I - 134 難病患者等の対象者追加の認知状況【受給者票の所持状況別】

	全体	知っていた	聞いたことがある	知らなかった	無回答
全体	1,391 100.0	66 4.7	157 11.3	968 69.6	200 14.4
持っている	102 100.0	15 14.7	16 15.7	61 59.8	10 9.8
持っていない	885 100.0	35 4.0	96 10.8	664 75.0	90 10.2
無回答	404 100.0	16 4.0	45 11.1	243 60.1	100 24.8

14 船橋市の障害者福祉について

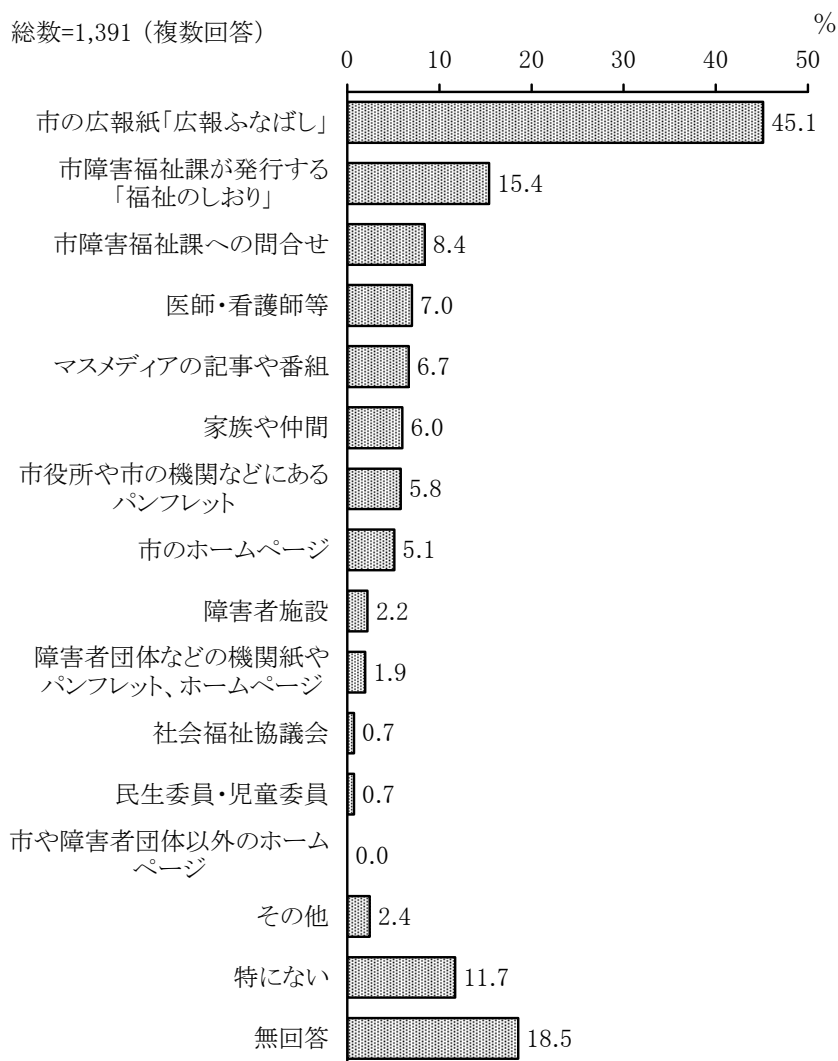
(1) 福祉サービス情報の入手方法

問 65 あなたは、障害のある人のための市の福祉サービスの内容について、どのよう
なところで知ることが多いですか。(主なものを2つまでに○)

福祉サービス情報の入手先としては、「市の広報紙「広報ふなばし」」が45.1%で最も多く、「市障害福祉課が発行する「福祉のしおり」」が15.4%、「市障害福祉課への問合せ」が8.4%、「医師・看護師等」が7.0%、「マスメディアの記事や番組」が6.7%で続きます。

「特にない」は11.7%となっています。

図表 I-135 福祉サービス情報の入手方法

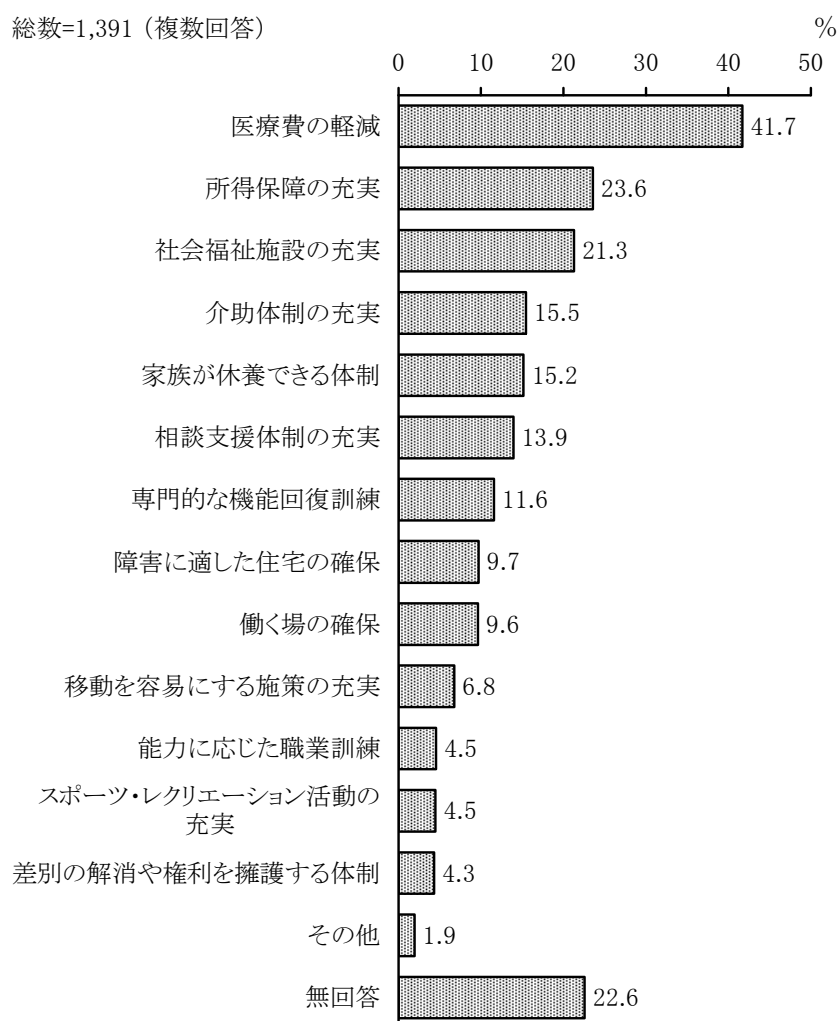


(2) 今後必要だと思う福祉施策

問 66 あなたが今後、必要だと思う障害者福祉施策は何ですか。(主なもの3つまでに○)

「医療費の軽減」が 41.7%で最も多く、「所得保障の充実」が 23.6%、「社会福祉施設の充実」が 21.3%、「介助体制の充実」が 15.5%、「家族が休養できる体制」が 15.2%で続きます。

図表 I - 136 今後必要だと思う福祉施策



年代別に見ると、40～49 歳では「医療費の軽減」「所得保障の充実」が4割台となっており、「働く場の確保」が31.0%で続きます。

図表 I - 137 今後必要だと思う福祉施策【年代別】

		全体	所得保障の充実	医療費の軽減	社会福祉施設の充実	障害に適した住宅の確保	移動を容易にする施策の充実	介助体制の充実	相談支援体制の充実	専門的な機能回復訓練	能力に応じた職業訓練	働く場の確保
全体		1,391 100.0	328 23.6	580 41.7	296 21.3	135 9.7	94 6.8	215 15.5	194 13.9	161 11.6	63 4.5	134 9.6
年代別	18歳未満	28 100.0	5 17.9	5 17.9	6 21.4	3 10.7	2 7.1	4 14.3	6 21.4	5 17.9	1 3.6	12 42.9
	18～29歳	22 100.0	14 63.6	8 36.4	1 4.5	2 9.1	- -	- -	2 9.1	3 13.6	2 9.1	7 31.8
	30～39歳	29 100.0	21 72.4	12 41.4	6 20.7	1 3.4	3 10.3	1 3.4	5 17.2	3 10.3	3 10.3	8 27.6
	40～49歳	71 100.0	29 40.8	30 42.3	20 28.2	11 15.5	4 5.6	9 12.7	10 14.1	5 7.0	7 9.9	22 31.0
	50～59歳	126 100.0	41 32.5	60 47.6	21 16.7	14 11.1	11 8.7	13 10.3	15 11.9	13 10.3	5 4.0	21 16.7
	60～69歳	332 100.0	92 27.7	160 48.2	64 19.3	42 12.7	24 7.2	56 16.9	55 16.6	46 13.9	19 5.7	38 11.4
	70歳以上	754 100.0	119 15.8	300 39.8	175 23.2	61 8.1	49 6.5	131 17.4	95 12.6	84 11.1	25 3.3	24 3.2
	無回答	29 100.0	7 24.1	5 17.2	3 10.3	1 3.4	1 3.4	1 3.4	6 20.7	2 6.9	1 3.4	2 6.9

		ス ポ ー ン ツ 活 動 の 充 実 エ ー	家族が休養できる体制	差別の解消や権利を擁護する体制	その他	無回答
全体		62 4.5	211 15.2	60 4.3	27 1.9	314 22.6
年代別	18歳未満	1 3.6	13 46.4	3 10.7	1 3.6	3 10.7
	18～29歳	2 9.1	1 4.5	2 9.1	-	5 22.7
	30～39歳	1 3.4	4 13.8	3 10.3	-	-
	40～49歳	2 2.8	10 14.1	7 9.9	4 5.6	3 4.2
	50～59歳	8 6.3	20 15.9	9 7.1	3 2.4	19 15.1
	60～69歳	19 5.7	48 14.5	15 4.5	5 1.5	49 14.8
	70歳以上	28 3.7	113 15.0	18 2.4	14 1.9	222 29.4
	無回答	1 3.4	2 6.9	3 10.3	-	13 44.8

障害の種類別に見ると、「介助体制の充実」という回答は視覚障害者で 25.6%であり、他の障害のある回答者との差が大きくなっています。

図表 I - 138 今後必要だと思う福祉施策【障害の種類別】

		全体	所得保障の充実	医療費の軽減	社会福祉施設の充実	障害に適した住宅の確保	移動を容易にする施策の充実	介助体制の充実	相談支援体制の充実	専門的な機能回復訓練	能力に応じた職業訓練	働く場の確保
全体		1,346 100.0	323 24.0	559 41.5	288 21.4	131 9.7	93 6.9	207 15.4	188 14.0	156 11.6	61 4.5	132 9.8
障害の種類別	視覚障害	78 100.0	16 20.5	32 41.0	15 19.2	8 10.3	8 10.3	20 25.6	14 17.9	8 10.3	2 2.6	9 11.5
	聴覚・平衡機能障害	72 100.0	19 26.4	22 30.6	17 23.6	5 6.9	3 4.2	8 11.1	12 16.7	9 12.5	3 4.2	12 16.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	69 100.0	18 26.1	32 46.4	19 27.5	5 7.2	2 2.9	7 10.1	12 17.4	11 15.9	3 4.3	5 7.2
	肢体不自由	699 100.0	162 23.2	294 42.1	167 23.9	77 11.0	51 7.3	116 16.6	94 13.4	117 16.7	33 4.7	68 9.7
	内部障害	408 100.0	106 26.0	177 43.4	87 21.3	39 9.6	31 7.6	62 15.2	51 12.5	20 4.9	18 4.4	34 8.3
	その他	92 100.0	16 17.4	36 39.1	11 12.0	6 6.5	4 4.3	10 10.9	18 19.6	7 7.6	4 4.3	9 9.8
	無回答	42 100.0	9 21.4	12 28.6	7 16.7	3 7.1	3 7.1	4 9.5	4 9.5	2 4.8	2 4.8	2 4.8

		スポーツ・活動の充実 エー	家族が休養できる体制	差別の解消や権利を擁護する体制	その他	無回答
全体		60 4.5	204 15.2	58 4.3	27 2.0	301 22.4
障害の種類別	視覚障害	2 2.6	18 23.1	5 6.4	— —	12 15.4
	聴覚・平衡機能障害	2 2.8	10 13.9	7 9.7	2 2.8	16 22.2
	音声・言語・そしゃく機能障害	1 1.4	11 15.9	2 2.9	1 1.4	13 18.8
	肢体不自由	36 5.2	105 15.0	29 4.1	15 2.1	135 19.3
	内部障害	17 4.2	68 16.7	15 3.7	5 1.2	96 23.5
	その他	3 3.3	11 12.0	4 4.3	3 3.3	29 31.5
	無回答	— —	3 7.1	— —	1 2.4	22 52.4

自由回答

問 67 船橋市の障害者福祉施策についてのご意見、ご希望、または困っていることなどを、自由にお書きください。

自由回答を記入した回答者は 304 人で、「生活支援・福祉サービス」に関する内容が 123 件で多くなっています。「生活環境」に関する内容は 37 件、「保健・医療」に関する内容は 35 件となっています。「その他」に分類されるものは 120 件です。

図表 I - 139 自由回答【テーマ別】

全体	啓発・広報	保健・医療	教育・育成	雇用・就業	福祉サービス	生活環境	スポーツ等	その他
304 100.0	12 3.9	35 11.5	5 1.6	6 2.0	123 40.5	37 12.2	7 2.3	120 39.5

※複数の分野にまたがる回答もあるため、各分野の割合を合計すると 100%を超えます。

【主な意見】

※ここに掲載したものは回答の一部です。また、大意を変えずに一部を省略・要約している場合があります。

※回答者は本人ではなく、代理の人である場合もあります。

①啓発・広報

- ・内部障害のため、見た目にも分からないので、何かあってもなかなか助けてもらえません。何か目印があれば教えて下さい。又、普通の方も分かるようにして下さい。
(女性、56 歳)
- ・障害者福祉施策の活動内容を一部の障害者だけではなく、もっとアピールするべきだと思います。(女性、41 歳)
- ・色々な施策担当部署の担当者は（特に福祉サービス部）丁寧な対応をしてくれる人が多くて満足している。(女性、85 歳)

②保健・医療

- ・医療費自己負担分の公費補助は大変助かります。今後も続けて下さい。(男性、75 歳)
- ・現在、私の病名は強直性脊椎炎です。原因、治療法も全くわからない病気で、現在も進行しています。この先状況が悪い方向へ行く事は間違いないと思われませんが、プラスになる要素がほとんど見あたりません。せめて、難病指定病を受けられるなど、他の同じ様な状況の方のためにも難病指定病の拡大などの、なるべく広く手厚い施策を心待ちにしています。(男性、42 歳)

- ・専門医や専門病院が少ない。(男性、70歳)
- ・障害以外に病気をした時、入院中は良いが、退院後のケアはどうしたらよいか？船橋市は医療センターという設備が整い、医師も優秀と評判な救急病院があるので、もっともっと内容を充実させて、他市、または他県には比べられない誇れる病院にしてほしい。(女性、58歳)

③教育・育成

- ・市内小学校における「きこえの教室」設置校が一校しかなく、児童数が多いのに教師が一名であり、増員を希望する。市内中学校に「きこえの教室」が設置しておらず、他市や私立中学校へ行かれる方が多い。中学校の「きこえの教室」の設置を希望する。(男性、46歳)
- ・就学前の子の母子分離できる機会が少ない。習志野市のあじさい園のような施設を作ってほしい。(女性、3歳)

④雇用・就業

- ・心臓に障害がある事がわかると、どこの事業所でも断られてしまいます。働きたいのに働くことが出来ない“つらさ”は、悲しいです。(男性、63歳)
- ・なにより大事なのは、働く場を作るために企業への優遇処置を増やすこと。具体的には、雇用に応じて補助金や法人税の減税を実施するのが障害者を社会でまっとうに働かせるための近道です。(男性、39歳)

⑤生活支援、福祉サービス

- ・買い物、銀行、外の空気など散歩したいのですが、ヘルパー様の時間が少ないので時間を増やしてほしいです。今、月1回自費でやってるので大変です。どうかご検討下さい。(男性、65歳)
- ・「福祉のしおり」は内容が変更になるが、市に要求しないと最新版が送られてこない。変更があったら送って欲しい。(男性、67歳)
- ・市役所（障害福祉課）に手話通訳者を設置して欲しい。依頼しても来るのに時間が長い（急いでの時は申し込めない時もあった）。1Fの申請広場にいると声をかけられるが、その時直ぐに手話通訳者が来られるようにして欲しい。(女性、23歳)
- ・人工透析に通っているため、タクシー券については助かっています。船橋市は、福祉施策が充実していて良いと思います。免除も助かっています。(女性、73歳)
- ・手続き等が多い。1年更新のものが多く、常に更新手続き等をしている印象、このような負担を減らすことも考えてほしい。(女性、1歳)
- ・ヘルパーさんなどの待遇が、良くなった方が働く人が増えると思います。金融関係（銀行）とかと比べると収入が大分違うので。ただ、介護能力のある人はそうそういないです。(男性、62歳)
- ・現在、私は補聴器を使用しておりますが、高額であり、寿命が短く頻繁に買い替える事もできません。少しでも安く、性能の良い補聴器が出来ないものかと、この事を声を大にして、どこに訴えたらよいのかと日々思っております。購入費助成の対

象も限られた者しか受けられません。(女性、64歳)

⑥生活環境

- ・自転車の飛び出し、横切りによる白杖の破損。駐輪マナーが悪い。(男性、60歳)
- ・車いすで外に出た時に、歩道の狭さ、段差、傾斜がすごいので、外へ出る事があまりありません。この事について、検討して頂けると嬉しいです。(女性、65歳)
- ・災害時の不安解消。地震、風水害災害時に福祉避難におけるストーマ装具の緊急対応、オストメイトの方は一人、一人異なるために装具を船橋市福祉サービス部等にて管理、保管していただく方向で、ご検討いただければと考えております。(女性、72歳)
- ・エレベーターのある公営住宅をぜひ、お願いします。(女性、68歳)

⑦スポーツ・レクリエーション等

- ・現在の状態を保つために運動等をしていますが、筋肉をつけることが大変、難しいです。軽い障害者ですが、何もしなければ変形になっている関節を取り替えていくことになりますので、ストレッチ体操を出来るようにして下さい。(女性、67歳)
- ・年金だけで生活する者です。本当は毎日すごくひまなのです。内職でもと思っても、年齢でダメです。地域に気軽に行って、安く飲み物でも飲める集会所（喫茶店）みたいな所が近くにあったらいいと思うけど、無理ですね。これは私の希望です。
(性別、年齢無回答)

⑧その他

- ・アンケート調査について。1. 介護給付等、各専門用語の内容が分からず記入ができない。2. 質問項目が多すぎて数時間要した。少し簡略化できないか。(女性、76歳)
- ・このアンケートをもとに、沢山ある質問に真剣に○や×や考えて答えた人ばかりだと思います。ただの資料として、どこかに置くのではなく、生きた障害者福祉施策に利用して頂く事を切に希望します。(男性、61歳)
- ・弱者に住みよい、世の中をお願いします。(男性、64歳)
- ・私も75歳を過ぎ、身体が思うように動かなくなりました。いつ、お世話になるか分かりませんが、その節は助けて下さい。(女性、76歳)

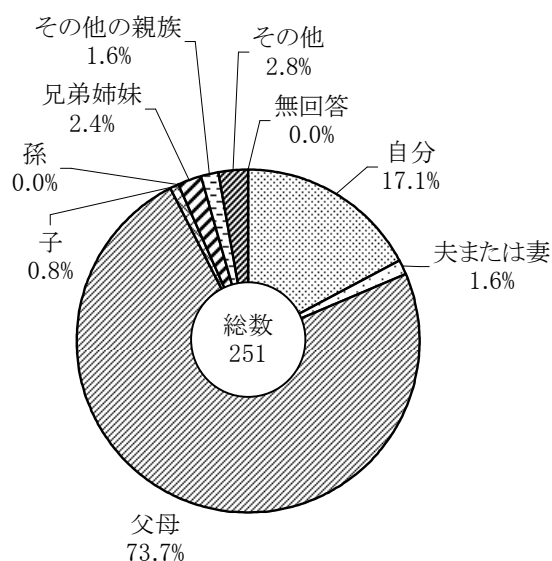
II 知的障害者を対象とした調査結果

(1) アンケートの記入者

問1 このアンケートの記入者はどなたですか。あなたから見た続柄でお答えください。(どれか1つに○)

図表Ⅱ-1 アンケートの記入者

「父母」が 73.7%で最も多く、
「自分」が 17.1%で続きます。



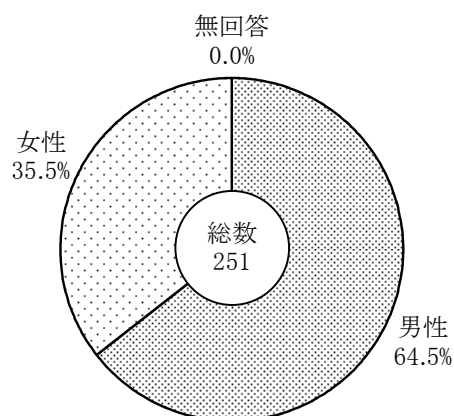
1 基本属性

(1) 性別

問2 あなたは、男性ですか、女性ですか。(どれか1つに○)

図表Ⅱ-2 性別

「男性」が 64.5%、「女性」が
35.5%となっています。



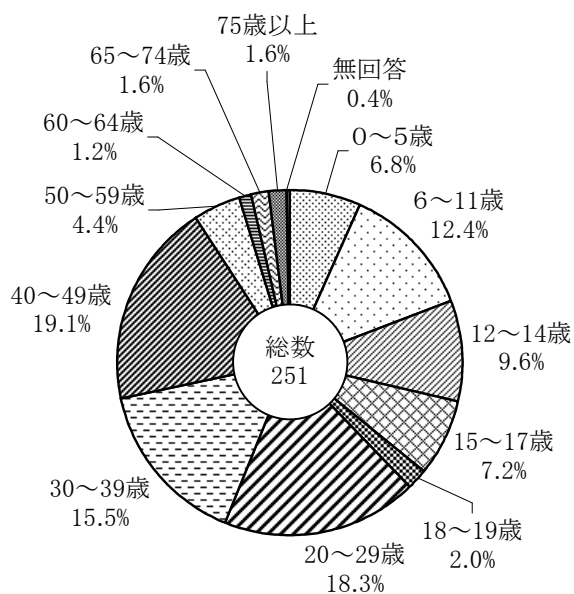
(2) 年齢

問3 あなたは、何歳ですか。平成25年1月1日現在の満年齢でお答えください。

「40～49歳」が19.1%で最も多く、「20～29歳」が18.3%、「30～39歳」が15.5%、「6～11歳」が12.4%で続きます。

平均年齢は、28.0歳となっています。

図表Ⅱ-3 年齢

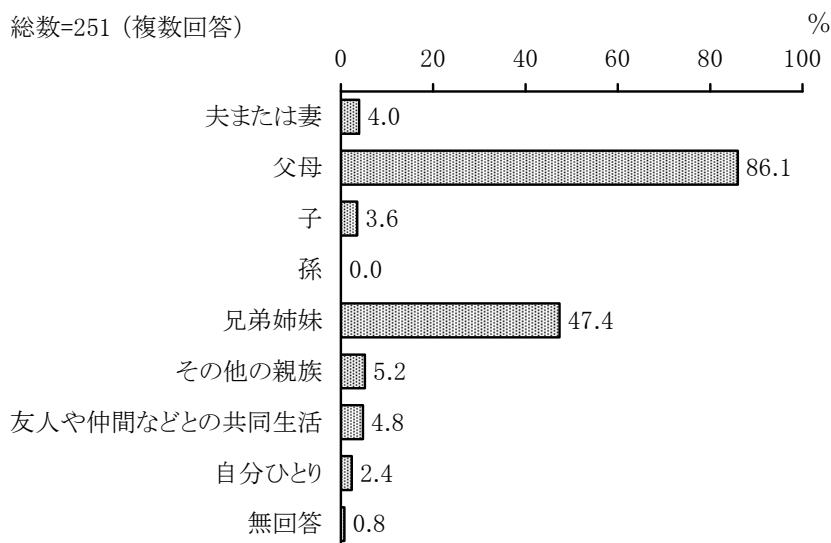


(3) 同居家族

問4 あなたと一緒に暮らしている家族は、どなたですか。(あてはまるものすべてに○)

「父母」が86.1%で最も多く、「兄弟姉妹」が47.4%で続きます。

図表Ⅱ-4 同居家族

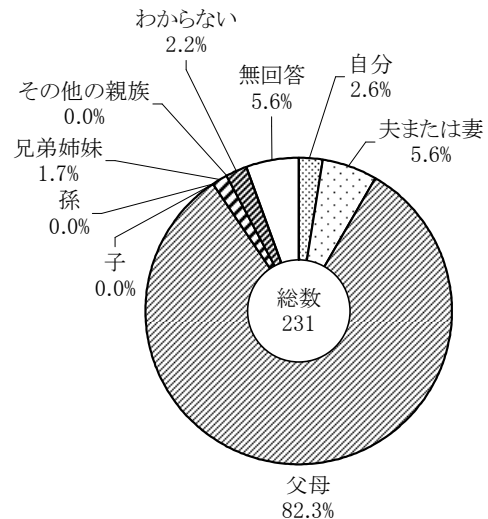


(4) 主に収入を得ている同居家族

問4-1 【家族等と一緒に暮らしている方にうかがいます。】一緒に暮らしている家族の中で、主に生活のための収入を得ている方はどなたですか。(どれか1つに○)

図表Ⅱ-5 主に収入を得ている同居家族

「父母」が82.3%で最も多く、「夫または妻」が5.6%で続きます。



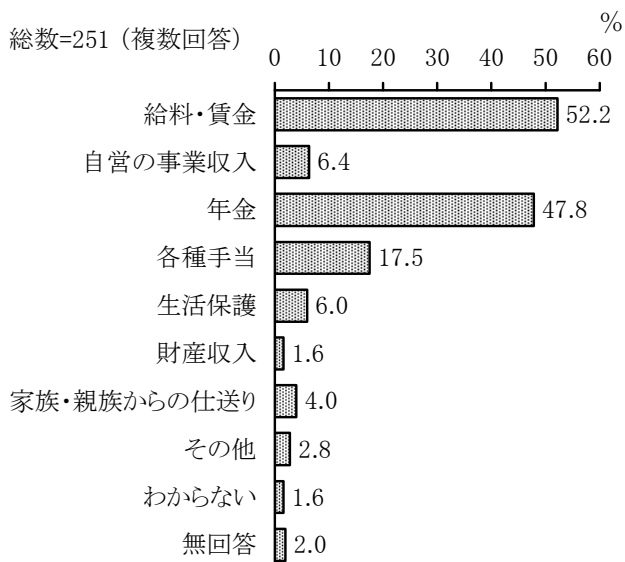
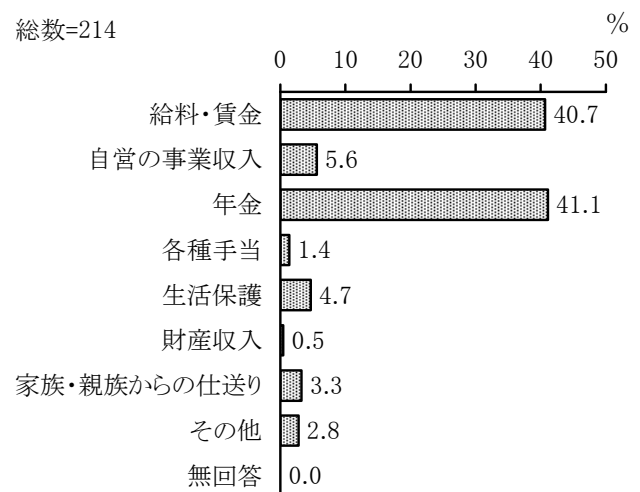
(5) 世帯収入の種類

問5 あなたの世帯収入の種類はどのようなものですか。(あてはまるものすべてに○、最も金額が大きいものには◎)

「給料・賃金」が52.2%で最も多く、「年金」が47.8%、「各種手当」が17.5%、「自営の事業収入」が6.4%、「生活保護」が6.0%で続きます。

最も金額が大きい収入について回答があった中では、「年金」が41.1%、「給料・賃金」が40.7%で多くなっており、「自営の事業収入」が5.6%で続きます。

図表Ⅱ-6 世帯収入の種類

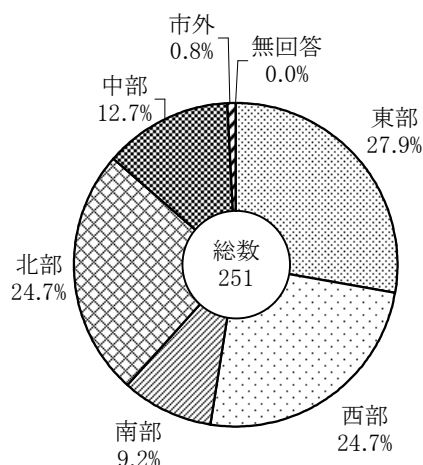
図表Ⅱ-7 世帯収入の種類
【最も金額が大きい収入】

(6) 居住地域

問6 あなたの住んでいる地域はどこですか。(どれか1つに○)

「東部」が27.9%で最も多く、「西部」「北部」がそれぞれ24.7%、「中部」が12.7%、「南部」が9.2%で続きます。

図表Ⅱ-8 居住地域



2 障害の状況について

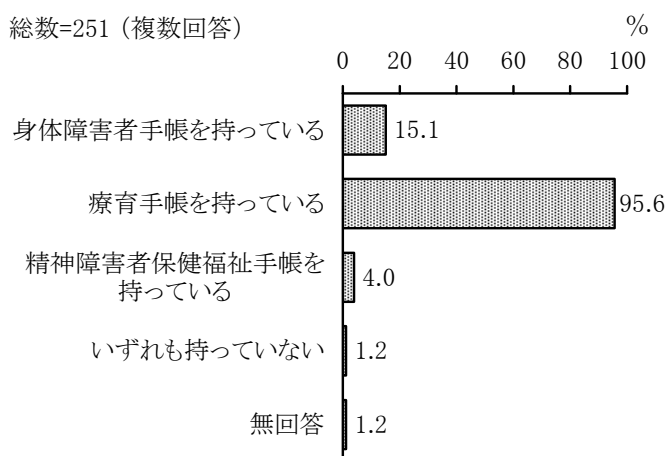
(1) 障害者手帳の所持状況

問7 あなたがお持ちの障害者手帳等の種類と等級についてうかがいます。あてはまる番号と等級(程度)に○をつけて、() 内に取得した年齢を記入してください。

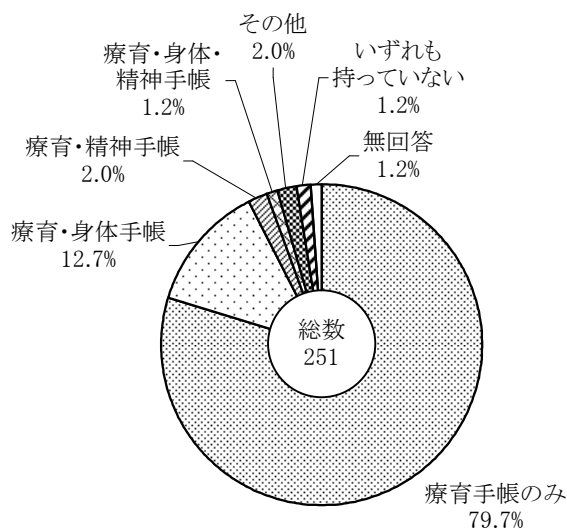
「療育手帳を持っている」が95.6%、「身体障害者手帳を持っている」が15.1%、「精神障害者保健福祉手帳を持っている」が4.0%となっています。

所持している手帳の組み合わせを見ると「療育手帳のみ」が79.7%、「療育手帳と身体障害者手帳」が12.7%となっています。

図表Ⅱ-9 障害者手帳の有無



図表Ⅱ-10 所持している障害者手帳の組み合わせ

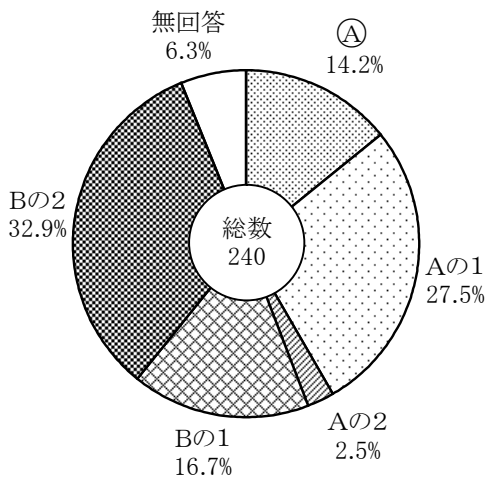


【療育手帳所持者の判定と取得年齢】

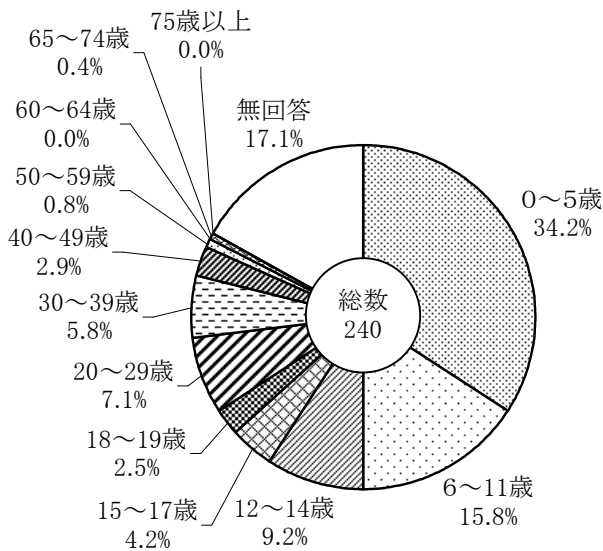
判定は、「Bの2」が32.9%で最も多く、「Aの1」が27.5%、「Bの1」が16.7%、「㉠」が14.2%で続きます。

取得年齢は、「0～5歳」が34.2%で最も多く、「6～11歳」が15.8%、「12～14歳」が9.2%、「20～29歳」が7.1%で続きます。

図表Ⅱ-11 療育手帳の判定



図表Ⅱ-12 療育手帳の取得年齢



年代別に見ると、18歳未満では「Bの2」が44.8%となっています。

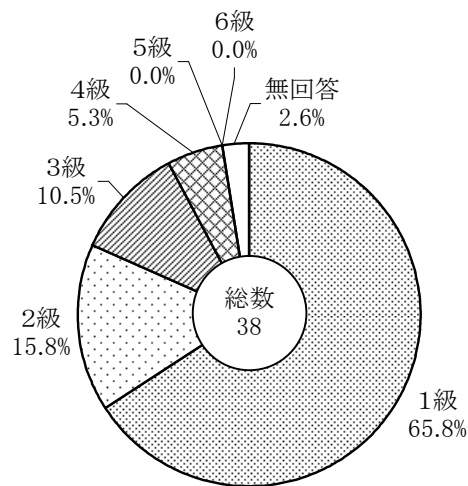
図表Ⅱ-13 療育手帳の判定【年代別】

		全体	㉠	Aの1	Aの2	Bの1	Bの2	無回答
全体		240	34	66	6	40	79	15
		100.0	14.2	27.5	2.5	16.7	32.9	6.3
年代別	18歳未満	87	8	22	-	14	39	4
		100.0	9.2	25.3	-	16.1	44.8	4.6
	18～29歳	51	11	17	1	10	11	1
		100.0	21.6	33.3	2.0	19.6	21.6	2.0
	30～39歳	37	6	9	-	5	12	5
		100.0	16.2	24.3	-	13.5	32.4	13.5
	40～49歳	48	8	15	3	6	14	2
		100.0	16.7	31.3	6.3	12.5	29.2	4.2
年代別	50～59歳	7	-	1	-	3	2	1
		100.0	-	14.3	-	42.9	28.6	14.3
	60～69歳	2	-	-	1	1	-	-
		100.0	-	-	50.0	50.0	-	-
年代別	70歳以上	7	1	2	-	1	1	2
		100.0	14.3	28.6	-	14.3	14.3	28.6
年代別	無回答	1	-	-	1	-	-	-
		100.0	-	-	100.0	-	-	-

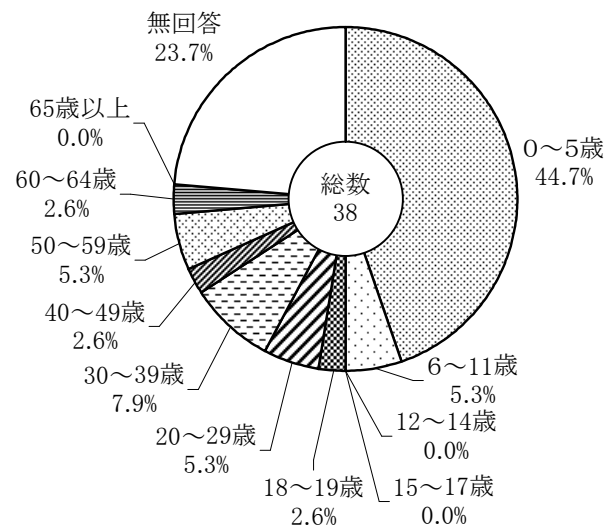
【身体障害者手帳所持者の等級と取得年齢】

等級は、「1級」が 65.8%で最も多く、「2級」が 15.8%、「3級」が 10.5%、「4級」が 5.3%で続きます。
取得年齢は、「0～5歳」が 44.7%で最も多く、「30～39歳」が 7.9%、「6～11歳」「20～29歳」「50～59歳」がそれぞれ 5.3%で続きます。

図表Ⅱ-14 身体障害者手帳の等級



図表Ⅱ-15 身体障害者手帳の取得年齢



【精神障害者保健福祉手帳所持者の等級と取得年齢】

精神障害者保健福祉手帳を所持していると回答したのは10人で、等級は「1級」が3人（33.3%）、「2級」が6人（60.0%）、「3級」が1人（10.0%）となっています。
取得年齢は、「20～29歳」「30～39歳」がそれぞれ3人（30.0%）となっています。

図表Ⅱ-16 精神障害者保健福祉手帳の等級

全体	1級	2級	3級	無回答
10	3	6	1	-
100.0	30.0	60.0	10.0	-

図表Ⅱ-17 精神障害者保健福祉手帳の取得年齢

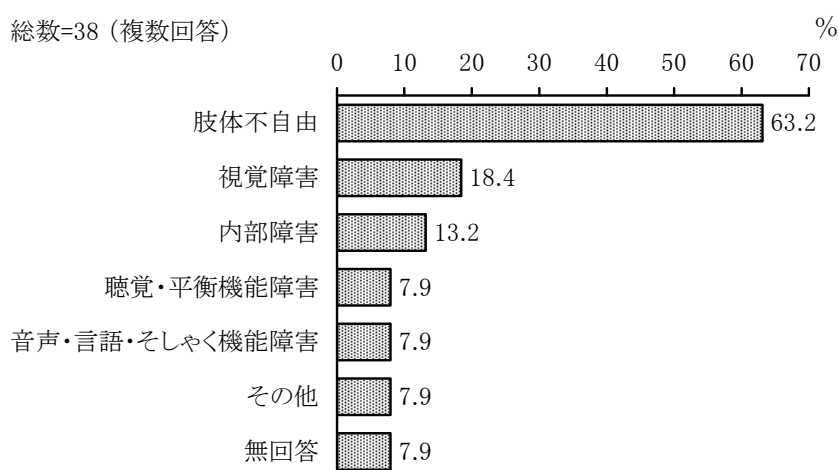
全体	0～5歳	6～11歳	12～14歳	15～17歳	18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	75歳以上	無回答
10	-	-	-	-	-	3	3	-	-	1	-	-	3
100.0	-	-	-	-	-	30.0	30.0	-	-	10.0	-	-	30.0

(2) 障害の種類（部位）

問7-1 【身体障害者手帳をお持ちの方にうかがいます。】障害の種類（部位）は、次のうちのどれですか。（あてはまるものすべてに○）

「肢体不自由」が63.2%で最も多く、「視覚障害」が18.4%、「内部障害」が13.2%で続きます。

図表Ⅱ-18 障害の種類（部位）



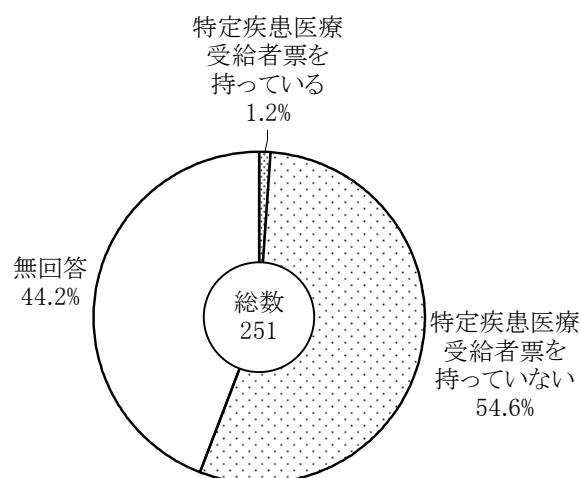
(3) 特定疾患医療受給者票の有無、取得年齢

問8 あなたは、いわゆる難病のための特定疾患医療受給者票をお持ちですか。あてはまる番号1つに○をつけて、（ ）内に具体的に記入してください。

図表Ⅱ-19 特定疾患医療受給者票の有無

「特定疾患医療受給者票を持っている」が1.2%、「特定疾患医療受給者票を持っていない」が54.6%となっています。

特定疾患医療受給者票を持っていると回答したのは3人で、取得年齢は「50～59歳」が2人、「18～19歳」が1人です。



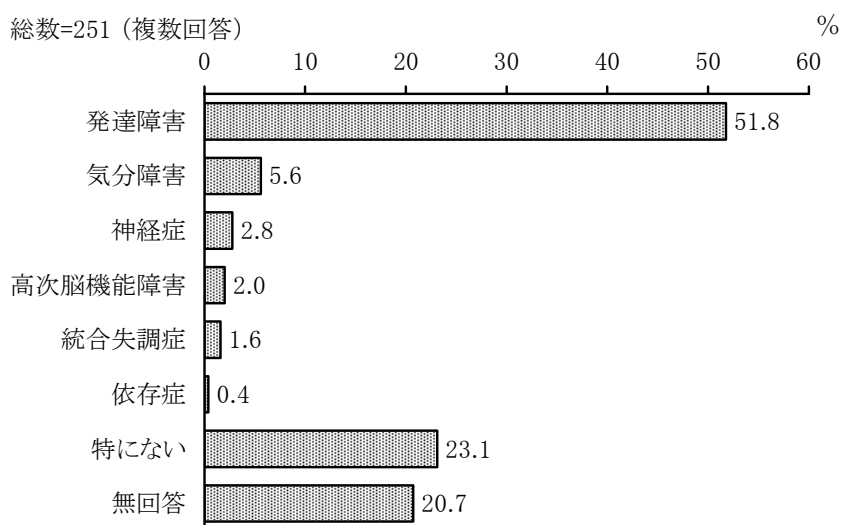
(4) 疾患・障害の有無

問9 あなたには、次の疾患や障害がありますか。(あてはまるものすべてに○)

疾患や障害としては、「発達障害」が51.8%で最も多く、「気分障害」が5.6%で続きます。

「特にない」は23.1%となっています。

図表Ⅱ-20 疾患・障害の有無



年代別に見ると、18歳未満、18～29歳では「発達障害」が6割に達しています。

図表Ⅱ-21 疾患・障害の有無【年代別】

	全体	統合失調症	気分障害	神経症	依存症	発達障害	高次脳機能障害	特にない	無回答
全体	251 100.0	4 1.6	14 5.6	7 2.8	1 0.4	130 51.8	5 2.0	58 23.1	52 20.7
年代別	18歳未満	90 100.0	-	-	1 1.1	60 66.7	-	15 16.7	15 16.7
	18～29歳	51 100.0	1 2.0	4 7.8	3 5.9	33 64.7	2 3.9	10 19.6	5 9.8
	30～39歳	39 100.0	2 5.1	3 7.7	2 5.1	16 41.0	1 2.6	10 25.6	10 25.6
	40～49歳	48 100.0	-	5 10.4	-	13 27.1	1 2.1	16 33.3	17 35.4
	50～59歳	11 100.0	1 9.1	2 18.2	-	5 45.5	-	2 18.2	3 27.3
	60～69歳	3 100.0	-	-	-	1 33.3	-	1 33.3	1 33.3
	70歳以上	8 100.0	-	-	-	2 25.0	1 12.5	4 50.0	1 12.5
	無回答	1 100.0	-	-	1 100.0	-	-	-	-

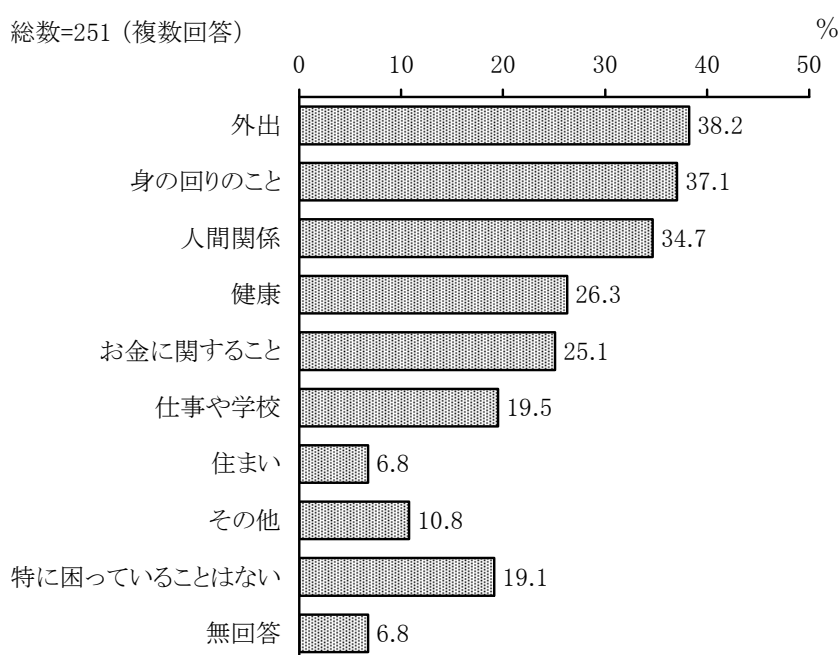
3 日常生活について

(1) 日常生活で困っていること

問 10 あなたが日常生活で困っていることは、どのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

「外出」が 38.2%で最も多く、「身の回りのこと」が 37.1%、「人間関係」が 34.7%、「健康」が 26.3%、「お金に関すること」が 25.1%で続きます。

図表Ⅱ- 22 日常生活で困っていること

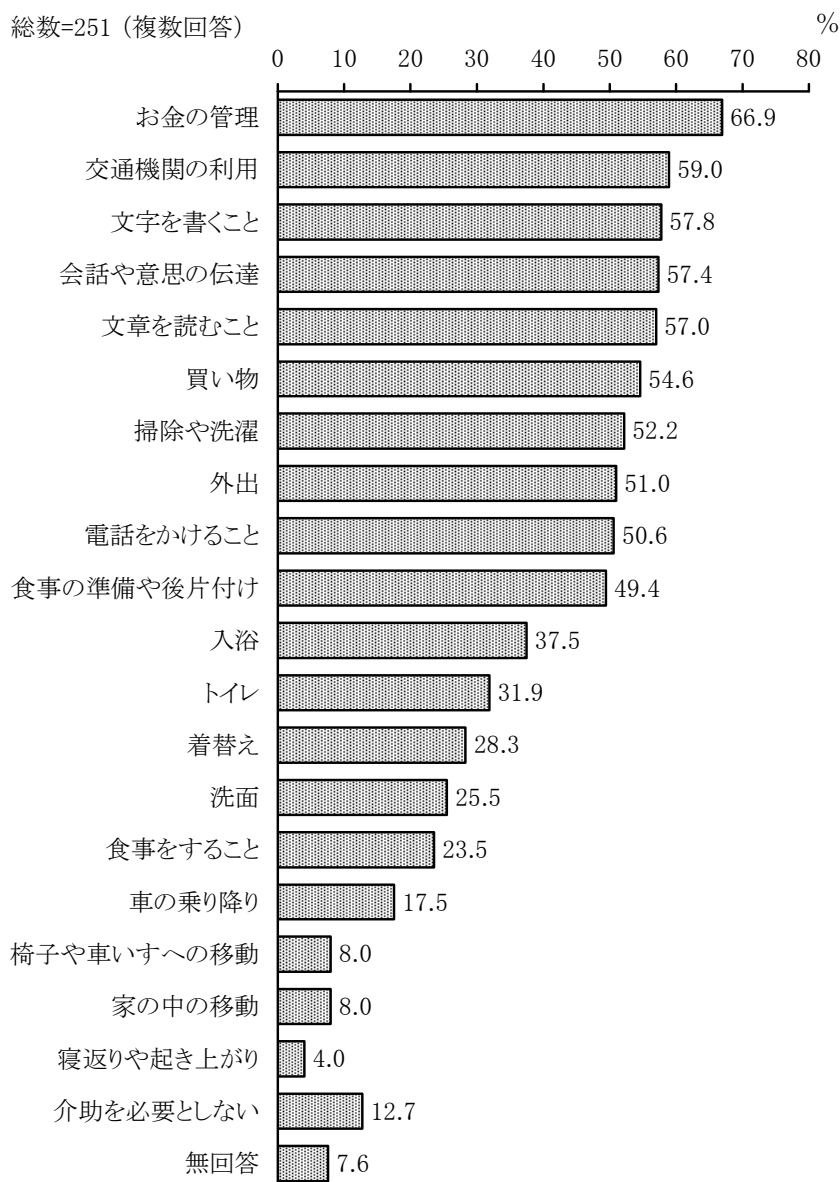


(2) 日常生活で介助が必要な場面

問11 あなたは、次のような日常生活の場面で、介助を必要とすることがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

「お金の管理」が66.9%で最も多く、「交通機関の利用」が59.0%、「文字を書くこと」が57.8%、「会話や意思の伝達」が57.4%、「文章を読むこと」が57.0%で続きます。

図表Ⅱ-23 日常生活で介助が必要な場面



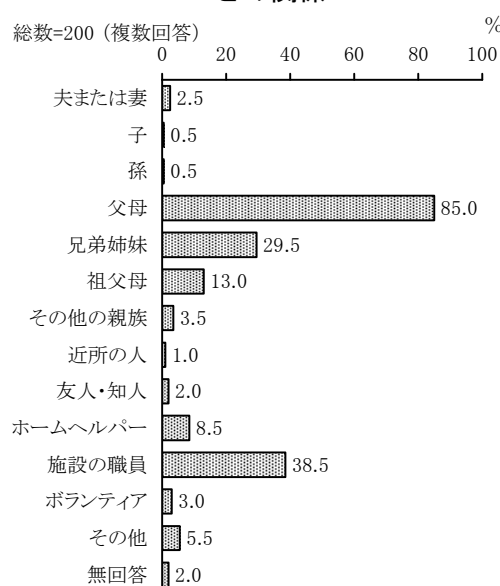
(3) 介助してくれる人（介助者）との関係

問 11-1 【問 11 で 1～19*を選んだ方にうかがいます。】あなたが介助を受けるのは、どなたですか。（あてはまるものすべてに○、最も機会が多い人には◎）

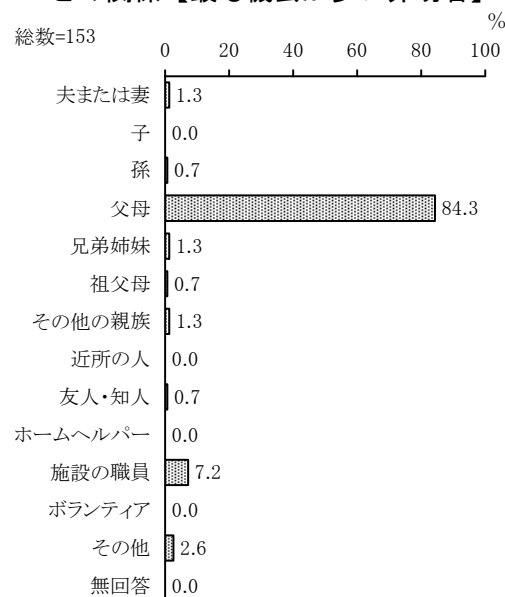
「父母」が 85.0%で最も多く、「施設の職員」が 38.5%、「兄弟姉妹」が 29.5%、「祖父母」が 13.0%で続きます。

最も機会が多い介助者について回答があった中では、「父母」が 84.3%で最も多く、「施設の職員」が 7.2%となっています。

図表Ⅱ- 24 介助してくれる人（介助者）との関係



図表Ⅱ- 25 介助してくれる人（介助者）との関係【最も機会が多い介助者】



※1～19：「食事をする事」「寝返りや起き上がり」「椅子や車いすへの移動」「洗面」「家の中の移動」「着替え」「トイレ」「入浴」「外出」「車の乗り降り」「交通機関の利用」「食事の準備や後片付け」「掃除や洗濯」「お金の管理」「買い物」「電話をかけること」「文字を書くこと」「文章を読むこと」「会話や意思の伝達」

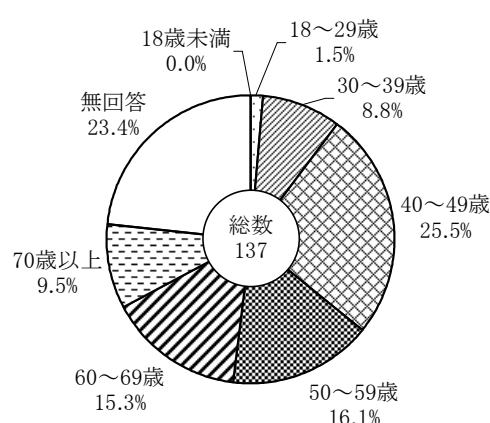
(4) 介助してくれる人（主な介助者）の年齢

問 11-2 【問 11-1 で 1～7*に◎をつけた方にうかがいます。】主な介助者は何歳くらいの方ですか。（ ）内に数字を記入してください。

「40～49 歳」が 25.5%で最も多く、「50～59 歳」が 16.1%、「60～69 歳」が 15.3%、「70 歳以上」が 9.5%、「30～39 歳」が 8.8%で続きます。

主な介助者の平均年齢は、52.0 歳となっています。

図表Ⅱ- 26 介助してくれる人（主な介助者）の年齢



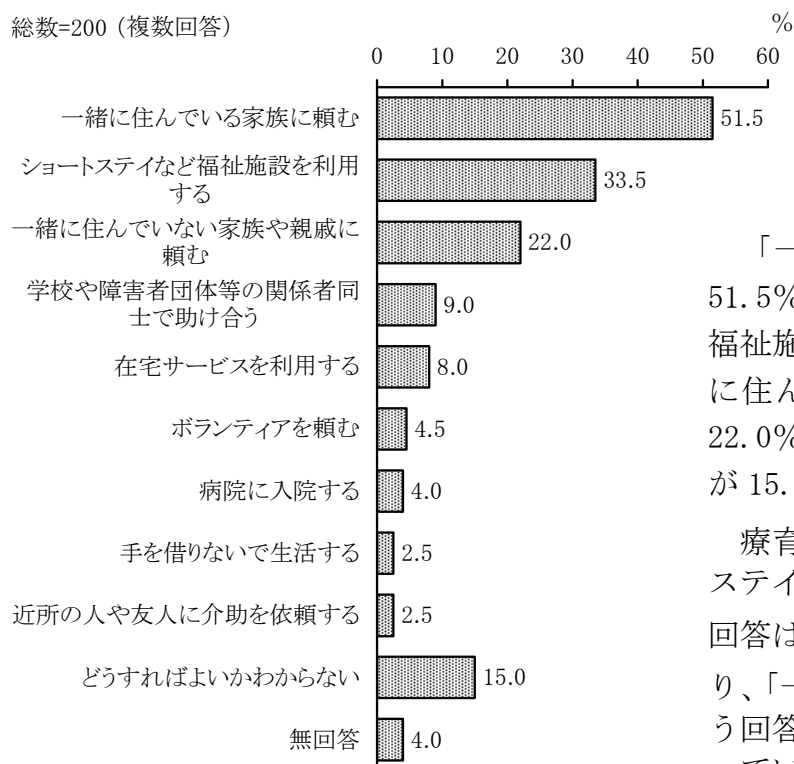
※1～7：「夫または妻」「子」「孫」「父母（夫または妻の父母を含む）」「兄弟姉妹」「祖父母」「その他の親族（おじ、おば、いとこなど）」

(5) 介助者が介助できなくなった場合の対応

問 11-3 【問 11 で 1～19*を選んだ方にうかがいます。】もし、いつも介助をしてくれる方が病気などで介助できなくなった場合、あなたはどうしますか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅱ- 27 介助者が介助できなくなった場合の対応

総数=200 (複数回答)



「一緒に住んでいる家族に頼む」が 51.5%で最も多く、「ショートステイなど福祉施設を利用する」が 33.5%、「一緒に住んでいない家族や親戚に頼む」が 22.0%、「どうすればよいかわからない」が 15.0%で続きます。

療育手帳の判定別に見ると、「ショートステイなど福祉施設を利用する」という回答は(A)で過半数 (54.8%) に達しており、「一緒に住んでいる家族に頼む」という回答はBの1、Bの2で6割前後となっています。

図表Ⅱ- 28 介助者が介助できなくなった場合の対応【療育手帳の判定別】

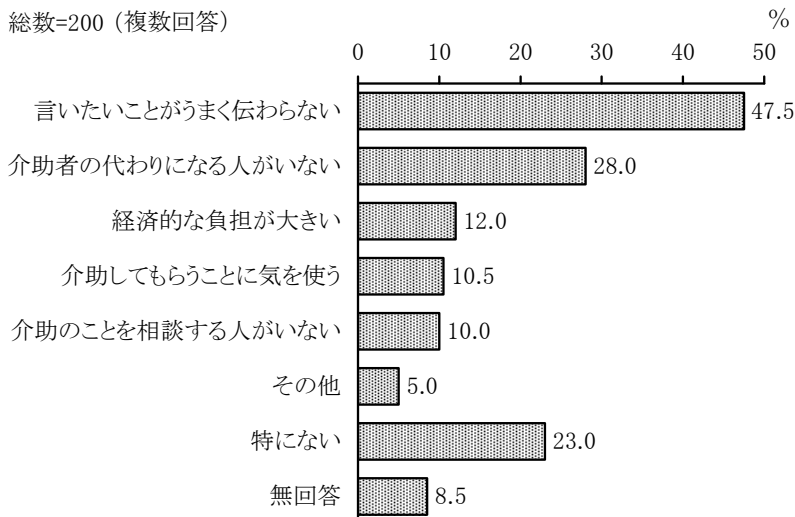
	全体	手を借りないで生活する	一緒に住んでいる家族に頼む	一緒に住んでいない家族や親戚に頼む	学校や障害者団体等の関係者同士で助け合う	在宅サービスを利用する	ショートステイなど福祉施設を利用する	病院に入院する	ボランティアを頼む	近所の人や友人に介助を依頼する	どうすればよいかわからない	無回答
全体	195 100.0	4 2.1	101 51.8	43 22.1	18 9.2	16 8.2	65 33.3	8 4.1	9 4.6	4 2.1	30 15.4	8 4.1
療育手帳の判定別	①	31 100.0	- -	15 48.4	4 12.9	4 12.9	3 9.7	17 54.8	3 9.7	- -	4 12.9	2 6.5
	Aの1	64 100.0	1 1.6	30 46.9	10 15.6	9 14.1	8 12.5	27 42.2	3 4.7	3 4.7	1 10.9	7 4.7
	Aの2	4 100.0	1 25.0	1 25.0	- -	- -	- -	1 25.0	- -	- -	1 25.0	- -
	Bの1	36 100.0	1 2.8	22 61.1	10 27.8	3 8.3	2 5.6	6 16.7	1 2.8	3 8.3	1 2.8	7 19.4
	Bの2	47 100.0	1 2.1	28 59.6	16 34.0	1 2.1	- -	6 12.8	- -	1 2.1	9 19.1	2 4.3
	無回答	13 100.0	- -	5 38.5	3 23.1	1 7.7	3 23.1	8 61.5	3 23.1	1 7.7	2 15.4	- -

※1～19: 「食事をする」「寝返りや起き上がり」「椅子や車いすへの移動」「洗面」「家の中の移動」「着替え」「トイレ」「入浴」「外出」「車の乗り降り」「交通機関の利用」「食事の準備や後片付け」「掃除や洗濯」「お金の管理」「買い物」「電話をかけること」「文字を書くこと」「文章を読むこと」「会話や意思の伝達」

(6) 介助を受ける上で困っていること

問 11-4 【問 11 で 1～19*を選んだ方にうかがいます。】あなたが介助を受ける上で困っていることは、どのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅱ-29 介助を受ける上で困っていること



介助を受ける上で困っていることとしては、「言いたいことがうまく伝わらない」が47.5%で最も多く、「介助者の代わりになる人がいない」が28.0%、「経済的な負担が大きい」が12.0%、「介助してもらうことに気を使う」が10.5%、「介助のことを相談する人がいない」が10.0%で続きます。「特にない」は23.0%となっています。

療育手帳の判定別に見ると、「介助者の代わりになる人がいない」という回答は、㉠で45.2%であり、判定が重くなるとともに割合が多くなっています。

図表Ⅱ-30 介助を受ける上で困っていること【療育手帳の判定別】

		全体	介助してもらうことに気を使う	経済的な負担が大きい	言いたいことがうまく伝わらない	介助者の代わりになる人がいない	介助のことを相談する人がいない	その他	特にない	無回答
全体		195	20	24	95	56	20	10	43	16
		100.0	10.3	12.3	48.7	28.7	10.3	5.1	22.1	8.2
療育手帳の判定別	㉠	31	2	1	18	14	2	1	2	1
		100.0	6.5	3.2	58.1	45.2	6.5	3.2	6.5	3.2
	Aの1	64	7	7	32	21	7	4	12	6
		100.0	10.9	10.9	50.0	32.8	10.9	6.3	18.8	9.4
	Aの2	4	-	1	2	1	2	-	1	1
		100.0	-	25.0	50.0	25.0	50.0	-	25.0	25.0
	Bの1	36	3	6	18	9	6	2	9	2
		100.0	8.3	16.7	50.0	25.0	16.7	5.6	25.0	5.6
	Bの2	47	6	5	18	8	1	1	18	5
		100.0	12.8	10.6	38.3	17.0	2.1	2.1	38.3	10.6
	無回答	13	2	4	7	3	2	2	1	1
		100.0	15.4	30.8	53.8	23.1	15.4	15.4	7.7	7.7

※1～19:「食事をすること」「寝返りや起き上がり」「椅子や車いすへの移動」「洗面」「家の中の移動」「着替え」「トイレ」「入浴」「外出」「車の乗り降り」「交通機関の利用」「食事の準備や後片付け」「掃除や洗濯」「お金の管理」「買い物」「電話をかけること」「文字を書くこと」「文章を読むこと」「会話や意思の伝達」

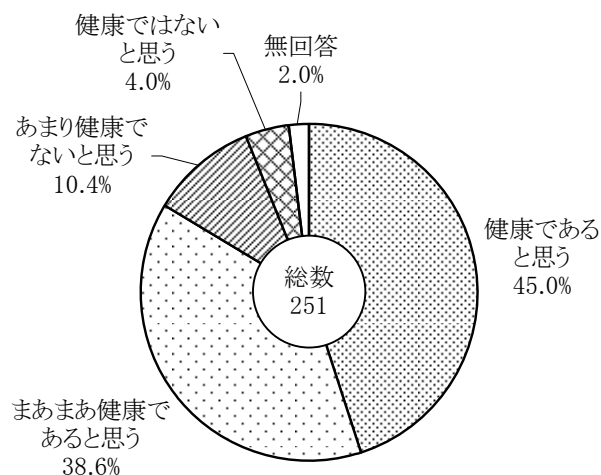
4 保健・医療について

(1) 最近の健康状態

問 12 あなたの最近(ここ3か月以内)の健康状態はいかがですか。(どれか1つに○)

図表Ⅱ-31 最近の健康状態

「健康であると思う」が45.0%で最も多く、「まあまあ健康であると思う」が38.6%であり、全体の83.6%が健康だと思っています。一方、「あまり健康でないと思う」は10.4%、「健康ではないと思う」は4.0%であり、全体の14.4%が健康ではないと感じていることがわかります。

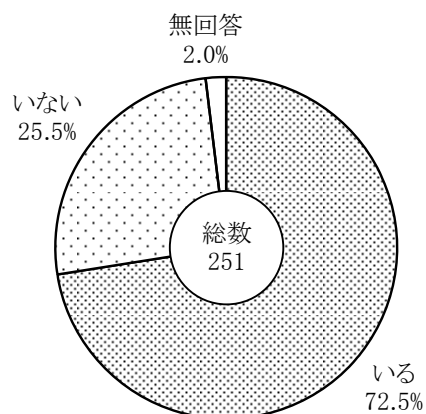


(2) かかりつけ医の有無

問 13 あなたには、よく診察してもらう「かかりつけ医」がいますか。(どれか1つに○)

図表Ⅱ-32 かかりつけ医の有無

「いる」が72.5%、「いない」が25.5%となっています。



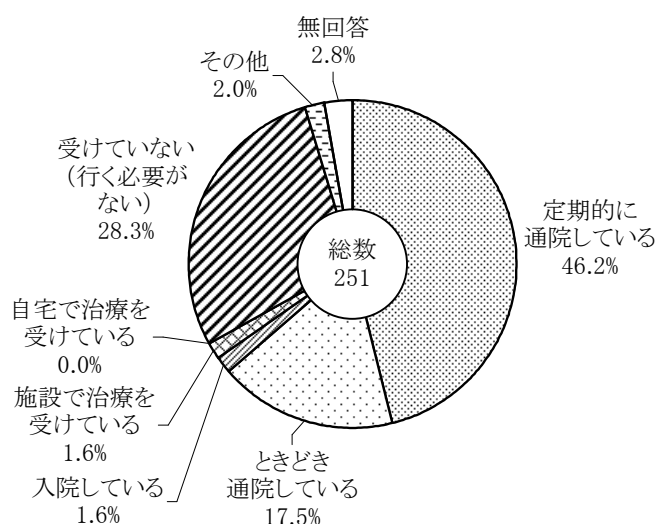
(3) 医療を受けているか

問 14 あなたは、現在、医療を受けていますか。(どれか1つに○)

図表Ⅱ-33 医療を受けているか

「定期的に通院している」が46.2%で最も多く、「ときどき通院している」が17.5%となっています。

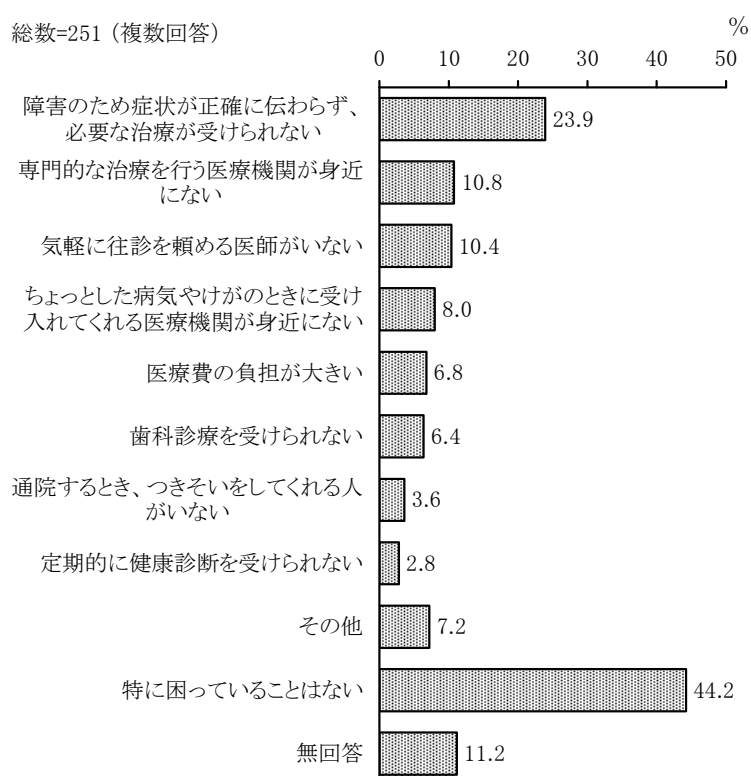
医療を「受けていない(行く必要がない)」人は28.3%です。



(4) 通院時や健康管理で困ること

問 15 あなたが医療を受けるときや、健康管理で困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅱ-34 通院時や健康管理で困ること



医療を受けるときや健康管理で困ることとしては、「障害のため症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない」が23.9%で最も多く、「専門的な治療を行う医療機関が身近にない」が10.8%、「気軽に往診を頼める医師がいない」が10.4%、「ちょっとした病気やけがのときに受け入れてくれる医療機関が身近にない」が8.0%で続きます。

「特に困っていることはない」は44.2%となっています。

療育手帳の判定別に見ると、「ちょっとした病気やけがのときに受け入れてくれる医療機関が身近にない」「気軽に往診を頼める医師がいない」という回答は①で2割強、「障害のため症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない」という回答は①、Aの1で3割台となっています。

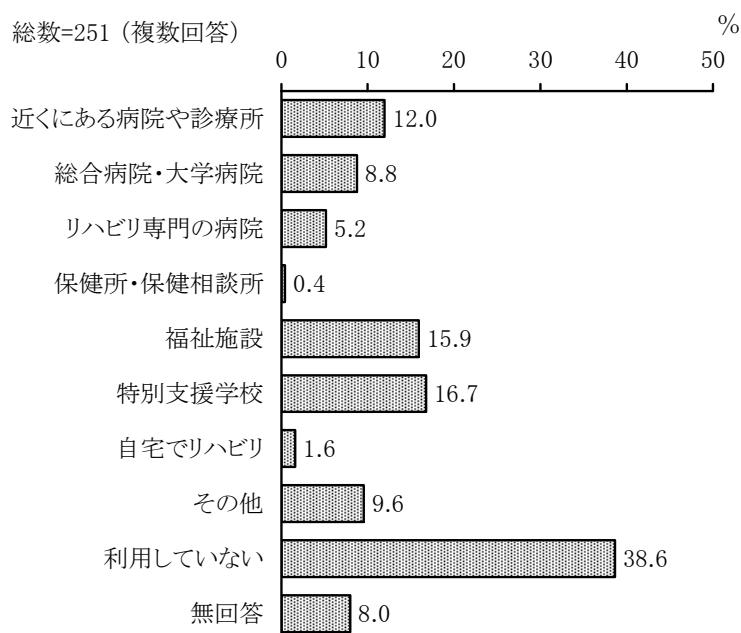
図表Ⅱ-35 通院時や健康管理で困ること【療育手帳の判定別】

		全体	通院するとき、つきそいでくれる人がいない	専門的な治療を行う医療機関が身近にない	ちょっとした病気やけがのときに受け入れてくれる医療機関が身近にない	気軽に往診を頼める医師がいない	歯科診療を受けられない	医療費の負担が大きい	定期的に健康診断を受けられない	障害のため症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない	その他	特に困っていることは	無回答
	全体	240 100.0	9 3.8	27 11.3	20 8.3	26 10.8	16 6.7	17 7.1	7 2.9	60 25.0	18 7.5	102 42.5	26 10.8
療育手帳の判定別	①	34 100.0	-	5 14.7	8 23.5	8 23.5	5 14.7	1 2.9	2 5.9	13 38.2	4 11.8	5 14.7	5 14.7
	Aの1	66 100.0	3 4.5	11 16.7	6 9.1	9 13.6	1 1.5	4 6.1	2 3.0	21 31.8	5 7.6	23 34.8	8 12.1
	Aの2	6 100.0	1 16.7	-	1 16.7	-	3 50.0	1 16.7	-	-	-	1 16.7	1 16.7
	Bの1	40 100.0	3 7.5	4 10.0	3 7.5	4 10.0	4 10.0	4 10.0	1 2.5	7 17.5	1 2.5	23 57.5	3 7.5
	Bの2	79 100.0	2 2.5	7 8.9	1 1.3	3 3.8	3 3.8	7 8.9	1 1.3	13 16.5	7 8.9	44 55.7	7 8.9
	無回答	15 100.0	-	-	1 6.7	2 13.3	-	-	1 6.7	6 40.0	1 6.7	6 40.0	2 13.3

(5) 機能回復等での病院・訓練施設の利用状況

問 16 あなたは、障害の機能回復や悪化を防ぐために、病院や訓練施設を利用していますか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅱ-36 機能回復等での病院・訓練施設の利用状況



利用している病院や訓練施設としては、「特別支援学校」が16.7%、「福祉施設」が15.9%で多くなっています。このほか、「近くにある病院や診療所」が12.0%となっています。

「利用していない」は38.6%です。

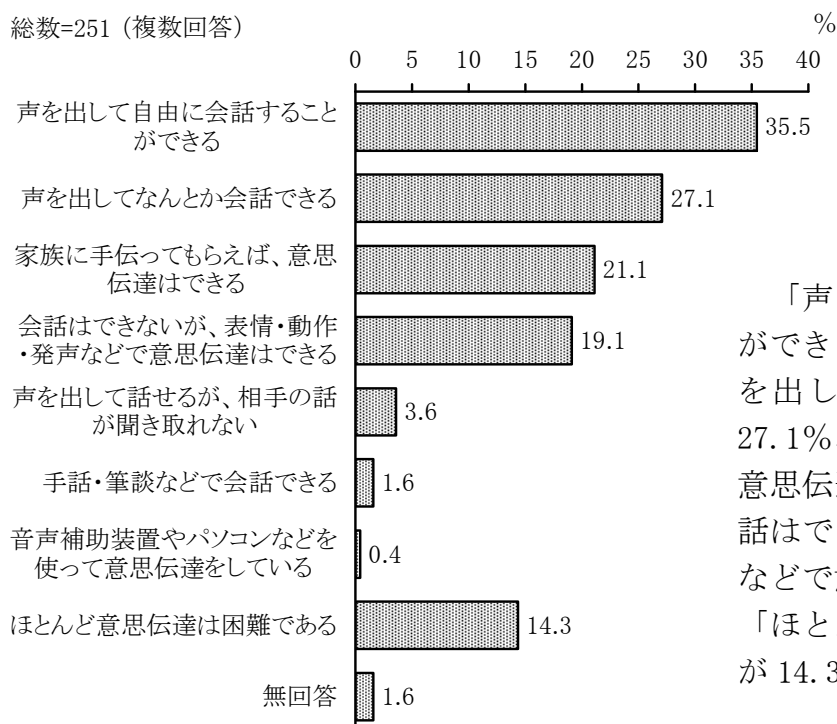
5 情報・コミュニケーションについて

(1) 会話や意思の伝達ができる程度

問 17 あなたは、日頃どのようにコミュニケーション（会話や意思の伝達）をとることができますか。（あてはまるものすべてに○）

図表Ⅱ-37 会話や意思の伝達ができる程度

総数=251（複数回答）



「声を出して自由に会話することができる」が 35.5%で最も多く、「声を出してなんとか会話できる」が 27.1%、「家族に手伝ってもらえば、意思伝達はある」が 21.1%、「会話はできないが、表情・動作・発声などで意思伝達はある」が 19.1%、「ほとんど意思伝達は困難である」が 14.3%で続きます。

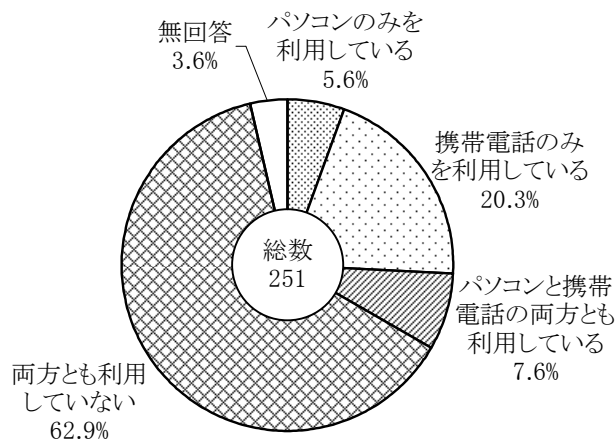
(2) 電子メール・インターネットの利用状況

問 18 あなたは、パソコンや携帯電話のメール機能などインターネットを利用していますか。（どれか1つに○）

図表Ⅱ-38 電子メール・インターネットの利用状況

「携帯電話のみを利用している」が 20.3%、「パソコンのみを利用している」が 5.6%、「パソコンと携帯電話の両方とも利用している」が 7.6%となっています。

「両方とも利用していない」は 62.9%です。

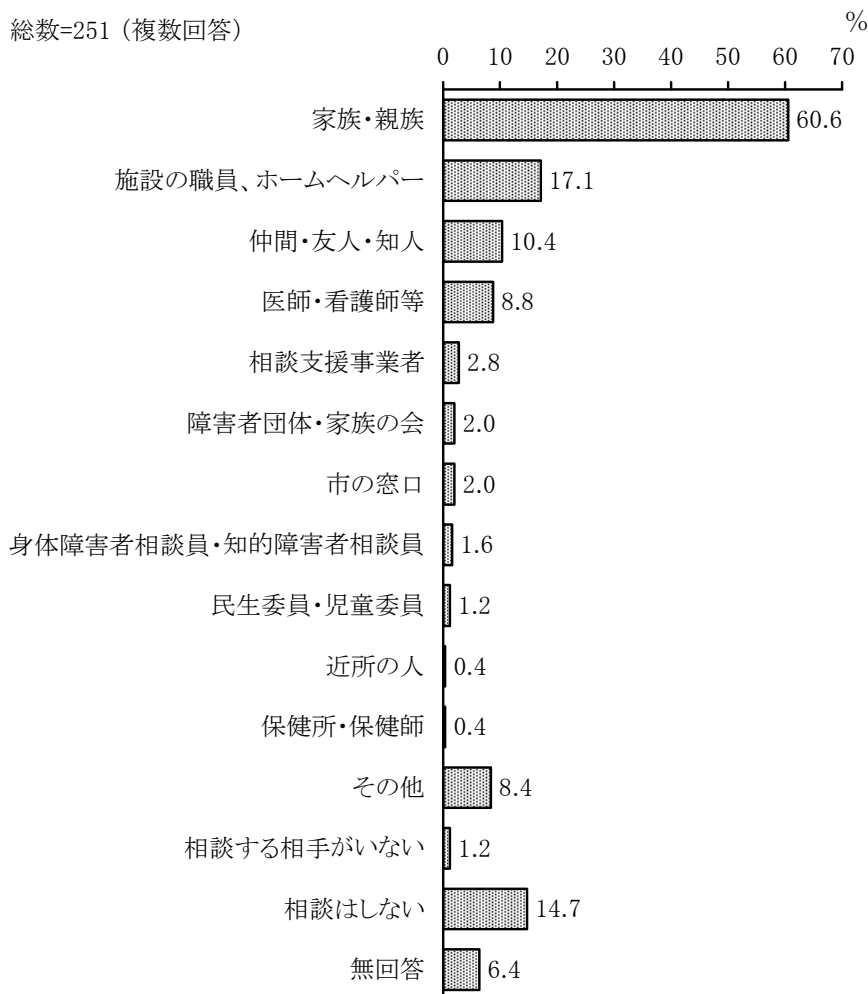


(3) 困りごとや悩みの相談先

問 19 あなたは、日常生活で困ったことや悩みごとについて、どなたに相談していますか。(あてはまるものすべてに○)

相談先としては、「家族・親族」が60.6%で最も多く、「施設の職員、ホームヘルパー」が17.1%、「仲間・友人・知人」が10.4%、「医師・看護師等」が8.8%で続きます。
「相談はしない」は14.7%となっています。

図表Ⅱ-39 困りごとや悩みの相談先

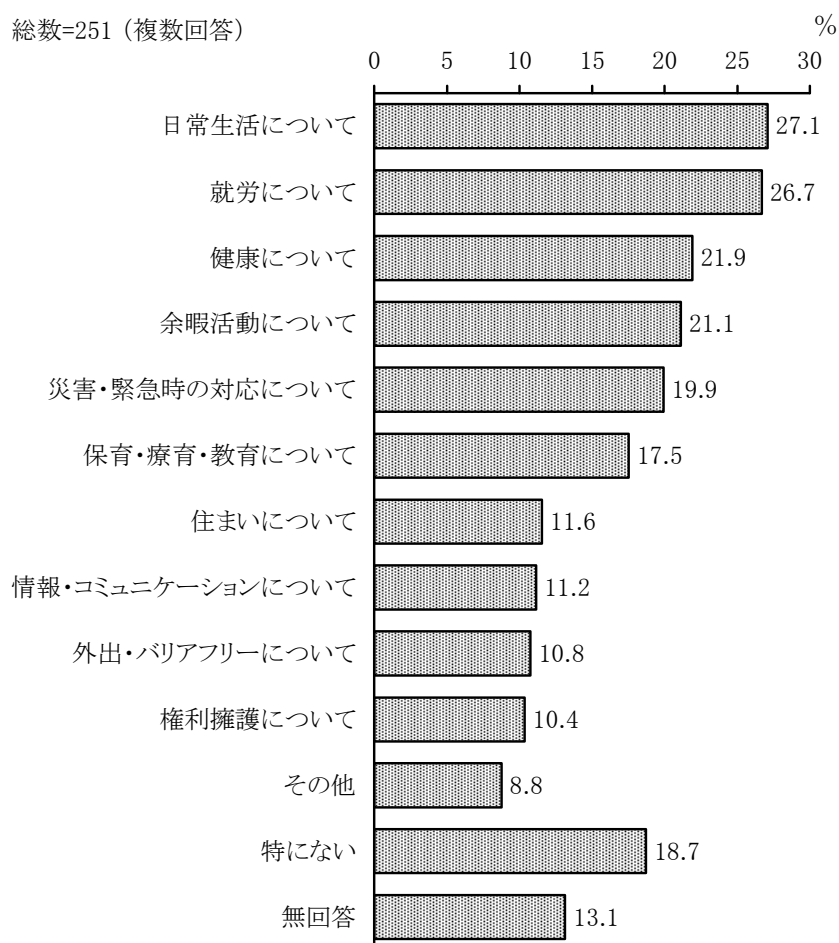


(4) 今後相談したいこと

問20 今後、あなたが相談したい内容として、どのようなことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

「日常生活について」が27.1%、「就労について」が26.7%で多くなっています。このほか、「健康について」が21.9%、「余暇活動について」が21.1%で続きます。

図表Ⅱ-40 今後相談したいこと



男女別に見ると、「健康について」「外出・バリアフリーについて」という回答は、これ以外の項目に比べて性別による差が大きくなっています。

年代別に見ると、18歳未満では「保育・療養・教育について」(41.1%)、「就労について」(45.6%)が4割強で多くなっています。

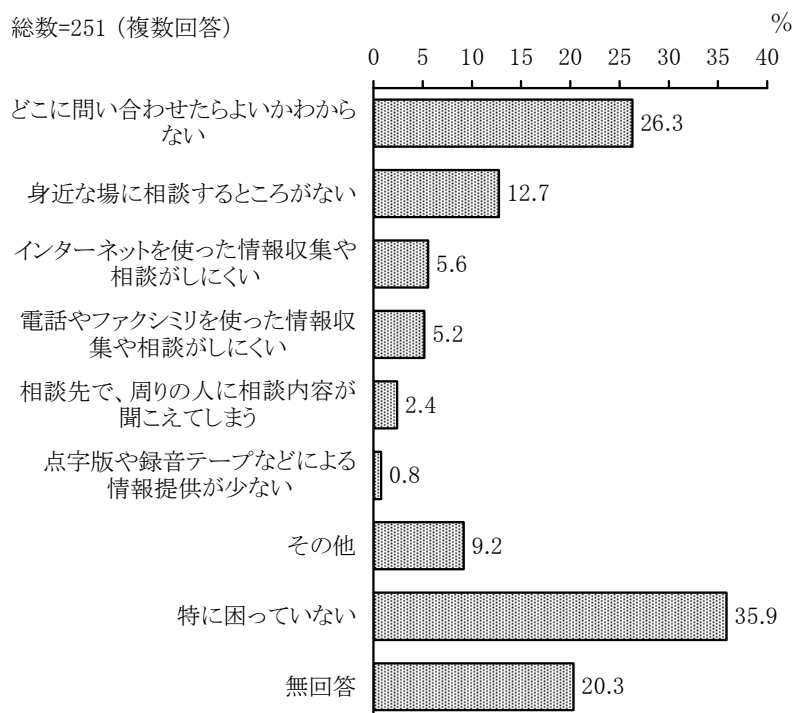
図表Ⅱ-41 今後相談したいこと【男女別、年代別】

		全体	日常生活について	健康について	情報・コミュニケーションについて	住まいについて	保育・療養・教育について	就労について	外出・バリアフリーについて	余暇活動について	権利擁護について	災害・緊急時の対応について	その他	特になし	無回答
全体		251 100.0	68 27.1	55 21.9	28 11.2	29 11.6	44 17.5	67 26.7	27 10.8	53 21.1	26 10.4	50 19.9	22 8.8	47 18.7	33 13.1
男女別	男性	162 100.0	42 25.9	30 18.5	22 13.6	20 12.3	29 17.9	46 28.4	23 14.2	35 21.6	16 9.9	34 21.0	10 6.2	30 18.5	23 14.2
	女性	89 100.0	26 29.2	25 28.1	6 6.7	9 10.1	15 16.9	21 23.6	4 4.5	18 20.2	10 11.2	16 18.0	12 13.5	17 19.1	10 11.2
年代別	18歳未満	90 100.0	20 22.2	11 12.2	13 14.4	11 12.2	37 41.1	41 45.6	12 13.3	21 23.3	9 10.0	16 17.8	6 6.7	16 17.8	10 11.1
	18～29歳	51 100.0	10 19.6	10 19.6	5 9.8	6 11.8	4 7.8	9 17.6	8 15.7	16 31.4	3 5.9	12 23.5	5 9.8	11 21.6	6 11.8
	30～39歳	39 100.0	16 41.0	13 33.3	5 12.8	4 10.3	1 2.6	9 23.1	4 10.3	8 20.5	7 17.9	10 25.6	6 15.4	5 12.8	5 12.8
	40～49歳	48 100.0	14 29.2	10 20.8	4 8.3	6 12.5	1 2.1	7 14.6	1 2.1	6 12.5	6 12.5	8 16.7	3 6.3	11 22.9	9 18.8
	50～59歳	11 100.0	4 36.4	3 27.3	1 9.1	1 9.1	— —	1 9.1	— —	— —	— —	2 18.2	1 9.1	3 27.3	1 9.1
	60～69歳	3 100.0	1 33.3	2 66.7	— —	1 33.3	1 33.3	— —	1 33.3	1 33.3	— —	1 33.3	1 33.3	— —	1 33.3
	70歳以上	8 100.0	2 25.0	6 75.0	— —	— —	— —	— —	1 12.5	1 12.5	1 12.5	1 12.5	— —	1 12.5	1 12.5
	無回答	1 100.0	1 100.0	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —

(5) 情報収集や相談をする際に困っていること

問21 あなたが情報収集や相談をするときに困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅱ-42 情報収集や相談をする際に困っていること



情報収集や相談をするときに困ることとしては、「どこに問い合わせたらよいかわからない」が26.3%で最も多く、「身近な場に相談するところがない」が12.7%、「インターネットを使った情報収集や相談がしにくい」が5.6%、「電話やファクシミリを使った情報収集や相談がしにくい」が5.2%で続きます。

「特に困っていない」は35.9%となっています。

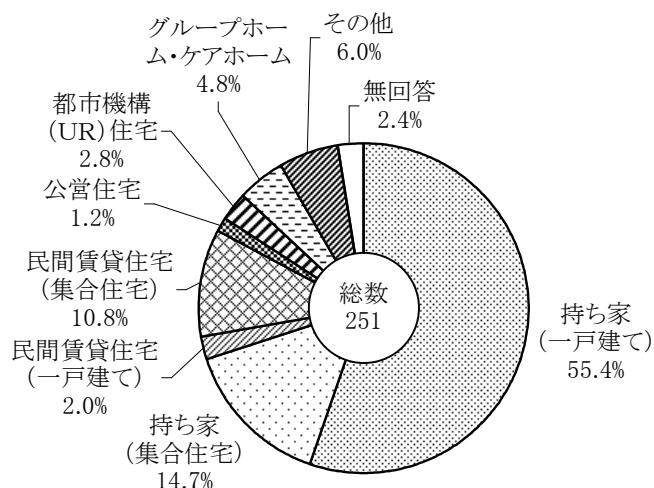
6 住まいについて

(1) 現在の住まいの形態

問22 あなたは、現在どのようなところにお住まいですか。(どれか1つに○)

図表Ⅱ-43 現在の住まいの形態

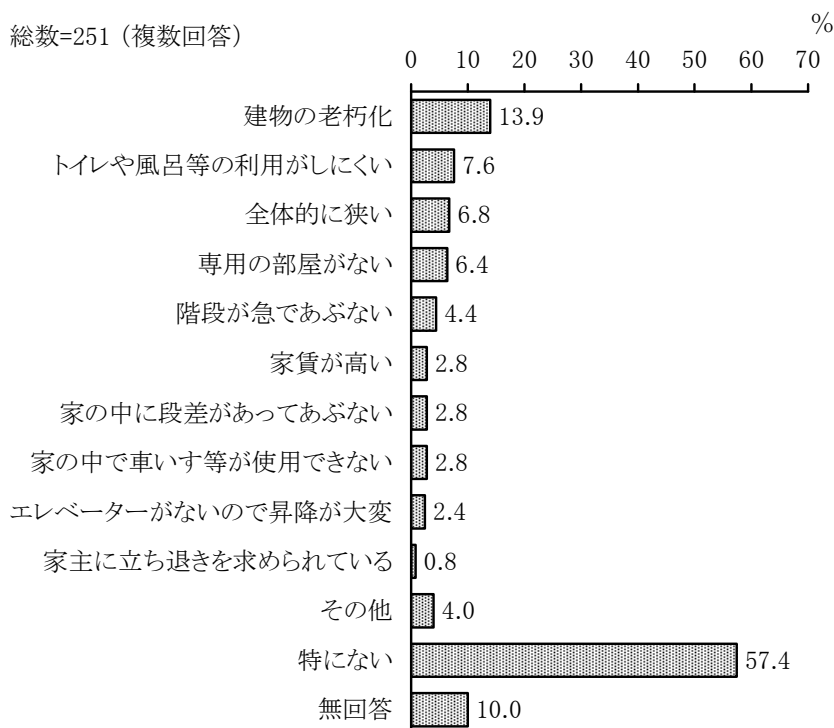
「持ち家（一戸建て）」が55.4%で最も多く、「持ち家（集合住宅）」が14.7%、「民間賃貸住宅（集合住宅）」が10.8%、「グループホーム・ケアホーム」が4.8%で続きます。



(2) 現在の住まいで困っていること

問23 あなたが今のお住まいで困っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅱ-44 現在の住まいで困っていること



現在の住まいで困っていることとしては、「建物の老朽化」が13.9%で最も多く、「トイレや風呂等の利用がしにくい」が7.6%、「全体的に狭い」が6.8%、「専用の部屋がない」が6.4%で続きます。

「特にない」は57.4%となっています。

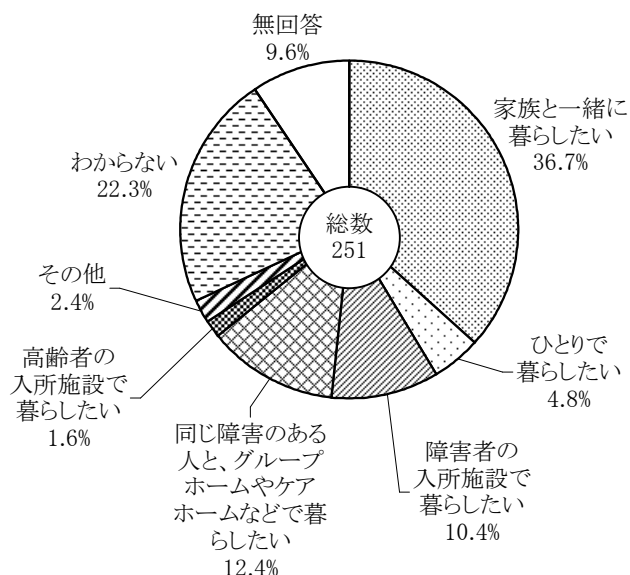
(3) 将来希望する暮らし方

問24 あなたは、将来どのように暮らしたいですか。(どれか1つに○)

図表Ⅱ-45 将来希望する暮らし方

将来希望する暮らし方としては、「家族と一緒に暮らしたい」が36.7%で最も多く、「同じ障害のある人と、グループホームやケアホームなどで暮らしたい」が12.4%、「障害者の入所施設で暮らしたい」が10.4%、「ひとりで暮らしたい」が4.8%で続きます。

「わからない」は22.3%となっています。



年代別に見ると、18歳未満、18～29歳、30～39歳では「家族と一緒に暮らしたい」が4割前後となっているのに対し、40～49歳では27.1%となっています。また、30～39歳、40～49歳では「同じ障害のある人と、グループホームやケアホームなどで暮らしたい」が2割前後です。

図表Ⅱ-46 将来希望する暮らし方【年代別】

		全体	家族と一緒に暮らしたい	ひとりで暮らしたい	障害者の入所施設で暮らしたい	同じ障害のある人と、グループホームやケアホームなどで暮らしたい	高齢者の入所施設で暮らしたい	その他	わからない	無回答
全体		251 100.0	92 36.7	12 4.8	26 10.4	31 12.4	4 1.6	6 2.4	56 22.3	24 9.6
年代別	18歳未満	90 100.0	40 44.4	3 3.3	5 5.6	5 5.6	1 1.1	2 2.2	25 27.8	9 10.0
	18～29歳	51 100.0	19 37.3	2 3.9	5 9.8	7 13.7	-	3 5.9	13 25.5	2 3.9
	30～39歳	39 100.0	16 41.0	2 5.1	5 12.8	8 20.5	-	-	5 12.8	3 7.7
	40～49歳	48 100.0	13 27.1	4 8.3	5 10.4	9 18.8	-	1 2.1	10 20.8	6 12.5
	50～59歳	11 100.0	4 36.4	1 9.1	2 18.2	-	-	-	3 27.3	1 9.1
	60～69歳	3 100.0	-	-	-	1 33.3	1 33.3	-	-	1 33.3
	70歳以上	8 100.0	-	-	3 37.5	1 12.5	2 25.0	-	-	2 25.0
	無回答	1 100.0	-	-	1 100.0	-	-	-	-	-

療育手帳の判定別に見ると、㉠、Aの1では「障害者の入所施設で暮らしたい」が2割前後となっています。Bの1では「家族と一緒に暮らしたい」が過半数に達しています。Bの2では「ひとりで暮らしたい」が13.9%となっています。

図表Ⅱ-47 将来希望する暮らし方【療育手帳の判定別】

		全体	家族と一緒に暮らしたい	ひとりで暮らしたい	障害者の入所施設で暮らしたい	同じ障害のある人と、グループホームやケアホームなどで暮らしたい	高齢者の入所施設で暮らしたい	その他	わからない	無回答
全体		240 100.0	88 36.7	12 5.0	24 10.0	30 12.5	4 1.7	6 2.5	54 22.5	22 9.2
療育手帳の判定別	㉠	34 100.0	9 26.5	-	7 20.6	7 20.6	-	1 2.9	6 17.6	4 11.8
	Aの1	66 100.0	23 34.8	-	12 18.2	6 9.1	1 1.5	3 4.5	14 21.2	7 10.6
	Aの2	6 100.0	-	-	2 33.3	1 16.7	-	-	2 33.3	1 16.7
	Bの1	40 100.0	22 55.0	1 2.5	1 2.5	7 17.5	1 2.5	-	7 17.5	1 2.5
	Bの2	79 100.0	29 36.7	11 13.9	1 1.3	7 8.9	-	2 2.5	22 27.8	7 8.9
	無回答	15 100.0	5 33.3	-	1 6.7	2 13.3	2 13.3	-	3 20.0	2 13.3

7 保育・教育・療育について ※25歳未満の方とその保護者の方が対象 ●●●●●

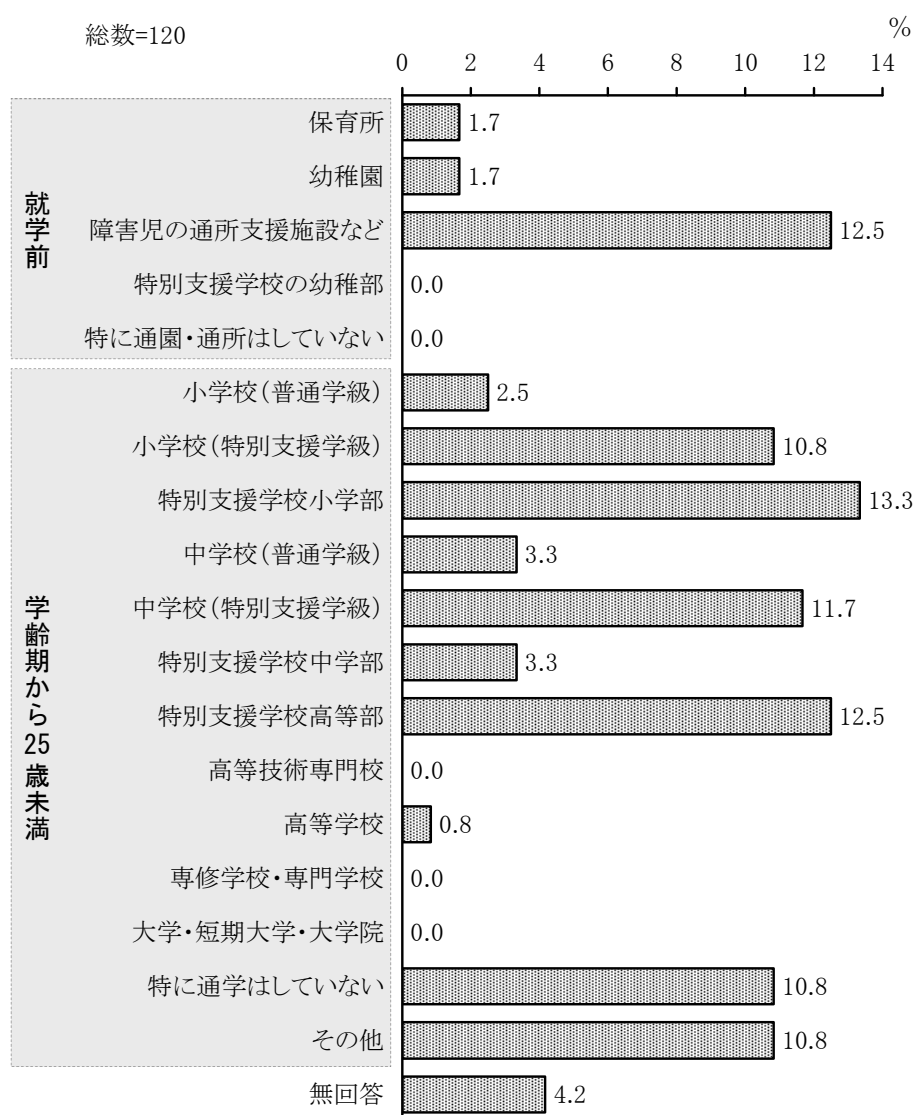
(1) 通園・通学先

問 25 現在、あなたが通園・通学しているところはどこですか。(どれか1つに○)

就学前については「障害児の通所支援施設など」が12.5%、学齢期から25歳未満については「特別支援学校小学部」が13.3%、「特別支援学校高等部」が12.5%、「中学校(特別支援学級)」が11.7%、「小学校(特別支援学級)」が10.8%で続きます。

「特に通学はしていない」は10.8%です。

図表Ⅱ-48 通園・通学先



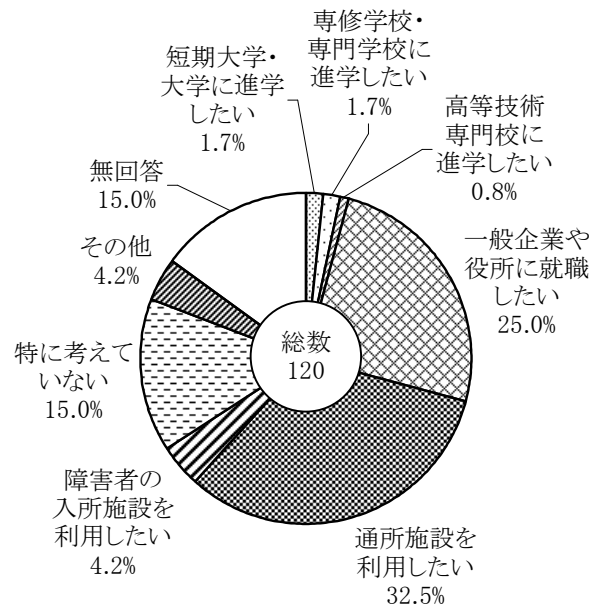
(2) 学校教育修了後の希望進路

問 26 あなたは、学校教育修了後の進路について、どのように考えていますか。(どれか1つに○)

図表Ⅱ-49 学校教育修了後の希望進路

学校教育修了後の希望進路としては、「通所施設を利用したい」が32.5%で最も多く、「一般企業や役所に就職したい」が25.0%で続きます。

「特に考えていない」は15.0%となっています。



(3) 保育や療育について困っていること

問 27 【就学前の方の保護者にうかがいます。】保護者の方が、保育や療育について困っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

該当する回答者は19人であり、「本人の成長や発達に不安がある」が17人(89.5%)、「小学校入学時の学校選択」が12人(63.2%)、「保育・療育に関する情報が少ない」が10人(52.6%)、「療育や訓練の機会が少ない」が9人(47.4%)で続きます。

図表Ⅱ-50 保育や療育について困っていること

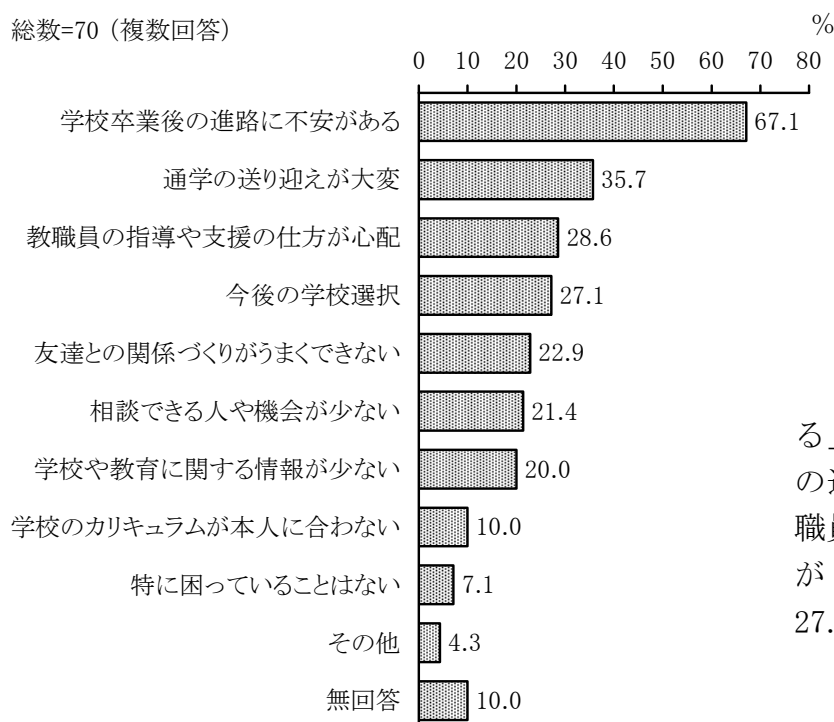
全体	本人の成長や発達に不安がある	保育・療育に関する情報が少ない	療育や訓練の機会が少ない	療育や訓練の内容が十分ではない	希望する施設などに通えない	費用など経済的負担が大きい	通園・通所の送り迎えが大変	小学校入学時の学校選択	相談できる人や機会が少ない	特に困っていることはない	その他	無回答
19 100.0	17 89.5	10 52.6	9 47.4	3 15.8	7 36.8	4 21.1	7 36.8	12 63.2	5 26.3	-	3 15.8	-

(4) 学校や教育について困っていること

問 28 【特別支援学校（幼稚部を除く）・小学校・中学校・高等学校在学中の方の保護者にうかがいます。】保護者の方が、学校や教育について困っていることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

図表Ⅱ- 51 学校や教育について困っていること

総数=70（複数回答）

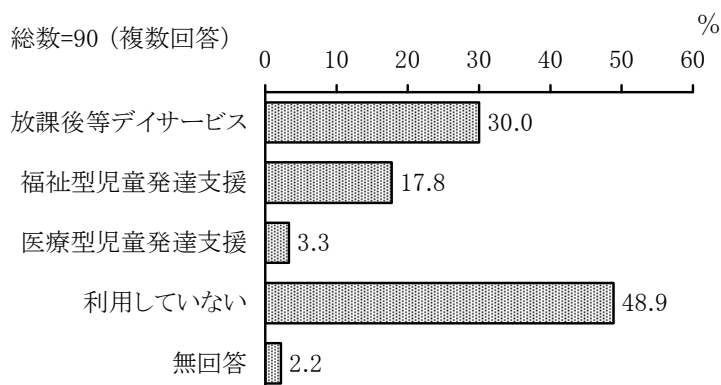


「学校卒業後の進路に不安がある」が 67.1%で最も多く、「通学の送り迎えが大変」が 35.7%、「教職員の指導や支援の仕方が心配」が 28.6%、「今後の学校選択」が 27.1%で続きます。

(5) 障害のある児童のためのサービスの利用状況

問 29 【18歳未満の方にうかがいます。】あなたは、障害のある児童のための次のようなサービスを利用していますか。（あてはまるものすべてに○）

図表Ⅱ- 52 障害のある児童のためのサービスの利用状況



利用しているサービスとしては、「放課後等デイサービス」が 30.0%で最も多く、「福祉型児童発達支援」が 17.8%で続きます。

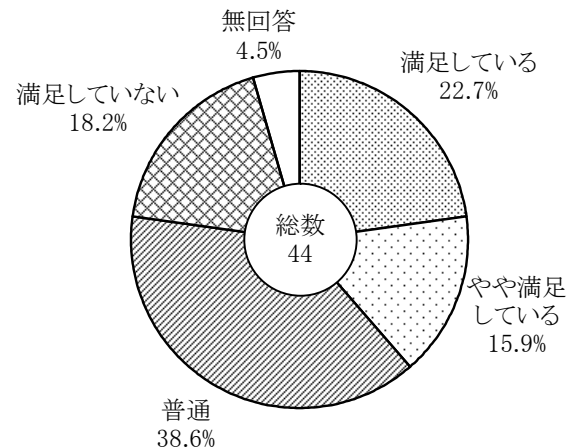
「利用していない」は 48.9%となっています。

(6) 障害のある児童のためのサービスの満足度

問 29-1 【問 29 で 1～3*を選んだ方にうかがいます。】あなたは、利用しているサービスに満足していますか。(どれか1つに○)

図表Ⅱ- 53 障害のある児童のためのサービスの満足度

「満足している」が 22.7%、「やや満足している」が 15.9%であり、全体の 38.6%が障害のある児童のためのサービスに満足しています。「普通」は 38.6%、「満足していない」は 18.2%となっています。



※1～3:「福祉型児童発達支援」「医療型児童発達支援」「放課後等デイサービス」

(7) 障害のある児童のためのサービスの不満理由

問 29-2 【問 29-1 で 4*を選んだ方にうかがいます。】あなたが満足していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

利用しているサービスに満足していない回答者は8人であり、「サービスの回数や日数が少ない」「サービス利用に対する自己負担が大きい」を選んだのがそれぞれ3人です。

図表Ⅱ- 54 障害のある児童のためのサービスの不満理由

全体	サービスの制度がわかりづらい	サービス利用の手続きが面倒	サービスの回数や日数が少ない	サービスの1回当たりの時間が少ない	サービスの利用したい日時調整が大変	サービスの利用内容が雑であつたり、ニーズに合っていない	サービスを提供する人の態度がよくない	サービス利用に対する自己負担が大きい	その他	無回答
8 100.0	- -	1 12.5	3 37.5	1 12.5	2 25.0	1 12.5	1 12.5	3 37.5	3 37.5	- -

※4:「満足していない」

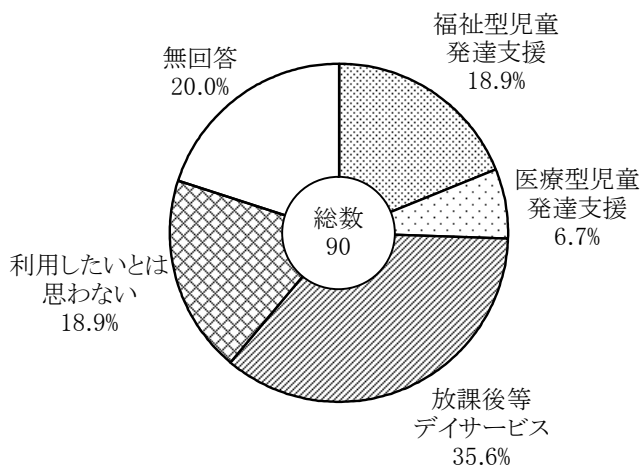
(8) 障害のある児童のためのサービスの利用意向

問 30 【18 歳未満の方にうかがいます。】今後、あなたは障害のある児童のための次のサービスを利用したいと思いますか。現在利用している方もお答えください。(どれか1つに○)

図表Ⅱ- 55 障害のある児童のためのサービスの利用意向

利用したいサービスとしては、「放課後等デイサービス」が 35.6%で最も多く、「福祉型児童発達支援」が 18.9%、「医療型児童発達支援」が 6.7%で続きます。

「利用したいとは思わない」は 18.9%となっています。



8 仕事について ※15 歳以上の方が対象

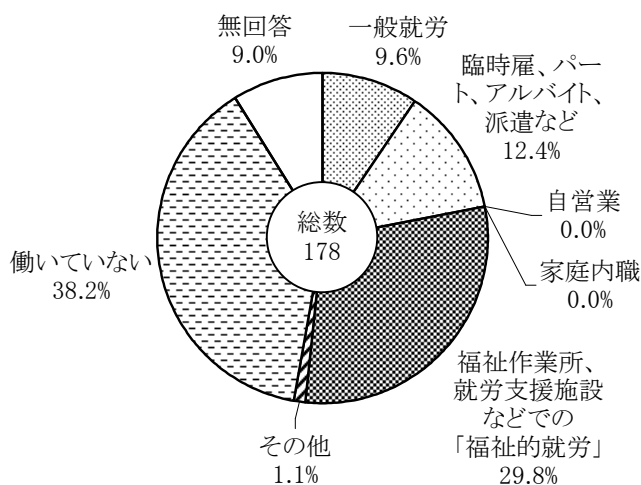
(1) 就労の有無と種類

問 31 あなたは、現在働いて（収入のある仕事に就いて）いますか。（どれか1つに○）

図表Ⅱ- 56 就労の有無と種類

仕事については、「福祉作業所、就労支援施設などでの「福祉的就労」」が 29.8%で最も多く、「臨時雇、パート、アルバイト、派遣など」が 12.4%、「一般就労」が 9.6%で続きます。

「働いていない」は 38.2%となっています。



(2) 週労働日数と週労働時間

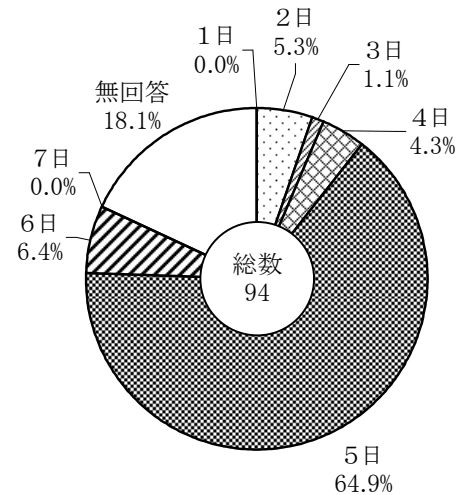
問31-1 【問31で1～6*を選んだ方にうかがいます。】あなたは、おおよそ週に何日間・何時間働いていますか。()内に数字を記入してください。

週労働日数は、「5日」が64.9%で最も多く、「6日」が6.4%、「2日」が5.3%で続きます。

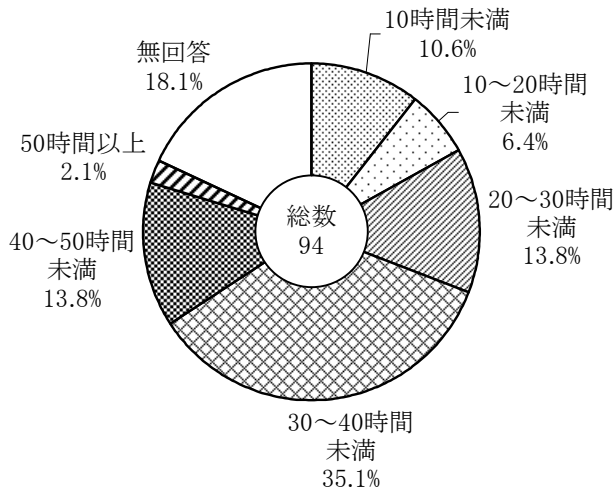
週労働時間は、「30～40時間未満」が35.1%で最も多く、「20～30時間未満」「40～50時間未満」がそれぞれ13.8%、「10時間未満」が10.6%で続きます。

1日当たり就労時間の平均値は5.5時間であり、その分布は「6時間台」が27.7%で最も多く、「8時間以上」が16.0%、「5時間台」が9.6%、「1時間台」「7時間台」がそれぞれ7.4%で続きます。

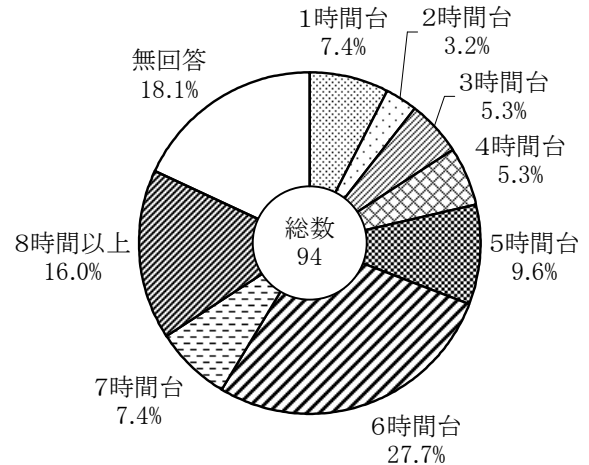
図表Ⅱ-57 週労働日数



図表Ⅱ-58 週労働時間



図表Ⅱ-59 1日当たり就労時間



※1～6：「一般就労（企業などに就職）」「臨時雇、パート、アルバイト、派遣など」「自営業」「家庭内職」「福祉作業所、就労支援施設などでの「福祉的就労」「その他」

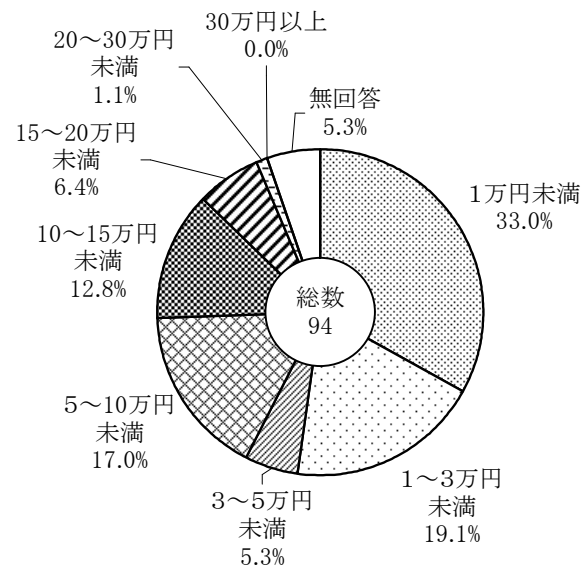
(3) 月平均収入

問31-2 【問31で1～6*を選んだ方にうかがいます。】あなたの労働による1ヶ月の平均収入総額（ボーナスや障害年金等を除く月の給与）を教えてください。税金や年金、施設への利用料などを引かれる前の総額です。（どれか1つに○）

「1万円未満」が33.0%で最も多く、「1～3万円未満」が19.1%、「5～10万円未満」が17.0%、「10～15万円未満」が12.8%で続きます。

※1～6：「一般就労（企業などに就職）」「臨時雇、パート、アルバイト、派遣など」「自営業」「家庭内職」「福祉作業所、就労支援施設などでの「福祉的就労」「その他」

図表Ⅱ- 60 月平均収入



就労の種類別に見ると、福祉作業所、就労支援施設などでの「福祉的就労」では「1万円未満」（58.5%）が6割弱を占めています。

図表Ⅱ- 61 月平均収入【就労の種類別】

		全体	1万円未満	1～3万円未満	3～5万円未満	5～10万円未満	10～15万円未満	15～20万円未満	20～30万円未満	30万円以上	無回答
全体		94 100.0	31 33.0	18 19.1	5 5.3	16 17.0	12 12.8	6 6.4	1 1.1	-	5 5.3
就労の種類	一般就労	17 100.0	-	-	1 5.9	8 47.1	4 23.5	3 17.6	1 5.9	-	-
	臨時雇、パート、アルバイト、派遣など	22 100.0	-	2 9.1	3 13.6	6 27.3	8 36.4	3 13.6	-	-	-
	自営業	-	*	-	-	-	-	*	-	-	*
	家庭内職	-	*	-	-	-	-	*	-	-	*
	福祉作業所、就労支援施設などでの「福祉的就労」	53 100.0	31 58.5	15 28.3	1 1.9	2 3.8	-	-	-	-	4 7.5
	その他	2 100.0	-	1 50.0	-	-	-	-	-	-	1 50.0

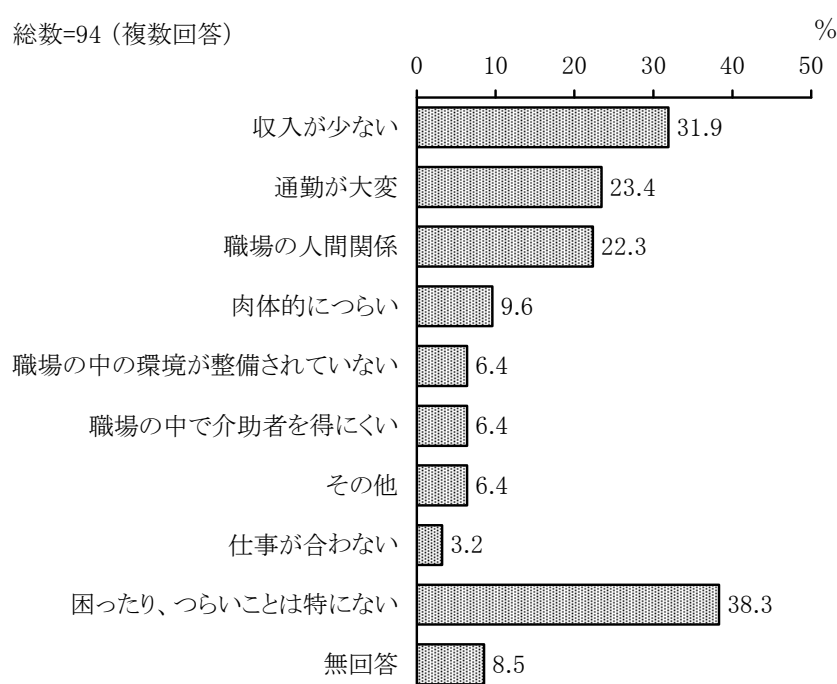
(4) 仕事で困っていること

問31-3 【問31で1～6※を選んだ方にうかがいます。】あなたが仕事をする上で、困ったり、つらいことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

仕事をする上で困ったりつらいこととしては、「収入が少ない」が31.9%で最も多く、「通勤が大変」が23.4%、「職場の人間関係」が22.3%、「肉体的につらい」が9.6%で続きます。

「困ったり、つらいことは特にない」は38.3%となっています。

図表Ⅱ-62 仕事で困っていること



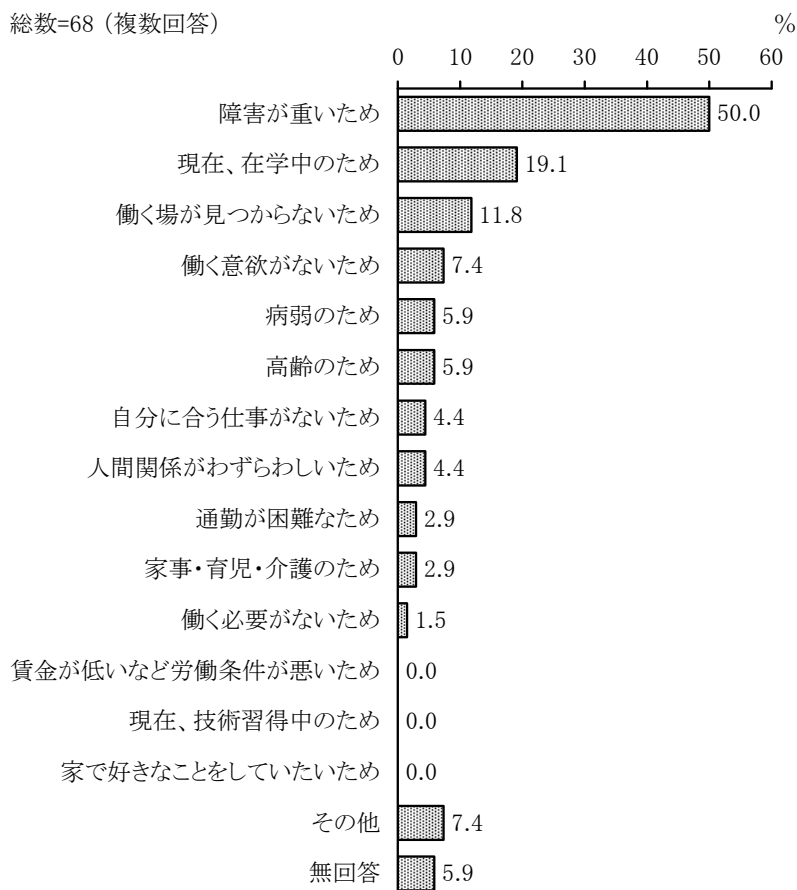
※1～6:「一般就労(企業などに就職)」 「臨時雇、パート、アルバイト、派遣など」 「自営業」 「家庭内職」 「福祉作業所、就労支援施設などでの「福祉的就労」 「その他」

(5) 仕事に就いていない理由

問31-4 【問31で7※を選んだ方にうかがいます。】あなたが仕事に就いていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅱ-63 仕事に就いていない理由

総数=68 (複数回答)



「障害が重い」が50.0%で最も多く、「現在、在学中のため」が19.1%、「働く場が見つからない」が11.8%、「働く意欲がない」が7.4%で続きます。

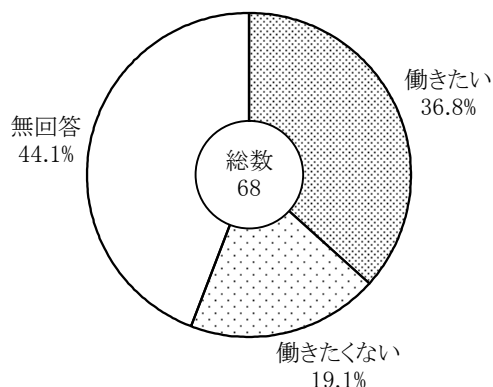
※7:「働いていない」

(6) 今後の就労の意向

問31-5 【問31で7※を選んだ方にうかがいます。】あなたは今後、良い条件が整っているところがあれば、働きたいと思いますか。(どれか1つに○)

図表Ⅱ-64 今後の就労の意向

「働きたい」が36.8%、「働きたくない」が19.1%となっています。



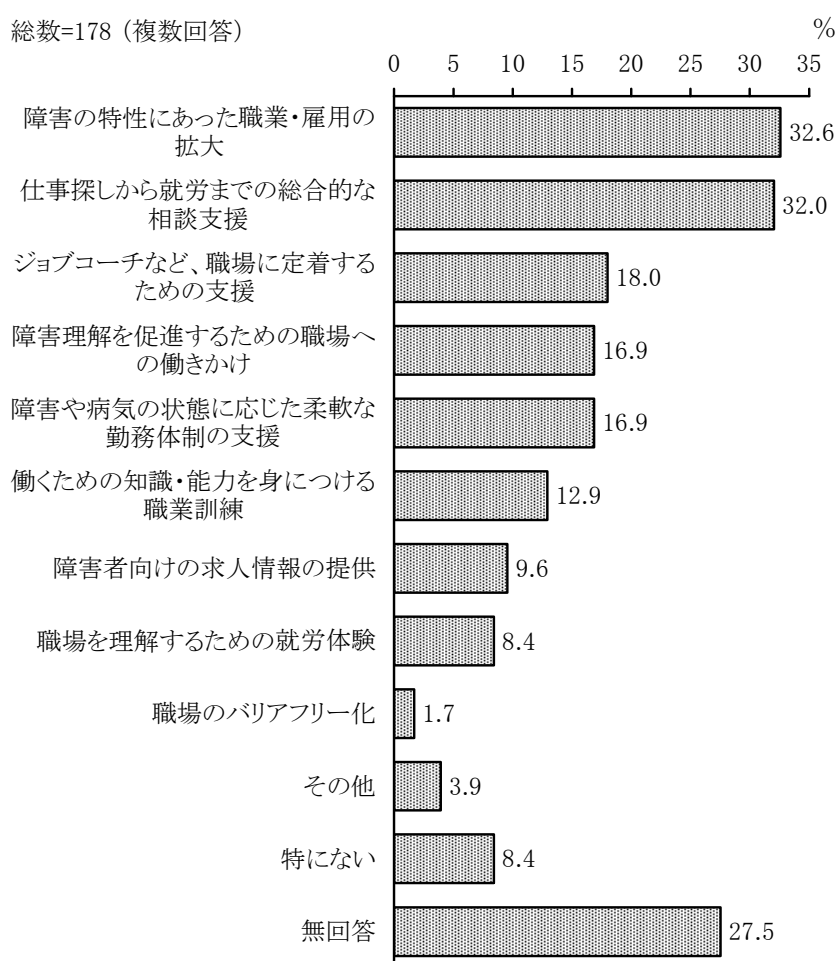
※7:「働いていない」

(7) 障害のある人の一般就労のため必要なこと

問 32 あなたは、障害のある人が、企業などで一般就労するためには、どのような支援が必要だと思いますか。(主なもの3つまでに○)

「障害の特性にあった職業・雇用の拡大」が 32.6%、「仕事探しから就労までの総合的な相談支援」が 32.0%で多くなっています。このほか、「ジョブコーチなど、職場に定着するための支援」が 18.0%、「障害理解を促進するための職場への働きかけ」
「障害や病気の状態に応じた柔軟な勤務体制の支援」がそれぞれ 16.9%で続きます。

図表Ⅱ-65 障害のある人の一般就労のため必要なこと



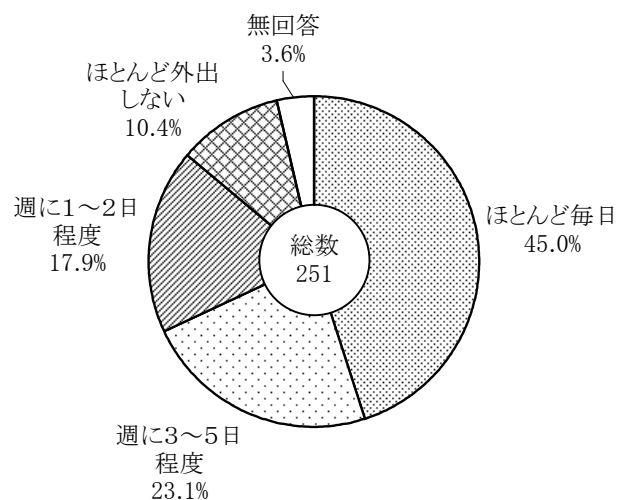
9 外出について

(1) 外出の頻度

問 33 ふだん、あなたは週に何日くらい外出しますか。(どれか1つに○)

「ほとんど毎日」が45.0%で最も多く、「週に3～5日程度」が23.1%、「週に1～2日程度」が17.9%、「ほとんど外出しない」が10.4%となっています。

図表Ⅱ- 66 外出の頻度

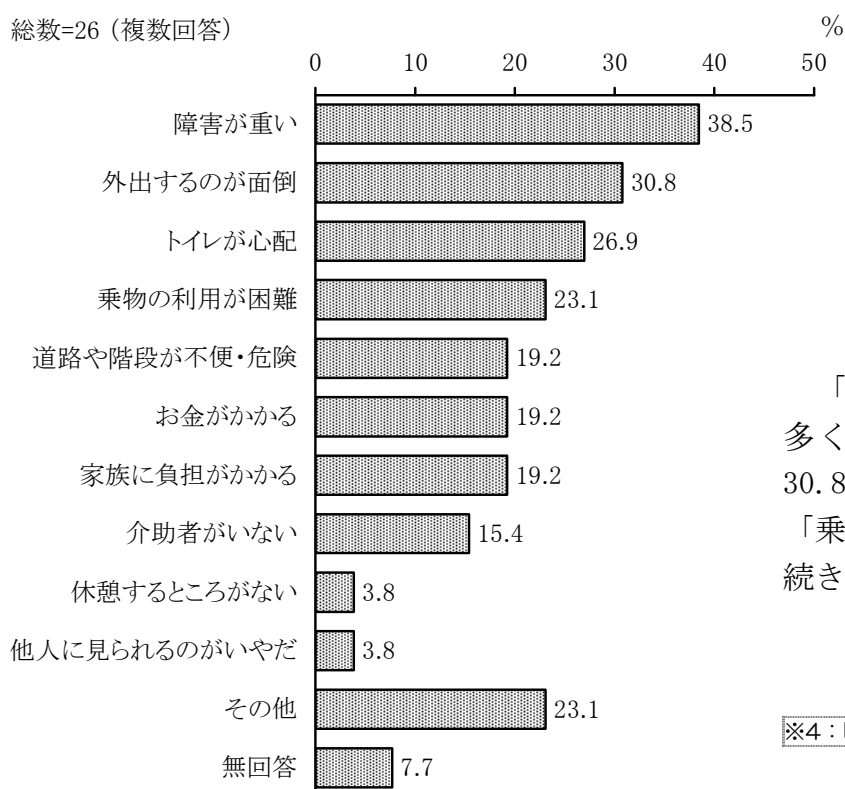


(2) 外出しない理由

問 33-1 【問 33 で 4*を選んだ方にうかがいます。】外出しない理由は、何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅱ- 67 外出しない理由

総数=26 (複数回答)



「障害が重い」が38.5%で最も多く、「外出するのが面倒」が30.8%、「トイレが心配」が26.9%、「乗物の利用が困難」が23.1%で続きます。

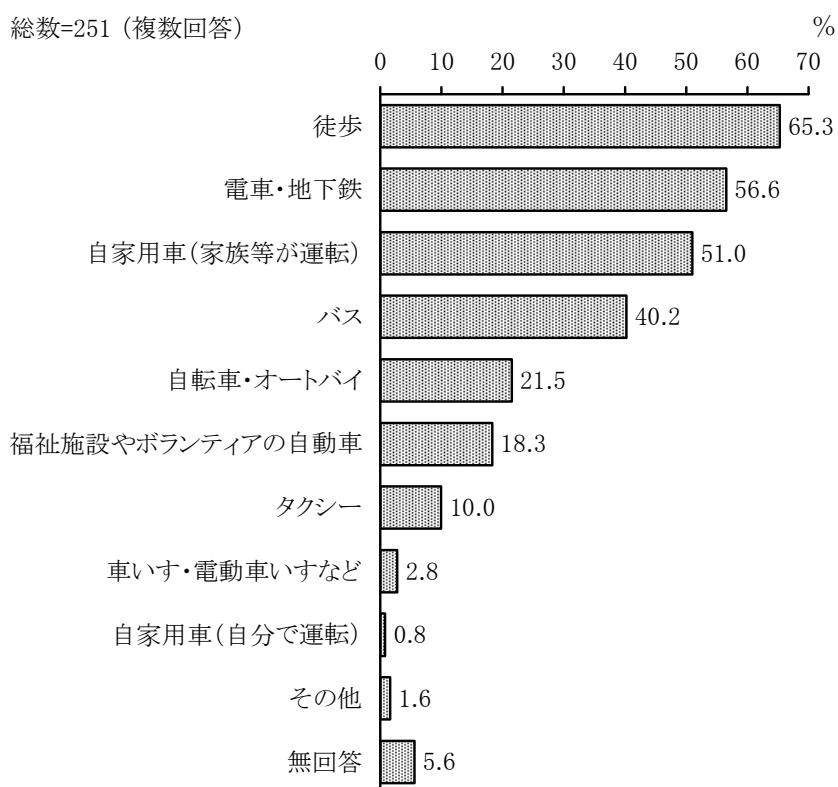
※4: 「ほとんど外出しない」

(3) 外出の時に利用する交通手段

問34 あなたが外出するときは、どのような交通手段を利用しますか。(あてはまるものすべてに○)

「徒歩」が65.3%で最も多く、「電車・地下鉄」が56.6%、「自家用車(家族等が運転)」が51.0%、「バス」が40.2%で続きます。

図表Ⅱ-68 外出の時に利用する交通手段



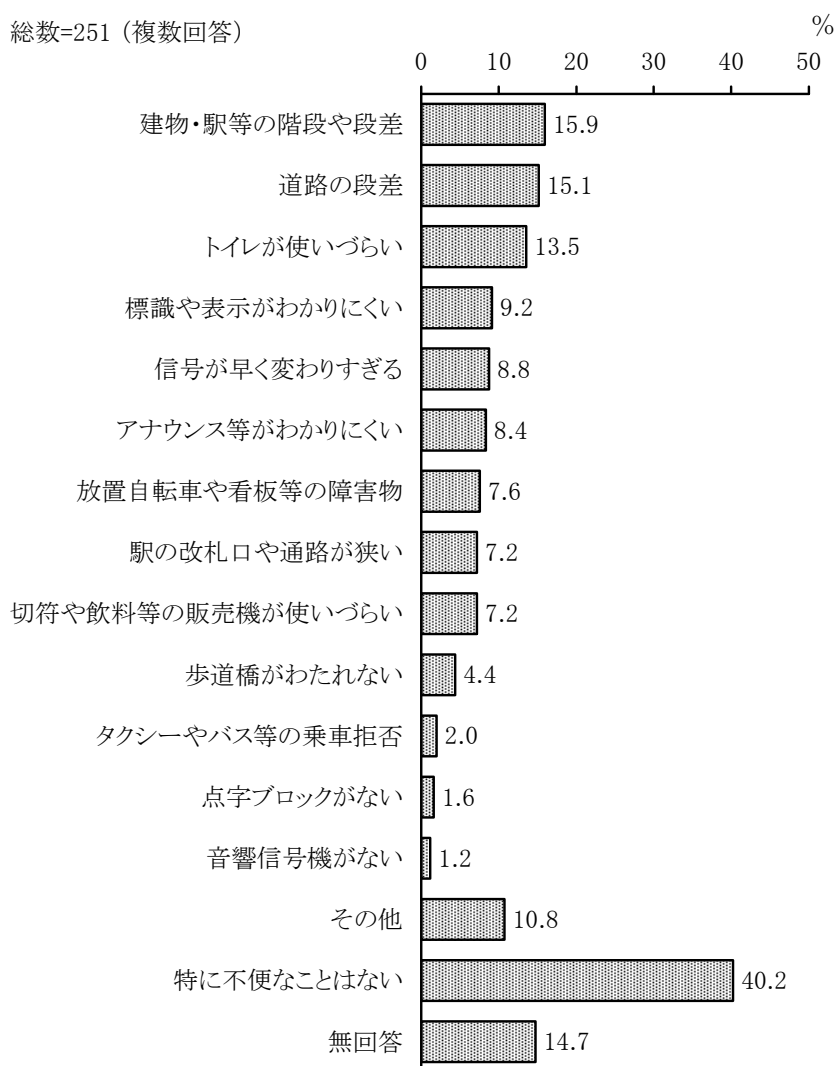
（４）外出の際に設備等で不便に思うこと

問 35 あなたが外出する際、道路や交通機関、建物のことで困ったり不便に思うことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

外出の際に設備等で困ったり不便に思うこととしては、「建物・駅等の階段や段差」が15.9%、「道路の段差」が15.1%で多くなっています。このほか、「トイレが使いづらい」が13.5%、「標識や表示がわかりにくい」が9.2%で続きます。

「特に不便なことはない」は40.2%となっています。

図表Ⅱ－69 外出の際に設備等で不便に思うこと

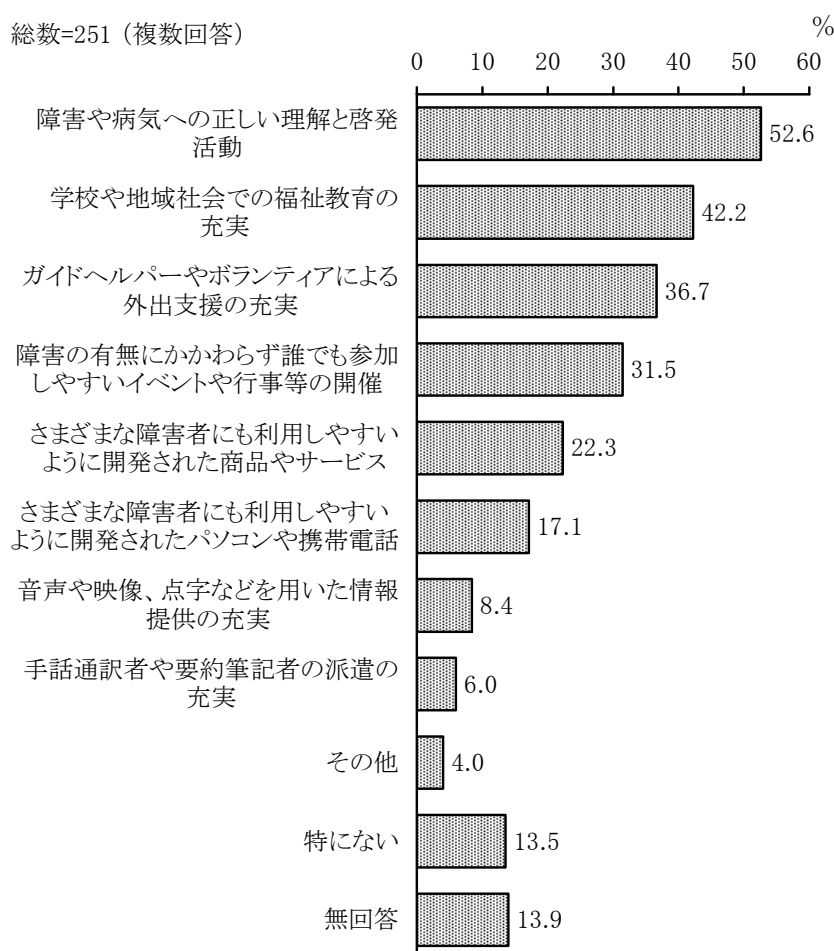


(5) バリアフリー化を進めるために重要なこと

問 36 交通機関やまちのバリアフリー化だけでなく、制度や意識の面も含めた「社会全体のバリアフリー化」を進めるために、あなたが重要だと思うものは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「障害や病気への正しい理解と啓発活動」が 52.6%で最も多く、「学校や地域社会での福祉教育の充実」が 42.2%、「ガイドヘルパーやボランティアによる外出支援の充実」が 36.7%、「障害の有無にかかわらず誰でも参加しやすいイベントや行事等の開催」が 31.5%で続きます。

図表Ⅱ- 70 バリアフリー化を進めるために重要なこと



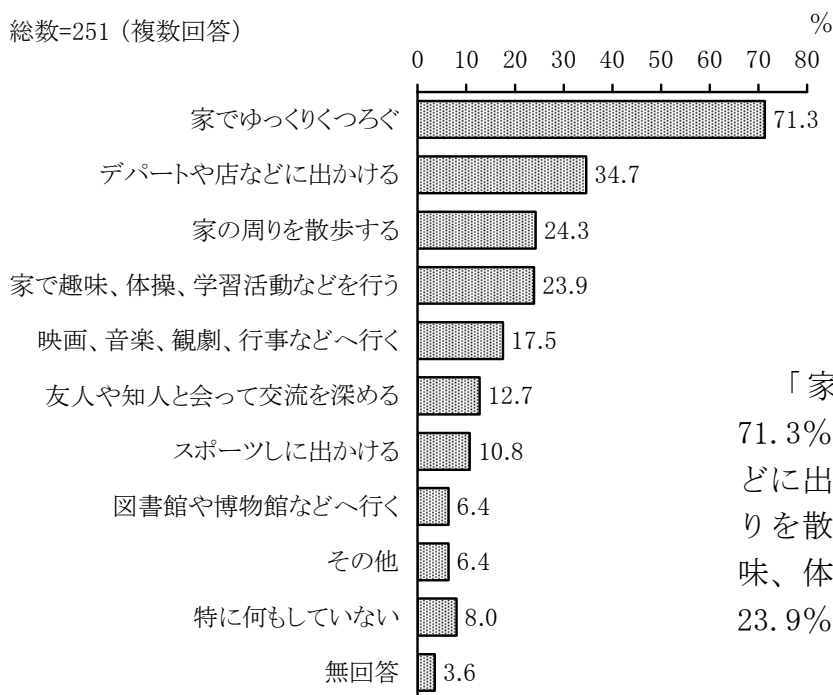
10 余暇活動について

(1) 余暇時間にしていること

問 37 あなたは、時間に余裕があるときにどのようなことをしていますか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅱ- 71 余暇時間にしていること

総数=251 (複数回答)



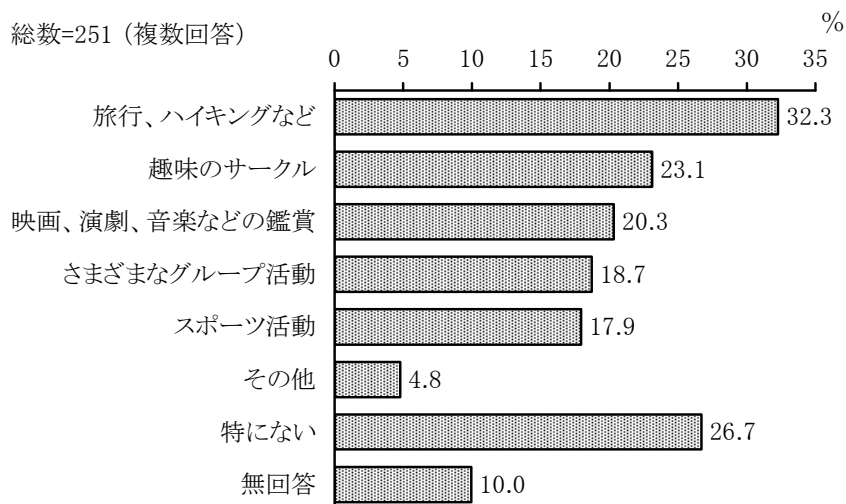
「家でゆっくりくつろぐ」が 71.3%で最も多く、「デパートや店などに出かける」が 34.7%、「家の周りを散歩する」が 24.3%、「家で趣味、体操、学習活動などを行う」が 23.9%で続きます。

(2) 今後参加したい活動

問 38 あなたは現在の生活をより豊かにするために、どのような活動に参加したいと思っていますか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅱ- 72 今後参加したい活動

総数=251 (複数回答)



今後参加したい活動としては、「旅行、ハイキングなど」が 32.3%で最も多く、「趣味のサークル」が 23.1%、「映画、演劇、音楽などの鑑賞」が 20.3%、「さまざまなグループ活動」が 18.7%、「スポーツ活動」が 17.9%で続きます。

「特にない」は 26.7%となっています。

11 権利擁護について

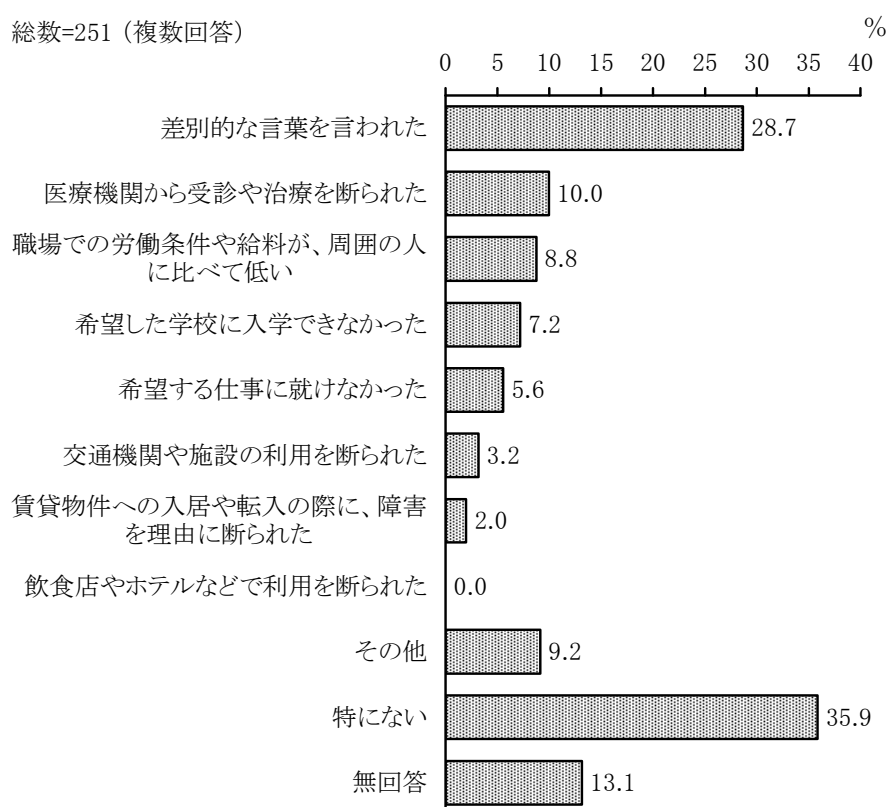
(1) 人権を損なう扱いを受けた経験の有無

問 39 あなたは、障害があることが原因で、人権を損なう扱いを受けた経験がありますか。(あてはまるものすべてに○)

受けたことのある経験としては、「差別的な言葉を言われた」が28.7%で最も多く、「医療機関から受診や治療を断られた」が10.0%、「職場での労働条件や給料が、周囲の人に比べて低い」が8.8%、「希望した学校に入学できなかった」が7.2%で続きます。

「特にない」は35.9%となっています。

図表Ⅱ-73 人権を損なう扱いを受けた経験の有無

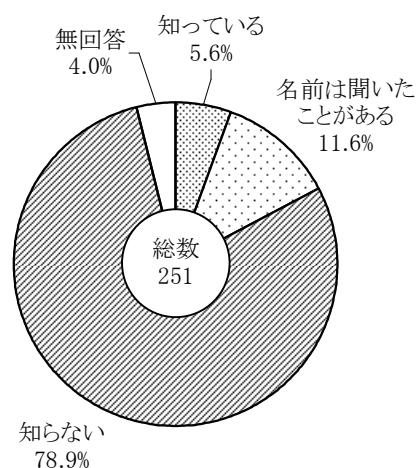


（２）船橋市障害者虐待防止センターの認知状況

問 40 あなたは、「船橋市障害者虐待防止センター（通称：は〜ぶ）」を知っていますか。（どれか1つに○）

図表Ⅱ-74 船橋市障害者虐待防止センターの認知状況

「知らない」が78.9%で最も多く、「名前は聞いたことがある」が11.6%で続きます。「知っている」は5.6%にとどまっています。

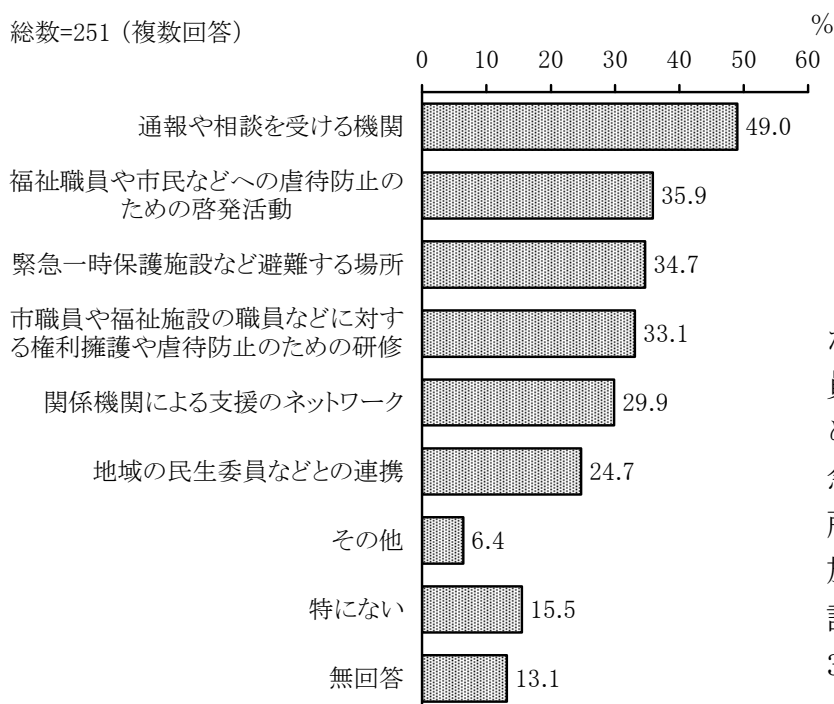


（３）障害者虐待の防止に必要な制度・体制

問 41 障害者虐待の防止のために、あなたは、市がどのような制度や体制を整備する必要がありますか。（あてはまるものすべてに○）

図表Ⅱ-75 障害者虐待の防止に必要な制度・体制

総数=251（複数回答）



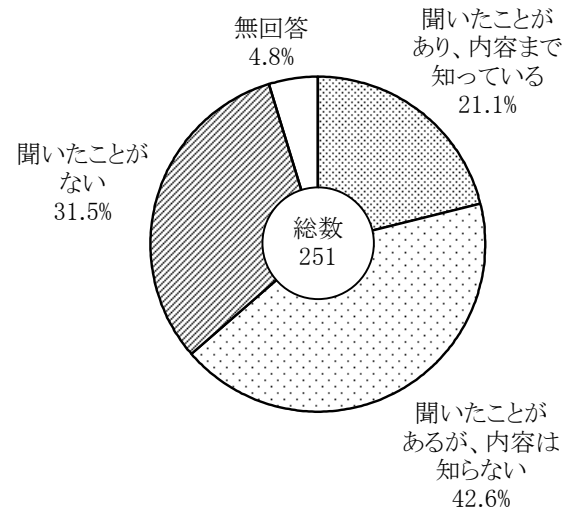
「通報や相談を受ける機関」が49.0%で最も多く、「福祉職員や市民などへの虐待防止のための啓発活動」が35.9%、「緊急一時保護施設など避難する場所」が34.7%、「市職員や福祉施設の職員などに対する権利擁護や虐待防止のための研修」が33.1%で続きます。

(4) 成年後見制度の認知状況

問 42 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(どれか1つに○)

図表Ⅱ- 76 成年後見制度の認知状況

「聞いたことがあり、内容まで知っている」が 21.1%、「聞いたことがあるが、内容は知らない」が 42.6%であり、全体の 63.7%が成年後見制度について聞いたことがあると回答しています。「聞いたことがない」は 31.5%となっています。



療育手帳の判定別に見ると、㊦では「聞いたことがあり、内容まで知っている」(47.1%)が5割弱であり、判定による差が大きくなっています。Bの1、Bの2では「聞いたことがない」が4割前後となっています。

図表Ⅱ- 77 成年後見制度の認知状況【療育手帳の判定別】

		全体	聞いたことがあり、 内容まで知っている	聞いたことがあるが、 内容は知らない	聞いたことがない	無回答
	全体	240 100.0	52 21.7	105 43.8	73 30.4	10 4.2
療育手帳の判定	㊦	34 100.0	16 47.1	10 29.4	5 14.7	3 8.8
	Aの1	66 100.0	18 27.3	30 45.5	14 21.2	4 6.1
	Aの2	6 100.0	2 33.3	1 16.7	2 33.3	1 16.7
	Bの1	40 100.0	6 15.0	20 50.0	14 35.0	—
	Bの2	79 100.0	6 7.6	38 48.1	34 43.0	1 1.3
	無回答	15 100.0	4 26.7	6 40.0	4 26.7	1 6.7

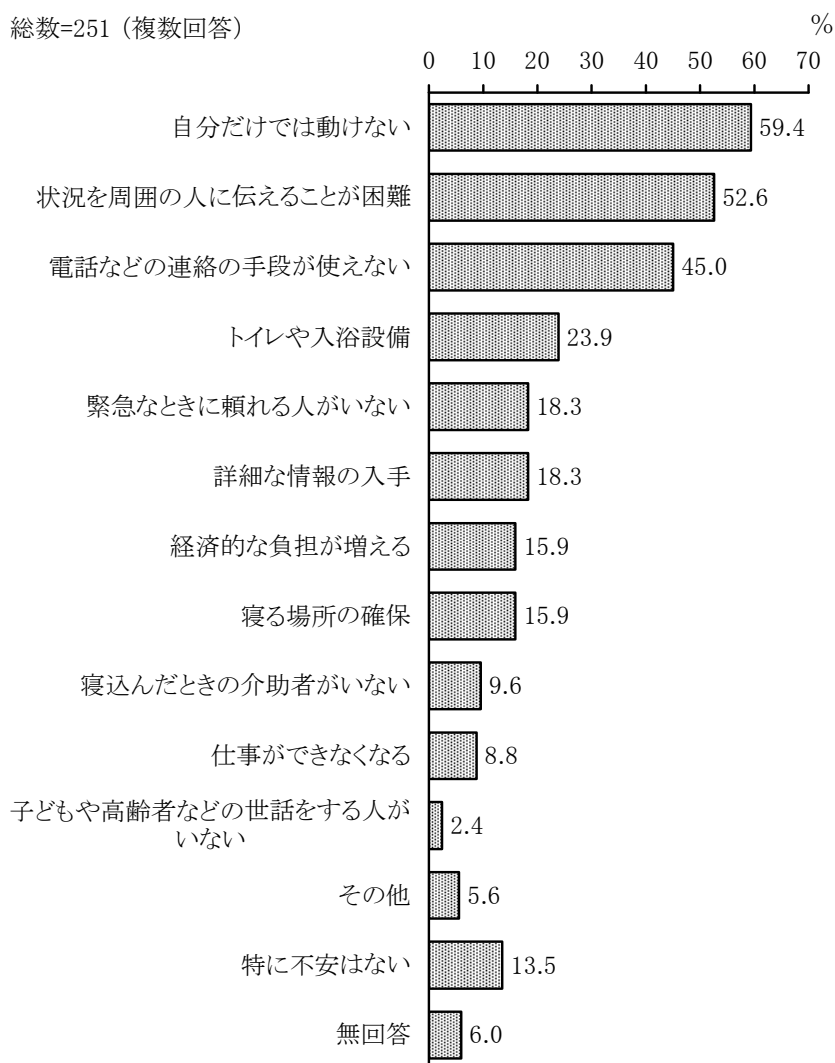
12 災害・緊急時の対応について

(1) 緊急な病状になったときに不安なこと

問 43 もし、あなたが緊急な病状になったことを考えると、特に不安に感じることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「自分だけでは動けない」が 59.4%で最も多く、「状況を周囲の人に伝えることが困難」が 52.6%、「電話などの連絡の手段が使えない」が 45.0%、「トイレや入浴設備」が 23.9%で続きます。

図表Ⅱ- 78 緊急な病状になったときに不安なこと



療育手帳の判定別に見ると、「自分だけでは動けない」「状況を周囲の人に伝えることが困難」「電話などの連絡の手段が使えない」という回答は、㉠、Aの1で6割以上を占めています。

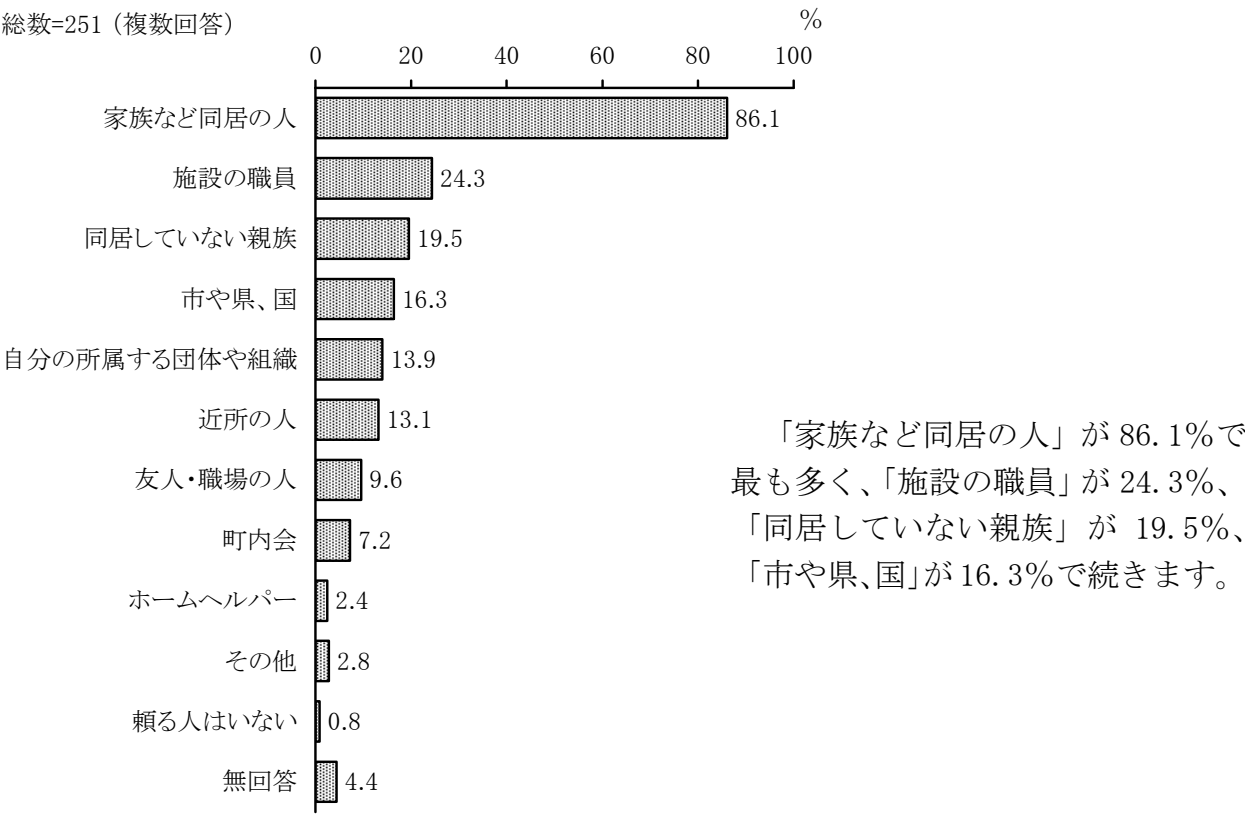
図表Ⅱ-79 緊急な病状になったときに不安なこと【療育手帳の判定別】

	全体	自分だけでは動けない	状況を周囲の人に伝えることが困難	電話などの連絡の手段が使えない	緊急なときに頼れる人がいない	経済的な負担が増える	寝込んだときの介助者がいない	仕事ができなくなる	子どもや高齢者などの世話をする人がいない	寝る場所の確保	トイレや入浴設備	詳細な情報の入手	その他	特に不安はない	無回答
全体	240	147	130	109	46	38	24	20	6	40	59	45	13	31	13
	100.0	61.3	54.2	45.4	19.2	15.8	10.0	8.3	2.5	16.7	24.6	18.8	5.4	12.9	5.4
療育手帳の判定別	㉠	34	27	29	9	7	5	1	2	12	15	5	3	-	1
	100.0	79.4	85.3	79.4	26.5	20.6	14.7	2.9	5.9	35.3	44.1	14.7	8.8	-	2.9
	Aの1	66	47	45	43	18	10	2	2	16	25	16	5	8	4
	100.0	71.2	68.2	65.2	27.3	12.1	15.2	3.0	3.0	24.2	37.9	24.2	7.6	12.1	6.1
	Aの2	6	3	3	2	-	2	1	2	1	2	1	1	-	1
	100.0	50.0	50.0	33.3	-	33.3	16.7	33.3	-	16.7	33.3	16.7	16.7	-	16.7
	Bの1	40	24	18	15	5	3	4	1	6	5	9	2	6	2
	100.0	60.0	45.0	37.5	12.5	7.5	7.5	10.0	2.5	15.0	12.5	22.5	5.0	15.0	5.0
	Bの2	79	35	29	19	13	16	3	9	2	9	12	2	17	2
	100.0	44.3	36.7	24.1	16.5	20.3	3.8	11.4	-	2.5	11.4	15.2	2.5	21.5	2.5
	無回答	15	11	6	3	1	2	2	1	3	3	2	-	-	3
	100.0	73.3	40.0	20.0	6.7	13.3	13.3	13.3	6.7	20.0	20.0	13.3	-	-	20.0

（2）地震や火災等のときに頼りにする人

問 44 あなたは、地震や火災などが起きたら、どなたを頼りにしたいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

図表Ⅱ-80 地震や火災等のときに頼りにする人

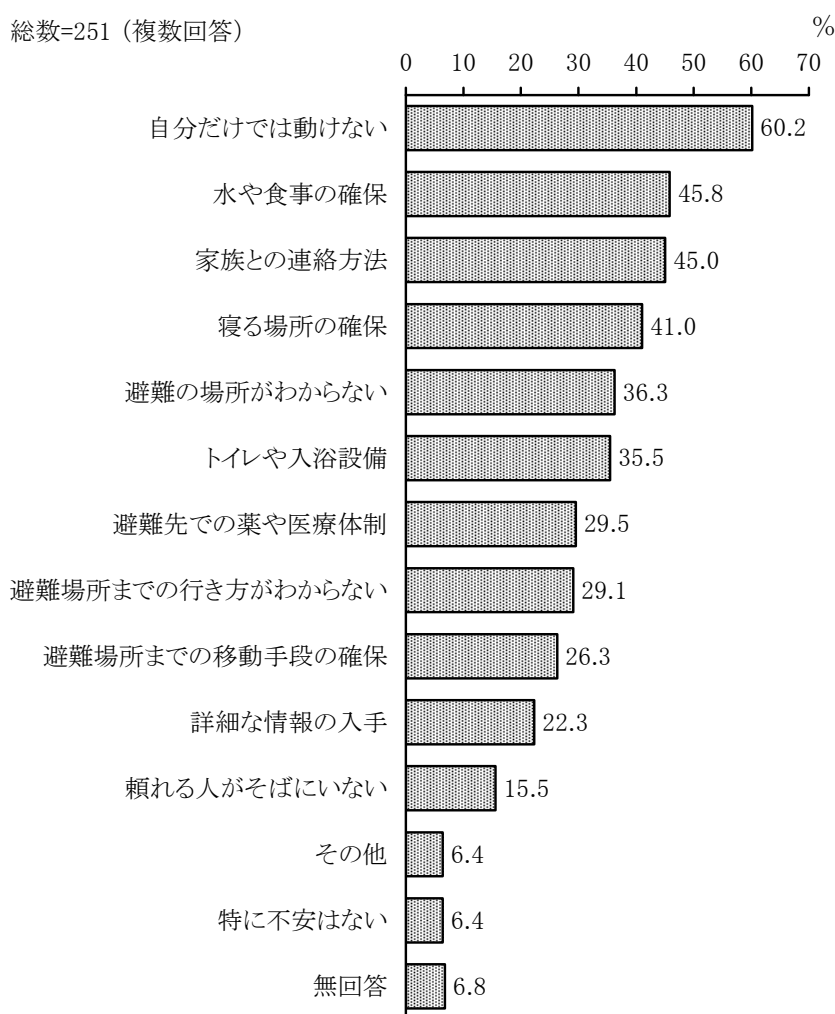


（3）緊急に避難する場合に不安なこと

問 45 地震や火事、台風などのために、緊急に避難しなければならなくなったことを考えると、あなたが不安に感じることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「自分だけでは動けない」が60.2%で最も多く、「水や食事の確保」が45.8%、「家族との連絡方法」が45.0%、「寝る場所の確保」が41.0%で続きます。

図表Ⅱ－81 緊急に避難する場合に不安なこと

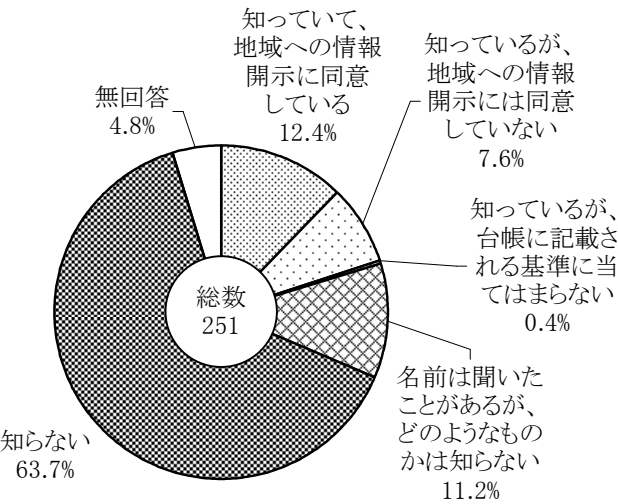


(4)「災害時要援護者台帳」の認知状況

問 46 あなたは、災害時要援護者台帳を知っていますか。(どれか1つに○)

図表Ⅱ-82 「災害時要援護者台帳」の認知状況

「知らない」が63.7%で最も多く、「名前は聞いたことがあるが、どのようなものかは知らない」が11.2%であり、全体の74.9%が災害時要援護者台帳の内容を認識していません。「要援護者台帳を知っていて、地域への情報開示に同意している」は12.4%、「要援護者台帳を知っているが、地域への情報開示には同意していない」は7.6%となっています。



療育手帳の判定別に見ると、「要援護者台帳を知っていて、地域への情報開示に同意している」という回答は、**Ⓐ**で35.3%となっているのに対し、Bの1、Bの2では1割未満にとどまっており、「知らない」が8割弱に達しています。

図表Ⅱ-83 「災害時要援護者台帳」の認知状況【療育手帳の判定別】

		全体	要援護者台帳を知っているが、地域への情報開示に同意していない	要援護者台帳を知っているが、地域への情報開示に同意している	要援護者台帳を知っているが、台帳に記載される基準に当てはまらない	名前は聞いたことがあるが、どのようなものかは知らない	知らない	無回答
	全体	240 100.0	31 12.9	19 7.9	1 0.4	28 11.7	151 62.9	10 4.2
療育手帳の判定別	Ⓐ	34 100.0	12 35.3	4 11.8	—	2 5.9	13 38.2	3 8.8
	Aの1	66 100.0	12 18.2	7 10.6	—	7 10.6	37 56.1	3 4.5
	Aの2	6 100.0	—	1 16.7	—	1 16.7	3 50.0	1 16.7
	Bの1	40 100.0	1 2.5	2 5.0	1 2.5	5 12.5	31 77.5	—
	Bの2	79 100.0	1 1.3	4 5.1	—	11 13.9	61 77.2	2 2.5
	無回答	15 100.0	5 33.3	1 6.7	—	2 13.3	6 40.0	1 6.7

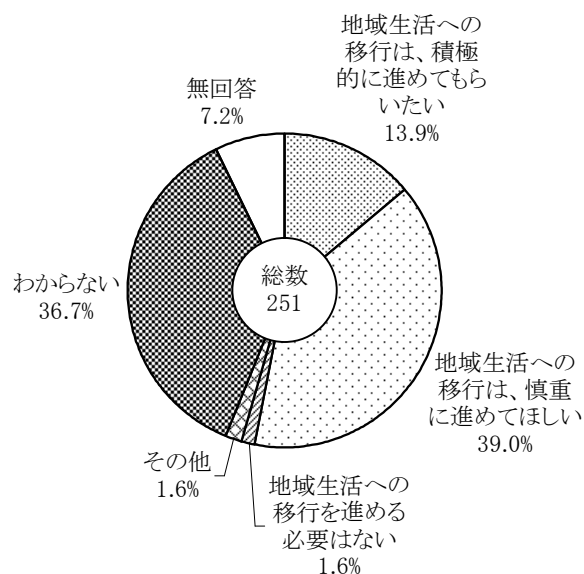
13 障害者総合支援法について

(1) 入所者・入院者の地域生活移行への考え方

問 47 市では、「第3期船橋市障害福祉計画」に基づき、現在、福祉施設に入所または病院に入院している障害者で退所・退院が可能な人について、地域生活への移行を支援しています。このことについて、あなたはどのように思いますか。(どれか1つに○)

図表Ⅱ-84 入所者・入院者の地域生活移行への考え方

「地域生活への移行は、積極的に進めてもらいたい」が13.9%、「地域生活への移行は、慎重に進めてほしい」が39.0%となっています。「わからない」は36.7%です。

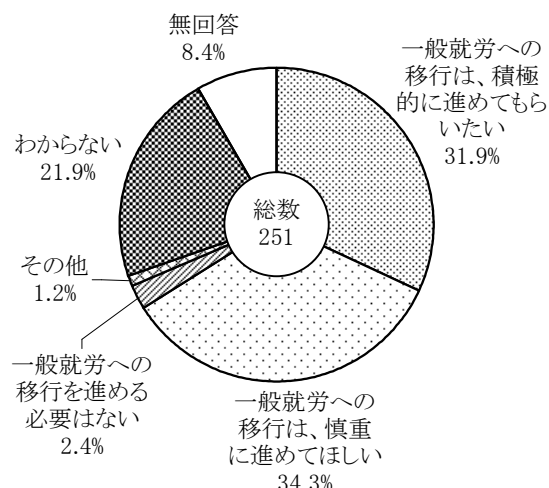


(2) 福祉的就労から一般就労への移行への考え方

問 48 現在、福祉的就労（障害者の作業所などでの就労）をしている障害者のうち、訓練により一般就労（企業等への就労、在宅での就労）が可能となる人について、市では一般就労への移行を支援しています。このことについて、あなたはどのように思いますか。(どれか1つに○)

図表Ⅱ-85 福祉的就労から一般就労への移行への考え方

「一般就労への移行は、積極的に進めてもらいたい」が31.9%、「一般就労への移行は、慎重に進めてほしい」が34.3%となっています。「わからない」は21.9%です。



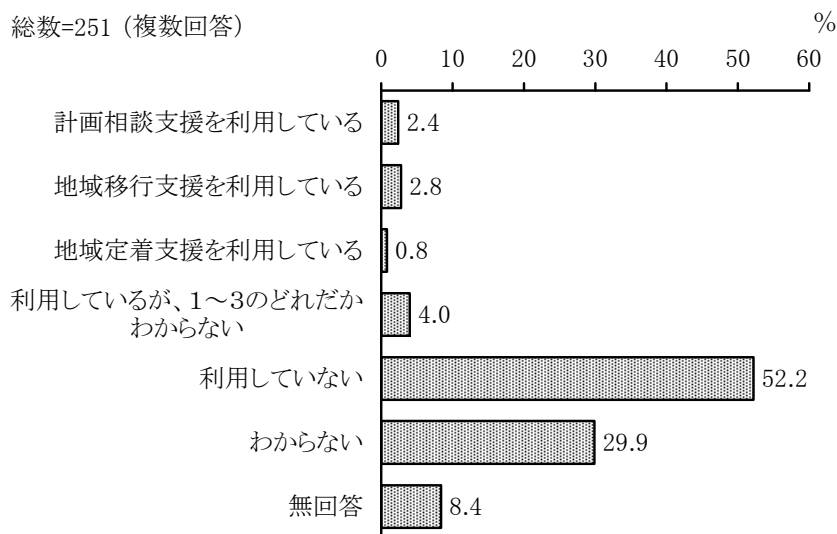
(3) 相談支援事業の利用状況

問 49 あなたは、次のような相談支援事業を利用していますか。(あてはまるものすべてに○)

利用している相談支援事業としては、「利用しているが、1～3※のどれだかわからない」が4.0%であり、「地域移行支援を利用している」が2.8%、「計画相談支援を利用している」が2.4%となっています。

「利用していない」は52.2%、「わからない」は29.9%です。

図表Ⅱ- 86 相談支援事業の利用状況



※1～3：1. 計画相談支援を利用している、2. 地域移行支援を利用している、3. 地域定着支援を利用している

(4) 相談支援事業の満足度

問 49-1 【問 49 で 1～4※を選んだ方にうかがいます。】あなたは、相談支援事業に満足していますか。(どれか1つに○)

相談支援事業を利用していると回答したのは24人であり、「普通」が12人(50.0%)、「満足している」が6人(25.0%)、「やや満足している」が5人(20.8%)と続きます。

図表Ⅱ- 87 相談支援事業の満足度

全体	満足している	やや満足している	普通	満足していない	無回答
24 100.0	6 25.0	5 20.8	12 50.0	1 4.2	—

※1～4：1. 計画相談支援を利用している、2. 地域移行支援を利用している、3. 地域定着支援を利用している、4. 利用しているが、1～3のどれだかわからない

(5) 相談支援事業の不満理由

問 49-2 【問 49-1 で 4*を選んだ方にうかがいます。】あなたが満足していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

相談支援事業に満足していないと回答したのは1人であり、「相談支援の制度がわかりにくい」を選んでいきます。

図表Ⅱ- 88 相談支援事業の不満理由

全体	相談支援の制度がわかりにくい	相談支援の利用の手続きが面倒	相談支援の回数や日数が少ない	相談支援の1回当たりの時間が少ない	相談支援を利用したい日時が調整が大変	相談支援の内容が雑であつたり、ニーズに合っていない	相談支援を提供する人の態度がよくない	相談支援利用に対する自己負担が大きい	その他	無回答
1 100.0	1 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -

※4：「満足していない」

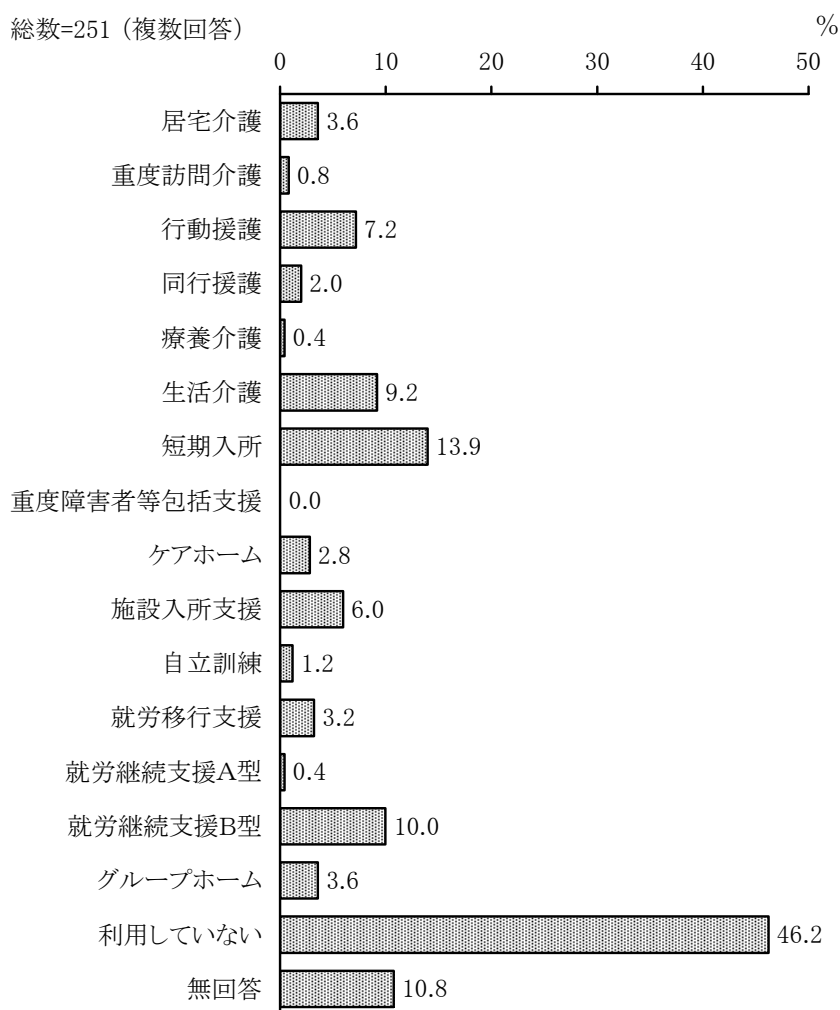
(6) 障害福祉サービスの利用状況

問50 あなたは、どのような障害福祉サービスを利用していますか。(あてはまるものすべてに○)

利用しているサービスとしては、「短期入所」が13.9%で最も多く、「就労継続支援B型」が10.0%、「生活介護」が9.2%、「行動援護」が7.2%で続きます。

「利用していない」は46.2%となっています。

図表Ⅱ-89 障害福祉サービスの利用状況

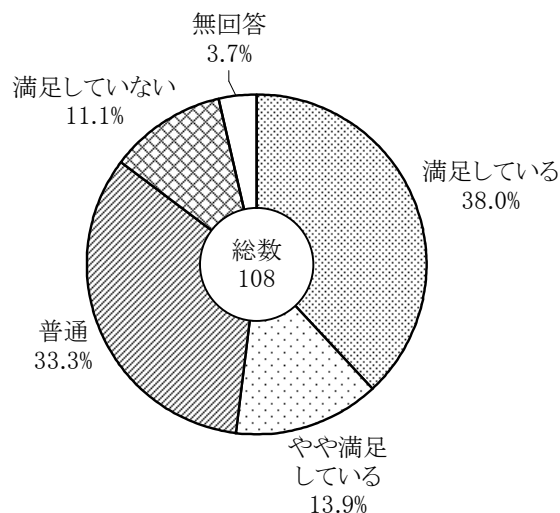


(7) 障害福祉サービスの満足度

問 50-1 【問 50 で 1～15*を選んだ方にうかがいます。】あなたは、利用しているサービスに満足していますか。(どれか1つに○)

図表Ⅱ- 90 障害福祉サービスの満足度

「満足している」が 38.0%、「やや満足している」が 13.9%であり、全体の 51.9%がサービスに満足しています。
「普通」は 33.3%、「満足していない」は 11.1%となっています。



※1～15：「居宅介護（ホームヘルプ）」「重度訪問介護」「行動援護」「同行援護」「療養介護」「生活介護」「短期入所（ショートステイ）」「重度障害者等包括支援」「ケアホーム（共同生活介護）」「施設入所支援」「自立訓練」「就労移行支援」「就労継続支援A型」「就労継続支援B型」「グループホーム（共同生活援助）」

(8) 障害福祉サービスの不満理由

問 50-2 【問 50-1 で 4*を選んだ方にうかがいます。】あなたが満足していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

障害福祉サービスに満足していないと回答したのは 12 人であり、「サービスを利用したい日時の調整が大変」が 6 人（50.0%）、「サービスを提供する人の態度がよくない」が 5 人（41.7%）となっています。

図表Ⅱ- 91 障害福祉サービスの不満理由

全体	サービス利用の制度がわかりづらい	サービス利用の手続きが面倒	サービスの回数や日数が少ない	サービスの1回当たりの時間が少ない	サービスを利用したい日時の調整が大変	サービスの内容が雑であつたり、ニーズに合っていない	サービスを提供する人の態度がよくない	サービス利用に対する自己負担が大きい	その他	無回答
12 100.0	2 16.7	2 16.7	3 25.0	3 25.0	6 50.0	3 25.0	5 41.7	1 8.3	3 25.0	1 8.3

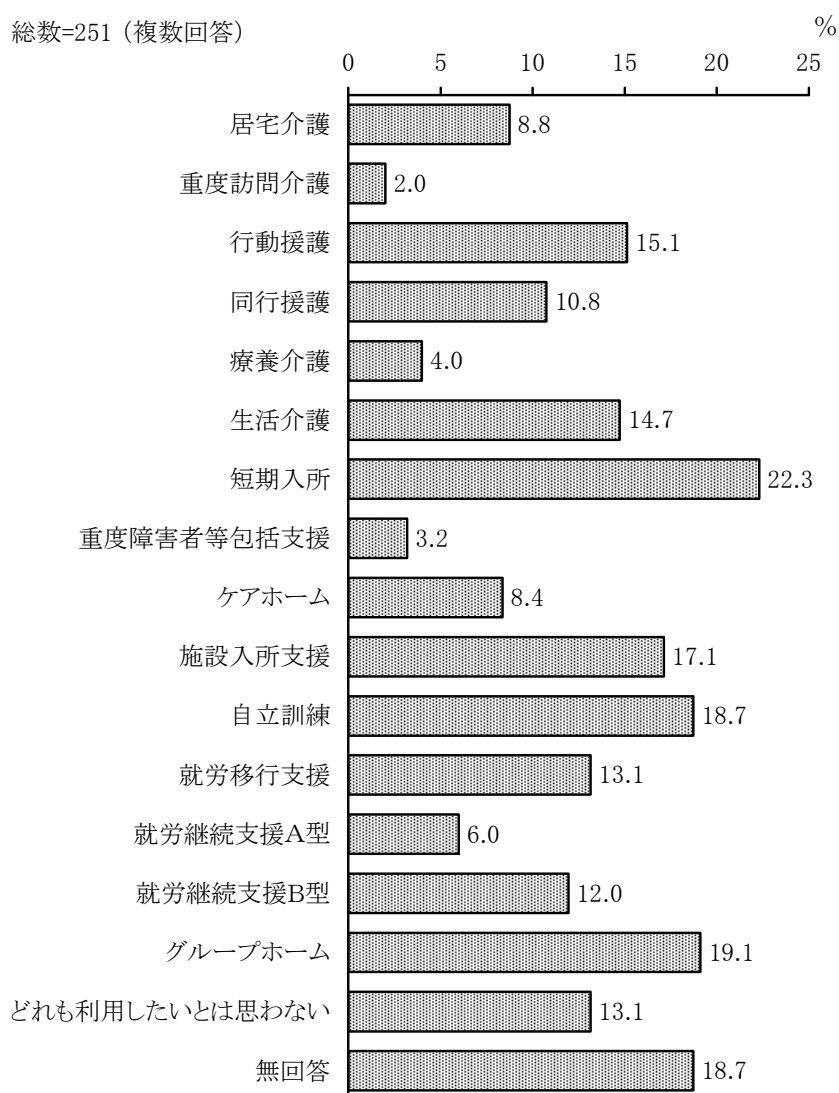
※4：「満足していない」

(9) 障害福祉サービスの利用意向

問 51 今後、あなたが利用したいと思う障害福祉サービスは何ですか。現在利用している方もお答えください。(あてはまるものすべてに○)

「短期入所」が 22.3%で最も多く、「グループホーム」が 19.1%、「自立訓練」が 18.7%、「施設入所支援」が 17.1%で続きます。

図表Ⅱ- 92 障害福祉サービスの利用意向

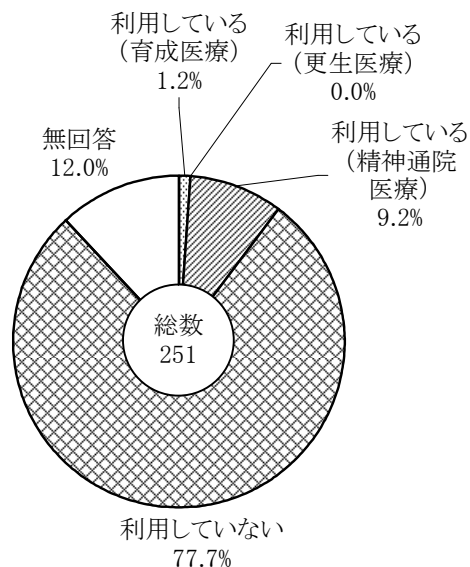


(10) 自立支援医療の利用状況

問52 あなたは、「自立支援医療」を利用していますか。(どれか1つに○)

図表Ⅱ-93 自立支援医療の利用状況

「利用している（精神通院医療）」が9.2%、「利用している（育成医療）」が1.2%であり、「利用していない」が77.7%となっています。

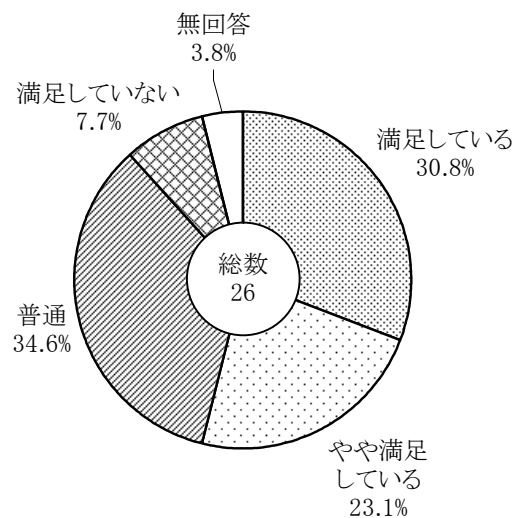


(11) 自立支援医療の満足度

問52-1 【問52で1～3※を選んだ方にうかがいます。】あなたは、自立支援医療に満足していますか。(どれか1つに○)

図表Ⅱ-94 自立支援医療の満足度

「満足している」が30.8%、「やや満足している」が23.1%であり、全体の53.9%が自立支援医療に満足しています。「普通」は34.6%、「満足していない」は7.7%となっています。



※1～3：「利用している（育成医療）」「利用している（更生医療）」「利用している（精神通院医療）」

(12) 自立支援医療の不満理由

問 52-2 【問 52-1 で 4*を選んだ方にうかがいます。】あなたが満足していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

自立支援医療に満足していないと回答したのは2人で、「自立支援医療の制度がわかりづらい」「医療費の自己負担が大きい」を選んだのがそれぞれ1人です。

図表Ⅱ- 95 自立支援医療の不満理由

全体	自立支援医療の制度がわかりづらい	自立支援医療の制度が使いづらい	医療費の自己負担が大きい	その他	無回答
2 100.0	1 50.0	- -	1 50.0	- -	- -

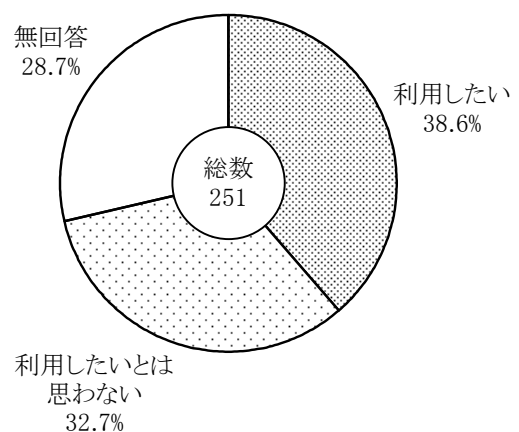
※4：「満足していない」

(13) 自立支援医療の利用意向

問 53 今後、あなたは「自立支援医療」を利用したいと思いますか。現在利用している方もお答えください。(どれか1つに○)

図表Ⅱ- 96 自立支援医療の利用意向

「利用したい」が 38.6%、「利用したいとは思わない」が 32.7%となっています。



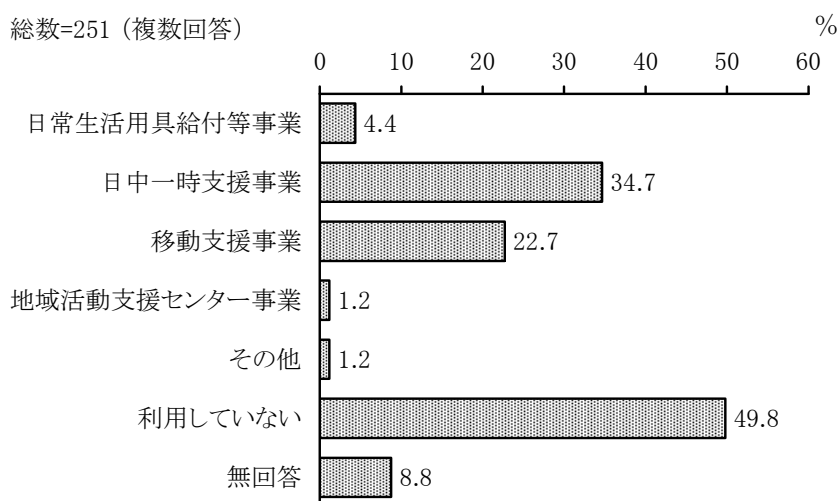
(14) 地域生活支援事業の利用状況

問 54 あなたは、船橋市が実施している地域生活支援事業のうち、どのようなものを利用していますか。(あてはまるものすべてに○)

利用している地域生活支援事業としては、「日中一時支援事業」が 34.7%で最も多く、「移動支援事業」が 22.7%で続きます。

「利用していない」は 49.8%となっています。

図表Ⅱ- 97 地域生活支援事業の利用状況

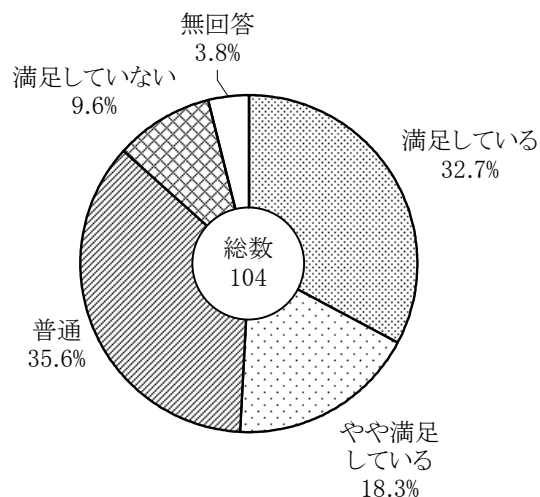


(15) 地域生活支援事業の満足度

問 54-1 【問 54 で 1~5*を選んだ方にうかがいます。】あなたは、利用している主な事業に満足していますか。(どれか1つに○)

図表Ⅱ- 98 地域生活支援事業の満足度

「満足している」が 32.7%、「やや満足している」が 18.3%であり、全体の 51.0%が地域生活支援事業に満足しています。「普通」は 35.6%、「満足していない」は 9.6%となっています。



※1~5: 「日常生活用具給付等事業」「日中一時支援事業」「移動支援事業」「地域活動支援センター事業」「その他」

(16) 地域生活支援事業の不满理由

問 54-2 【問 54-1 で 4*を選んだ方にうかがいます。】あなたが満足していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

地域生活支援事業に満足していないと回答したのは 10 人であり、「サービスを利用したい日時の調整が大変」が 5 人 (50.0%) で最も多く、「サービスの制度がわかりづらい」「サービスの回数や日数が少ない」が 4 人 (40.0%) で続きます。

図表 II- 99 地域生活支援事業の不满理由

全体	サービスの制度がわかりづらい	サービス利用の手続きが面倒	サービスの回数や日数が少ない	サービスの1回当たりの時間が少ない	サービスの利用したい日時の調整が大変	サービスの内容が雑であつたり、ニーズに合っていない	サービスを提供する人の態度がよくない	サービス利用に対する自己負担が大きい	その他	無回答
10 100.0	4 40.0	3 30.0	4 40.0	- -	5 50.0	3 30.0	2 20.0	2 20.0	4 40.0	- -

※4:「満足していない」

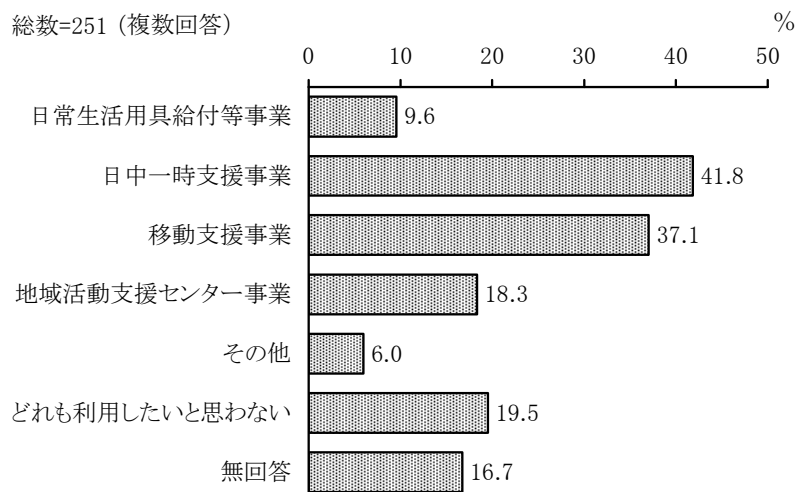
(17) 地域生活支援事業の利用意向

問 55 今後、あなたが利用したいと思う地域生活支援事業は何ですか。現在利用している方もお答えください。(あてはまるものすべてに○)

今後、利用したいと思う地域生活支援事業としては、「日中一時支援事業」が 41.8% で最も多く、「移動支援事業」が 37.1%、「地域活動支援センター事業」が 18.3%、「日常生活用具給付等事業」が 9.6%で続きます。

「どれも利用したいと思わない」は 19.5%となっています。

図表 II- 100 地域生活支援事業の利用意向



療育手帳の判定別に見ると、「日中一時支援事業」「移動支援事業」という回答は、㉠、Aの1で5割以上となっています。

図表Ⅱ- 101 地域生活支援事業の利用意向【療育手帳の判定別】

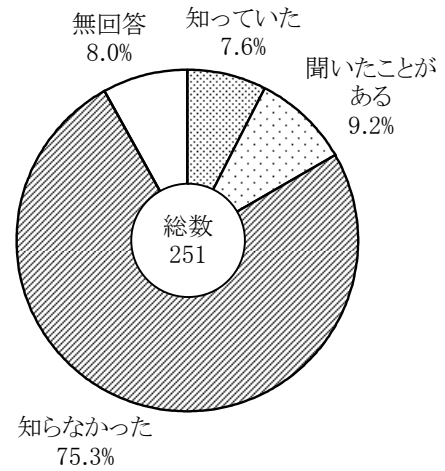
		全体	日常生活用具 給付等事業	日中一時支援 事業	移動支援事業	地域活動支援 センター事業	その他	どれも利用したい と思わない	無回答
全体		240 100.0	22 9.2	101 42.1	91 37.9	45 18.8	14 5.8	46 19.2	40 16.7
療育手帳の判定別	㉠	34 100.0	5 14.7	19 55.9	21 61.8	4 11.8	1 2.9	1 2.9	8 23.5
	Aの1	66 100.0	7 10.6	37 56.1	36 54.5	16 24.2	5 7.6	5 7.6	10 15.2
	Aの2	6 100.0	1 16.7	2 33.3	1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	2 33.3
	Bの1	40 100.0	3 7.5	18 45.0	13 32.5	7 17.5	2 5.0	7 17.5	3 7.5
	Bの2	79 100.0	5 6.3	20 25.3	15 19.0	15 19.0	3 3.8	28 35.4	12 15.2
	無回答	15 100.0	1 6.7	5 33.3	5 33.3	2 13.3	2 13.3	4 26.7	5 33.3

(18) 難病患者等の対象者追加の認知状況

問 56 平成 25 年度から、障害福祉サービス等の利用の対象者に難病患者等が追加されました。あなたは、対象者に難病患者等が追加されたことを知っていましたか。
(どれか1つに○)

図表Ⅱ- 102 難病患者等の対象者追加の認知状況

「知っていた」が 7.6%、「聞いたことがある」が 9.2%であるのに対し、「知らなかった」が 75.3%で多くなっています。



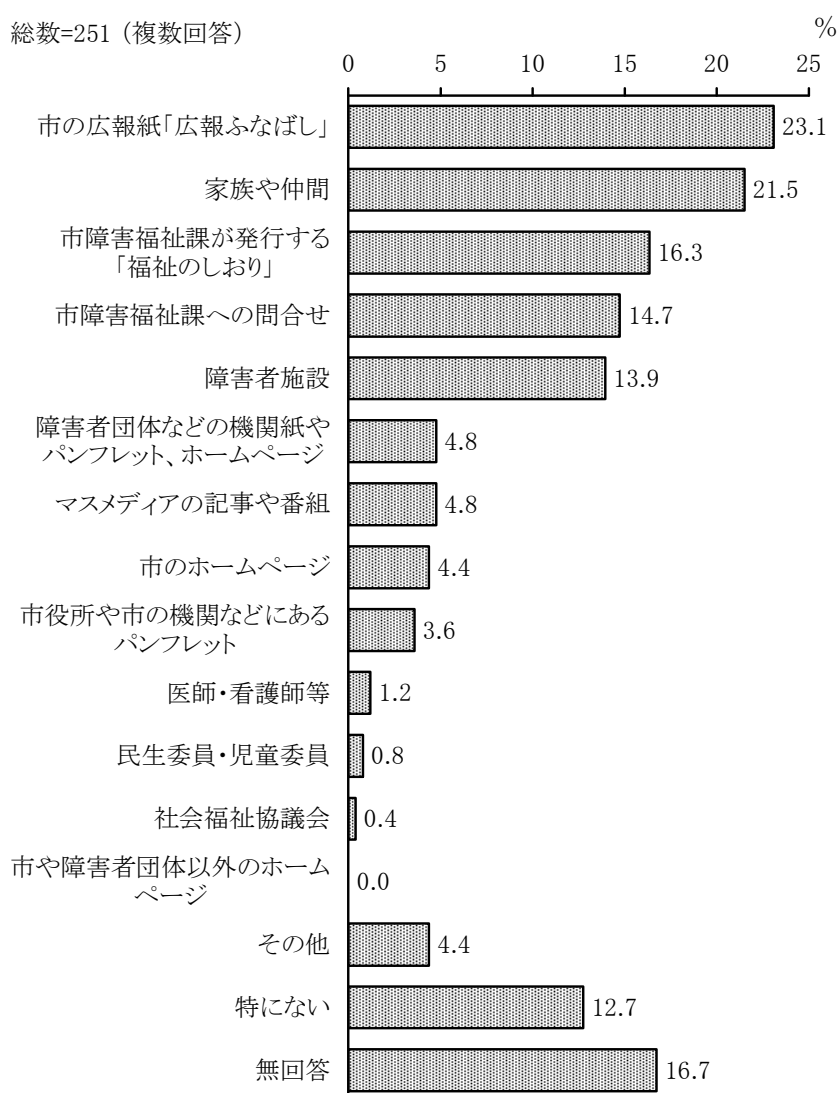
14 船橋市の障害者福祉について

(1) 福祉サービス情報の入手方法

問 57 あなたは、障害のある人のための市の福祉サービスの内容について、どのようなところで知ることが多いですか。（主なものを2つまでに○）

「市の広報紙「広報ふなばし」」が23.1%で最も多く、「家族や仲間」が21.5%、「市障害福祉課が発行する「福祉のしおり」」が16.3%、「市障害福祉課への問合せ」が14.7%、「障害者施設」が13.9%で続きます。

図表Ⅱ-103 福祉サービス情報の入手方法

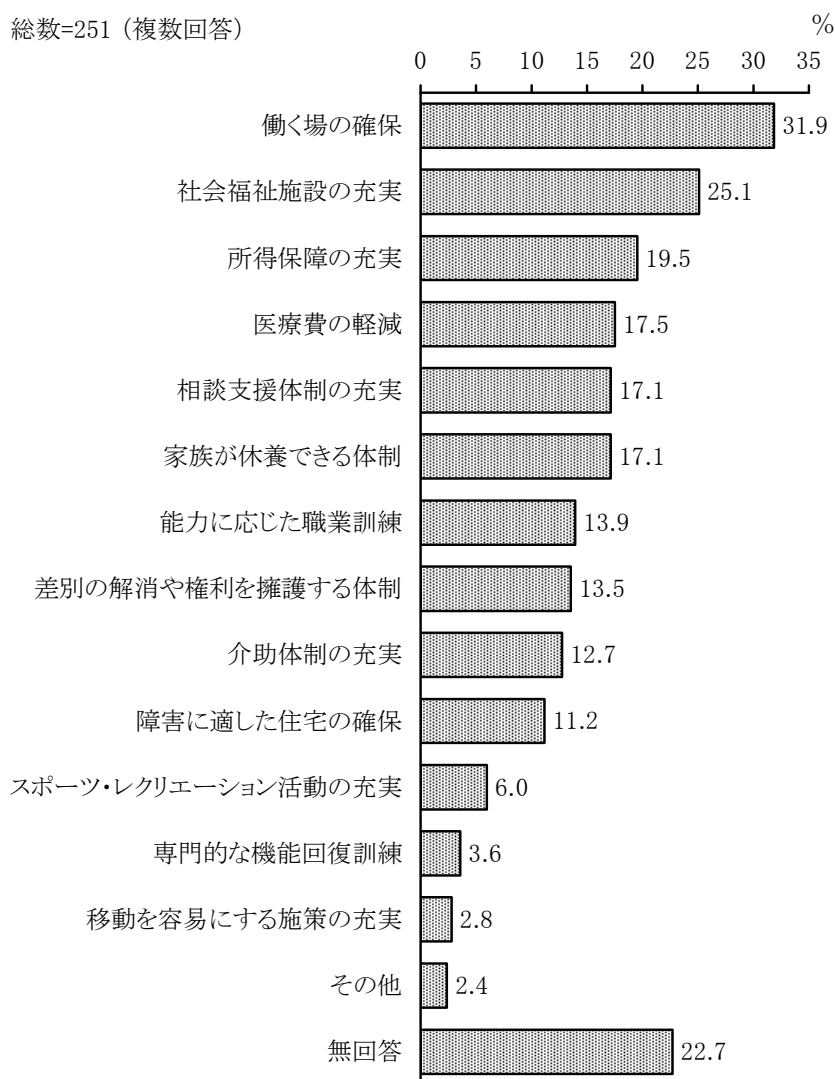


（２）今後必要だと思う福祉施策

問 58 あなたが今後、必要だと思う障害者福祉施策は何ですか。（主なもの3つまでに○）

「働く場の確保」が 31.9%で最も多く、「社会福祉施設の充実」が 25.1%、「所得保障の充実」が 19.5%、「医療費の軽減」が 17.5%、「相談支援体制の充実」「家族が休養できる体制」がそれぞれ 17.1%で続きます。

図表Ⅱ－104 今後必要だと思う福祉施策



年代別に見ると、18歳未満、18～29歳では「能力に応じた職業訓練」が2割前後、18歳未満では「働く場の確保」が41.1%であり、これ以外の項目に比べて年代による差が大きくなっています。

図表Ⅱ-105 今後必要だと思う福祉施策【年代別】

		全体	所得保障の充実	医療費の軽減	社会福祉施設の充実	障害に適した住宅の確保	移動を容易にする施策の充実	介助体制の充実	相談支援体制の充実	専門的な機能回復訓練	能力に応じた職業訓練	働く場の確保
全体		251 100.0	49 19.5	44 17.5	63 25.1	28 11.2	7 2.8	32 12.7	43 17.1	9 3.6	35 13.9	80 31.9
年代別	18歳未満	90 100.0	18 20.0	12 13.3	23 25.6	7 7.8	1 1.1	5 5.6	19 21.1	5 5.6	20 22.2	37 41.1
	18～29歳	51 100.0	10 19.6	8 15.7	10 19.6	8 15.7	— —	8 15.7	7 13.7	2 3.9	10 19.6	15 29.4
	30～39歳	39 100.0	8 20.5	7 17.9	11 28.2	5 12.8	2 5.1	7 17.9	6 15.4	2 5.1	1 2.6	12 30.8
	40～49歳	48 100.0	10 20.8	11 22.9	16 33.3	6 12.5	1 2.1	7 14.6	8 16.7	— —	2 4.2	11 22.9
	50～59歳	11 100.0	3 27.3	3 27.3	2 18.2	1 9.1	2 18.2	3 27.3	2 18.2	— —	— —	4 36.4
	60～69歳	3 100.0	— —	2 66.7	1 33.3	— —	— —	1 33.3	— —	— —	— —	— —
	70歳以上	8 100.0	— —	1 12.5	— —	1 12.5	1 12.5	1 12.5	1 12.5	— —	1 12.5	1 12.5
	無回答	1 100.0	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	1 100.0	— —

		ス ポ ー ツ 活 動 の 充 実 エ ー	家 族 が 休 養 で き る 体 制	差 別 の 解 消 や 権 利 を 擁 護 す る 体 制	そ の 他	無 回 答
全体		15 6.0	43 17.1	34 13.5	6 2.4	57 22.7
年代別	18歳未満	3 3.3	16 17.8	12 13.3	3 3.3	22 24.4
	18～29歳	6 11.8	12 23.5	8 15.7	1 2.0	10 19.6
	30～39歳	2 5.1	9 23.1	4 10.3	— —	7 17.9
	40～49歳	3 6.3	6 12.5	6 12.5	1 2.1	11 22.9
	50～59歳	1 9.1	— —	2 18.2	— —	3 27.3
	60～69歳	— —	— —	— —	— —	1 33.3
	70歳以上	— —	— —	2 25.0	1 12.5	3 37.5
	無回答	— —	— —	— —	— —	— —

自由回答

問 59 船橋市の障害者福祉施策についてのご意見、ご希望、または困っていることなどを、自由にお書きください。

自由回答を記入した回答者は 96 人で、「生活支援・福祉サービス」に関する内容が 49 件で多くなっています。「教育・育成」に関する内容は 17 件、「雇用・就業」に関する内容は 11 件となっています。「その他」に分類されるものは 34 件です。

図表Ⅱ-106 自由回答【テーマ別】

全体	啓発・広報	保健・医療	教育・育成	雇用・就業	福祉サービス	生活環境	スポーツ等	その他
96 100.0	4 4.2	3 3.1	17 17.7	11 11.5	49 51.0	4 4.2	1 1.0	34 35.4

※複数の分野にまたがる回答もあるため、各分野の割合を合計すると 100%を超えます。

【主な意見】

※ここに掲載したものは回答の一部です。また、大意を変えずに一部を省略・要約している場合があります。

※回答者は本人ではなく、代理の人である場合もあります。

①啓発・広報

- ・もっと交流出来る障害者の会を作ってほしいですし、出会いの場を作って、もっと宣伝してほしいです。一人でも障害者が住みやすい市にしてほしいです。(男性、55 歳)
- ・父母の会に入っていないため、広報の情報でしか分かりません。そういう面で詳しい情報がほしいですね。(男性、24 歳)

②保健・医療

- ・障害者本人が病気になった時、病院がない。特にケガや歯医者がない。障害が重いのですぐ受け入れてくれる病院があるとよいのですが。(女性、73 歳)
- ・障害者の所得保障の充実、医療費の軽減をしてほしいです。(男性、10 歳)

③教育・育成

- ・小学校は、自閉・情緒クラスはあるが、中学・高校にも、自閉・情緒クラスを加えてほしい。各小学校にも、どんどん知的・自閉・情緒クラスを増やして、学区の小学校に 6 年間通わせて、送迎の負担や自分で通学出来るようにしたい。障害を持っているお子さんが沢山いるので、住みやすい市にしていきたい。(女性、43 歳)

- ・早く、さざんか学園に入れて欲しい。これ以上、待機できない。この子には毎日の刺激が必要です。入所施設を増やし、待機をなくして頂きたい。(男性、4歳)
- ・今、特別支援学校に通っているので、やはり卒業後、将来的な不安が一番大きい。(男性、10歳)

④雇用・就業

- ・もっともっと市が就職や自立の為に力を入れて、障害者にも働く労働力としての場を開拓してほしい。やれる事を増やして、良い意味で利用活用してほしい。(男性、10歳)
- ・現在、仕事はしていますが、人間関係と仕事が難しいようです。能力に応じた仕事があれば幸ですが。本人が自分は障害者じゃないという。母である私が記入しました。(男性、43歳)
- ・雇用について、身体障害者の就業機会は比較的恵まれているようですが、知的障害者の場合、非常に狭いので、今後改善していただきたいと思います。(男性、27歳)

⑤生活支援、福祉サービス

- ・船橋市の障害者、知的、精神の方の実態は親が高齢であるためか、「自立支援が何か」「区分って何」と理解できないため、息子、嫁が気の毒である。市の相談窓口の活性化を望みます。(女性、75歳)
- ・両親が、介護が必要な障害者を介護できなくなった時に利用できる施設を、もっと増やしてほしい。また、サービスをもっと利用しやすくしてほしいと思います。(女性、22歳)
- ・福祉サービスについては、近隣の市に比べて恵まれていると思います。(男性、18歳)
- ・社会資源を増やしていただき、自ら選択できる体制を希望します。また、一人一人の個性を大切に、サービスや資源にあてはめるのではなく、一人一人のニーズに合わせたサポート体制を作るシステムを作してほしい。(女性、12歳)
- ・色々とサービスも充実してきて、嬉しく思っています。でもサービスを使うのにスタッフの数が不足しているように思います。施設の職員等、サービス事業者等のスタッフが増えてくると、利用する者としても気軽にお願いできます。まだまだ気軽に、気軽にという状況ではないようです。よろしく願いいたします。(男性、30歳)

⑥生活環境

- ・最重度知的障害児の母です。母子家庭のため子どもが学校、レスパイト等の時間帯のみパートで働いています。自分が毎月懸命に働いても収入は、ほとんど家賃でなくなります。市営住宅等、募集が近くになく、又なかなか空かない、当選しない……。本当に困っている人間が安心して（低価格で）住める住居の確保ができるよう、お願いします。(女性、48歳)
- ・自宅内の移動や入浴、特に浴室をリフォームしたい。寝かせて入るが狭い。(男性、

14 歳)

⑦スポーツ・レクリエーション等

- ・ 健常者と何でも一緒にというのは難しいと思うので、皆で楽しめるイベント（夏祭りなど）は一緒に、オリンピックと同様、健常者・障害者が分かれて行うのが好ましいスポーツ大会は、それぞれで開催すると言うことで良いのかなと私（母）は思っています。（男性、13 歳）

⑧その他

- ・ 父母の存命の間は特に問題がないが、高齢になったり死後の対応をどの様に準備しておくべきか、不明なことが多い。（女性、28 歳）
- ・ 今、未成年なので、これから起こってくる問題や、困っている事も出てくると思うので、今回に限らず声を聞いて改善してほしい。（男性、11 歳）
- ・ このアンケートは、本人からみての調査では、書けない事が沢山あります。（男性、8 歳）

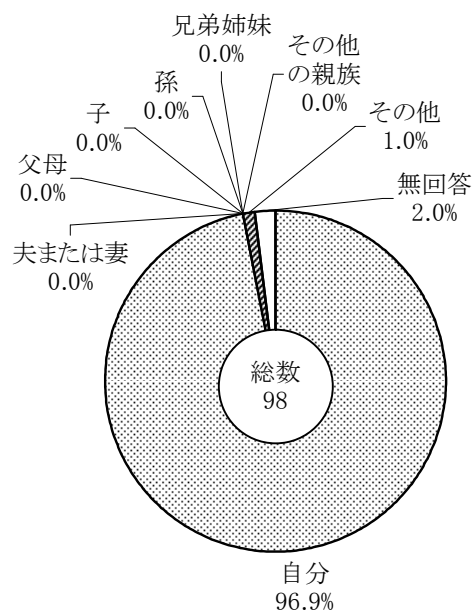
Ⅲ 精神障害者を対象とした調査結果

(1) アンケートの記入者

問1 このアンケートの記入者はどなたですか。あなたから見た続柄でお答えください。(どれか1つに○)

図表Ⅲ-1 アンケートの記入者

「自分」が96.9%となっています。



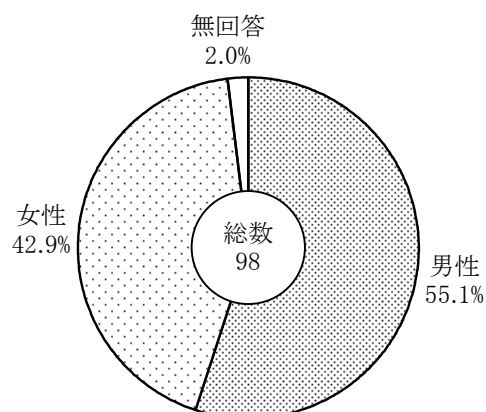
1 基本属性

(1) 性別

問2 あなたは、男性ですか、女性ですか。(どれか1つに○)

図表Ⅲ-2 性別

「男性」が55.1%、「女性」が42.9%となっています。



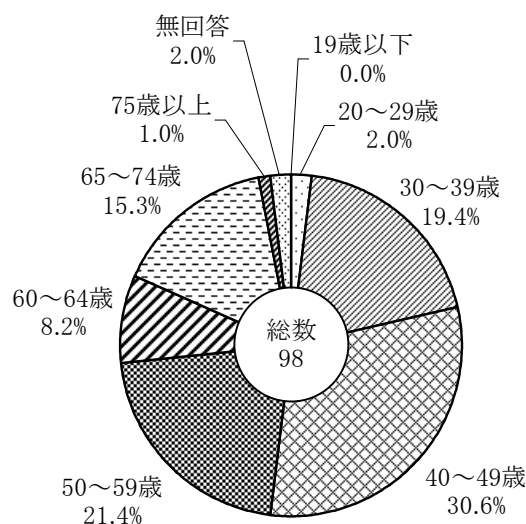
(2) 年齢

問3 あなたは、何歳ですか。平成25年1月1日現在の満年齢でお答えください。

「40～49歳」が30.6%で最も多く、
「50～59歳」が21.4%、「30～39歳」
が19.4%、「65～74歳」が15.3%で続
きます。

平均年齢は、50.1歳となっています。

図表Ⅲ-3 年齢

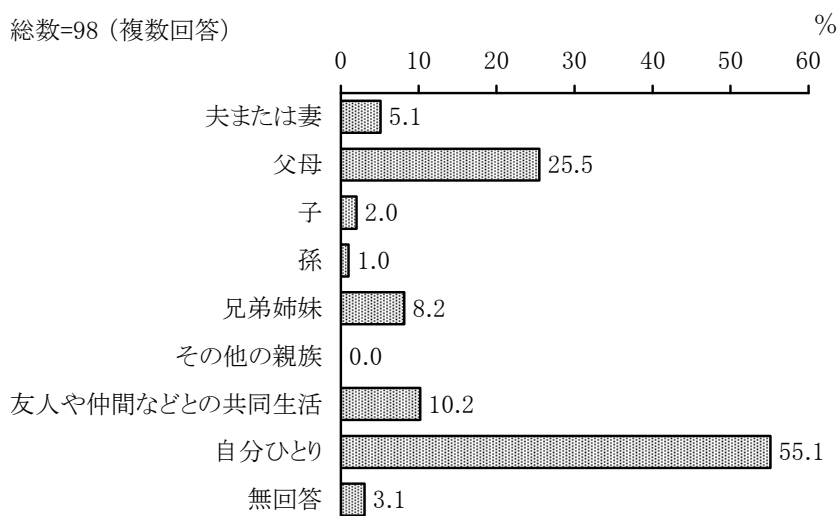


(3) 同居家族

問4 あなたと一緒に暮らしている家族は、どなたですか。(あてはまるものすべてに○)

「自分ひとり」が55.1%で最も多く、「父母」が25.5%、「友人や仲間などとの共同生活」が10.2%、「兄弟姉妹」が8.2%で続きます。

図表Ⅲ-4 同居家族

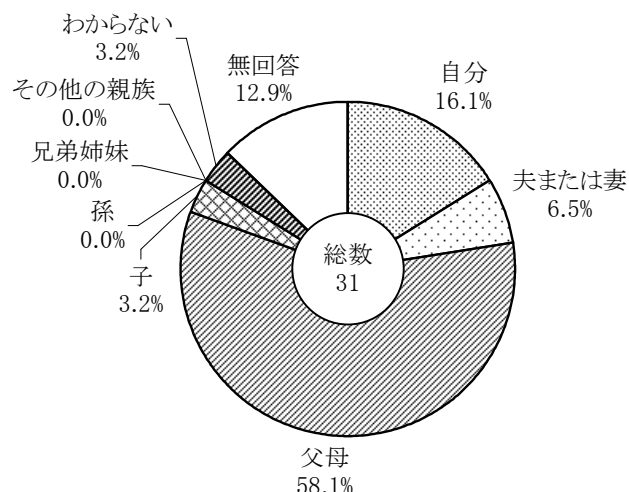


(4) 主に収入を得ている同居家族

問4-1 【家族等と一緒に暮らしている方にうかがいます。】一緒に暮らしている家族の中で、主に生活のための収入を得ている方はどなたですか。(どれか1つに○)

図表Ⅲ- 5 主に収入を得ている同居家族

「父母」が 58.1%で最も多く、「自分」が 16.1%、「夫または妻」が 6.5%、「子」が 3.2%となっています。



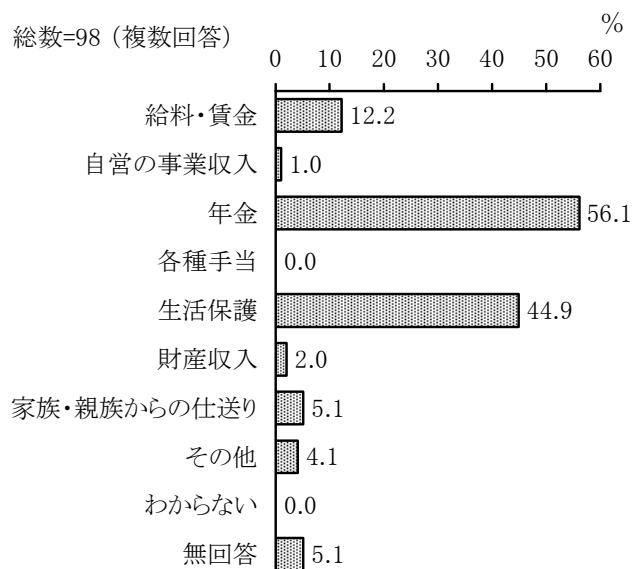
(5) 世帯収入の種類

問5 あなたの世帯収入の種類はどのようなものですか。(あてはまるものすべてに○、最も金額が大きいものには◎)

「年金」が 56.1%で最も多く、「生活保護」が 44.9%、「給料・賃金」が 12.2%、「家族・親族からの仕送り」が 5.1%で続きます。

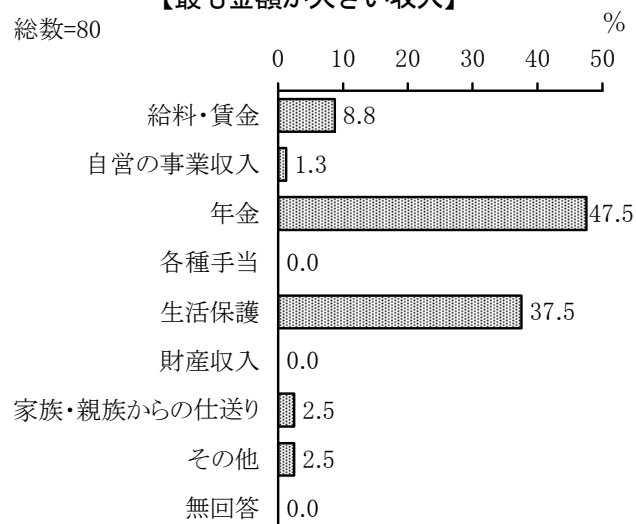
最も金額が大きい収入について回答があった中では、「年金」が 47.5%で最も多く、「生活保護」が 37.5%、「給料・賃金」が 8.8%、「家族・親族からの仕送り」が 2.5%で続きます。

図表Ⅲ- 6 世帯収入の種類



図表Ⅲ- 7 世帯収入の種類

【最も金額が大きい収入】

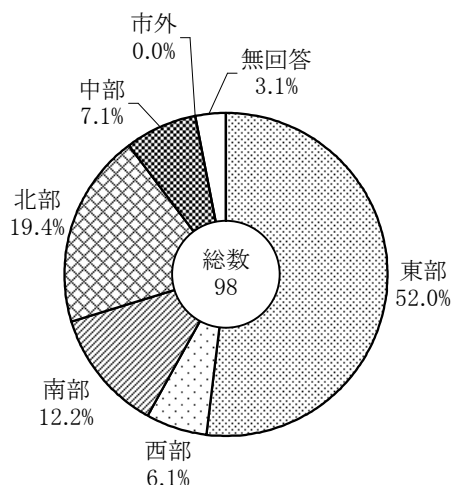


(6) 居住地域

問6 あなたの住んでいる地域はどこですか。(どれか1つに○)

「東部」が 52.0%で最も多く、「北部」が 19.4%、「南部」が 12.2%、「中部」が 7.1%、「西部」が 6.1%となっています。

図表Ⅲ- 8 居住地域



2 障害の状況について

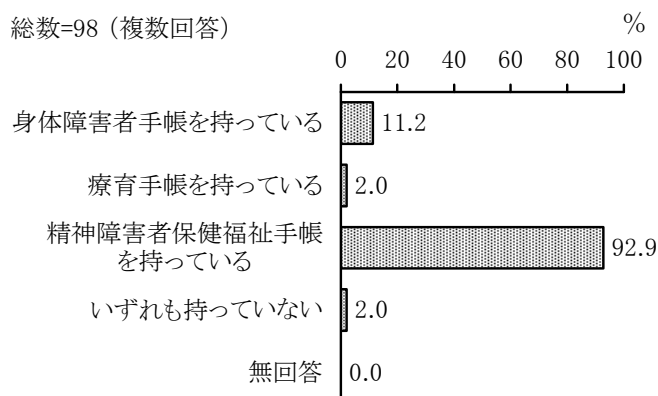
(1) 障害者手帳の所持状況

問7 あなたがお持ちの障害者手帳等の種類と等級についてうかがいます。あてはまる番号と等級(程度)に○をつけて、() 内に取得した年齢を記入してください。

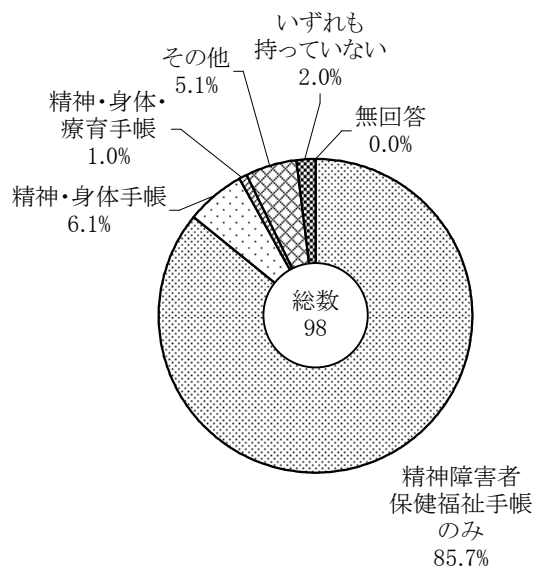
「精神障害者保健福祉手帳を持っている」が 92.9%、「身体障害者手帳を持っている」が 11.2%、「療育手帳を持っている」が 2.0%となっています。

所持している手帳の組み合わせを見ると、「精神障害者保健福祉手帳のみ」が 85.7%、「精神障害者保健福祉手帳と身体障害者手帳」が 6.1%となっています。

図表Ⅲ- 9 障害者手帳の有無



図表Ⅲ- 10 所持している障害者手帳の組み合わせ

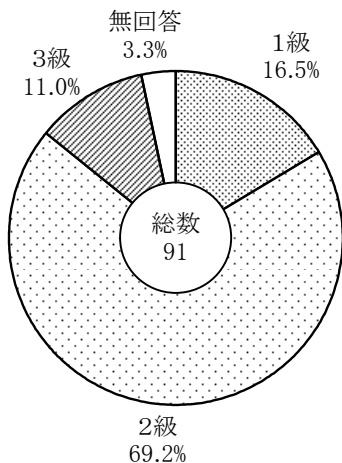


【精神障害者保健福祉手帳所持者の等級と取得年齢】

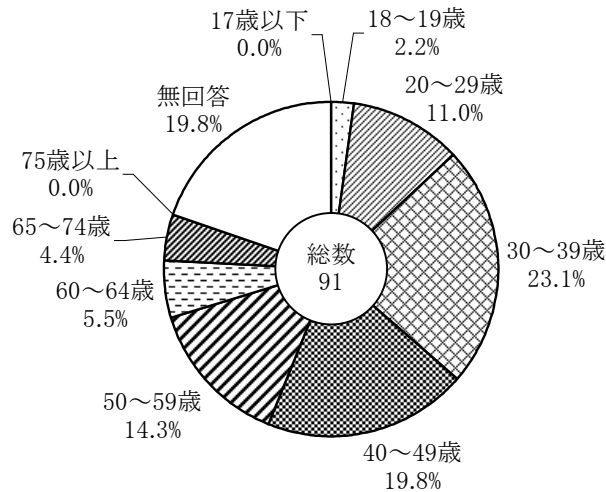
等級は、「1級」が16.5%、「2級」が69.2%、「3級」が11.0%となっています。

取得年齢は、「30～39歳」が23.1%で最も多く、「40～49歳」が19.8%、「50～59歳」が14.3%、「20～29歳」が11.0%で続きます。

図表Ⅲ- 11 精神障害者保健福祉手帳の等級



図表Ⅲ- 12 精神障害者保健福祉手帳の取得年齢



年代別に見ると、「1級」という回答は、49歳以下では1割未満（8.7%）であるのに対し、50歳以上では23.3%となっています。一方、「3級」という回答は、49歳以下では21.7%であるのに対し、50歳以上の回答者はいませんでした。

図表Ⅲ- 13 精神障害者保健福祉手帳の等級【年代別】

		全体	1級	2級	3級	無回答
全体		91 100.0	15 16.5	63 69.2	10 11.0	3 3.3
年代別	49歳以下	46 100.0	4 8.7	30 65.2	10 21.7	2 4.3
	50歳以上	43 100.0	10 23.3	32 74.4	—	1 2.3
	無回答	2 100.0	1 50.0	1 50.0	—	—

【身体障害者手帳所持者の等級と取得年齢】

身体障害者手帳を所持していると回答したのは11人で、等級は「1級」が5人(45.5%)で最も多く、「2級」が2人(18.2%)、「3級」「4級」がそれぞれ1人(9.1%)となっています。

取得年齢は、「30～39歳」が3人(27.3%)で最も多く、「0～5歳」「40～49歳」「50～59歳」がそれぞれ1人(9.1%)となっています。

図表Ⅲ-14 身体障害者手帳の等級

全体	1級	2級	3級	4級	5級	6級	無回答
11 100.0	5 45.5	2 18.2	1 9.1	1 9.1	-	-	2 18.2

図表Ⅲ-15 身体障害者手帳の取得年齢

全体	0～5歳	6～11歳	12～14歳	15～17歳	18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～74歳	75歳以上	無回答
11 100.0	1 9.1	-	-	-	-	-	3 27.3	1 9.1	1 9.1	-	-	-	5 45.5

【療育手帳所持者の判定と取得年齢】

療育手帳を所持していると回答したのは2人で、判定は「㊤」を選んだのが1人となっています。

取得年齢は、「40～49歳」を選んだのが1人です。

図表Ⅲ-16 療育手帳の判定

全体	㊤	Aの1	Aの2	Bの1	Bの2	無回答
2 100.0	1 50.0	-	-	-	-	1 50.0

図表Ⅲ-17 療育手帳の取得年齢

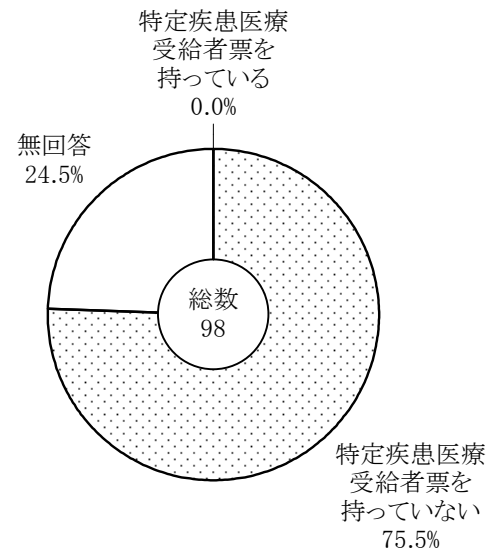
全体	0～5歳	6～11歳	12～14歳	15～17歳	18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～74歳	75歳以上	無回答
2 100.0	-	-	-	-	-	-	-	1 50.0	-	-	-	-	1 50.0

(2) 特定疾患医療受給者票の有無、取得年齢

問8 あなたは、いわゆる難病のための特定疾患医療受給者票をお持ちですか。あてはまる番号1つに○をつけて、() 内に具体的に記入してください。

図表Ⅲ- 18 特定疾患医療受給者票の有無

「特定疾患医療受給者票を持っていない」が 75.5%であり、「特定疾患医療受給者票を持っている」と回答した人はいませんでした。

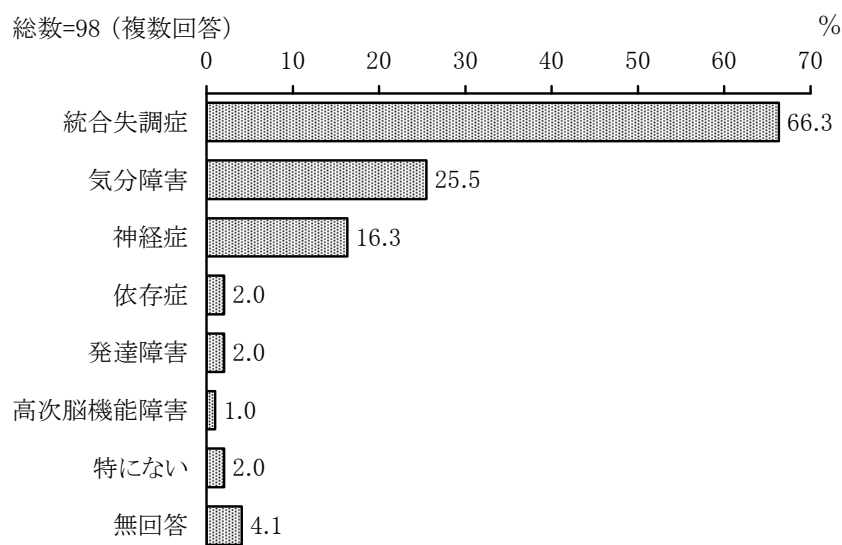


(3) 疾患・障害の有無

問9 あなたには、次の疾患や障害がありますか。(あてはまるものすべてに○)

「統合失調症」が 66.3%で最も多く、「気分障害」が 25.5%、「神経症」が 16.3%で続きます。

図表Ⅲ- 19 疾患・障害の有無



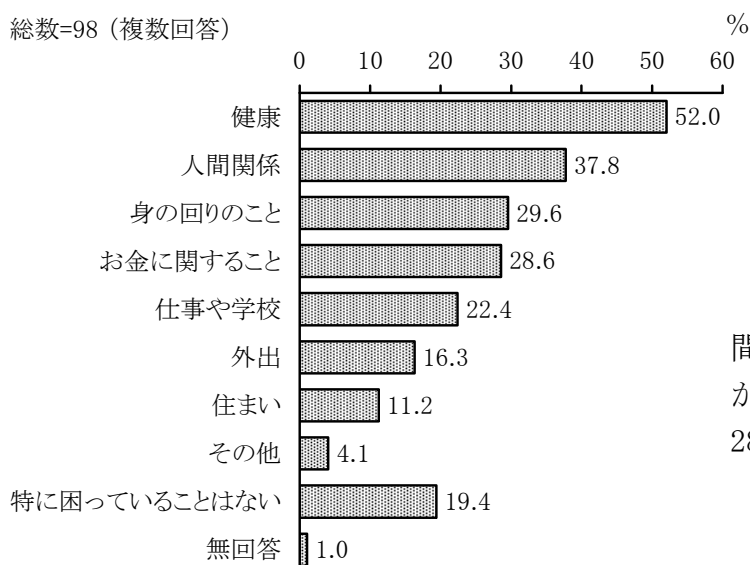
3 日常生活について

(1) 日常生活で困っていること

問 10 あなたが日常生活で困っていることは、どのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅲ- 20 日常生活で困っていること

総数=98 (複数回答)



「健康」が52.0%で最も多く、「人間関係」が37.8%、「身の回りのこと」が29.6%、「お金に関すること」が28.6%で続きます。

男女別に見ると、男性は女性に比べて「仕事や学校」(27.8%)、「人間関係」(42.6%)といった項目が多くなっているのに対し、女性は「身の回りのこと」(35.7%)が男性に比べて多くなっています。

年代別に見ると、「仕事や学校」「人間関係」という回答は、49歳以下が50歳以上を20ポイント以上上回っています。一方、「身の回りのこと」という回答は、50歳以上が49歳以下を16ポイント上回っており、年代による差が大きくなっています。

図表Ⅲ- 21 日常生活で困っていること【男女別、年代別】

	全体	健康	仕事や学校	住まい	身の回りのこと	お金に関すること	人間関係	外出	その他	特に困っていることはない	無回答
全体	98 100.0	51 52.0	22 22.4	11 11.2	29 29.6	28 28.6	37 37.8	16 16.3	4 4.1	19 19.4	1 1.0
男女別	男性	54 100.0	27 50.0	15 27.8	6 11.1	13 24.1	16 29.6	23 42.6	8 14.8	1 1.9	8 14.8
	女性	42 100.0	22 52.4	6 14.3	5 11.9	15 35.7	12 28.6	13 31.0	8 19.0	3 7.1	11 26.2
	無回答	2 100.0	2 100.0	1 50.0	-	1 50.0	-	1 50.0	-	-	-
年代別	49歳以下	51 100.0	26 51.0	19 37.3	5 9.8	11 21.6	17 33.3	24 47.1	10 19.6	2 3.9	8 15.7
	50歳以上	45 100.0	23 51.1	2 4.4	6 13.3	17 37.8	11 24.4	12 26.7	6 13.3	2 4.4	11 24.4
	無回答	2 100.0	2 100.0	1 50.0	-	1 50.0	-	1 50.0	-	-	-

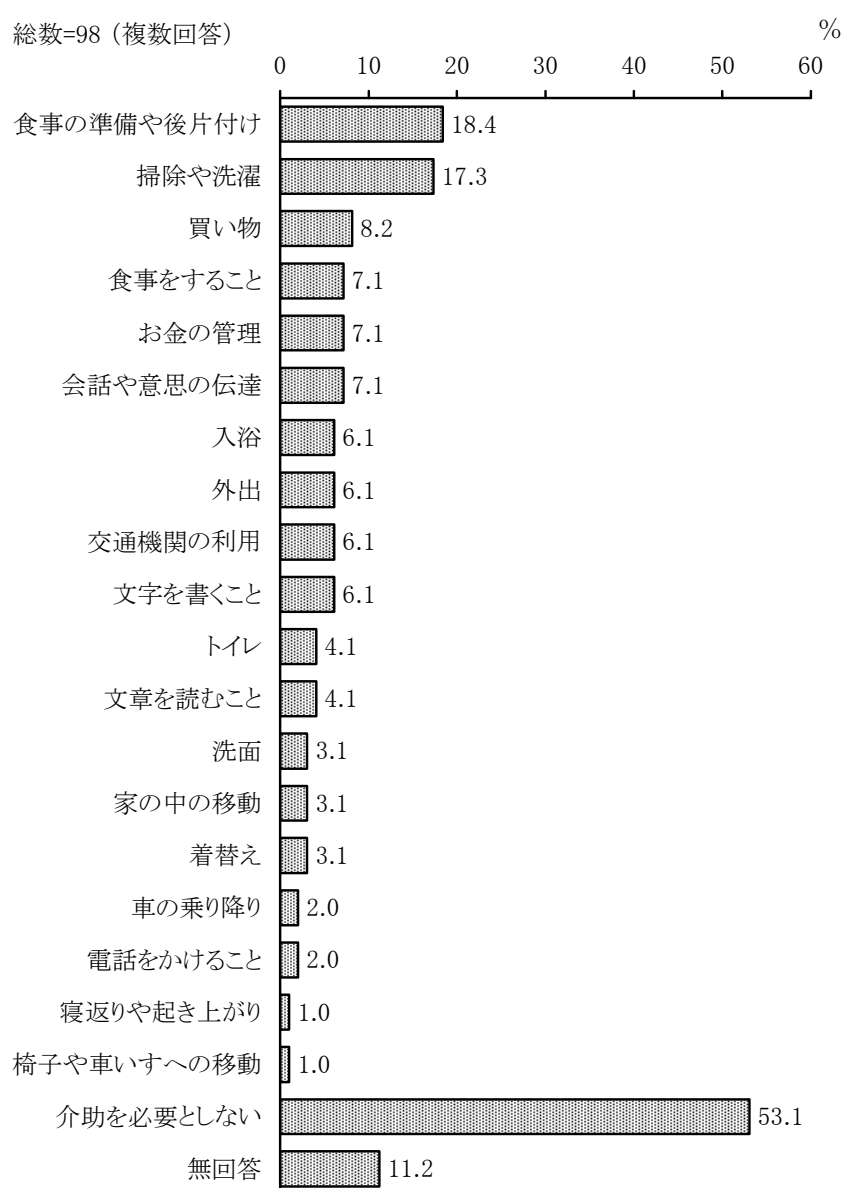
(2) 日常生活で介助が必要な場面

問11 あなたは、次のような日常生活の場面で、介助を必要とすることがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

介助を必要とする日常生活の場面としては、「食事の準備や後片付け」が18.4%で最も多く、「掃除や洗濯」が17.3%、「買い物」が8.2%、「食事をする事」「お金の管理」「会話や意思の伝達」がそれぞれ7.1%で続きます。

「介助を必要としない」は53.1%となっています。

図表Ⅲ- 22 日常生活で介助が必要な場面



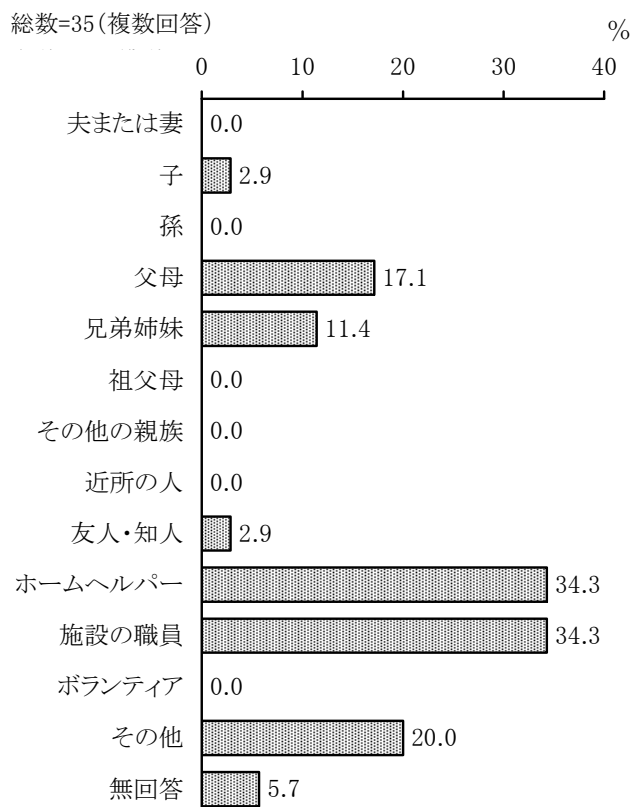
(3) 介助してくれる人（介助者）との関係

問 11-1 【問 11 で 1～19*を選んだ方にうかがいます。】あなたが介助を受けるのは、どなたですか。（あてはまるものすべてに○、最も機会が多い人には◎）

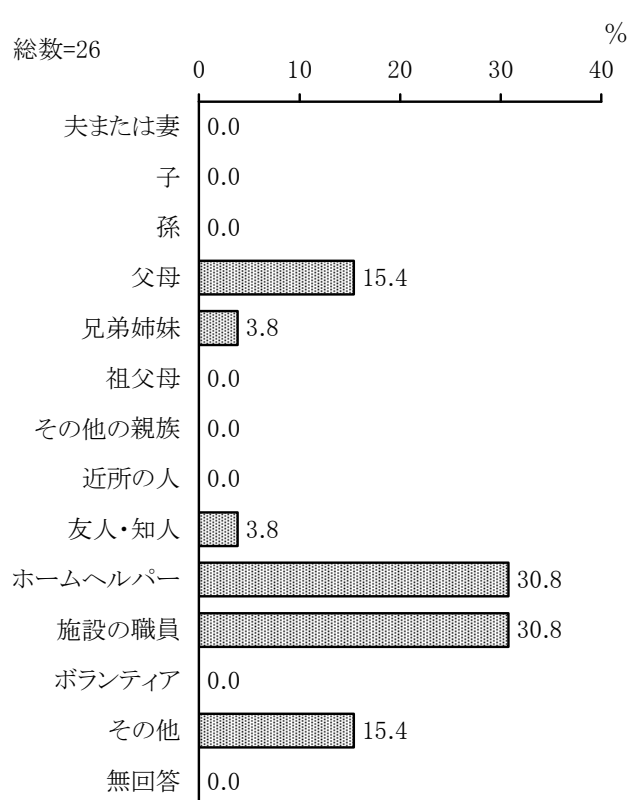
「ホームヘルパー」「施設の職員」がそれぞれ 34.3%で最も多く、「父母」が 17.1%、「兄弟姉妹」が 11.4%、「子」「友人・知人」がそれぞれ 2.9%となっています。

最も機会が多い介助者について回答があった中では、「ホームヘルパー」「施設の職員」がそれぞれ 30.8%で最も多く、「父母」が 15.4%、「兄弟姉妹」「友人・知人」がそれぞれ 3.8%となっています。

図表Ⅲ- 23 介助してくれる人（介助者）との関係



図表Ⅲ- 24 介助してくれる人（介助者）との関係【最も機会が多い介助者】



※1～19：「食事をする事」「寝返りや起き上がり」「椅子や車いすへの移動」「洗面」「家の中の移動」「着替え」「トイレ」「入浴」「外出」「車の乗り降り」「交通機関の利用」「食事の準備や後片付け」「掃除や洗濯」「お金の管理」「買い物」「電話をかけること」「文字を書くこと」「文章を読むこと」「会話や意思の伝達」

(4) 介助してくれる人（主な介助者）の年齢

問 11-2 【問 11-1 で 1～7*に◎をつけた方にうかがいます。】主な介助者は何歳くらいの方ですか。（ ）内に数字を記入してください。

主に家族に介助されている回答者は5人であり、4人が「70歳以上」を選んでいました。主な介助者の平均年齢は、75.3歳となっています。

図表Ⅲ- 25 介助してくれる人（主な介助者）の年齢

全体	18歳未満	18歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～69歳	70歳以上	無回答
5 100.0	-	-	-	-	-	-	4 80.0	1 20.0

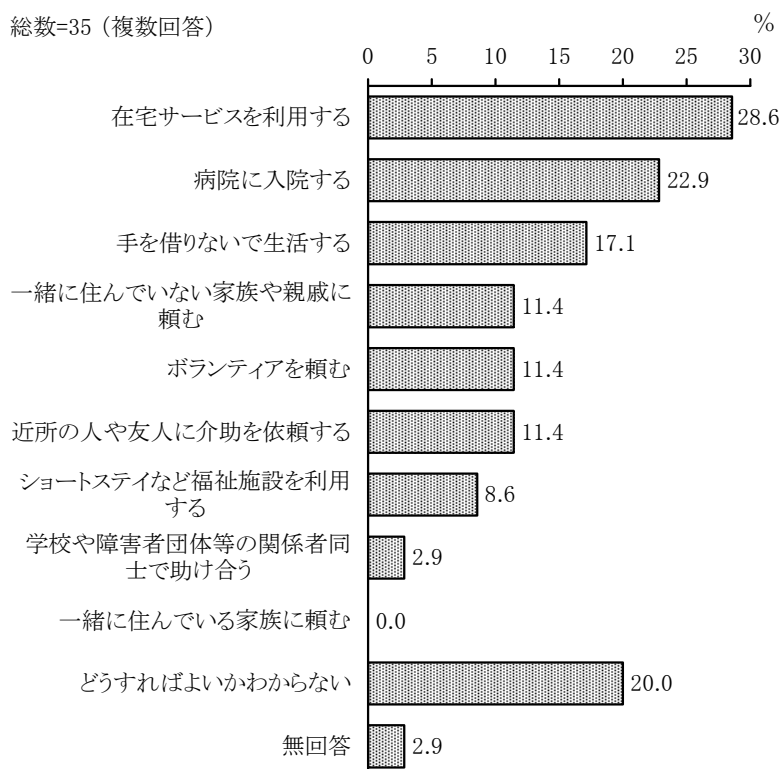
※1～7：「夫または妻」「子」「孫」「父母（夫または妻の父母を含む）」「兄弟姉妹」「祖父母」「その他の親族（おじ、おば、いとこなど）」

(5) 介助者が介助できなくなった場合の対応

問 11-3 【問 11 で 1～19*を選んだ方にうかがいます。】もし、いつも介助してくれる方が病気などで介助できなくなった場合、あなたはどのようにしますか。（あてはまるものすべてに○）

図表Ⅲ- 26 介助者が介助できなくなった場合の対応

総数=35（複数回答）



「在宅サービスを利用する」が 28.6%で最も多く、「病院に入院する」が 22.9%、「手を借りないで生活する」が 17.1%、「一緒に住んでいない家族や親戚に頼む」「ボランティアを頼む」「近所の人や友人に介助を依頼する」がそれぞれ 11.4%で続きます。

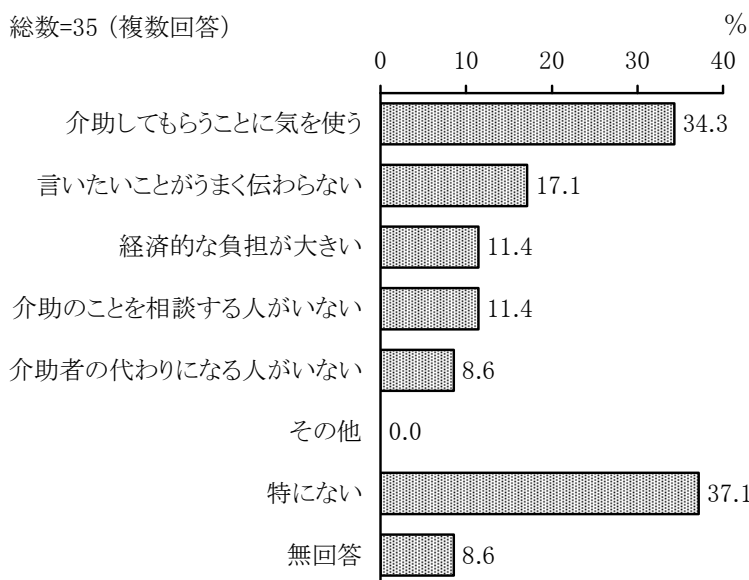
「どうすればよいかわからない」は 20.0%となっています。

※1～19：「食事すること」「寝返りや起き上がり」「椅子や車いすへの移動」「洗面」「家の中の移動」「着替え」「トイレ」「入浴」「外出」「車の乗り降り」「交通機関の利用」「食事の準備や後片付け」「掃除や洗濯」「お金の管理」「買い物」「電話をかけること」「文字を書くこと」「文章を読むこと」「会話や意思の伝達」

（6）介助を受ける上で困っていること

問 11-4 【問 11 で 1～19*を選んだ方にうかがいます。】あなたが介助を受ける上で困っていることは、どのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

図表Ⅲ- 27 介助を受ける上で困っていること



介助を受ける上で困っていることとしては、「介助してもらうことに気を使う」が34.3%で最も多く、「言いたいことがうまく伝わらない」が17.1%、「経済的な負担が大きい」「介助のことを相談する人がいない」がそれぞれ11.4%、「介助者の代わりになる人がいない」が8.6%となっています。

「特にない」は37.1%となっています。

※1～19：「食事をする」「寝返りや起き上がり」「椅子や車いすへの移動」「洗面」「家の中の移動」「着替え」「トイレ」「入浴」「外出」「車の乗り降り」「交通機関の利用」「食事の準備や後片付け」「掃除や洗濯」「お金の管理」「買い物」「電話をかけること」「文字を書くこと」「文章を読むこと」「会話や意思の伝達」

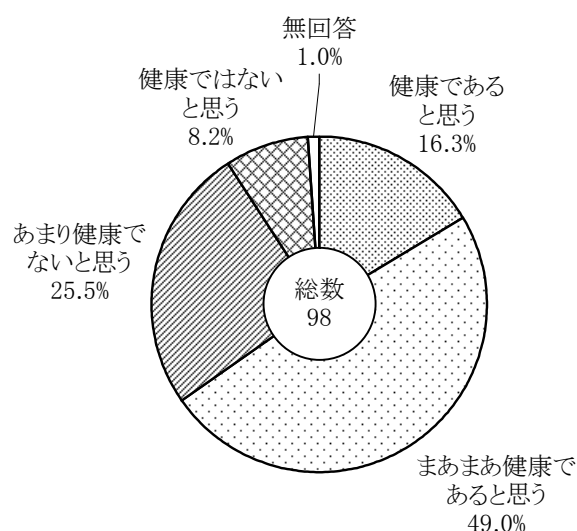
4 保健・医療について

（1）最近の健康状態

問 12 あなたの最近（ここ3か月以内）の健康状態はいかがですか。（どれか1つに○）

図表Ⅲ- 28 最近の健康状態

「健康であると思う」が16.3%、「まあまあ健康であると思う」が49.0%であり、全体の65.3%が健康だと感じています。一方、「あまり健康でないと思う」が25.5%、「健康ではないと思う」が8.2%であり、全体の33.7%が健康ではないと感じていることがわかります。



年代別に見ると、50歳以上で健康（「健康であると思う」「まあまあ健康であると思う」の合計）だと感じている回答者は7割以上（75.5%）を占めています。49歳以下では回答者の6割弱（58.9%）が健康だと感じているものの、ほぼ4割（39.2%）が健康ではない（「あまり健康でないと思う」「健康ではないと思う」の合計）と感じており、50歳以上に比べて14ポイント多くなっています。

図表Ⅲ- 29 最近の健康状態【年代別】

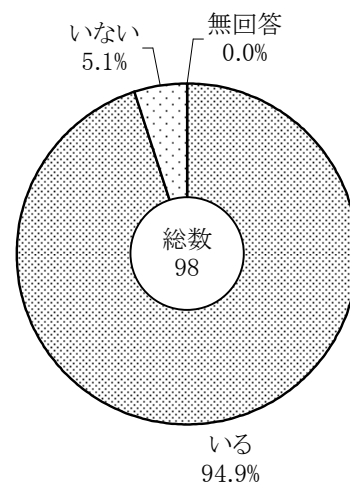
		全体	健康である と思う	まあまあ健康で あると思う	あまり健康で ないと思う	健康ではない と思う	無回答
	全体	98 100.0	16 16.3	48 49.0	25 25.5	8 8.2	1 1.0
年代別	49歳以下	51 100.0	11 21.6	19 37.3	13 25.5	7 13.7	1 2.0
	50歳以上	45 100.0	5 11.1	29 64.4	11 24.4	—	—
	無回答	2 100.0	—	—	1 50.0	1 50.0	—

（2）かかりつけ医の有無

問 13 あなたには、よく診察してもらう「かかりつけ医」がいますか。（どれか1つに○）

図表Ⅲ- 30 かかりつけ医の有無

「いる」が94.9%、「いない」が5.1%
となっています。



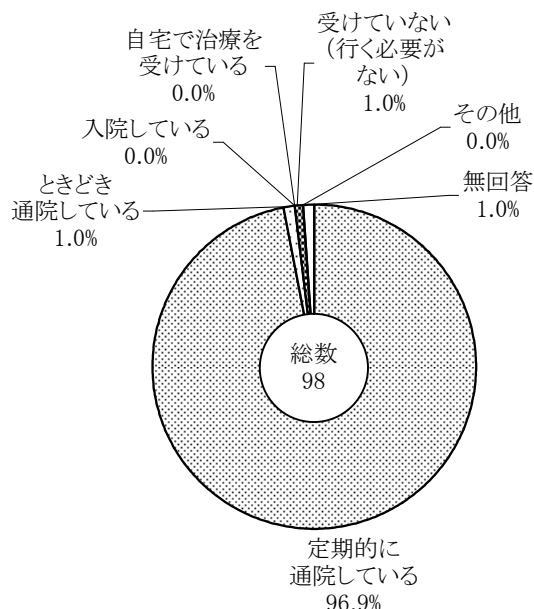
(3) 医療を受けているか

問 14 あなたは、現在、医療を受けていますか。(どれか1つに○)

「定期的に通院している」が 96.9%で最も多く、「ときどき通院している」が 1.0%となっています。

医療を「受けていない（行く必要がない）」人は 1.0%にとどまっています。

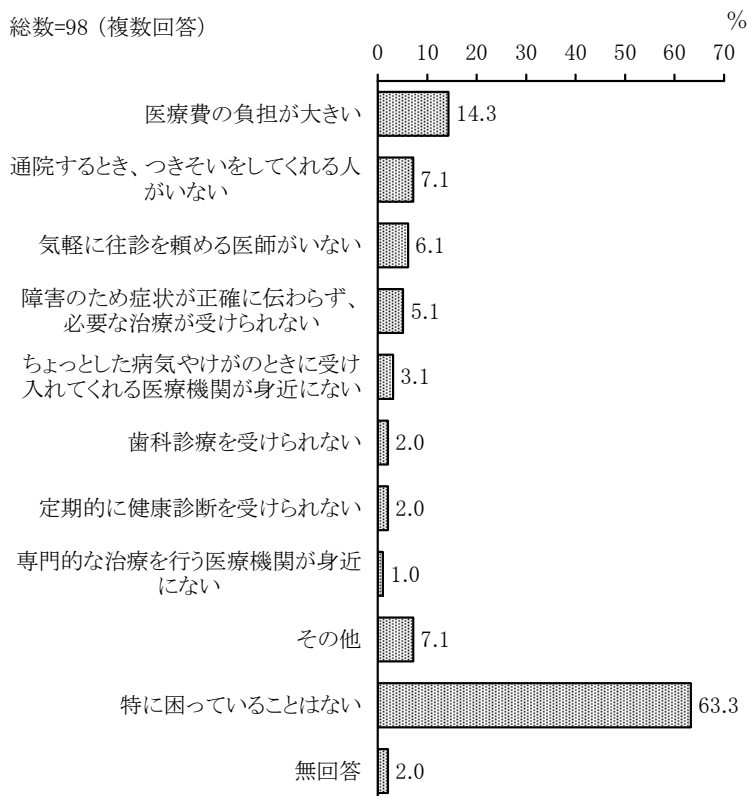
図表Ⅲ- 31 医療を受けているか



(4) 通院時や健康管理で困ること

問 15 あなたが医療を受けるときや、健康管理で困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅲ- 32 通院時や健康管理で困ること



医療を受けるときや健康管理で困ることとしては、「医療費の負担が大きい」が 14.3%で最も多く、「通院するとき、つきそいをしてくれる人がいない」が 7.1%、「気軽に往診を頼める医師がいない」が 6.1%、「障害のため症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない」が 5.1%で続きます。

「特に困っていることはない」は 63.3%となっています。

年代別に見ると、「医療費の負担が大きい」という回答は、50 歳以上では1割未満(6.7%)であるのに対し、49 歳以下では 21.6%となっており、これ以外の項目に比べて年代による差が大きくなっています。

図表Ⅲ- 33 通院時や健康管理で困ること【年代別】

		全体	通院するとき、つきそいをしてくれる人がいない	専門的な治療を行う医療機関が身近にない	ちょっとした病気やけがのときに受け入れてくれる医療機関が身近にない	気軽に往診を頼める医師がいない	歯科診療を受けられない	医療費の負担が大きい	定期的に健康診断を受けられない	障害のため症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない	その他	特に困っていることはない	無回答
	全体	98 100.0	7 7.1	1 1.0	3 3.1	6 6.1	2 2.0	14 14.3	2 2.0	5 5.1	7 7.1	62 63.3	2 2.0
年代別	49歳以下	51 100.0	2 3.9	1 2.0	1 2.0	3 5.9	-	11 21.6	1 2.0	2 3.9	2 3.9	33 64.7	1 2.0
	50歳以上	45 100.0	3 6.7	-	2 4.4	3 6.7	1 2.2	3 6.7	-	2 4.4	5 11.1	29 64.4	1 2.2
	無回答	2 100.0	2 100.0	-	-	-	1 50.0	-	1 50.0	1 50.0	-	-	-

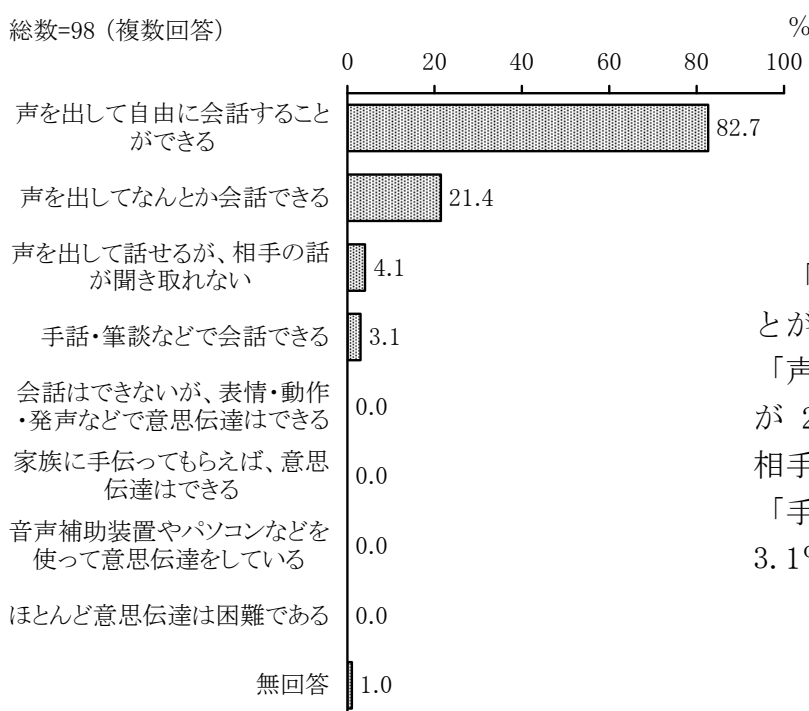
5 情報・コミュニケーションについて

(1) 会話や意思の伝達ができる程度

問 16 あなたは、日頃どのようにコミュニケーション（会話や意思の伝達）をとることができますか。（あてはまるものすべてに○）

図表Ⅲ- 34 会話や意思の伝達ができる程度

総数=98（複数回答）



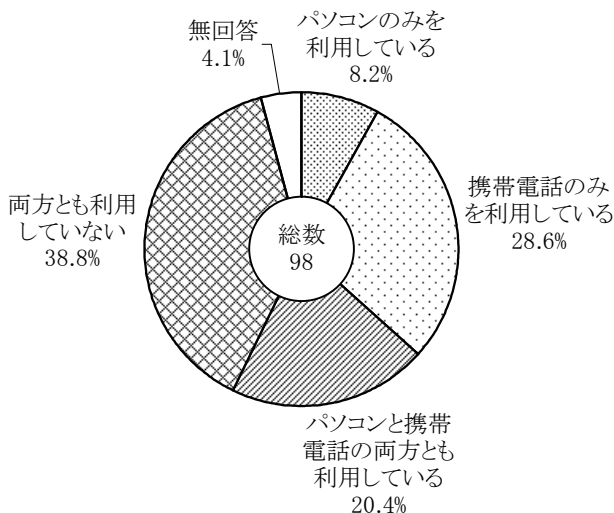
「声を出して自由に会話することができる」が82.7%で最も多く、「声を出してなんとか会話できる」が21.4%、「声を出して話せるが、相手の話が聞き取れない」が4.1%、「手話・筆談などで会話できる」が3.1%となっています。

(2) 電子メール・インターネットの利用状況

問 17 あなたは、パソコンや携帯電話のメール機能などインターネットを利用していますか。(どれか1つに○)

図表Ⅲ- 35 電子メール・インターネットの利用状況

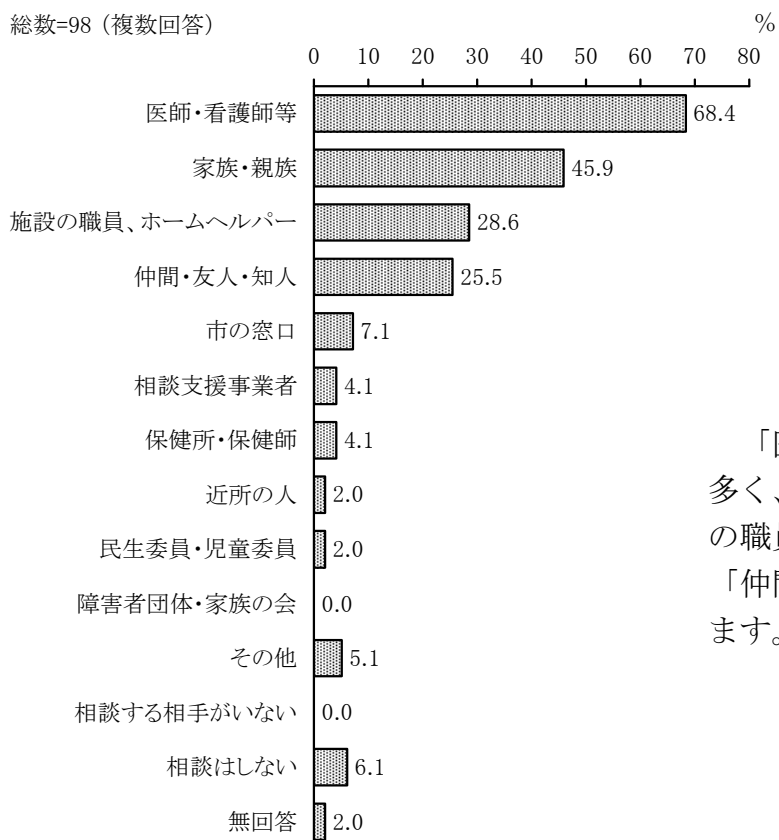
「携帯電話のみを利用している」が 28.6%、「パソコンのみを利用している」が 8.2%、「パソコンと携帯電話の両方とも利用している」が 20.4%となっています。
「両方とも利用していない」は 38.8%です。



(3) 困りごとや悩みの相談先

問 18 あなたは、日常生活で困ったことや悩みごとについて、どなたに相談していますか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅲ- 36 困りごとや悩みの相談先



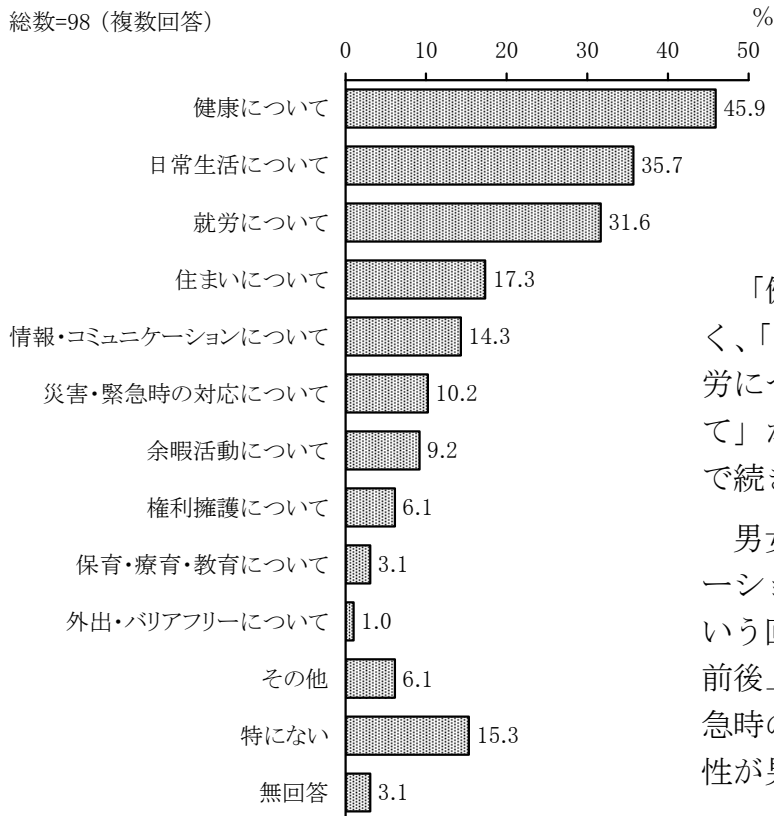
「医師・看護師等」が 68.4%で最も多く、「家族・親族」が 45.9%、「施設の職員、ホームヘルパー」が 28.6%、「仲間・友人・知人」が 25.5%で続きます。

(4) 今後相談したいこと

問 19 今後、あなたが相談したい内容として、どのようなことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅲ- 37 今後相談したいこと

総数=98 (複数回答)



「健康について」が 45.9%で最も多く、「日常生活について」が 35.7%、「就労について」が 31.6%、「住まいについて」が 17.3%、「特になし」が 15.3%で続きます。

男女別に見ると、「情報・コミュニケーションについて」「就労について」という回答は、男性が女性を 10 ポイント前後上回っているのに対し、「災害・緊急時の対応について」という回答は、女性が男性を 11 ポイント上回っています。

年代別に見ると、49 歳以下では「就労について」(52.9%) が、50 歳以上では「情報・コミュニケーションについて」(51.1%) が過半数に達しており、年代による差が大きくなっています。

図表Ⅲ- 38 今後相談したいこと【男女別、年代別】

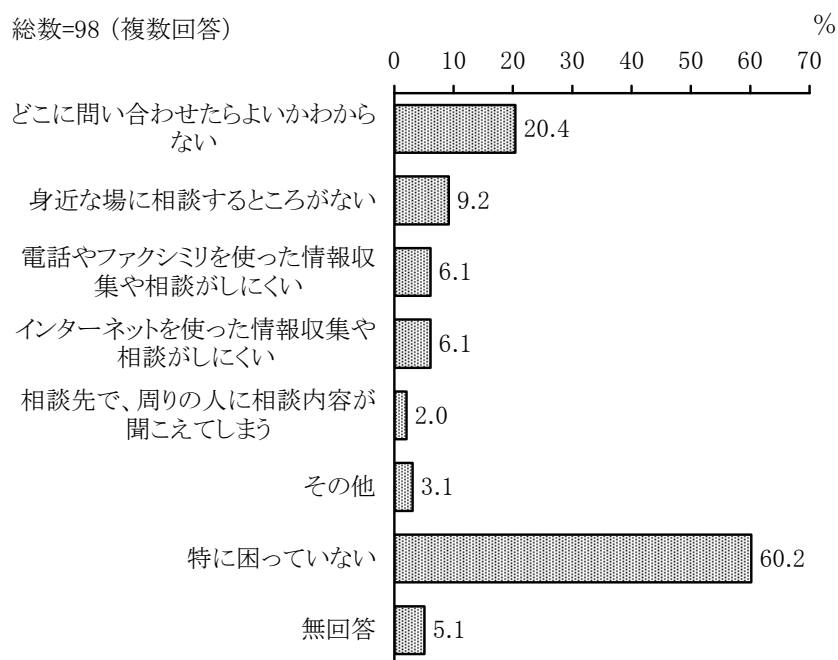
	全体	日常生活について	健康について	情報・コミュニケーションについて	住まいについて	保育・療育・教育について	就労について	外出・バリアフリーについて	余暇活動について	権利擁護について	災害・緊急時の対応について	その他	特になし	無回答
全体	98 100.0	35 35.7	45 45.9	14 14.3	17 17.3	3 3.1	31 31.6	1 1.0	9 9.2	6 6.1	10 10.2	6 6.1	15 15.3	3 3.1
男女別	男性	54 100.0	17 31.5	24 44.4	10 18.5	8 14.8	2 3.7	21 38.9	4 7.4	4 7.4	3 5.6	2 3.7	7 13.0	1 1.9
	女性	42 100.0	16 38.1	19 45.2	4 9.5	8 19.0	10 23.8	1 2.4	5 11.9	2 4.8	7 16.7	4 9.5	8 19.0	2 4.8
	無回答	2 100.0	2 100.0	2 100.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0
年代別	49歳以下	51 100.0	10 19.6	25 49.0	8 15.7	7 13.7	2 3.9	27 52.9	1 2.0	8 15.7	6 11.8	4 7.8	4 7.8	1 3.3
	50歳以上	45 100.0	23 51.1	18 40.0	6 13.3	9 20.0	4 8.9	1 2.2	1 2.2	1 2.2	4 8.9	2 4.4	11 24.4	2 9.5
	無回答	2 100.0	2 100.0	2 100.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0

(5) 情報収集や相談をする際に困っていること

問20 あなたが情報収集や相談をするときに困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅲ-39 情報収集や相談をする際に困っていること

総数=98 (複数回答)



「どこに問い合わせたらよいかわからない」が20.4%で最も多く、「身近な場に相談するところがない」が9.2%、「電話やファクシミリを使った情報収集や相談がしにくい」「インターネットを使った情報収集や相談がしにくい」がそれぞれ6.1%、「相談先で、周りの人に相談内容が聞こえてしまう」が2.0%で続きます。

「特に困っていない」は60.2%です。

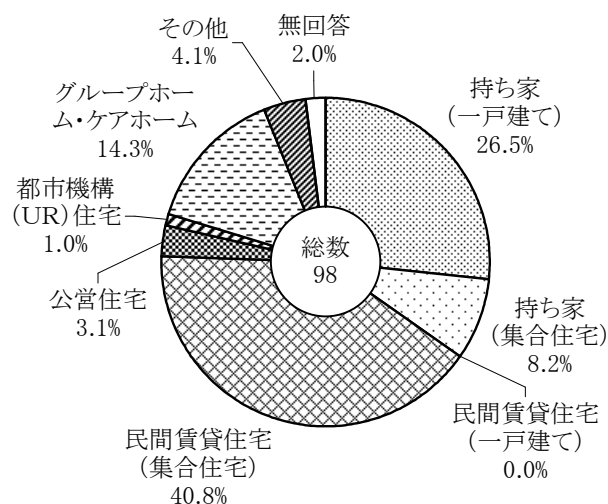
6 住まいについて

(1) 現在の住まいの形態

問21 あなたは、現在どのようなところにお住まいですか。(どれか1つに○)

図表Ⅲ-40 現在の住まいの形態

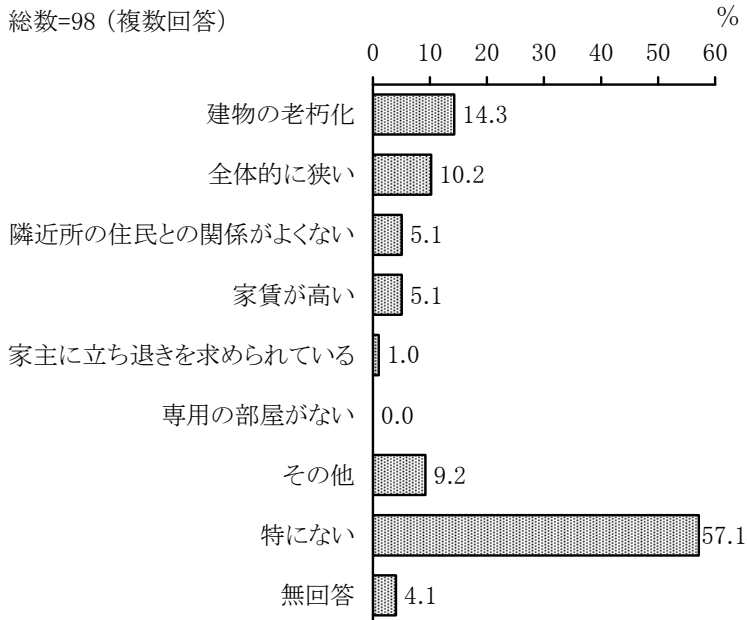
「民間賃貸住宅 (集合住宅)」が40.8%で最も多く、「持ち家 (一戸建て)」が26.5%、「グループホーム・ケアホーム」が14.3%、「持ち家 (集合住宅)」が8.2%で続きます。



(2) 現在の住まいで困っていること

問22 あなたが今のお住まいで困っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅲ- 41 現在の住まいで困っていること



現在の住まいで困っていることとしては、「建物の老朽化」が14.3%で最も多く、「全体的に狭い」が10.2%、「隣近所の住民との関係が良くない」「家賃が高い」が5.1%、「家主に立ち退きを求められている」が1.0%となっています。

「特にない」は57.1%です。

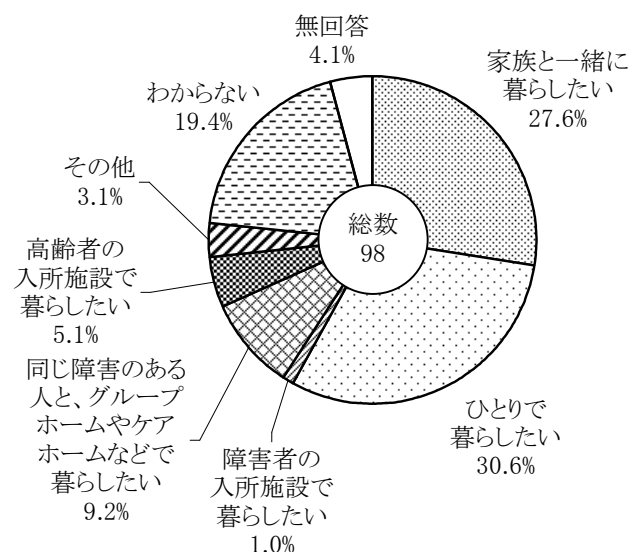
(3) 将来希望する暮らし方

問23 あなたは、将来どのように暮らしたいですか。(どれか1つに○)

図表Ⅲ- 42 将来希望する暮らし方

将来希望する暮らし方としては、「ひとりで暮らしたい」が30.6%で最も多く、「家族と一緒に暮らしたい」が27.6%、「同じ障害のある人と、グループホームやケアホームなどで暮らしたい」が9.2%、「高齢者の入所施設で暮らしたい」が5.1%で続きます。

「わからない」は19.4%となっています。



年代別に見ると、49歳以下では「家族と一緒に暮らしたい」が最も多く、ほぼ4割（39.2%）を占めています。また、「同じ障害のある人と、グループホームやケアホームなどで暮らしたい」という回答は、49歳以下では1割未満（3.9%）であるのに対し、50歳以上では15.6%であり、年代による差が大きくなっています。

図表Ⅲ- 43 将来希望する暮らし方【年代別】

		全体	家族と一緒に暮らしたい	ひとりで暮らしたい	障害者の入所施設で暮らしたい	同じ障害のある人と、グループホームやケアホームなどで暮らしたい	高齢者の入所施設で暮らしたい	その他	わからない	無回答
	全体	98 100.0	27 27.6	30 30.6	1 1.0	9 9.2	5 5.1	3 3.1	19 19.4	4 4.1
年代別	49歳以下	51 100.0	20 39.2	17 33.3	1 2.0	2 3.9	1 2.0	2 3.9	7 13.7	1 2.0
	50歳以上	45 100.0	6 13.3	13 28.9	-	7 15.6	4 8.9	1 2.2	11 24.4	3 6.7
	無回答	2 100.0	1 50.0	-	-	-	-	-	1 50.0	-

7 保育・教育・療育について ※25歳未満の方とその保護者の方が対象 ●●●●●●

（1）通園・通学先

問 24 現在、あなたが通園・通学しているところはどこですか。（どれか1つに○）

該当する回答者は1人であり、「特に通学はしていない」を選んでいました。

図表Ⅲ- 44 通園・通学先

全体	就学前					学齢期から25歳未満				
	保育所	幼稚園	障害児の通所 支援施設など	特別支援学校の 幼稚園部	特に通園・通所 はしていない	（普通）小学校 （普通学級）	（特別）小学校 （特別支援学級）	特別支援学校 小学部	（普通）中学校 （普通学級）	
1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	学齢期から25歳未満									
	（特別）中学校 （特別支援学級）	特別支援学校 中学部	特別支援学校 高等部	高等技術専門校	高等学校	専修学校・ 専門学校	大学・短期 大学・大学院	特に通学は していない	その他	無回答
-	-	-	-	-	-	-	-	1 100.0	-	-

(2) 学校教育修了後の希望進路

問 25 あなたは、学校教育修了後の進路について、どのように考えていますか。(どれか1つに○)

該当する回答者は1人であり、「その他」を選んでいました。

図表Ⅲ- 45 学校教育修了後の希望進路

全体	短期大学・大学に進学したい	専修学校・専門学校に進学したい	高等技術専門学校に進学したい	一般企業や役所に就職したい	通所施設を利用したい	障害者の入所施設を利用したい	特に考えていない	その他	無回答
1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	1 100.0	-

(3) 保育や療育について困っていること

問 26 【就学前の方の保護者にうかがいます。】保護者の方が、保育や療育について困っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

該当する回答者はいませんでした。

(4) 学校や教育について困っていること

問 27 【特別支援学校(幼稚部を除く)・小学校・中学校・高等学校在学中の方の保護者にうかがいます。】保護者の方が、学校や教育について困っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

該当する回答者はいませんでした。

(5) 障害のある児童のためのサービスの利用状況

問 28 【18歳未満の方にうかがいます。】あなたは、障害のある児童のための次のようなサービスを利用していますか。(あてはまるものすべてに○)

該当する回答者はいませんでした。

（６）障害のある児童のためのサービスの満足度

問 28-1 【問 28 で 1～3*を選んだ方にうかがいます。】あなたは、利用しているサービスに満足していますか。（どれか1つに○）

該当する回答者はいませんでした。

※1～3：「福祉型児童発達支援」「医療型児童発達支援」「放課後等デイサービス」

（７）障害のある児童のためのサービスの不満理由

問 28-2 【問 28-1 で 4*を選んだ方にうかがいます。】あなたが満足していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

該当する回答者はいませんでした。

※4：「満足していない」

（８）障害のある児童のためのサービスの利用意向

問 29 【18 歳未満の方にうかがいます。】今後、あなたは障害のある児童のための次のサービスを利用したいと思いますか。現在利用している方もお答えください。（どれか1つに○）

該当する回答者はいませんでした。

8 仕事について ※15歳以上の方が対象

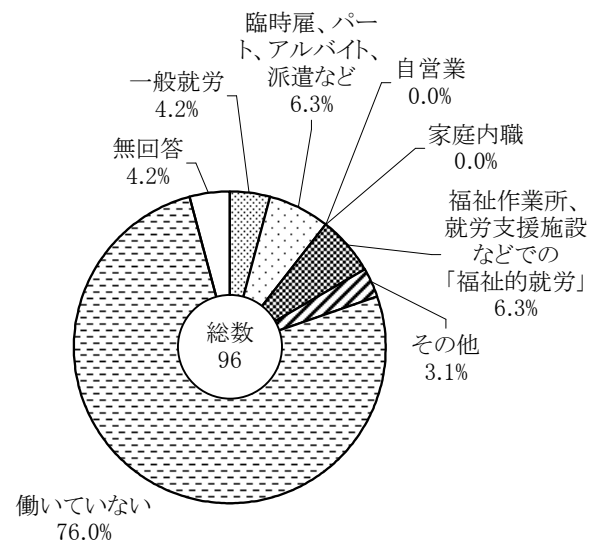
(1) 就労の有無と種類

問30 あなたは、現在働いて（収入のある仕事に就いて）いますか。（どれか1つに○）

仕事については、「臨時雇、パート、アルバイト、派遣など」「福祉作業所、就労支援施設などでの「福祉的就労」」がそれぞれ6.3%、「一般就労」が4.2%となっています。

「働いていない」は76.0%です。

図表Ⅲ-46 就労の有無と種類



(2) 週労働日数と週労働時間

問30-1 【問30で1～6※を選んだ方にうかがいます。】あなたは、おおよそ週に何日間・何時間働いていますか。（ ）内に数字を記入してください。

現在働いているという回答者は19人であり、週労働日数は、「3日」「5日」がそれぞれ4人（21.1%）で最も多く、「4日」が3人（15.8%）、「1日」「2日」がそれぞれ2人（10.5%）となっています。

週労働時間は、「10～20時間未満」が6人（31.6%）で最も多く、「10時間未満」が4人（21.1%）、「20～30時間未満」が3人（15.8%）、「30～40時間未満」「40～50時間未満」がそれぞれ1人（5.3%）となっています。

1日当たり就労時間の平均値は4.8時間であり、その分布は「4時間台」が5人（26.3%）で最も多く、「5時間台」が4人（21.1%）、「6時間以上」が3人（15.8%）、「3時間台」が2人（10.5%）で続きます。

図表Ⅲ-47 週労働日数

全体	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	無回答
19 100.0	2 10.5	2 10.5	4 21.1	3 15.8	4 21.1	-	-	4 21.1

※1～6：「一般就労（企業などに就職）」「臨時雇、パート、アルバイト、派遣など」「自営業」「家庭内職」「福祉作業所、就労支援施設などでの「福祉的就労」」「その他」

図表Ⅲ- 48 週労働時間

全体	10時間未満	10～20時間未満	20～30時間未満	30～40時間未満	40～50時間未満	50時間以上	無回答
19 100.0	4 21.1	6 31.6	3 15.8	1 5.3	1 5.3	- -	4 21.1

図表Ⅲ- 49 1日当たり就労時間

全体	2時間台	3時間台	4時間台	5時間台	6時間以上	無回答
19 100.0	1 5.3	2 10.5	5 26.3	4 21.1	3 15.8	4 21.1

(3) 月平均収入

問 30-2 【問 30 で 1～6※を選んだ方にうかがいます。】あなたの労働による1ヶ月の平均収入総額（ボーナスや障害年金等を除く月の給与）を教えてください。税金や年金、施設への利用料などを引かれる前の総額です。（どれか1つに○）

現在働いているという回答者は19人であり、「1万円未満」が8人（42.1%）で最も多く、「5～10万円未満」が4人（21.1%）、「1～3万円未満」が3人（15.8%）、「10～15万円未満」「15～20万円未満」「20～30万円未満」がそれぞれ1人（5.3%）となっています。

図表Ⅲ- 50 月平均収入

全体	1万円未満	1～3万円未満	3～5万円未満	5～10万円未満	10～15万円未満	15～20万円未満	20～30万円未満	30万円以上	無回答
19 100.0	8 42.1	3 15.8	- -	4 21.1	1 5.3	1 5.3	1 5.3	- -	1 5.3

※1～6：「一般就労（企業などに就職）」「臨時雇、パート、アルバイト、派遣など」「自営業」「家庭内職」「福祉作業所、就労支援施設などでの「福祉的就労」「その他」

(4) 仕事で困っていること

問 30-3 【問 30 で 1～6※を選んだ方にうかがいます。】あなたが仕事をする上で、困ったり、つらいことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

現在働いているという回答者は19人であり、仕事をする上で困ったりつらいこととしては、「収入が少ない」が11人（57.9%）で最も多く、「職場の人間関係」が5人（26.3%）、「肉体的につらい」が3人（15.8%）、「通勤が大変」「職場の中の環境が整備されていない」がそれぞれ2人（10.5%）で続きます。

「困ったり、つらいことは特にない」は6人（31.6%）となっています。

※1～6：「一般就労（企業などに就職）」「臨時雇、パート、アルバイト、派遣など」「自営業」「家庭内職」「福祉作業所、就労支援施設などでの「福祉的就労」「その他」

図表Ⅲ- 51 仕事で困っていること

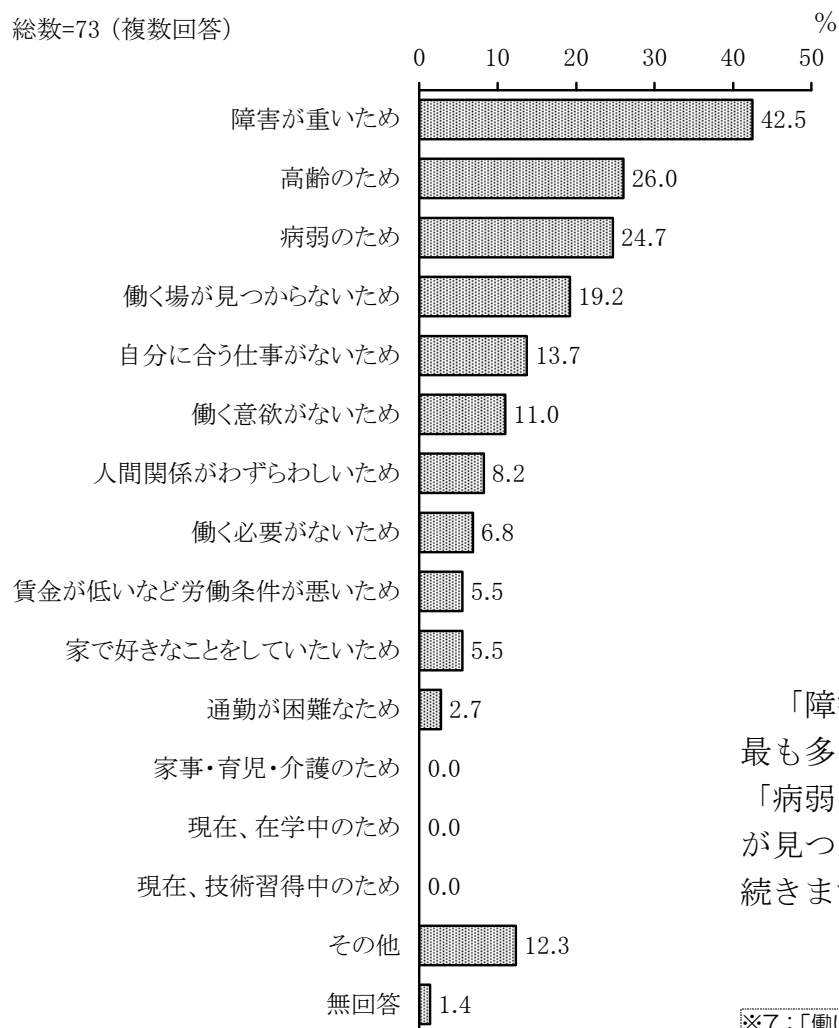
全体	通勤が大変	収入が少ない	肉体的につらい	仕事が合わない	職場の人間関係	職場の中での環境が整備されていない	職場の中で介助者を得にくい	その他	困ったり、つらいことは特にない	無回答
19 100.0	2 10.5	11 57.9	3 15.8	- -	5 26.3	2 10.5	1 5.3	2 10.5	6 31.6	1 5.3

(5) 仕事に就いていない理由

問 30-4 【問 30 で 7※を選んだ方にうかがいます。】あなたが仕事に就いていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅲ- 52 仕事に就いていない理由

総数=73 (複数回答)



「障害が重い」が 42.5%で最も多く、「高齢のため」が 26.0%、「病弱のため」が 24.7%、「働く場が見つからない」が 19.2%で続きます。

※7:「働いていない」

男女別に見ると、男性は「障害が重いため」(56.4%)が最も多く過半数に達しており、女性をほぼ30ポイント上回っています。一方、女性は「高齢のため」(32.4%)が最も多く、男性をほぼ12ポイント上回っています。

年代別に見ると、「障害が重いため」「働く場が見つからないため」「自分に合う仕事がないため」では49歳以下が50歳以上の割合を10ポイント以上上回り、これ以外の項目に比べて年代による差が大きくなっています。

図表Ⅲ- 53 仕事に就いていない理由【男女別、年代別】

		全体	障害が重いため	病弱のため	高齢のため	働く場が見つからないため	賃金が低いなど労働条件が悪い	自分に合う仕事がないため	通勤が困難なため	家事・育児・介護のため	現在、在学中のため	現在、技術習得中のため	人間関係がわずらわしいため	家で好きなことをしていたいため
	全体	73 100.0	31 42.5	18 24.7	19 26.0	14 19.2	4 5.5	10 13.7	2 2.7	- -	- -	- -	6 8.2	4 5.5
男女別	男性	39 100.0	22 56.4	9 23.1	8 20.5	6 15.4	3 7.7	6 15.4	- -	- -	- -	- -	3 7.7	1 2.6
	女性	34 100.0	9 26.5	9 26.5	11 32.4	8 23.5	1 2.9	4 11.8	2 5.9	- -	- -	- -	3 8.8	3 8.8
年代別	49歳以下	34 100.0	17 50.0	9 26.5	2 5.9	11 32.4	4 11.8	8 23.5	2 5.9	- -	- -	- -	4 11.8	1 2.9
	50歳以上	39 100.0	14 35.9	9 23.1	17 43.6	3 7.7	- -	2 5.1	- -	- -	- -	- -	2 5.1	3 7.7

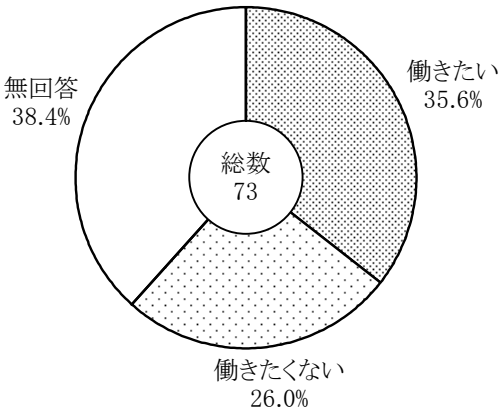
		働く意欲がないため	働く必要がないため	その他	無回答
	全体	8 11.0	5 6.8	9 12.3	1 1.4
男女別	男性	3 7.7	2 5.1	4 10.3	1 2.6
	女性	5 14.7	3 8.8	5 14.7	- -
年代別	49歳以下	5 14.7	1 2.9	5 14.7	1 2.9
	50歳以上	3 7.7	4 10.3	4 10.3	- -

(6) 今後の就労の意向

問30-5 【問30で7※を選んだ方にうかがいます。】あなたは今後、良い条件が整っているところがあれば、働きたいと思いますか。(どれか1つに○)

図表Ⅲ- 54 今後の就労の意向

「働きたい」が35.6%、「働きたくない」が26.0%となっています。



年代別に見ると、49歳以下では「働きたい」という回答が6割（61.8%）に達しています。

図表Ⅲ- 55 今後の就労の意向【年代別】

		全体	働きたい	働きたくない	無回答
全体		73	26	19	28
		100.0	35.6	26.0	38.4
年代別	49歳以下	34	21	3	10
		100.0	61.8	8.8	29.4
年代別	50歳以上	39	5	16	18
		100.0	12.8	41.0	46.2

※7:「働いていない」

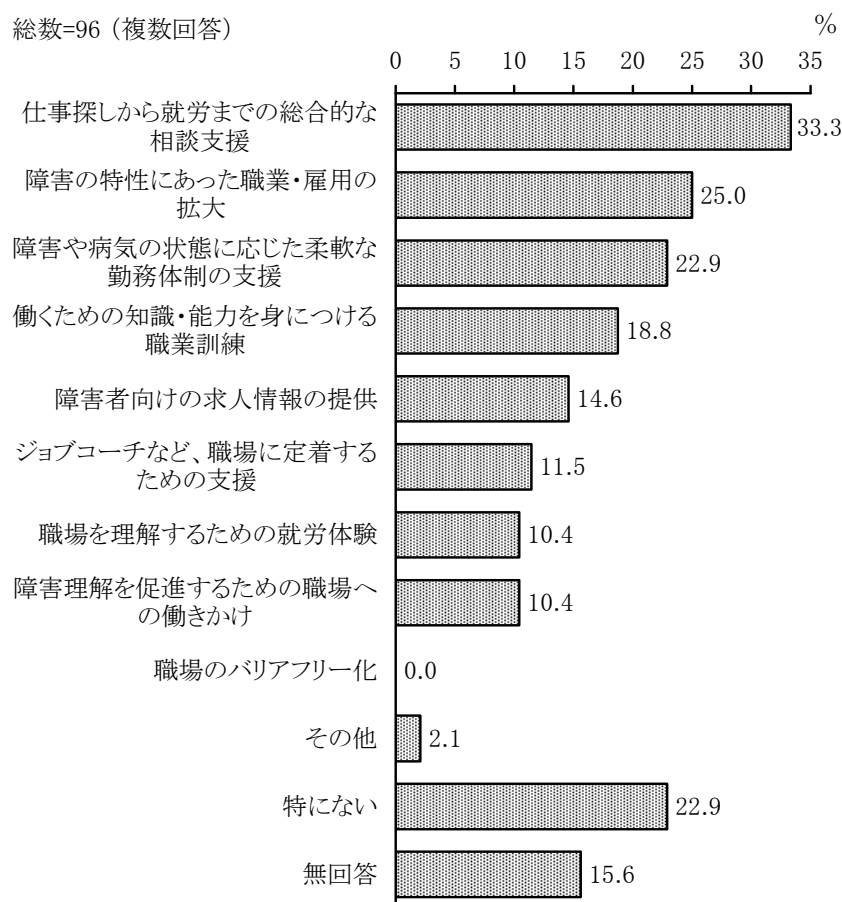
（7）障害のある人の一般就労のため必要なこと

問 31 あなたは、障害のある人が、企業などで一般就労するためには、どのような支援が必要だと思いますか。（主なもの3つまでに○）

障害のある人の一般就労のため必要なこととしては、「仕事探しから就労までの総合的な相談支援」が33.3%で最も多く、「障害の特性にあった職業・雇用の拡大」が25.0%、「障害や病気の状態に応じた柔軟な勤務体制の支援」が22.9%、「働くための知識・能力を身につける職業訓練」が18.8%で続きます。

「特にない」は22.9%となっています。

図表Ⅲ- 56 障害のある人の一般就労のため必要なこと



男女別に見ると、「仕事探しから就労までの総合的な相談支援」「働くための知識・能力を身につける職業訓練」「障害の特性にあった職業・雇用の拡大」「障害や病気の状態に応じた柔軟な勤務体制の支援」という回答は、男性が女性を10ポイント以上上回っており、男女による差が大きくなっています。

年代別に見ると、「仕事探しから就労までの総合的な相談支援」「ジョブコーチなど、職場に定着するための支援」という回答は、49歳以下が50歳以上を10ポイント以上上回っており、これ以外の項目に比べて年代による差が大きくなっています。

図表Ⅲ- 57 障害のある人の一般就労のため必要なこと【男女別、年代別】

		全体	仕事探しから就労までの 総合的な相談支援	働くための知識・能力を 身につける職業訓練	職場を理解するための 就労体験	障害の特性にあった 職業・雇用の拡大	障害者向けの求人情報 の提供	障害理解を促進するため の職場への働きかけ	職場のバリアフリー化	障害や病気の状態に 応じた柔軟な勤務体制 の支援	ジョブコーチなど、職場 に定着するための支援	その他	特にない	無回答
全体		96 100.0	32 33.3	18 18.8	10 10.4	24 25.0	14 14.6	10 10.4	-	22 22.9	11 11.5	2 2.1	22 22.9	15 15.6
男女別	男性	54 100.0	21 38.9	14 25.9	5 9.3	18 33.3	8 14.8	6 11.1	-	16 29.6	7 13.0	1 1.9	9 16.7	8 14.8
	女性	42 100.0	11 26.2	4 9.5	5 11.9	6 14.3	6 14.3	4 9.5	-	6 14.3	4 9.5	1 2.4	13 31.0	7 16.7
年代別	49歳以下	51 100.0	20 39.2	11 21.6	6 11.8	11 21.6	9 17.6	7 13.7	-	13 25.5	9 17.6	2 3.9	8 15.7	8 15.7
	50歳以上	45 100.0	12 26.7	7 15.6	4 8.9	13 28.9	5 11.1	3 6.7	-	9 20.0	2 4.4	-	14 31.1	7 15.6

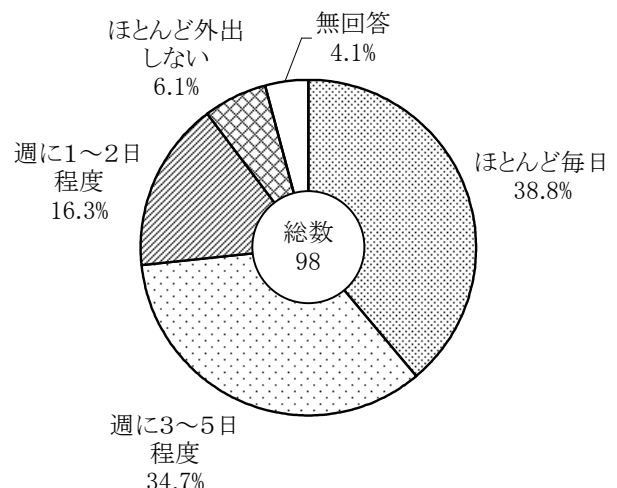
9 外出について

(1) 外出の頻度

問 32 ふだん、あなたは週に何日くらい外出しますか。(どれか1つに○)

図表Ⅲ- 58 外出の頻度

「ほとんど毎日」が38.8%で最も多く、「週に3～5日程度」が34.7%、「週に1～2日程度」が16.3%、「ほとんど外出しない」が6.1%となっています。



(2) 外出しない理由

問 32-1 【問 32 で 4*を選んだ方にうかがいます。】外出しない理由は、何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

ほとんど外出しないという回答者は6人であり、「障害が重い」を選んだのが4人、「お金がかかる」を選んだのが3人、「他人に見られるのがいやだ」を選んだのが2人、「外出するのが面倒」を選んだのが1人です。

図表Ⅲ- 59 外出しない理由

全体	道路や階段が不便・危険	乗物の利用が困難	休憩するところがない	お金がかかる	障害が重い	他人が見られるのがいやだ	外出するのが面倒	その他	無回答
6 100.0	-	-	-	3 50.0	4 66.7	2 33.3	1 16.7	1 16.7	-

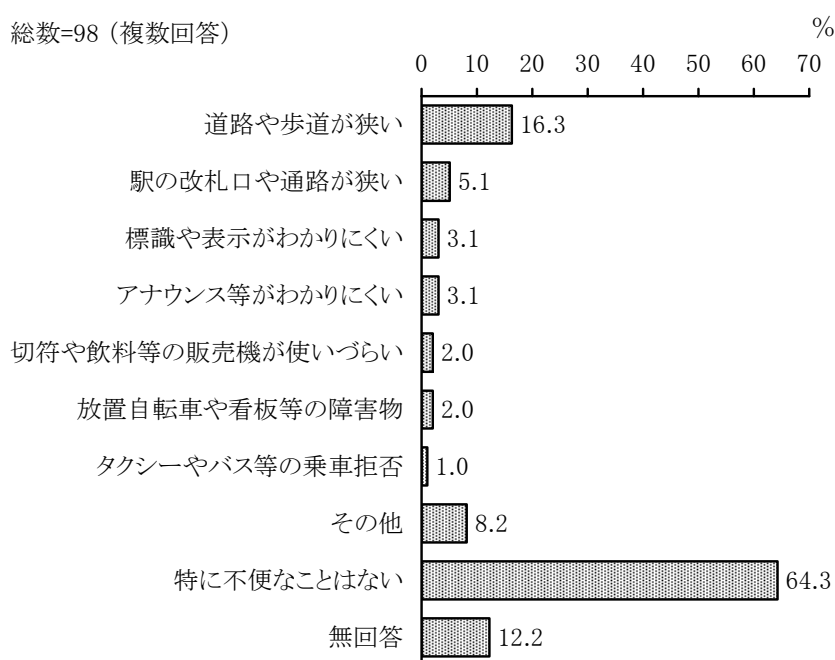
※4：「ほとんど外出しない」

(3) 外出の際に設備等で不便に思うこと

問 33 あなたが外出する際、道路や交通機関、建物のことで困ったり不便に思うことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅲ- 60 外出の際に設備等で不便に思うこと

総数=98 (複数回答)



外出の際に設備等で困ったり不便に思うこととしては、「道路や歩道が狭い」が16.3%で最も多く、「駅の改札口や通路が狭い」が5.1%、「標識や表示がわかりにくい」「アナウンス等がわかりにくい」がそれぞれ3.1%、「切符や飲料等の販売機が使いづらい」「放置自転車や看板等の障害物」がそれぞれ2.0%で続きます。

「特に不便なことはない」は64.3%となっています。

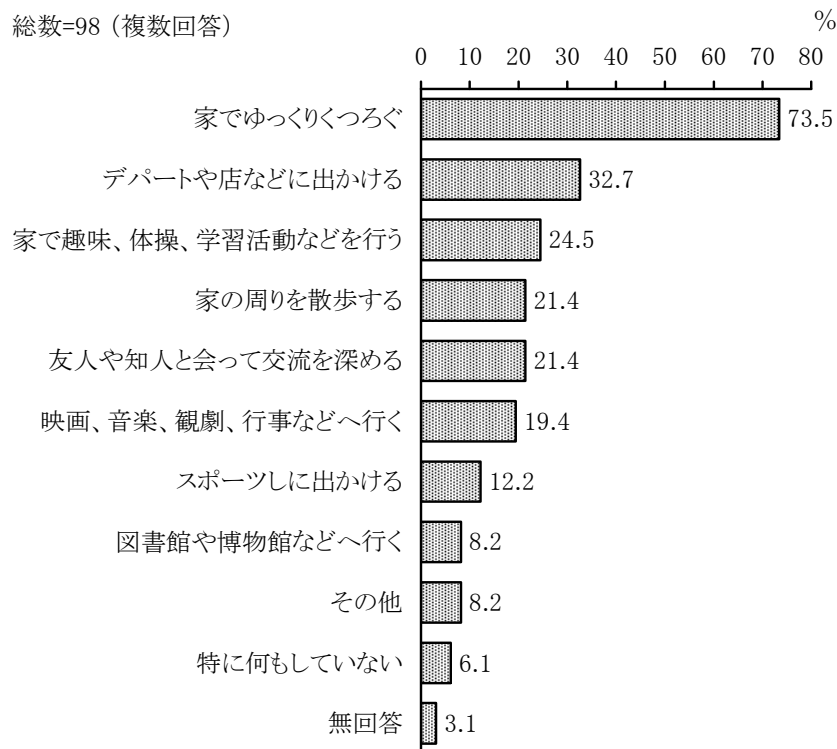
10 余暇活動について

(1) 余暇時間にしていること

問 34 あなたは、時間に余裕があるときにどのようなことをしていますか。(あてはまるものすべてに○)

「家でゆっくりくつろぐ」が 73.5%で最も多く、「デパートや店などに出かける」が 32.7%、「家で趣味、体操、学習活動などを行う」が 24.5%、「家の周りを散歩する」「友人や知人と会って交流を深める」がそれぞれ 21.4%で続きます。

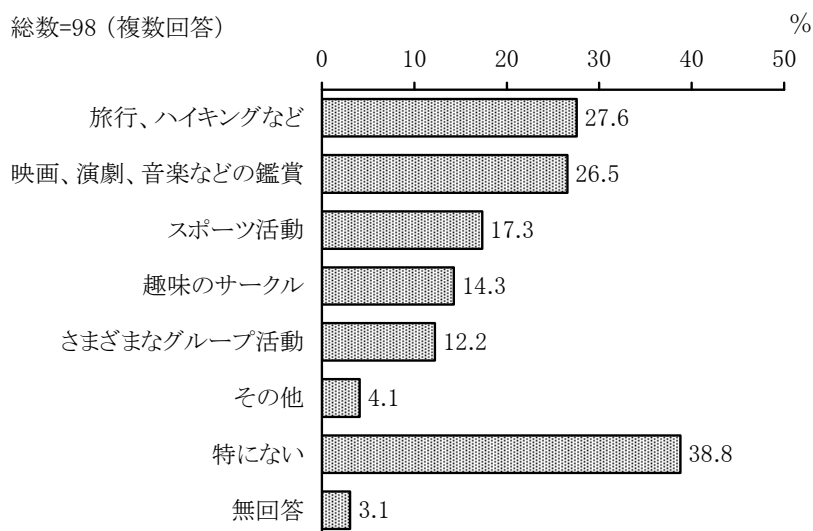
図表Ⅲ- 61 余暇時間にしていること



(2) 今後参加したい活動

問 35 あなたは現在の生活をより豊かにするために、どのような活動に参加したいと思っていますか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅲ- 62 今後参加したい活動



今後参加したい活動としては、「旅行、ハイキングなど」が 27.6%で最も多く、「映画、演劇、音楽などの鑑賞」が 26.5%、「スポーツ活動」が 17.3%、「趣味のサークル」が 14.3%で続きます。

「特にない」は 38.8%となっています。

男女別に見ると、「スポーツ活動」「映画、演劇、音楽などの鑑賞」という回答は、男性が女性を 10 ポイント前後上回っています。一方、女性は「特にない」という回答が 5 割弱 (47.6%) となっています。

年代別に見ると、「スポーツ活動」という回答は、50 歳以上では 1 割未満 (6.7%) であるのに対し、49 歳以下では 25.5%となっており、これ以外の項目に比べて年代による差が大きくなっています。

図表Ⅲ- 63 今後参加したい活動【男女別、年代別】

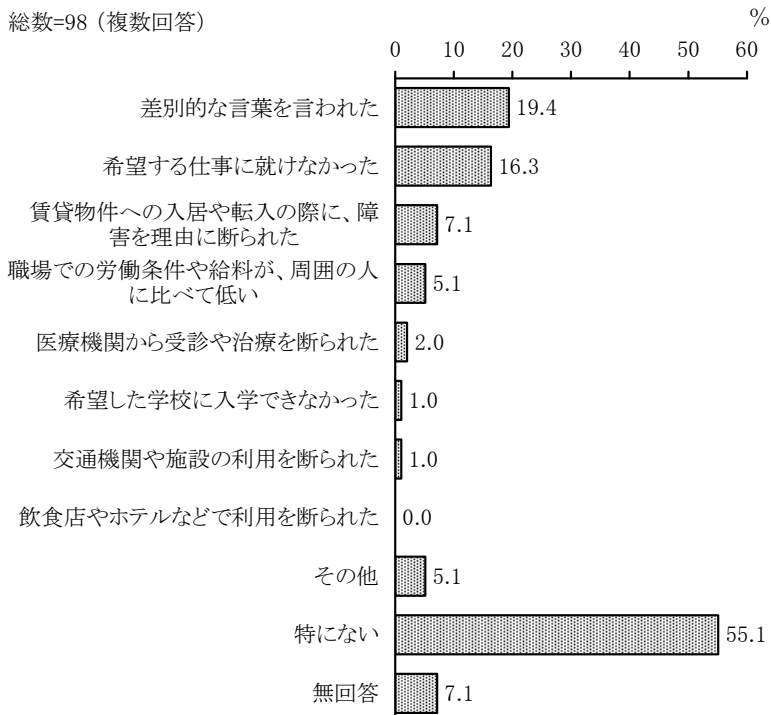
		全体	スポーツ活動	さまざまなグループ活動	趣味のサークル	映画、演劇、音楽などの鑑賞	旅行、ハイキングなど	その他	特にない	無回答
全体		98 100.0	17 17.3	12 12.2	14 14.3	26 26.5	27 27.6	4 4.1	38 38.8	3 3.1
男女別	男性	54 100.0	11 20.4	8 14.8	9 16.7	17 31.5	16 29.6	2 3.7	17 31.5	2 3.7
	女性	42 100.0	5 11.9	4 9.5	5 11.9	9 21.4	11 26.2	2 4.8	20 47.6	1 2.4
	無回答	2 100.0	1 50.0	-	-	-	-	-	1 50.0	-
年代別	49歳以下	51 100.0	13 25.5	8 15.7	8 15.7	14 27.5	14 27.5	3 5.9	17 33.3	2 3.9
	50歳以上	45 100.0	3 6.7	4 8.9	6 13.3	12 26.7	13 28.9	1 2.2	20 44.4	1 2.2
	無回答	2 100.0	1 50.0	-	-	-	-	-	1 50.0	-

11 権利擁護について

(1) 人権を損なう扱いを受けた経験の有無

問 36 あなたは、障害があることが原因で、人権を損なう扱いを受けた経験がありますか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅲ- 64 人権を損なう扱いを受けた経験の有無



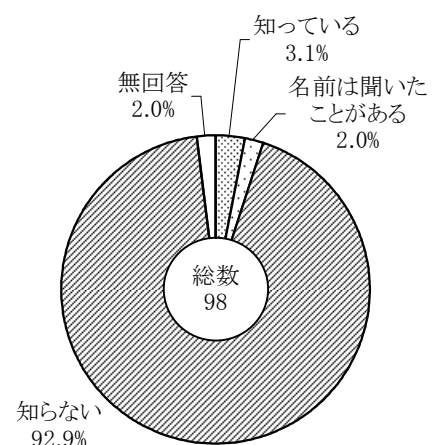
受けたことのある経験としては、「差別的な言葉を言われた」が 19.4%で最も多く、「希望する仕事に就けなかった」が 16.3%、「賃貸物件への入居や転入の際に、障害を理由に断られた」が 7.1%、「職場での労働条件や給料が、周囲の人に比べて低い」が 5.1%で続きます。「特にない」は 55.1%となっています。

(2) 船橋市障害者虐待防止センターの認知状況

問 37 あなたは、「船橋市障害者虐待防止センター（通称：は〜ぶ）」を知っていますか。(どれか1つに○)

図表Ⅲ- 65 船橋市障害者虐待防止センターの認知状況

「知らない」が 92.9%を占めており、「知っている」「名前は聞いたことがある」はいずれも 1 割未満にとどまっています。

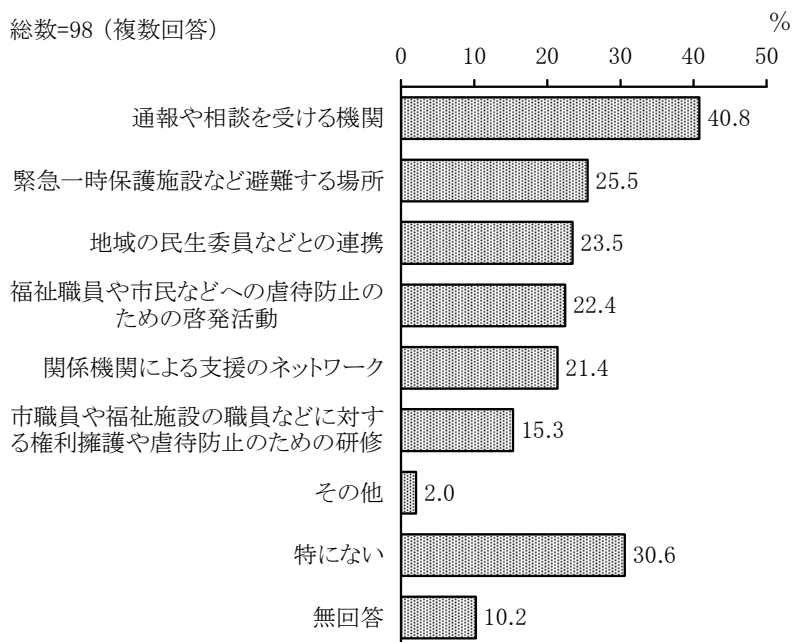


（３）障害者虐待の防止に必要な制度・体制

問 38 障害者虐待の防止のために、あなたは、市がどのような制度や体制を整備する必要がありますか。（あてはまるものすべてに○）

図表Ⅲ- 66 障害者虐待の防止に必要な制度・体制

総数=98（複数回答）



障害者虐待の防止に必要な制度や体制としては、「通報や相談を受ける機関」が 40.8% で最も多く、「緊急一時保護施設など避難する場所」が 25.5%、「地域の民生委員などとの連携」が 23.5%、「福祉職員や市民などへの虐待防止のための啓発活動」が 22.4%で続きます。

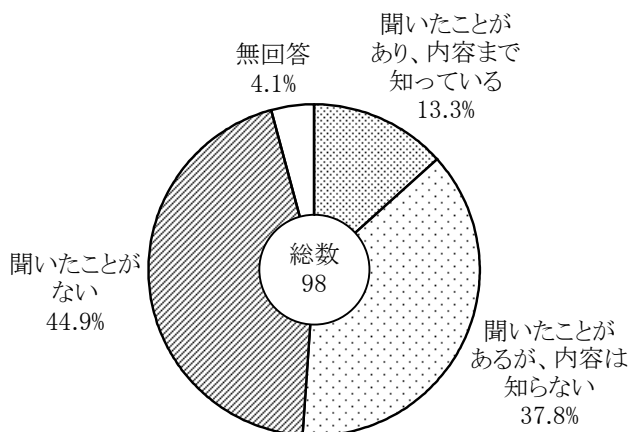
「特にない」は 30.6%となっています。

（４）成年後見制度の認知状況

問 39 あなたは、成年後見制度を知っていますか。（どれか1つに○）

図表Ⅲ- 67 成年後見制度の認知状況

「聞いたことがあり、内容まで知っている」が 13.3%、「聞いたことがあるが、内容は知らない」が 37.8%であり、全体の 51.1%が成年後見制度について聞いたことがあると回答しています。「聞いたことがない」は 44.9%となっています。



図表Ⅲ- 68 成年後見制度の認知状況【男女別】

		全体	聞いたことがあり、 内容まで知っている	聞いたことがあるが、 内容は知らない	聞いたことがない	無回答
全体		98 100.0	13 13.3	37 37.8	44 44.9	4 4.1
男女別	男性	54 100.0	10 18.5	25 46.3	16 29.6	3 5.6
	女性	42 100.0	3 7.1	11 26.2	27 64.3	1 2.4
	無回答	2 100.0	-	1 50.0	1 50.0	-

男女別に見ると、男性では成年後見制度について聞いたことがあるという回答が6割強（64.8%）を占めています。一方、女性は「聞いたことがない」が6割強（64.3%）となっています。

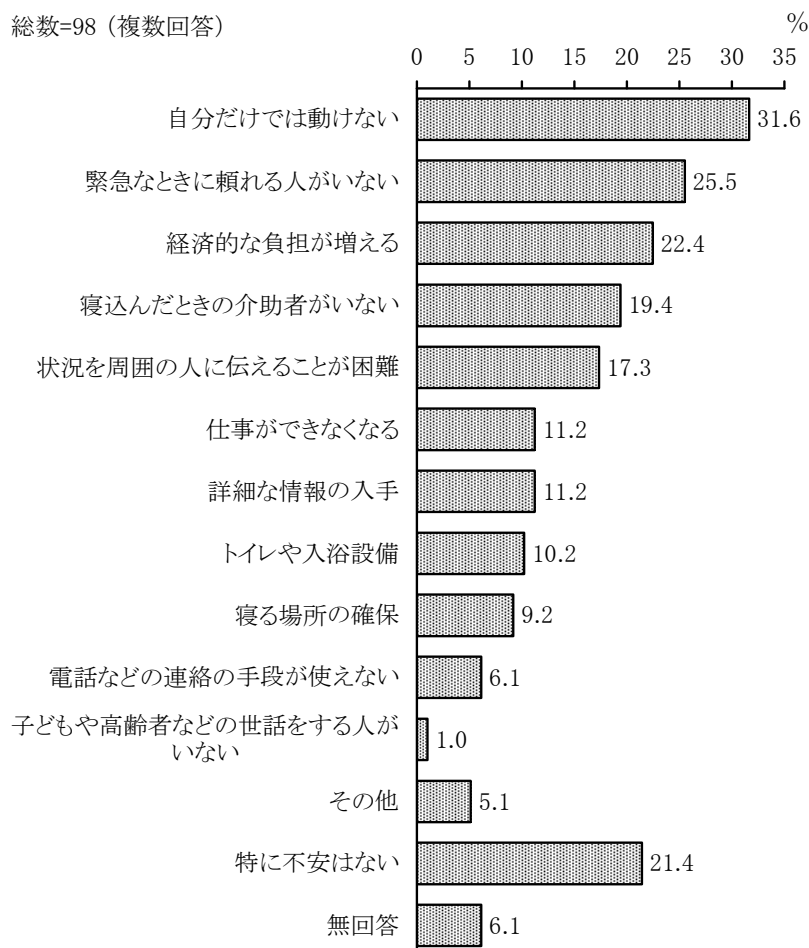
12 災害・緊急時の対応について

（1）緊急な病状になったときに不安なこと

問 40 もし、あなたが緊急な病状になったことを考えると、特に不安に感じることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

図表Ⅲ- 69 緊急な病状になったときに不安なこと

総数=98（複数回答）



緊急な病状になったときに不安なこととしては、「自分だけでは動けない」が31.6%で最も多く、「緊急なときに頼れる人がいない」が25.5%、「経済的な負担が増える」が22.4%、「寝込んだときの介助者がいない」が19.4%で続きます。

「特に不安はない」は21.4%となっています。

男女別に見ると、「詳細な情報の入手」という回答は、男性が女性をほぼ 12 ポイント上回っているのに対し、「電話などの連絡の手段が使えない」「緊急なときに頼れる人がいない」という回答は、女性が男性を 10 ポイント上回っています。

年代別に見ると、49 歳以下では「経済的な負担が増える」(31.4%) が最も多く、50 歳以上を 20 ポイント上回っています。また、49 歳以下では「仕事ができなくなる」という回答が 50 歳以上を 15 ポイント上回っています。

図表Ⅲ- 70 緊急な病状になったときに不安なこと【男女別、年代別】

		全体	自分だけでは動けない	状況を周囲の人に伝えることが困難	電話などの連絡の手段が使えない	緊急なときに頼れる人がいない	経済的な負担が増える	寝込んだときの介助者がいない	仕事ができなくなる	世話をする人がいない	子どもや高齢者などの寝る場所の確保	トイレや入浴設備	詳細な情報の入手
全体		98 100.0	31 31.6	17 17.3	6 6.1	25 25.5	22 22.4	19 19.4	11 11.2	1 1.0	9 9.2	10 10.2	11 11.2
男女別	男性	54 100.0	17 31.5	8 14.8	1 1.9	11 20.4	12 22.2	9 16.7	6 11.1	1 1.9	4 7.4	5 9.3	9 16.7
	女性	42 100.0	13 31.0	9 21.4	5 11.9	13 31.0	9 21.4	10 23.8	4 9.5	-	5 11.9	5 11.9	2 4.8
	無回答	2 100.0	1 50.0	-	-	1 50.0	1 50.0	-	1 50.0	-	-	-	-
年代別	49歳以下	51 100.0	14 27.5	8 15.7	4 7.8	14 27.5	16 31.4	8 15.7	9 17.6	1 2.0	4 7.8	5 9.8	7 13.7
	50歳以上	45 100.0	16 35.6	9 20.0	2 4.4	10 22.2	5 11.1	11 24.4	1 2.2	-	5 11.1	5 11.1	4 8.9
	無回答	2 100.0	1 50.0	-	-	1 50.0	1 50.0	-	1 50.0	-	-	-	-

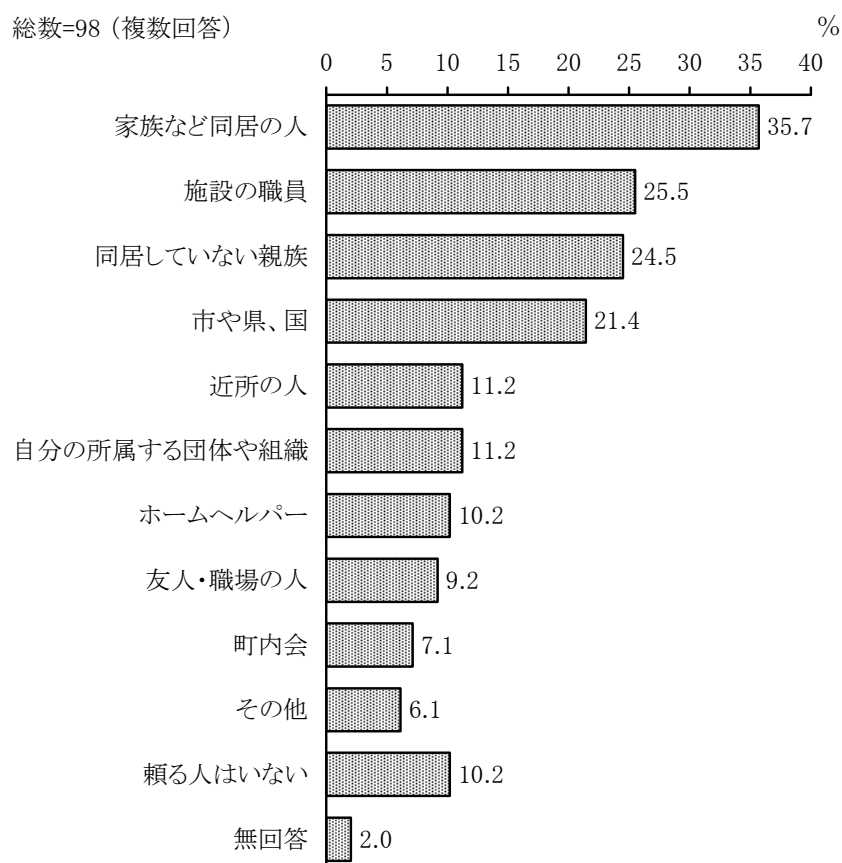
		その他	特に不安はない	無回答
全体		5 5.1	21 21.4	6 6.1
男女別	男性	4 7.4	11 20.4	3 5.6
	女性	1 2.4	10 23.8	3 7.1
	無回答	-	-	-
年代別	49歳以下	4 7.8	11 21.6	2 3.9
	50歳以上	1 2.2	10 22.2	4 8.9
	無回答	-	-	-

(2) 地震や火災等のときに頼りにする人

問 41 あなたは、地震や火災などが起きたら、どなたを頼りにしたいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

「家族など同居の人」が 35.7%で最も多く、「施設の職員」が 25.5%、「同居していない親族」が 24.5%、「市や県、国」が 21.4%で続きます。

図表Ⅲ- 71 地震や火災等のときに頼りにする人

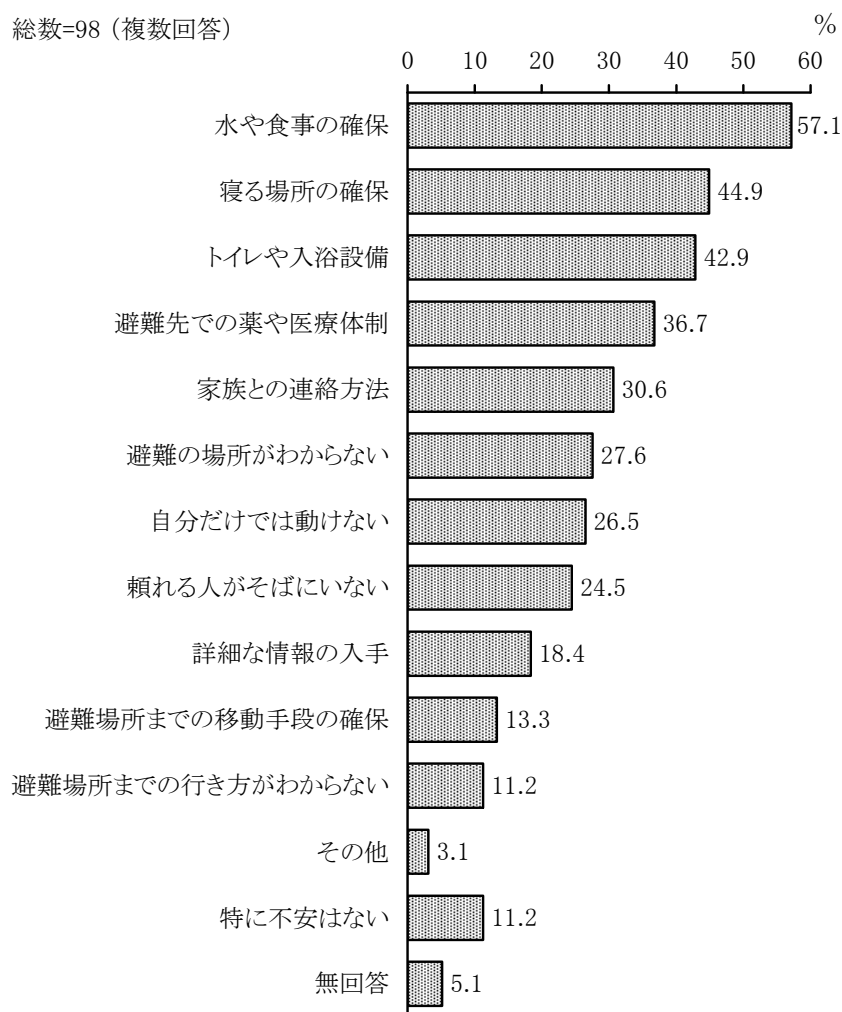


（3）緊急に避難する場合に不安なこと

問 42 地震や火事、台風などのために、緊急に避難しなければならなくなったことを考えると、あなたが不安に感じることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「水や食事の確保」が 57.1%で最も多く、「寝る場所の確保」が 44.9%、「トイレや入浴設備」が 42.9%、「避難先での薬や医療体制」が 36.7%で続きます。

図表Ⅲ- 72 緊急に避難する場合に不安なこと



男女別に見ると、すべての項目で女性の割合が男性を上回っており、特に「自分だけでは動けない」「頼れる人がそばにいない」「家族との連絡方法」「トイレや入浴設備」ではその差が10ポイント以上と大きくなっています。

年代別に見ると、「トイレや入浴設備」という回答は49歳以下が50歳以上を9ポイント、「自分だけでは動けない」「頼れる人がそばにいない」という回答は50歳以上が49歳以下を10ポイント以上上回っており、これ以外の項目に比べて年代による差が大きくなっています。

図表Ⅲ-73 緊急に避難する場合に不安なこと【男女別、年代別】

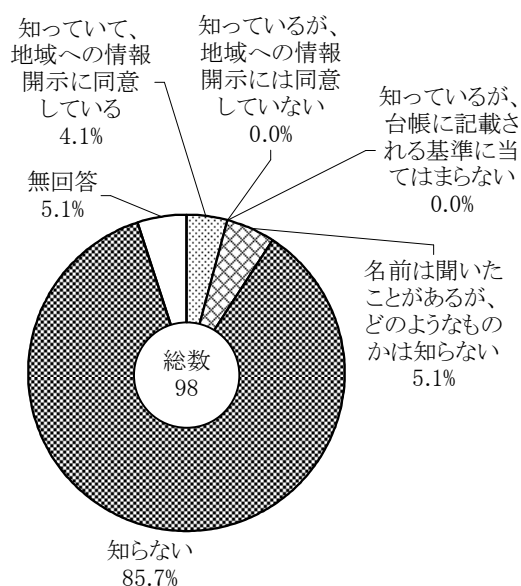
		全体	自分だけでは動けない	頼れる人がそばにいない	避難の場所がわからない	避難場所までの行き方がわからない	避難場所までの移動手段の確保	避難先での薬や医療体制	家族との連絡方法	水や食事の確保	寝る場所の確保	トイレや入浴設備	詳細な情報の入手	その他	特に不安はない	無回答
全体		98 100.0	26 26.5	24 24.5	27 27.6	11 11.2	13 13.3	36 36.7	30 30.6	56 57.1	44 44.9	42 42.9	18 18.4	3 3.1	11 11.2	5 5.1
男女別	男性	54 100.0	12 22.2	9 16.7	15 27.8	4 7.4	6 11.1	19 35.2	11 20.4	29 53.7	24 44.4	20 37.0	8 14.8	2 3.7	9 16.7	4 7.4
	女性	42 100.0	14 33.3	15 35.7	12 28.6	7 16.7	6 14.3	16 38.1	19 45.2	25 59.5	19 45.2	21 50.0	9 21.4	1 2.4	2 4.8	1 2.4
	無回答	2 100.0	-	-	-	-	1 50.0	1 50.0	-	2 100.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	-	-	-
年代別	49歳以下	51 100.0	11 21.6	9 17.6	15 29.4	6 11.8	5 9.8	20 39.2	19 37.3	28 54.9	21 41.2	24 47.1	8 15.7	3 5.9	6 11.8	2 3.9
	50歳以上	45 100.0	15 33.3	15 33.3	12 26.7	5 11.1	7 15.6	15 33.3	11 24.4	26 57.8	22 48.9	17 37.8	9 20.0	-	5 11.1	3 6.7
	無回答	2 100.0	-	-	-	-	1 50.0	1 50.0	-	2 100.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	-	-	-

(4)「災害時要援護者台帳」の認知状況

問43 あなたは、災害時要援護者台帳を知っていますか。(どれか1つに○)

図表Ⅲ-74 「災害時要援護者台帳」の認知状況

「知らない」が85.7%で最も多く、「名前は聞いたことがあるが、どのようなものかは知らない」が5.1%であり、全体の90.8%が災害時要援護者台帳の内容を認識していません。「要援護者台帳を知っていて、地域への情報開示に同意している」は4.1%となっています。



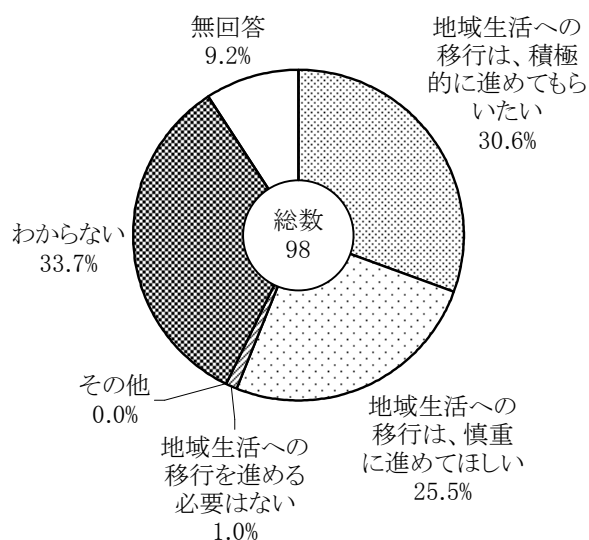
13 障害者総合支援法について

(1) 入所者・入院者の地域生活移行への考え方

問 44 市では、「第3期船橋市障害福祉計画」に基づき、現在、福祉施設に入所または病院に入院している障害者で退所・退院が可能な人について、地域生活への移行を支援しています。このことについて、あなたはどのように思いますか。(どれか1つに○)

図表Ⅲ- 75 入所者・入院者の地域生活移行への考え方

「地域生活への移行は、積極的に進めてもらいたい」が 30.6%、「地域生活への移行は、慎重に進めてほしい」が 25.5%となっています。「わからない」は 33.7%です。

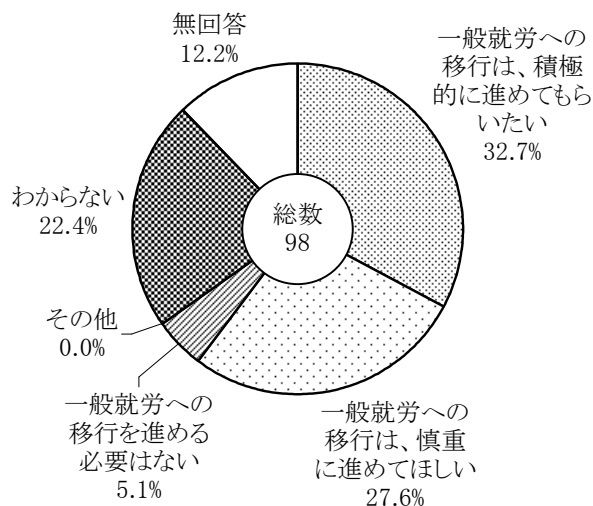


(2) 福祉的就労から一般就労への移行への考え方

問 45 現在、福祉的就労（障害者の作業所などでの就労）をしている障害者のうち、訓練により一般就労（企業等への就労、在宅での就労）が可能となる人について、市では一般就労への移行を支援しています。このことについて、あなたはどのように思いますか。(どれか1つに○)

図表Ⅲ- 76 福祉的就労から一般就労への移行への考え方

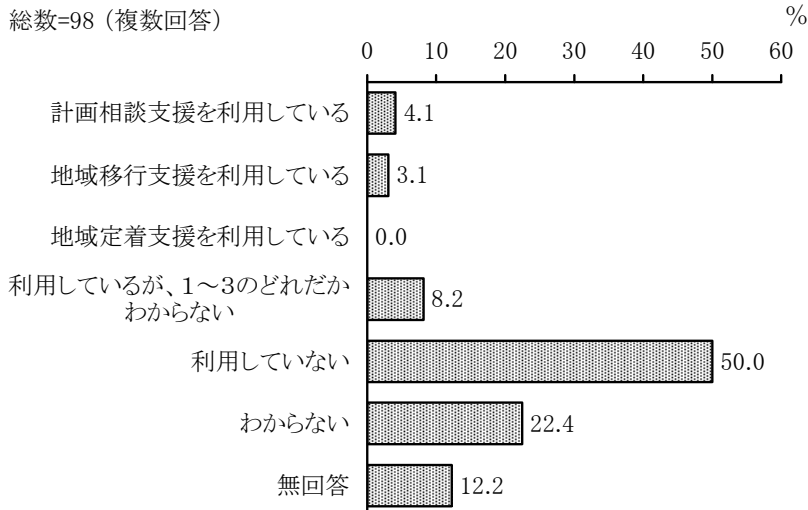
「一般就労への移行は、積極的に進めてもらいたい」が 32.7%、「一般就労への移行は、慎重に進めてほしい」が 27.6%、「一般就労への移行を進める必要はない」が 5.1%となっています。「わからない」は 22.4%です。



(3) 相談支援事業の利用状況

問 46 あなたは、次のような相談支援事業を利用していますか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅲ- 77 相談支援事業の利用状況



利用している相談支援事業としては、「利用しているが、1～3※のどれかわからない」が8.2%、「計画相談支援を利用している」が4.1%、「地域移行支援を利用している」が3.1%となっています。

「利用していない」は50.0%、「わからない」は22.4%です。

※1～3：1. 計画相談支援を利用している
2. 地域移行支援を利用している
3. 地域定着支援を利用している

(4) 相談支援事業の満足度

問 46-1 【問 46 で 1～4※を選んだ方にうかがいます。】あなたは、相談支援事業に満足していますか。(どれか1つに○)

相談支援事業を利用している回答者は15人であり、「満足している」が7人(46.7%)、「やや満足している」が1人(6.7%)と、8人(53.4%)が相談支援事業に満足しています。「普通」は7人(46.7%)となっています。

図表Ⅲ- 78 相談支援事業の満足度

全体	満足している	やや満足している	普通	満足していない	無回答
15 100.0	7 46.7	1 6.7	7 46.7	-	-

※1～4：1. 計画相談支援を利用している、2. 地域移行支援を利用している、3. 地域定着支援を利用している、4. 利用しているが、1～3のどれかわからない

(5) 相談支援事業の不満理由

問 46-2 【問 46-1 で 4※を選んだ方にうかがいます。】あなたが満足していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

該当する回答者はいませんでした。

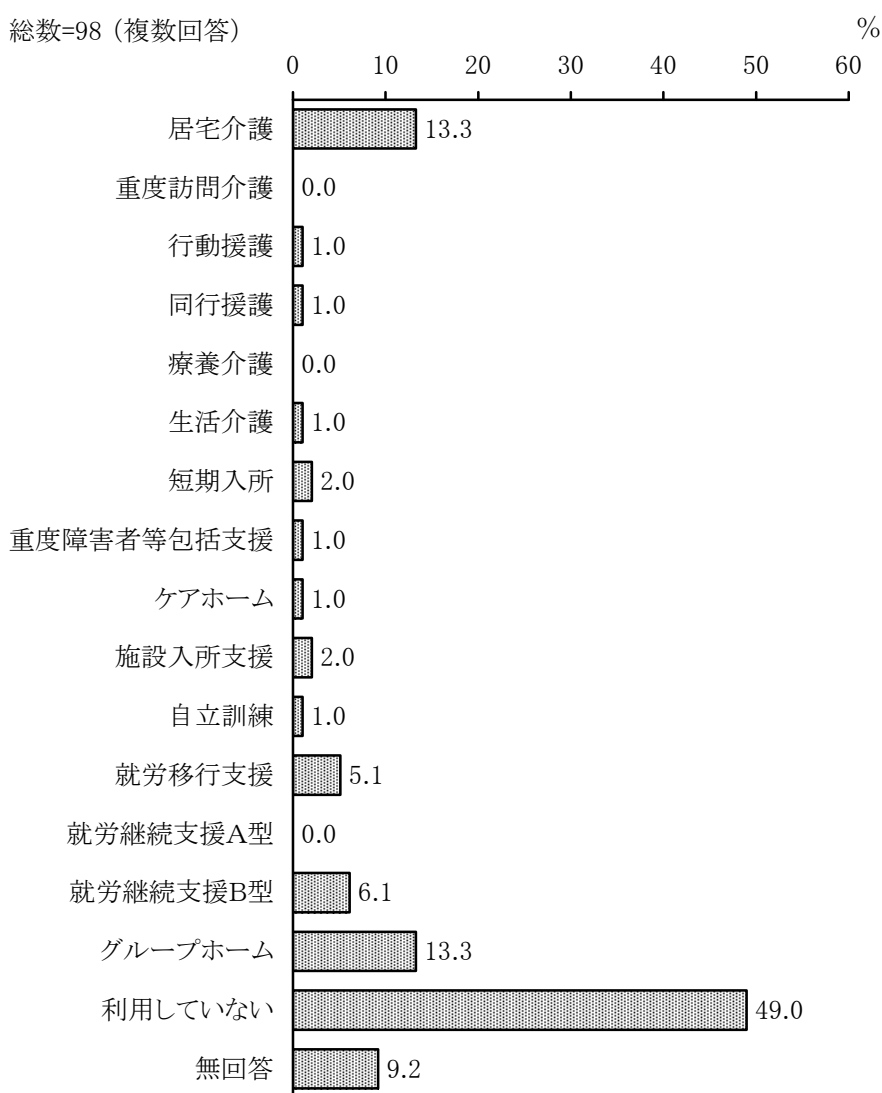
※4：「満足していない」

（6）障害福祉サービスの利用状況

問 47 あなたは、どのような障害福祉サービスを利用していますか。（あてはまるものすべてに○）

利用しているサービスとしては、「居宅介護」「グループホーム」がそれぞれ 13.3% で最も多く、「就労継続支援B型」が 6.1%、「就労移行支援」が 5.1%、「短期入所」「施設入所支援」がそれぞれ 2.0%で続きます。
「利用していない」は 49.0%となっています。

図表Ⅲ- 79 障害福祉サービスの利用状況

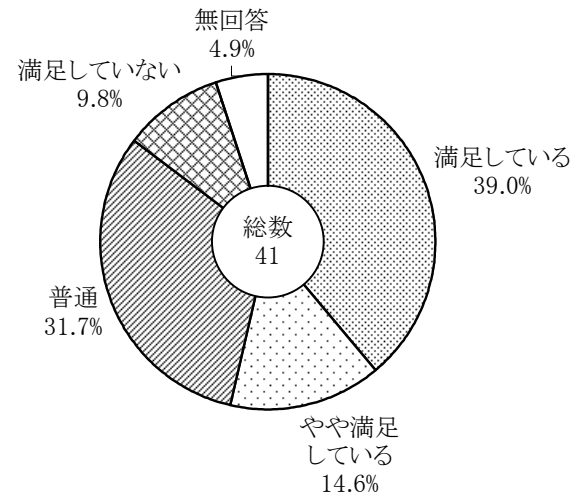


(7) 障害福祉サービスの満足度

問 47-1 【問 47 で 1～15*を選んだ方にうかがいます。】あなたは、利用しているサービスに満足していますか。(どれか1つに○)

図表Ⅲ- 80 障害福祉サービスの満足度

「満足している」が 39.0%で最も多く、「やや満足している」が 14.6%であり、全体の 53.6%がサービスに満足しています。「普通」は 31.7%、「満足していない」は 9.8%となっています。



※1～15：「居宅介護（ホームヘルプ）」「重度訪問介護」「行動援護」「同行援護」「療養介護」「生活介護」「短期入所（ショートステイ）」「重度障害者等包括支援」「ケアホーム（共同生活介護）」「施設入所支援」「自立訓練」「就労移行支援」「就労継続支援A型」「就労継続支援B型」「グループホーム（共同生活援助）」

(8) 障害福祉サービスの不満理由

問 47-2 【問 47-1 で 4*を選んだ方にうかがいます。】あなたが満足していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

満足していないという回答者は4人であり、「サービス利用の手続きが面倒」「サービスの回数や日数が少ない」を選んだのがそれぞれ2人、「サービスの制度がわかりづらい」「サービスを利用したい日時の調整が大変」「サービスの内容が雑であったり、ニーズに合っていない」「サービスを提供する人の態度がよくない」「サービス利用に対する自己負担が大きい」を選んだのがそれぞれ1人です。

図表Ⅲ- 81 障害福祉サービスの不満理由

全体	サービスの制度がわかりづらい	サービス利用の手続きが面倒	サービスの回数や日数が少ない	サービスの1回当たりの時間が少ない	サービスの利用したい日時の調整が大変	サービスの内容が雑であったり、ニーズに合っていない	サービスを提供する人の態度がよくない	サービス利用に対する自己負担が大きい	その他	無回答
4 100.0	1 25.0	2 50.0	2 50.0	- -	1 25.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	- -	- -

※4：「満足していない」

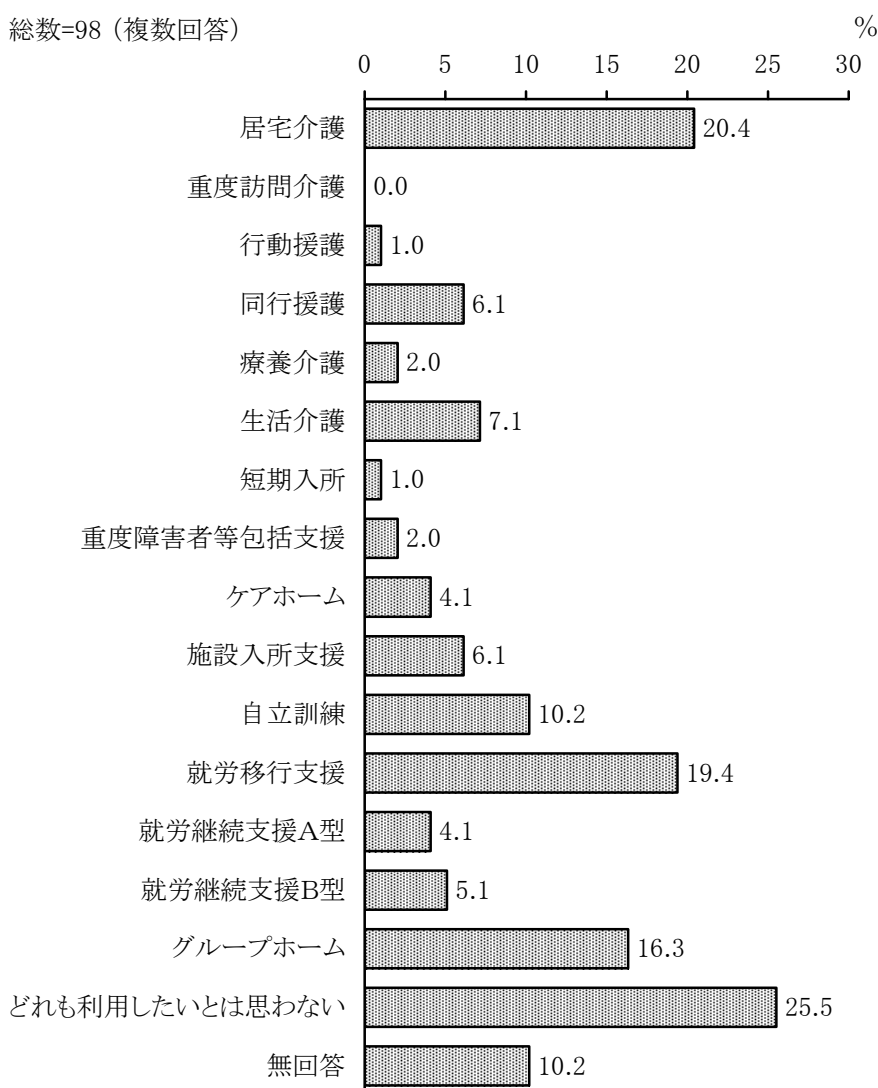
（9）障害福祉サービスの利用意向

問 48 今後、あなたが利用したいと思う障害福祉サービスは何ですか。現在利用している方もお答えください。（あてはまるものすべてに○）

今後、利用したいと思う障害福祉サービスとしては、「居宅介護」が 20.4%で最も多く、「就労移行支援」が 19.4%、「グループホーム」が 16.3%、「自立訓練」が 10.2%、で続きます。

「どれも利用したいとは思わない」は 25.5%となっています。

図表Ⅲ- 82 障害福祉サービスの利用意向



年代別に見ると、「就労移行支援」という回答は、50歳以上では1割未満（8.9%）であるのに対し、49歳以下では29.4%となっています。一方、「居宅介護」「グループホーム」という回答は、49歳以下では1割未満であるのに対し、50歳以上では3割前後と、年代による差が大きくなっています。

図表Ⅲ- 83 障害福祉サービスの利用意向【年代別】

		全体	居宅介護	重度訪問介護	行動援護	同行援護	療養介護	生活介護	短期入所	重度障害者等包括支援	ケアホーム	施設入所支援
全体		98 100.0	20 20.4	- -	1 1.0	6 6.1	2 2.0	7 7.1	1 1.0	2 2.0	4 4.1	6 6.1
年代別	49歳以下	51 100.0	5 9.8	- -	- -	2 3.9	1 2.0	3 5.9	1 2.0	1 2.0	4 7.8	3 5.9
	50歳以上	45 100.0	14 31.1	- -	1 2.2	4 8.9	1 2.2	4 8.9	- -	1 2.2	- -	3 6.7
	無回答	2 100.0	1 50.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -

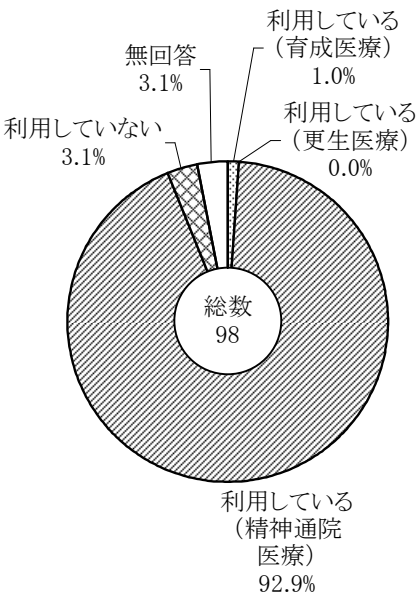
		自立訓練	就労移行支援	就労継続支援A型	就労継続支援B型	グループホーム	どれも利用 したいとは思 わない	無回答
全体		10 10.2	19 19.4	4 4.1	5 5.1	16 16.3	25 25.5	10 10.2
年代別	49歳以下	6 11.8	15 29.4	2 3.9	5 9.8	4 7.8	16 31.4	4 7.8
	50歳以上	3 6.7	4 8.9	2 4.4	- -	12 26.7	9 20.0	6 13.3
	無回答	1 50.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -

(10) 自立支援医療の利用状況

問 49 あなたは、「自立支援医療」を利用していますか。（どれか1つに○）

図表Ⅲ- 84 自立支援医療の利用状況

「利用している（精神通院医療）」が92.9%、「利用している（育成医療）」が1.0%、「利用していない」が3.1%となっています。

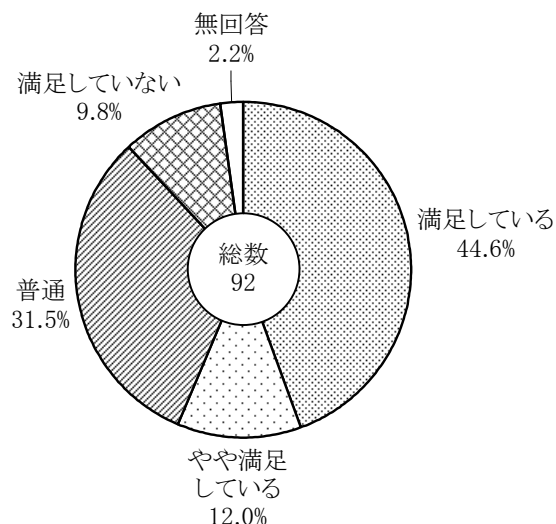


(11) 自立支援医療の満足度

問 49-1 【問 49 で 1～3*を選んだ方にうかがいます。】あなたは、自立支援医療に満足していますか。（どれか1つに○）

図表Ⅲ- 85 自立支援医療の満足度

「満足している」が44.6%で最も多く、「やや満足している」が12.0%であり、全体の56.6%が自立支援医療に満足しています。「普通」は31.5%、「満足していない」は9.8%となっています。



※1～3：「利用している（育成医療）」「利用している（更生医療）」「利用している（精神通院医療）」

(12) 自立支援医療の不満理由

問 49-2 【問 49-1 で 4*を選んだ方にうかがいます。】あなたが満足していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

満足していないという回答者は9人であり、「医療費の自己負担が大きい」を選んだのが6人、「自立支援医療の制度がわかりづらい」を選んだのが3人、「自立支援医療の制度が使いづらい」を選んだのが2人です。

図表Ⅲ- 86 自立支援医療の不満理由

全体	自立支援医療の制度がわかりづらい	自立支援医療の制度が使いづらい	医療費の自己負担が大きい	その他	無回答
9	3	2	6	3	-
100.0	33.3	22.2	66.7	33.3	-

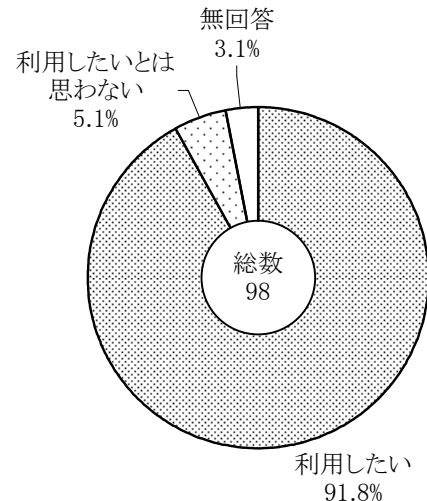
※4：「満足していない」

(13) 自立支援医療の利用意向

問 50 今後、あなたは「自立支援医療」を利用したいと思いますか。現在利用している方もお答えください。（どれか1つに○）

図表Ⅲ- 87 自立支援医療の利用意向

「利用したい」が 91.8%、「利用したいとは思わない」が 5.1%となっています。



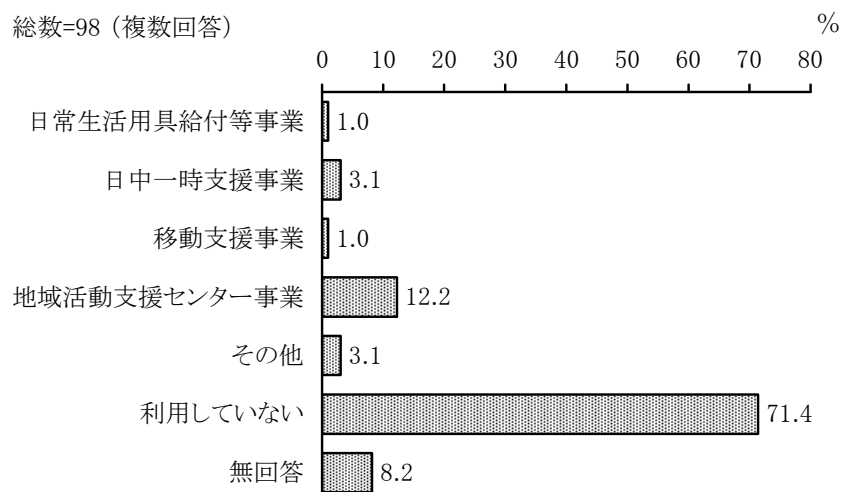
(14) 地域生活支援事業の利用状況

問 51 あなたは、船橋市が実施している地域生活支援事業のうち、どのようなものを利用していますか。（あてはまるものすべてに○）

利用している地域生活支援事業としては、「地域活動支援センター事業」が 12.2%で最も多く、「日中一時支援事業」が 3.1%、「日常生活用具給付等事業」「移動支援事業」がそれぞれ 1.0%となっています。

「利用していない」は 71.4%です。

図表Ⅲ- 88 地域生活支援事業の利用状況



(15) 地域生活支援事業の満足度

問51-1 【問51で1～5*を選んだ方にうかがいます。】あなたは、利用している主な事業に満足していますか。（どれか1つに○）

地域生活支援事業を利用している回答者は20人であり、「満足している」を選んだのが8人（40.0%）、「やや満足している」を選んだのが1人（5.0%）と、9人（45.0%）が地域生活支援事業に満足しています。「普通」は9人（45.0%）、「満足していない」は2人（10.0%）となっています。

図表Ⅲ- 89 地域生活支援事業の満足度

全体	満足している	やや満足している	普通	満足していない	無回答
20 100.0	8 40.0	1 5.0	9 45.0	2 10.0	- -

※1～5：「日常生活用具給付等事業」「日中一時支援事業」「移動支援事業」「地域活動支援センター事業」「その他」

(16) 地域生活支援事業の不満理由

問51-2 【問51-1で4*を選んだ方にうかがいます。】あなたが満足していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

地域生活支援事業に満足していないと回答したのは2人であり、「サービスの回数や日数が少ない」を選んでいきます。

図表Ⅲ- 90 地域生活支援事業の不満理由

全体	サービスの制度がわかりづらい	サービス利用の手続きが面倒	サービスの回数や日数が少ない	サービスの1回当たりの時間が少ない	サービスの調整が大変	サービスの利用したいあつたり、ニーズに合っていない	サービスの提供内容が雑	サービスの提供態様がよくない	サービス利用に対する自己負担が大きい	その他	無回答
2 100.0	- -	- -	2 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -

※4：「満足していない」

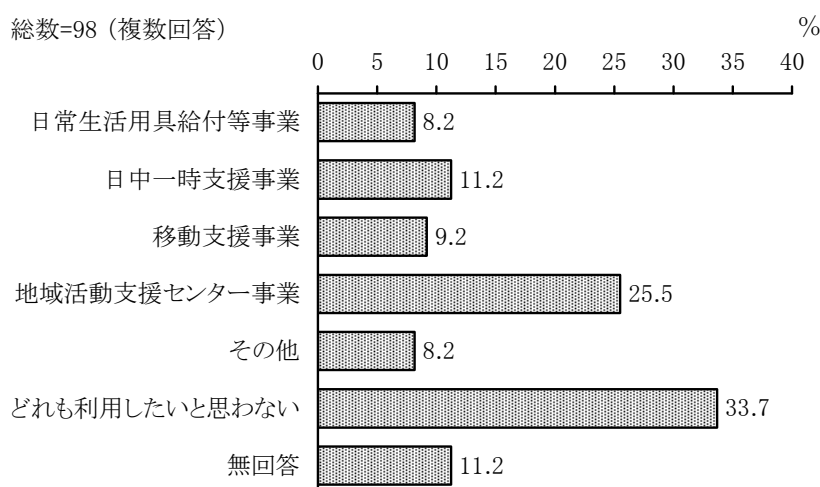
(17) 地域生活支援事業の利用意向

問 52 今後、あなたが利用したいと思う地域生活支援事業は何ですか。現在利用している方もお答えください。(あてはまるものすべてに○)

今後、利用したいと思う地域生活支援事業としては、「地域活動支援センター事業」が25.5%で最も多く、「日中一時支援事業」が11.2%、「移動支援事業」が9.2%、「日常生活用具給付等事業」が8.2%で続きます。

「どれも利用したいと思わない」は33.7%となっています。

図表Ⅲ- 91 地域生活支援事業の利用意向

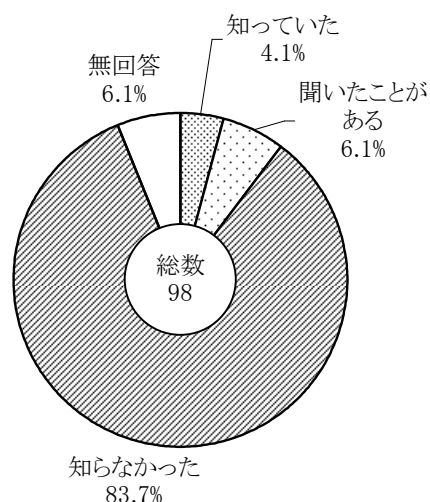


(18) 難病患者等の対象者追加の認知状況

問 53 平成 25 年度から、障害福祉サービス等の利用の対象者に難病患者等が追加されました。あなたは、対象者に難病患者等が追加されたことを知っていましたか。(どれか1つに○)

図表Ⅲ- 92 難病患者等の対象者追加の認知状況

「知っていた」が4.1%、「聞いたことがある」が6.1%であるのに対し、「知らなかった」が83.7%で多くなっています。



14 船橋市の障害者福祉について

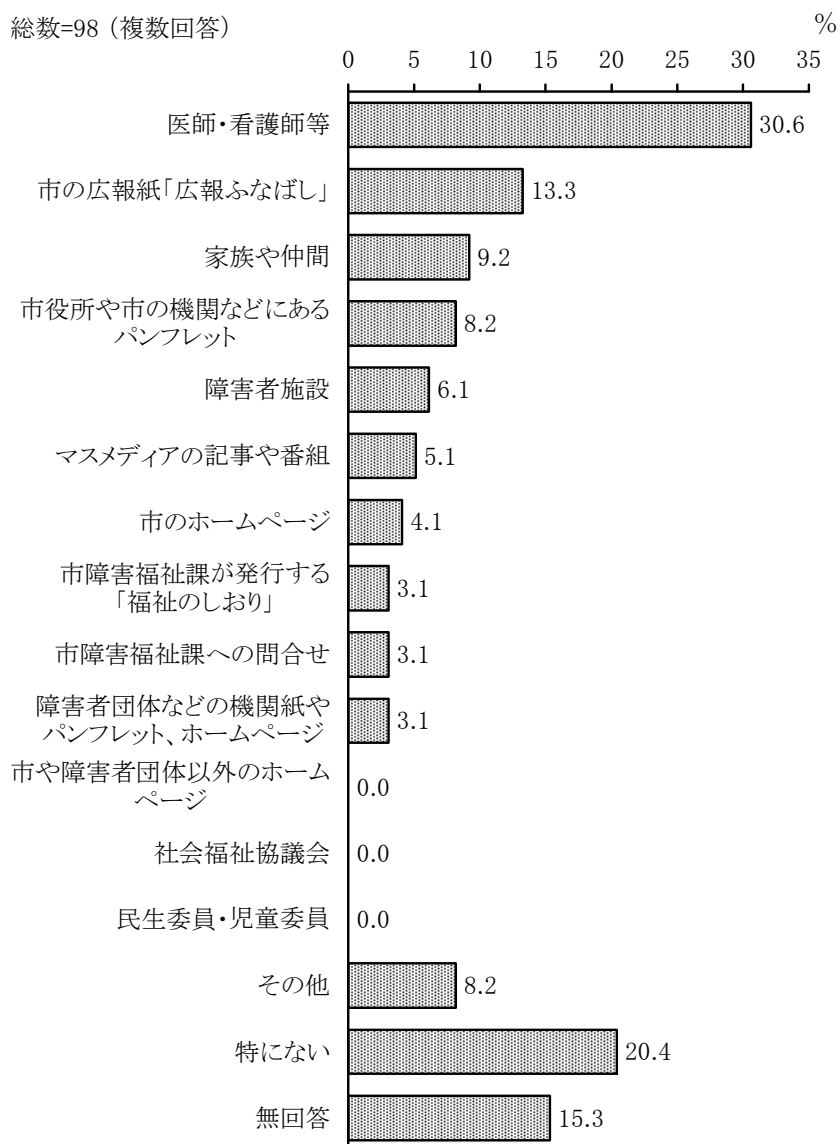
(1) 福祉サービス情報の入手方法

問 54 あなたは、障害のある人のための市の福祉サービスの内容について、どのよう
なところで知ることが多いですか。(主なものを2つまでに○)

福祉サービス情報の入手先としては、「医師・看護師等」が30.6%で最も多く、「市の
広報紙「広報ふなばし」」が13.3%、「家族や仲間」が9.2%、「市役所や市の機関な
どにあるパンフレット」が8.2%で続きます。

「特にない」は20.4%となっています。

図表Ⅲ- 93 福祉サービス情報の入手方法

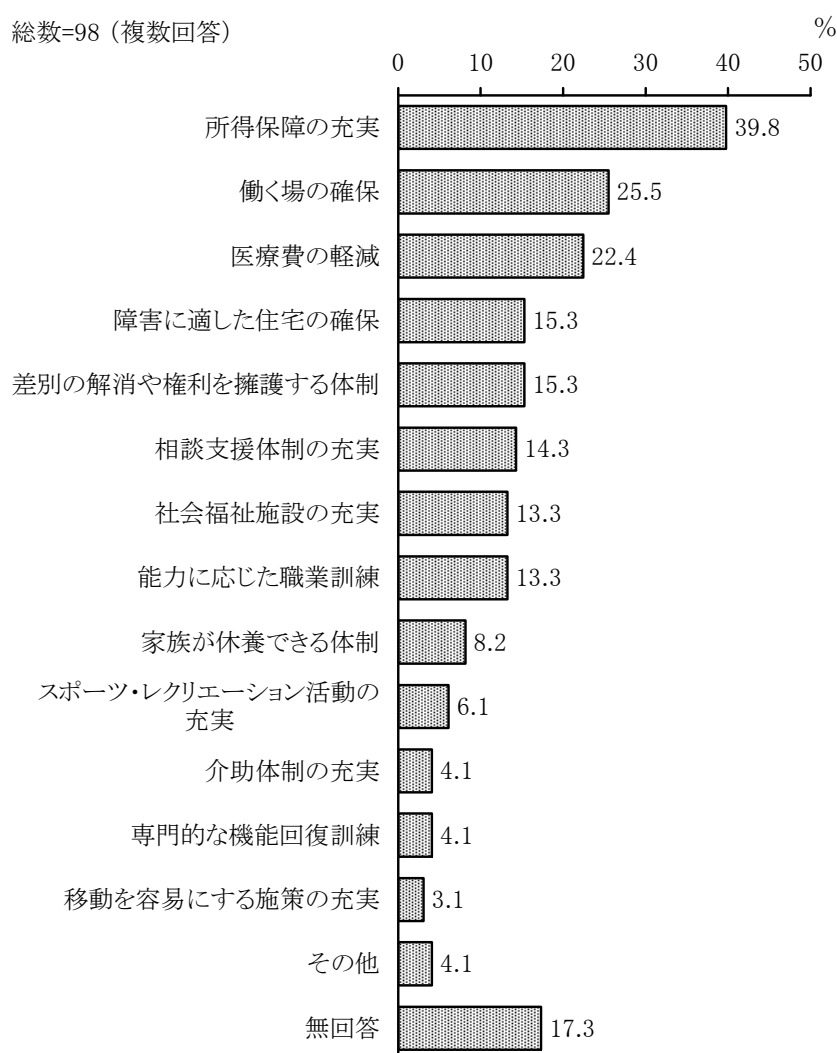


(2) 今後必要だと思う福祉施策

問55 あなたが今後、必要だと思う障害者福祉施策は何ですか。(主なものを3つまでに○)

「所得保障の充実」が39.8%で最も多く、「働く場の確保」が25.5%、「医療費の軽減」が22.4%、「障害に適した住宅の確保」「差別の解消や権利を擁護する体制」がそれぞれ15.3%で続きます。

図表Ⅲ- 94 今後必要だと思う福祉施策



年代別に見ると、「医療費の軽減」「働く場の確保」という回答は、49歳以下が50歳以上を上回っており、特に「働く場の確保」ではその差が32ポイントとなっています。一方、「社会福祉施設の充実」「相談支援体制の充実」という回答は、50歳以上が49歳以下を12ポイント以上上回っています。

図表Ⅲ- 95 今後必要だと思う福祉施策【年代別】

		全体	所得保障の充実	医療費の軽減	社会福祉施設の充実	障害に適した住宅の確保	移動を容易にする施策の充実	介助体制の充実	相談支援体制の充実	専門的な機能回復訓練	能力に応じた職業訓練	働く場の確保
全体		98 100.0	39 39.8	22 22.4	13 13.3	15 15.3	3 3.1	4 4.1	14 14.3	4 4.1	13 13.3	25 25.5
年代別	49歳以下	51 100.0	21 41.2	15 29.4	4 7.8	7 13.7	1 2.0	－	4 7.8	1 2.0	8 15.7	21 41.2
	50歳以上	45 100.0	18 40.0	7 15.6	9 20.0	8 17.8	2 4.4	4 8.9	10 22.2	3 6.7	5 11.1	4 8.9
	無回答	2 100.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

		スポーツ・レクリエーション活動の充実	家族が休養できる体制	差別の解消や権利を擁護する体制	その他	無回答
全体		6 6.1	8 8.2	15 15.3	4 4.1	17 17.3
年代別	49歳以下	5 9.8	4 7.8	6 11.8	3 5.9	8 15.7
	50歳以上	1 2.2	3 6.7	8 17.8	1 2.2	8 17.8
	無回答	－	1 50.0	1 50.0	－	1 50.0

自由回答

問 56 船橋市の障害者福祉施策についてのご意見、ご希望、または困っていることなどを、自由にお書きください。

自由回答を記入した回答者は18人で、「生活支援・福祉サービス」に関する内容が7件、「雇用・就業」に関する内容が5件となっています。「その他」に分類されるものは7件です。

図表Ⅲ- 96 自由回答【テーマ別】

全体	啓発・広報	保健・医療	教育・育成	雇用・就業	福祉サービス	生活環境	スポーツ等	その他
18 100.0	2 11.1	- -	- -	5 27.8	7 38.9	- -	- -	7 38.9

※複数の分野にまたがる回答もあるため、各分野の割合を合計すると100%を超えます。

【主な意見】

※ここに掲載したものは回答の一部です。また、大意を変えずに一部を省略・要約している場合があります。

※回答者は本人ではなく、代理の人である場合もあります。

①啓発・広報

- ・障害者への偏見、差別が少なくなってくればよいと思います。(男性、44歳)
- ・障害者に対して、思いやり、協力、安心出来るようにしてもらいたい。(女性、51歳)

②保健・医療

回答なし。

③教育・育成

回答なし。

④雇用・就業

- ・先日ハローワークに伺って、精神障害者の就労状況について伺い、かなりの程度、精神障害者雇用が進んでおり、更に進められる方向とのこと、大変心強く、且つこの身引き締めていかなければならないと今後の就労継続にいつも前向きにありたい、と思っている。(女性、45歳)
- ・病状を理解してくれる職業訓練場や就労支援センターなどの相談窓口などを船橋市

が開設して頂けるとありがたいです。(男性、37歳)

- ・企業が障害者への就労場所の提供をお願いしたい(企業は利益を求める集団なので、そういうことは難しいかもしれないが)。(女性、45歳)

⑤生活支援、福祉サービス

- ・サービスを身体障害者と同様にして欲しい。(女性、37歳)
- ・障害者年金の現況届の提出(診断書)や受給者票、精神保健障害者による保健福祉手帳の更新など、市役所、フェイス、保健所などだけではなく、交通費の軽減や利便性のため船橋市の各出先機関(出張所、連絡所、公民館等々)等でも出来るようにして頂きたいです。(男性、45歳)
- ・障害者2級の私だって、人生をもっと楽しみたいのです。お願いだからもうほんの少し、施しをして頂けないでしょうか。後ほんのわずかでよいのです。(男性、52歳)

⑥生活環境

回答なし。

⑦スポーツ・レクリエーション等

回答なし。

⑧その他

- ・船橋市は充実していると聞いております。これからも更に利用しやすくなることを願っております。(女性、34歳)
- ・暮らしやすい世の中にして下さい。(女性、73歳)
- ・こういったアンケートも、また是非お願い致します。弱者の生の声を聞いて頂きたいです。(女性、40歳)

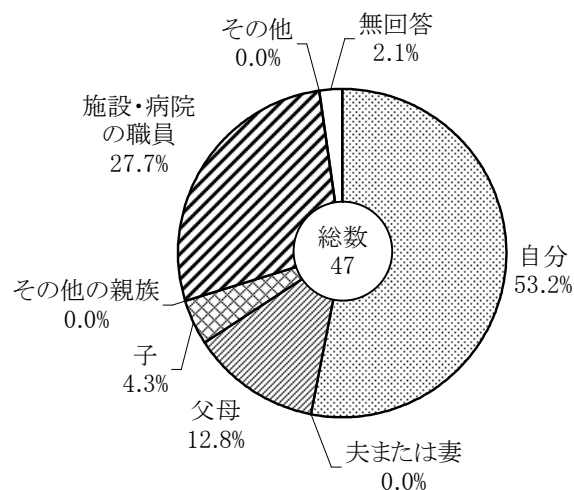
IV 施設入所者を対象とした調査結果

(1) アンケートの記入者

問1 このアンケートの記入者はどなたですか。あなたから見た続柄でお答えください。(どれか1つに○)

図表IV-1 アンケートの記入者

「自分」が 53.2%で最も多く、「施設・病院の職員」が 27.7%、「父母」が 12.8%で続きます。



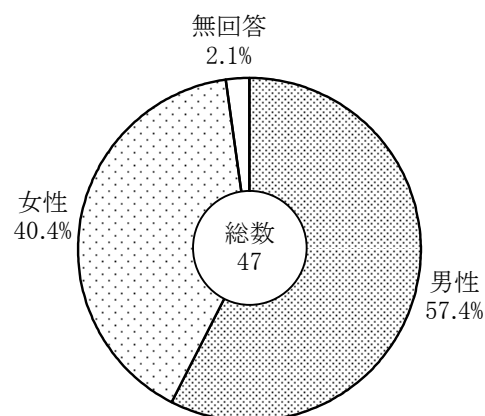
1 基本属性

(1) 性別

問2 あなたは、男性ですか、女性ですか。(どれか1つに○)

図表IV-2 性別

「男性」が 57.4%、「女性」が 40.4%となっています。



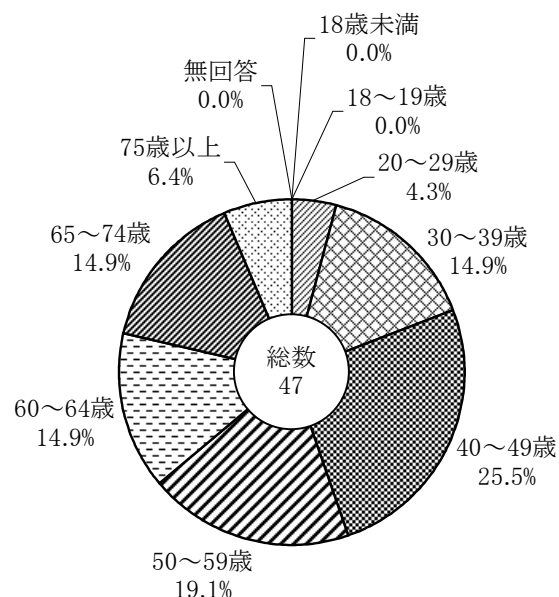
(2) 年齢

問3 あなたは、何歳ですか。平成25年1月1日現在の満年齢でお答えください。

「40～49歳」が25.5%で最も多く、
「50～59歳」が19.1%、「30～39歳」
「60～64歳」「65～74歳」がそれぞれ
14.9%で続きます。

平均年齢は、51.8歳となっています。

図表Ⅳ-3 年齢

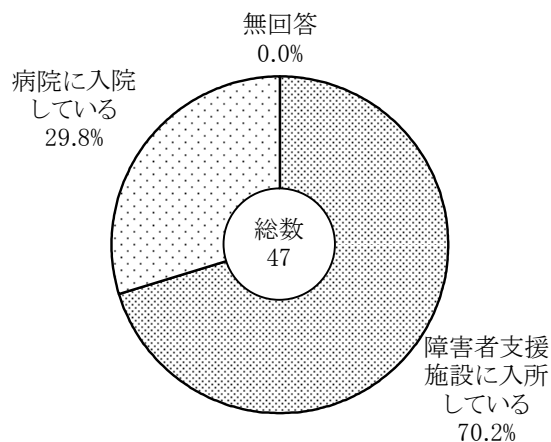


(3) 施設の種類

問4 あなたは、障害者支援施設に入所していますか、病院に入院していますか。(どれか1つに○)

「障害者支援施設に入所している」
が70.2%、「病院に入院している」が
29.8%となっています。

図表Ⅳ-4 施設の種類

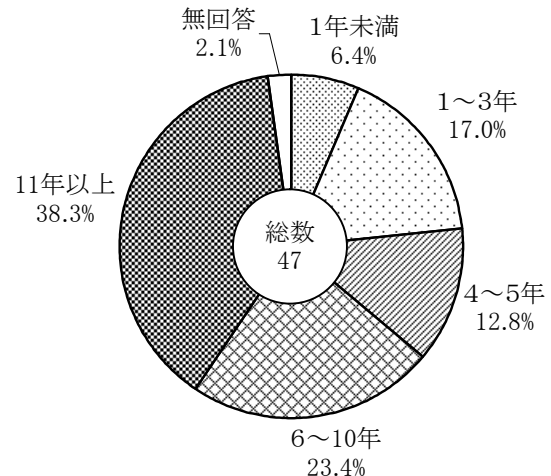


(4) 現在の施設での入所年数

問5 あなたは、この施設・病院に入所・入院して何年になりますか。() 内に数字を記入してください。※1年未満の方は0を記入してください。

図表IV-5 現在の施設での入所年数

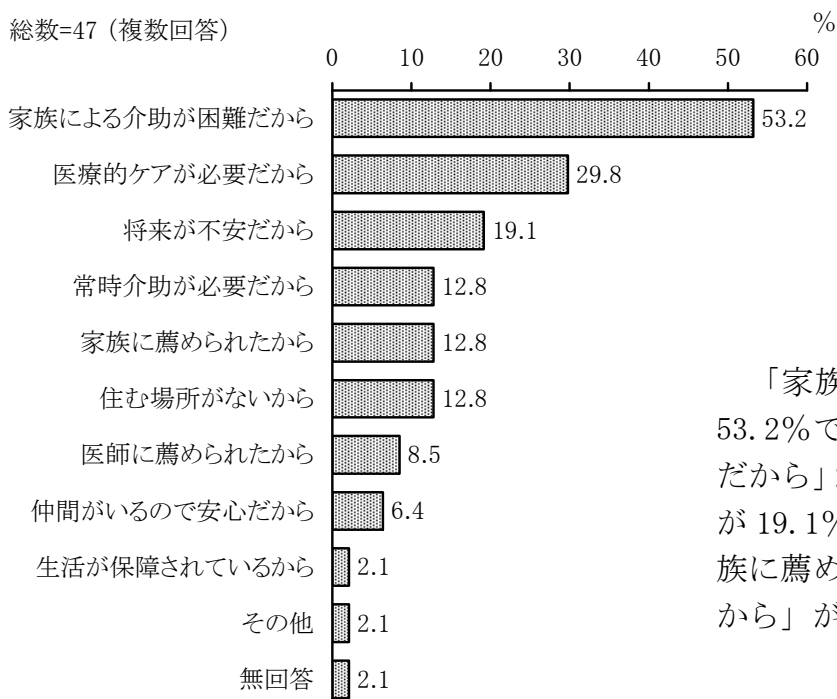
「11年以上」が38.3%で最も多く、「6～10年」が23.4%、「1～3年」が17.0%、「4～5年」が12.8%、「1年未満」が6.4%となっています。



(5) 現在の施設への入所理由

問5-1 あなたが、この施設・病院に入所・入院した理由は何ですか。(主なもの3つまでに○)

図表IV-6 現在の施設への入所理由



「家族による介助が困難だから」が53.2%で最も多く、「医療的ケアが必要だから」が29.8%、「将来が不安だから」が19.1%、「常時介助が必要だから」「家族に薦められたから」「住む場所がないから」がそれぞれ12.8%で続きます。

障害者支援施設に入所している回答者では「家族による介助が困難だから」が75.8%、「将来が不安だから」が27.3%となっています。病院に入院している回答者では「医療的ケアが必要だから」が71.4%、「医師に薦められたから」が28.6%となっています。

図表Ⅳ- 7 現在の施設への入所理由【施設の種類の別】

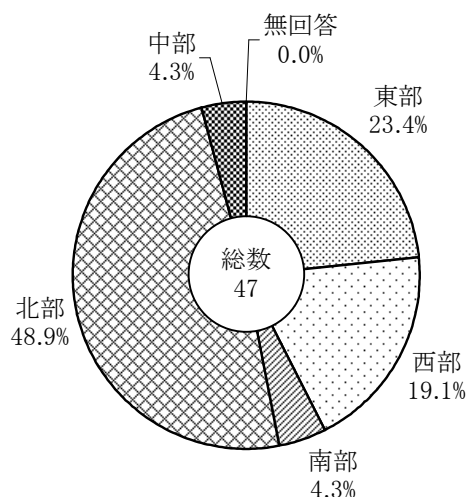
	全体	家族による介助が困難だから	常時介助が必要だから	医療的ケアが必要だから	家族に薦められたから	住む場所がないから	将来が不安だから	仲間がいて安心だから	生活が保障されているから	医師に薦められたから	その他	無回答
全体	47 100.0	25 53.2	6 12.8	14 29.8	6 12.8	6 12.8	9 19.1	3 6.4	1 2.1	4 8.5	1 2.1	1 2.1
障害者支援施設に入所している	33 100.0	25 75.8	6 18.2	4 12.1	5 15.2	4 12.1	9 27.3	3 9.1	-	-	1 3.0	1 3.0
病院に入院している	14 100.0	-	-	10 71.4	1 7.1	2 14.3	-	-	1 7.1	4 28.6	-	-

(6) 施設の所在地

問6 あなたが入所・入院している施設・病院のある地域は、どこですか。(どれか1つに○)

図表Ⅳ- 8 施設の所在地

「北部」が48.9%で最も多く、「東部」が23.4%、「西部」が19.1%、「南部」「中部」がそれぞれ4.3%となっています。



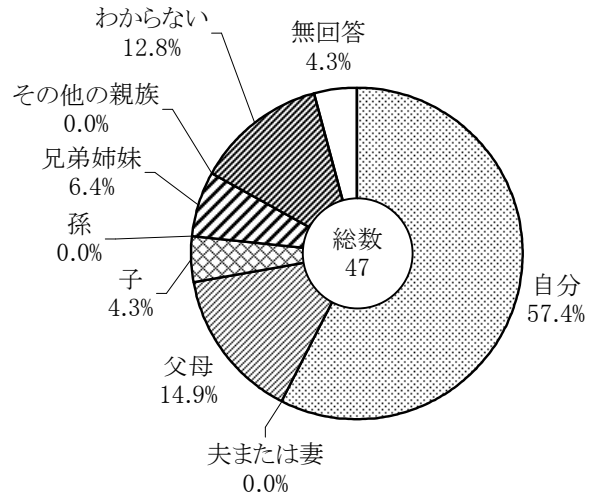
(7) 主な収入のある家族

問7 あなたまたはご家族の中で、主に生活のための収入を得ている方はどなたですか。(どれか1つに○)

「自分」が 57.4%で最も多く、「父母」が 14.9%、「兄弟姉妹」が 6.4%で続きます。

「わからない」は 12.8%となっています。

図表IV- 9 主な収入のある家族



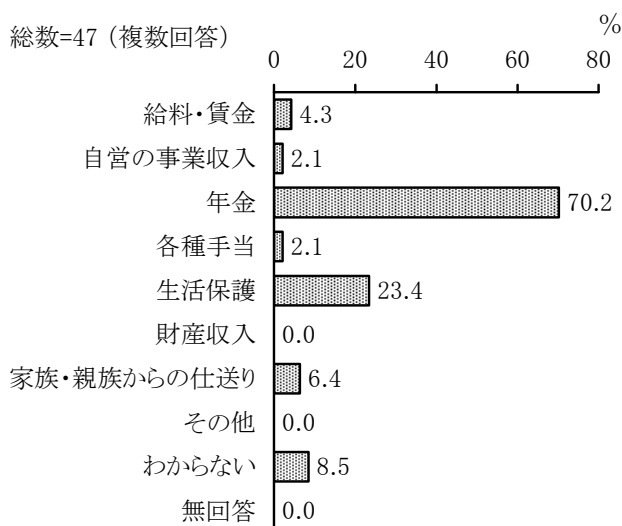
(8) 世帯収入の種類

問8 あなたの世帯収入の種類はどのようなものですか。(あてはまるものすべてに○、最も金額が大きいものには◎)

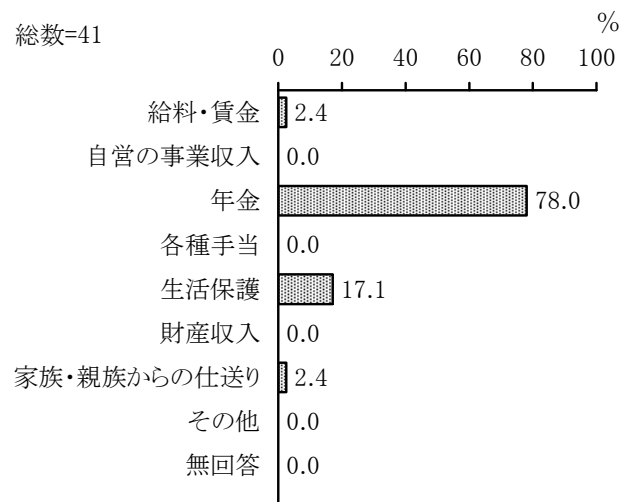
「年金」が 70.2%で最も多く、「生活保護」が 23.4%、「家族・親族からの仕送り」が 6.4%で続きます。「わからない」は 8.5%となっています。

最も金額が大きい収入について回答があった中では、「年金」が 78.0%で最も多く、「生活保護」が 17.1%、「給料・賃金」「家族・親族からの仕送り」がそれぞれ 2.4%となっています。

図表IV- 10 世帯収入の種類



図表IV- 11 世帯収入の種類【最も金額が大きい収入】



2 障害の状況について

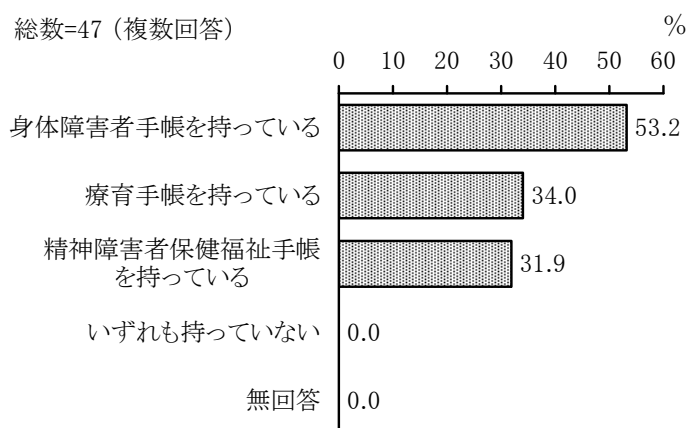
(1) 障害者手帳の所持状況

問9 あなたがお持ちの障害者手帳等の種類と等級についてうかがいます。あてはまる番号と等級（程度）に○をつけて、（ ）内に取得した年齢を記入してください。

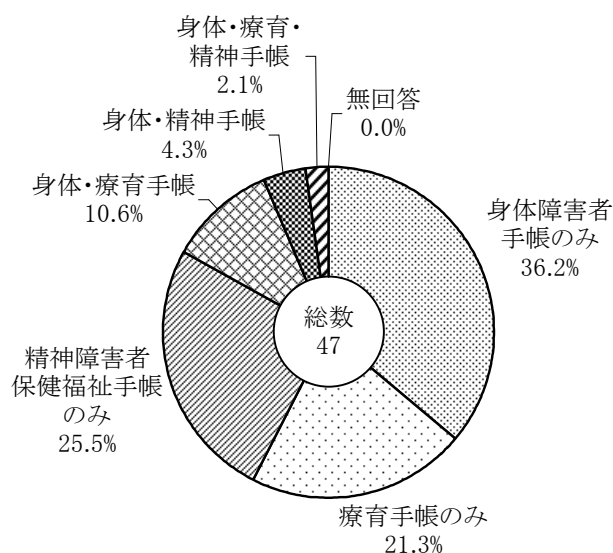
「身体障害者手帳を持っている」が 53.2%、「療育手帳を持っている」が 34.0%、「精神障害者保健福祉手帳を持っている」が 31.9%となっています。

所持している手帳の組み合わせを見ると、「身体障害者手帳のみ」が 36.2%で最も多く、「精神障害者保健福祉手帳のみ」が 25.5%、「療育手帳のみ」が 21.3%、「身体障害者手帳と療育手帳」が 10.6%で続いています。

図表Ⅳ- 12 障害者手帳の有無



図表Ⅳ- 13 所持している障害者手帳の組み合わせ



障害者支援施設に入所している回答者は、「身体障害者手帳を持っている」が72.7%、「療育手帳を持っている」が45.5%となっています。病院に入院している回答者では、92.9%が「精神障害者保健福祉手帳を持っている」を選んでいきます。

図表Ⅳ- 14 障害者手帳の有無【施設の種別別】

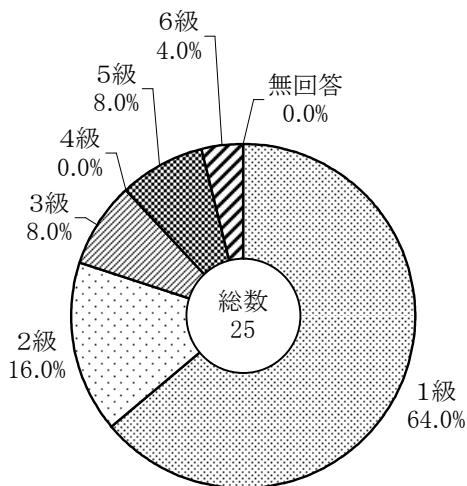
	全体	身体障害者手帳 を持っている	を療育手帳 持っている	を保健福祉 手帳持っている	精神障害者 手帳持っていない	持っていない	無回答
全体	47 100.0	25 53.2	16 34.0	15 31.9	-	-	-
障害者支援施設に 入所している	33 100.0	24 72.7	15 45.5	2 6.1	-	-	-
病院に入院している	14 100.0	1 7.1	1 7.1	13 92.9	-	-	-

【身体障害者手帳所持者の等級と取得年齢】

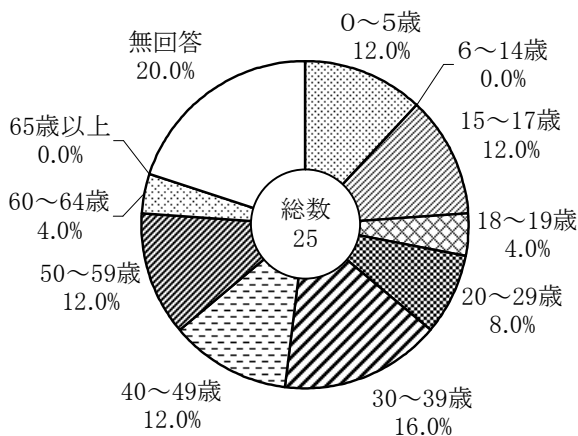
等級は、「1級」が64.0%で最も多く、「2級」が16.0%、「3級」「5級」がそれぞれ8.0%で続きます。

取得年齢は、「30～39歳」が16.0%で最も多く、「0～5歳」「15～17歳」「40～49歳」「50～59歳」がそれぞれ12.0%、「20～29歳」が8.0%で続きます。

図表Ⅳ-15 身体障害者手帳の等級



図表Ⅳ-16 身体障害者手帳の取得年齢



【療育手帳所持者の判定と取得年齢】

療育手帳を所持していると回答したのは16人で、判定は「Bの1」が5人(31.3%)で最も多く、「Bの2」が4人(25.0%)、「A」 「Aの1」がそれぞれ3人(18.8%)となっています。

取得年齢は、「15～17歳」が3人(18.8%)で最も多く、「0～5歳」が2人(12.5%)、「20～29歳」「30～39歳」「50～59歳」がそれぞれ1人(6.3%)となっています。

図表Ⅳ-17 療育手帳の判定

全体	A	Aの1	Aの2	Bの1	Bの2	無回答
16 100.0	3 18.8	3 18.8	-	5 31.3	4 25.0	1 6.3

図表Ⅳ-18 療育手帳の取得年齢

全体	0～5歳	6～14歳	15～17歳	18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～74歳	75歳以上	無回答
16 100.0	2 12.5	-	3 18.8	-	1 6.3	1 6.3	-	1 6.3	-	-	-	8 50.0

【精神障害者保健福祉手帳所持者の等級と取得年齢】

精神障害者保健福祉手帳を所持していると回答したのは15人で、等級は「1級」が5人（33.3%）、「2級」が10人（66.7%）となっています。

取得年齢は、「60～64歳」が3人（20.0%）で最も多く、「30～39歳」「40～49歳」がそれぞれ2人（13.3%）で続きます。

図表Ⅳ-19 精神障害者保健福祉手帳の等級

全体	1級	2級	3級	無回答
15 100.0	5 33.3	10 66.7	-	-

図表Ⅳ-20 精神障害者保健福祉手帳の取得年齢

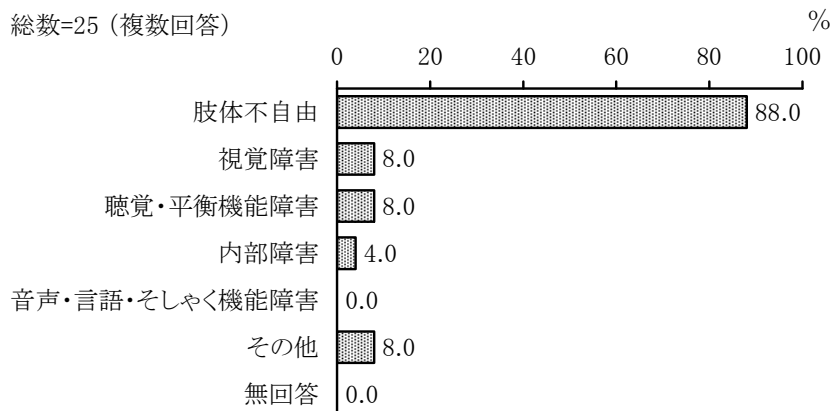
全体	0～5歳	6～14歳	15～17歳	18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	無回答
15 100.0	1 6.7	-	-	1 6.7	1 6.7	2 13.3	2 13.3	-	3 20.0	1 6.7	-	4 26.7

(2) 障害の種類（部位）

問9-1 【身体障害者手帳をお持ちの方にうかがいます。】障害の種類（部位）は、次のうちのどれですか。（あてはまるものすべてに○）

「肢体不自由」が88.0%で最も多く、「視覚障害」「聴覚・平衡機能障害」がそれぞれ8.0%、「内部障害」が4.0%となっています。

図表Ⅳ-21 障害の種類（部位）



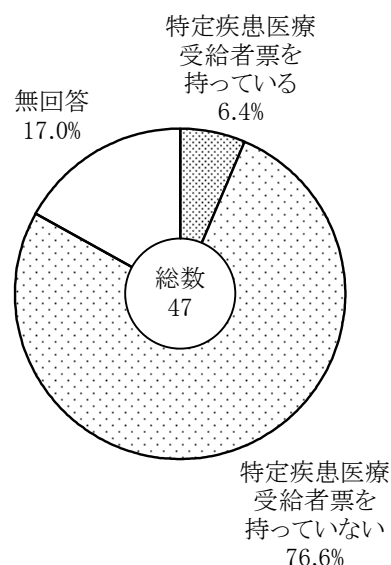
(3) 特定疾患医療受給者票の有無、取得年齢

問 10 あなたは、いわゆる難病のための特定疾患医療受給者票をお持ちですか。あてはまる番号1つに○をつけて、() 内に具体的に記入してください。

図表Ⅳ- 22 特定疾患医療受給者票の有無

「特定疾患医療受給者票を持っている」が6.4%、「特定疾患医療受給者票を持っていない」が76.6%となっています。

特定疾患医療受給者を持っていると回答したのは2人で、取得年齢は「40～49 歳」「60～64 歳」がそれぞれ1人です。



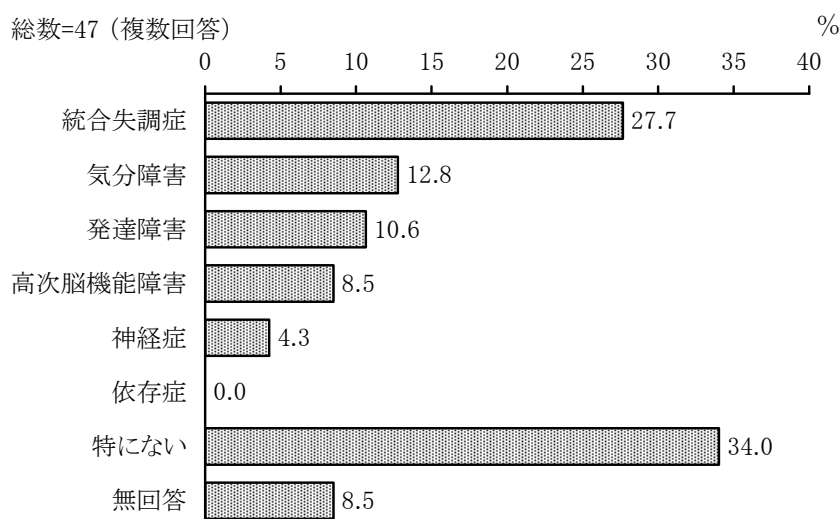
(4) 疾患・障害の有無

問 11 あなたには、次の疾患や障害がありますか。(あてはまるものすべてに○)

疾患や障害としては、「統合失調症」が27.7%で最も多く、「気分障害」が12.8%、「発達障害」が10.6%、「高次脳機能障害」が8.5%で続きます。

「特にない」は34.0%となっています。

図表Ⅳ- 23 疾患・障害の有無



障害者支援施設に入所している回答者の48.5%が「特にない」であり、病院に入院している回答者では「統合失調症」が78.6%を占めています。

図表Ⅳ- 24 疾患・障害の有無【施設の種別別】

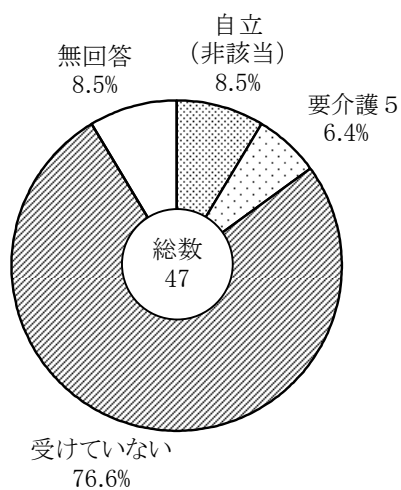
		全体	統合失調症	気分障害	神経症	依存症	発達障害	高次脳機能障害	特にない	無回答
全体		47 100.0	13 27.7	6 12.8	2 4.3	- -	5 10.6	4 8.5	16 34.0	4 8.5
施設の 種類	障害者支援施設に 入所している	33 100.0	2 6.1	4 12.1	1 3.0	- -	4 12.1	4 12.1	16 48.5	4 12.1
	病院に入院している	14 100.0	11 78.6	2 14.3	1 7.1	- -	1 7.1	- -	- -	- -

(5) 介護保険の要介護認定状況

問 12 あなたは、介護保険法に基づく要介護認定を受けていますか。(どれか1つに○)

図表Ⅳ- 25 介護保険の要介護認定状況

「自立（非該当）」が8.5%、「要介護5」が6.4%であり、「受けていない」は76.6%となっています。



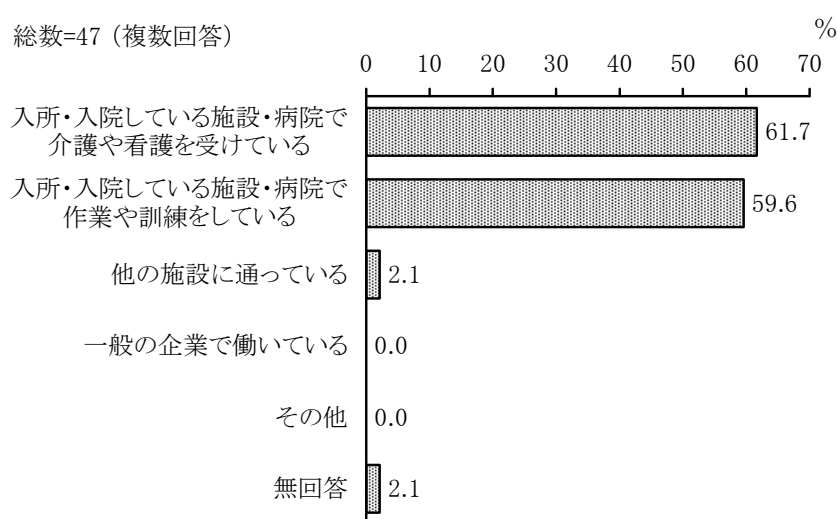
3 日常生活について

(1) 日中の過ごし方

問 13 あなたは、普段日中をどのように過ごしていますか。(あてはまるものすべてに○)

「入所・入院している施設・病院で介護や看護を受けている」が 61.7%で最も多く、「入所・入院している施設・病院で作業や訓練をしている」が 59.6%で続きます。

図表Ⅳ- 26 日中の過ごし方



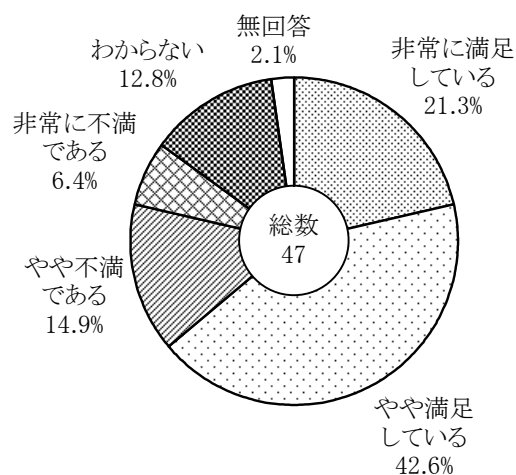
(2) 施設での生活の満足度

問 14 あなたは、現在の施設・病院での生活に満足していますか。(どれか1つに○)

図表Ⅳ- 27 施設での生活の満足度

「非常に満足している」が 21.3%、「やや満足している」が 42.6%であり、全体の 63.9%が現在の施設・病院での生活に満足しています。「やや不満である」は 14.9%、「非常に不満である」は 6.4%となっています。

「わからない」は 12.8%です。



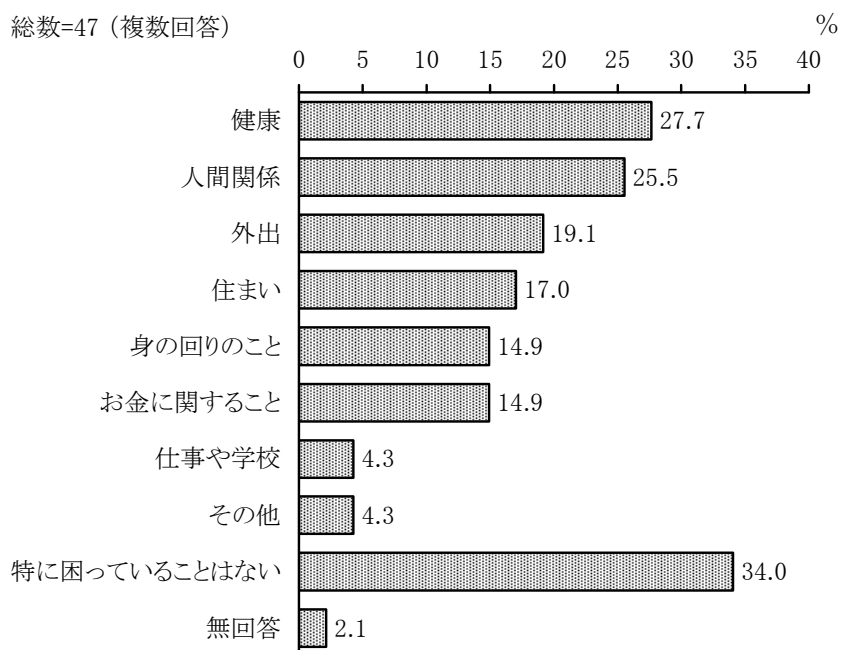
（3）日常生活で困っていること

問 15 あなたが日常生活で困っていることは、何ですか。（あてはまるものすべてに○）

日常生活で困っていることとしては、「健康」が27.7%で最も多く、「人間関係」が25.5%、「外出」が19.1%、「住まい」が17.0%で続きます。

「特に困っていることはない」は34.0%となっています。

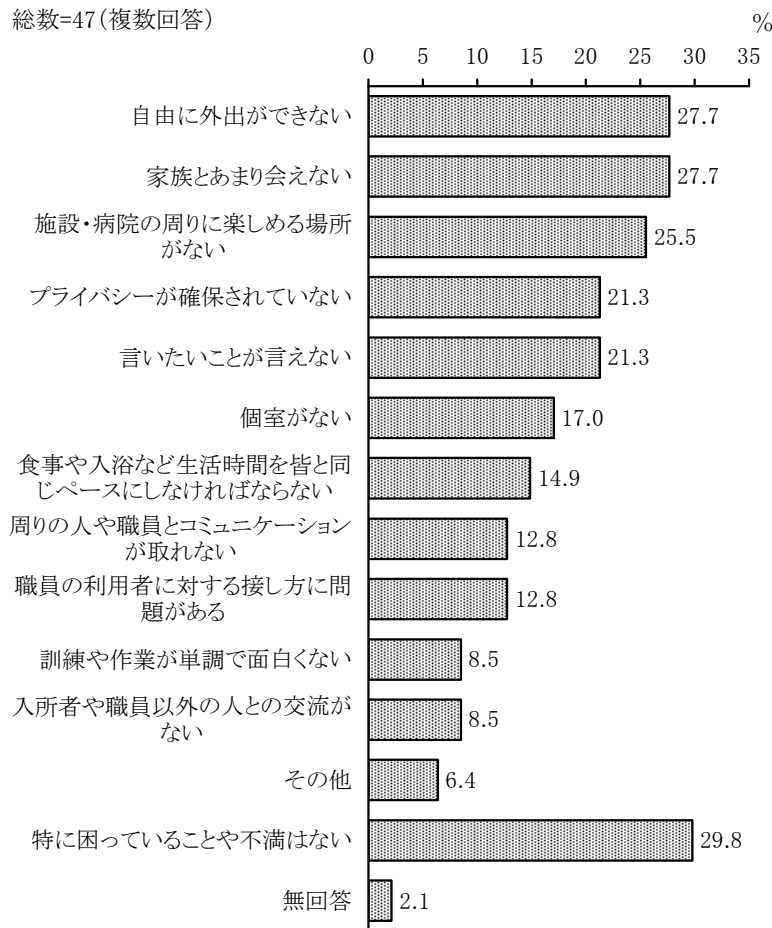
図表Ⅳ- 28 日常生活で困っていること



(4) 施設での生活で困っていること

問 16 あなたが施設・病院の生活で困っていることや不満に思っていることは、何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅳ- 29 施設での生活で困っていること



施設・病院の生活で困っていることや不満に思っていることとしては、「自由に外出ができない」「家族とあまり会えない」がそれぞれ 27.7%で最も多く、「施設・病院の周りに楽しめる場所がない」が 25.5%、「プライバシーが確保されていない」「言いたいことが言えない」がそれぞれ 21.3%で続きます。

「特に困っていることや不満はない」は 29.8%となっています。

障害者支援施設に入所している回答者では「施設・病院の周りに楽しめる場所がない」(30.3%)、病院に入院している回答者では「自由に外出ができない」(42.9%)が最も多くなっています。

図表Ⅳ- 30 施設での生活で困っていること【施設の種類の別】

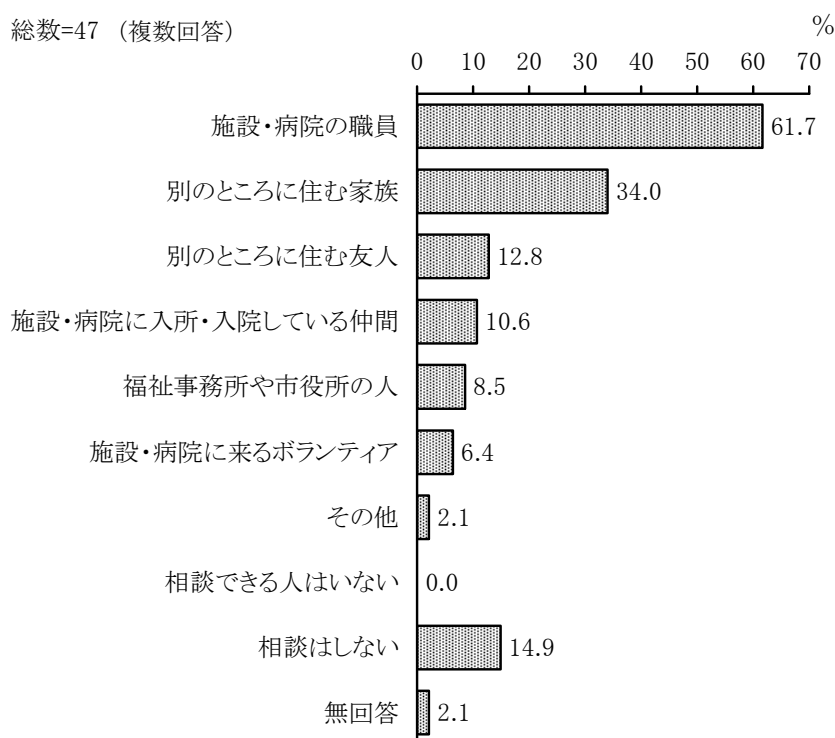
	全体	個室がない	プライバシーが確保されていない	言いたいことが言えない	周りの人や職員とコミュニケーションが取れない	職員の利用者に対する接し方に問題がある	食事や入浴など生活時間を皆と同じペースにしなければならない	訓練や作業が単調で面白くない	自由に外出ができない	入所者や職員以外の人との交流がない	家族とあまり会えない	施設・病院の周りに楽しめる場所がない	その他	特に困っていることや不満はない	無回答
全体	47 100.0	8 17.0	10 21.3	10 21.3	6 12.8	6 12.8	7 14.9	4 8.5	13 27.7	4 8.5	13 27.7	12 25.5	3 6.4	14 29.8	1 2.1
障害者支援施設に入所している	33 100.0	8 24.2	9 27.3	8 24.2	4 12.1	5 15.2	4 12.1	3 9.1	7 21.2	2 6.1	8 24.2	10 30.3	3 9.1	10 30.3	1 3.0
病院に入院している	14 100.0	-	1 7.1	2 14.3	2 14.3	1 7.1	3 21.4	1 7.1	6 42.9	2 14.3	5 35.7	2 14.3	-	4 28.6	-

（5）困りごとや悩みの相談先

問 17 あなたが困ったり、悩んだりしたときに相談する人は誰ですか。（あてはまるものすべてに○）

困ったり、悩んだりしたときに相談する人としては、「施設・病院の職員」が 61.7% で最も多く、「別のところに住む家族」が 34.0%、「別のところに住む友人」が 12.8%、「施設・病院に入所・入院している仲間」が 10.6%で続きます。
「相談はしない」は 14.9%となっています。

図表Ⅳ- 31 困りごとや悩みの相談先



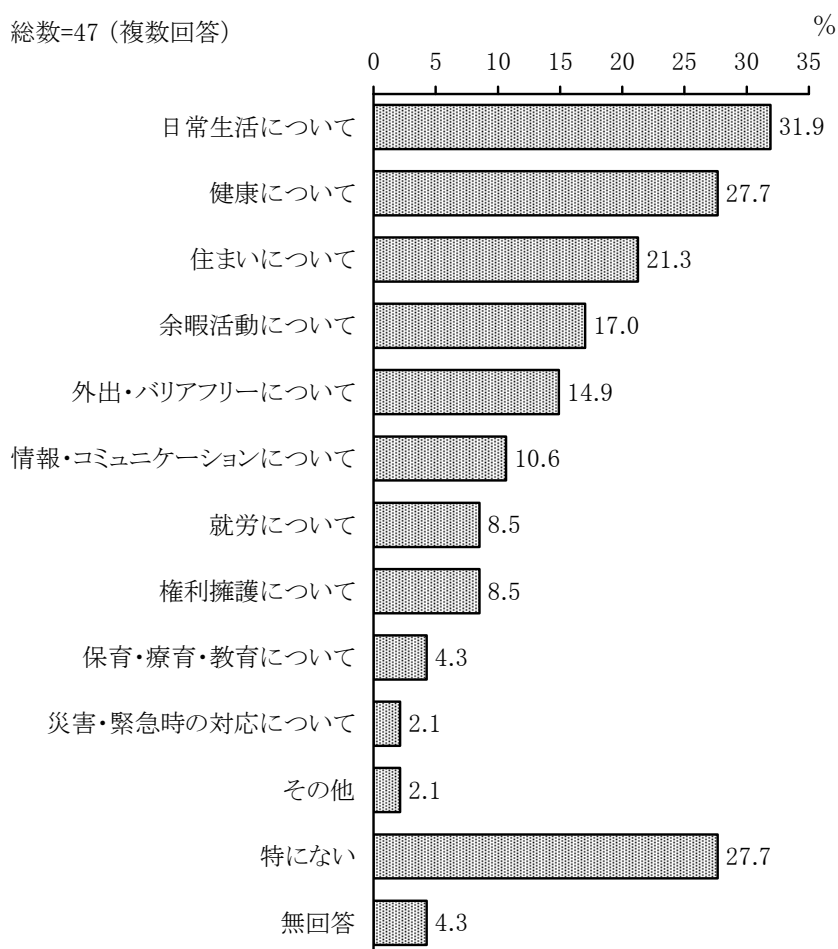
(6) 今後相談したいこと

問 18 今後、あなたが相談したい内容として、どのようなことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

今後、相談したい内容としては、「日常生活について」が31.9%で最も多く、「健康について」が27.7%、「住まいについて」が21.3%、「余暇活動について」が17.0%で続きます。

「特にない」は27.7%となっています。

図表Ⅳ- 32 今後相談したいこと



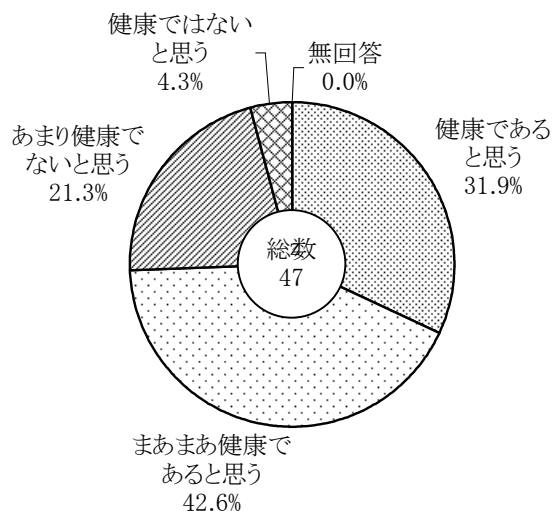
4 保健・医療について

(1) 最近の健康状態

問 19 あなたの最近(ここ3か月以内)の健康状態はいかがですか。(どれか1つに○)

図表Ⅳ- 33 最近の健康状態

「健康であると思う」が31.9%、「まあまあ健康であると思う」が42.6%であり、全体の74.5%が健康だと感じています。一方、「あまり健康でないと思う」が21.3%、「健康ではないと思う」が4.3%であり、全体の25.6%が健康ではないと感じていることがわかります。

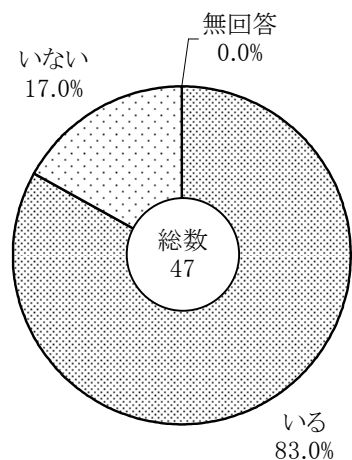


(2) かかりつけ医の有無

問 20 あなたには、よく診察してもらう「かかりつけ医」がいますか。(どれか1つに○)

図表Ⅳ- 34 かかりつけ医の有無

「いる」が83.0%、「いない」が17.0%となっています。



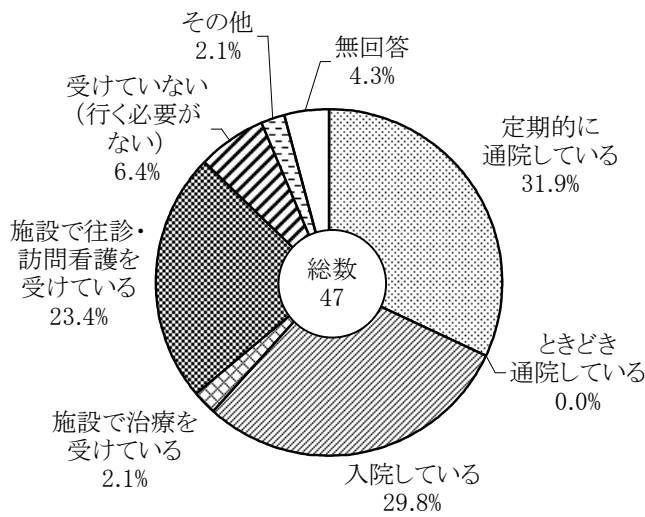
(3) 医療を受けているか

問21 あなたは、現在、医療を受けていますか。(どれか1つに○)

図表Ⅳ- 35 医療を受けているか

「定期的に通院している」が31.9%で最も多く、「入院している」が29.8%、「施設で治療（往診・訪問看護）を受けている」が23.4%で続きます。

医療を「受けていない（行く必要がない）」は6.4%にとどまっています。



障害者支援施設に入所している回答者では、「定期的に通院している」が45.5%、「施設で治療（往診・訪問看護）を受けている」が33.3%となっています。

図表Ⅳ- 36 医療を受けているか【施設の種類の別】

	全体	定期的に通院している	ときどき通院している	入院している	施設で治療を受けている	(往診・施設で治療を受けている)	(受けていない(行く必要がない))	その他	無回答
全体	47 100.0	15 31.9	-	14 29.8	1 2.1	11 23.4	3 6.4	1 2.1	2 4.3
障害者支援施設に入所している	33 100.0	15 45.5	-	-	1 3.0	11 33.3	3 9.1	1 3.0	2 6.1
病院に入院している	14 100.0	-	-	14 100.0	-	-	-	-	-

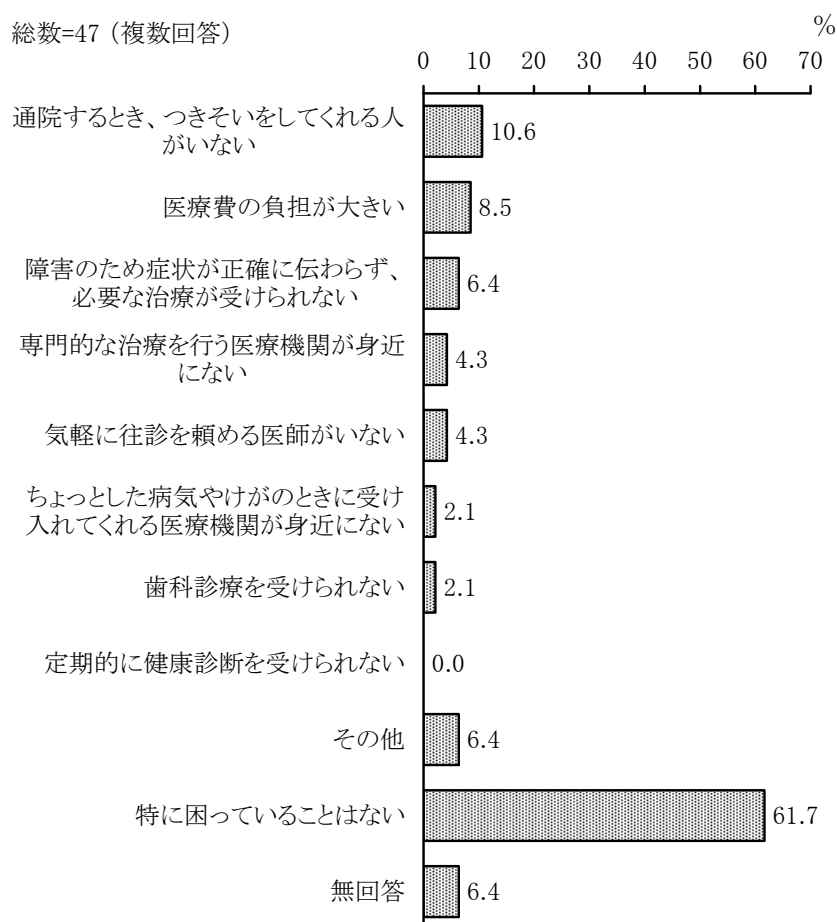
(4) 通院時や健康管理で困ること

問22 あなたが医療を受けるときや、健康管理で困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

医療を受けるときや健康管理で困ることとしては、「通院するとき、つきそいをしてくれる人がいない」が10.6%で最も多く、「医療費の負担が大きい」が8.5%、「障害のため症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない」が6.4%で続きます。

「特に困っていることはない」は61.7%となっています。

図表Ⅳ- 37 通院時や健康管理で困ること

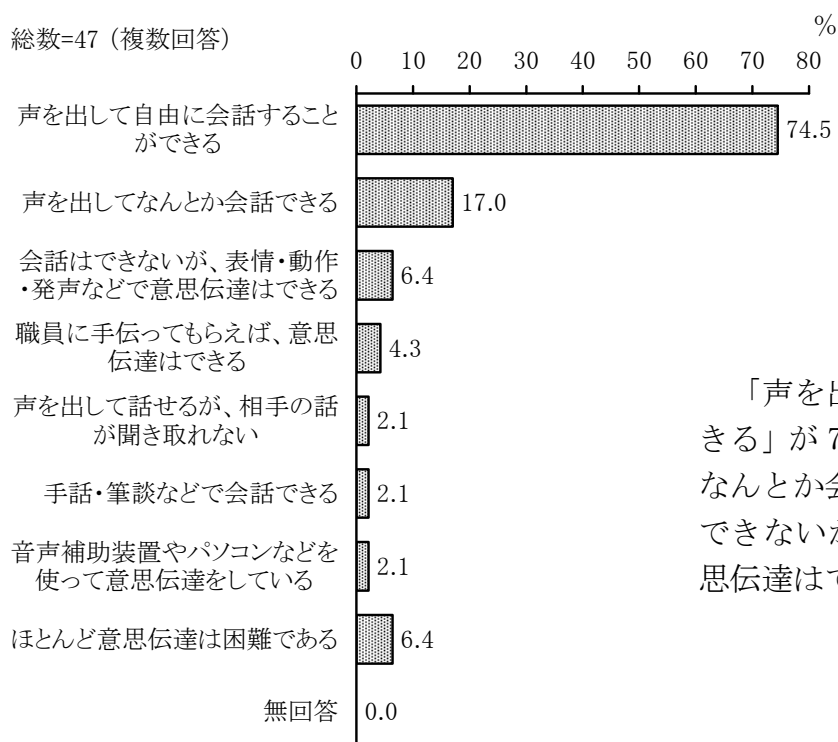


5 情報・コミュニケーションについて

(1) 会話や意思の伝達ができる程度

問 23 あなたは、日頃どのようにコミュニケーション（会話や意思の伝達）をとることができますか。（あてはまるものすべてに○）

図表IV- 38 会話や意思の伝達ができる程度



「声を出して自由に会話することができる」が74.5%で最も多く、「声を出してなんとか会話できる」が17.0%、「会話はできないが、表情・動作・発声などで意思伝達はある」が6.4%で続きます。

(2) コミュニケーション方法

問 24 【視覚障害の方にうかがいます。】あなたは、日頃どのようにして情報を得たり、コミュニケーションをとったりしていますか。（あてはまるものすべてに○）

該当する回答者は3人であり、「テレビ・ラジオ」を選んだのが2人、「拡大文字図書」を選んだのが1人です。

図表IV- 39 コミュニケーション方法（視覚障害者）

全体	点訳	拡大文字図書	録音	朗読サービス	パソコン読み上げソフト等	テレビ・ラジオ	電話による音声案内サービス	携帯電話	家族・友人等	その他	無回答
3 100.0	-	1 33.3	-	-	-	2 66.7	-	-	-	1 33.3	-

問 25 【聴覚障害の方】にうかがいます。】あなたは、日頃どのようにして情報を得たり、コミュニケーションをとったりしていますか。（あてはまるものすべてに○）

該当する回答者は1人であり、「補聴器」を選んでいました。

図表Ⅳ- 40 コミュニケーション方法（聴覚障害者）

全体	手話	筆談	手話通訳・ 要約筆記通訳	補聴器	読話	口話	テレビ	インターネット、 パソコン	携帯電話の メール	その他	無回答
1 100.0	-	-	-	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-

（3）意思を伝える場合に困ること

問 26 【脳性まひや肢体不自由の方】にうかがいます。】あなたが意思を伝える場合に困ることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

該当する回答者は18人であり、意思を伝える場合に困ることとしては、「筆記するのが困難」が5人（27.8%）、「会話するのが困難」が4人（22.2%）となっています。

「困ることはない」は11人（61.1%）です。

図表Ⅳ- 41 意思を伝える場合に困ること

全体	会話する のが 困難	筆記する のが 困難	その他	困る こと は ない	無回答
18 100.0	4 22.2	5 27.8	1 5.6	11 61.1	-

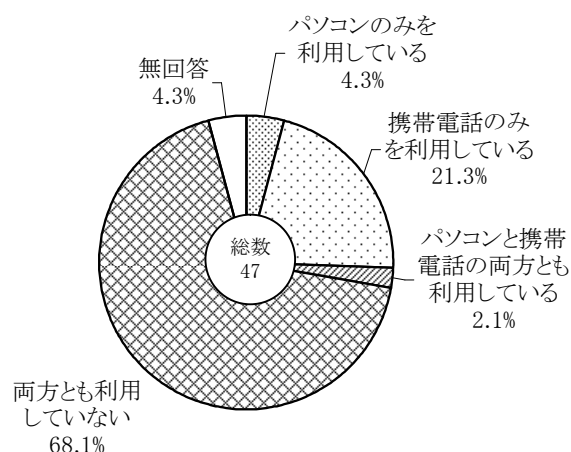
（4）電子メール・インターネットの利用状況

問 27 あなたは、パソコンや携帯電話のメール機能などインターネットを利用していますか。（どれか1つに○）

「携帯電話のみを利用している」が21.3%、「パソコンのみを使用している」が4.3%、「パソコンと携帯電話の両方とも利用している」が2.1%となっています。

「両方とも利用していない」は68.1%です。

図表Ⅳ- 42 電子メール・インターネットの利用状況



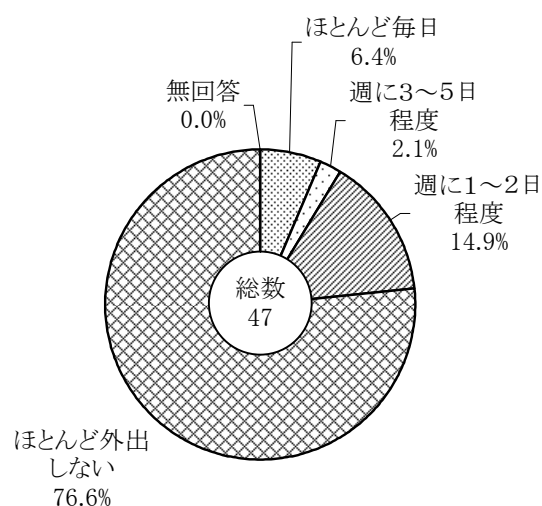
6 外出・余暇活動について

(1) 外出の頻度

問 28 ふだん、あなたは週に何日くらい外出しますか。(どれか1つに○)

「ほとんど外出しない」が76.6%で最も多く、「週に1～2日程度」が14.9%、「ほとんど毎日」が6.4%、「週に3～5日程度」が2.1%となっています。

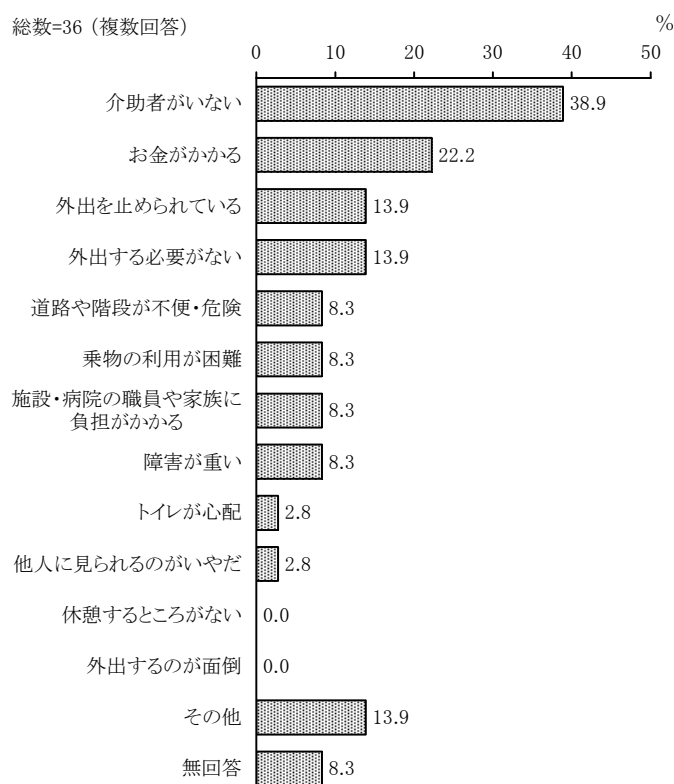
図表Ⅳ- 43 外出の頻度



(2) 外出しない理由

問 28-1 【問 28 で 4 を選んだ方にうかがいます。】外出しない理由は、何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅳ- 44 外出しない理由



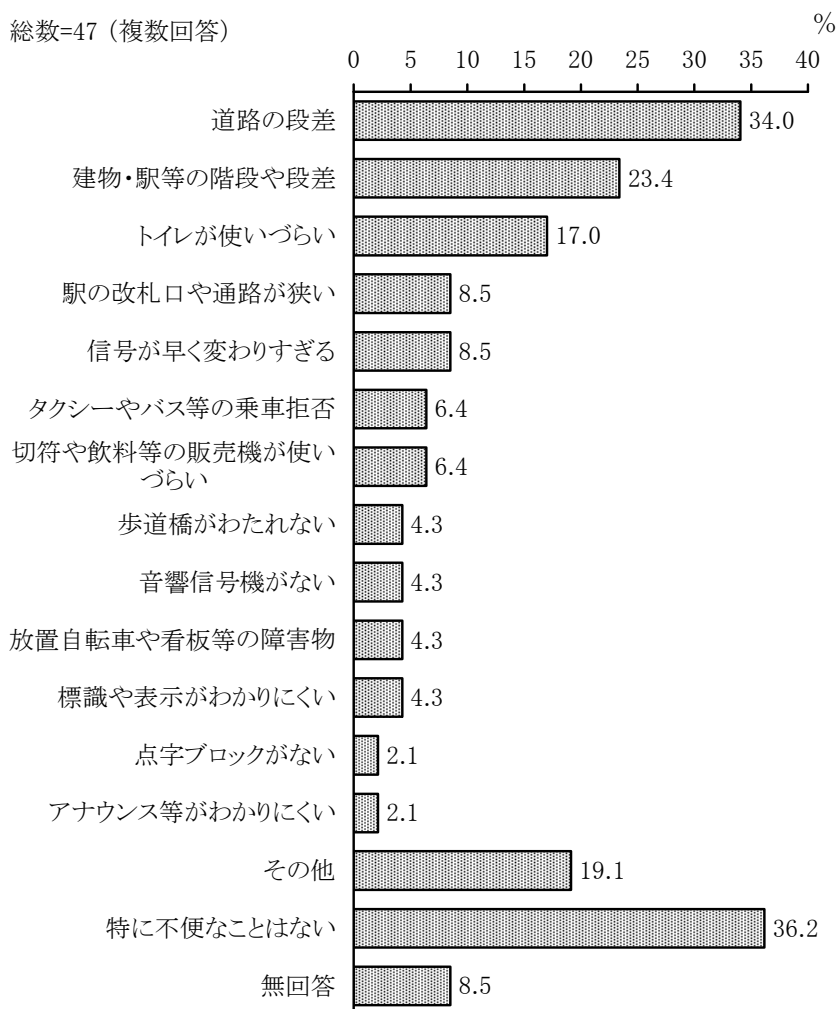
※4:「ほとんど外出しない」

（3）外出の際に設備等で不便に思うこと

問 29 あなたが外出する際、道路や交通機関、建物のことで困ったり不便に思うことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

外出の際に設備等で困ったり不便に思うこととしては、「道路の段差」が34.0%、「建物・駅等の階段や段差」が23.4%、「トイレが使いづらい」が17.0%で続きます。
「特に不便なことはない」は36.2%となっています。

図表Ⅳ- 45 外出の際に設備等で不便に思うこと



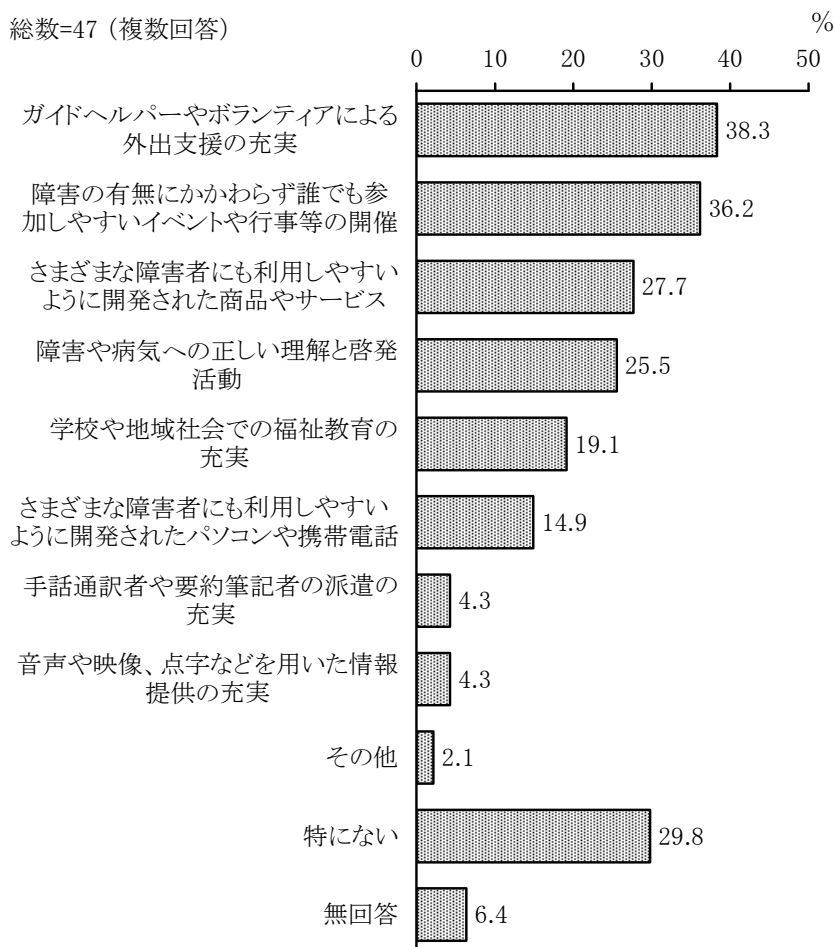
(4) バリアフリー化を進めるために重要なこと

問 30 交通機関やまちのバリアフリー化だけでなく制度や意識の面も含めた「社会全体のバリアフリー化」を進めるために、あなたが重要だと思うものは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

バリアフリー化を進めるために重要なこととしては、「ガイドヘルパーやボランティアによる外出支援の充実」が 38.3%で最も多く、「障害の有無にかかわらず誰でも参加しやすいイベントや行事等の開催」が 36.2%、「さまざまな障害者にも利用しやすいように開発された商品やサービス」が 27.7%、「障害や病気への正しい理解と啓発活動」が 25.5%で続きます。

「特にない」は 29.8%となっています。

図表Ⅳ- 46 バリアフリー化を進めるために重要なこと

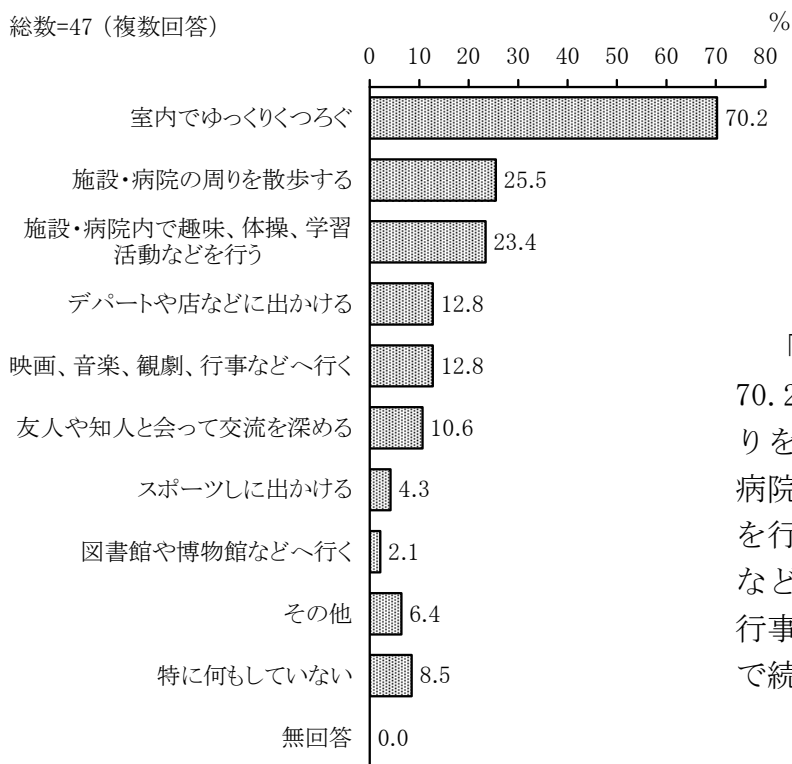


(5) 余暇時間に行っていること

問31 あなたは時間に余裕があるときには、どのようなことをしていますか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅳ- 47 余暇時間に行っていること

総数=47 (複数回答)



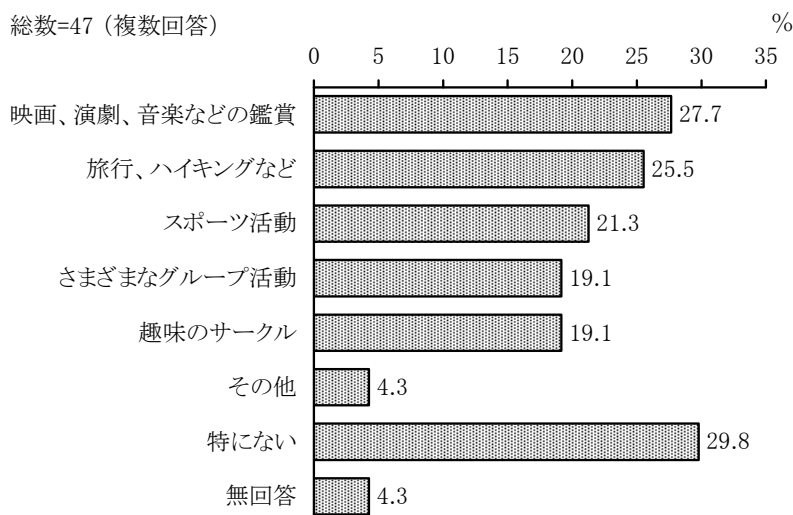
「室内でゆっくりくつろぐ」が70.2%で最も多く、「施設・病院の周りを散歩する」が25.5%、「施設・病院内で趣味、体操、学習活動などを行う」が23.4%、「デパートや店などに出かける」「映画、音楽、観劇、行事などへ行く」がそれぞれ12.8%で続きます。

(6) 今後参加したい活動

問32 あなたは現在の生活をより豊かにするために、どのような活動に参加したいと思っていますか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅳ- 48 今後参加したい活動

総数=47 (複数回答)



今後参加したい活動としては、「映画、演劇、音楽などの鑑賞」が27.7%、「旅行、ハイキングなど」が25.5%、「スポーツ活動」が21.3%、「さまざまなグループ活動」「趣味のサークル」がそれぞれ19.1%となっています。

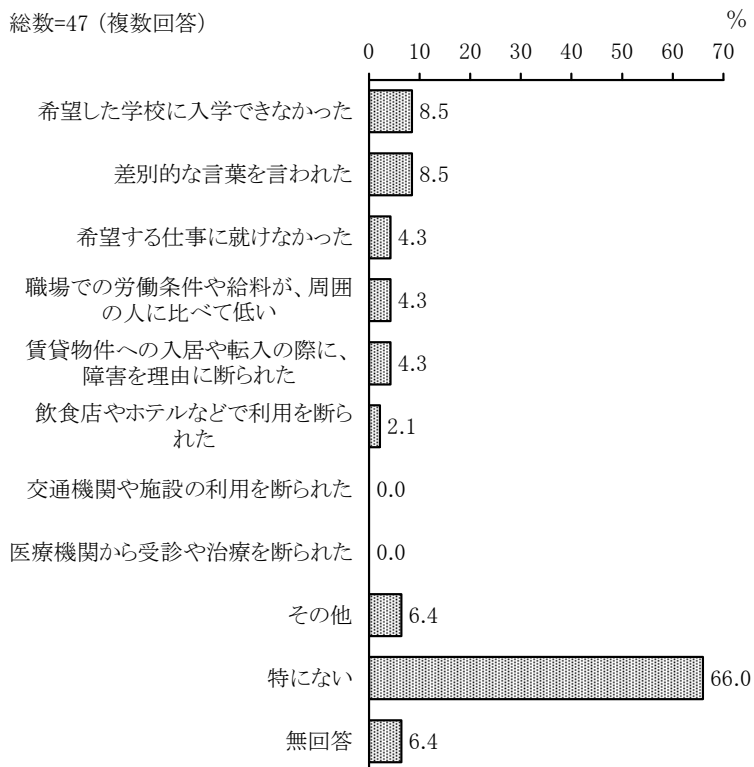
「特にない」は29.8%です。

7 権利擁護について

(1) 人権を損なう扱いを受けた経験の有無

問 33 あなたは、障害があることが原因で、人権を損なう扱いを受けた経験がありますか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅳ- 49 人権を損なう扱いを受けた経験の有無



受けたことのある経験としては、「希望した学校に入学できなかった」「差別的な言葉を言われた」がそれぞれ 8.5% で最も多く、「希望する仕事に就けなかった」「職場での労働条件や給料が、周囲の人に比べて低い」「賃貸物件への入居や転入の際に、障害を理由に断られた」がそれぞれ 4.3% で続きます。

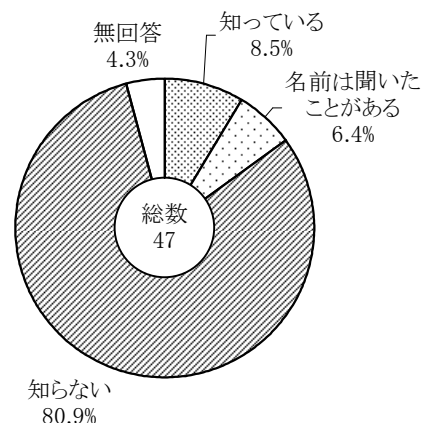
「特にない」は 66.0% です。

(2) 船橋市障害者虐待防止センターの認知状況

問 34 あなたは、「船橋市障害者虐待防止センター（通称：は〜ぶ）」を知っていますか。(どれか1つに○)

図表Ⅳ- 50 船橋市障害者虐待防止センターの認知状況

「知らない」が 80.9% で最も多く、「知っている」が 8.5%、「名前は聞いたことがある」が 6.4% で続きます。

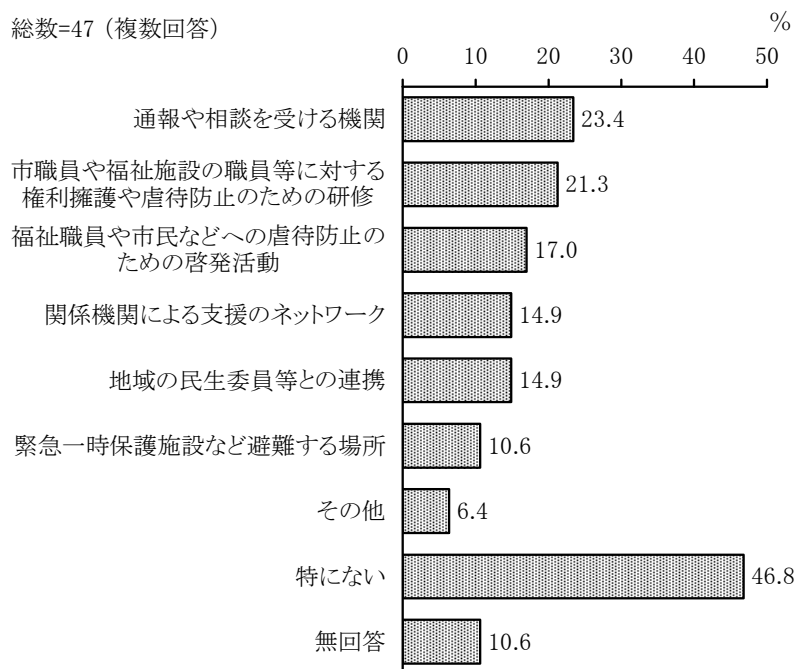


（３）障害者虐待の防止に必要な制度・体制

問 35 障害者虐待の防止のために、あなたは、市がどのような制度や体制を整備する必要があると思いますか。（あてはまるものすべてに○）

図表Ⅳ- 51 障害者虐待の防止に必要な制度・体制

総数=47（複数回答）



障害者虐待の防止のために必要な制度や体制の整備としては、「通報や相談を受ける機関」が 23.4%で最も多く、「市職員や福祉施設の職員等に対する権利擁護や虐待防止のための研修」が 21.3%、「福祉職員や市民などへの虐待防止のための啓発活動」が 17.0%、「関係機関による支援のネットワーク」「地域の民生委員等との連携」がそれぞれ 14.9%で続きます。

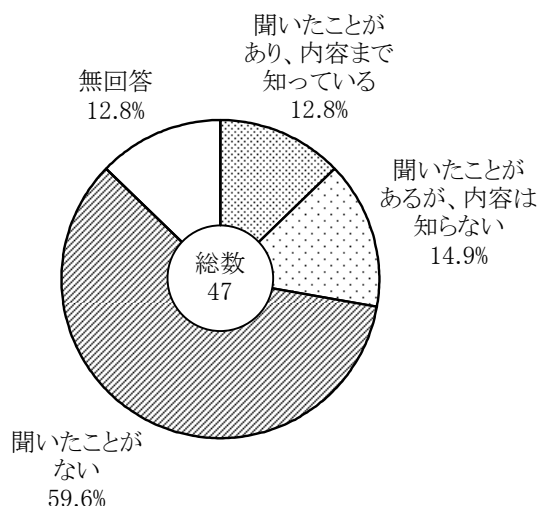
「特にない」は 46.8%となっています。

（４）成年後見制度の認知状況

問 36 あなたは、成年後見制度を知っていますか。（どれか1つに○）

図表Ⅳ- 52 成年後見制度の認知状況

「聞いたことがあり、内容まで知っている」が 12.8%、「聞いたことがあるが、内容は知らない」が 14.9%であり、全体の 27.7%が成年後見制度について聞いたことがあると回答しています。一方、「聞いたことがない」は 59.6%で最も多くなっています。



病院に入院している回答者では「聞いたことがない」(85.7%)が8割に達しています。また、「聞いたことがあるが、内容は知らない」が7.1%であり、内容まで知っている回答者はいませんでした。

図表Ⅳ- 53 成年後見制度の認知状況【施設の種類の別】

	全体	あり、 知っている 内容まで	聞いたことが あるが、内容は 知らない	聞いたことが ない	無回答
全体	47 100.0	6 12.8	7 14.9	28 59.6	6 12.8
障害者支援施設に 入所している	33 100.0	6 18.2	6 18.2	16 48.5	5 15.2
病院に入院している	14 100.0	-	1 7.1	12 85.7	1 7.1

8 災害・緊急時の対応について

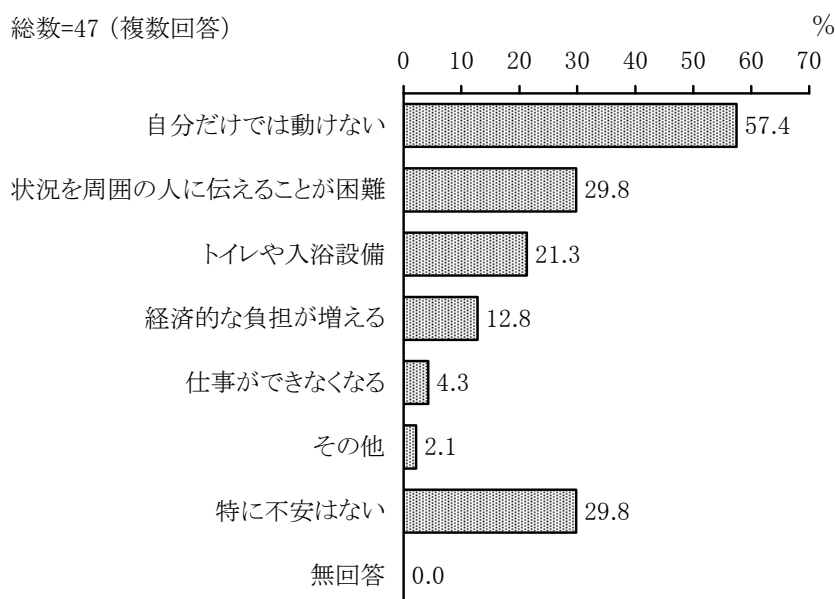
(1) 緊急な病状になったときに不安なこと

問 37 もし、あなたが緊急な病状になったことを考えるとき、特に不安に感じることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

緊急な病状になったときに不安なこととしては、「自分だけでは動けない」が57.4%で最も多く、「状況を周囲の人に伝えることが困難」が29.8%、「トイレや入浴設備」が21.3%、「経済的な負担が増える」が12.8%で続きます。

「特に不安はない」は29.8%となっています。

図表Ⅳ- 54 緊急な病状になったときに不安なこと

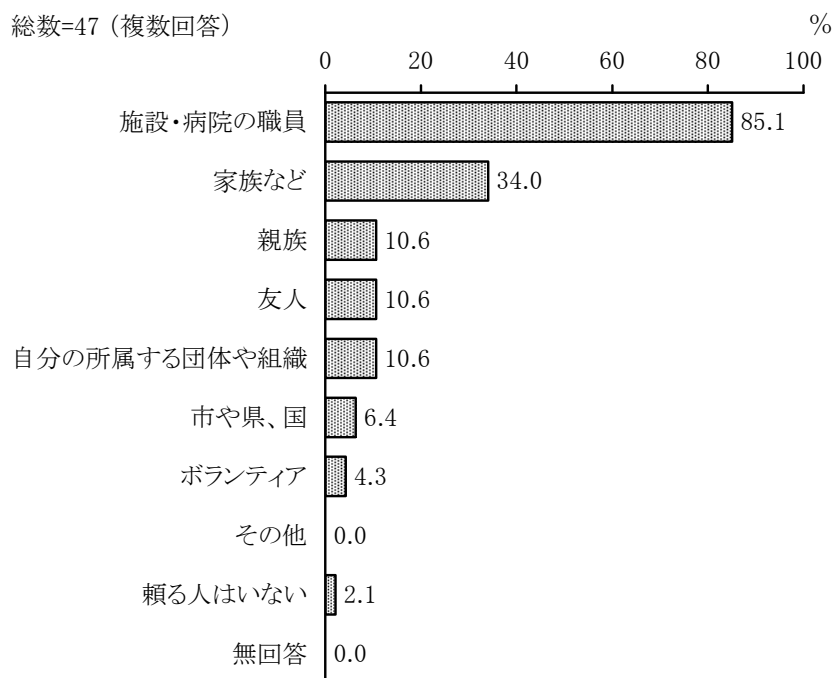


（２）地震や火災等のときに頼りにする人

問 38 あなたは、地震や火災などが起きたら、どなたを頼りにしたいと思いますか。
（あてはまるものすべてに○）

「施設・病院の職員」が 85.1%で最も多く、「家族など」が 34.0%、「親族」「友人」
「自分の所属する団体や組織」がそれぞれ 10.6%で続きます。

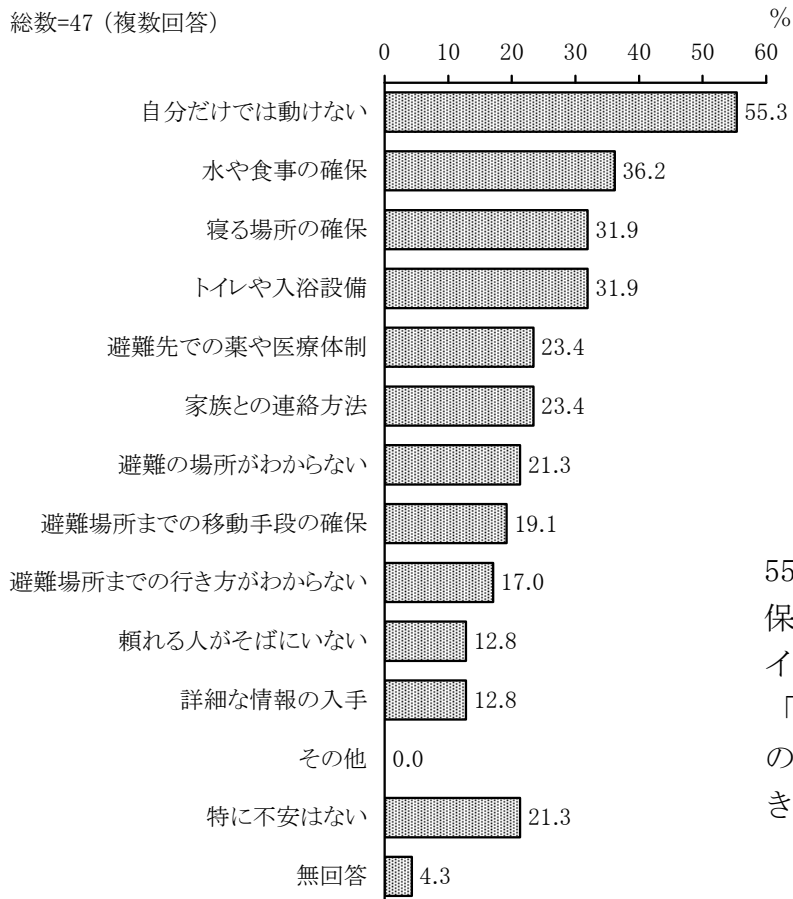
図表Ⅳ- 55 地震や火災等のときに頼りにする人



(3) 緊急に避難する場合に不安なこと

問 39 地震や火事、台風などのために、緊急に避難しなければならなくなったことを考えると、あなたが不安に感じることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅳ- 56 緊急に避難する場合に不安なこと



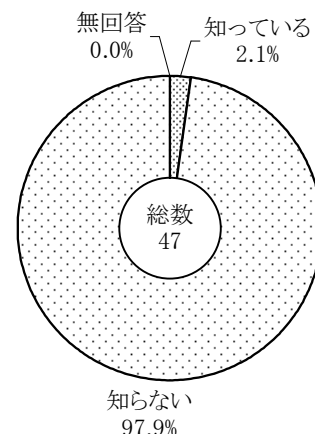
「自分だけでは動けない」が55.3%で最も多く、「水や食事の確保」が36.2%、「寝る場所の確保」「トイレや入浴設備」がそれぞれ31.9%、「避難先での薬や医療体制」「家族との連絡方法」がそれぞれ23.4%で続きます。

(4) 「災害時要援護者台帳」の認知状況

問 40 あなたは、災害時要援護者台帳を知っていますか。(どれか1つに○)

図表Ⅳ- 57 「災害時要援護者台帳」の認知状況

「知っている」が2.1%、「知らない」が97.9%となっています。



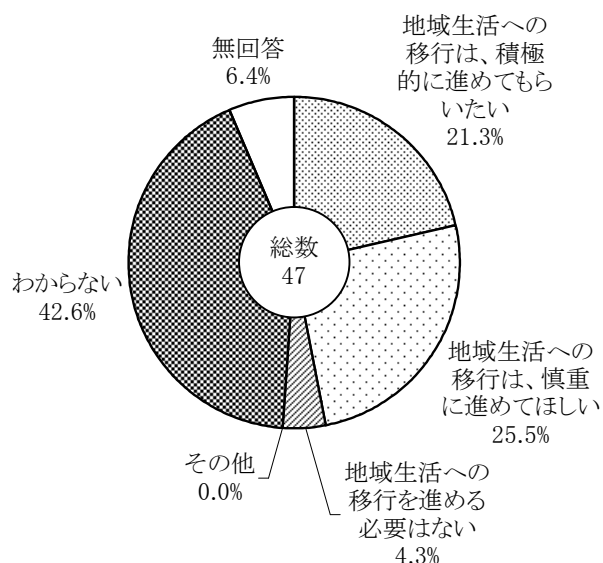
9 障害者総合支援法について

(1) 入所者・入院者の地域生活移行への考え方

問 41 市では、「第3期船橋市障害福祉計画」に基づき、現在、福祉施設に入所または病院に入院している障害者で退所・退院が可能な人について、地域生活への移行を支援しています。このことについて、あなたはどのように思いますか。(どれか1つに○)

図表Ⅳ-58 入所者・入院者の地域生活移行への考え方

「地域生活への移行は、積極的に進めてもらいたい」が 21.3%、「地域生活への移行は、慎重に進めてほしい」が 25.5%、「地域生活への移行を進める必要はない」が 4.3%となっています。「わからない」は 42.6%です。

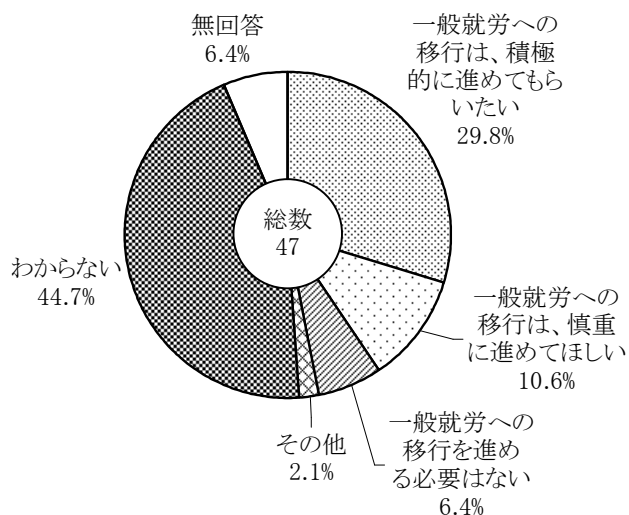


(2) 福祉的就労から一般就労への移行への考え方

問 42 現在、福祉的就労（障害者の作業所などでの就労）をしている障害者のうち、訓練により一般就労（企業等への就労、在宅での就労）が可能となる人について、市では一般就労への移行を支援しています。このことについて、あなたはどのように思いますか。(どれか1つに○)

図表Ⅳ-59 福祉的就労から一般就労への移行への考え方

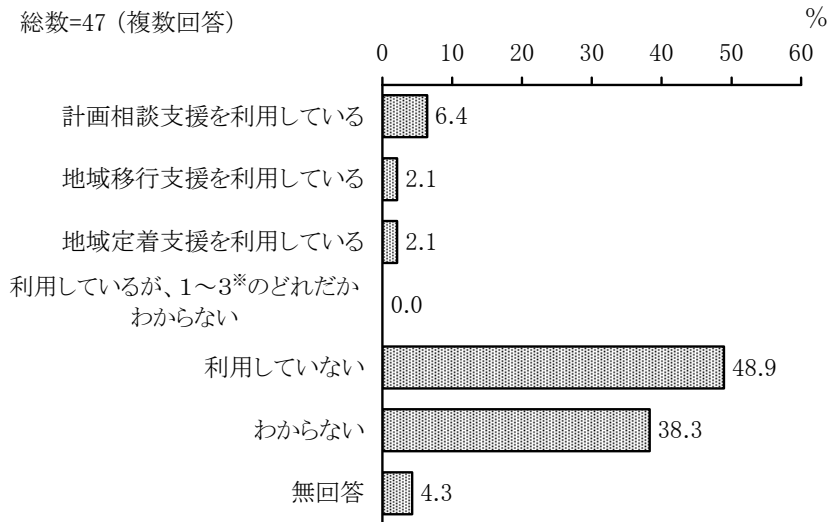
「一般就労への移行は、積極的に進めてもらいたい」が 29.8%、「一般就労への移行は、慎重に進めてほしい」が 10.6%、「一般就労への移行を進める必要はない」が 6.4%となっています。「わからない」は 44.7%です。



(3) 相談支援事業の利用状況

問 43 あなたは、次のような相談支援事業を利用していますか。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅳ- 60 相談支援事業の利用状況



利用している相談支援事業としては、「計画相談支援を利用している」が 6.4%、「地域移行支援を利用している」「地域定着支援を利用している」がそれぞれ 2.1%となっています。

「利用していない」は 48.9%、「わからない」は 38.3%です。

※1～3：1. 計画相談支援を利用している、2. 地域移行支援を利用している、3. 地域定着支援を利用している

(4) 相談支援事業の満足度

問 43-1 【問 43 で 1～4*を選んだ方にうかがいます。】あなたは、相談支援事業に満足していますか。(どれか1つに○)

図表Ⅳ- 61 相談支援事業の満足度

相談支援事業を利用している回答者は4人であり、「やや満足している」「普通」を選んだのがそれぞれ2人です。

全体	満足している	やや満足している	普通	満足していない	無回答
4 100.0	-	2 50.0	2 50.0	-	-

※1～4：1. 計画相談支援を利用している、2. 地域移行支援を利用している、3. 地域定着支援を利用している、4. 利用しているが、1～3のどれだかわからない

（５）相談支援事業の不満理由

問 43-2 【問 43-1 で 4※を選んだ方にうかがいます。】あなたが満足していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

該当する回答者はいませんでした。

※4：「満足していない」

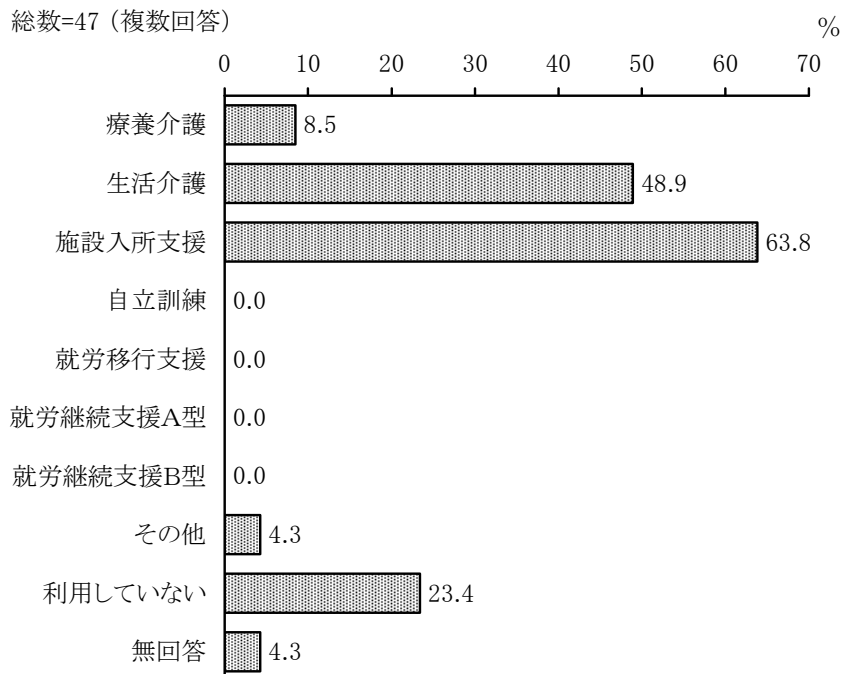
（６）障害福祉サービスの利用状況

問 44 あなたは、どのような障害福祉サービスを利用していますか。（あてはまるものすべてに○）

「施設入所支援」が 63.8%で最も多く、「生活介護」が 48.9%、「療養介護」が 8.5%となっています。

「利用していない」は 23.4%です。

図表Ⅳ- 62 障害福祉サービスの利用状況

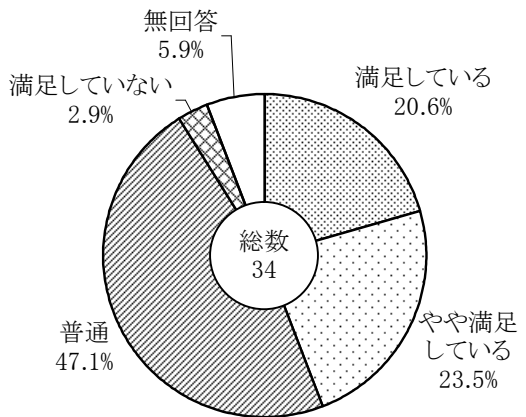


(7) 障害福祉サービスの満足度

問 44-1 【問 44 で 1～8※を選んだ方にうかがいます。】あなたは、利用しているサービスに満足していますか。(どれか1つに○)

図表Ⅳ- 63 障害福祉サービスの満足度

「満足している」が 20.6%、「やや満足している」が 23.5%であり、全体の 44.1%がサービスに満足しています。
「普通」が 47.1%で最も多く、「満足していない」は 2.9%となっています。



※1～8：「療養介護」「生活介護」「施設入所支援」「自立訓練」「就労移行支援」「就労継続支援A型」「就労継続支援B型」「その他」

(8) 障害福祉サービスの不満理由

問 44-2 【問 44-1 で 4※を選んだ方にうかがいます。】あなたが満足していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

障害福祉サービスに満足していないと回答したのは1人で、「サービスの制度がわかりづらい」「サービス利用の手続きが面倒」「サービスの回数や日数が少ない」「サービスの内容が雑であったり、ニーズに合っていない」「サービスを提供する人の態度がよくない」を選んでいきます。

図表Ⅳ- 64 障害福祉サービスの不満理由

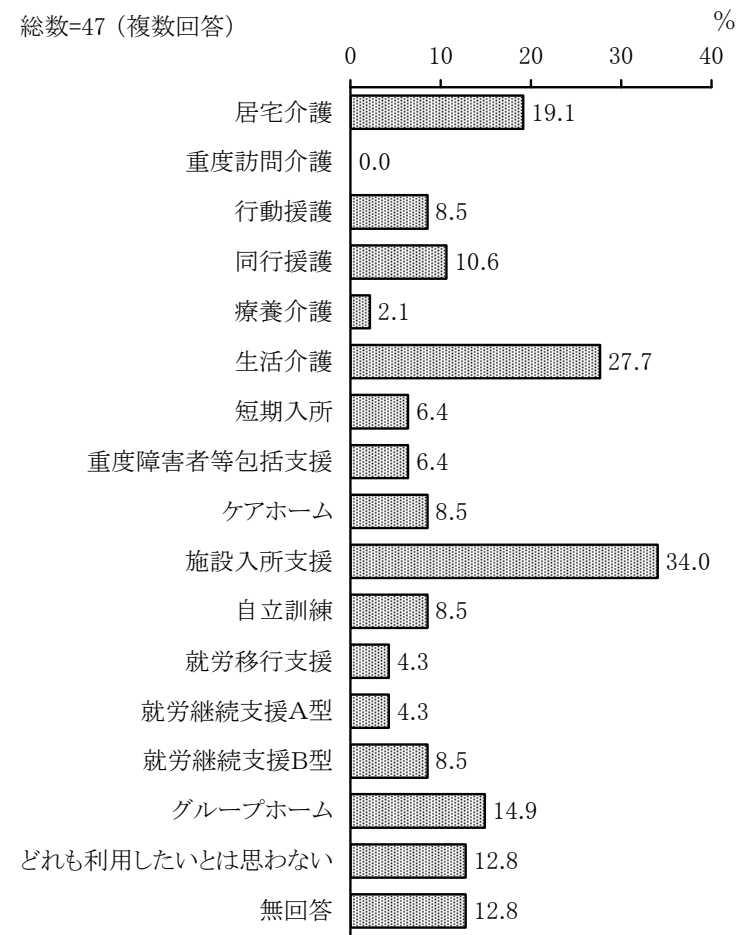
全体	サービスの制度がわかりづらい	サービス利用の手続きが面倒	サービスの回数や日数が少ない	サービスの1回当たりの時間が少ない	サービスの調整が大変	サービスの内容が雑であったり、ニーズに合っていない	サービスの提供する人の態度がよくない	サービス利用に対する自己負担が大きい	その他	無回答
1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	- -	- -	1 100.0	1 100.0	- -	- -	- -

※4：「満足していない」

(9) 障害福祉サービスの利用意向

問 45 今後、あなたが利用したいと思う障害福祉サービスは何ですか。現在利用している方もお答えください。(あてはまるものすべてに○)

図表Ⅳ- 65 障害福祉サービスの利用意向



「施設入所支援」が 34.0%で最も多く、「生活介護」が 27.7%、「居宅介護」が 19.1%、「グループホーム」が 14.9%、「同行援護」が 10.6%で続きます。

障害者支援施設に入所している回答者では、「施設入所支援」が 48.5%で最も多く、「生活介護」が 33.3%で続きます。病院に入院している回答者では「居宅介護」(64.3%) が6割に達しています。

図表Ⅳ- 66 障害福祉サービスの利用意向【施設の種類の別】

	全体	居宅介護	重度訪問介護	行動援護	同行援護	療養介護	生活介護	短期入所	者重支等度援包障括害
全体	47 100.0	9 19.1	-	4 8.5	5 10.6	1 2.1	13 27.7	3 6.4	3 6.4
障害者支援施設に入所している	33 100.0	-	-	2 6.1	2 6.1	1 3.0	11 33.3	-	3 9.1
病院に入院している	14 100.0	9 64.3	-	2 14.3	3 21.4	-	2 14.3	3 21.4	-

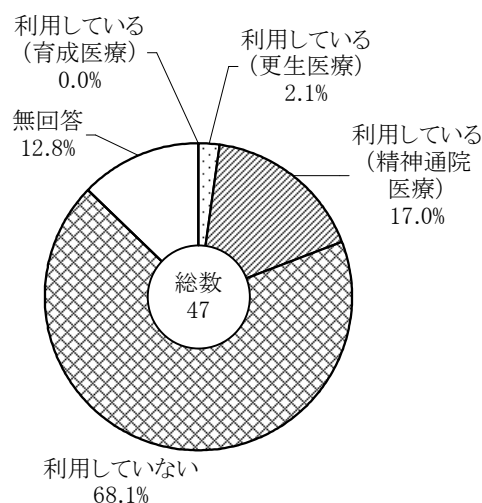
	ケアホーム	施設支援入所	自立訓練	就労移行支援	就労支援A継続	就労支援B継続	グループホーム	どれも利用したいとは思わない	無回答
全体	4 8.5	16 34.0	4 8.5	2 4.3	2 4.3	4 8.5	7 14.9	6 12.8	6 12.8
障害者支援施設に入所している	2 6.1	16 48.5	1 3.0	-	-	1 3.0	4 12.1	4 12.1	6 18.2
病院に入院している	2 14.3	-	3 21.4	2 14.3	2 14.3	3 21.4	3 21.4	2 14.3	-

(10) 自立支援医療の利用状況

問 46 あなたは、「自立支援医療」を利用していますか。(どれか1つに○)

図表Ⅳ- 67 自立支援医療の利用状況

「利用している（精神通院医療）」が17.0%、「利用している（更生医療）」が2.1%であり、「利用していない」は68.1%となっています。



(11) 自立支援医療の満足度

問 46-1 【問 46 で 1～3※を選んだ方にうかがいます。】あなたは、自立支援医療に満足していますか。(どれか1つに○)

自立支援医療を利用している回答者は9人であり、「満足している」を選んだのが1人、「やや満足している」を選んだのが2人、「普通」を選んだのが4人、「満足していない」を選んだのが1人です。

※1～3：「利用している（育成医療）」「利用している（更生医療）」「利用している（精神通院医療）」

図表Ⅳ- 68 自立支援医療の満足度

全体	満足している	やや満足している	普通	満足していない	無回答
9 100.0	1 11.1	2 22.2	4 44.4	1 11.1	1 11.1

(12) 自立支援医療の不満理由

問 46-2 【問 46-1 で 4※を選んだ方にうかがいます。】あなたが満足していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

自立支援医療に満足していないと回答したのは1人で、「自立支援医療の制度がわかりづらい」を選んでいました。

※4：「満足していない」

図表Ⅳ- 69 自立支援医療の不満理由

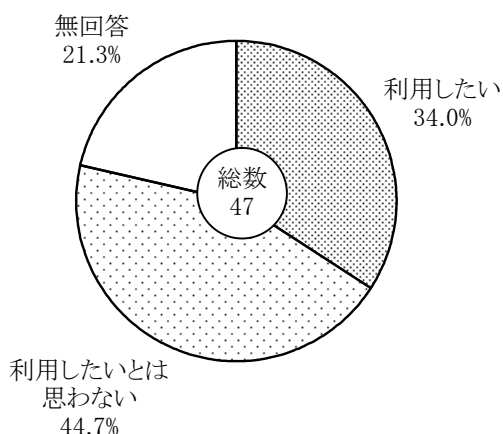
全体	自立支援医療の制度がわかりづらい	自立支援医療の制度が使いづらい	医療費の自己負担が大きい	その他	無回答
1 100.0	1 100.0	- -	- -	- -	- -

(13) 自立支援医療の利用意向

問 47 今後、あなたは「自立支援医療」を利用したいと思いますか。現在利用している方もお答えください。（どれか1つに○）

「利用したい」が34.0%、「利用したいとは思わない」が44.7%となっています。
病院に入院している回答者では「利用したい」（85.7%）が8割に達しています。

図表Ⅳ- 70 自立支援医療の利用意向

図表Ⅳ- 71 自立支援医療の利用意向
【施設の種別別】

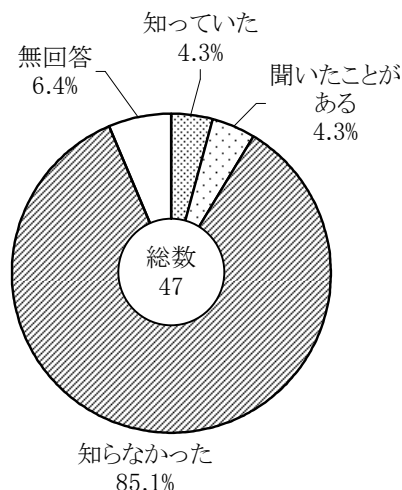
	全体	利用したい	利用したいとは思わない	無回答
全体	47 100.0	16 34.0	21 44.7	10 21.3
障害者支援施設に入所している	33 100.0	4 12.1	19 57.6	10 30.3
病院に入院している	14 100.0	12 85.7	2 14.3	-

(14) 難病患者等の対象者追加の認知状況

問 48 平成25年度から、障害福祉サービス等の利用の対象者に難病患者等が追加されました。あなたは、対象者に難病患者等が追加されたことを知っていましたか。（どれか1つに○）

図表Ⅳ- 72 難病患者等の対象者追加の認知状況

「知っていた」「聞いたことがある」がそれぞれ4.3%であり、「知らなかった」は85.1%となっています。



10 将来の生活について

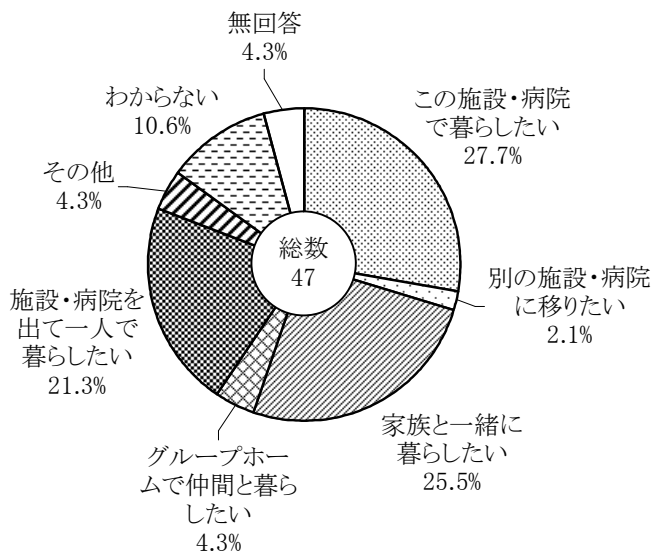
(1) 将来希望する暮らし方

問 49 あなたは将来、どこで(どのような)暮らし方を望みますか。(どれか1つに○)

図表IV- 73 将来希望する暮らし方

「この施設・病院で暮らしたい」が 27.7%で最も多く、「家族と一緒に暮らしたい」が 25.5%、「施設・病院を出て一人で暮らしたい」が 21.3%で続きます。

病院に入院している回答者では「施設・病院を出て一人で暮らしたい」(57.1%)が6割弱を占めています。



図表IV- 74 将来希望する暮らし方【施設の種類の別】

	全体	この施設・病院で暮らしたい	別の施設・病院に移りたい	家族と一緒に暮らしたい	グループホームで仲間と暮らしたい	施設・病院を出て一人で暮らしたい	その他	わからない	無回答
全体	47 100.0	13 27.7	1 2.1	12 25.5	2 4.3	10 21.3	2 4.3	5 10.6	2 4.3
障害者支援施設に入所している	33 100.0	11 33.3	1 3.0	10 30.3	1 3.0	2 6.1	2 6.1	4 12.1	2 6.1
病院に入院している	14 100.0	2 14.3	-	2 14.3	1 7.1	8 57.1	-	1 7.1	-

(2) 現在の施設で暮らし続けたい理由

問 49-1 【問 49 で 1～2*を選んだ方にうかがいます。】あなたが施設・病院での生活を続けたい理由は、何ですか。(あてはまるものすべてに○)

施設・病院で暮らしたいと回答したのは 14 人で、「入所者や施設・病院の職員との関係が良好であるから」が 8 人 (57.1%) で最も多く、「自宅や家族の受け入れ態勢が整っていないから」が 6 人 (42.9%)、「施設・病院の環境や日中の活動内容等に満足しているから」が 5 人 (35.7%)、「健康面などで不安があるから」が 2 人 (14.3%) となっています。

図表Ⅳ- 75 現在の施設で暮らし続けたい理由

全体	自宅や家族の受け入れ態勢が整っていないから	健康面などで不安があるから	入所者や施設・病院の職員との関係が良好であるから	施設・病院の環境や日中の活動内容等に満足しているから	経済的に苦しいから	在宅サービスが充実していないから	グループホームに入れないから	地域で友人関係が築けるか不安だから	その他	特に理由はない	無回答
14 100.0	6 42.9	2 14.3	8 57.1	5 35.7	- -	- -	- -	- -	1 7.1	1 7.1	- -

※1～2:「この施設・病院で暮らしたい」「別の施設・病院に移りたい」

(3) 施設を退所したい理由

問 49-2 【問 49 で 3～5*を選んだ方にうかがいます。】あなたが施設・病院を退所・退院したい理由は、何ですか。(あてはまるものすべてに○)

施設・病院を退所・退院したいと回答したのは 24 人で、「家族のそばにいたいから」が 11 人 (45.8%) で最も多く、「ひとり暮らしをしたいから」が 9 人 (37.5%)、「社会的に自立したいから」が 6 人 (25.0%)、「施設・病院での生活に不満があるから」が 5 人 (20.8%) で続きます。

図表Ⅳ- 76 施設を退所したい理由

全体	家族のそばにいたいから	ひとり暮らしをしたいから	社会的に自立したいから	施設・病院を出てやりたいことがあるから	就労したいから	施設・病院での生活に不満があるから	その他	特に理由はない	無回答
24 100.0	11 45.8	9 37.5	6 25.0	4 16.7	2 8.3	5 20.8	- -	3 12.5	2 8.3

※3～5:「家族と一緒に暮らしたい」「グループホームで仲間と暮らしたい」「施設・病院を出て一人で暮らしたい」

11 船橋市の障害者福祉について

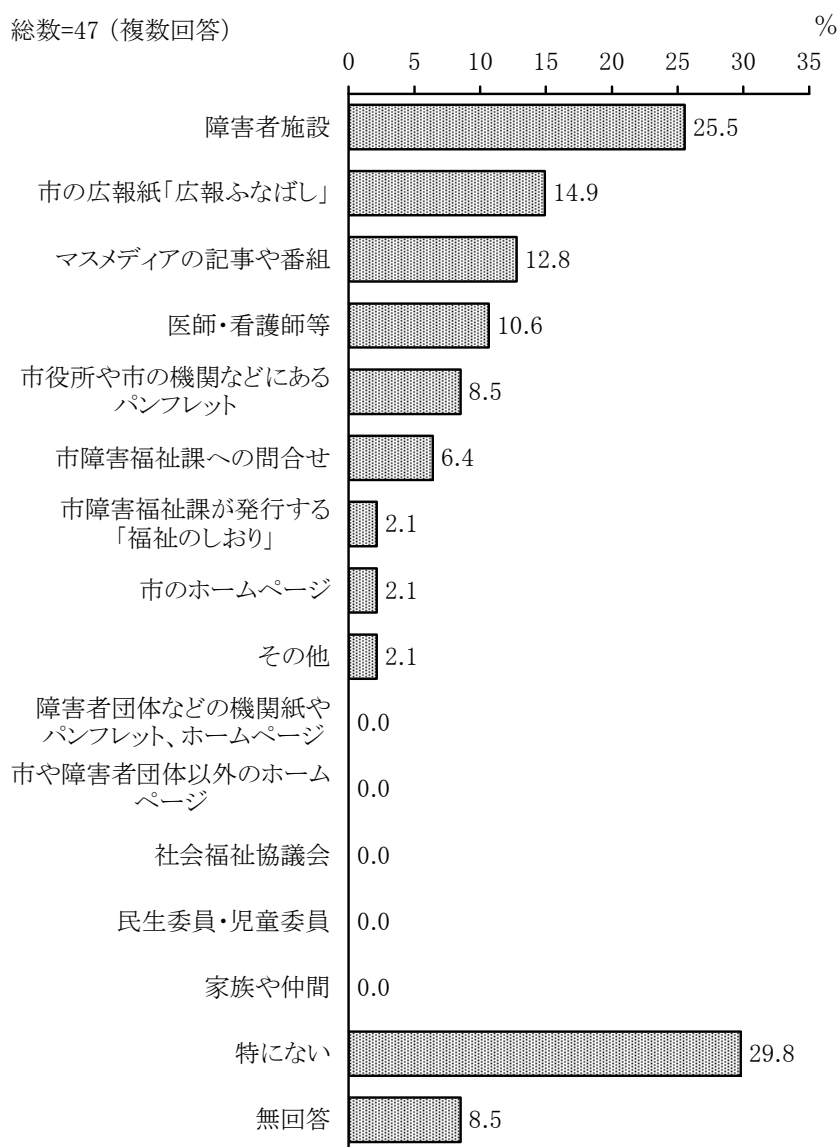
(1) 福祉サービス情報の入手方法

問 50 あなたは、障害のある人のための市の福祉サービスの内容について、どのようなところで知ることが多いですか。（主なものを2つまでに○）

福祉サービス情報の入手先としては、「障害者施設」が25.5%で最も多く、「市の広報紙「広報ふなばし」」が14.9%、「マスメディアの記事や番組」が12.8%、「医師・看護師等」が10.6%で続きます。

「特にない」は29.8%となっています。

図表Ⅳ- 77 福祉サービス情報の入手方法

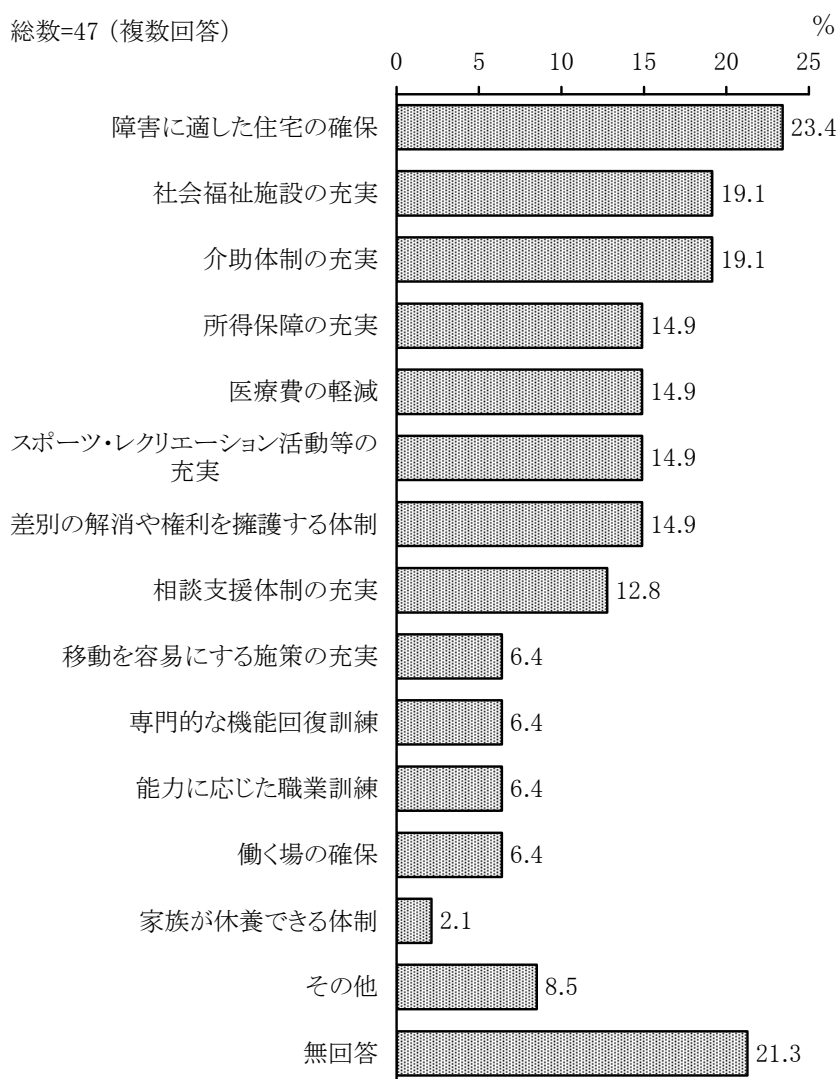


（２）今後必要だと思う福祉施策

問51 あなたが今後、必要だと思う障害者福祉施策は何ですか。（主なもの3つまでに○）

「障害に適した住宅の確保」が23.4%で最も多く、「社会福祉施設の充実」「介助体制の充実」がそれぞれ19.1%、「所得保障の充実」「医療費の軽減」「スポーツ・レクリエーション活動等の充実」「差別の解消や権利を擁護する体制」がそれぞれ14.9%で続きます。

図表Ⅳ- 78 今後必要だと思う福祉施策



自由回答

問 52 船橋市の障害者福祉施策についてのご意見、ご希望、または困っていることなどを、自由にお書きください。

自由回答を記入した回答者は10人で、「生活支援・福祉サービス」に関する内容が5件、「保健・医療」「雇用・就業」に関する内容がそれぞれ1件となっています。「その他」に分類されるものは3件です。

図表Ⅳ- 79 自由回答【テーマ別】

全体	啓発・広報	保健・医療	教育・育成	雇用・就業	福祉サービス	生活環境	スポーツ等	その他
10 100.0	- -	1 10.0	- -	1 10.0	5 50.0	- -	- -	3 30.0

※複数の分野にまたがる回答もあるため、各分野の割合を合計すると100%を超えます。

【主な意見】

※ここに掲載したものは回答の一部です。また、大意を変えずに一部を省略・要約している場合があります。

※回答者は本人ではなく、代理の人である場合もあります。

①啓発・広報

回答なし。

②保健・医療

- ・家族の意見として施設の医療関係者、ナースの配慮不足を感じる事が過去に度々あった。概ね自分達の作業効率を優先に考えての言動に家族は不快感を覚えたことがあった。介護施設従事に不適格なナースも多いのではないかと考えている。研修等を通じてしっかりと教育してほしいと願うものである。看護師の「師」に見合った能力を教育して欲しい。(男性、75歳)

③教育・育成

回答なし。

④雇用・就業

- ・仕事頑張ります。(男性、30歳)

⑤生活支援、福祉サービス

- ・ヘルパー不足…同行してもらいたいと思ったがその為に利用出来なかった。(女性、63歳)
- ・女性職員(正職)が少なくて困っている。十分に同性介助が受けられない。(女性、55歳)
- ・65歳以上の方々の施設はかなりあるように思いますが、若い障害者の人たちが利用出来るように施設を作って頂きたいと思います。(男性、43歳)
- ・施設の設備が壊れた時に市も敏速に対応して欲しい。(男性、67歳)

⑥生活環境

回答なし。

⑦スポーツ・レクリエーション等

回答なし。

⑧その他

- ・アンケートが難しい。(女性、47歳)

V 一般市民を対象とした調査結果

1 基本属性

(1) 性別、年齢

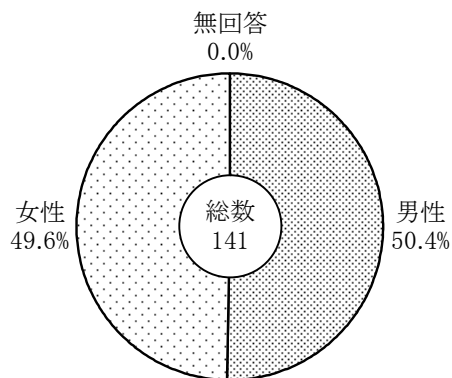
問1 あなたの性別と、平成25年1月1日時点の年齢をお答えください。

性別は、「男性」が50.4%、「女性」が49.6%となっています。

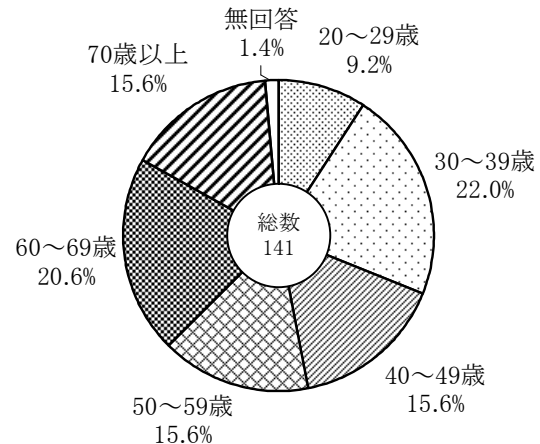
年齢は、「30～39歳」が22.0%で最も多く、「60～69歳」が20.6%、「40～49歳」「50～59歳」「70歳以上」がそれぞれ15.6%で続きます。

平均年齢は、51.3歳となっています。

図表V-1 性別



図表V-2 年齢

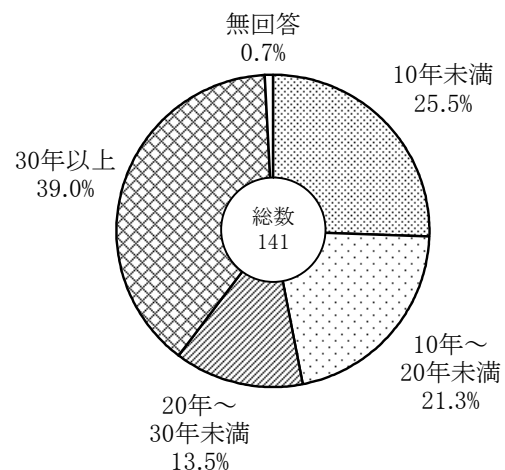


(2) 居住年数

問2 あなたは、船橋市に住み始めてから、何年になりますか。()内に数字を記入してください。

図表V-3 居住年数

「30年以上」が39.0%で最も多く、「10年未満」が25.5%、「10年～20年未満」が21.3%、「20～30年未満」が13.5%となっています。



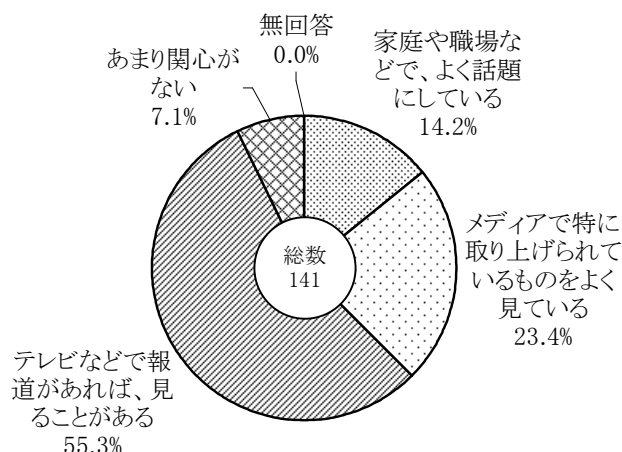
2 障害のある人たちの意識や交流について

(1) 障害のある人への関心の有無

問3 あなたは、身体や心の障害のある人たちに対して関心がありますか。(どれか1つに○)

図表V-4 障害のある人への関心の有無

「テレビなどで報道があれば、見ることがある」が55.3%で最も多く、「メディアで特に取り上げられているものをよく見ている」が23.4%、「家庭や職場などで、よく話題にしている」が14.2%、「あまり関心がない」が7.1%となっています。

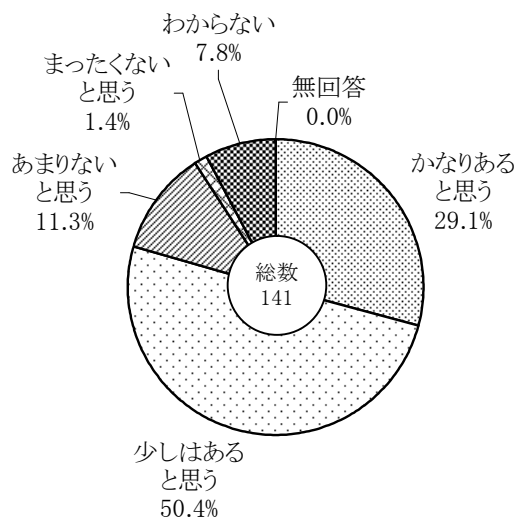


(2) 障害のある人に対する差別の有無

問4 あなたは、今の社会で障害のある人に対する差別があると思いますか。(どれか1つに○)

図表V-5 障害のある人に対する差別の有無

「少しはあると思う」が50.4%で最も多く、「かなりあると思う」が29.1%、「あまりないと思う」が11.3%、「わからない」が7.8%となっています。



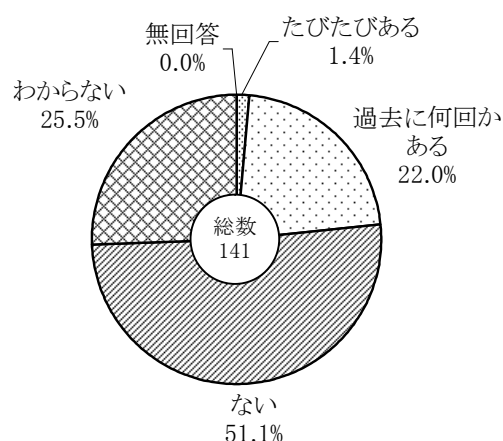
（３）障害のある人に対して差別的な行動をとった経験の有無

問5 あなたは、障害のある人に対して差別的な認識や行動をしてしまった経験がありますか。（どれか1つに○）

図表V-6 障害のある人に対して差別的な行動をとった経験の有無

「たびたびある」が1.4%、「過去に何回かある」が22.0%であり、全体の23.4%が障害のある人に対して差別的な認識や行動をしてしまった経験があると回答しています。

「ない」は51.1%、「わからない」は25.5%となっています。



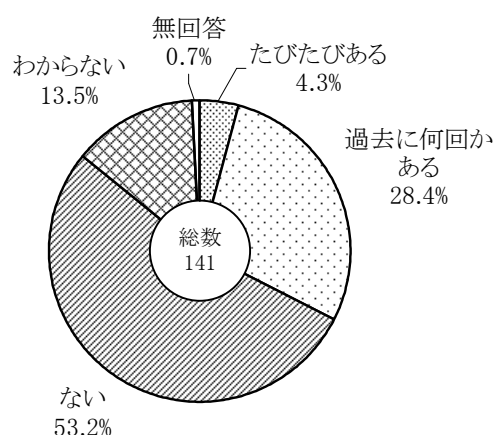
（４）障害のある人が差別的な取り扱いをされている場面の目撃の有無

問6 あなたは、障害のある人が差別的な取り扱いをされている場面を直接見たことがありますか。（どれか1つに○）

「たびたびある」が4.3%、「過去に何回かある」が28.4%であり、全体の32.7%が差別的な取り扱いをされている場面を直接見たことがあると回答しています。

「ない」は53.2%、「わからない」は13.5%となっています。

図表V-7 障害のある人が差別的な取り扱いをされている場面の目撃の有無

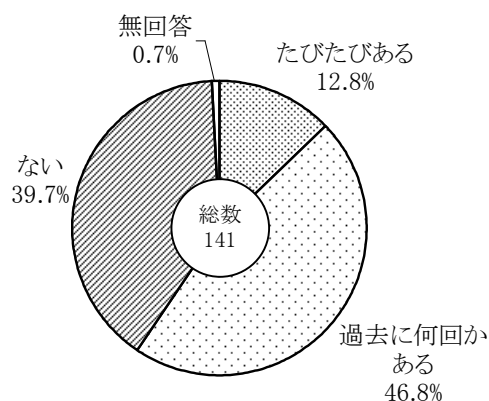


（５）障害のある人と一緒に活動した経験の有無

問7 あなたは、障害のある人といっしょに活動した経験がありますか。（どれか1つに○）

図表V-8 障害のある人と一緒に活動した経験の有無

「たびたびある」が12.8%、「過去に何回かある」が46.8%であり、全体の59.6%が障害のある人と一緒に活動した経験があると回答しています。
「ない」は39.7%となっています。



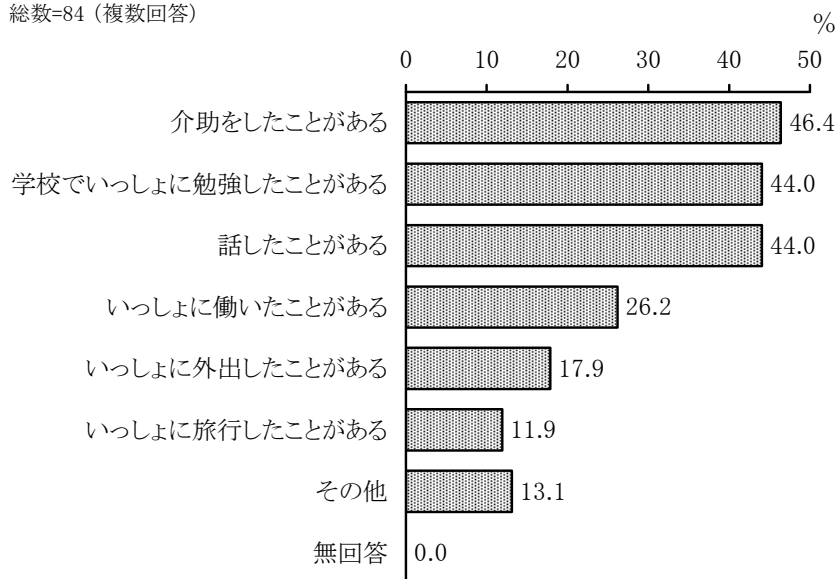
（６）障害のある人と一緒に活動した経験の内容

問7-1 【問7で1～2※を選んだ方にうかがいます。】あなたは、主にどのようなことを経験しましたか。（あてはまるものすべてに○）

「介助をしたことがある」が46.4%で最も多く、「学校でいっしょに勉強したことがある」「話したことがある」がそれぞれ44.0%、「いっしょに働いたことがある」が26.2%で続きます。

図表V-9 障害のある人と一緒に活動した経験の内容

総数=84（複数回答）

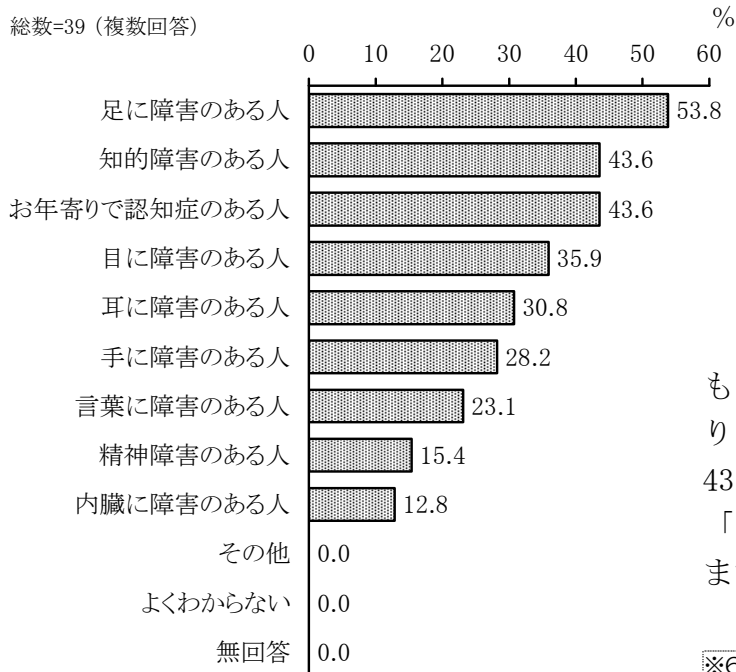


※1～2：「たびたびある」「過去に何回かある」

(7) 介助した障害のある人の障害の種類

問7-2 【問7-1 で 6*を選んだ方にうかがいます。】あなたが実際に介助をしたのは、どのような障害のある人でしたか。(あてはまるものすべてに○)

図表V-10 介助した障害のある人の障害の種類



「足に障害のある人」が53.8%で最も多く、「知的障害のある人」「お年寄りで認知症のある人」がそれぞれ43.6%、「目に障害のある人」が35.9%、「耳に障害のある人」が30.8%で続きます。

※6:「介助(手助け)をしたことがある」

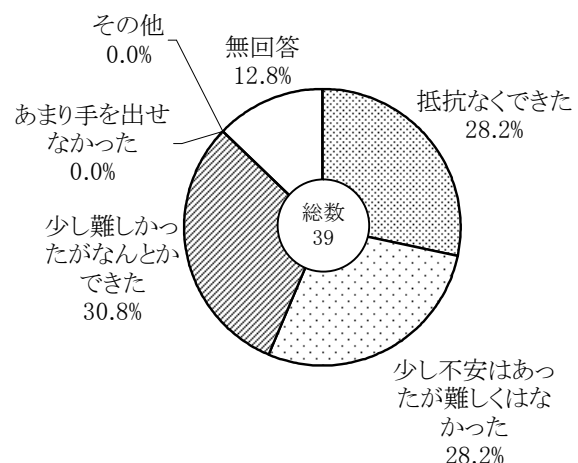
(8) 介助した際の印象

問7-3 【問7-1 で 6*を選んだ方にうかがいます。】あなたは、介助にどのような印象を持ちましたか。(どれか1つに○)

図表V-11 介助した際の印象

「少し難しかったがなんとかできた」が30.8%で最も多く、「抵抗なくできた」「少し不安はあったが難しくはなかった」がそれぞれ28.2%となっています。

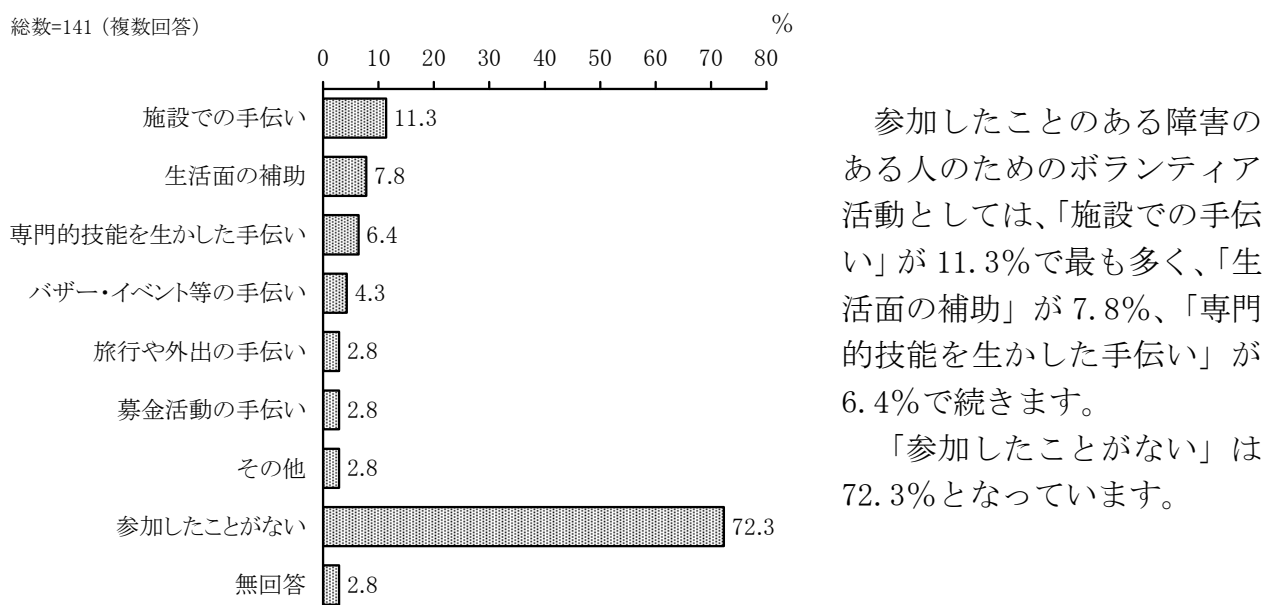
※6:「介助(手助け)をしたことがある」



(9) 障害のある人のためのボランティア活動への参加経験の有無

問8 障害のある人のためのボランティア活動として、あなたが参加したことのある活動はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

図表V-12 障害のある人のためのボランティア活動への参加経験の有無



男女別に見ると、女性は6割(62.9%)が「参加したことがない」と回答しているものの、参加したことのあるボランティア活動として、「施設での手伝い」「生活面の補助」「専門的スキルを生かした手伝い」で男性を10ポイント以上上回っています。

年代別に見ると、39歳以下では「施設の手伝い」(18.2%)、60歳以上では「生活面の補助」(11.8%)が1割台となっています。一方、40～59歳では、「参加したことがない」が8割(84.1%)に達しており、他の年代を15ポイント以上上回っています。

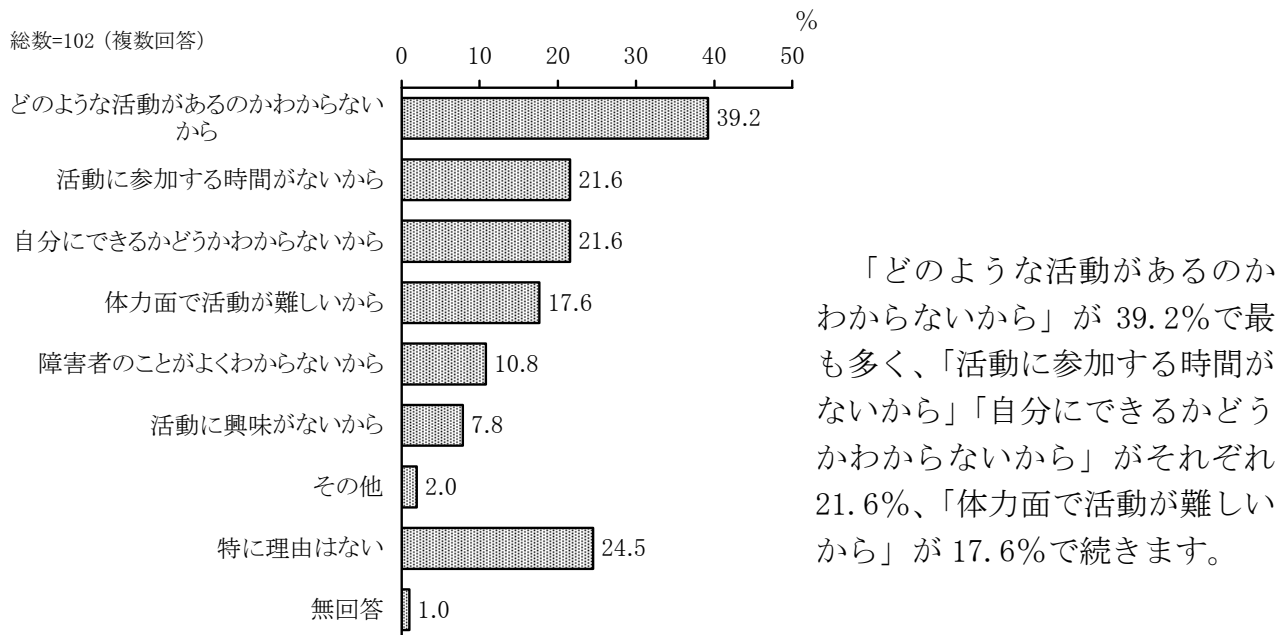
図表V-13 障害のある人のためのボランティア活動への参加経験の有無【男女別、年代別】

		全体	施設での手伝い	バザー・イベント等の手伝い	旅行や外出の手伝い	募金活動の手伝い	生活面の補助	専門的スキルを生かした手伝い	その他	参加したことがない	無回答
全体		141	16	6	4	4	11	9	4	102	4
		100.0	11.3	4.3	2.8	2.8	7.8	6.4	2.8	72.3	2.8
男女別	男性	71	4	1	-	2	2	1	2	58	2
		100.0	5.6	1.4	-	2.8	2.8	1.4	2.8	81.7	2.8
男女別	女性	70	12	5	4	2	9	8	2	44	2
		100.0	17.1	7.1	5.7	2.9	12.9	11.4	2.9	62.9	2.9
年代別	39歳以下	44	8	2	1	-	3	4	3	30	1
		100.0	18.2	4.5	2.3	-	6.8	9.1	6.8	68.2	2.3
	40～59歳	44	2	1	1	2	2	2	-	37	-
		100.0	4.5	2.3	2.3	4.5	4.5	4.5	-	84.1	-
年代別	60歳以上	51	4	3	2	2	6	2	1	34	3
		100.0	7.8	5.9	3.9	3.9	11.8	3.9	2.0	66.7	5.9
年代別	無回答	2	1	-	-	-	-	1	-	1	-
		100.0	50.0	-	-	-	-	50.0	-	50.0	-

(10) 障害のある人のためのボランティア活動に参加したことがない理由

問8-1 【問8で 8※を選んだ方にうかがいます。】あなたがボランティア活動に参加したことがないのは、なぜですか。(あてはまるものすべてに○)

図表V-14 障害のある人のためのボランティア活動に参加したことがない理由



年代別に見ると、39 歳以下では「どのような活動があるのかわからないから」(46.7%)、40～59 歳では「自分にできるかどうかかわからないから」(32.4%)、60 歳以上では「体力面で活動が難しいから」(35.3%) が最も多く、それぞれ他の年代の割合を 10 ポイント以上上回っています。

図表V-15 障害のある人のためのボランティア活動に参加したことがない理由【年代別】

	全体	どのような活動があるのかわからないから	活動に参加する時間がないから	自分にできるかどうかかわからないから	体力面で活動が難しいから	障害者のことがよくわからないから	活動に興味がないから	その他	特に理由はない	無回答
全体	102 100.0	40 39.2	22 21.6	22 21.6	18 17.6	11 10.8	8 7.8	2 2.0	25 24.5	1 1.0
年代別										
39歳以下	30 100.0	14 46.7	7 23.3	6 20.0	4 13.3	1 3.3	2 6.7	-	7 23.3	-
40～59歳	37 100.0	9 24.3	10 27.0	12 32.4	1 2.7	7 18.9	6 16.2	-	6 16.2	-
60歳以上	34 100.0	5 14.7	5 14.7	4 11.8	12 35.3	3 8.8	-	2 5.9	12 35.3	1 2.9
無回答	1 100.0	-	-	-	1 100.0	-	-	-	-	-

※8:「参加したことがない」

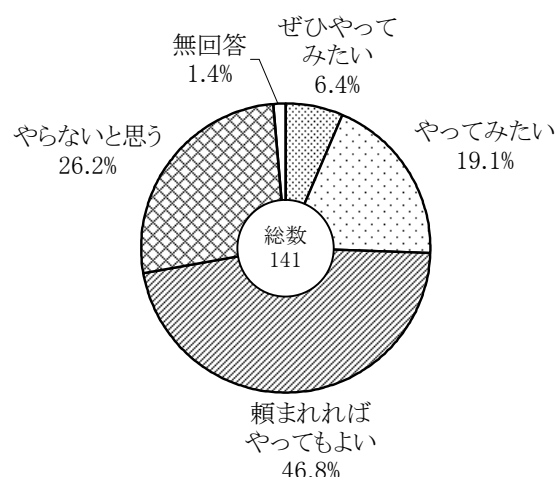
(11) 障害のある人のためのボランティア活動への参加意向

問9 あなたは今後、ボランティア活動をする条件が整った場合、活動したいと思いますか。(どれか1つに○)

図表V-16 障害のある人のためのボランティア活動への参加意向

「ぜひやってみたい」が6.4%、「やってみたい」が19.1%であり、全体の25.5%がボランティア活動への参加意向を持っています。

「頼まれればやってもよい」は46.8%、「やらないと思う」は26.2%となっています。



3 船橋市の障害者福祉について

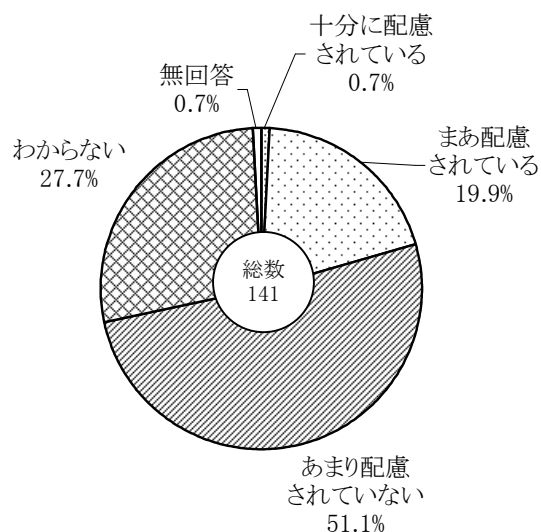
(1) 船橋市の障害者施策に関する考え

問10 船橋市の障害者施策に関する次のA～Dのことについて、あなたの考えに近いものを選んでください。(それぞれ1つずつに○)

A) 道路や公園や公共施設は障害のある人のために配慮されて作られていると思いますか。

図表V-17 船橋市の障害者施策に関する考え
《A：道路、公園、公共施設》

「十分に配慮されている」が0.7%、「まあ配慮されている」が19.9%であり、全体の20.6%が配慮されていると回答しています。一方、「あまり配慮されていない」が51.1%で半数を超えているほか、「わからない」が27.7%となっています。



図表V-18 船橋市の障害者施策に関する考え
《A：道路、公園、公共施設》【男女別】

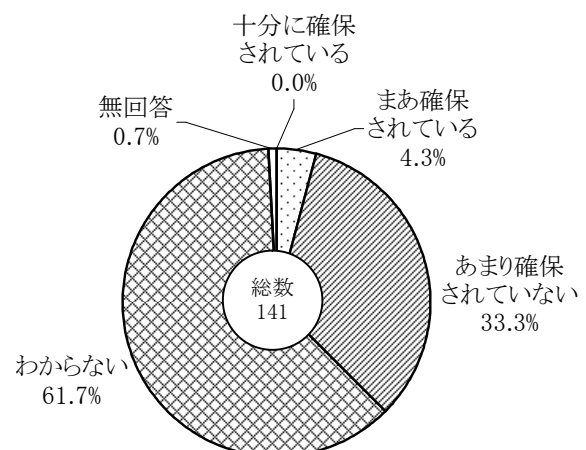
男女別に見ると、「あまり配慮されていない」は、女性の6割（60.0%）を占めています。

		全体	十分に配慮されている	まあ配慮されている	あまり配慮されていない	わからない	無回答
	全体	141 100.0	1 0.7	28 19.9	72 51.1	39 27.7	1 0.7
男女別	男性	71 100.0	— —	15 21.1	30 42.3	26 36.6	— —
	女性	70 100.0	1 1.4	13 18.6	42 60.0	13 18.6	1 1.4

B) 障害者雇用促進法では、民間企業で常時雇用する従業員の2.0%以上の障害者を雇用しなければならないこと（法定雇用率）が規定されています。現在、市内には障害のある人の働く場が確保されていると思いますか。

図表V-19 船橋市の障害者施策に関する考え
《B：障害のある人の働く場の確保》

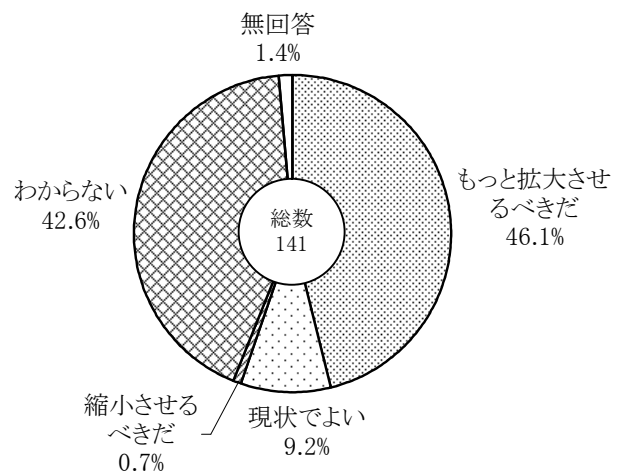
「あまり確保されていない」が33.3%、「まあ確保されている」が4.3%となっています。「わからない」は61.7%です。



C) 今後、障害のある人の雇用をもっと拡大させる方がよいと思いますか。

図表V-20 船橋市の障害者施策に関する考え
《C：障害のある人の雇用拡大》

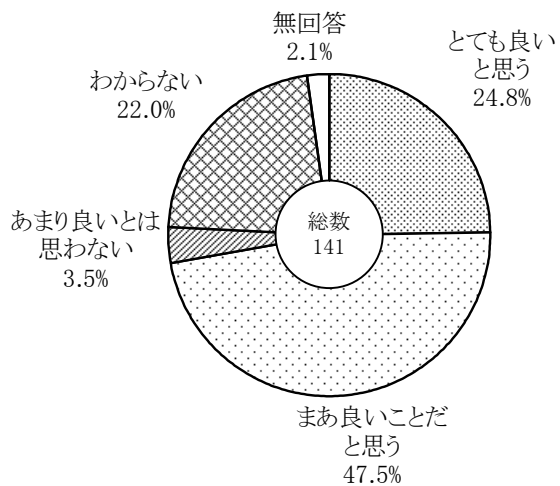
「もっと拡大させるべきだ」が46.1%で最も多く、「現状でよい」が9.2%となっています。「わからない」は42.6%です。



D) もし、あなたの近所に障害のある人のための施設ができるとしたら、どう思いますか。

図表V-21 船橋市の障害者施策に関する考え
《D：障害のある人のための施設建設》

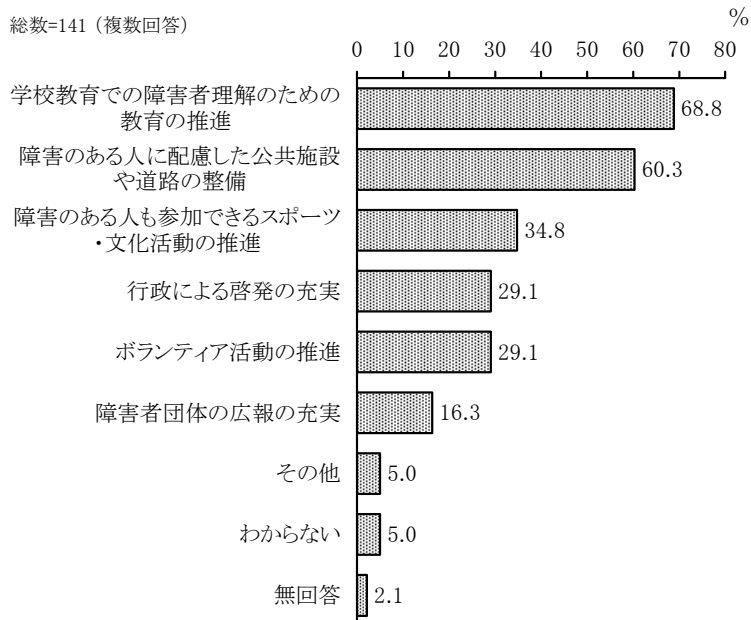
「とても良いと思う」が24.8%、「まあ良いことだと思う」が47.5%であり、全体の72.3%が近所への障害のある人のための施設建設を良いことであると回答しています。「わからない」は22.0%となっています。



(2) 障害のある人への理解促進に必要なこと

問 11 障害のある人に対する理解をより深めるために、あなたが必要と思うことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表V-22 障害のある人への理解促進に必要なこと



「学校教育での障害者理解のための教育の推進」が68.8%で最も多く、「障害のある人に配慮した公共施設や道路の整備」が60.3%で続きます。このほか、「障害のある人も参加できるスポーツ・文化活動の推進」が34.8%、「行政による啓発の充実」「ボランティア活動の推進」がそれぞれ29.1%となっています。

男女別に見ると、女性では「学校教育での障害者理解のための教育の推進」が8割以上(84.3%)を占めています。また、「障害者団体の広報の充実」「ボランティア活動の推進」「障害のある人も参加できるスポーツ・文化活動の推進」は、女性が男性を13ポイント以上上回っており、性別による差が大きくなっています。

年代別に見ると、「ボランティア活動の推進」は、40～59歳の割合(40.9%)が他の年代を10ポイント以上上回っています。また、「障害のある人も参加できるスポーツ・文化活動の推進」という回答は、年代とともに割合が少なくなっています。

図表V-23 障害のある人への理解促進に必要なこと【男女別、年代別】

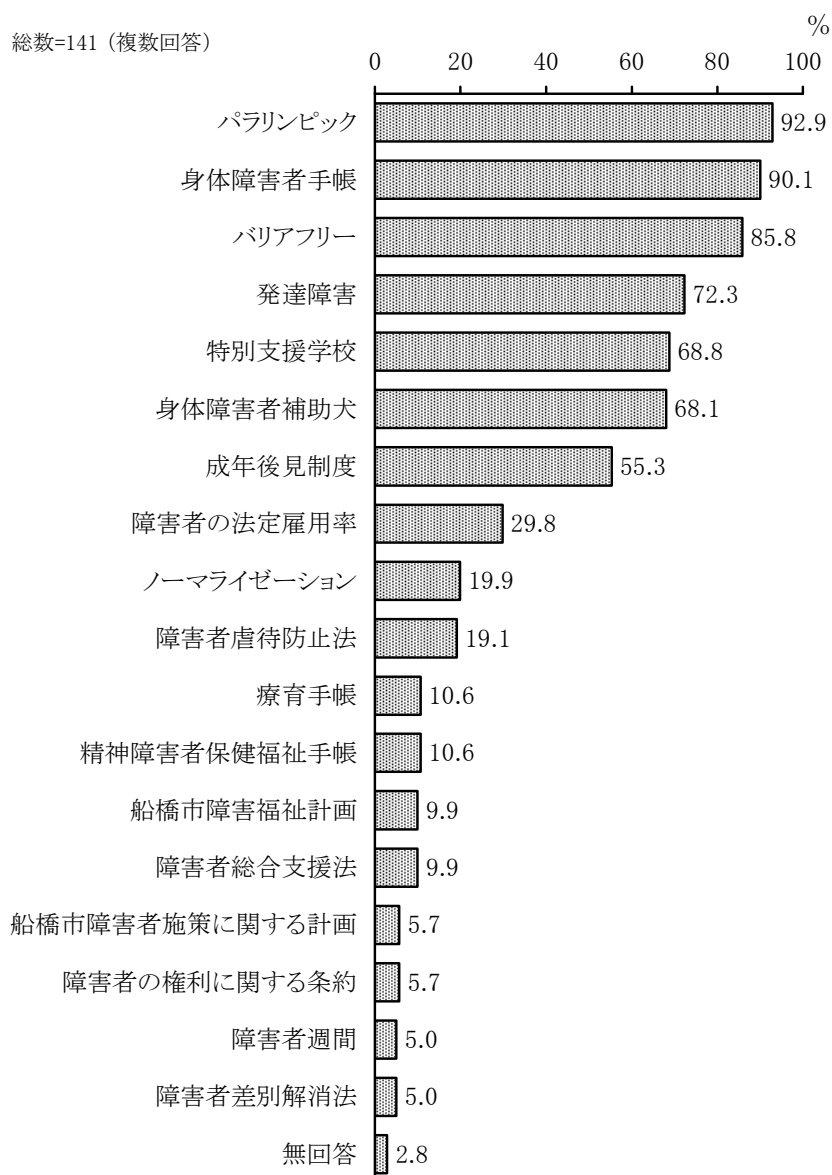
	全体	学校教育での障害者理解のための教育の推進	行政による啓発の充実	障害者団体の広報の充実	ボランティア活動の推進	加害者の文化活動の推進	障害のある人も参加できるスポーツ・文化活動の推進	配慮した公共施設や道路の整備	障害のある人に配慮した公共施設や道路の整備	その他	わからない	無回答
全体	141 100.0	97 68.8	41 29.1	23 16.3	41 29.1	49 34.8	85 60.3	7 5.0	7 5.0	3 2.1		
男女別	男性	71 100.0	38 53.5	20 28.2	7 9.9	11 15.5	18 25.4	43 60.6	3 4.2	5 7.0		
	女性	70 100.0	59 84.3	21 30.0	16 22.9	30 42.9	31 44.3	42 60.0	4 5.7	2 2.9	3 4.3	
年代別	39歳以下	44 100.0	33 75.0	12 27.3	9 20.5	13 29.5	19 43.2	25 56.8	2 4.5	1 2.3		
	40～59歳	44 100.0	34 77.3	14 31.8	8 18.2	18 40.9	15 34.1	28 63.6	4 9.1	1 2.3		
	60歳以上	51 100.0	30 58.8	15 29.4	6 11.8	10 19.6	15 29.4	32 62.7	1 2.0	5 9.8	1 4.5	
	無回答	2 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	2 100.0	

（3）障害者施策や福祉用語の認知度

問 12 次にあげる障害者施策や福祉施策の用語のうち、あなたが見聞きしたことのあるものはどれですか。（あてはまるものすべてに○）

「パラリンピック」が 92.9%で最も多く、「身体障害者手帳」が 90.1%、「バリアフリー」が 85.8%で続きます。このほか、「発達障害」が 72.3%、「特別支援学校」が 68.8%、「身体障害者補助犬」が 68.1%となっています。

図表 V- 24 障害者施策や福祉用語の認知度



年代別に見ると、39歳以下及び40～59歳と60歳以上で10ポイント以上の差が開いている項目があり、特に「発達障害」「特別支援学級」では40～59歳と60歳以上の差が25ポイント以上となっています。また、「バリアフリー」は39歳以下と40～59歳で9割以上であるのに対し、60歳以上では74.5%にとどまっています。

図表V-25 障害者施策や福祉用語の認知度【年代別】

		全体	身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳	身体障害者補助犬	パラリンピック	成年後見制度	発達障害	障害者週間	障害者の法定雇用率
全体		141 100.0	127 90.1	15 10.6	15 10.6	96 68.1	131 92.9	78 55.3	102 72.3	7 5.0	42 29.8
年代別	39歳以下	44 100.0	41 93.2	7 15.9	6 13.6	29 65.9	43 97.7	21 47.7	36 81.8	3 6.8	9 20.5
	40～59歳	44 100.0	41 93.2	3 6.8	3 6.8	31 70.5	42 95.5	30 68.2	37 84.1	2 4.5	13 29.5
	60歳以上	51 100.0	44 86.3	5 9.8	6 11.8	35 68.6	45 88.2	27 52.9	28 54.9	2 3.9	20 39.2
	無回答	2 100.0	1 50.0	—	—	1 50.0	1 50.0	—	1 50.0	—	—

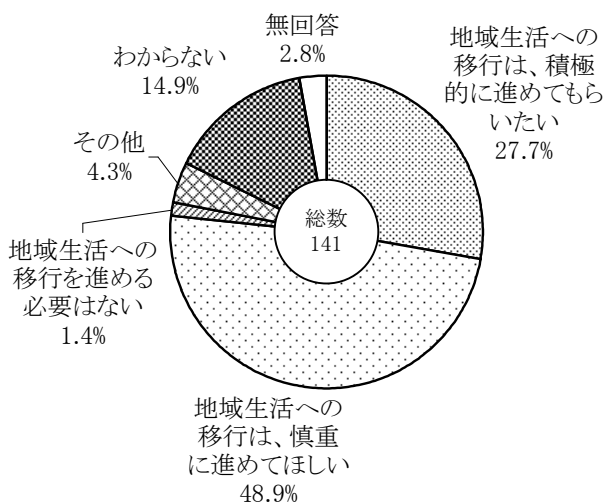
		ノーシマライゼー	バリアフリー	特別支援学校	船橋市障害者施策に関する計画	船橋市障害福祉計画	障害者虐待防止法	障害者差別解消法	障害者総合支援法	障害者の権利に関する条約	無回答
全体		28 19.9	121 85.8	97 68.8	8 5.7	14 9.9	27 19.1	7 5.0	14 9.9	8 5.7	4 2.8
年代別	39歳以下	13 29.5	43 97.7	24 54.5	1 2.3	3 6.8	8 18.2	1 2.3	5 11.4	2 4.5	—
	40～59歳	10 22.7	40 90.9	30 68.2	2 4.5	2 4.5	6 13.6	—	3 6.8	1 2.3	1 2.3
	60歳以上	5 9.8	38 74.5	22 43.1	5 9.8	9 17.6	10 19.6	6 11.8	6 11.8	5 9.8	3 5.9
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(4) 入所者・入院者の地域生活移行への考え方

問 13 市では、「第3期船橋市障害福祉計画」に基づき、現在、福祉施設に入所または病院に入院している障害者で退所・退院が可能な人について、地域生活への移行を支援しています。このことについて、あなたはどのように思いますか。(どれか1つに○)

図表 V- 26 入所者・入院者の地域生活移行への考え方

「地域生活への移行は、積極的に進めてもらいたい」が27.7%、「地域生活への移行は、慎重に進めてほしい」が48.9%となっています。「わからない」は14.9%です。

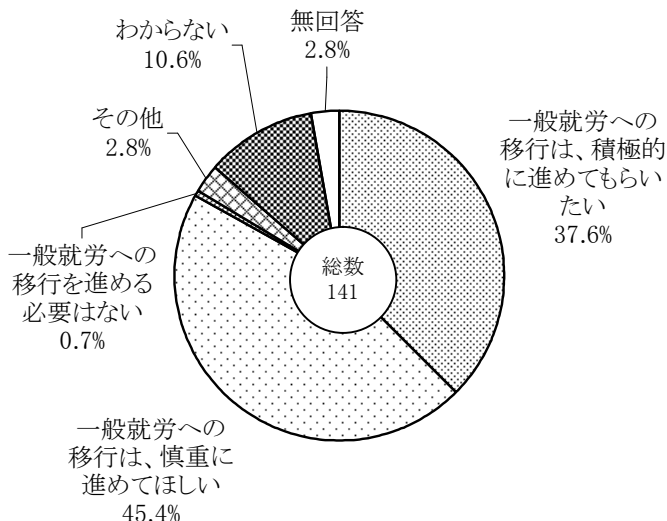


(5) 福祉的就労から一般就労への移行への考え方

問 14 現在、福祉的就労（障害者の作業所などでの就労）をしている障害者のうち、訓練により一般就労（企業等への就労、在宅での就労）が可能となる人について、市では一般就労への移行を支援しています。このことについて、あなたはどのように思いますか。(どれか1つに○)

図表 V- 27 福祉的就労から一般就労への移行への考え方

「一般就労への移行は、積極的に進めてもらいたい」が37.6%、「一般就労への移行は、慎重に進めてほしい」が45.4%となっています。「わからない」は10.6%です。

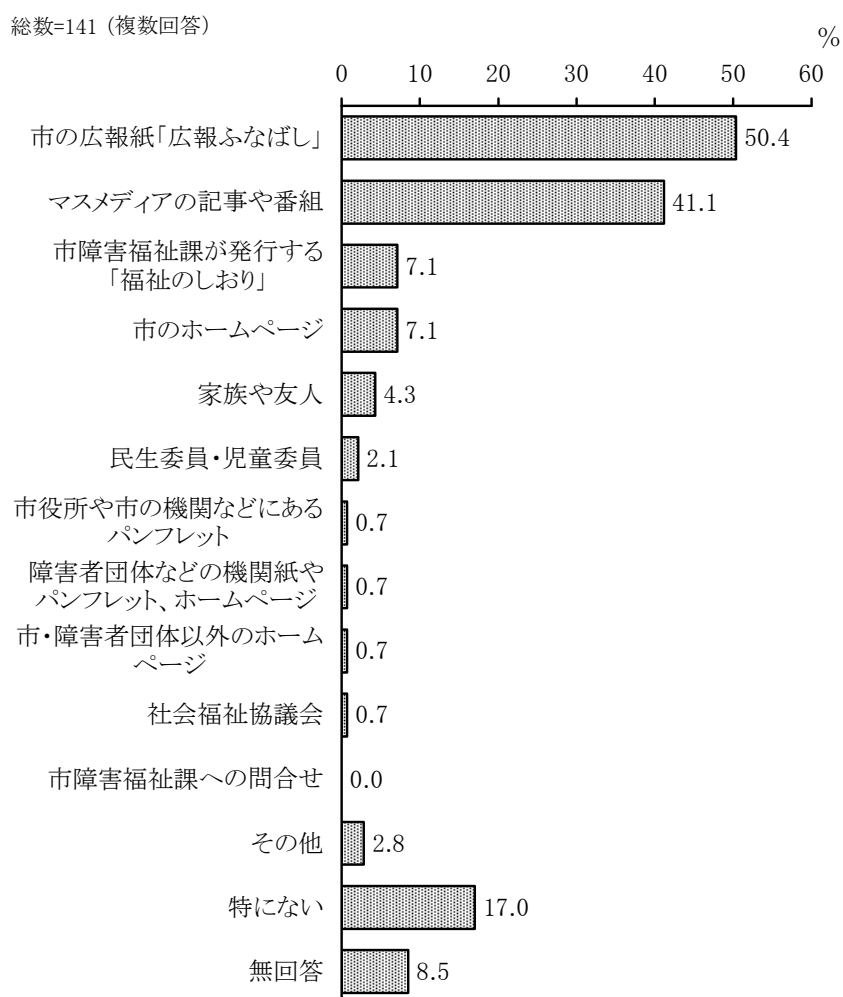


(6) 福祉サービス情報の入手方法

問 15 あなたは、障害のある人のための市の福祉サービスの内容について、どのようなところで知ることが多いですか。(主なものを2つまでに○)

「市の広報紙「広報ふなばし」」が50.4%で最も多く、「マスメディアの記事や番組」が41.1%で続きます。このほか、「市障害福祉課が発行する「福祉のしおり」」「市のホームページ」がそれぞれ7.1%となっています。「特にない」は17.0%です。

図表 V- 28 福祉サービス情報の入手方法

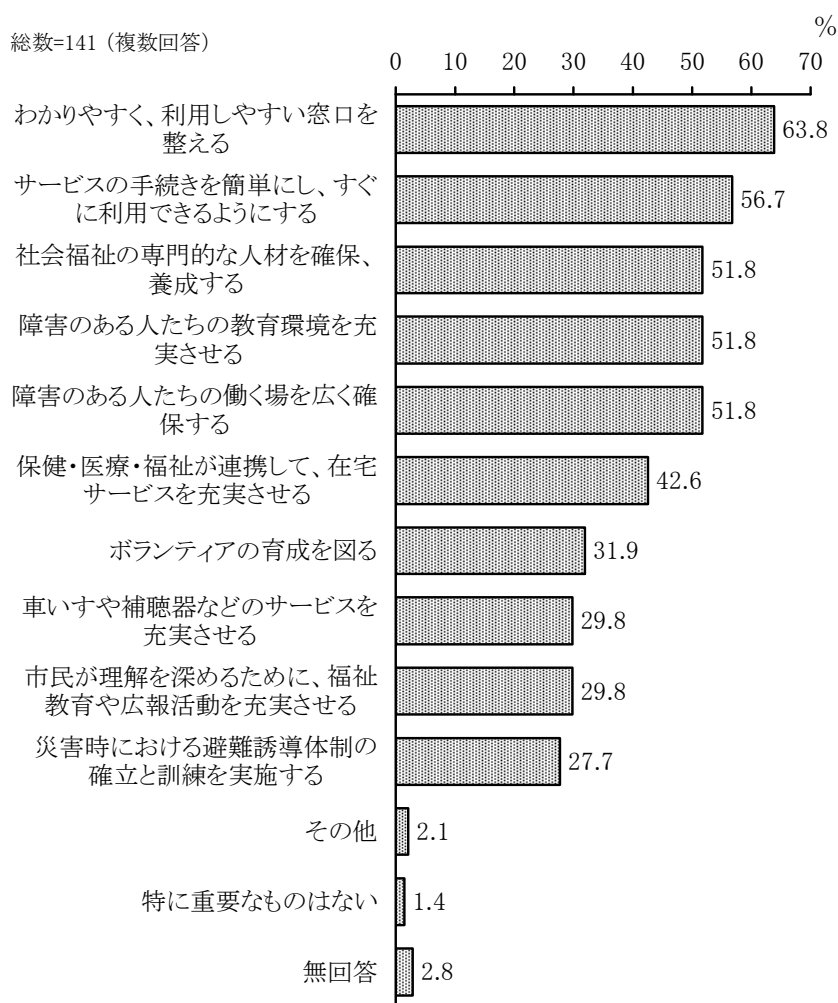


（7）障害のある人が住みやすいまちをつくるために重要な市の取組

問 16 あなたは、障害のある人にとって住みやすいまちをつくるために、市としてどのような取組が重要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「わかりやすく、利用しやすい窓口を整える」が 63.8%で最も多く、「サービスの手続きを簡単にし、すぐに利用できるようにする」が 56.7%、「社会福祉の専門的な人材を確保、養成する」「障害のある人たちの教育環境を充実させる」「障害のある人たちの働く場を広く確保する」がそれぞれ 51.8%で続きます。

図表V- 29 障害のある人が住みやすいまちをつくるために重要な市の取組

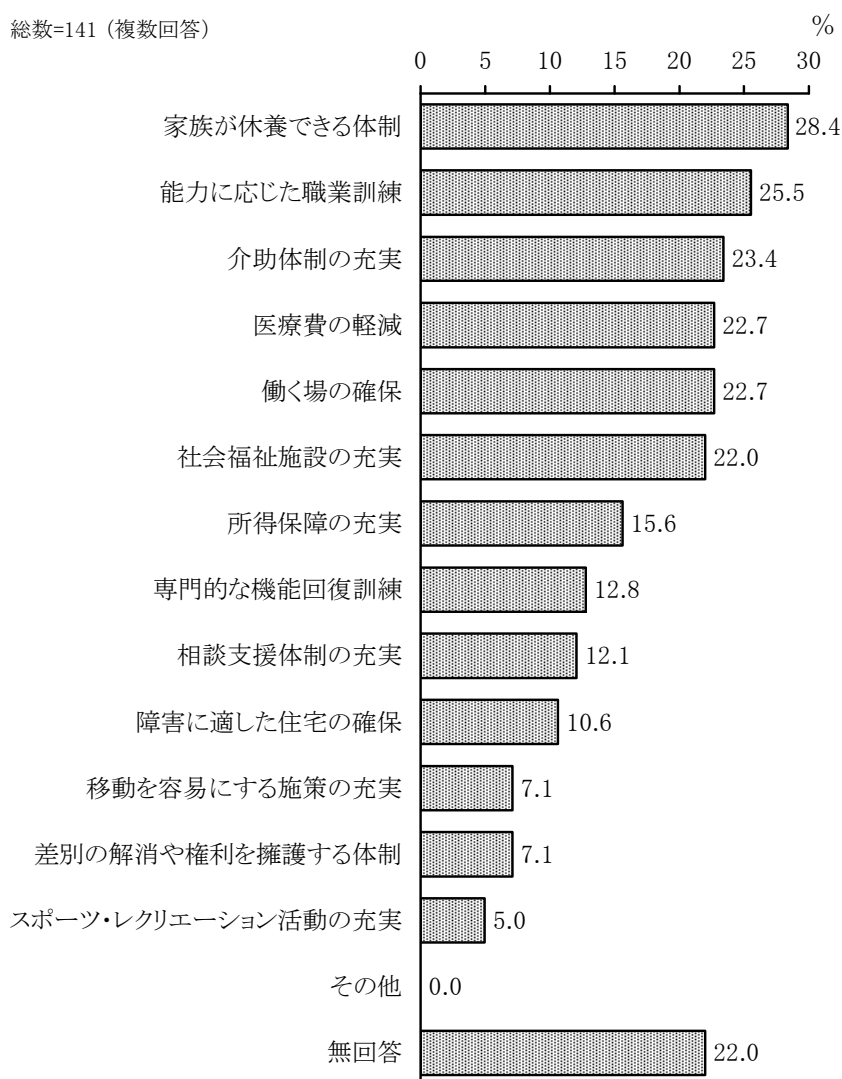


(8) 今後必要だと思う福祉施策

問 17 あなたが今後、必要だと思う障害者福祉施策は何ですか。(主なもの3つまでに○)

「家族が休養できる体制」が28.4%で最も多く、「能力に応じた職業訓練」が25.5%、「介助体制の充実」が23.4%、「医療費の軽減」「働く場の確保」がそれぞれ22.7%、「社会福祉施設の充実」が22.0%で続きます。

図表V- 30 今後必要だと思う福祉施策



年代別に見ると、「所得保障の充実」「医療費の軽減」「能力に応じた職業訓練」は、年代とともに割合が多くなっているのに対し、「働く場の確保」「家族が休養できる体制」という回答は、年代が低いほど割合が多くなっています。

図表V-31 今後必要だと思う福祉施策【年代別】

		全体	所得保障の充実	医療費の軽減	社会福祉施設の充実	障害に適した住宅の確保	移動を容易にする施策の充実	介助体制の充実	相談支援体制の充実	専門的な機能回復訓練	能力に応じた職業訓練	働く場の確保
全体		141 100.0	22 15.6	32 22.7	31 22.0	15 10.6	10 7.1	33 23.4	17 12.1	18 12.8	36 25.5	32 22.7
年代別	39歳以下	44 100.0	2 4.5	7 15.9	9 20.5	3 6.8	4 9.1	10 22.7	4 9.1	4 9.1	8 18.2	13 29.5
	40～59歳	44 100.0	8 18.2	9 20.5	10 22.7	7 15.9	4 9.1	11 25.0	5 11.4	7 15.9	9 20.5	12 27.3
	60歳以上	51 100.0	11 21.6	15 29.4	11 21.6	5 9.8	2 3.9	12 23.5	8 15.7	7 13.7	18 35.3	7 13.7
	無回答	2 100.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	—	—	—	—	—	1 50.0	—

		スポーツ・レクリエーション活動の充実	家族が休養できる体制	差別の解消や権利を擁護する体制	その他	無回答
全体		7 5.0	40 28.4	10 7.1	—	31 22.0
年代別	39歳以下	3 6.8	16 36.4	3 6.8	—	14 31.8
	40～59歳	1 2.3	14 31.8	5 11.4	—	7 15.9
	60歳以上	3 5.9	9 17.6	2 3.9	—	10 19.6
	無回答	—	1 50.0	—	—	—

自由回答

問 18 船橋市の障害者福祉施策についてのご意見、ご希望などを自由にお書きください。

自由回答を記入した回答者は33人で、「啓発・広報」に関する内容が12件、「生活支援・福祉サービス」に関する内容が7件、「生活環境」に関する内容が6件となっています。「その他」に分類されるものは11件です。

図表V- 32 自由回答【テーマ別】

全体	啓発・広報	保健・医療	教育・育成	雇用・就業	福祉サービス	生活環境	スポーツ等	その他
33 100.0	12 36.4	3 9.1	1 3.0	2 6.1	7 21.2	6 18.2	1 3.0	11 33.3

※複数の分野にまたがる回答もあるため、各分野の割合を合計すると100%を超えます。

【主な意見】

※ここに掲載したものは回答の一部です。また、大意を変えずに一部を省略・要約している場合があります。

※回答者は本人ではなく、代理の人である場合もあります。

①啓発・広報

- ・障害者福祉について、正直余りよく分からないので、現状で分かる範囲で回答させていただきました。まずは身近な問題として、周知されるような取組をして欲しいと思います。そして私達は関心を持ち、理解する必要があります。(女性、43歳)
- ・ボランティア活動等、積極的に・・・とは言わなくても、やってみたい、やってもいいと考えている人も多いと思います。でも何をどうして良いか分からない人も多いはず・・・その壁をなくす1つの手段として、学校でも積極的に取り組んで行ければと思います。(女性、42歳)
- ・ノーマライゼーションを進め、障害者も社会の一員であることが当たり前の社会にしましょう。触れ合う機会が少なすぎます。(女性、52歳)

②保健・医療

- ・うちの母は血圧が高く倒れて脳の手術をしたのですが、治らず手足に障害があり、特別養護老人ホームに入所しているのですが、持病があり毎月、病院に行くのですが、高齢なので待ち時間や車の移動など負担がかかり、老人ホームと病院が一体化していれば、直ぐに対応できるので、その様なシステムのある老人ホームを作り、低価格で入れるホームをこれから作ってほしいです。これから高齢者が増えるの

で。(58歳、女性)

- ・医療費にしてもペースメーカー装着者が障害者は疑問。人工透析患者の医療費は自己負担がないと聞きましたが、保険適応にすべき。自己負担がないから自己管理ができていない、しない方が多いと思います。(59歳、女性)
- ・専門的な機能回復訓練。(女性、80歳)

③教育・育成

- ・特別支援学校でクラフト作りや遊び等のボランティアを致しました。色々な障害を持つ生徒が一生懸命、頑張っていたら良かったです。(女性、77歳)

④雇用・就業

- ・障害者がいきいきと働ける場が少ないように思う。障害を持った子ども達が明るい未来を描けるような施策をよろしくお願いします。(女性、55歳)

⑤生活支援、福祉サービス

- ・浦安市に素敵なデイサービスがあるそうです。船橋にも作ってほしいです。体力、脳が健康であるように。(女性、83歳)
- ・自立、勤労を希望する人は支援がしやすいが、在宅介護が必要な人は家族が休養できる制度も整えてあげて欲しい。表に出にくい人々もしっかり支えていける地域活動の輪が広がるようにして欲しい。(女性、44歳)
- ・障害者福祉に定年退職した人や職を求めている人に従事してもらおう。(男性、56歳)

⑥生活環境

- ・車椅子で成田街道を通る時非常に苦労したことがありました。次に私が車椅子生活するかも、その時は、よい道路になるように。(男性、77歳)
- ・障害のある人のために、バス停に雨のための屋根を。(男性、68歳)
- ・エスカレーターの上りは多いが下りが少ない。障害者にとっては階段を下りる方が不安、恐怖が大きいと思います(公共施設でのバリアフリーの充実)。(男性、56歳)

⑦スポーツ・レクリエーション等

- ・スポーツレクリエーション活動の充実。(女性、80歳)

⑧その他

- ・突然のアンケートで驚きましたが、健常者である自身、家族ですので、改めて考えることがないテーマで、これからは少しは意識すべき事と思いました。少しでも、障害を持っている方、ご家族様にとって良い方向に行くよう、このアンケートが活用されることを願っております。(女性、44歳)
- ・これからも障害のある人達がより住みよいまちづくりをお願いします。(女性、26歳)
- ・自分が住む町がこういったことに先進的に取り組むのは、誇らしいことです。(男性、35歳)

船橋市障害者計画基礎調査報告書

平成 25 年 10 月発行

船橋市健康福祉局福祉サービス部障害福祉課

〒273-8501 千葉県船橋市湊町 2-10-25

電話：047-436-2307 F A X：047-433-5566

